

令和5年度
山形市障がい福祉アンケート
調査結果報告書

令和5年10月

山形市障がい福祉課
(委託先:株式会社フィデア情報総研)

目次

1-1 調査概要	
(1)調査の目的	1
(2)調査対象	1
(3)調査実施主体及び方法	1
(4)調査実施期間	1
(5)回答状況	1
(6)報告書を読む際の留意点	2
2-1 「身体障がい」調査結果	
(1)回答者の属性	4
(2)生活の状況について	7
(3)日常生活について	21
(4)福祉サービスについて	30
(5)医療・保健サービスについて	48
(5)就労について	51
(6)バリアフリーに関することについて	63
(7)余暇活動について	73
(8)権利擁護について	77
(9)相談・情報について	86
(10)災害時の対応について	105
(11)障がい者施策に関するご意見・ご要望	115
(12)障がい者施策に関する主なニーズ「身体障がい者」	122
2-2 「知的障がい」調査結果	
(1)回答者の属性	132
(2)生活の状況について	135
(3)日常生活について	148
(4)福祉サービスについて	157
(4)就労について	169
(5)バリアフリーに関することについて	182
(6)余暇活動について	188
(7)権利擁護について	192
(8)相談・情報について	201
(9)災害時の対応について	220
(10)山形市の障がい施策についての意見・要望	230
(11)障がい者施策に関する主なニーズ「身体障がい者」	243
2-3 「精神障がい」調査結果	
(1)回答者の属性	248

(2)生活の状況について	251
(3)障がいの状況について	265
(4)日常生活について	271
(5)福祉サービスについて	280
(6)就労について	299
(7)バリアフリーに関することについて	314
(8)余暇活動について	320
(9)権利擁護について	324
(10)相談・情報について	333
(11)災害時の対応について	352
(12)障がい者施策に関するご意見・ご要望	362
(13)障がい者施策に関する主なニーズ「精神障がい者」	369
2-4 「その他市民」調査結果	
(1)回答者の属性	374
(2)生活の状況について	375
(3)バリアフリーに関することについて	403
(4)権利擁護について	405
(5)障がい者施策に関するご意見・ご要望	415
(6)障がい者施策に関する主なニーズ「その他市民」	424
2-5 「社会福祉法人」調査結果	
(1)回答状況	428
(2)ニーズ等の把握及びニーズに対応した施設整備計画について	428
(3)サービス提供の課題について	442
(4)障がい者施策に関するご意見・ご要望	447

付 録 調査票(1/2 版)

(1)「身体障がい」調査票	450
(2)「知的障がい」調査票	460
(3)「精神障がい」調査票	470
(4)「その他市民」調査票	480
(5)「社会福祉法人」調査票	484

1-1 調査概要

(1)調査の目的

市内在住の障がい児・者の生活実態と各種障がい福祉の制度に対するニーズを把握し、山形市障がい者基本計画等策定の基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2)調査対象

- 令和5年7月1日の時点において、障がい者手帳をお持ちの方から無作為抽出した身体障がい者手帳所持者 530 名、療育手帳所持者 450 名、精神障がい者保健福祉手帳所持者 450 名。
- 令和5年7月1日の時点において、障がいの有無に関わらず、山形市在住の18歳以上の方から無作為抽出した 550 名。
- 令和5年7月1日の時点において、山形市内で障がい福祉サービス事業所等を運営している社会福祉法人 12 団体。

(3)調査実施主体及び方法

- 山形市が株式会社フィデア情報総研に業務委託して実施。
- 本アンケートの調査項目の設計にあたり、山形市地域自立支援協議会の委員等から意見を聴取した。
- 調査対象者の住所等のデータは山形市で用意し、株式会社フィデア情報総研がタックシールで提供を受けて印刷・発送を行った。
- 回収は山形市に郵送にて返送、集計は株式会社フィデア情報総研が行った。

(4)調査実施期間

令和5年8月1日～令和5年8月29日

(5)回答状況

調査区分	配布数	回収数 (有効回答数)	回収率
身体障がい	530	339	64.0%
知的障がい	450	289	64.2%
精神障がい	450	272	60.4%
その他市民	550	316	57.5%
社会福祉法人	12	8	66.7%
合計	1,992	1,224	61.4%

(6) 報告書を読む際の留意点

- 集計は、有効回答数を分母として集計している。
- SA (Single Answer の略) は単一回答を、MA (Multiple Answer の略) は複数回答を、FA (Free Answer の略) は自由記述をそれぞれ表す。
- 図表中の n (Number of cases の略) は、設問に対する回答者数のことであり、質問によって異なる場合がある。
- 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、単一選択式の設問においては、回答比率を合計しても 100%にならないことがある。また、回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の設問においては、各設問の回答数 (n) を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える場合がある。
- 図表中の「不明」には、単数回答の設問で複数回答しているなど、分類できない回答 (誤回答) および無回答が含まれる。
- 本文中の『・・・』は 2 つ以上の選択肢を合わせたことを表わしている。

「身体障がい」 調査結果

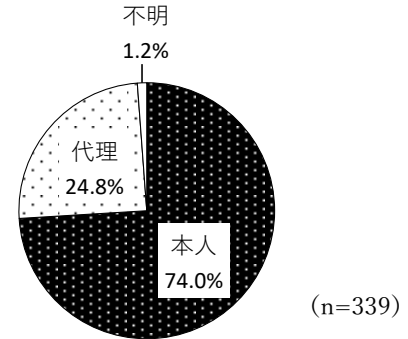
2-1 「身体障がい」調査結果

(1)回答者の属性

調査対象	配布数	有効回答数	有効回収率
身体障がい者手帳を持っている方	530	339	64.0%

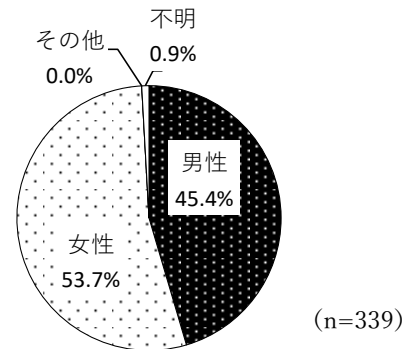
属性1 アンケートにお答えになった方【SA】

カテゴリー名	人数	%
本人	251	74.0%
代理	84	24.8%
不明	4	1.2%
全体	339	100.0%



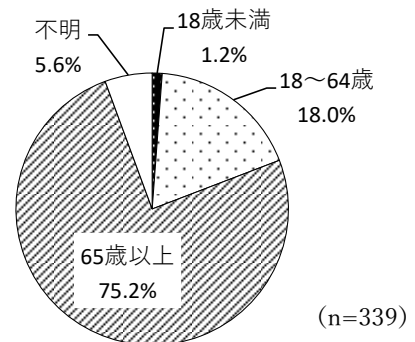
属性2 性別【SA】

カテゴリー名	人数	%
男性	154	45.4%
女性	182	53.7%
その他	0	0.0%
不明	3	0.9%
全体	339	100.0%



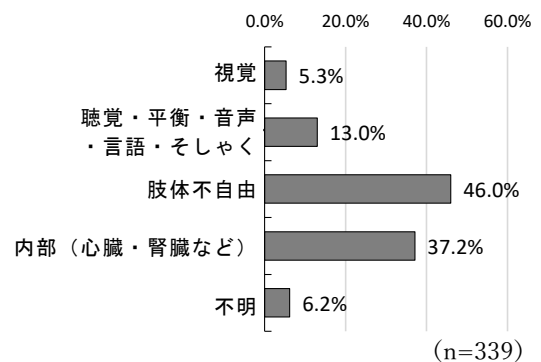
属性3 年齢 令和5年7月1日現在【FA】

カテゴリー名	人数	%
18歳未満	4	1.2%
18～64歳	61	18.0%
65歳以上	255	75.2%
不明	19	5.6%
全体	339	100.0%



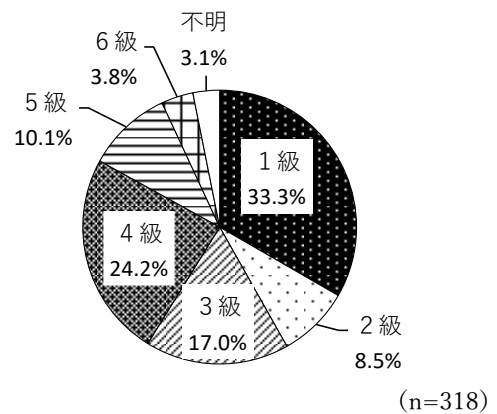
属性4 身体障がいの部位【MA】

カテゴリー名	人数	%
視覚	18	5.3%
聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44	13.0%
肢体不自由	156	46.0%
内部（心臓・腎臓など）	126	37.2%
不明	21	6.2%
全体	339	100.0%



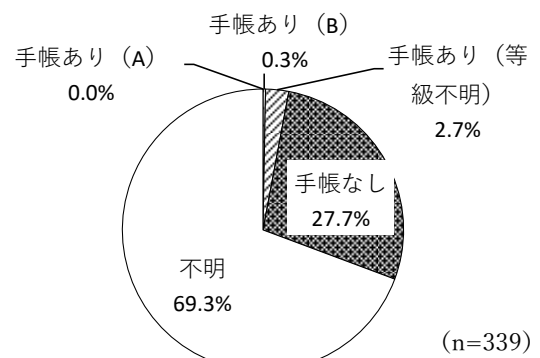
属性5 障害程度等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
1級	106	33.3%
2級	27	8.5%
3級	54	17.0%
4級	77	24.2%
5級	32	10.1%
6級	12	3.8%
不明	10	3.1%
全体	318	100.0%



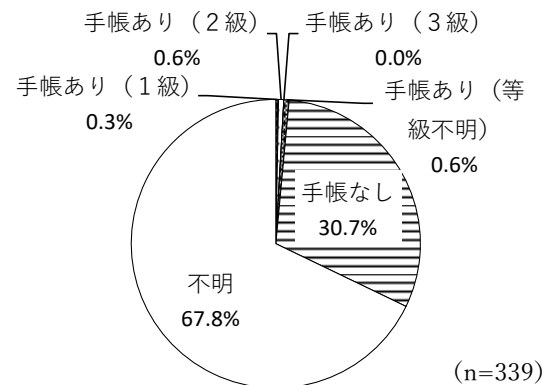
属性6 療育手帳の有無・等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
手帳あり (A)	0	0.0%
手帳あり (B)	1	0.3%
手帳あり (等級不明)	9	2.7%
手帳なし	94	27.7%
不明	235	69.3%
全体	339	100.0%



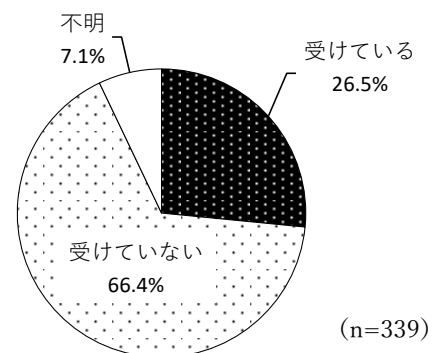
属性7 精神障害者保健福祉手帳の有無・等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
手帳あり (1級)	1	0.3%
手帳あり (2級)	2	0.6%
手帳あり (3級)	0	0.0%
手帳あり (等級不明)	2	0.6%
手帳なし	104	30.7%
不明	230	67.8%
全体	339	100.0%



属性8 介護保険のサービス利用【SA】

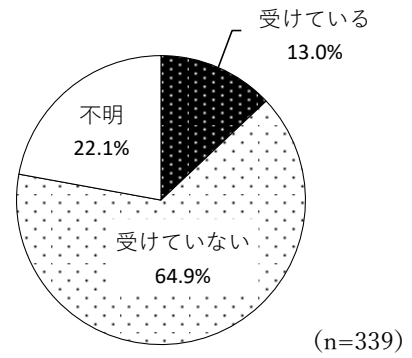
カテゴリー名	人数	%
受けている	90	26.5%
受けていない	225	66.4%
不明	24	7.1%
全体	339	100.0%



「身体障がい」調査結果

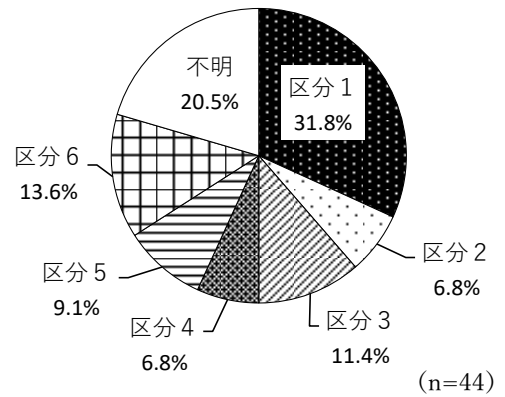
属性9 障害支援区分の認定【SA】

カテゴリー名	人数	%
受けている	44	13.0%
受けていない	220	64.9%
不明	75	22.1%
全体	339	100.0%



属性10 障害支援区分の度合い【SA】

カテゴリー名	人数	%
区分1	14	31.8%
区分2	3	6.8%
区分3	5	11.4%
区分4	3	6.8%
区分5	4	9.1%
区分6	6	13.6%
不明	9	20.5%
全体	44	100.0%



(2)生活の状況について

現在暮らしている場所について、「自宅（アパートなどを含む）」が85.5%と大半を占めており、次いで「福祉施設に入所」（7.1%）、「福祉ホームやグループホーム」（2.4%）などとなっている。家族構成については、「二世帯世帯（親・子）」が40.4%と最も高く、次いで「夫婦二人暮らし」（27.1%）、「一人暮らし」（15.6%）などとなっている。

保健・医療・福祉等の連携が特に必要な障害について、指定難病の認定を受けている方が7.1%、発達障がいと診断されたことがある方が0.3%、強度行動障がいと診断をされたことがある方が0.9%、高次脳機能障害と診断されたことがある方が4.7%となっている。高次脳機能障害と診断された方に関連障がいを聞いたところ、「肢体不自由（上肢）」が68.8%で最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」（56.3%）、「音声、言語、そしゃく機能障がい」および「肢体不自由（体幹）」（ともに25.0%）などが続いた。また、医療的ケアを受けている方は26.5%で、医療ケアの内容は「服薬管理」が46.7%で最も高く、次いで「透析」（21.1%）、「ストマ（人工肛門、人工膀胱）」（15.6%）などとなっている。

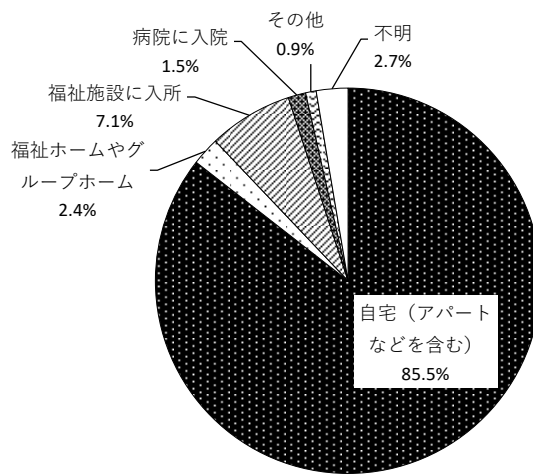
月収（年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む）は、「10万円～20万円未満」が42.8%と最も高く、次いで「5万円～10万円未満」（24.2%）、「20万円以上」（16.5%）と、『10万円以上』が59.3%と過半数を占めている。また、収入がある人に主な収入源について聞いたところ、「障がい年金以外の公的年金（遺族年金など）（国民・厚生・共済など）」が51.6%で最も多く、次いで「本人の就労収入（工賃を含む）」と「障がい年金（国民・厚生・共済など）」（ともに18.0%）などとなっている。

■ 住まい【SA】

問1 あなたは現在どこで暮らしていますか。(1つだけ○印)

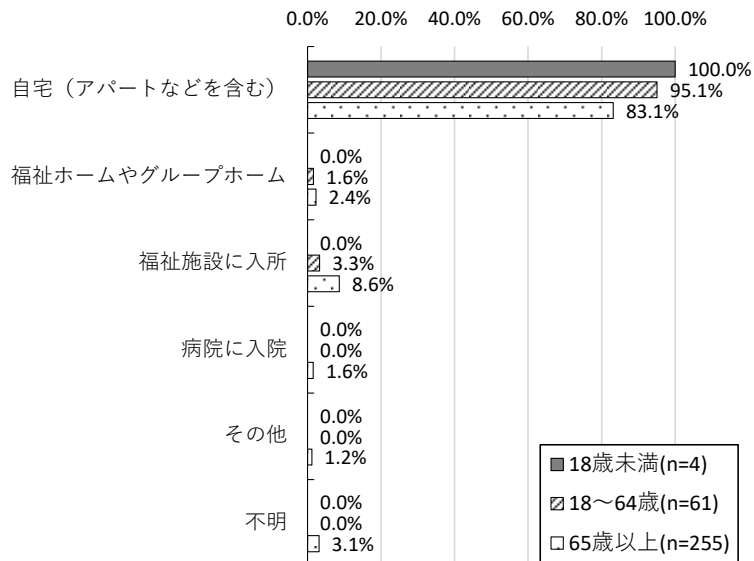
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	自宅（アパートなどを含む）	290	85.5%	4	100.0%	58	95.1%	212	83.1%
2	福祉ホームやグループホーム	8	2.4%	0	0.0%	1	1.6%	6	2.4%
3	福祉施設に入所	24	7.1%	0	0.0%	2	3.3%	22	8.6%
4	病院に入院	5	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.6%
5	その他	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%
	不明	9	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	8	3.1%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

住まい(全体)



(n=339)

住まい(年代別)

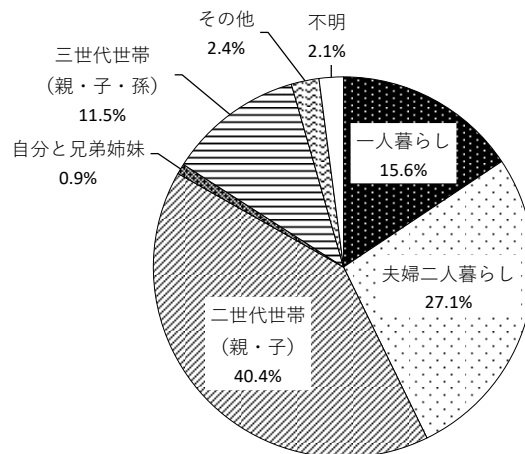


■ 家族構成【SA】

問2 あなたの家族構成をお答えください。施設入所・入院の方は、自宅(実家)の状態をお答えください。(1つだけ○印)

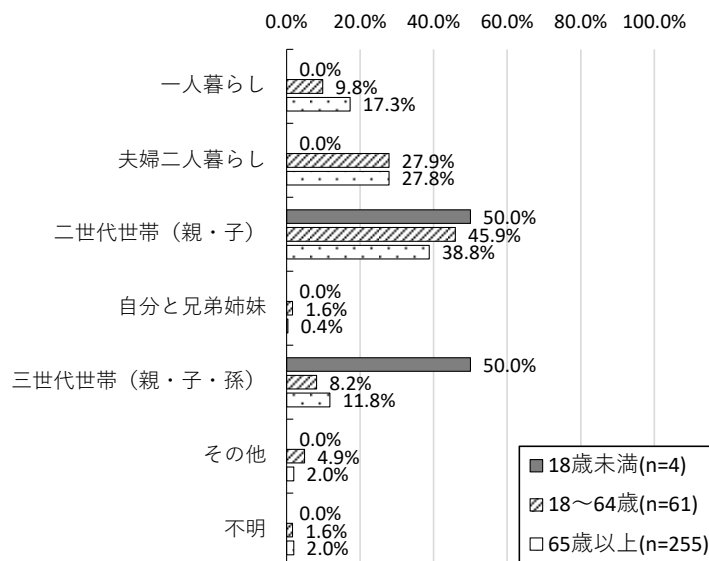
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	一人暮らし	53	15.6%	0	0.0%	6	9.8%	44	17.3%
2	夫婦二人暮らし	92	27.1%	0	0.0%	17	27.9%	71	27.8%
3	二世世代世帯(親・子)	137	40.4%	2	50.0%	28	45.9%	99	38.8%
4	自分と兄弟姉妹	3	0.9%	0	0.0%	1	1.6%	1	0.4%
5	三世世代世帯(親・子・孫)	39	11.5%	2	50.0%	5	8.2%	30	11.8%
6	その他	8	2.4%	0	0.0%	3	4.9%	5	2.0%
	不明	7	2.1%	0	0.0%	1	1.6%	5	2.0%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

家族構成(全体)



(n=339)

家族構成(年代別)



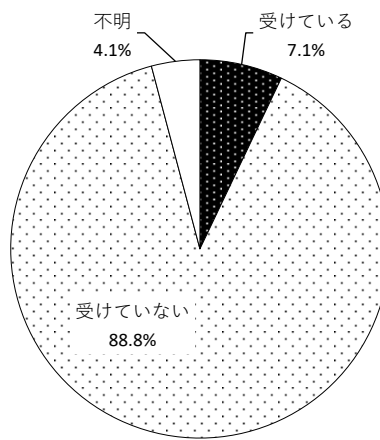
■ 指定難病の認定【SA】

問3 あなたは指定難病(※1)の認定を受けていますか。(1つだけ○印)

※1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。

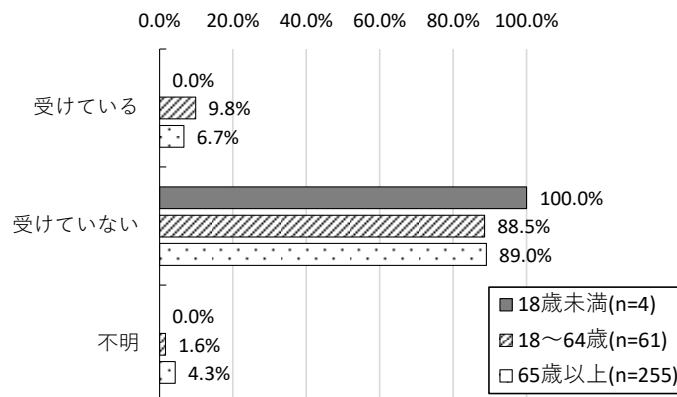
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18~64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	受けている	24	7.1%	0	0.0%	6	9.8%	17	6.7%
2	受けていない	301	88.8%	4	100.0%	54	88.5%	227	89.0%
	不明	14	4.1%	0	0.0%	1	1.6%	11	4.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

指定難病の認定(全体)



(n=339)

指定難病の認定(年代別)

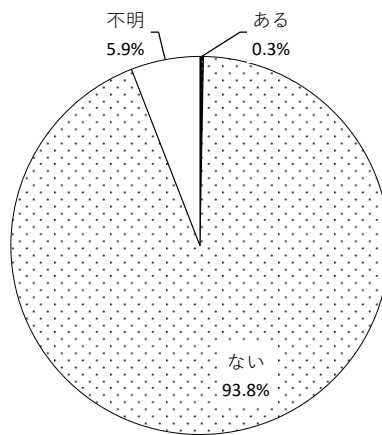


■ 発達障がいの診断【SA】

問4 あなたは発達障がい(※2)として診断されたことがありますか。(1つだけ○印)
 ※2 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。

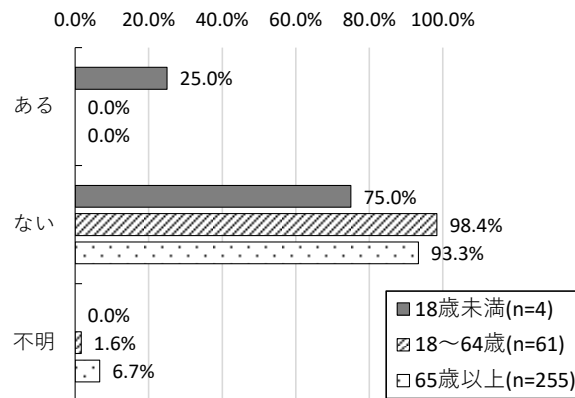
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	1	0.3%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	ない	318	93.8%	3	75.0%	60	98.4%	238	93.3%
	不明	20	5.9%	0	0.0%	1	1.6%	17	6.7%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

発達障がいの診断(全体)



(n=339)

発達障がいの診断(年代別)



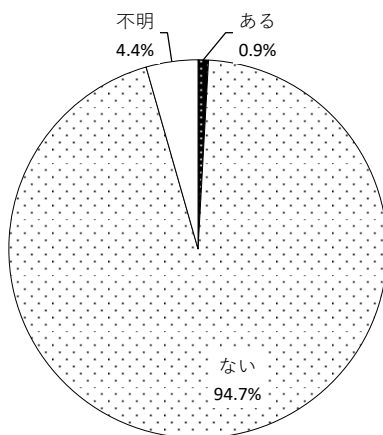
■ 強度行動障がいの診断【SA】

問5 あなたは強度行動障がい(※3)があると言われたことはありますか。(1つだけ○印)

※3 自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいいます。障がい福祉サービス等を利用し重度障がい者支援加算の対象となっている方、障がい福祉サービスの行動援護を利用している方、医師や療育機関から指摘を受けた方は「1」を選択してください。

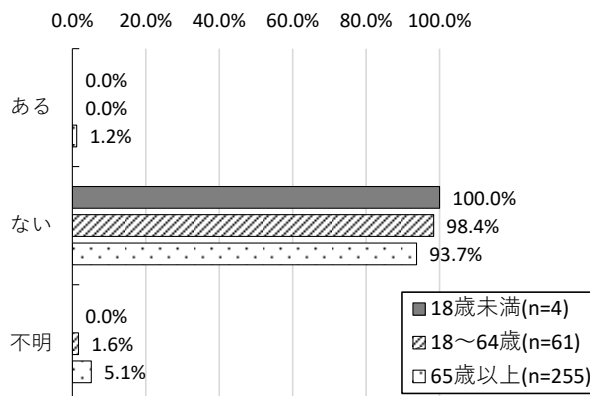
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%
2	ない	321	94.7%	4	100.0%	60	98.4%	239	93.7%
	不明	15	4.4%	0	0.0%	1	1.6%	13	5.1%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

強度行動障がいの診断(全体)



(n=339)

強度行動障がいの診断(年代別)



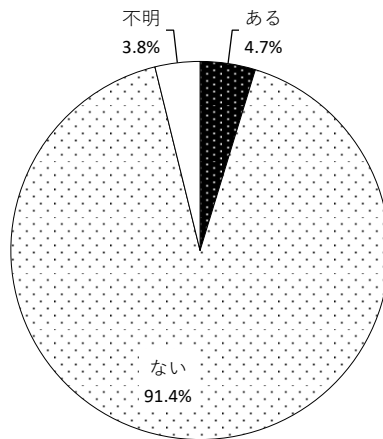
■ 高次脳機能障がいの診断【SA】

問6 あなたは高次脳機能障がい(※4)として診断されたことはありますか。(1つだけ○印)

※4 一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がい、失語などの認知障がい等を指すものとされており、具体的には「会話が上手くかみ合わない」等の症状があります。

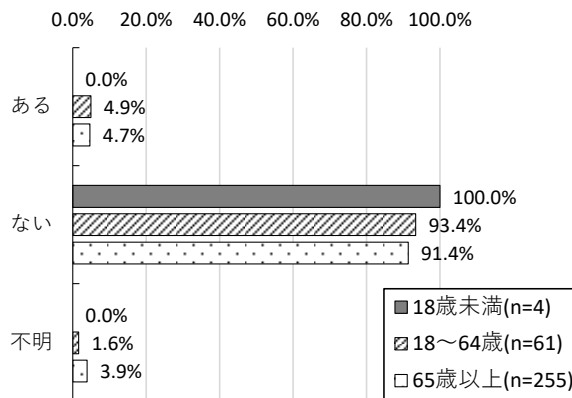
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	16	4.7%	0	0.0%	3	4.9%	12	4.7%
2	ない	310	91.4%	4	100.0%	57	93.4%	233	91.4%
	不明	13	3.8%	0	0.0%	1	1.6%	10	3.9%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

高次脳機能障がいの診断(全体)



(n=339)

高次脳機能障がいの診断(年代別)

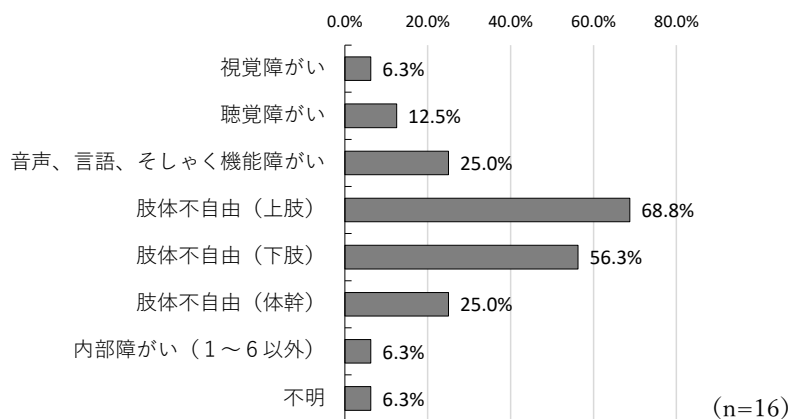


■ 高次脳機能障がいの関連障がい【MA】

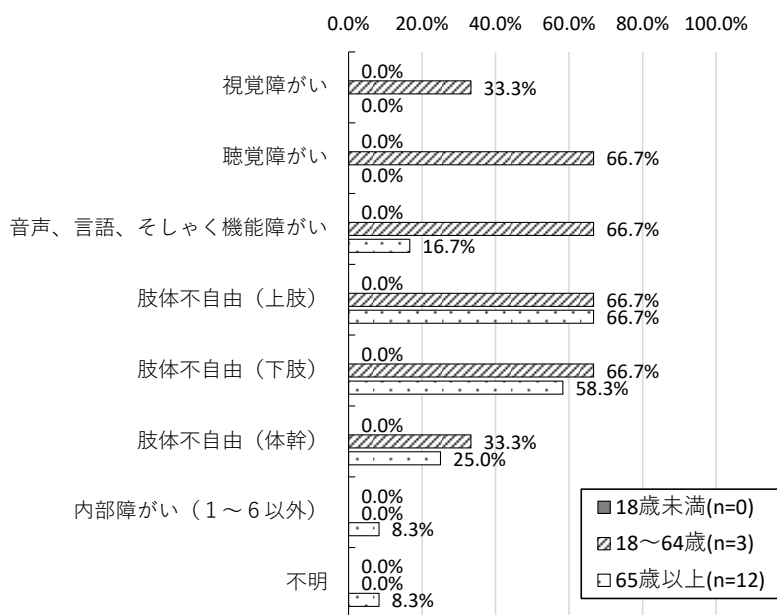
問7 問6で「1」を回答した方におたずねします。その関連障がいは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	視覚障がい	1	6.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%
2	聴覚障がい	2	12.5%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%
3	音声、言語、そしゃく機能障がい	4	25.0%	0	0.0%	2	66.7%	2	16.7%
4	肢体不自由（上肢）	11	68.8%	0	0.0%	2	66.7%	8	66.7%
5	肢体不自由（下肢）	9	56.3%	0	0.0%	2	66.7%	7	58.3%
6	肢体不自由（体幹）	4	25.0%	0	0.0%	1	33.3%	3	25.0%
7	内部障がい（1～6以外）	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
	不明	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
	全体	16	100.0%	0	0.0%	3	100.0%	12	100.0%

高次脳機能障がいの関連障がい(全体)



高次脳機能障がいの関連障がい(年代別)

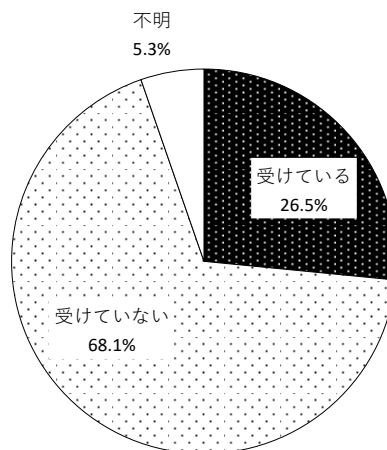


■ 医療的ケアの有無【SA】

問8 あなたは現在医療的ケアを受けていますか。(1つだけ○印)

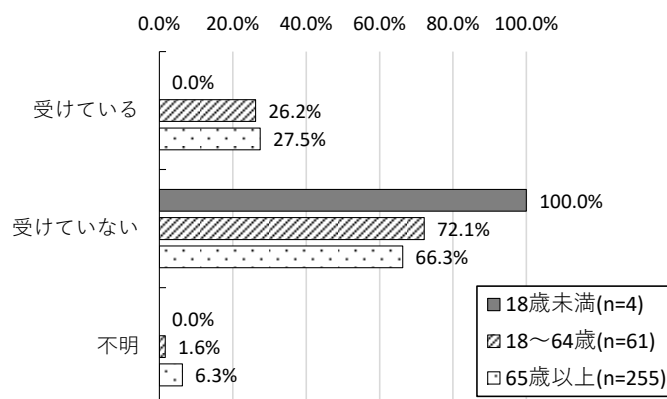
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	受けている	90	26.5%	0	0.0%	16	26.2%	70	27.5%
2	受けていない	231	68.1%	4	100.0%	44	72.1%	169	66.3%
	不明	18	5.3%	0	0.0%	1	1.6%	16	6.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

医療的ケアの有無(全体)



(n=339)

医療的ケアの有無(年代別)

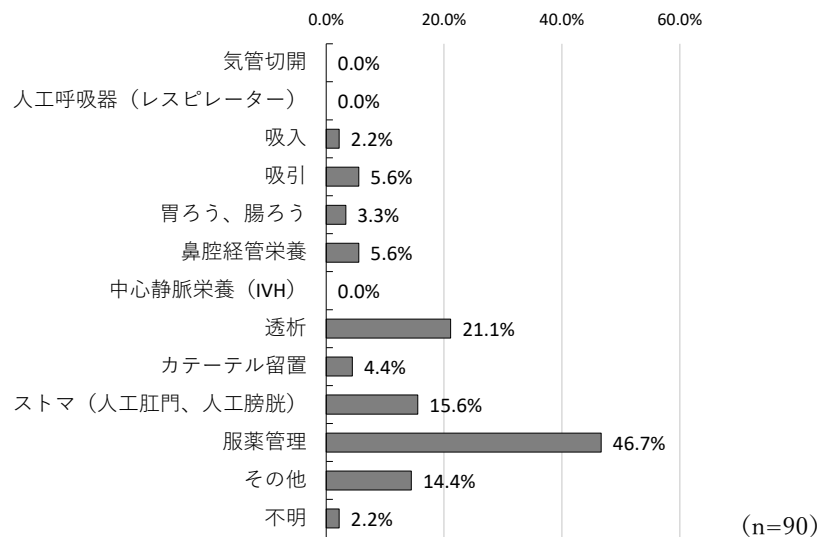


■ 医療的ケアの内容【MA】

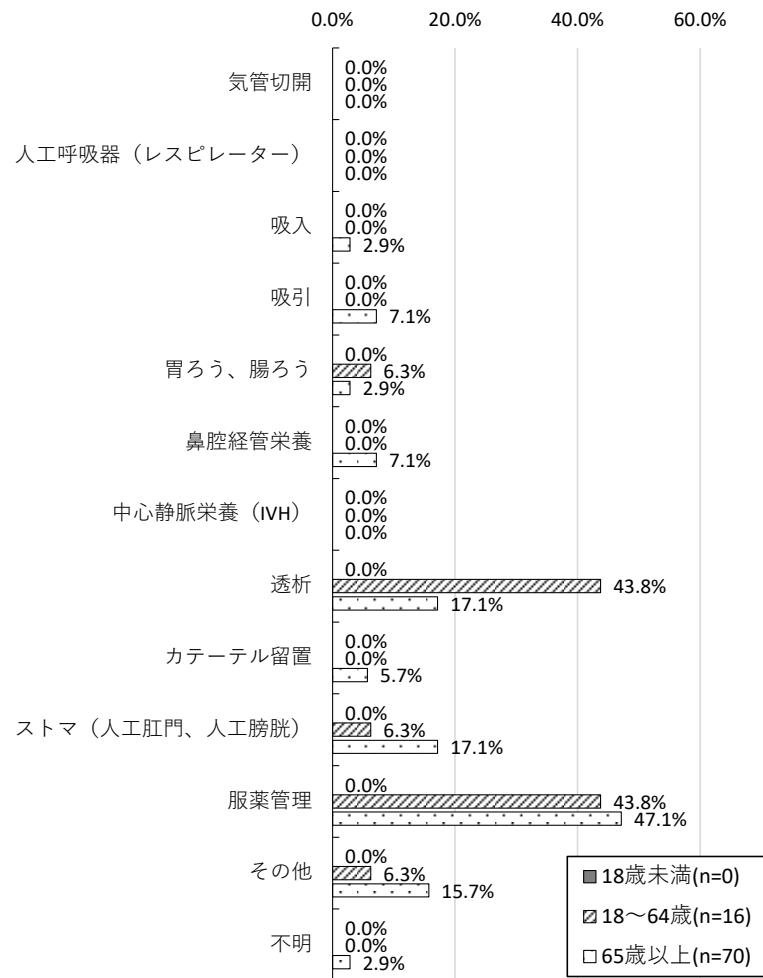
問9 問8で「1」を回答した方におたずねします。受けている医療的ケアは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	気管切開	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	人工呼吸器（レスピレーター）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	吸入	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%
4	吸引	5	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	7.1%
5	胃ろう、腸ろう	3	3.3%	0	0.0%	1	6.3%	2	2.9%
6	鼻腔経管栄養	5	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	7.1%
7	中心静脈栄養（IVH）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8	透析	19	21.1%	0	0.0%	7	43.8%	12	17.1%
9	カテーテル留置	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.7%
10	ストマ（人工肛門、人工膀胱）	14	15.6%	0	0.0%	1	6.3%	12	17.1%
11	服薬管理	42	46.7%	0	0.0%	7	43.8%	33	47.1%
12	その他	13	14.4%	0	0.0%	1	6.3%	11	15.7%
	不明	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%
	全体	90	100.0%	0	0.0%	16	100.0%	70	100.0%

医療的ケアの内容(全体)



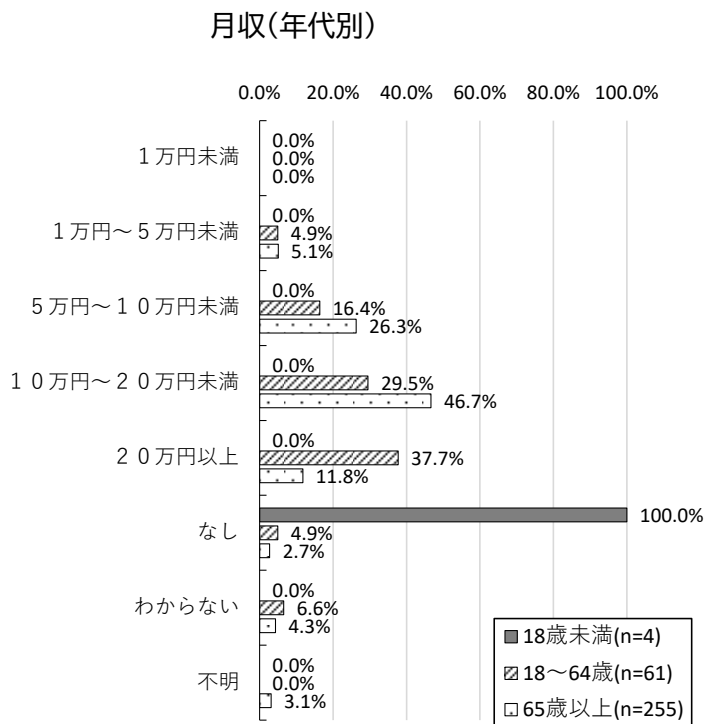
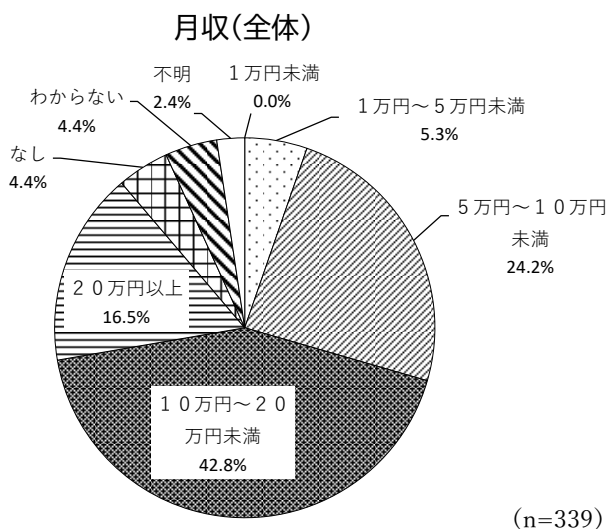
医療的ケアの内容(年代別)



■ 月収【SA】

問10 あなたの月収は(年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む)どのくらいですか。税や社会保険料等控除前の額をお答えください。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	1万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	1万円～5万円未満	18	5.3%	0	0.0%	3	4.9%	13	5.1%
3	5万円～10万円未満	82	24.2%	0	0.0%	10	16.4%	67	26.3%
4	10万円～20万円未満	145	42.8%	0	0.0%	18	29.5%	119	46.7%
5	20万円以上	56	16.5%	0	0.0%	23	37.7%	30	11.8%
6	なし	15	4.4%	4	100.0%	3	4.9%	7	2.7%
7	わからない	15	4.4%	0	0.0%	4	6.6%	11	4.3%
	不明	8	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	8	3.1%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

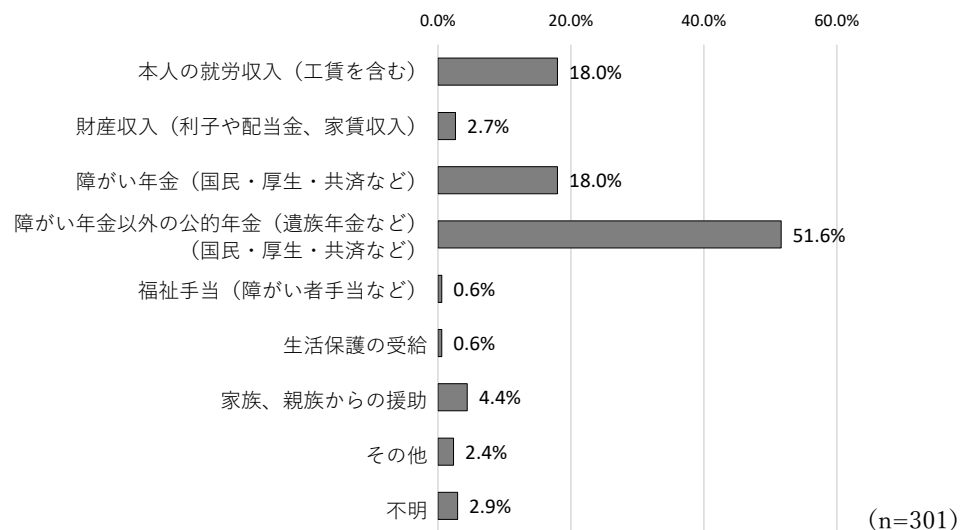


■ 収入源【MA】

問11 問 10 で「1～5」を回答した方におたずねします。あなたの主な収入源はどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

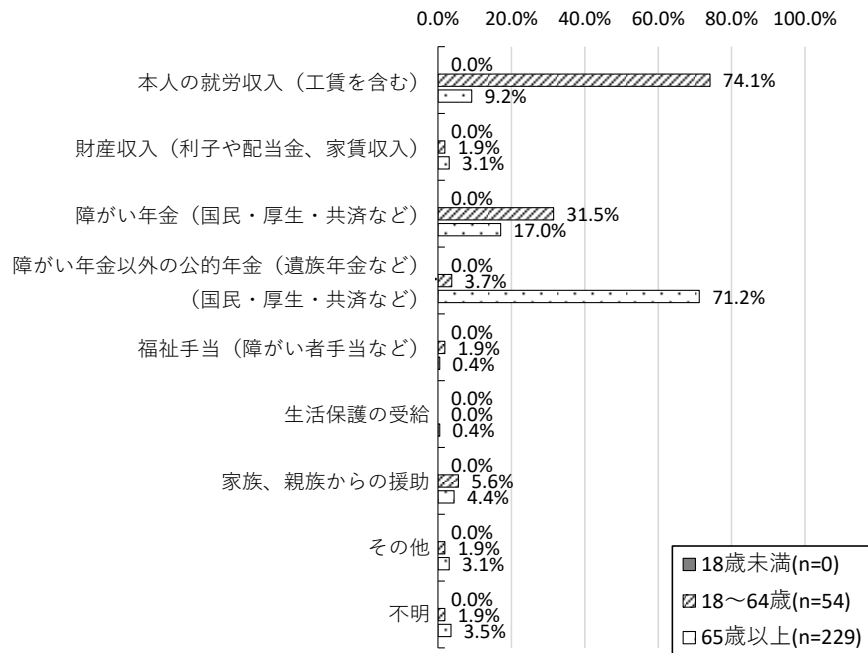
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	本人の就労収入（工賃を含む）	61	18.0%	0	0.0%	40	74.1%	21	9.2%
2	財産収入（利子や配当金、家賃収入）	9	2.7%	0	0.0%	1	1.9%	7	3.1%
3	障がい年金（国民・厚生・共済など）	61	18.0%	0	0.0%	17	31.5%	39	17.0%
4	障がい年金以外の公的年金（遺族年金など）（国民・厚生・共済など）	175	51.6%	0	0.0%	2	3.7%	163	71.2%
5	福祉手当（障がい者手当など）	2	0.6%	0	0.0%	1	1.9%	1	0.4%
6	生活保護の受給	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
7	家族、親族からの援助	15	4.4%	0	0.0%	3	5.6%	10	4.4%
8	その他	8	2.4%	0	0.0%	1	1.9%	7	3.1%
	不明	10	2.9%	0	0.0%	1	1.9%	8	3.5%
	全体	301	100.0%	0	0.0%	54	100.0%	229	100.0%

収入源(全体)



「身体障がい」調査結果

収入源(年代別)



(3)日常生活について

普段の生活の中で困っていることは、「健康」が42.2%で最も高く、次いで「収入」(24.2%)、「外出」(19.2%)などとなっている。一方、「困っていることはない」との回答は26.3%であった。

ヘルプカードの認知状況については、「知らない」(56.9%)が「知っている」(38.6%)を18.3ポイント上回っている。

日常生活で少しでも介助や支援が必要なことは、「ない」が45.1%と最も高かった。具体的な回答の中では「日用品の買い物」が23.9%と最も高く、次いで「掃除・片付け」(21.8%)、「入浴」(20.9%)などが続いた。日常生活の中で少しでも介助や支援が必要があると回答した人に、主な介助者について聞いたところ、「配偶者」が30.8%と最も高く、次いで「子(子の配偶者)」(29.0%)、「ホームヘルパー・施設職員」(18.3%)などとなっている。また、介助者の健康状態については、「普通」が55.8%と過半数を占め、「良好」(15.0%)が続く一方、「高齢で健康状態に不安がある」(9.7%)、「具合が悪く病気の治療中である」(8.8%)、「病気がちである」(5.3%)と、健康状態に不安を抱える人も一定の割合を占めている。

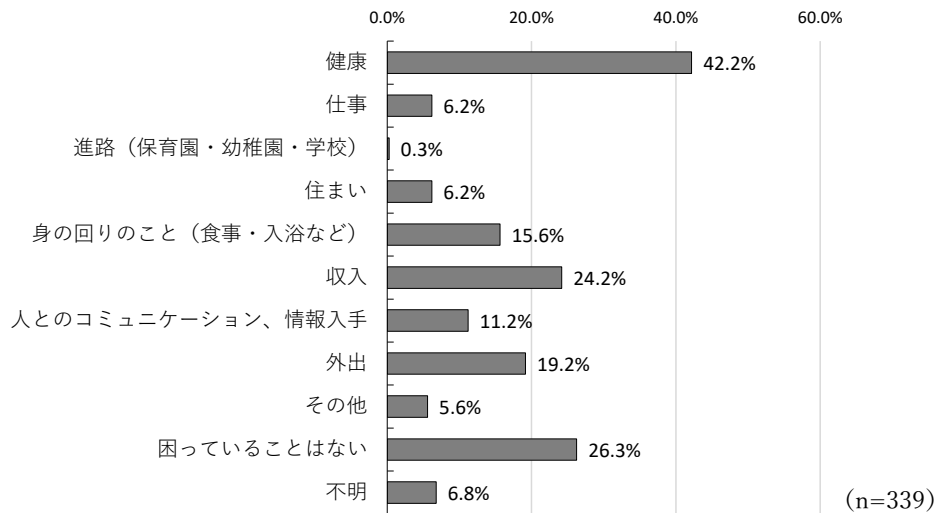
- ◎ ヘルプカードの認知状況について、前回調査と比べて「知っている」との回答が20ポイント以上上昇(13.9%→38.6%)しており、認知が進んだことがうかがえる。
- ◎ 生活支援のニーズとしては「日用品の買い物」が高く、身体障がい者にとって日常生活を営むうえで障壁のひとつとなっていることがうかがえる。また、その介助者をみると、前回調査と比較して「配偶者」の割合が下がり(37.2%→30.8%)、「ホームヘルパー・施設職員」の割合が高まっている(15.2%→18.3%)。

■ 困りごと【MA】

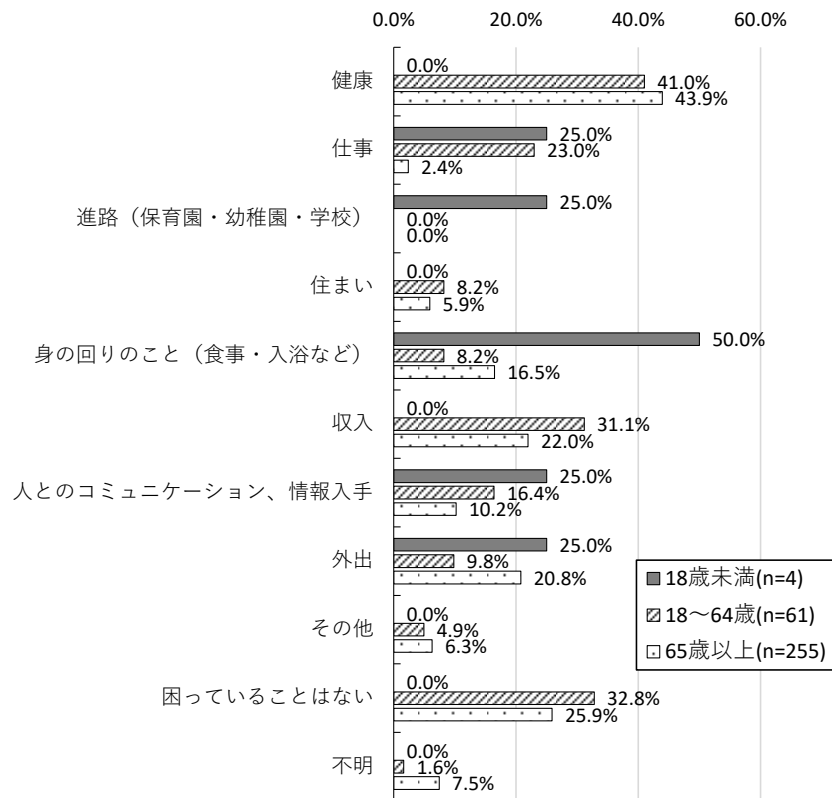
問 12 普段の生活の中で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	健康	143	42.2%	0	0.0%	25	41.0%	112	43.9%
2	仕事	21	6.2%	1	25.0%	14	23.0%	6	2.4%
3	進路（保育園・幼稚園・学校）	1	0.3%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	住まい	21	6.2%	0	0.0%	5	8.2%	15	5.9%
5	身の回りのこと（食事・入浴など）	53	15.6%	2	50.0%	5	8.2%	42	16.5%
6	収入	82	24.2%	0	0.0%	19	31.1%	56	22.0%
7	人とのコミュニケーション、情報入手	38	11.2%	1	25.0%	10	16.4%	26	10.2%
8	外出	65	19.2%	1	25.0%	6	9.8%	53	20.8%
9	その他	19	5.6%	0	0.0%	3	4.9%	16	6.3%
10	困っていることはない	89	26.3%	0	0.0%	20	32.8%	66	25.9%
	不明	23	6.8%	0	0.0%	1	1.6%	19	7.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

困りごと(全体)



困りごと(年代別)

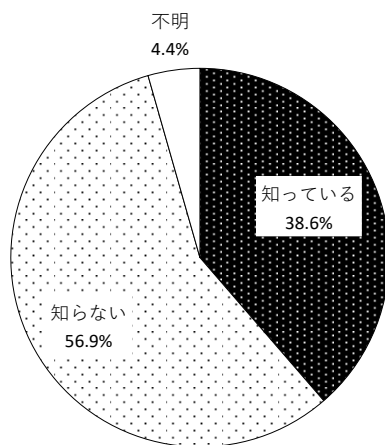


■ ヘルプカードの認知状況【SA】

問 13 あなたはヘルプカードを知っていますか。

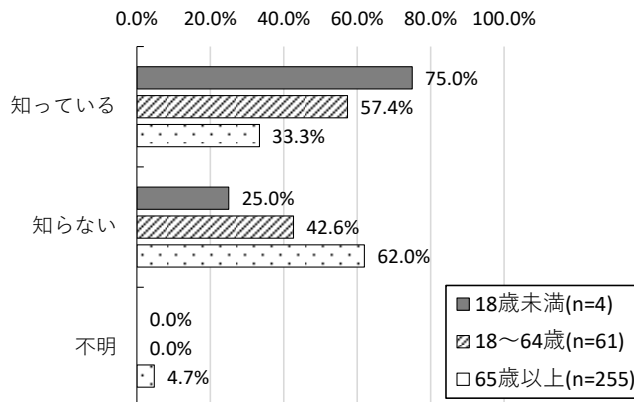
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	131	38.6%	3	75.0%	35	57.4%	85	33.3%
2	知らない	193	56.9%	1	25.0%	26	42.6%	158	62.0%
	不明	15	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	12	4.7%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

ヘルプカードの認知状況(全体)



(n=339)

ヘルプカードの認知状況(年代別)

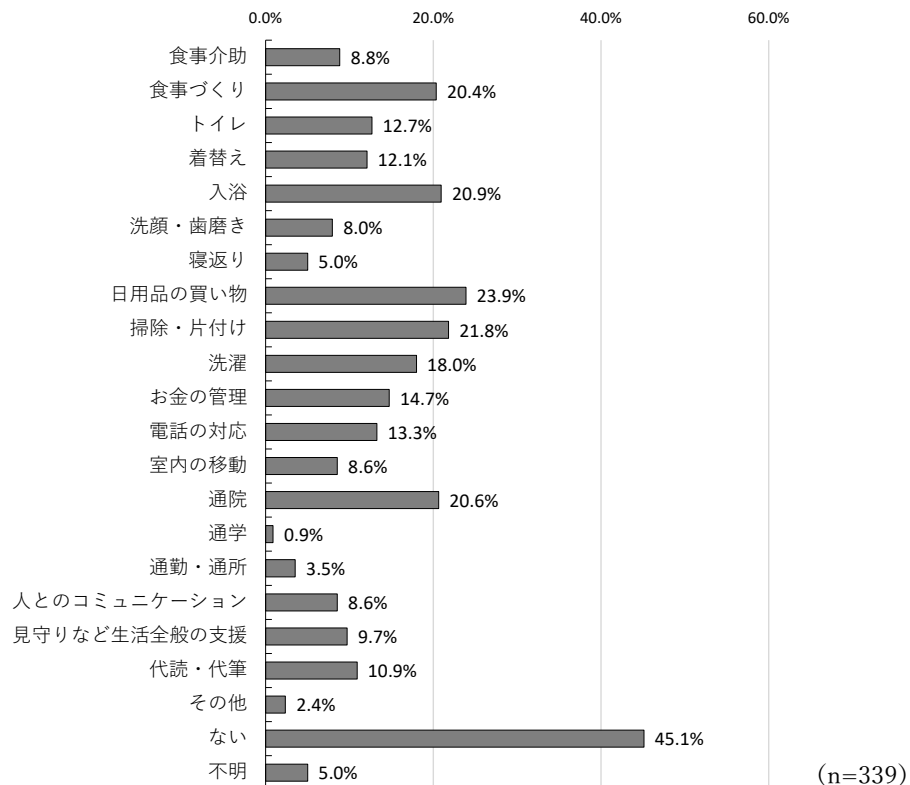


■ 介助や支援のニーズ【MA】

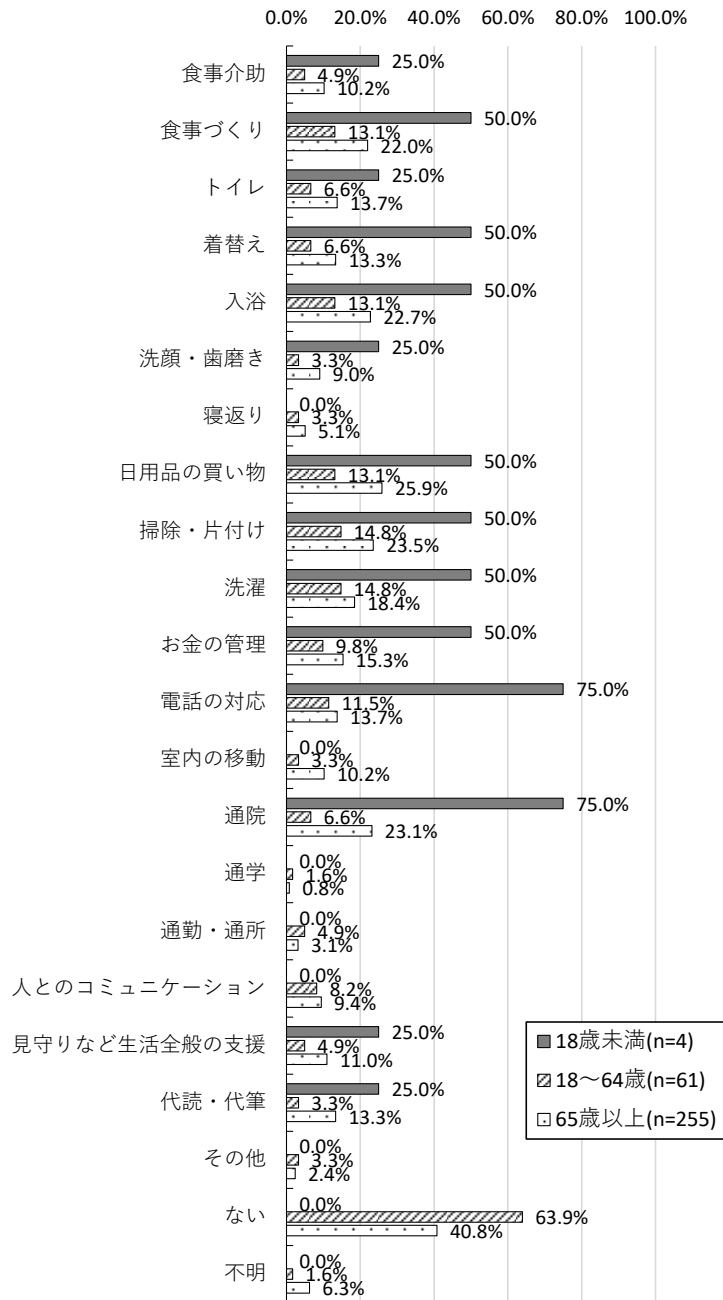
問 14 日常生活で少しでも介助や支援が必要なことがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	食事介助	30	8.8%	1	25.0%	3	4.9%	26	10.2%
2	食事づくり	69	20.4%	2	50.0%	8	13.1%	56	22.0%
3	トイレ	43	12.7%	1	25.0%	4	6.6%	35	13.7%
4	着替え	41	12.1%	2	50.0%	4	6.6%	34	13.3%
5	入浴	71	20.9%	2	50.0%	8	13.1%	58	22.7%
6	洗顔・歯磨き	27	8.0%	1	25.0%	2	3.3%	23	9.0%
7	寝返り	17	5.0%	0	0.0%	2	3.3%	13	5.1%
8	日用品の買い物	81	23.9%	2	50.0%	8	13.1%	66	25.9%
9	掃除・片付け	74	21.8%	2	50.0%	9	14.8%	60	23.5%
10	洗濯	61	18.0%	2	50.0%	9	14.8%	47	18.4%
11	お金の管理	50	14.7%	2	50.0%	6	9.8%	39	15.3%
12	電話の対応	45	13.3%	3	75.0%	7	11.5%	35	13.7%
13	室内の移動	29	8.6%	0	0.0%	2	3.3%	26	10.2%
14	通院	70	20.6%	3	75.0%	4	6.6%	59	23.1%
15	通学	3	0.9%	0	0.0%	1	1.6%	2	0.8%
16	通勤・通所	12	3.5%	0	0.0%	3	4.9%	8	3.1%
17	人とのコミュニケーション	29	8.6%	0	0.0%	5	8.2%	24	9.4%
18	見守りなど生活全般の支援	33	9.7%	1	25.0%	3	4.9%	28	11.0%
19	代読・代筆	37	10.9%	1	25.0%	2	3.3%	34	13.3%
20	その他	8	2.4%	0	0.0%	2	3.3%	6	2.4%
21	ない	153	45.1%	0	0.0%	39	63.9%	104	40.8%
	不明	17	5.0%	0	0.0%	1	1.6%	16	6.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

介助や支援のニーズ(全体)



介助や支援のニーズ(年代別)

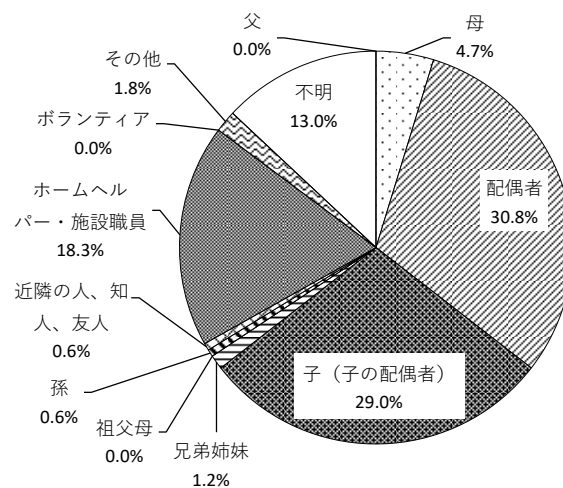


■ 主な介助者【SA】

問15 問14で「1～20」を回答した方におたずねします。あなたを介助している方(介助者)はどなたですか。(主な介助者に1つだけ○印)

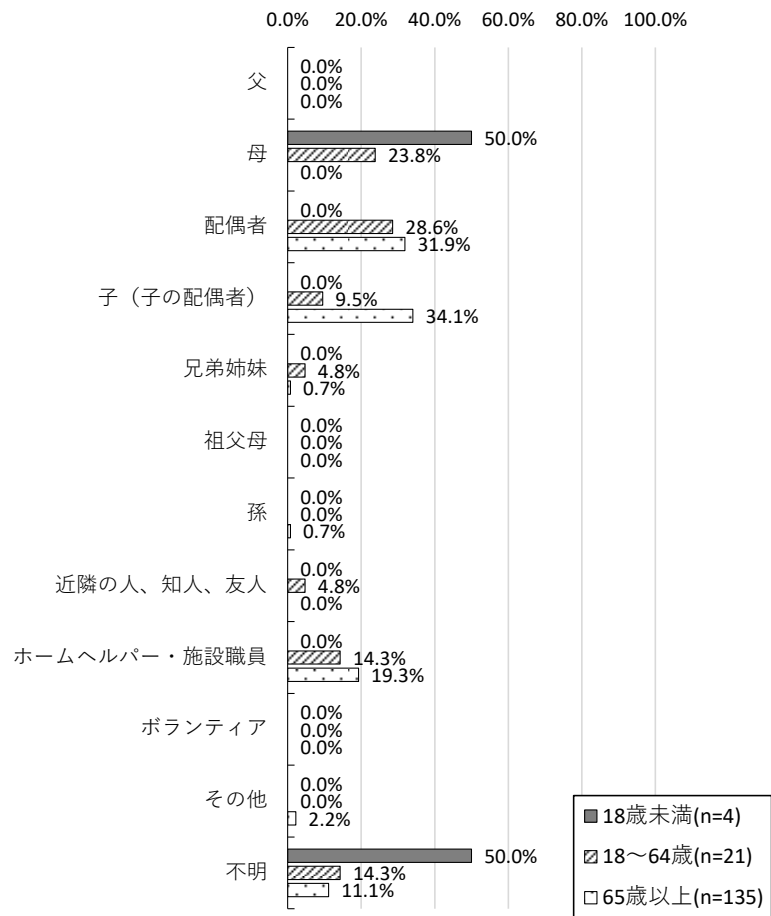
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	父	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	母	8	4.7%	2	50.0%	5	23.8%	0	0.0%
3	配偶者	52	30.8%	0	0.0%	6	28.6%	43	31.9%
4	子(子の配偶者)	49	29.0%	0	0.0%	2	9.5%	46	34.1%
5	兄弟姉妹	2	1.2%	0	0.0%	1	4.8%	1	0.7%
6	祖父母	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	孫	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
8	近隣の人、知人、友人	1	0.6%	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%
9	ホームヘルパー・施設職員	31	18.3%	0	0.0%	3	14.3%	26	19.3%
10	ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	その他	3	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.2%
	不明	22	13.0%	2	50.0%	3	14.3%	15	11.1%
	全体	169	100.0%	4	100.0%	21	100.0%	135	100.0%

主な介助者(全体)



(n=169)

主な介助者(年代別)

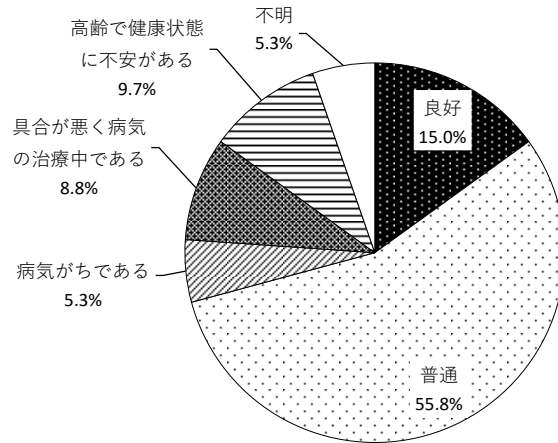


■ 介助者の健康状態【SA】

問16 問15で「1～8」を回答した方におたずねします。主な介助者の健康状態はいかがですか。
(1つだけ○印)

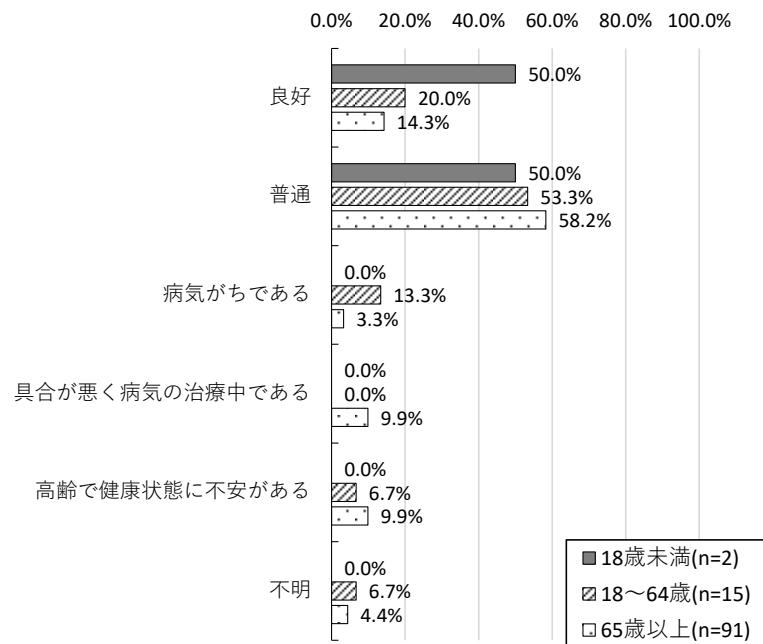
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	良好	17	15.0%	1	50.0%	3	20.0%	13	14.3%
2	普通	63	55.8%	1	50.0%	8	53.3%	53	58.2%
3	病気がちである	6	5.3%	0	0.0%	2	13.3%	3	3.3%
4	具合が悪く病気の治療中である	10	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	9	9.9%
5	高齢で健康状態に不安がある	11	9.7%	0	0.0%	1	6.7%	9	9.9%
	不明	6	5.3%	0	0.0%	1	6.7%	4	4.4%
	全体	113	100.0%	2	100.0%	15	100.0%	91	100.0%

介助者の健康状態(全体)



(n=113)

介助者の健康状態(年代別)



(4)福祉サービスについて

福祉サービスの中で知っているサービスを聞いたところ、「生活介護（デイサービス）」が 49.3%と最も高く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」と「短期入所（ショートステイ）」（ともに 48.4%）、「施設入所」（40.7%）などが続いた。利用したことがあるサービスは、「生活介護（デイサービス）」が 13.6%と最も高く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」（7.1%）、「短期入所（ショートステイ）」（6.2%）などとなっている。また、今後利用したいサービスは、「生活介護（デイサービス）」が 7.4%と最も高く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」（6.8%）、「施設入所」（5.3%）などとなった。

次に、福祉制度の中で知っている制度を聞いたところ、「福祉タクシー券・給油券の交付」が 45.1%と最も高く、次いで「自動車税の減免」（33.9%）、「交通料金の割引」（33.6%）などが続いた。利用したことがある制度では「福祉タクシー券・給油券の交付」が 34.2%で最も高く、次いで「自動車税の減免」（25.4%）、「交通料金の割引」（17.1%）などとなっている。また、今後利用したい制度では「福祉タクシー券・給油券の交付」が 17.1%で最も高く、次いで「NHK 受信料の減免」（15.0%）、「交通料金の割引」（11.8%）などとなっている。

身体障がい者入所施設からの地域移行について聞いたところ、「地域移行して、地域で生活したい（した方がよい）」（15.3%）が「地域移行したくない（しない方がよい）」（8.6%）を 6.7 ポイント上回った。一方、「どちらとも言えない」と決めかねている方は 51.0%と過半数を占める。

山形市内の身体障がい者グループホームについて聞いたところ、グループホームの数は「ちょうど良い」（12.7%）が「不足している」（8.6%）を 4.1 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 47.2%と最も高くなっている。また、グループホームの定員数は「ちょうど良い」（13.0%）が「不足している」（7.7%）を 5.3 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 45.7%と最も高くなっている。

山形市内の身体障がい者通所事業所について、身体障がい者通所事業所の数は「ちょうど良い」（13.0%）が「不足している」（6.8%）を 6.2 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 47.2%と最も高くなっている。また、身体障がい者通所事業所の定員数は「ちょうど良い」（12.7%）が「不足している」（5.6%）を 7.1 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 46.6%と最も高くなっている。

- ◎ 障がいのある人の地域における自立した生活を支援するうえで福祉サービスや福祉制度の充実
は不可欠である。今回のアンケートは、回答者のうち 65 歳以上が 75%以上を占めていること
もあり、就労系サービスのニーズが低く、介護系や入所系サービスのニーズが高くなっている
が、地域移行に前向きな方も一定数いるので、グループホームや通所事業所の定員確保は重要
である。一方、福祉制度については、経済的な支援に関する制度を中心に認知、利用されてい
ることが分かる。自由記述では「身障行政と介護行政の連携」「病気入院から施設入所がスム
ーズにできるように」「移動サポート」あるいは「利用制限をなくしてほしい」「種々の減免措置
の範囲を拡大してほしい」といった補助内容の拡充を望む声があった。利用者の障がいの程度
や必要な支援の内容等に応じた施策が求められている。

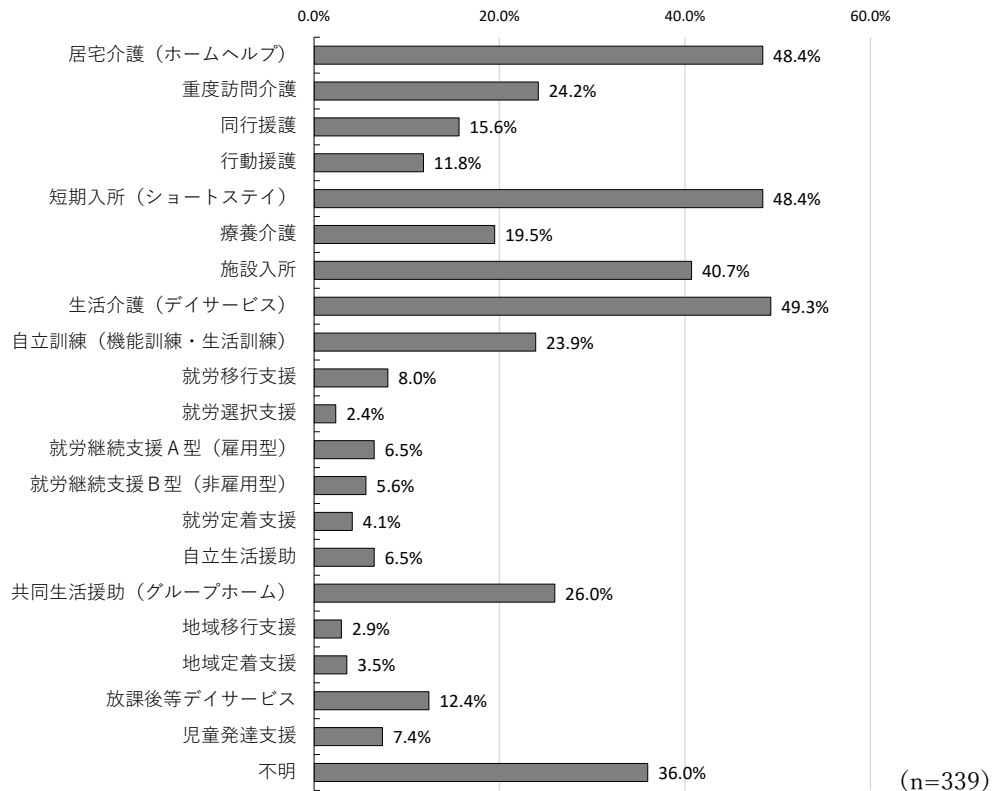
■ 福祉サービス

問17 次にあげた障がい者、障がい児の福祉サービスの中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ものはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

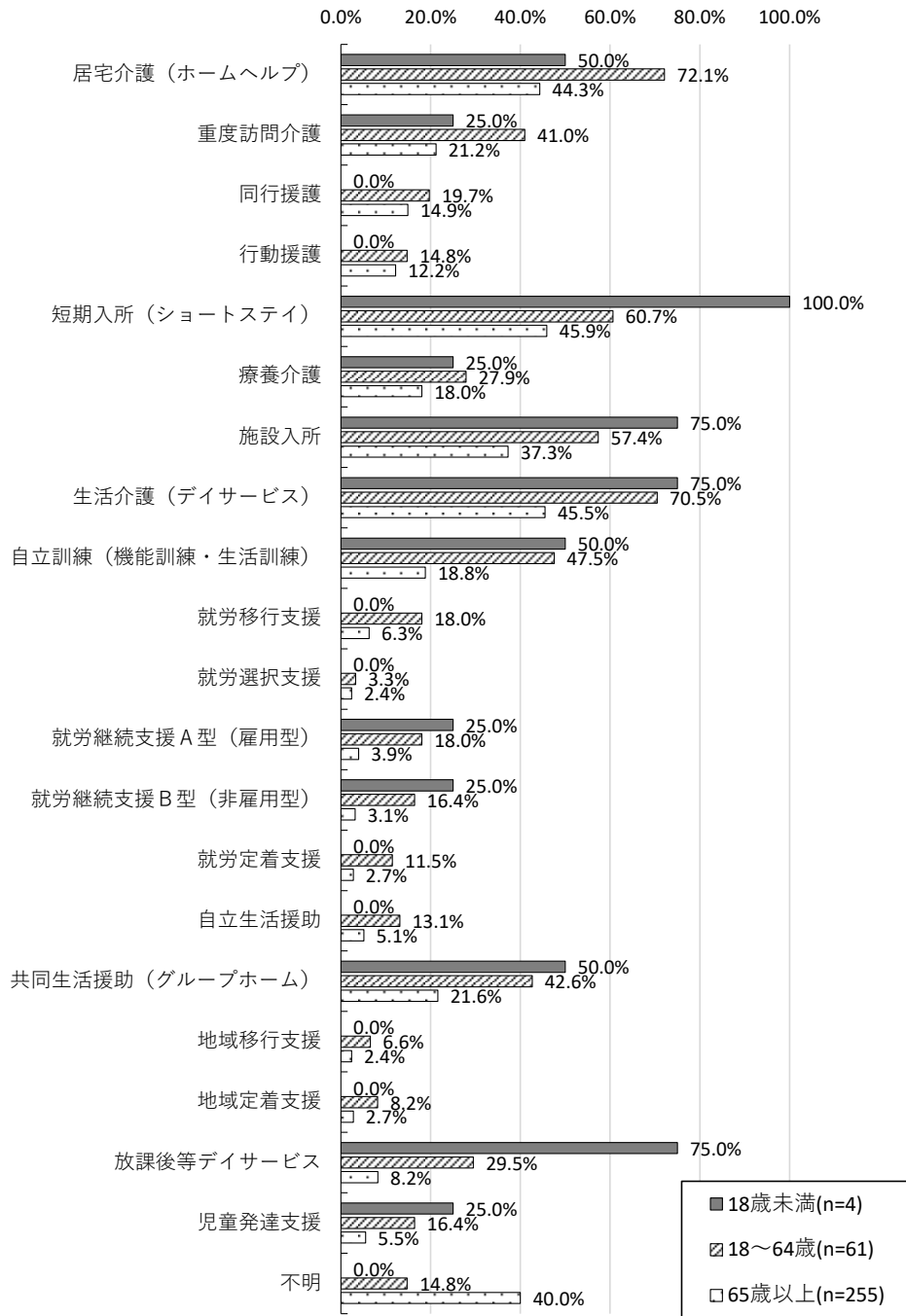
○ 知っている福祉サービス【MA】

No.	カテゴリ名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	164	48.4%	2	50.0%	44	72.1%	113	44.3%
2	重度訪問介護	82	24.2%	1	25.0%	25	41.0%	54	21.2%
3	同行援護	53	15.6%	0	0.0%	12	19.7%	38	14.9%
4	行動援護	40	11.8%	0	0.0%	9	14.8%	31	12.2%
5	短期入所（ショートステイ）	164	48.4%	4	100.0%	37	60.7%	117	45.9%
6	療養介護	66	19.5%	1	25.0%	17	27.9%	46	18.0%
7	施設入所	138	40.7%	3	75.0%	35	57.4%	95	37.3%
8	生活介護（デイサービス）	167	49.3%	3	75.0%	43	70.5%	116	45.5%
9	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	81	23.9%	2	50.0%	29	47.5%	48	18.8%
10	就労移行支援	27	8.0%	0	0.0%	11	18.0%	16	6.3%
11	就労選択支援	8	2.4%	0	0.0%	2	3.3%	6	2.4%
12	就労継続支援A型（雇用型）	22	6.5%	1	25.0%	11	18.0%	10	3.9%
13	就労継続支援B型（非雇用型）	19	5.6%	1	25.0%	10	16.4%	8	3.1%
14	就労定着支援	14	4.1%	0	0.0%	7	11.5%	7	2.7%
15	自立生活援助	22	6.5%	0	0.0%	8	13.1%	13	5.1%
16	共同生活援助（グループホーム）	88	26.0%	2	50.0%	26	42.6%	55	21.6%
17	地域移行支援	10	2.9%	0	0.0%	4	6.6%	6	2.4%
18	地域定着支援	12	3.5%	0	0.0%	5	8.2%	7	2.7%
19	放課後等デイサービス	42	12.4%	3	75.0%	18	29.5%	21	8.2%
20	児童発達支援	25	7.4%	1	25.0%	10	16.4%	14	5.5%
	不明	122	36.0%	0	0.0%	9	14.8%	102	40.0%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

知っている福祉サービス(全体)



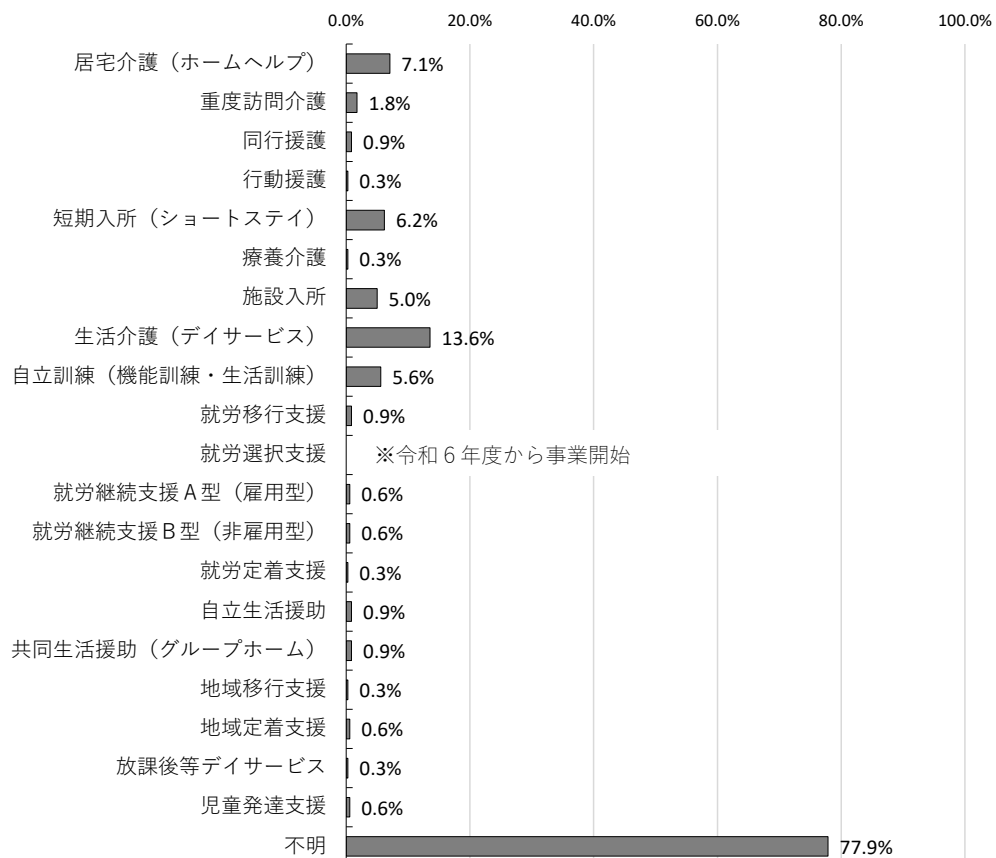
知っている福祉サービス(年代別)



○ 利用したことがある福祉サービス【MA】

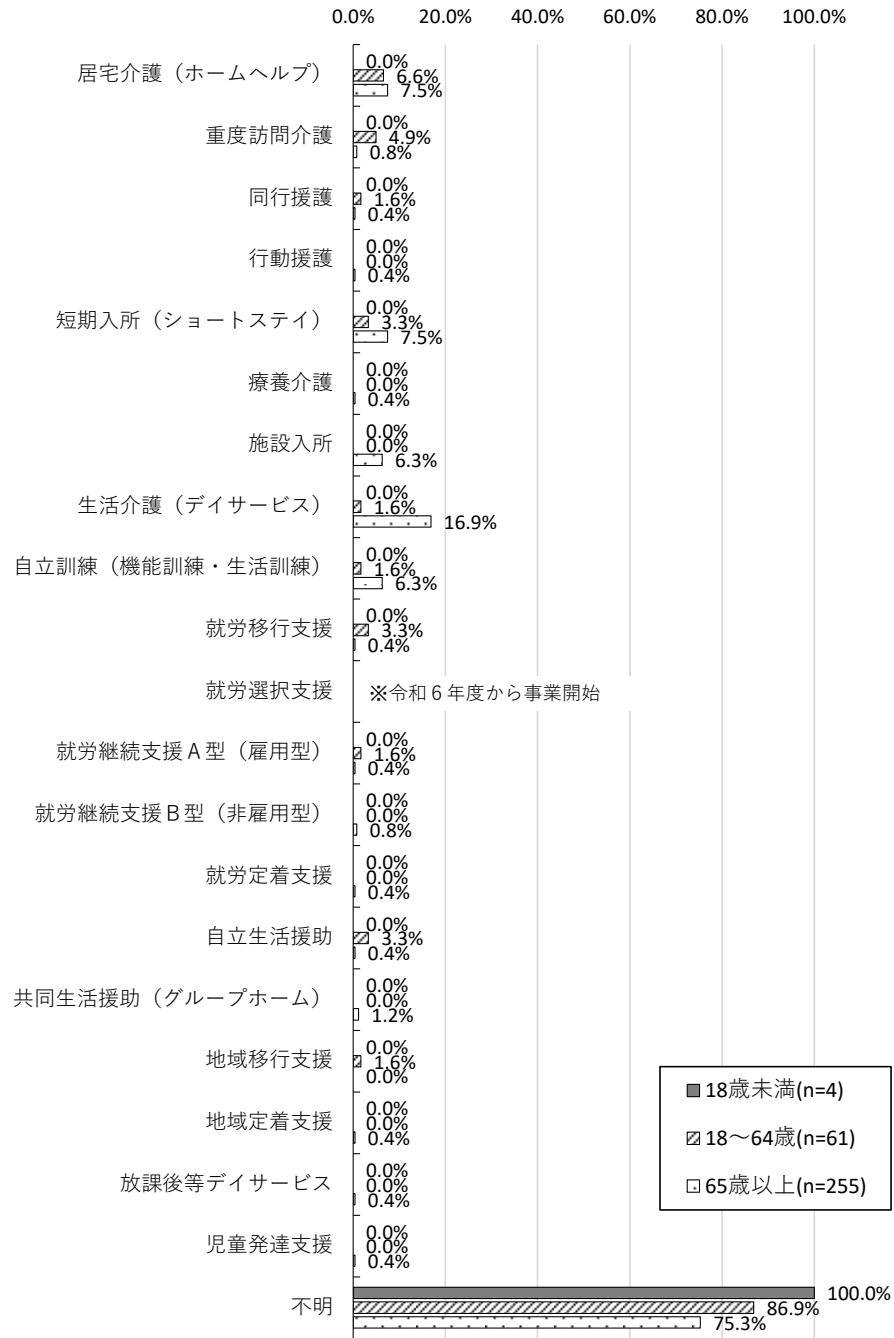
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	24	7.1%	0	0.0%	4	6.6%	19	7.5%
2	重度訪問介護	6	1.8%	0	0.0%	3	4.9%	2	0.8%
3	同行援護	3	0.9%	0	0.0%	1	1.6%	1	0.4%
4	行動援護	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
5	短期入所（ショートステイ）	21	6.2%	0	0.0%	2	3.3%	19	7.5%
6	療養介護	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
7	施設入所	17	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	6.3%
8	生活介護（デイサービス）	46	13.6%	0	0.0%	1	1.6%	43	16.9%
9	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	19	5.6%	0	0.0%	1	1.6%	16	6.3%
10	就労移行支援	3	0.9%	0	0.0%	2	3.3%	1	0.4%
11	就労選択支援 【令和6年度から事業開始】	-	-	-	-	-	-	-	-
12	就労継続支援A型（雇用型）	2	0.6%	0	0.0%	1	1.6%	1	0.4%
13	就労継続支援B型（非雇用型）	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
14	就労定着支援	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
15	自立生活援助	3	0.9%	0	0.0%	2	3.3%	1	0.4%
16	共同生活援助（グループホーム）	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%
17	地域移行支援	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
18	地域定着支援	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
19	放課後等デイサービス	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
20	児童発達支援	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
	不明	264	77.9%	4	100.0%	53	86.9%	192	75.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

利用したことがある福祉サービス(全体)



(n=339)

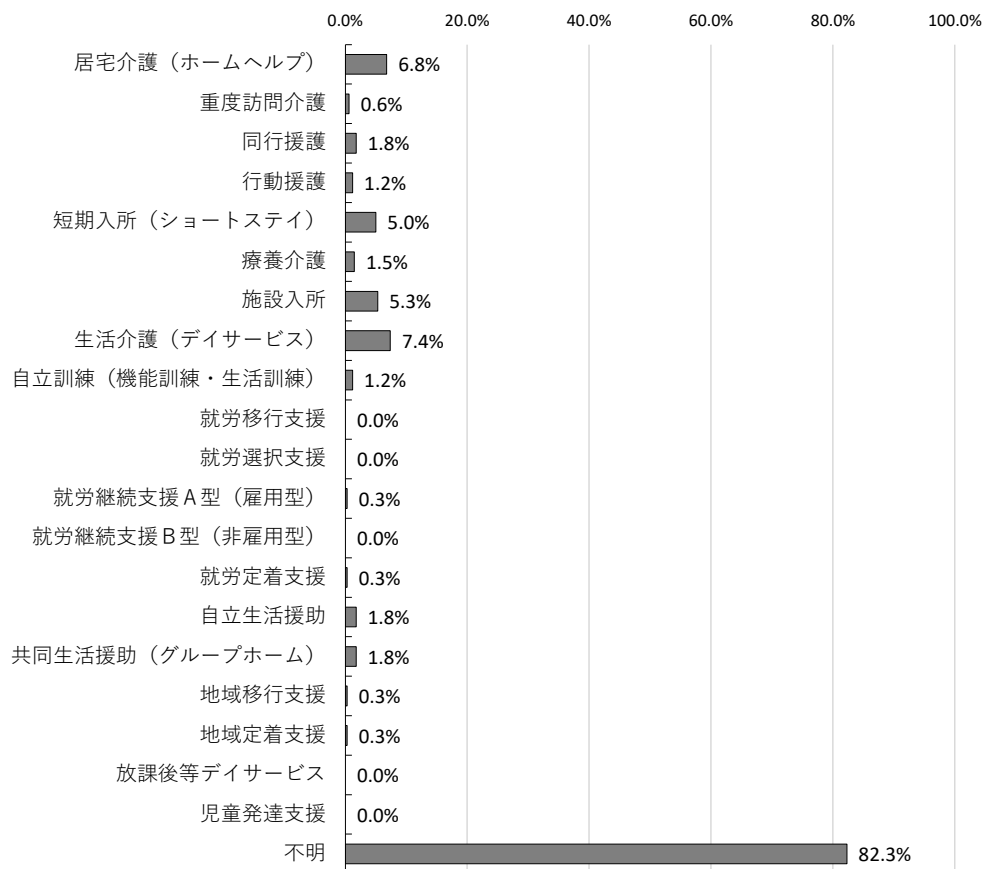
利用したことがある福祉サービス(年代別)



○ 今後利用したい福祉サービス【MA】

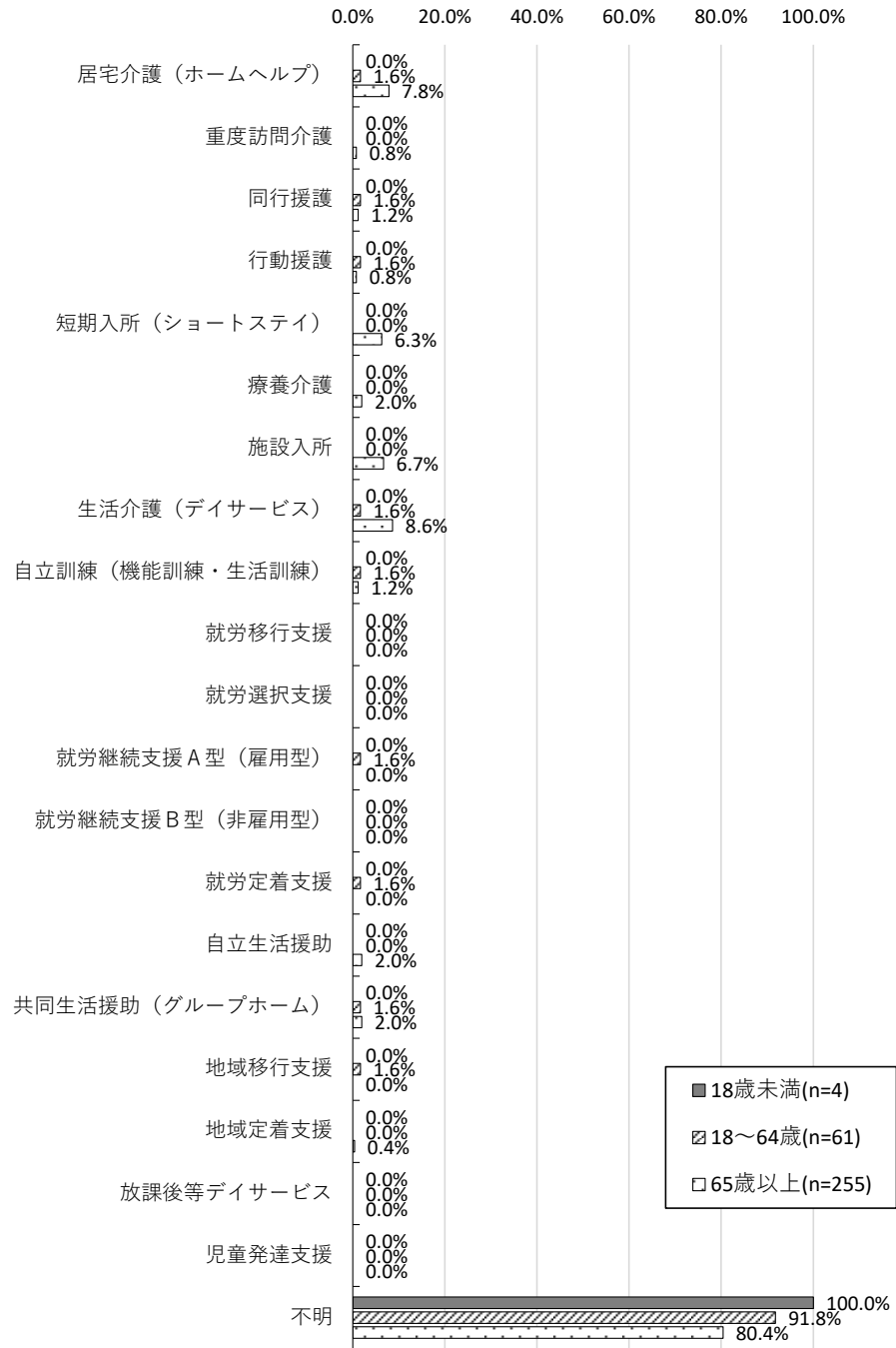
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	23	6.8%	0	0.0%	1	1.6%	20	7.8%
2	重度訪問介護	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
3	同行援護	6	1.8%	0	0.0%	1	1.6%	3	1.2%
4	行動援護	4	1.2%	0	0.0%	1	1.6%	2	0.8%
5	短期入所（ショートステイ）	17	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	6.3%
6	療養介護	5	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.0%
7	施設入所	18	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	17	6.7%
8	生活介護（デイサービス）	25	7.4%	0	0.0%	1	1.6%	22	8.6%
9	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	4	1.2%	0	0.0%	1	1.6%	3	1.2%
10	就労移行支援	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	就労選択支援	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12	就労継続支援A型（雇用型）	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
13	就労継続支援B型（非雇用型）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
14	就労定着支援	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
15	自立生活援助	6	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.0%
16	共同生活援助（グループホーム）	6	1.8%	0	0.0%	1	1.6%	5	2.0%
17	地域移行支援	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
18	地域定着支援	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
19	放課後等デイサービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20	児童発達支援	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	279	82.3%	4	100.0%	56	91.8%	205	80.4%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

今後利用したい福祉サービス(全体)



(n=339)

今後利用したい福祉サービス(年代別)



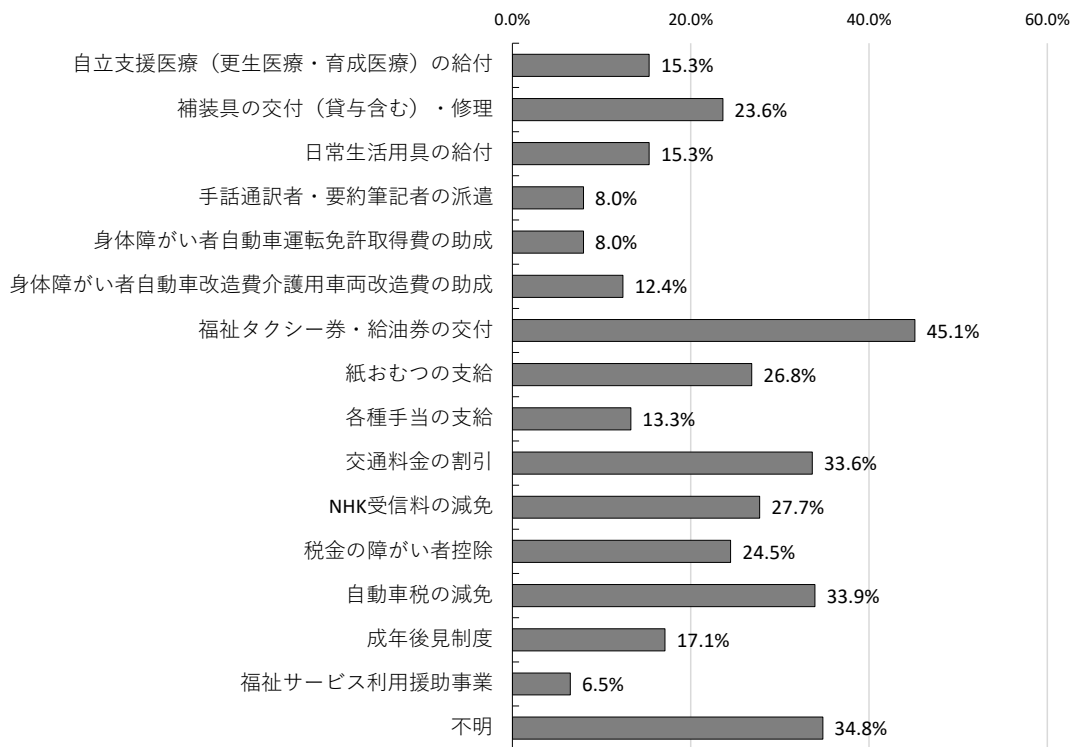
■ 福祉制度

問18 次にあげた福祉制度の中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ものはどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

○ 知っている福祉制度【MA】

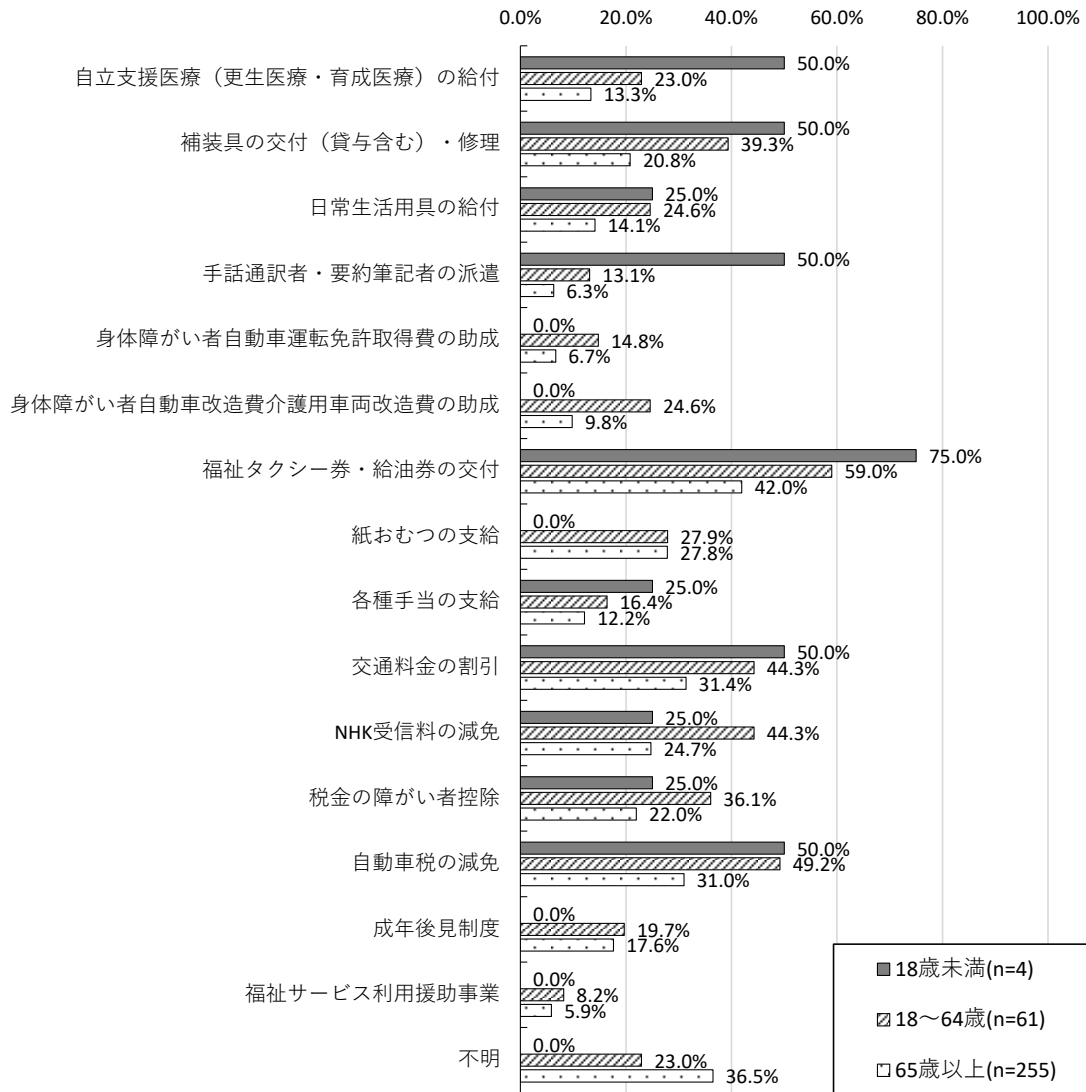
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	自立支援医療（更生医療・育成医療）の給付	52	15.3%	2	50.0%	14	23.0%	34	13.3%
2	補装具の交付（貸与含む）・修理	80	23.6%	2	50.0%	24	39.3%	53	20.8%
3	日常生活用具の給付	52	15.3%	1	25.0%	15	24.6%	36	14.1%
4	手話通訳者・要約筆記者の派遣	27	8.0%	2	50.0%	8	13.1%	16	6.3%
5	身体障がい者自動車運転免許取得費の助成	27	8.0%	0	0.0%	9	14.8%	17	6.7%
6	身体障がい者自動車改造費介護用車両改造費の助成	42	12.4%	0	0.0%	15	24.6%	25	9.8%
7	福祉タクシー券・給油券の交付	153	45.1%	3	75.0%	36	59.0%	107	42.0%
8	紙おむつの支給	91	26.8%	0	0.0%	17	27.9%	71	27.8%
9	各種手当の支給	45	13.3%	1	25.0%	10	16.4%	31	12.2%
10	交通料金の割引	114	33.6%	2	50.0%	27	44.3%	80	31.4%
11	NHK受信料の減免	94	27.7%	1	25.0%	27	44.3%	63	24.7%
12	税金の障がい者控除	83	24.5%	1	25.0%	22	36.1%	56	22.0%
13	自動車税の減免	115	33.9%	2	50.0%	30	49.2%	79	31.0%
14	成年後見制度	58	17.1%	0	0.0%	12	19.7%	45	17.6%
15	福祉サービス利用援助事業	22	6.5%	0	0.0%	5	8.2%	15	5.9%
	不明	118	34.8%	0	0.0%	14	23.0%	93	36.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

知っている福祉制度(全体)



(n=339)

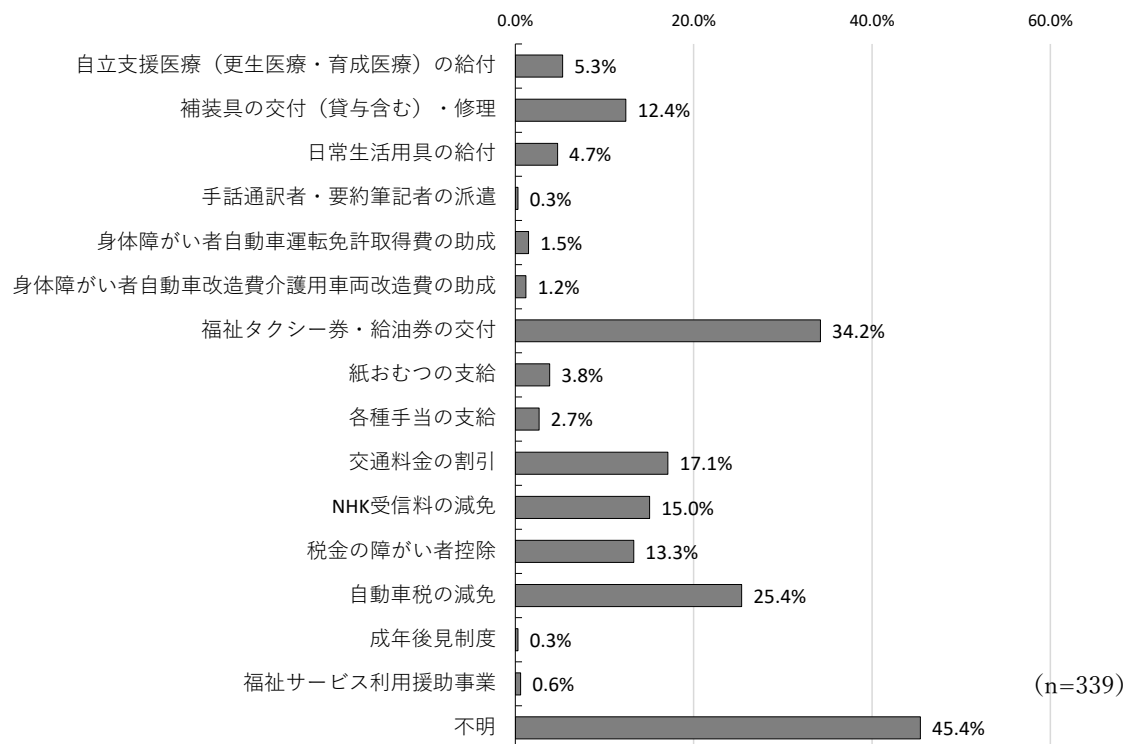
知っている福祉制度(年代別)



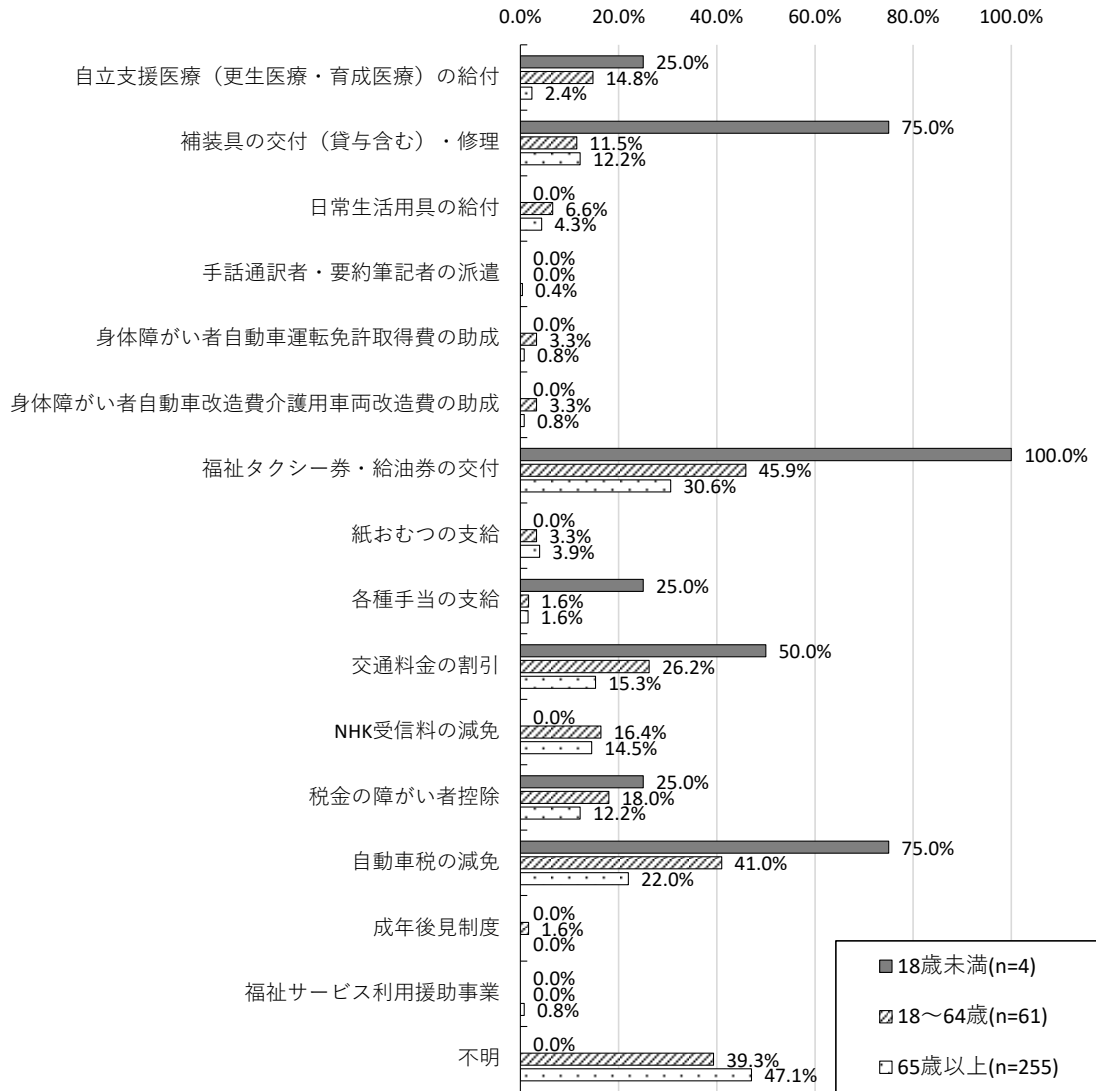
○ 利用したことがある福祉制度【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	自立支援医療（更生医療・育成医療）の給付	18	5.3%	1	25.0%	9	14.8%	6	2.4%
2	補装具の交付（貸与含む）・修理	42	12.4%	3	75.0%	7	11.5%	31	12.2%
3	日常生活用具の給付	16	4.7%	0	0.0%	4	6.6%	11	4.3%
4	手話通訳者・要約筆記者の派遣	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
5	身体障がい者自動車運転免許取得費の助成	5	1.5%	0	0.0%	2	3.3%	2	0.8%
6	身体障がい者自動車改造費介護用車両改造費の助成	4	1.2%	0	0.0%	2	3.3%	2	0.8%
7	福祉タクシー券・給油券の交付	116	34.2%	4	100.0%	28	45.9%	78	30.6%
8	紙おむつの支給	13	3.8%	0	0.0%	2	3.3%	10	3.9%
9	各種手当の支給	9	2.7%	1	25.0%	1	1.6%	4	1.6%
10	交通料金の割引	58	17.1%	2	50.0%	16	26.2%	39	15.3%
11	NHK受信料の減免	51	15.0%	0	0.0%	10	16.4%	37	14.5%
12	税金の障がい者控除	45	13.3%	1	25.0%	11	18.0%	31	12.2%
13	自動車税の減免	86	25.4%	3	75.0%	25	41.0%	56	22.0%
14	成年後見制度	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
15	福祉サービス利用援助事業	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
	不明	154	45.4%	0	0.0%	24	39.3%	120	47.1%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

利用したことがある福祉制度(全体)



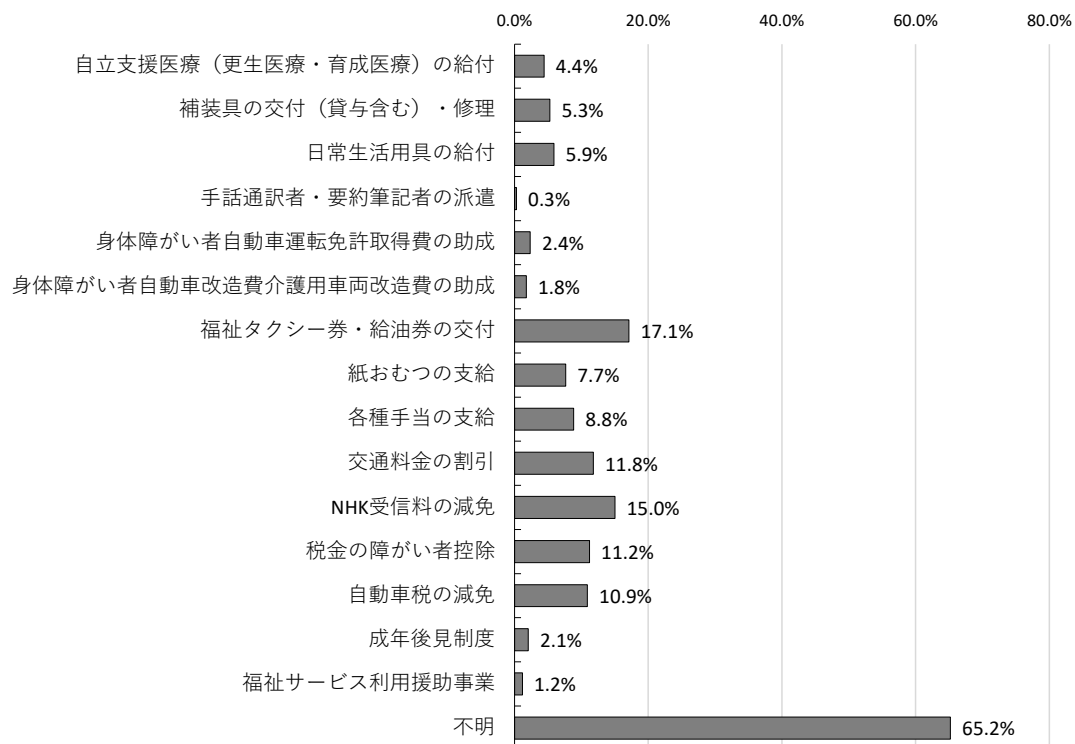
利用したことがある福祉制度(年代別)



○ 今後利用したい福祉制度【MA】

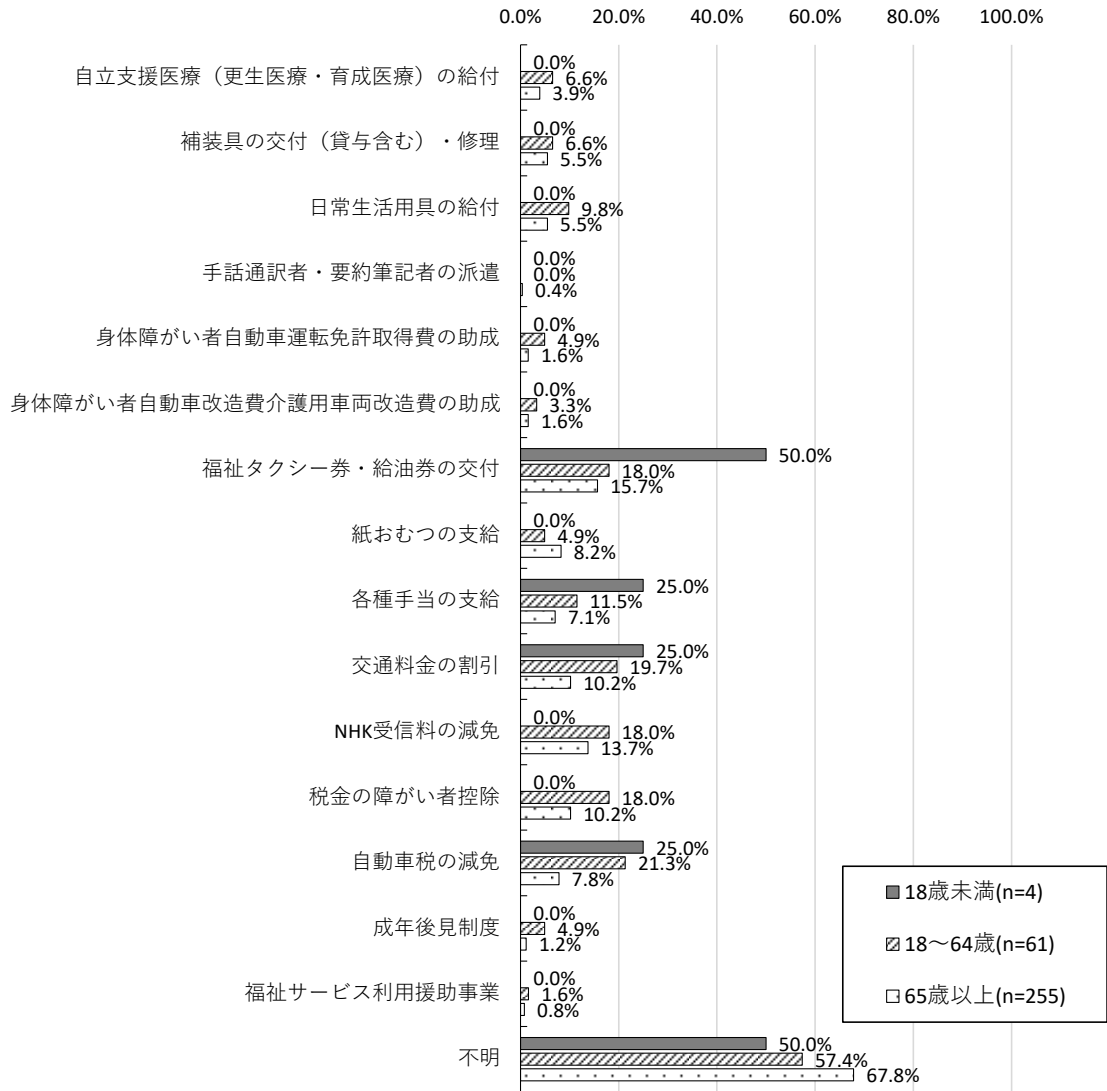
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	自立支援医療（更生医療・育成医療）の給付	15	4.4%	0	0.0%	4	6.6%	10	3.9%
2	補装具の交付（貸与含む）・修理	18	5.3%	0	0.0%	4	6.6%	14	5.5%
3	日常生活用具の給付	20	5.9%	0	0.0%	6	9.8%	14	5.5%
4	手話通訳者・要約筆記者の派遣	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
5	身体障がい者自動車運転免許取得費の助成	8	2.4%	0	0.0%	3	4.9%	4	1.6%
6	身体障がい者自動車改造費介護用車両改造費の助成	6	1.8%	0	0.0%	2	3.3%	4	1.6%
7	福祉タクシー券・給油券の交付	58	17.1%	2	50.0%	11	18.0%	40	15.7%
8	紙おむつの支給	26	7.7%	0	0.0%	3	4.9%	21	8.2%
9	各種手当の支給	30	8.8%	1	25.0%	7	11.5%	18	7.1%
10	交通料金の割引	40	11.8%	1	25.0%	12	19.7%	26	10.2%
11	NHK受信料の減免	51	15.0%	0	0.0%	11	18.0%	35	13.7%
12	税金の障がい者控除	38	11.2%	0	0.0%	11	18.0%	26	10.2%
13	自動車税の減免	37	10.9%	1	25.0%	13	21.3%	20	7.8%
14	成年後見制度	7	2.1%	0	0.0%	3	4.9%	3	1.2%
15	福祉サービス利用援助事業	4	1.2%	0	0.0%	1	1.6%	2	0.8%
	不明	221	65.2%	2	50.0%	35	57.4%	173	67.8%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

今後利用したい福祉制度(全体)



(n=339)

今後利用したい福祉制度(年代別)

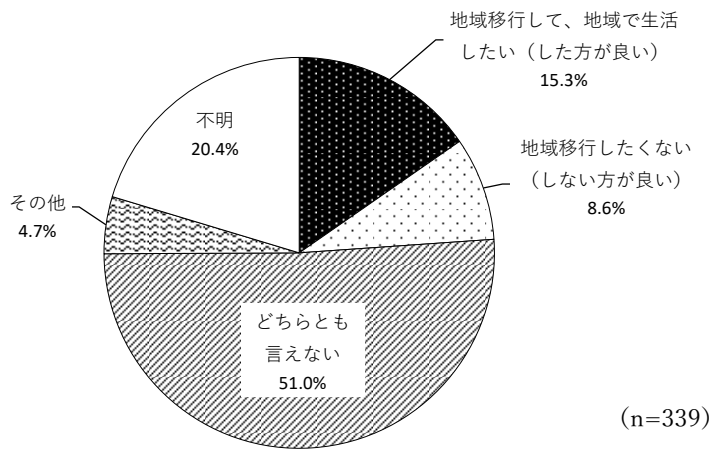


■ 身体障がい者入所施設からの地域移行 【SA】

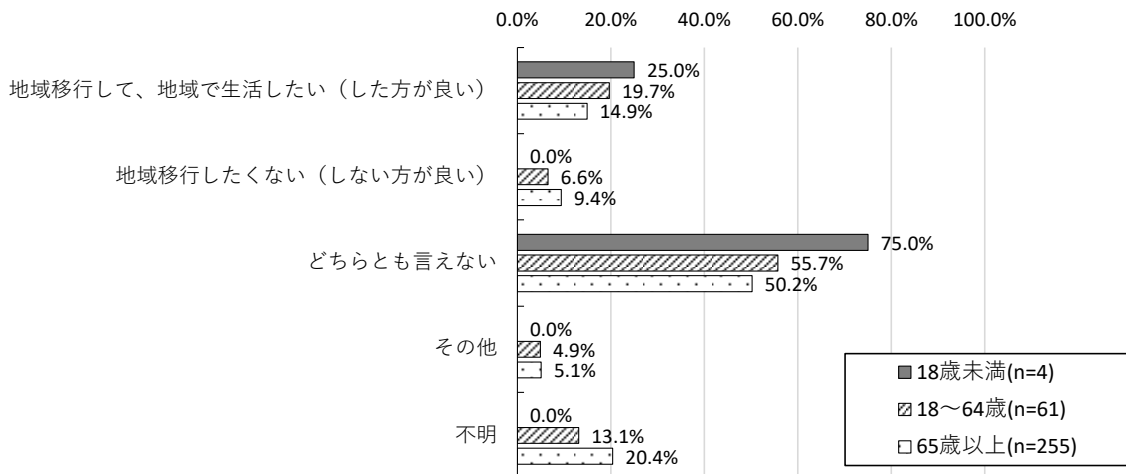
問19 あなたは身体障がい者入所施設からの地域移行(施設を退所して家やグループホームに住み、地域で生活することをいいます。)について、どう思いますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	地域移行して、地域で生活したい(した方が良い)	52	15.3%	1	25.0%	12	19.7%	38	14.9%
2	地域移行したくない(しない方が良い)	29	8.6%	0	0.0%	4	6.6%	24	9.4%
3	どちらとも言えない	173	51.0%	3	75.0%	34	55.7%	128	50.2%
4	その他	16	4.7%	0	0.0%	3	4.9%	13	5.1%
	不明	69	20.4%	0	0.0%	8	13.1%	52	20.4%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

身体障がい者入所施設からの地域移行(全体)



身体障がい者入所施設からの地域移行(年代別)



■ 身体障がい者グループホーム

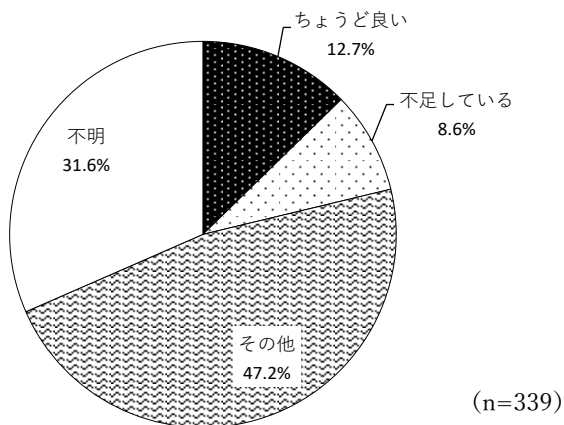
問 20 山形市内の身体障がい者グループホームの数及び定員数について、どう思いますか。(それぞれ1つだけ○印) 【SA n=339】

○ グループホームの数 【SA】

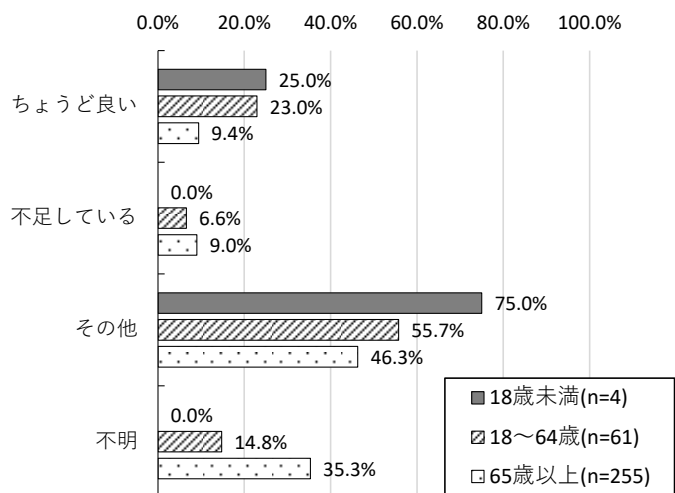
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	43	12.7%	1	25.0%	14	23.0%	24	9.4%
2	不足している	29	8.6%	0	0.0%	4	6.6%	23	9.0%
3	その他	160	47.2%	3	75.0%	34	55.7%	118	46.3%
	不明	107	31.6%	0	0.0%	9	14.8%	90	35.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

2 不足している：具体的に いつ体が動かなくなるかわからないので悪くなった時にすみやかに入居できるようにしてほしい/入所者希望人数を満たしていない/身体障がいのグループホームが少ない/10-15件/入れない人が多いと聞く

グループホーム数(全体)



グループホーム数(年代別)

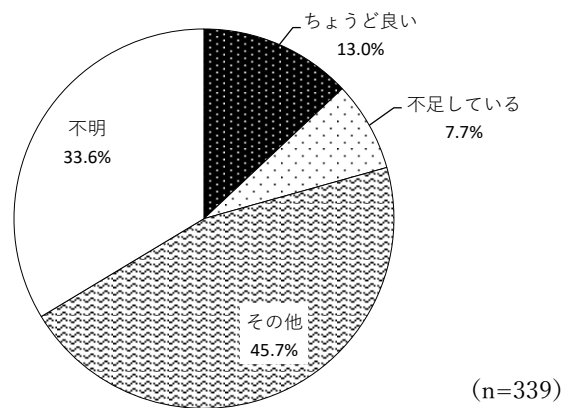


○ グループホームの定員数【SA】

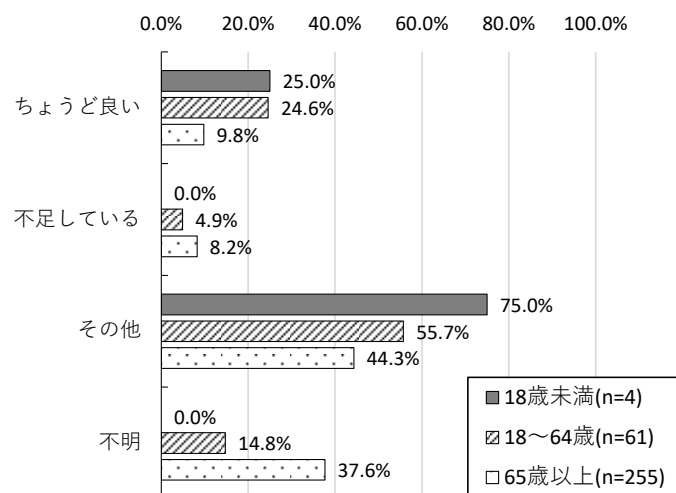
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	44	13.0%	1	25.0%	15	24.6%	25	9.8%
2	不足している	26	7.7%	0	0.0%	3	4.9%	21	8.2%
3	その他	155	45.7%	3	75.0%	34	55.7%	113	44.3%
	不明	114	33.6%	0	0.0%	9	14.8%	96	37.6%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

2 不足している：具体的に 夜勤の人数が足りない/休日に看護人の方がいない/入所者希望人数を満たしていない/ホームごとにバラつきがあるように思うから/入居しようと見学している時車椅子の定員が決まっていたり入居できなかった/10-15人

グループホームの定員数(全体)



グループホームの定員数(年代別)



■ 身体障がい者通所事業所

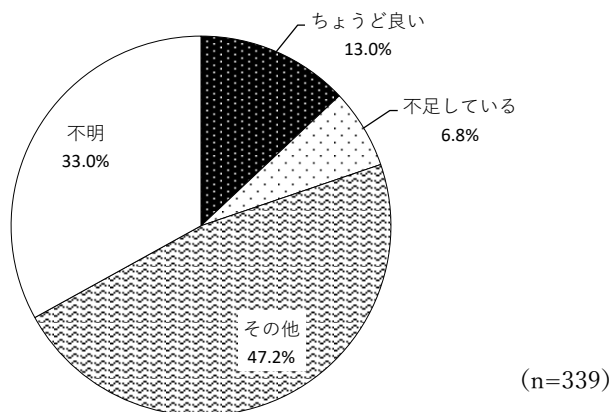
問21 山形市内の身体障がい者通所事業所の数及び定員数について、どう思いますか。（それぞれ1つだけ○印）

○ 障がい者通所事業所の数【SA】

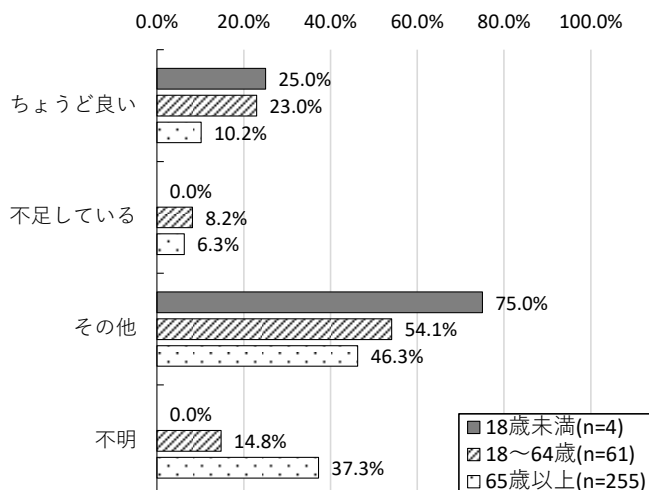
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	44	13.0%	1	25.0%	14	23.0%	26	10.2%
2	不足している	23	6.8%	0	0.0%	5	8.2%	16	6.3%
3	その他	160	47.2%	3	75.0%	33	54.1%	118	46.3%
	不明	112	33.0%	0	0.0%	9	14.8%	95	37.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

2 不足している：具体的に 毎週2ヶ所の施設を入浴で利用させて頂いて助かっていますが、短期入所を希望したとき、その2つの施設での短期入所では、夜間の看護師がいないため夜の胃ろうができないと言われました。きざみ食を食べての胃ろうを望んでいますが、胃ろうのみだとかわいそうだなと思い預けるのを断念しました。これから預けたいと思うとき、気軽に預けられると良いのになあーと思います。市内だと2ヶ所のみと言われました。胃ろうだと制限されてしまうのが残念です/入所者希望人数を満たしていない

障がい者通所事業所の数(全体)



障がい者通所事業所の数(年代別)

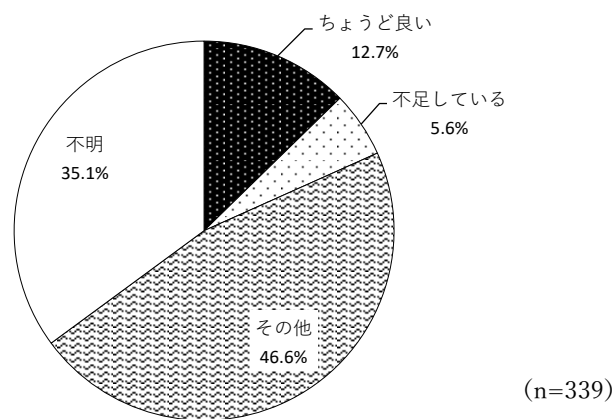


○ 障がい者通所事業所の定員数【SA】

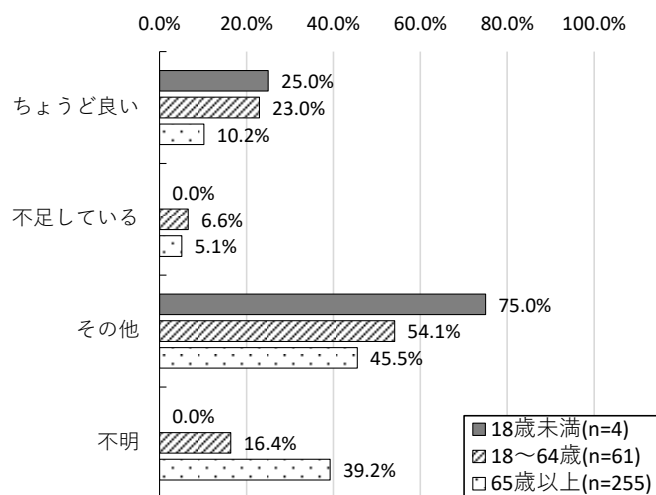
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	43	12.7%	1	25.0%	14	23.0%	26	10.2%
2	不足している	19	5.6%	0	0.0%	4	6.6%	13	5.1%
3	その他	158	46.6%	3	75.0%	33	54.1%	116	45.5%
	不明	119	35.1%	0	0.0%	10	16.4%	100	39.2%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

2 不足している：具体的に 入所者希望人数を満たしていない/10～20人

障がい者通所事業所の定員数(全体)



障がい者通所事業所の定員数(年代別)



(5)医療・保健サービスについて

機能訓練・自立訓練・社会復帰のための訓練（リハビリテーション）を受けている場所について聞いたところ、「受けていない」が56.0%と最も高く過半数を占めた。具体的な回答の中では「病院・診療所」が13.0%と最も高く、次いで「高齢者（老人保健）福祉施設」（10.6%）、「自宅で自主的に実施」（7.1%）などとなっている。

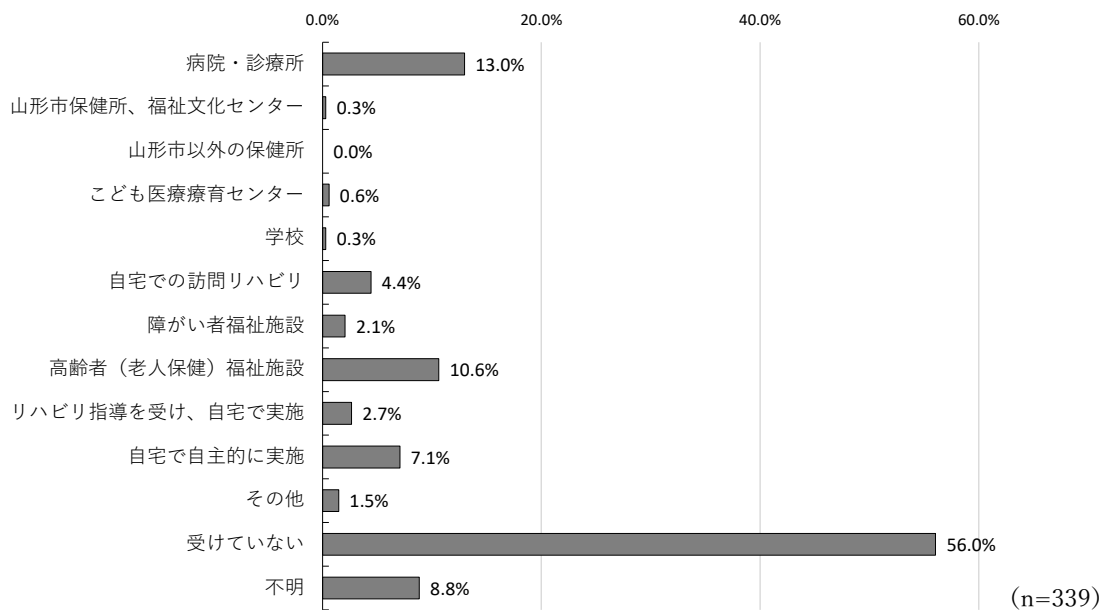
訓練（リハビリテーション）を受けていない人にその理由を聞いたところ、「日常生活は自立しており支障がない」が75.8%と最も高くなっている。

■ 訓練(リハビリテーション)の場所【MA】

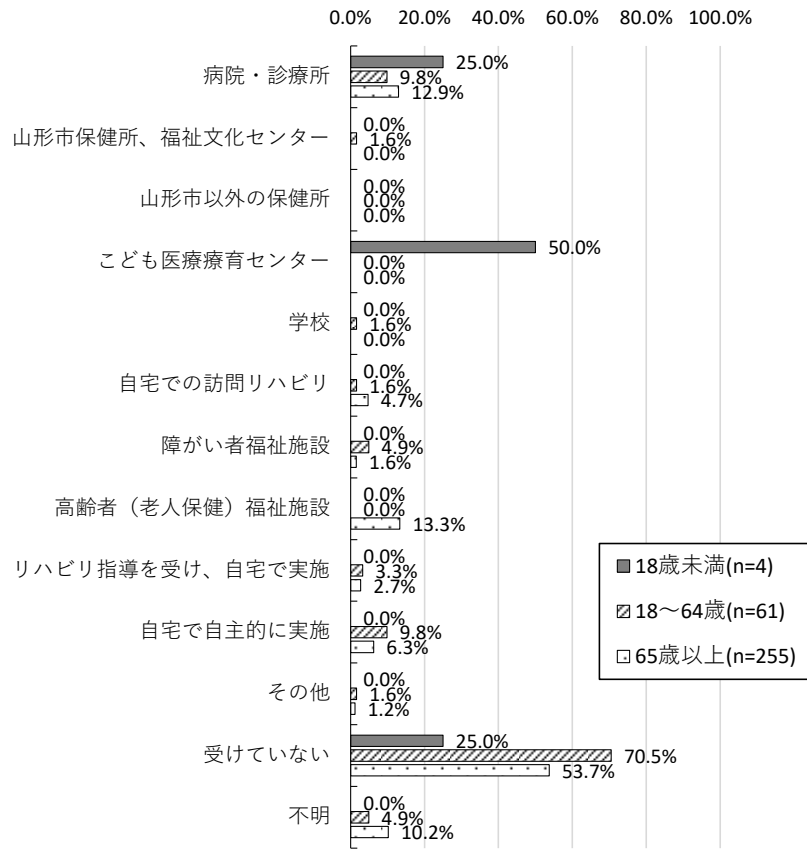
問22 あなたは、機能訓練・自立訓練・社会復帰のための訓練(リハビリテーション)をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	病院・診療所	44	13.0%	1	25.0%	6	9.8%	33	12.9%
2	山形市保健所、福祉文化センター	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
3	山形市以外の保健所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	こども医療療育センター	2	0.6%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	学校	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
6	自宅での訪問リハビリ	15	4.4%	0	0.0%	1	1.6%	12	4.7%
7	障がい者福祉施設	7	2.1%	0	0.0%	3	4.9%	4	1.6%
8	高齢者（老人保健）福祉施設	36	10.6%	0	0.0%	0	0.0%	34	13.3%
9	リハビリ指導を受け、自宅で実施	9	2.7%	0	0.0%	2	3.3%	7	2.7%
10	自宅で自主的に実施	24	7.1%	0	0.0%	6	9.8%	16	6.3%
11	その他	5	1.5%	0	0.0%	1	1.6%	3	1.2%
12	受けていない	190	56.0%	1	25.0%	43	70.5%	137	53.7%
	不明	30	8.8%	0	0.0%	3	4.9%	26	10.2%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

訓練(リハビリテーション)の場所(全体)



訓練(リハビリテーション)の場所(年代別)

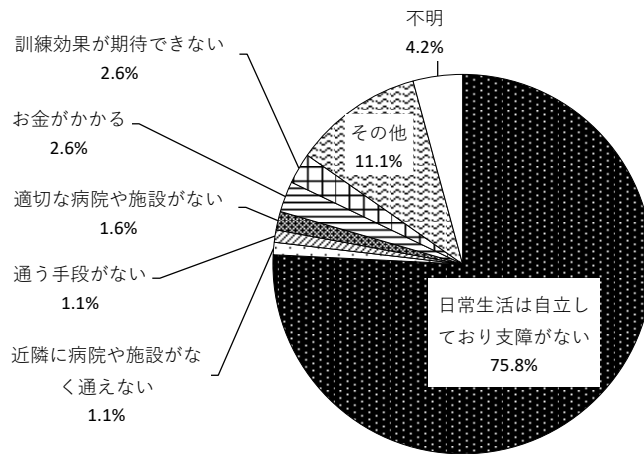


■ 訓練(リハビリテーション)を受けていない理由【SA】

問23 問22で「12」を回答した方におたずねします。訓練(リハビリテーション)を受けていない主な理由は何ですか。(1つだけ○印)

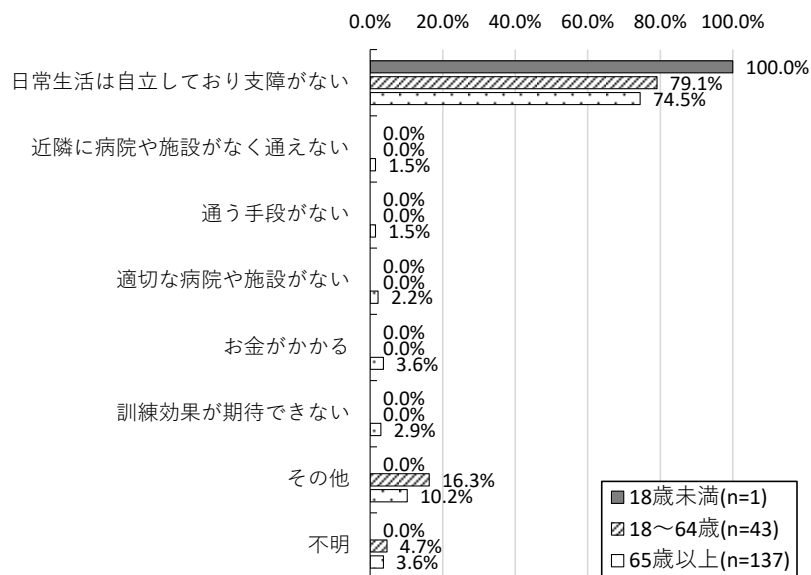
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	日常生活は自立しており支障がない	144	75.8%	1	100.0%	34	79.1%	102	77.8%
2	近隣に病院や施設がなく通えない	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.0%
3	通う手段がない	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.0%
4	適切な病院や施設がない	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.0%
5	お金がかかる	5	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.0%
6	訓練効果が期待できない	5	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	11.1%
7	その他	21	11.1%	0	0.0%	7	16.3%	14	0.0%
	不明	8	4.2%	0	0.0%	2	4.7%	5	11.1%
	全体	190	100.0%	1	100.0%	43	100.0%	137	100.0%

訓練(リハビリテーション)を受けていない理由(全体)



(n=190)

訓練(リハビリテーション)を受けていない理由(年代別)



(6)就労について

現在の就労状況については、回答者の年齢構成もあり(75%以上が 65 歳以上)、「働いていない」(74.9%)が「働いている」(21.8%)を 53.1 ポイント差と大きく上回った。

働いている人に就労形態を聞いたところ、「正社員、正職員」が 32.4%と最も高く、次いで「臨時・日雇い・パート・嘱託・アルバイト」(28.4%)、「自営(農業も含む)」(27.0%)などとなった。また、通勤手段については、「自分の運転する車など」が 60.8%と最も高く、次いで「徒歩・自転車」(9.5%)などとなっているほか、「その他」(8.1%)も一定の割合を占めている。現在の仕事をどのようにして見つけたかについては、「公共職業安定所(ハローワーク)」が 21.6%で最も高く、次いで「自分や家族で探した」(17.6%)、「親戚や知人などの紹介」(10.8%)などとなっているほか、「その他」(27.0%)も一定の割合を占めている。仕事をするうえでの不安や不満については、「特にない」が 41.9%で最も高いが、具体的な回答の中では「収入が少ない」(27.0%)が最も高く、「障がいに対する配慮や意識が低い」(9.5%)が続く。

一方、働いていない人に仕事をしていない理由を聞いたところ、「高齢のため」が 71.7%と最も高く、次いで「病気のため(入院中を含む)」(16.1%)、「重度の障がいのため」(12.6%)などとなった。今後の活動や将来の進路については、「特にない・まだよくわからない」が 27.6%と最も高く、「就労などの希望はない」(18.9%)が続いた。

働き続ける(または将来働く)ために特に必要だと思うことは、「特にない・まだよくわからない」が 31.6%と最も高いが、具体的な回答の中では「障がいや病気に対する理解や配慮」が 16.2%で最も高く、次いで「自分に合った仕事である」(15.9%)、「通勤が自分でできる」(12.4%)などとなっている。

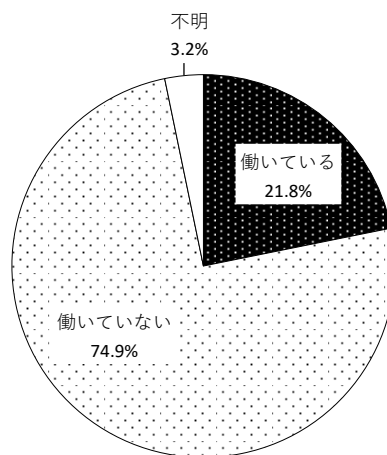
- ◎ 身体障がい者の就労は、知的障がい者や精神障がい者に比べ、一般就労が多く、正社員の割合も高くなっているが、一方で、「収入が少ない」という不満や、今後働き続ける(または将来働く)ためには「障がいや病気に対する理解や配慮」や「自分に合った仕事である」などのニーズも高く、よりきめ細やかな就労支援が必要となっている。

■ 就労の有無【SA】

問 24 あなたは現在、働いていますか。(1つだけ○印)

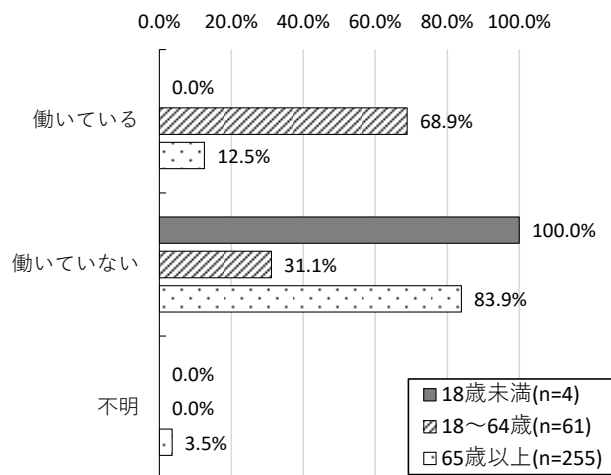
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	働いている	74	21.8%	0	0.0%	42	68.9%	32	12.5%
2	働いていない	254	74.9%	4	100.0%	19	31.1%	214	83.9%
	不明	11	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	9	3.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

就労の有無(全体)



(n=339)

就労の有無(年代別)

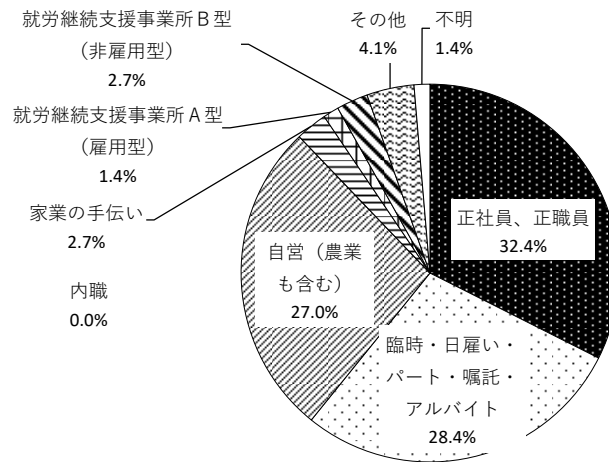


■ 就労形態【SA】

問25 問24で「1」を回答した方におたずねします。どのような形態で働いていますか。(1つだけ
○印)

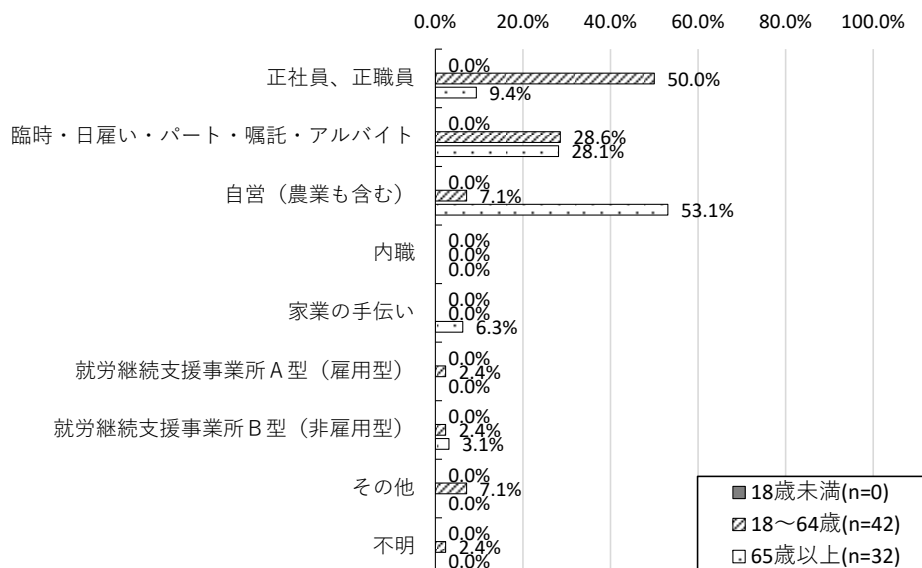
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	正社員、正職員	24	32.4%	0	0.0%	21	50.0%	3	9.4%
2	臨時・日雇い・パート・嘱託・アルバイト	21	28.4%	0	0.0%	12	28.6%	9	28.1%
3	自営（農業も含む）	20	27.0%	0	0.0%	3	7.1%	17	53.1%
4	内職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	家業の手伝い	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.3%
6	就労継続支援事業所A型（雇用型）	1	1.4%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
7	就労継続支援事業所B型（非雇用型）	2	2.7%	0	0.0%	1	2.4%	1	3.1%
8	その他	3	4.1%	0	0.0%	3	7.1%	0	0.0%
	不明	1	1.4%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
	全体	74	100.0%	0	0.0%	42	100.0%	32	100.0%

就労形態(全体)



(n=74)

就労形態(年代別)

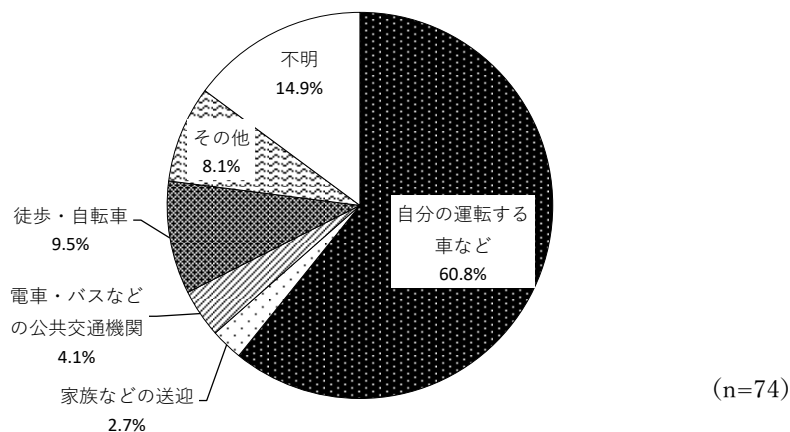


■ 通勤手段【SA】

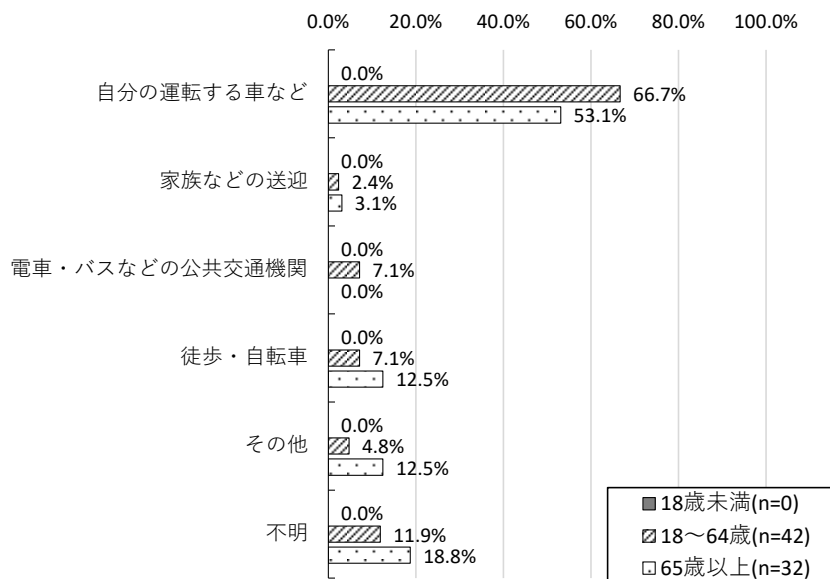
問26 問24で「1」を回答した方におたずねします。通勤手段は主に何ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	自分の運転する車など	45	60.8%	0	0.0%	28	66.7%	17	53.1%
2	家族などの送迎	2	2.7%	0	0.0%	1	2.4%	1	3.1%
3	電車・バスなどの公共交通機関	3	4.1%	0	0.0%	3	7.1%	0	0.0%
4	徒歩・自転車	7	9.5%	0	0.0%	3	7.1%	4	12.5%
5	その他	6	8.1%	0	0.0%	2	4.8%	4	12.5%
	不明	11	14.9%	0	0.0%	5	11.9%	6	18.8%
	全体	74	100.0%	0	0.0%	42	100.0%	32	100.0%

通勤手段(全体)



通勤手段(年代別)

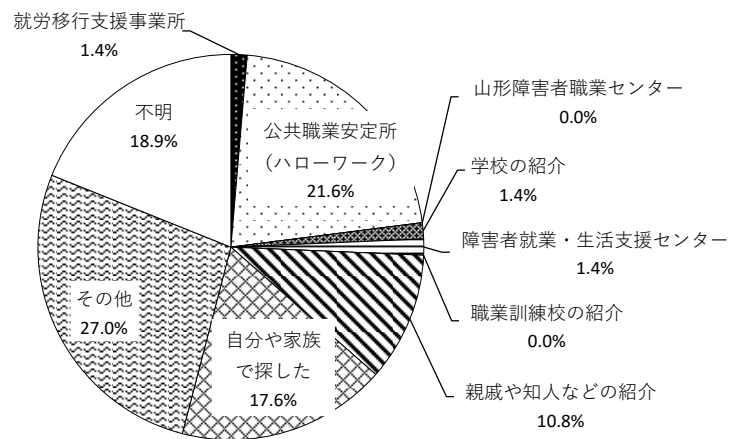


■ 現在の仕事の伝手【SA】

問27 問24で「1」を回答した方におたずねします。現在の仕事はどのようにして見つけましたか。
(1つだけ○印)

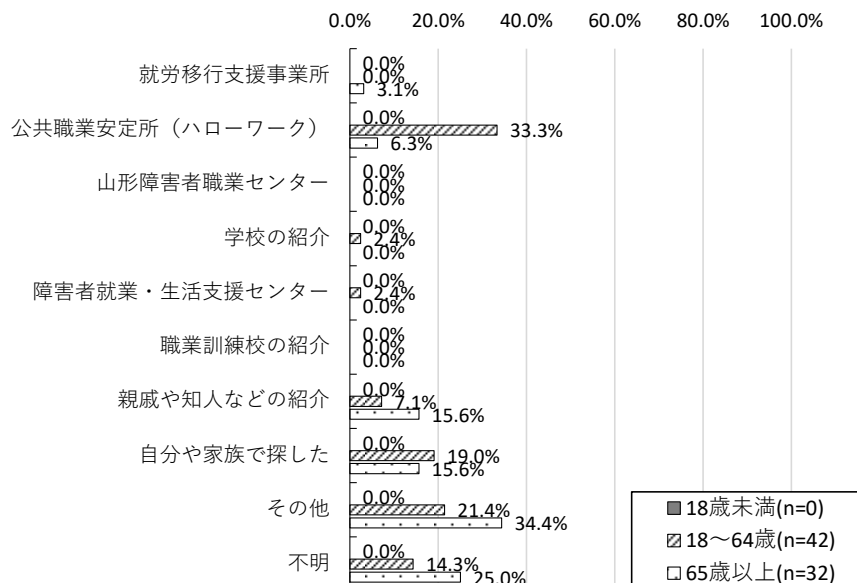
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	就労移行支援事業所	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
2	公共職業安定所（ハローワーク）	16	21.6%	0	0.0%	14	33.3%	2	6.3%
3	山形障害者職業センター	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	学校の紹介	1	1.4%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
5	障害者就業・生活支援センター	1	1.4%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
6	職業訓練校の紹介	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	親戚や知人などの紹介	8	10.8%	0	0.0%	3	7.1%	5	15.6%
8	自分や家族で探した	13	17.6%	0	0.0%	8	19.0%	5	15.6%
9	その他	20	27.0%	0	0.0%	9	21.4%	11	34.4%
	不明	14	18.9%	0	0.0%	6	14.3%	8	25.0%
	全体	74	100.0%	0	0.0%	42	100.0%	32	100.0%

現在の仕事の伝手(全体)



(n=74)

現在の仕事の伝手(年代別)

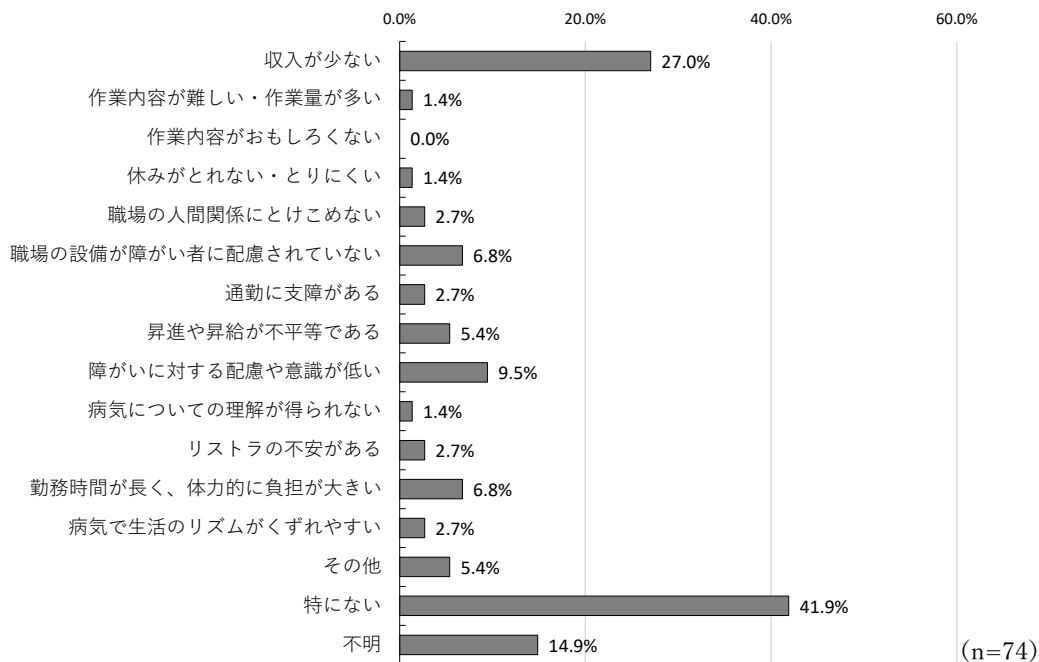


■ 仕事上の不安・不満【MA】

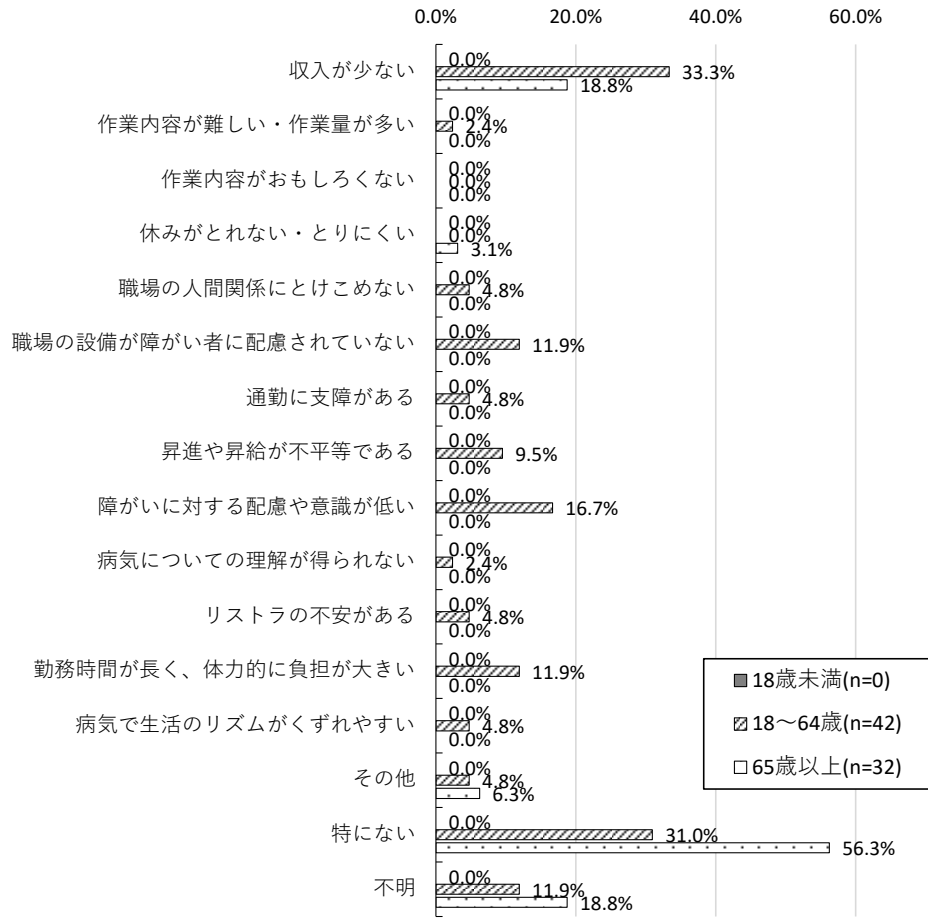
問28 問24で「1」を回答した方におたずねします。あなたは仕事をするうえで不安や不満はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	収入が少ない	20	27.0%	0	0.0%	14	33.3%	6	18.8%
2	作業内容が難しい・作業量が多い	1	1.4%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
3	作業内容がおもしろくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	休みがとれない・とりにくい	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
5	職場の人間関係にとけこめない	2	2.7%	0	0.0%	2	4.8%	0	0.0%
6	職場の設備が障がい者に配慮されていない	5	6.8%	0	0.0%	5	11.9%	0	0.0%
7	通勤に支障がある	2	2.7%	0	0.0%	2	4.8%	0	0.0%
8	昇進や昇給が不平等である	4	5.4%	0	0.0%	4	9.5%	0	0.0%
9	障がいに対する配慮や意識が低い	7	9.5%	0	0.0%	7	16.7%	0	0.0%
10	病気についての理解が得られない	1	1.4%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
11	リストラの不安がある	2	2.7%	0	0.0%	2	4.8%	0	0.0%
12	勤務時間が長く、体力的に負担が大きい	5	6.8%	0	0.0%	5	11.9%	0	0.0%
13	病気で生活のリズムがくずれやすい	2	2.7%	0	0.0%	2	4.8%	0	0.0%
14	その他	4	5.4%	0	0.0%	2	4.8%	2	6.3%
15	特にない	31	41.9%	0	0.0%	13	31.0%	18	56.3%
	不明	11	14.9%	0	0.0%	5	11.9%	6	18.8%
	全体	74	100.0%	0	0.0%	42	100.0%	32	100.0%

仕事上の不安・不満(全体)



仕事上の不安・不満(年代別)

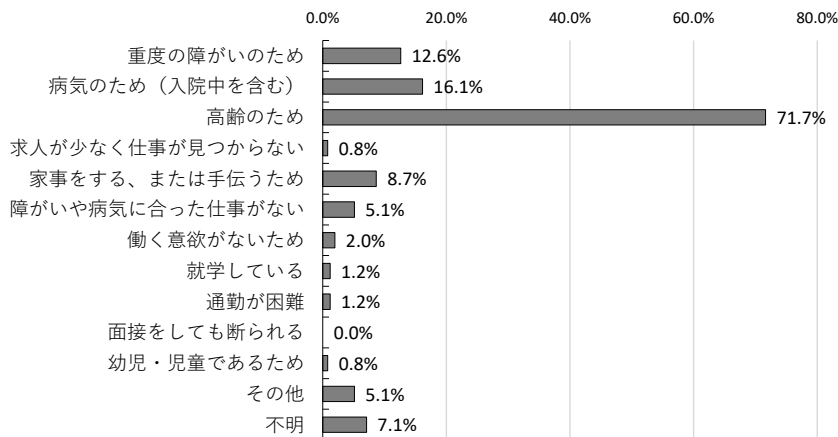


■ 仕事をしない理由【MA】

問29 問24で「2」を回答した方におたずねします。あなたが仕事をしていない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

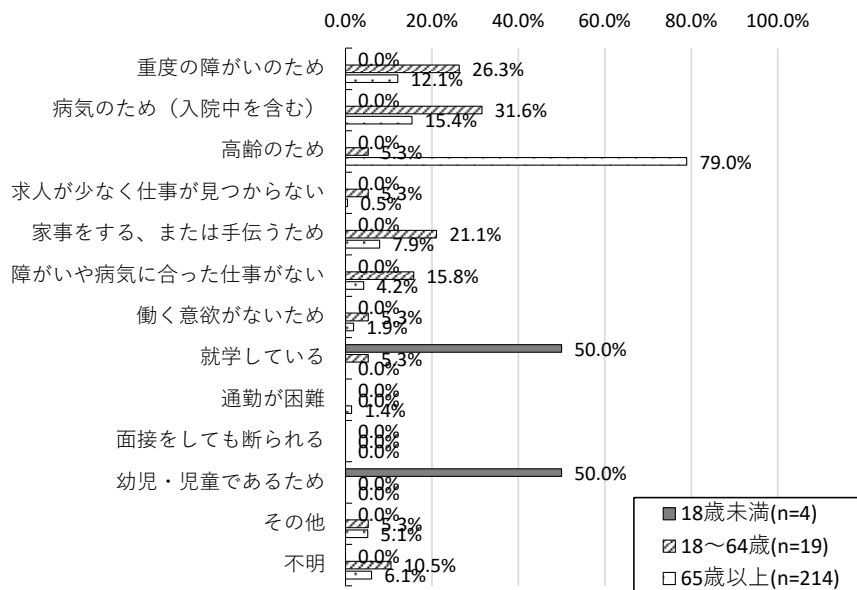
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	重度の障がいのため	32	12.6%	0	0.0%	5	26.3%	26	12.1%
2	病気のため（入院中を含む）	41	16.1%	0	0.0%	6	31.6%	33	15.4%
3	高齢のため	182	71.7%	0	0.0%	1	5.3%	169	79.0%
4	求人が少なく仕事が見つからない	2	0.8%	0	0.0%	1	5.3%	1	0.5%
5	家事をする、または手伝うため	22	8.7%	0	0.0%	4	21.1%	17	7.9%
6	障がいや病気に合った仕事がない	13	5.1%	0	0.0%	3	15.8%	9	4.2%
7	働く意欲がないため	5	2.0%	0	0.0%	1	5.3%	4	1.9%
8	就学している	3	1.2%	2	50.0%	1	5.3%	0	0.0%
9	通勤が困難	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.4%
10	面接をしても断られる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	幼児・児童であるため	2	0.8%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
12	その他	13	5.1%	0	0.0%	1	5.3%	11	5.1%
	不明	18	7.1%	0	0.0%	2	10.5%	13	6.1%
	全体	254	100.0%	4	100.0%	19	100.0%	214	100.0%

仕事をしない理由(全体)



仕事をしない理由(年代別)

(n=254)

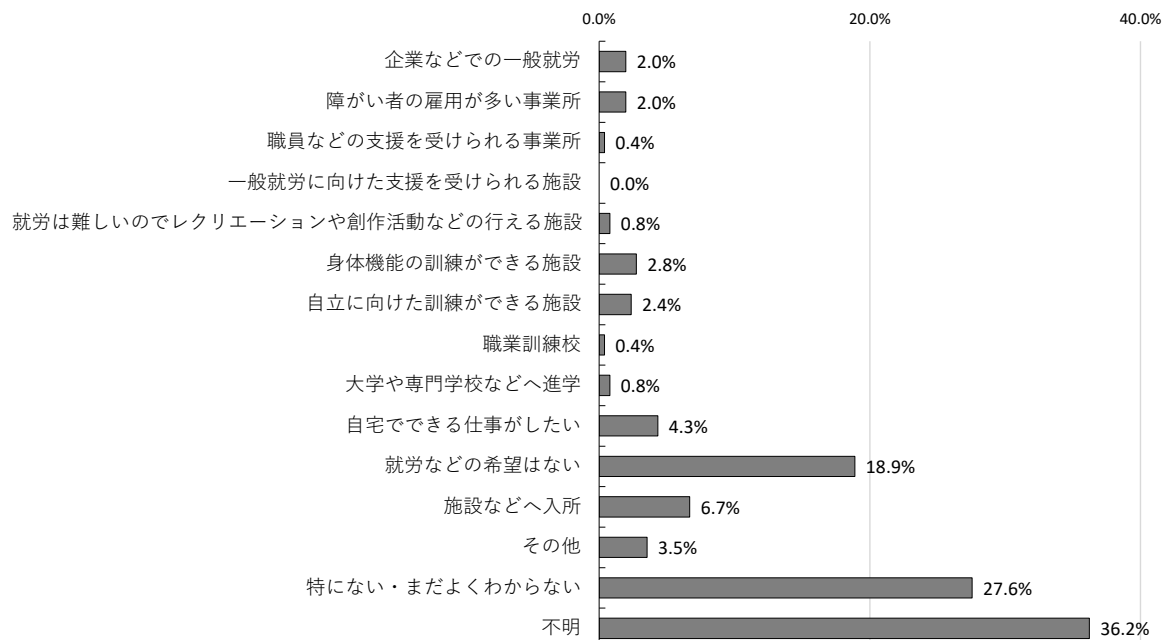


■ 将来の進路・希望【MA】

問30 問24で「2」を回答した方におたずねします。今後の活動や将来の進路について、どのような希望がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

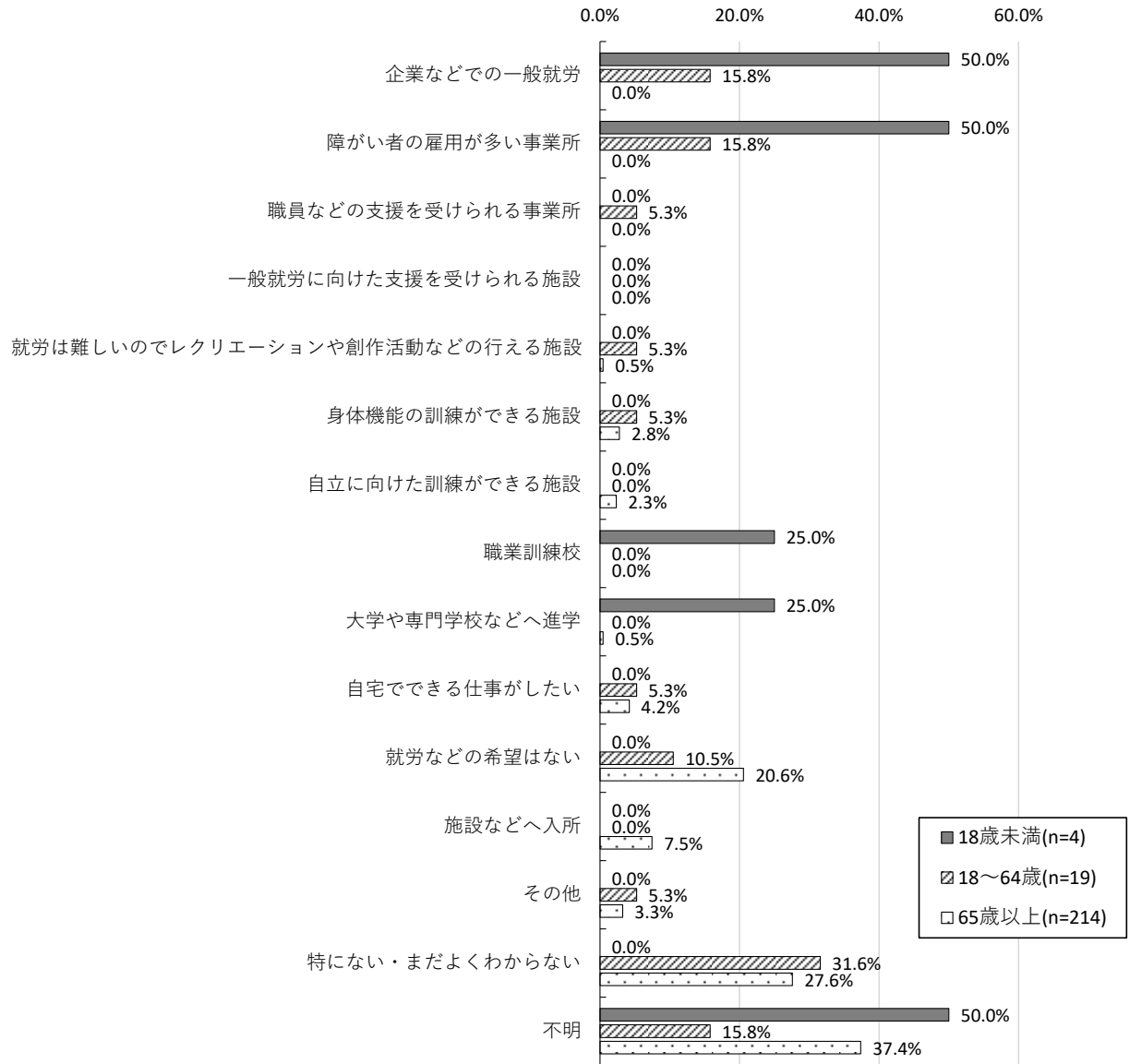
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	企業などでの一般就労	5	2.0%	2	50.0%	3	15.8%	0	0.0%
2	障がいの雇用が多い事業所	5	2.0%	2	50.0%	3	15.8%	0	0.0%
3	職員などの支援を受けられる事業所	1	0.4%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%
4	一般就労に向けた支援を受けられる施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	就労は難しいのでレクリエーションや創作活動などの行える施設	2	0.8%	0	0.0%	1	5.3%	1	0.5%
6	身体機能の訓練ができる施設	7	2.8%	0	0.0%	1	5.3%	6	2.8%
7	自立に向けた訓練ができる施設	6	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.3%
8	職業訓練校	1	0.4%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	大学や専門学校などへ進学	2	0.8%	1	25.0%	0	0.0%	1	0.5%
10	自宅でできる仕事がしたい	11	4.3%	0	0.0%	1	5.3%	9	4.2%
11	就労などの希望はない	48	18.9%	0	0.0%	2	10.5%	44	20.6%
12	施設などへ入所	17	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	16	7.5%
13	その他	9	3.5%	0	0.0%	1	5.3%	7	3.3%
14	特にない・まだよくわからない	70	27.6%	0	0.0%	6	31.6%	59	27.6%
	不明	92	36.2%	2	50.0%	3	15.8%	80	37.4%
	全体	254	100.0%	4	100.0%	19	100.0%	214	100.0%

将来の進路・希望(全体)



(n=254)

将来の進路・希望(年代別)

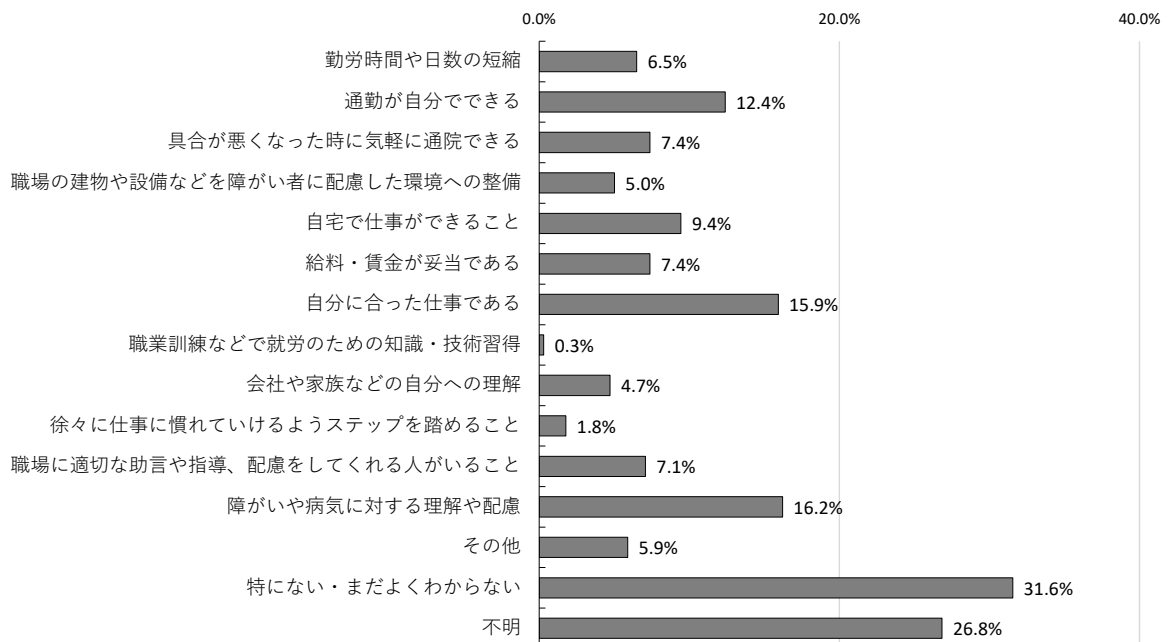


■ 働き続けるために必要なこと【MA】

問31 あなたが働き続ける(または将来働く)には、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(3つまで○印)

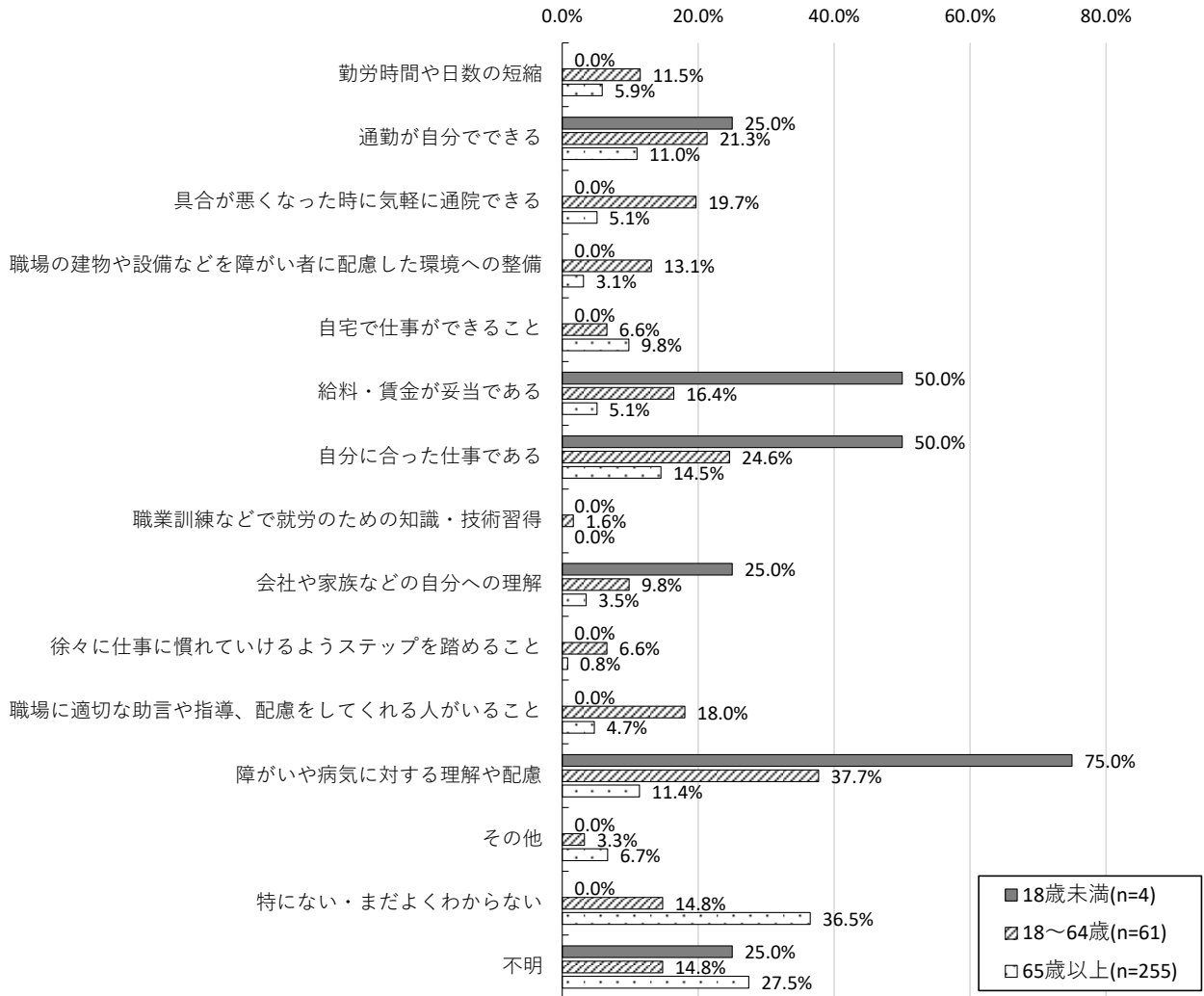
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	勤労時間や日数の短縮	22	6.5%	0	0.0%	7	11.5%	15	5.9%
2	通勤が自分のできる	42	12.4%	1	25.0%	13	21.3%	28	11.0%
3	具合が悪くなった時に気軽に通院できる	25	7.4%	0	0.0%	12	19.7%	13	5.1%
4	職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備	17	5.0%	0	0.0%	8	13.1%	8	3.1%
5	自宅で仕事ができること	32	9.4%	0	0.0%	4	6.6%	25	9.8%
6	給料・賃金が妥当である	25	7.4%	2	50.0%	10	16.4%	13	5.1%
7	自分に合った仕事である	54	15.9%	2	50.0%	15	24.6%	37	14.5%
8	職業訓練などで就労のための知識・技術習得	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
9	会社や家族などの自分への理解	16	4.7%	1	25.0%	6	9.8%	9	3.5%
10	徐々に仕事に慣れていけるようステップを踏めること	6	1.8%	0	0.0%	4	6.6%	2	0.8%
11	職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること	24	7.1%	0	0.0%	11	18.0%	12	4.7%
12	障がいや病気に対する理解や配慮	55	16.2%	3	75.0%	23	37.7%	29	11.4%
13	その他	20	5.9%	0	0.0%	2	3.3%	17	6.7%
14	特にない・まだよくわからない	107	31.6%	0	0.0%	9	14.8%	93	36.5%
	不明	91	26.8%	1	25.0%	9	14.8%	70	27.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

働き続けるために必要なこと(全体)



(n=339)

働き続けるために必要なこと(年代別)



(7)バリアフリーに関することについて

住居のバリアフリー対応については、「していない」(59.9%)が「している」(35.4%)を24.5ポイント上回った。

住居がバリアフリーに対応していない人に主な理由を聞いたところ、「改修などを行う資金がない」が40.4%と最も高く、次いで「特にない」(31.5%)、「建物の構造上できない」(13.8%)などとなっている。

外出頻度については、「ほぼ毎日」が31.3%と最も高く、次いで「週1～2回」(19.2%)、「週3～4回」(18.3%)などとなっており、『週1回以上』が68.8%とおよそ7割を占めている。一方、ほとんど外出しないと回答した人にその理由を聞いたところ、「障がいや疾病が重く、外出が難しい」が33.3%と最も高く、次いで「外出する必要がない」(27.3%)、「疲れるから」(15.2%)などとなった。

外出するうえで困ることは、「特に困ることはない」が31.0%で最も高いが、具体的な回答の中では「階段の上り下りが難しい」が28.9%と最も高く、次いで「道路・建物の段差が多い」(18.9%)、「電車・バスなどへの乗車が難しい」(14.2%)など、設備の面で外出の際に困っていることは少なくない。

社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うものとしては、「建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消」が28.9%と最も高く、次いで「障がい者用駐車スペースの確保」(23.3%)、「手すりの設置」(18.0%)などとなった。

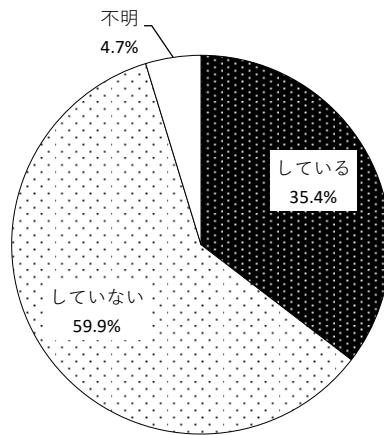
- ◎ バリアフリーに関する設問については、いずれも前回調査と同じような回答結果となった。ただし、社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うものについては、前回調査よりも「建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消」が8.2ポイント、「手すりの設置」は5.9ポイント改善しており、少しずつ社会のバリアフリー化が進んでいることもうかがえる。

■ バリアフリー対応 【SA】

問32 あなたのお住まいは、バリアフリーに対応していますか。(1つだけ○印)

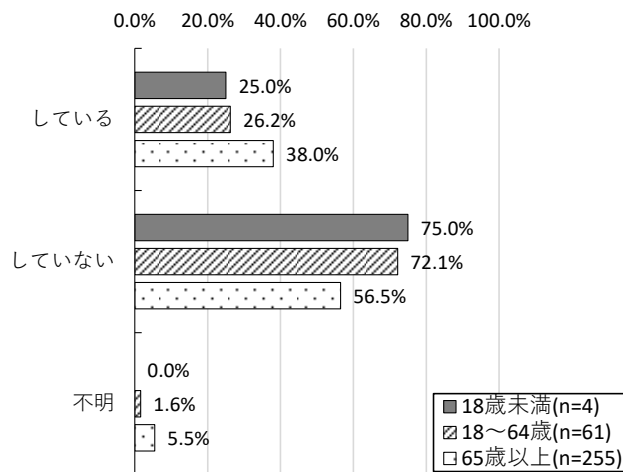
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	している	120	35.4%	1	25.0%	16	26.2%	97	38.0%
2	していない	203	59.9%	3	75.0%	44	72.1%	144	56.5%
	不明	16	4.7%	0	0.0%	1	1.6%	14	5.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

バリアフリー対応(全体)



(n=339)

バリアフリー対応(年代別)

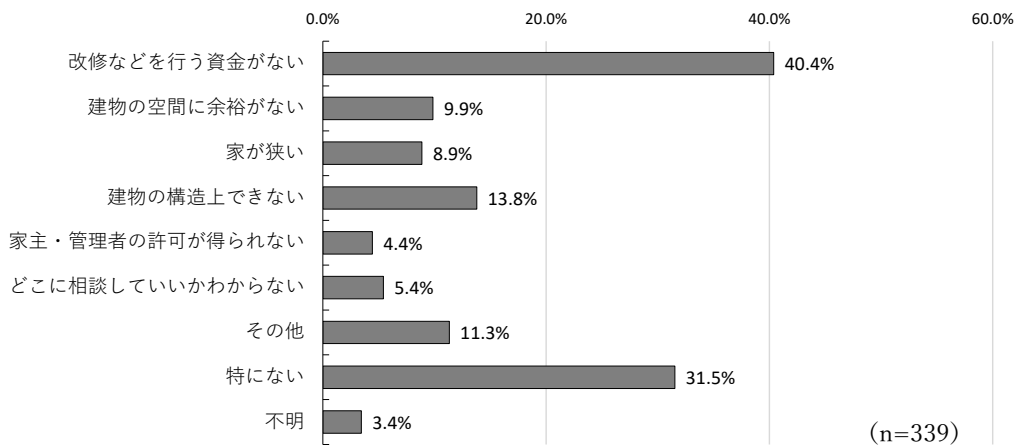


■ バリアフリー未対応の理由【MA】

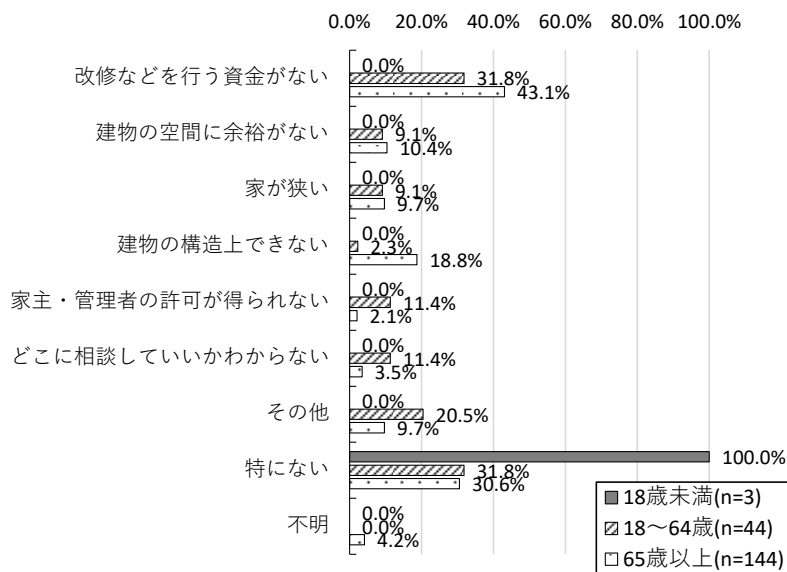
問33 問32で「2」を回答した方におたずねします。バリアフリーに対応していない主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	改修などを行う資金がない	82	40.4%	0	0.0%	14	31.8%	62	43.1%
2	建物の空間に余裕がない	20	9.9%	0	0.0%	4	9.1%	15	10.4%
3	家が狭い	18	8.9%	0	0.0%	4	9.1%	14	9.7%
4	建物の構造上できない	28	13.8%	0	0.0%	1	2.3%	27	18.8%
5	家主・管理者の許可が得られない	9	4.4%	0	0.0%	5	11.4%	3	2.1%
6	どこに相談していいかわからない	11	5.4%	0	0.0%	5	11.4%	5	3.5%
7	その他	23	11.3%	0	0.0%	9	20.5%	14	9.7%
8	特になし	64	31.5%	3	100.0%	14	31.8%	44	30.6%
	不明	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	6	4.2%
	全体	203	100.0%	3	100.0%	44	100.0%	144	100.0%

バリアフリー未対応の理由(全体)



バリアフリー未対応の理由(年代別)

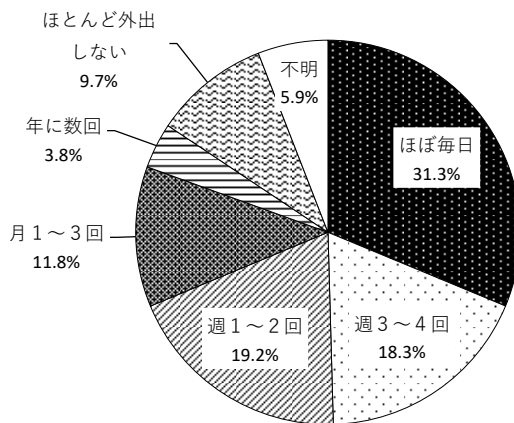


■ 外出頻度【SA】

問34 あなたの外出頻度はどの位ですか。(1つだけ○印)

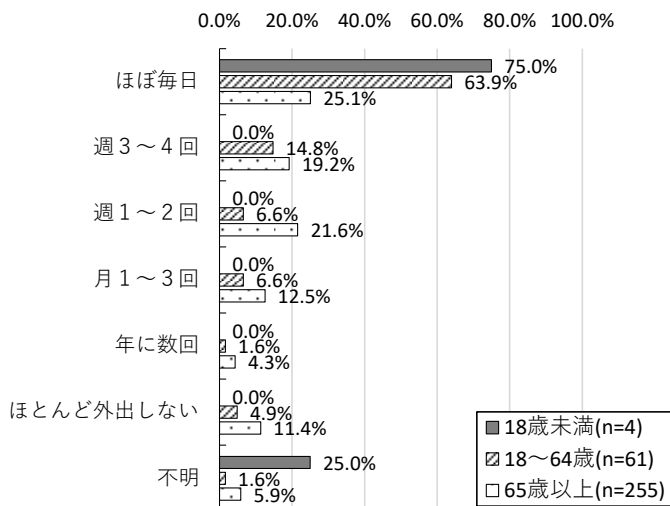
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ほぼ毎日	106	31.3%	3	75.0%	39	63.9%	64	25.1%
2	週3～4回	62	18.3%	0	0.0%	9	14.8%	49	19.2%
3	週1～2回	65	19.2%	0	0.0%	4	6.6%	55	21.6%
4	月1～3回	40	11.8%	0	0.0%	4	6.6%	32	12.5%
5	年に数回	13	3.8%	0	0.0%	1	1.6%	11	4.3%
6	ほとんど外出しない	33	9.7%	0	0.0%	3	4.9%	29	11.4%
	不明	20	5.9%	1	25.0%	1	1.6%	15	5.9%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

外出頻度(全体)



(n=339)

外出頻度(年代別)

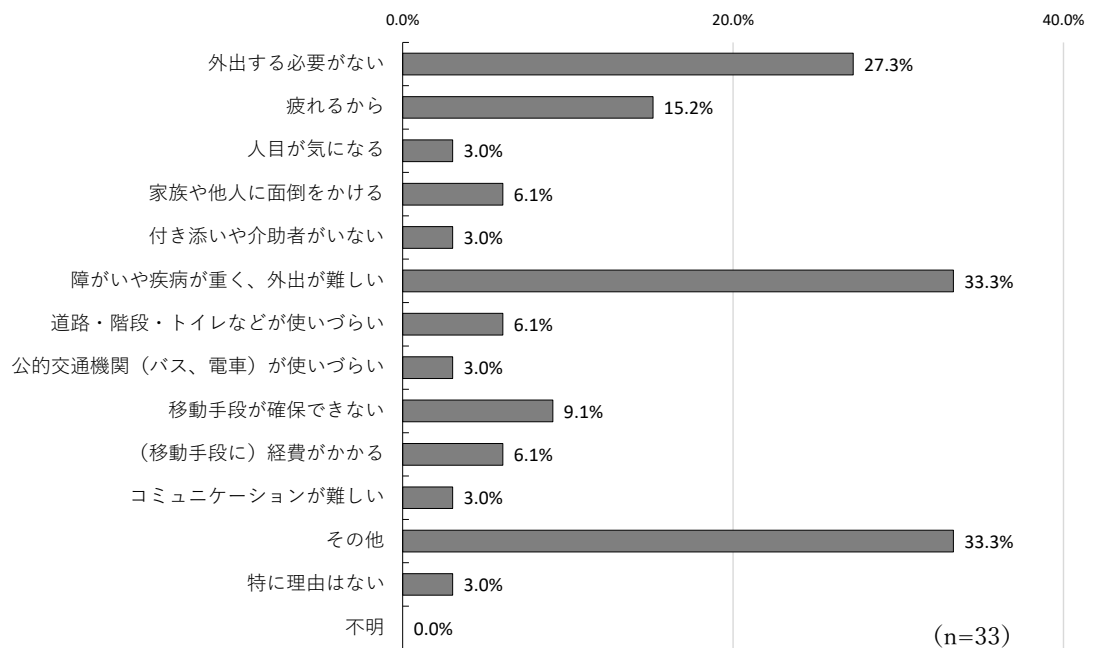


■ 外出しない理由【MA】

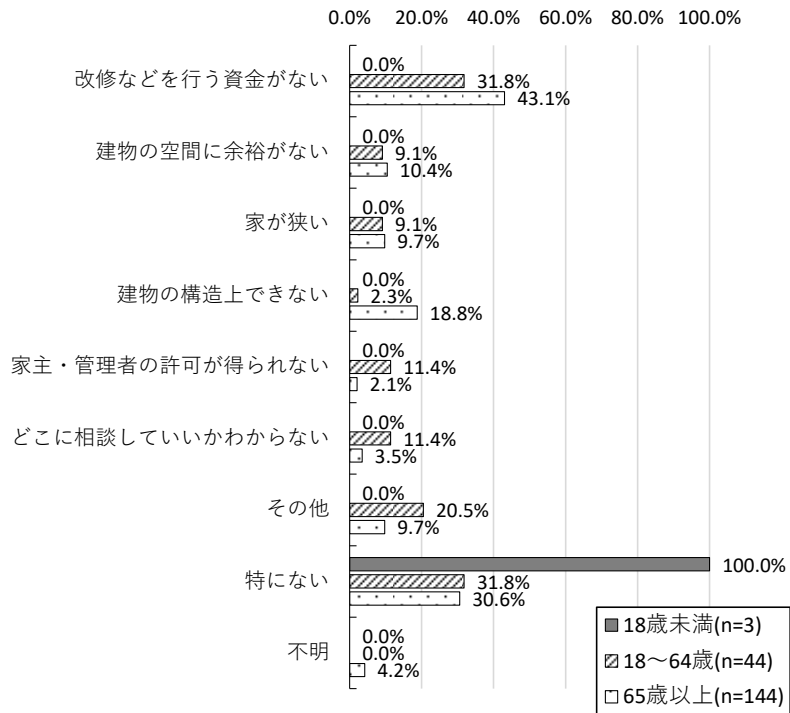
問35 問34で「6」を回答した方におたずねします。あなたが外出しない主な理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	外出する必要がない	9	27.3%	0	0.0%	2	66.7%	6	20.7%
2	疲れるから	5	15.2%	0	0.0%	0	0.0%	5	17.2%
3	人目が気になる	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%
4	家族や他人に面倒をかける	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.9%
5	付き添いや介助者がいない	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%
6	障がいや疾病が重く、外出が難しい	11	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	11	37.9%
7	道路・階段・トイレなどが使いづらい	2	6.1%	0	0.0%	1	33.3%	1	3.4%
8	公的交通機関（バス、電車）が使いづらい	1	3.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%
9	移動手段が確保できない	3	9.1%	0	0.0%	1	33.3%	2	6.9%
10	（移動手段に）経費がかかる	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.9%
11	コミュニケーションが難しい	1	3.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%
12	その他	11	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	10	34.5%
13	特に理由はない	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	33	100.0%	0	0.0%	3	100.0%	29	100.0%

外出しない理由(全体)



外出しない理由(年代別)

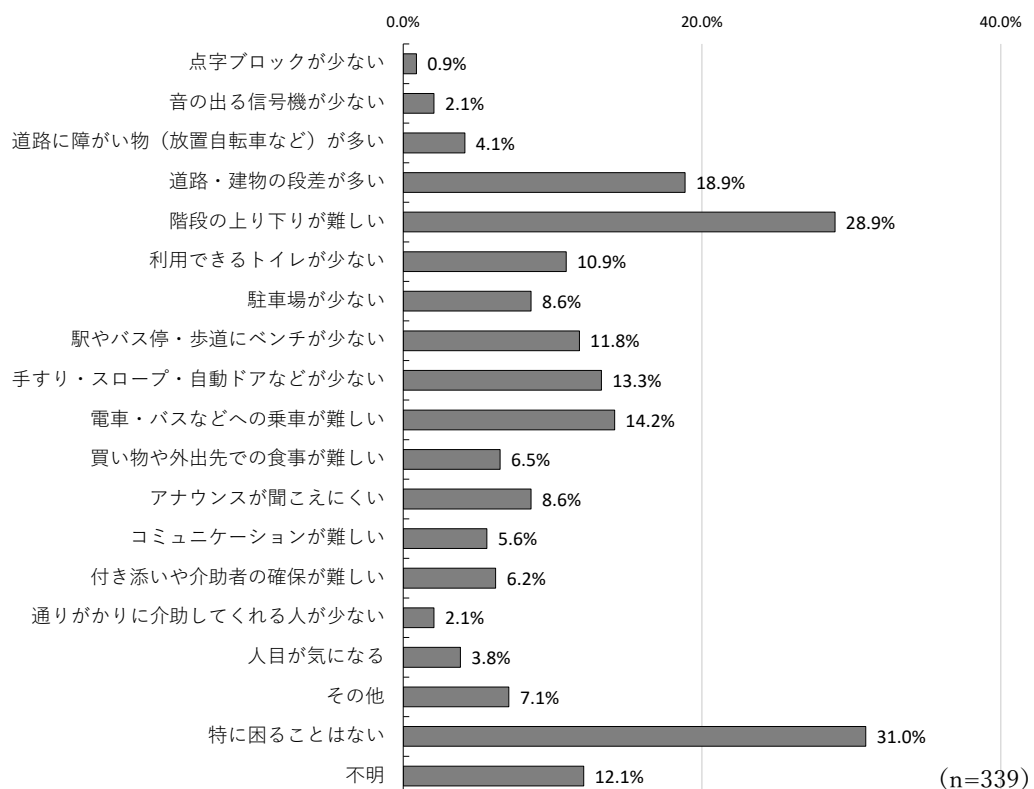


■ 外出するうえでの困りごと【MA】

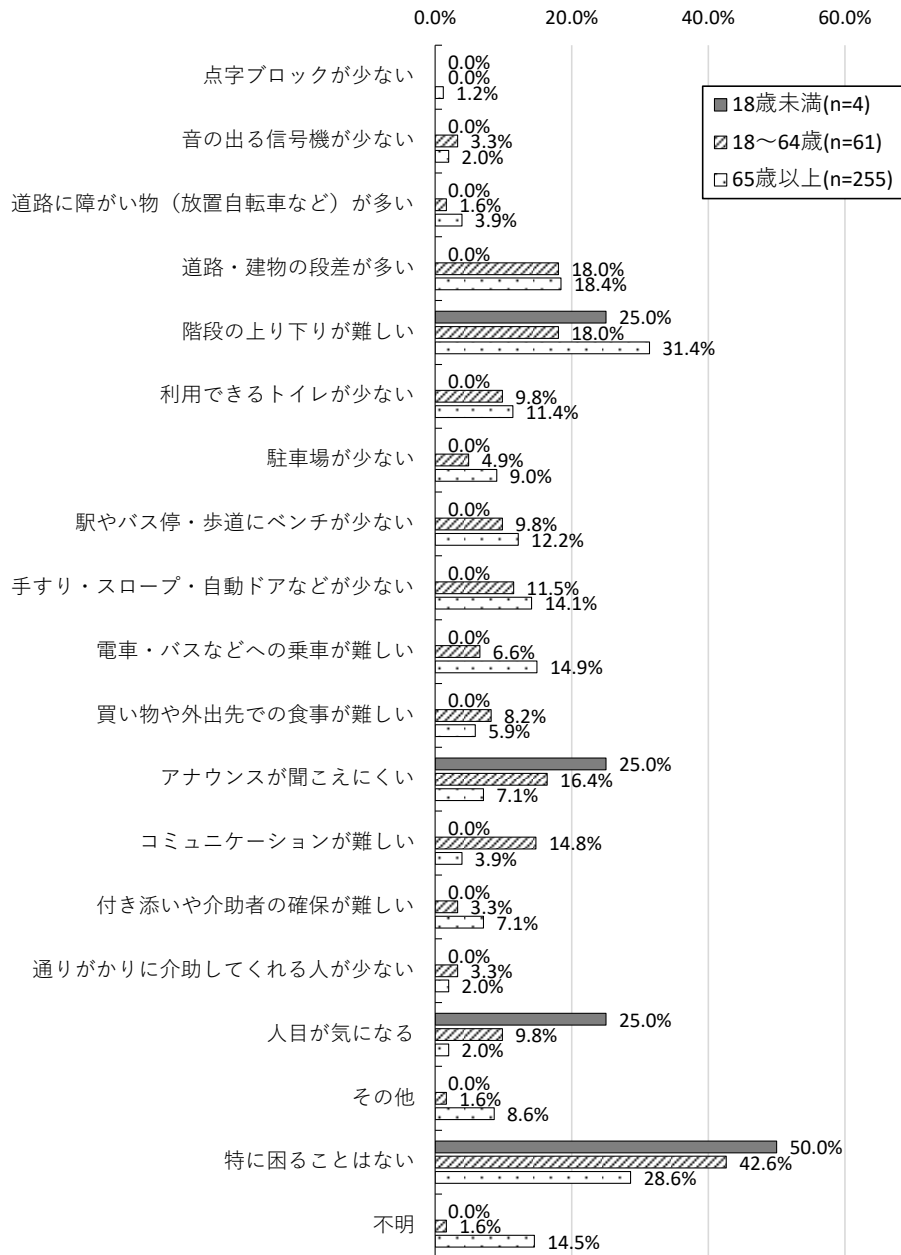
問36 あなたが外出するうえで困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	点字ブロックが少ない	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%
2	音の出る信号機が少ない	7	2.1%	0	0.0%	2	3.3%	5	2.0%
3	道路に障がい物（放置自転車など）が多い	14	4.1%	0	0.0%	1	1.6%	10	3.9%
4	道路・建物の段差が多い	64	18.9%	0	0.0%	11	18.0%	47	18.4%
5	階段の上り下りが難しい	98	28.9%	1	25.0%	11	18.0%	80	31.4%
6	利用できるトイレが少ない	37	10.9%	0	0.0%	6	9.8%	29	11.4%
7	駐車場が少ない	29	8.6%	0	0.0%	3	4.9%	23	9.0%
8	駅やバス停・歩道にベンチが少ない	40	11.8%	0	0.0%	6	9.8%	31	12.2%
9	手すり・スロープ・自動ドアなどが少ない	45	13.3%	0	0.0%	7	11.5%	36	14.1%
10	電車・バスなどへの乗車が難しい	48	14.2%	0	0.0%	4	6.6%	38	14.9%
11	買い物や外出先での食事が難しい	22	6.5%	0	0.0%	5	8.2%	15	5.9%
12	アナウンスが聞こえにくい	29	8.6%	1	25.0%	10	16.4%	18	7.1%
13	コミュニケーションが難しい	19	5.6%	0	0.0%	9	14.8%	10	3.9%
14	付き添いや介助者の確保が難しい	21	6.2%	0	0.0%	2	3.3%	18	7.1%
15	通りがかりに介助してくれる人が少ない	7	2.1%	0	0.0%	2	3.3%	5	2.0%
16	人目が気になる	13	3.8%	1	25.0%	6	9.8%	5	2.0%
17	その他	24	7.1%	0	0.0%	1	1.6%	22	8.6%
18	特に困ることはない	105	31.0%	2	50.0%	26	42.6%	73	28.6%
	不明	41	12.1%	0	0.0%	1	1.6%	37	14.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

外出するうえでの困りごと(全体)



外出するうえでの困りごと(年代別)

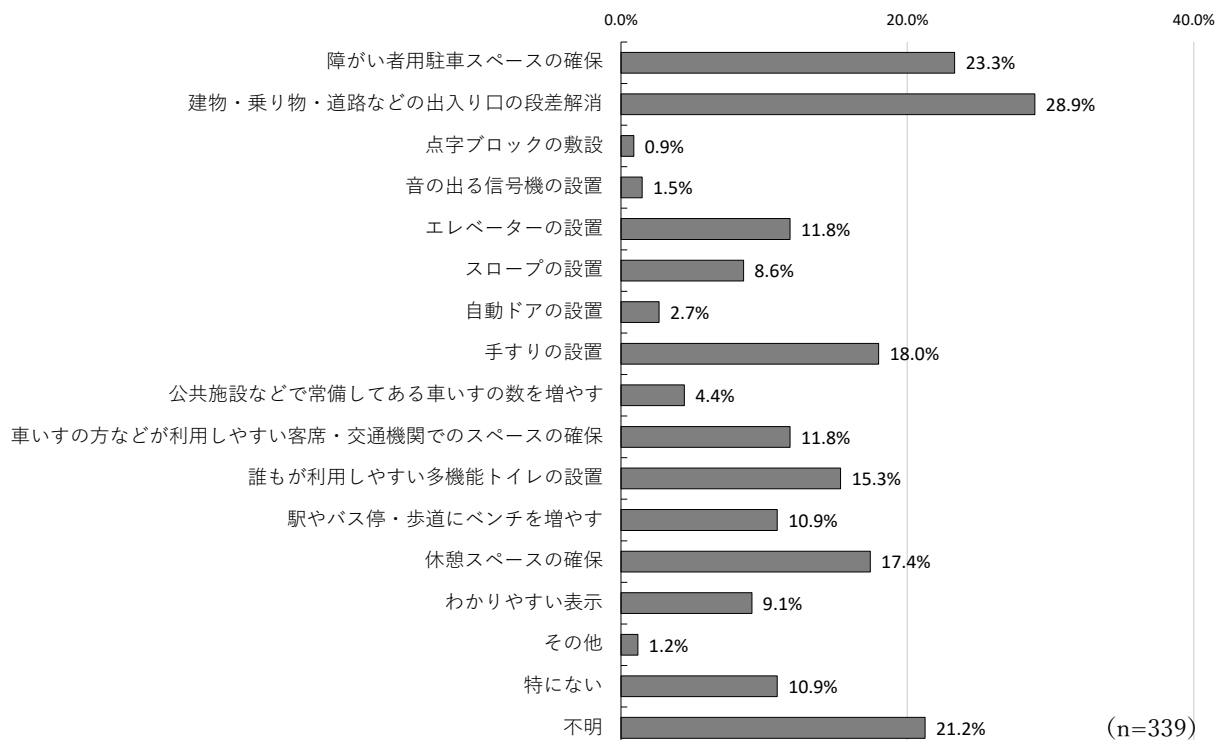


■ バリアフリー化推進にあたり設備面で必要なもの【MA】

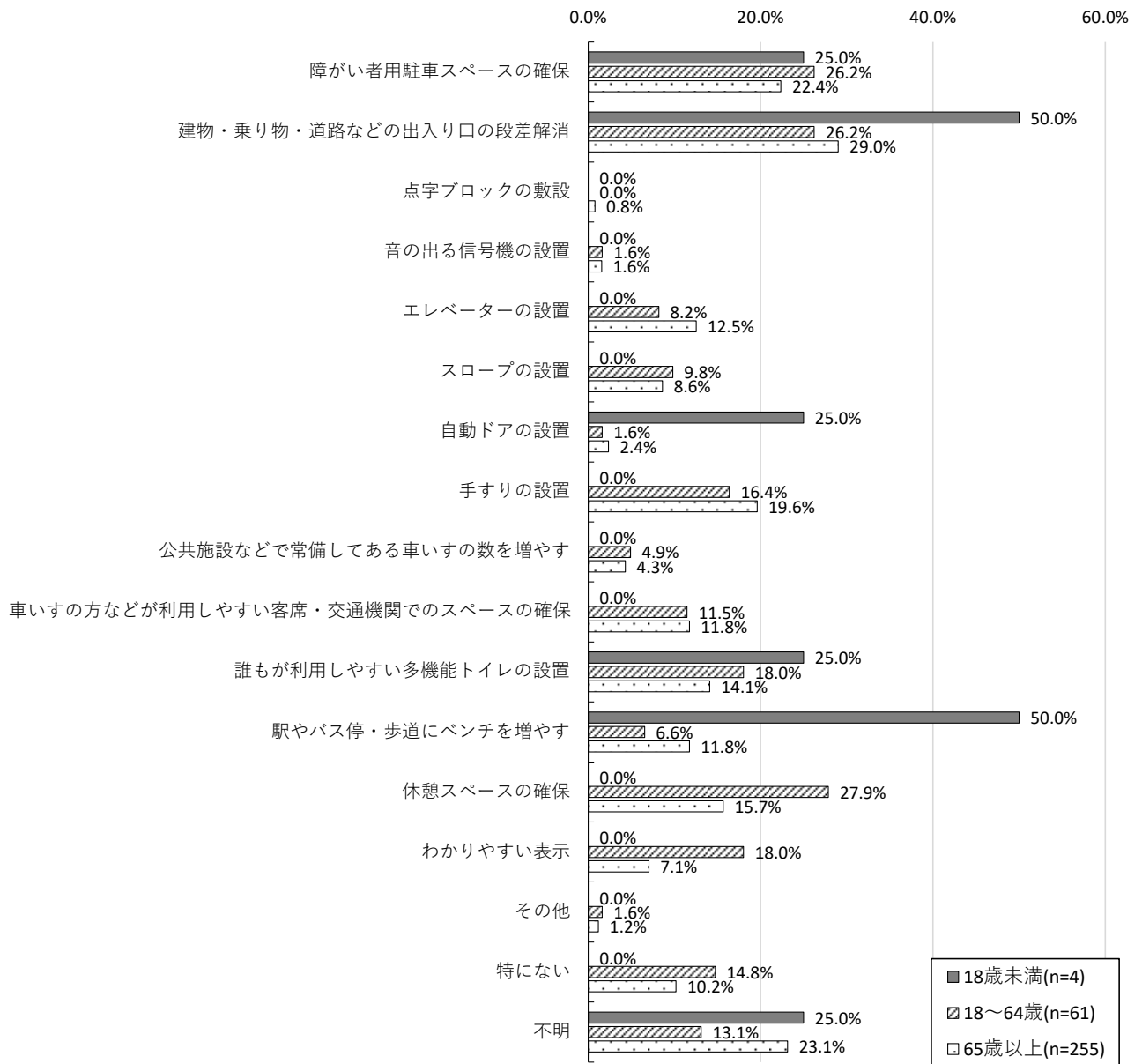
問37 あなたにとって社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	障がい者用駐車スペースの確保	79	23.3%	1	25.0%	16	26.2%	57	26.2%
2	建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消	98	28.9%	2	50.0%	16	26.2%	74	26.2%
3	点字ブロックの敷設	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.0%
4	音の出る信号機の設置	5	1.5%	0	0.0%	1	1.6%	4	1.6%
5	エレベーターの設置	40	11.8%	0	0.0%	5	8.2%	32	8.2%
6	スロープの設置	29	8.6%	0	0.0%	6	9.8%	22	9.8%
7	自動ドアの設置	9	2.7%	1	25.0%	1	1.6%	6	1.6%
8	手すりの設置	61	18.0%	0	0.0%	10	16.4%	50	16.4%
9	公共施設などで常備してある車いすの数を増やす	15	4.4%	0	0.0%	3	4.9%	11	4.9%
10	車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保	40	11.8%	0	0.0%	7	11.5%	30	11.5%
11	誰もが利用しやすい多機能トイレの設置	52	15.3%	1	25.0%	11	18.0%	36	18.0%
12	駅やバス停・歩道にベンチを増やす	37	10.9%	2	50.0%	4	6.6%	30	6.6%
13	休憩スペースの確保	59	17.4%	0	0.0%	17	27.9%	40	27.9%
14	わかりやすい表示	31	9.1%	0	0.0%	11	18.0%	18	18.0%
15	その他	4	1.2%	0	0.0%	1	1.6%	3	1.6%
16	特にない	37	10.9%	0	0.0%	9	14.8%	26	14.8%
	不明	72	21.2%	1	25.0%	8	13.1%	59	13.1%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

バリアフリー化推進にあたり設備面で必要なもの(全体)



バリアフリー化推進にあたり設備面で必要なもの(年代別)



(8)余暇活動について

余暇の過ごし方については、「家でくつろぐ」が70.8%と最も高く、次いで「買い物や、店を見て歩く」(25.7%)、「友人・知人と会う」(21.8%)などとなっている。余暇に特に何もしていないと回答した人に、その理由を聞いたところ、「病状が重いため」が51.7%と最も高く、次いで「何をしたらよいかわからない」(17.2%)が続いたほか、「その他」も24.1%と一定の割合を占めた。

障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動への参加意向を聞いたところ、「興味がない」(63.4%)が『参加する(したい)』(25.3%：「すでに参加している」(3.5%) + 「参加してみたい」(21.8%))を38.1ポイント上回っている。

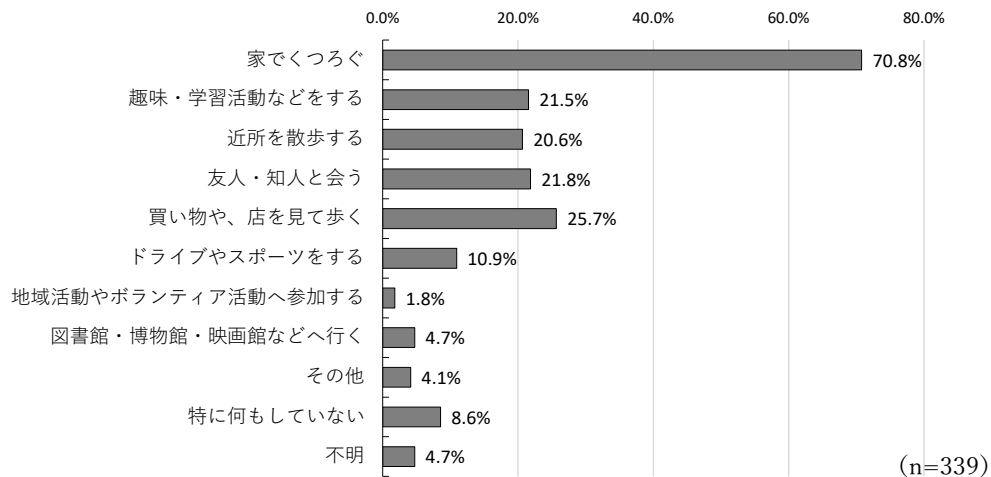
- ◎ 身体障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動への参加意向について、「参加してみたい」との回答は前回調査(18.4%)と比べてわずかに上昇したものの、依然として「興味がない」との回答が6割を占めている。引き続き、関係団体と連携し、障がい者の参加を促していくような取り組みが必要である。

■ 余暇の過ごし方【MA】

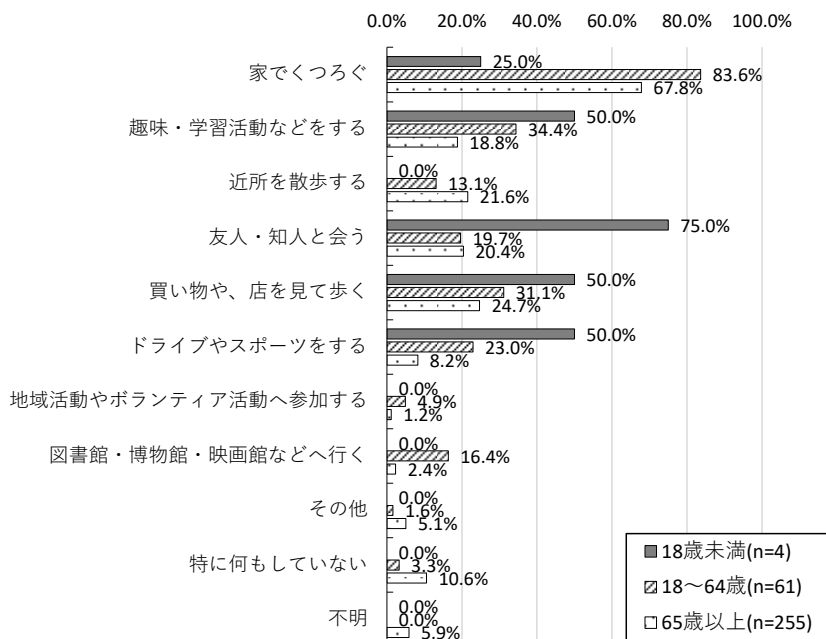
問38 あなたはどのように余暇などを過ごしていますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家でくつろぐ	240	70.8%	1	25.0%	51	83.6%	173	67.8%
2	趣味・学習活動などをする	73	21.5%	2	50.0%	21	34.4%	48	18.8%
3	近所を散歩する	70	20.6%	0	0.0%	8	13.1%	55	21.6%
4	友人・知人と会う	74	21.8%	3	75.0%	12	19.7%	52	20.4%
5	買い物や、店を見て歩く	87	25.7%	2	50.0%	19	31.1%	63	24.7%
6	ドライブやスポーツをする	37	10.9%	2	50.0%	14	23.0%	21	8.2%
7	地域活動やボランティア活動へ参加する	6	1.8%	0	0.0%	3	4.9%	3	1.2%
8	図書館・博物館・映画館などへ行く	16	4.7%	0	0.0%	10	16.4%	6	2.4%
9	その他	14	4.1%	0	0.0%	1	1.6%	13	5.1%
10	特に何もしていない	29	8.6%	0	0.0%	2	3.3%	27	10.6%
	不明	16	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	15	5.9%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

余暇の過ごし方(全体)



余暇の過ごし方(年代別)

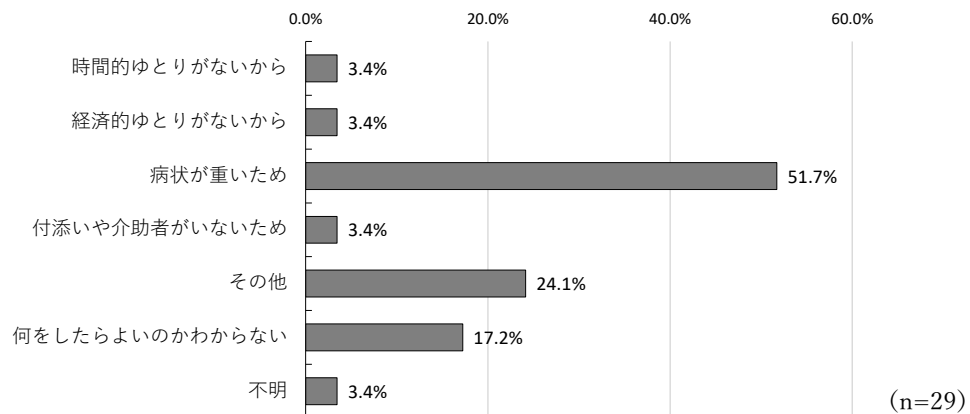


■ 余暇活動をしない理由【MA】

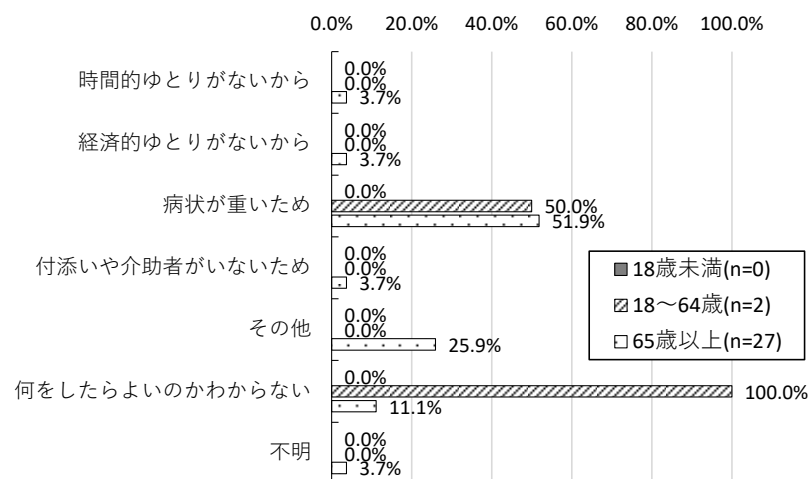
問39 問38で「10」と回答した方におたずねします。あなたが特に何もしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	時間的ゆとりがないから	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%
2	経済的ゆとりがないから	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%
3	病状が重いため	15	51.7%	0	0.0%	1	50.0%	14	51.9%
4	付添いや介助者がいないため	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%
5	その他	7	24.1%	0	0.0%	0	0.0%	7	25.9%
6	何をしたらよいかわからない	5	17.2%	0	0.0%	2	100.0%	3	11.1%
	不明	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%
	全体	29	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	27	100.0%

余暇活動をしない理由(全体)



余暇活動をしない理由(年代別)

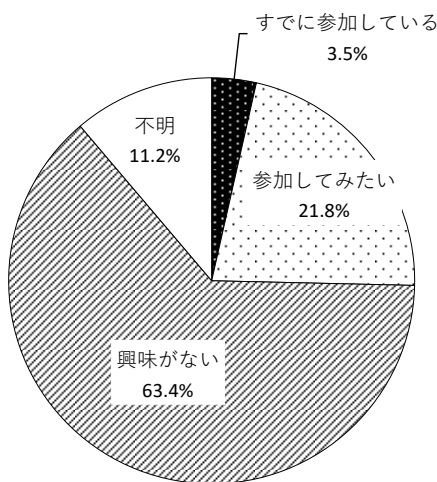


■ 芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向【SA】

問40 障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動に参加してみたいですか。(1つだけ○印)

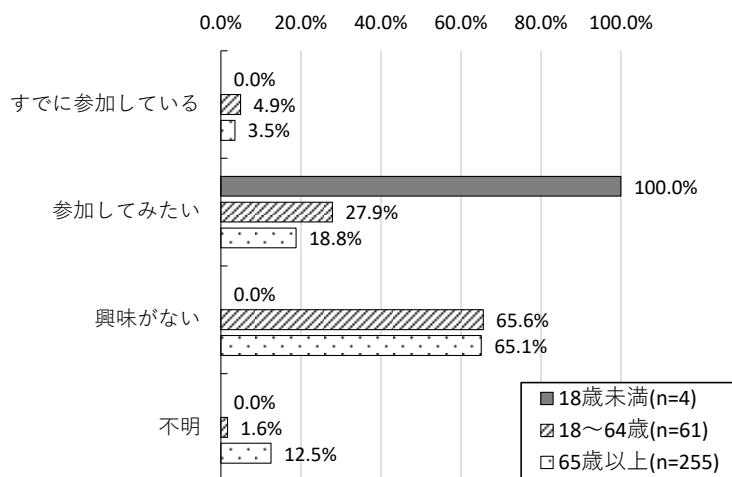
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	すでに参加している	12	3.5%	0	0.0%	3	4.9%	9	3.5%
2	参加してみたい	74	21.8%	4	100.0%	17	27.9%	48	18.8%
3	興味がない	215	63.4%	0	0.0%	40	65.6%	166	65.1%
	不明	38	11.2%	0	0.0%	1	1.6%	32	12.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向(全体)



(n=339)

芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向(年代別)



(9)権利擁護について

平成 29 年 4 月より施行された「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」について聞いたところ、「知らない」(85.5%)が「知っている」(8.8%)を 76.7 ポイント差と大きく上回っている。

日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じるかを聞いたところ、「ない」(46.3%)が「ある」(11.5%)を 34.8 ポイント上回った。一方、「わからない」と態度を保留する人も 36.6%と一定の割合を占めている。

障がい者に対する差別・偏見があると感じている人に、どのようなところにもっとも強く障がい者に対する差別・偏見または疎外感を感じるかを聞いたところ、「人の視線」が 46.2%と最も高く、次いで「店などでの対応の態度」(30.8%)、「仕事や収入」(25.6%)などとなった。また、差別をされたり、いやな思いをしたときに相談した人については、「家族」が 38.5%と最も高く、「友人・知人」(30.8%)が続いた。一方、「相談しなかった」は 33.3%となっている。相談しなかったと回答した人の理由としては、「相談しても解決しないと思った」が 53.8%で最も高く、次いで「どこに相談すればよいのかわからなかった」(23.1%)、「その他」(15.4%)となっている。

差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものとしては、「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が 35.1%と最も高く、次いで「障がいや病気への正しい理解の啓発」(34.2%)、「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」(22.1%)などとなっている。

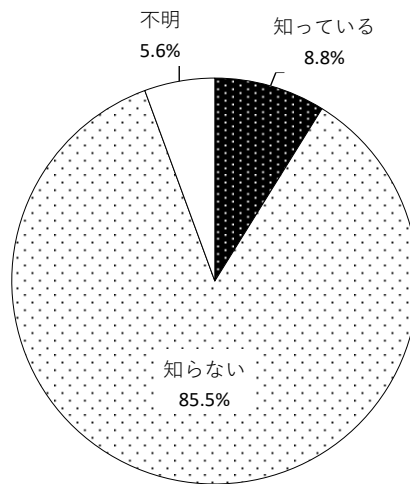
- ◎ 身体障がい者の「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」に関する認知は進んでおらず、これは知的障がい者、精神障がい者、その他市民に関しても同様である。今後、権利擁護に関する市民全体の意識を高めていくには、回答にもあるように「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」ことや、「障がいや病気への正しい理解の啓発」が重要と考えられる。

■ 条例の認知状況【SA】

問41 あなたは、平成29年4月より施行された「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。（1つだけ○印）

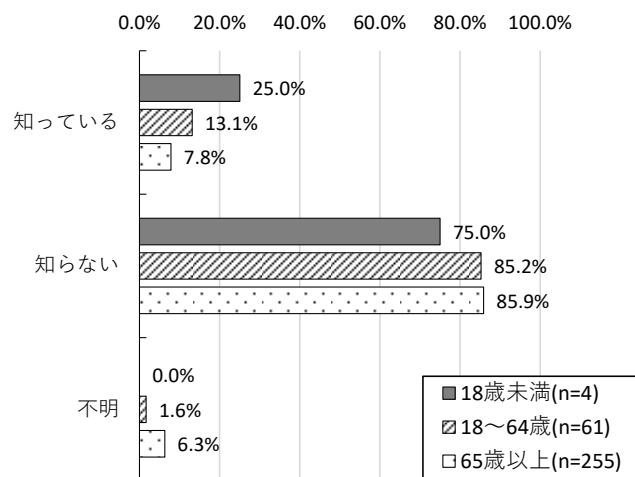
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	30	8.8%	1	25.0%	8	13.1%	20	7.8%
2	知らない	290	85.5%	3	75.0%	52	85.2%	219	85.9%
	不明	19	5.6%	0	0.0%	1	1.6%	16	6.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

条例の認知状況(全体)



(n=339)

条例の認知状況(年代別)

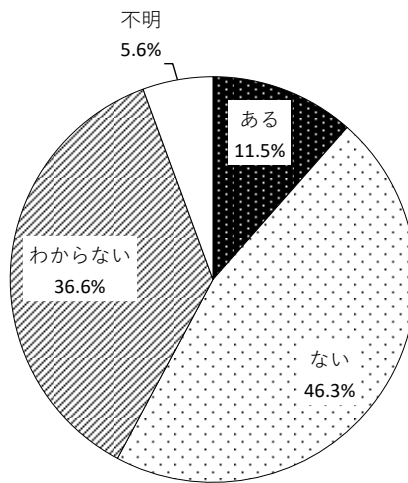


■ 差別や偏見・疎外感【SA】

問42 あなたは、日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じることはありませんか。(1つだけ○印)

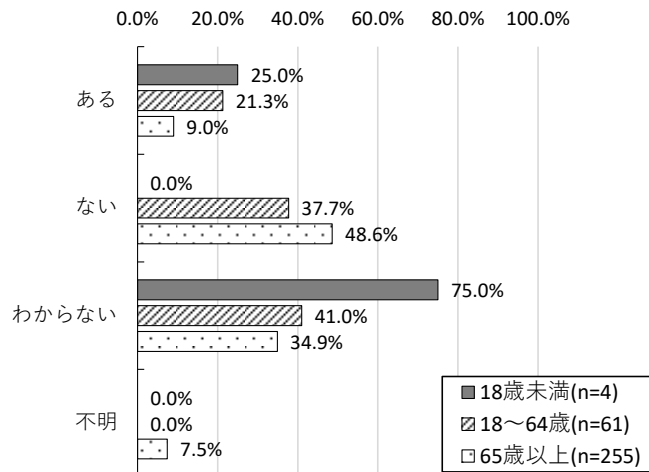
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	39	11.5%	1	25.0%	13	21.3%	23	9.0%
2	ない	157	46.3%	0	0.0%	23	37.7%	124	48.6%
3	わからない	124	36.6%	3	75.0%	25	41.0%	89	34.9%
	不明	19	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	19	7.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

差別や偏見・疎外感(全体)



(n=339)

差別や偏見・疎外感(年代別)

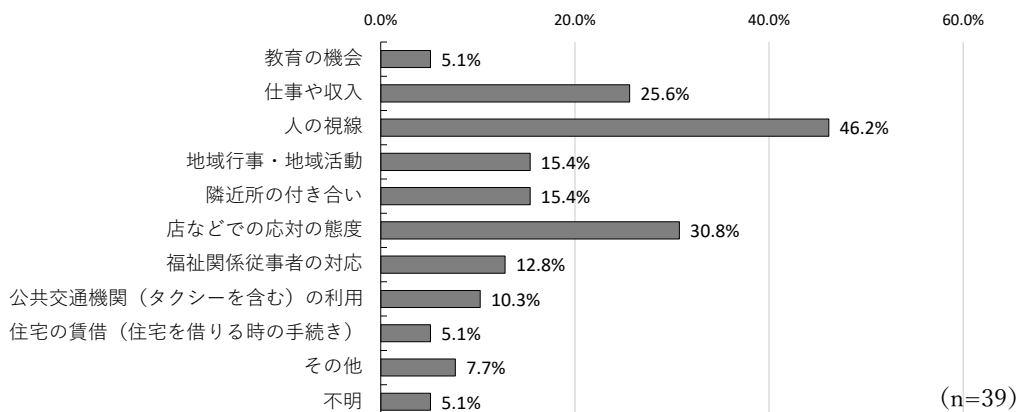


■ 差別・偏見や疎外感を感じる場面【MA】

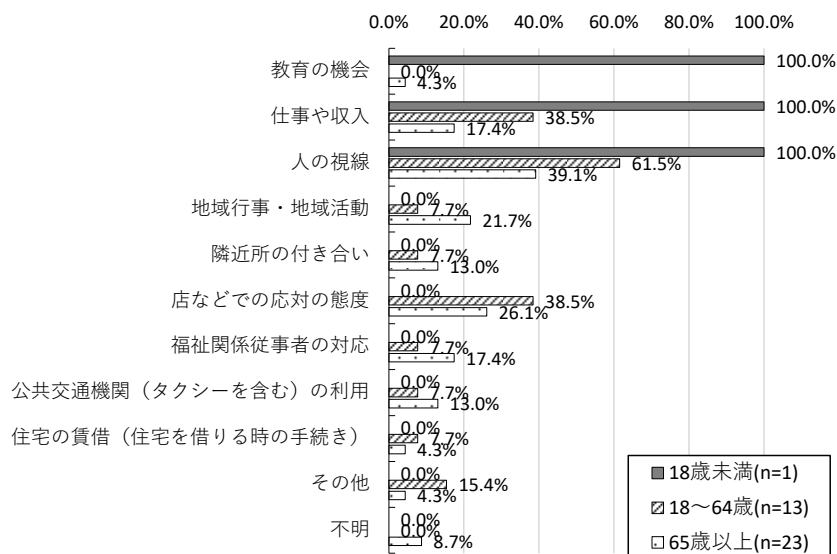
問43 問42で「1」を回答した方におたずねします。どのようなところに、もっとも強く障がい者に対する差別・偏見または疎外感を感じますか。（3つまで○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	教育の機会	2	5.1%	1	100.0%	0	0.0%	1	4.3%
2	仕事や収入	10	25.6%	1	100.0%	5	38.5%	4	17.4%
3	人の視線	18	46.2%	1	100.0%	8	61.5%	9	39.1%
4	地域行事・地域活動	6	15.4%	0	0.0%	1	7.7%	5	21.7%
5	隣近所の付き合い	6	15.4%	0	0.0%	1	7.7%	3	13.0%
6	店などでの対応の態度	12	30.8%	0	0.0%	5	38.5%	6	26.1%
7	福祉関係従事者の対応	5	12.8%	0	0.0%	1	7.7%	4	17.4%
8	公共交通機関（タクシーを含む）の利用	4	10.3%	0	0.0%	1	7.7%	3	13.0%
9	住宅の賃借（住宅を借りる時の手続き）	2	5.1%	0	0.0%	1	7.7%	1	4.3%
10	その他	3	7.7%	0	0.0%	2	15.4%	1	4.3%
	不明	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.7%
	全体	39	100.0%	1	100.0%	13	100.0%	23	100.0%

差別・偏見や疎外感を感じる場面(全体)



差別・偏見や疎外感を感じる場面(年代別)

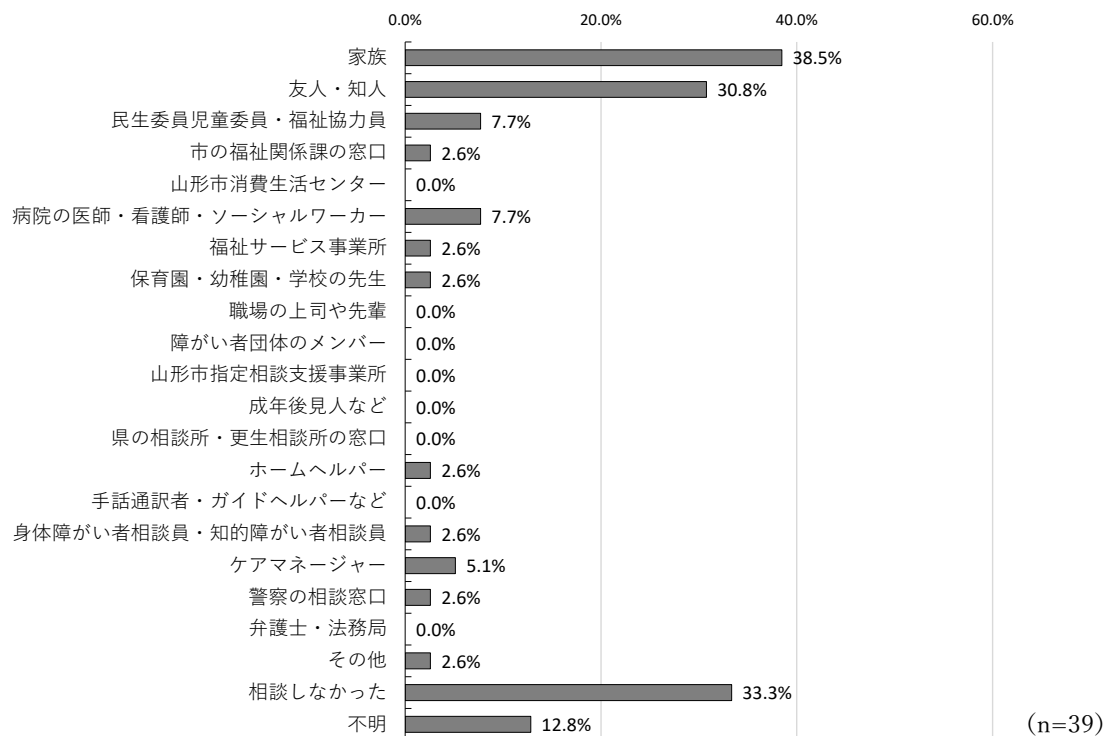


■ 差別を受けたときの相談相手【MA】

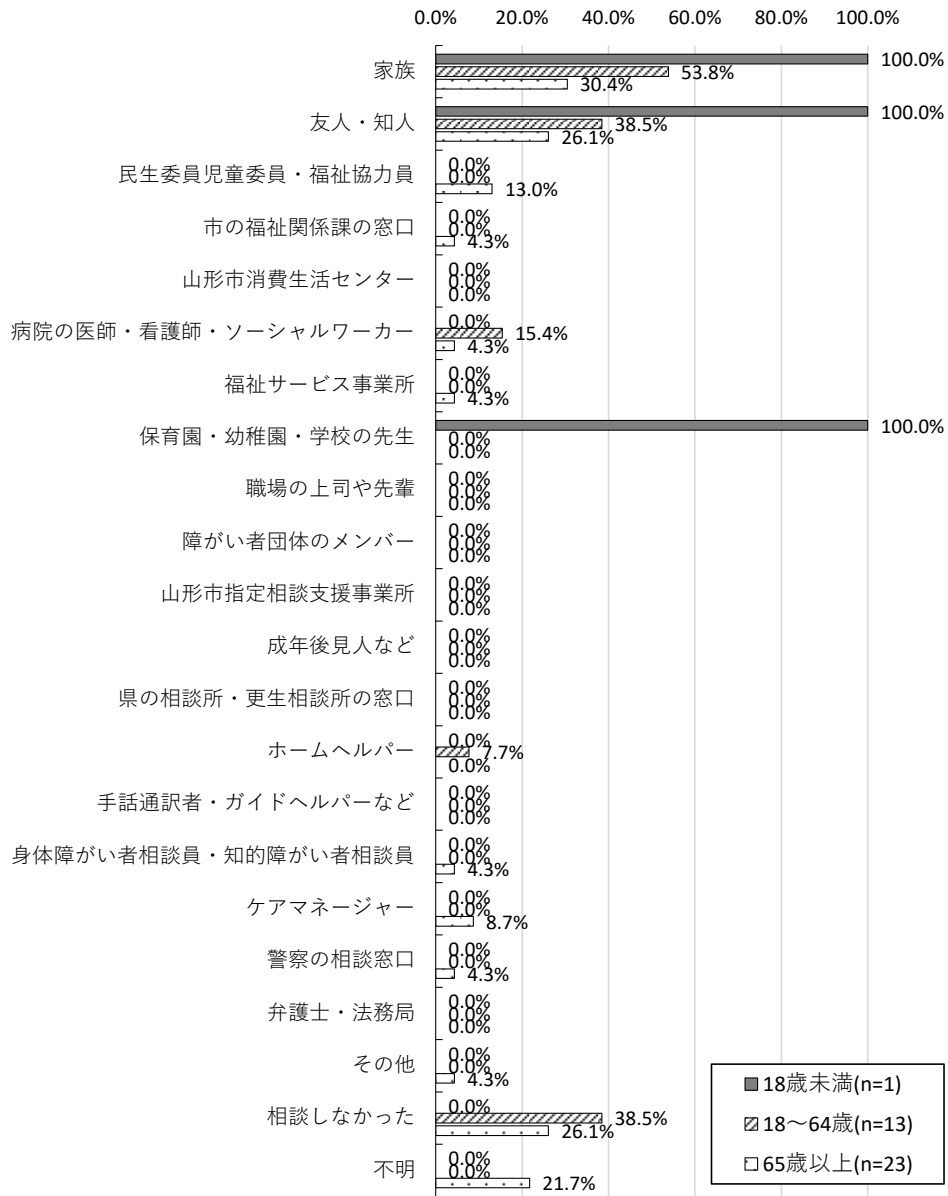
問44 問42で「1」を回答した方におたずねします。差別をされたり、いやな思いをしたときに誰に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家族	15	38.5%	1	100.0%	7	53.8%	7	30.4%
2	友人・知人	12	30.8%	1	100.0%	5	38.5%	6	26.1%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	3	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	13.0%
4	市の福祉関係課の窓口	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%
5	山形市消費生活センター	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	3	7.7%	0	0.0%	2	15.4%	1	4.3%
7	福祉サービス事業所	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%
8	保育園・幼稚園・学校の先生	1	2.6%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	職場の上司や先輩	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	障がい者団体のメンバー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	山形市指定相談支援事業所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12	成年後見人など	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
13	県の相談所・更生相談所の窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	1	2.6%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%
15	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%
17	ケアマネジャー	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.7%
18	警察の相談窓口	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%
19	弁護士・法務局	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20	その他	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%
21	相談しなかった	13	33.3%	0	0.0%	5	38.5%	6	26.1%
	不明	5	12.8%	0	0.0%	0	0.0%	5	21.7%
	全体	39	100.0%	1	100.0%	13	100.0%	23	100.0%

差別を受けたときの相談相手(全体)



差別を受けたときの相談相手(年代別)

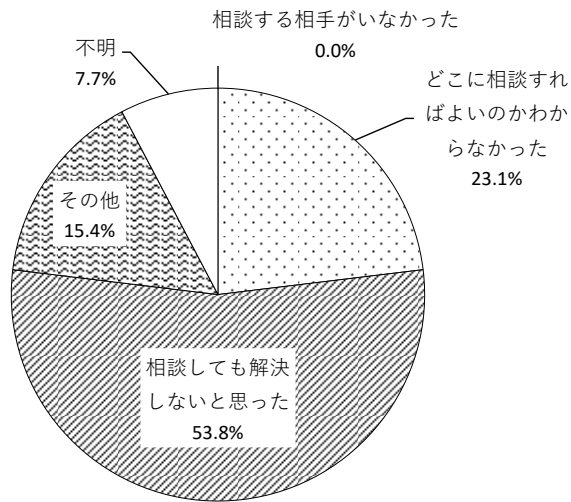


■ 差別を受けたときに相談しなかった理由【SA】

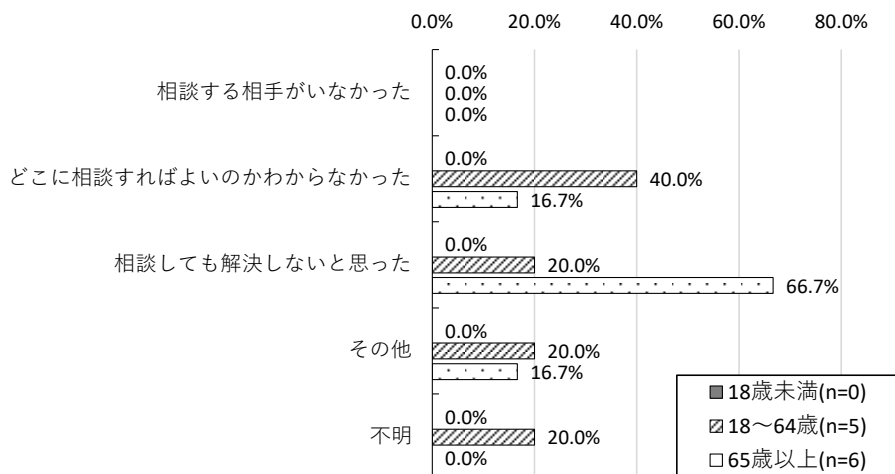
問45 問44で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。(1つだけ
○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	相談する相手がいなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	どこに相談すればよいのかわからなかった	3	23.1%	0	0.0%	2	40.0%	1	16.7%
3	相談しても解決しなかったと思った	7	53.8%	0	0.0%	1	20.0%	4	66.7%
4	その他	2	15.4%	0	0.0%	1	20.0%	1	16.7%
	不明	1	7.7%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
	全体	13	100.0%	0	0.0%	5	100.0%	6	100.0%

差別を受けたときに相談しなかった理由(全体)



差別を受けたときに相談しなかった理由(年代別)

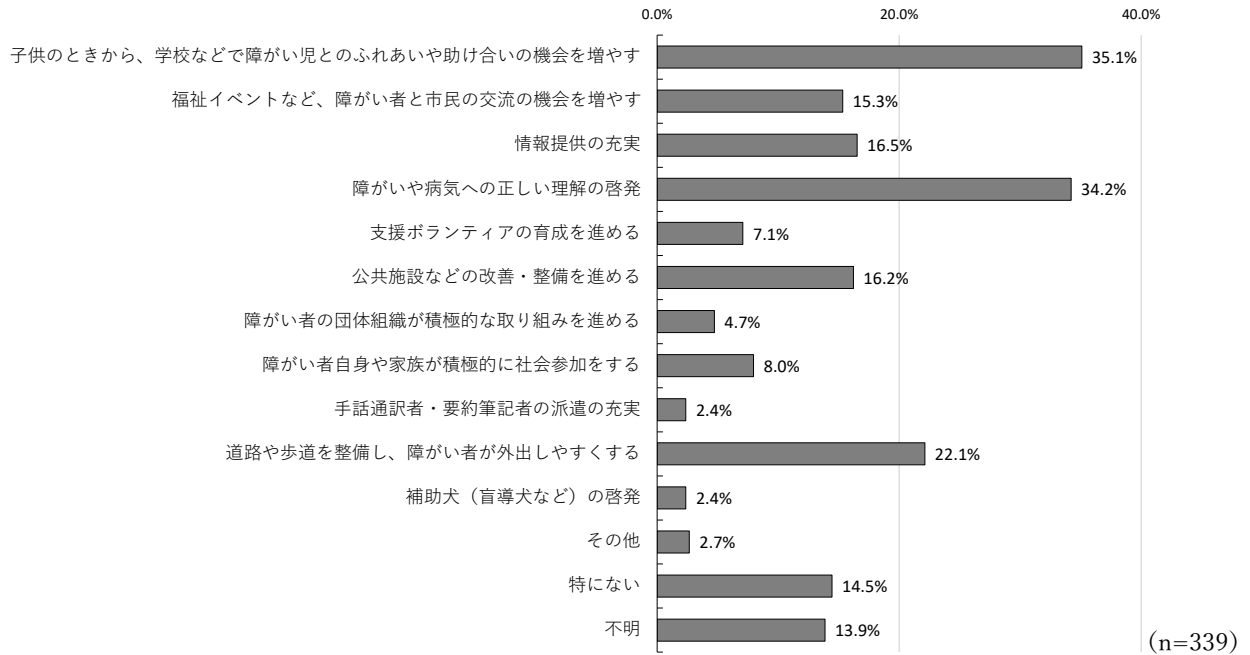


■ 差別や偏見等をなくすために必要なこと【MA】

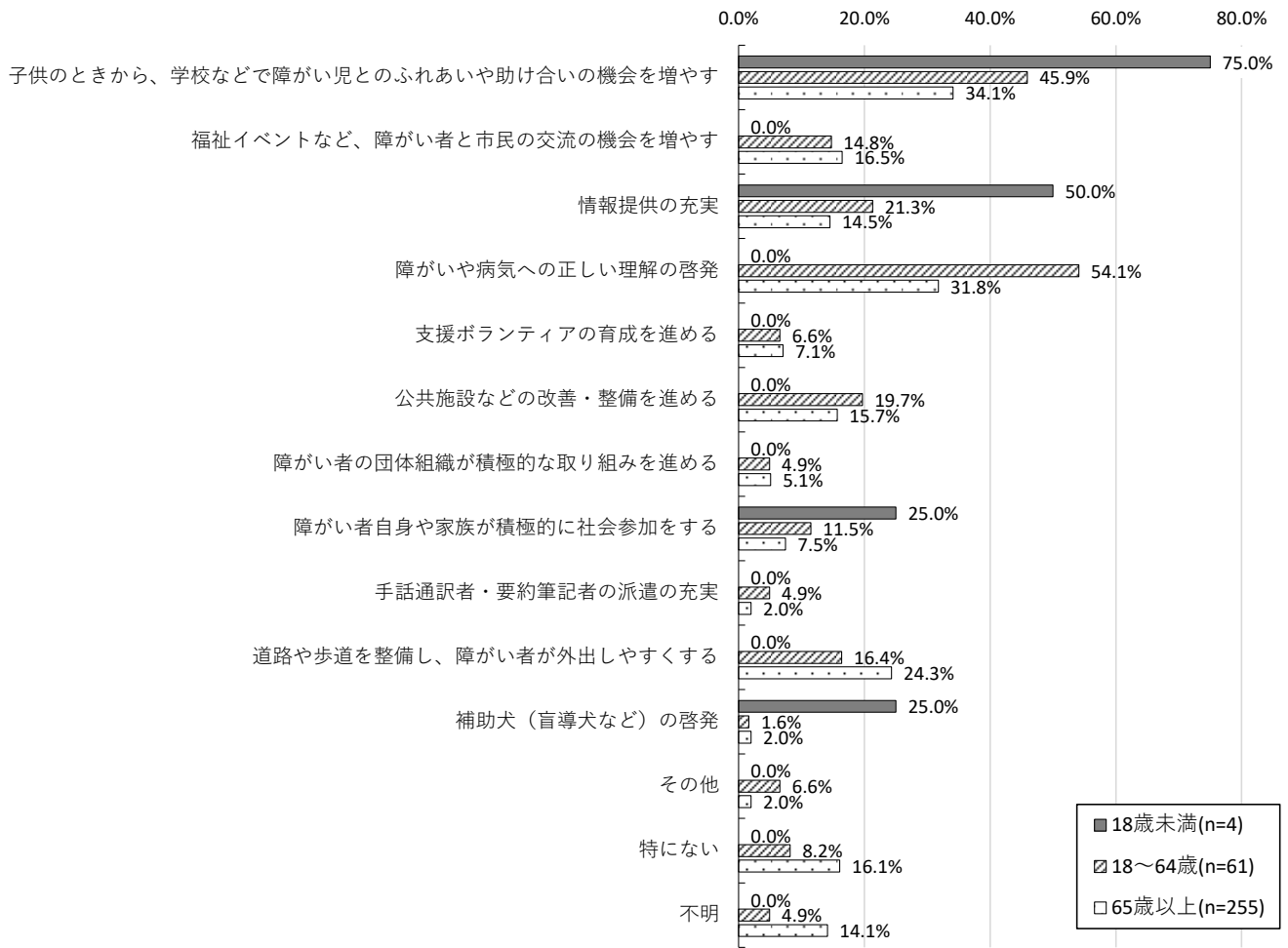
問46 あなたにとって差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	119	35.1%	3	75.0%	28	45.9%	87	34.1%
2	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	52	15.3%	0	0.0%	9	14.8%	42	16.5%
3	情報提供の充実	56	16.5%	2	50.0%	13	21.3%	37	14.5%
4	障がいや病気への正しい理解の啓発	116	34.2%	0	0.0%	33	54.1%	81	31.8%
5	支援ボランティアの育成を進める	24	7.1%	0	0.0%	4	6.6%	18	7.1%
6	公共施設などの改善・整備を進める	55	16.2%	0	0.0%	12	19.7%	40	15.7%
7	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	16	4.7%	0	0.0%	3	4.9%	13	5.1%
8	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	27	8.0%	1	25.0%	7	11.5%	19	7.5%
9	手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実	8	2.4%	0	0.0%	3	4.9%	5	2.0%
10	道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする	75	22.1%	0	0.0%	10	16.4%	62	24.3%
11	補助犬（盲導犬など）の啓発	8	2.4%	1	25.0%	1	1.6%	5	2.0%
12	その他	9	2.7%	0	0.0%	4	6.6%	5	2.0%
13	特になし	49	14.5%	0	0.0%	5	8.2%	41	16.1%
	不明	47	13.9%	0	0.0%	3	4.9%	36	14.1%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

差別や偏見等をなくすために必要なこと(全体)



差別や偏見等をなくすために必要なこと(年代別)



(10)相談・情報について

福祉サービスの利用にあたって相談する相手は、「家族」が58.1%と最も高く過半数を占めている。次いで「病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー」および「ケアマネージャー」（ともに24.2%）、「市の福祉関係課の窓口」（23.6%）などとなっている。

相談機能を充実させるために必要だと思うこととしては、「身近な場所で相談できること」が39.5%と最も高く、次いで「適切なアドバイスができる人材」および「一か所で用事が済む相談窓口を設置する」（ともに28.9%）、「素早い対応をしてくれる」（25.4%）などとなっている。

福祉サービスの内容を知る手段としては、「市の広報・資料」が53.7%と最も高く過半数を占めた。次いで「医療機関」（13.0%）、「福祉サービス事業所」（12.1%）などとなっている。

今後（将来）の生活については、「自宅で家族と暮らしたい」が54.3%と最も高く過半数を占める。次いで「特に考えていない・まだよくわからない」（19.8%）、「施設に入所したい（または現在の施設に入所し続けたい）」（11.2%）などとなっている。今後（将来）、「自立して暮らしたい（家族と別居）」または「世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい（グループホームなど）」と回答した人に、独立にあたり不安なことを聞いたところ、「ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保」が52.4%と最も高く、次いで「収入の安定」（47.6%）、「地域との関わり」（19.0%）などとなっている。また、今後（将来）、「世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい（グループホームなど）」または「施設に入所したい（または現在の施設に入所し続けたい）」と回答した人に、グループホームなどへの入居または施設への入所時期の意向を聞いたところ、「11年以上後」が17.5%で最も高く、「1～2年後」（15.0%）が続く。なお、「その他」は40.0%で、その内訳は『現在入所中』との回答が多かった。

悪質商法などの被害にあった経験については、「ない」（90.3%）が「ある」（5.9%）を84.4ポイント差と大きく上回った。悪質商法などの被害にあったことがある人に相談した相手を聞いたところ、「家族」が40.0%と最も高く、次いで「警察の相談窓口」（25.0%）、「友人・知人」及び「山形市消費生活センター」（ともに15.0%）となっている。なお、「相談しなかった」と回答した人の理由は、「どこに相談すればよいのかわからなかった」および「相談しても解決しないと思った」（ともに50.0%）となっている。

今後の生活に対しての不安については、「身体のこと（医療や健康）」が78.2%と最も高く、次いで「生活費（経済的負担）」（42.8%）、「介助してくれる人（日常の介助）」（28.3%）、「介助者が介助できなくなった場合の対応」（26.3%）などとなっている。

今後、障がい者福祉を充実させるために山形市が特に力を入れていく必要があることについて聞いたところ、「在宅生活において、介助がいつでも受けられる」が40.4%と最も高く、次いで「経済面での支援が受けられる」（32.4%）、「安心して住める場所がある」（16.8%）などとなっている。

- ◎ 福祉サービスの利用にあたり、相談機能を充実させるために必要なこととして前回調査と同様に「身近な場所で相談できること」が最も高かった。また、相談相手としては「家族」のほか、

「ケアマネージャー」とともに「病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー」が挙がっており、相談は“身近さ”がポイントであることがうかがえる。また、自由記述の中には、行政に対し「当事者が1ヶ所でも相談すれば済むようなネットワークの構築を検討してもらいたい」との要望もあった。一方、福祉サービスの内容を知るうえでは、「市の広報・資料」が情報入手手段としてニーズが高くなっており、より一層の情報提供の充実が求められる。

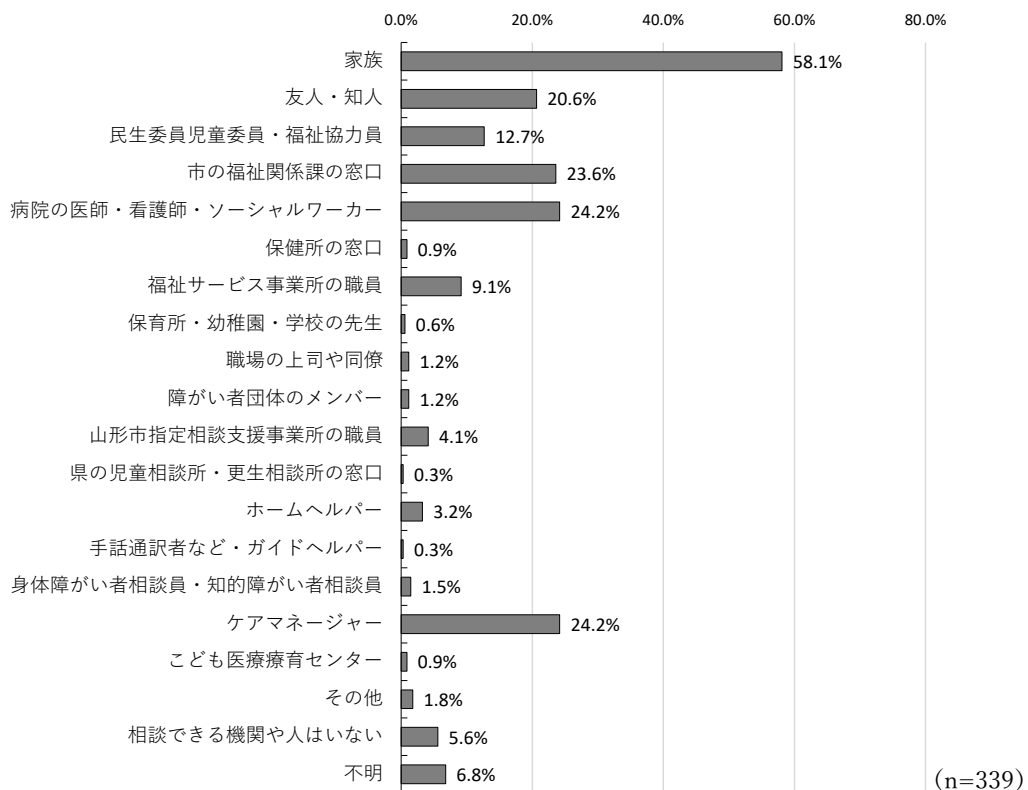
- ◎ 今後の生活については、前回調査と同様に「自宅で家族と暮らしたい」が過半数を占めた。また、本市が障がい者福祉を充実させるために特に力を入れる必要があることとして、「在宅生活において、介助がいつでも受けられる」が4割を超えており、依然としてニーズが高くなっている。身体障がい者が地域で安心して暮らしていくためには、在宅支援の充実・強化が求められている。

■ 福祉サービス利用に際しての相談相手【MA】

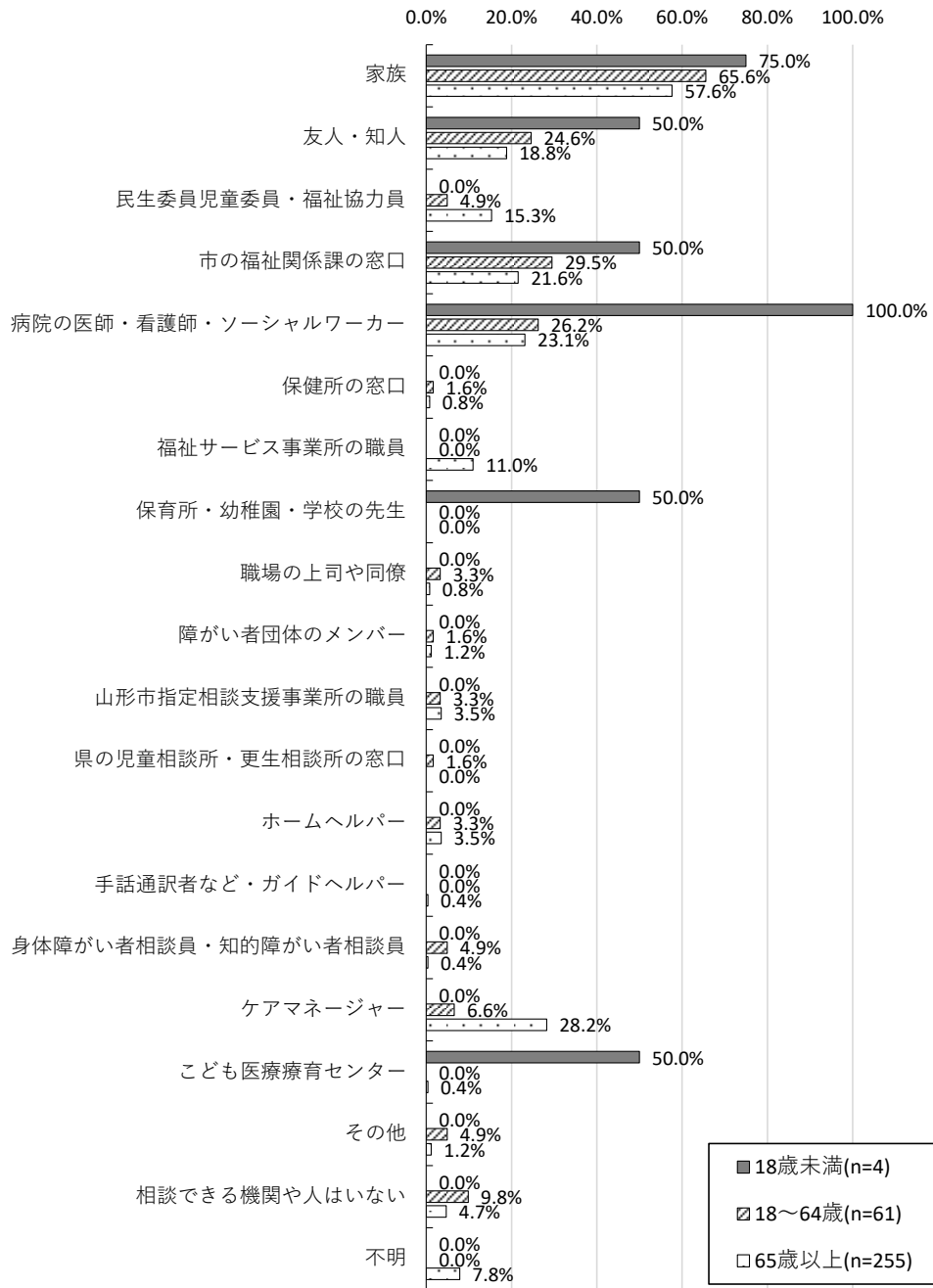
問47 あなたが福祉サービスの利用について相談する相手を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家族	197	58.1%	3	75.0%	40	65.6%	147	57.6%
2	友人・知人	70	20.6%	2	50.0%	15	24.6%	48	18.8%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	43	12.7%	0	0.0%	3	4.9%	39	15.3%
4	市の福祉関係課の窓口	80	23.6%	2	50.0%	18	29.5%	55	21.6%
5	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	82	24.2%	4	100.0%	16	26.2%	59	23.1%
6	保健所の窓口	3	0.9%	0	0.0%	1	1.6%	2	0.8%
7	福祉サービス事業所の職員	31	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	28	11.0%
8	保育所・幼稚園・学校の先生	2	0.6%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	職場の上司や同僚	4	1.2%	0	0.0%	2	3.3%	2	0.8%
10	障がい者団体のメンバー	4	1.2%	0	0.0%	1	1.6%	3	1.2%
11	山形市指定相談支援事業所の職員	14	4.1%	0	0.0%	2	3.3%	9	3.5%
12	県の児童相談所・更生相談所の窓口	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
13	ホームヘルパー	11	3.2%	0	0.0%	2	3.3%	9	3.5%
14	手話通訳者など・ガイドヘルパー	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
15	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	5	1.5%	0	0.0%	3	4.9%	1	0.4%
16	ケアマネージャー	82	24.2%	0	0.0%	4	6.6%	72	28.2%
17	こども医療療育センター	3	0.9%	2	50.0%	0	0.0%	1	0.4%
18	その他	6	1.8%	0	0.0%	3	4.9%	3	1.2%
19	相談できる機関や人はいない	19	5.6%	0	0.0%	6	9.8%	12	4.7%
	不明	23	6.8%	0	0.0%	0	0.0%	20	7.8%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

福祉サービス利用に際しての相談相手(全体)



福祉サービス利用に際しての相談相手(年代別)

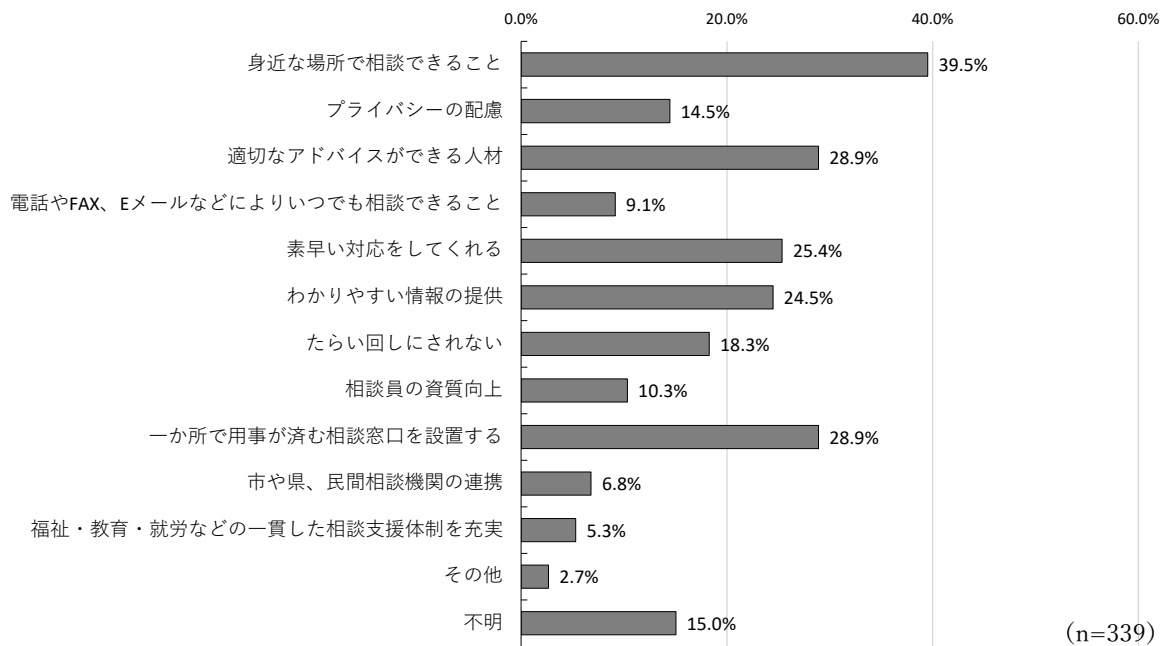


■ 相談機能を充実させるために必要なこと【MA】

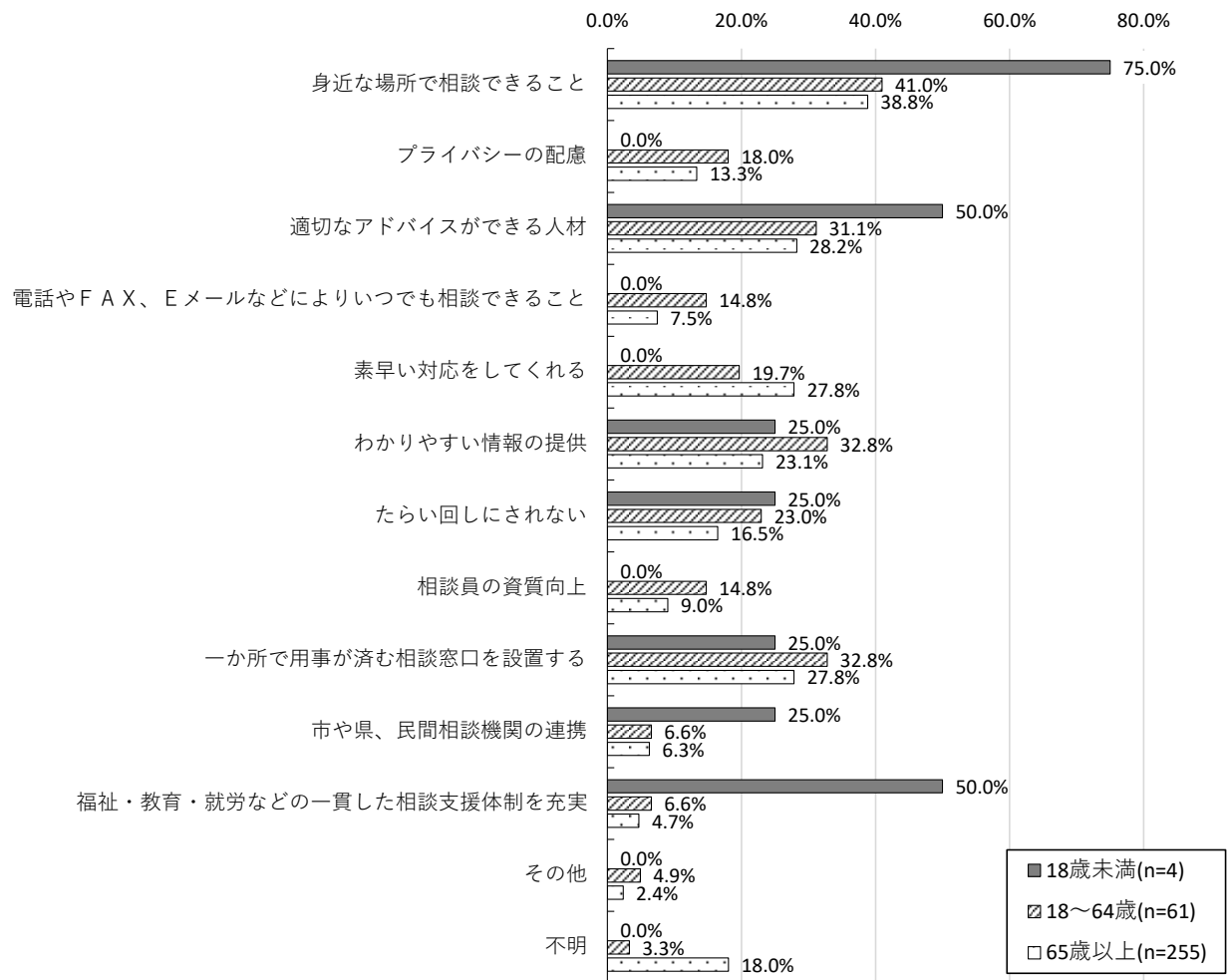
問48 相談機能を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	身近な場所で相談できること	134	39.5%	3	75.0%	25	41.0%	99	38.8%
2	プライバシーの配慮	49	14.5%	0	0.0%	11	18.0%	34	13.3%
3	適切なアドバイスができる人材	98	28.9%	2	50.0%	19	31.1%	72	28.2%
4	電話やFAX、Eメールなどによりいつでも相談できること	31	9.1%	0	0.0%	9	14.8%	19	7.5%
5	素早い対応をしてくれる	86	25.4%	0	0.0%	12	19.7%	71	27.8%
6	わかりやすい情報の提供	83	24.5%	1	25.0%	20	32.8%	59	23.1%
7	たらい回しにされない	62	18.3%	1	25.0%	14	23.0%	42	16.5%
8	相談員の資質向上	35	10.3%	0	0.0%	9	14.8%	23	9.0%
9	一か所で用事が済む相談窓口を設置する	98	28.9%	1	25.0%	20	32.8%	71	27.8%
10	市や県、民間相談機関の連携	23	6.8%	1	25.0%	4	6.6%	16	6.3%
11	福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実	18	5.3%	2	50.0%	4	6.6%	12	4.7%
12	その他	9	2.7%	0	0.0%	3	4.9%	6	2.4%
	不明	51	15.0%	0	0.0%	2	3.3%	46	18.0%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

相談機能を充実させるために必要なこと(全体)



相談機能を充実させるために必要なこと(年代別)

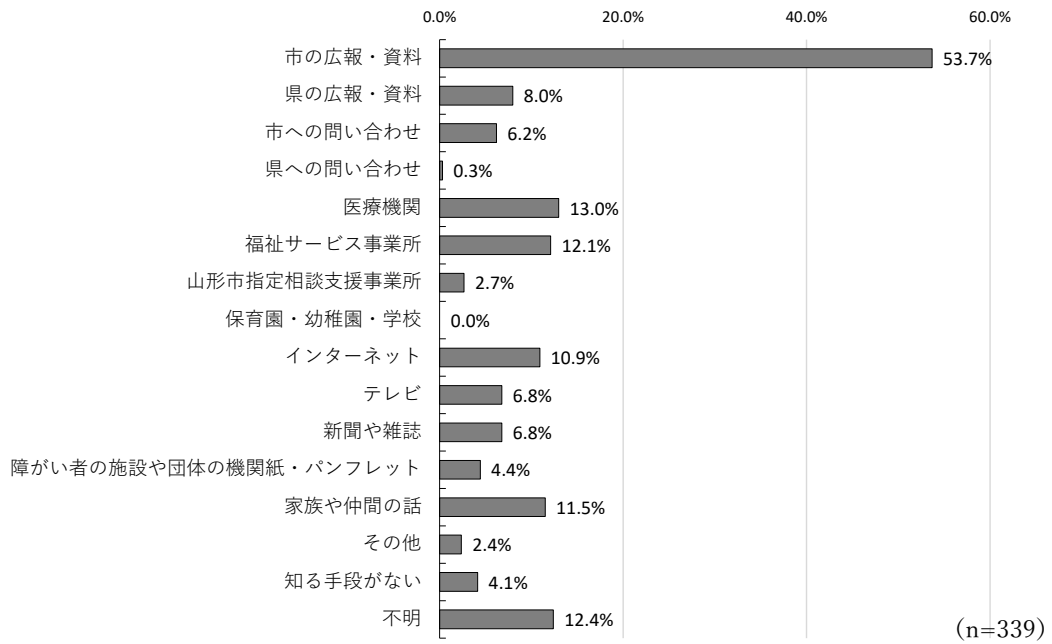


■ 福祉サービスの情報入手手段【MA】

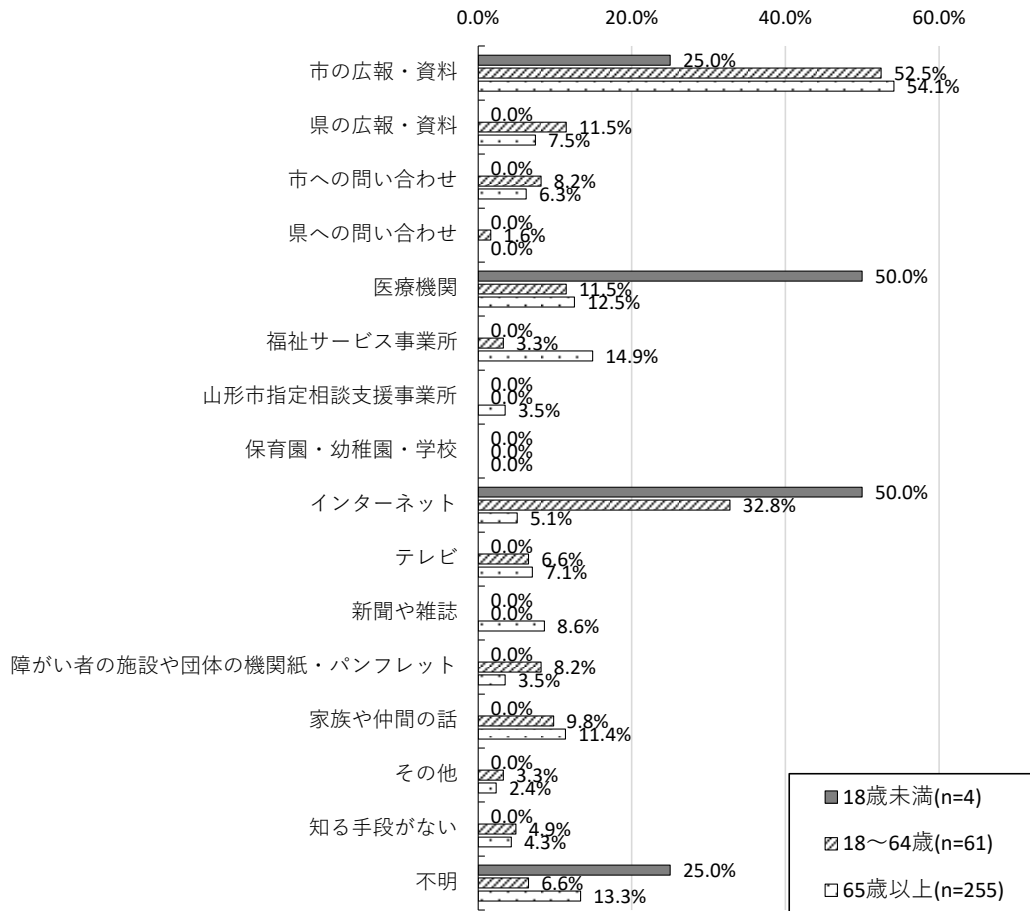
問49 あなたは、福祉サービスの内容について、どのようなもので知ることが多いですか。(2つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	市の広報・資料	182	53.7%	1	25.0%	32	52.5%	138	54.1%
2	県の広報・資料	27	8.0%	0	0.0%	7	11.5%	19	7.5%
3	市への問い合わせ	21	6.2%	0	0.0%	5	8.2%	16	6.3%
4	県への問い合わせ	1	0.3%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%
5	医療機関	44	13.0%	2	50.0%	7	11.5%	32	12.5%
6	福祉サービス事業所	41	12.1%	0	0.0%	2	3.3%	38	14.9%
7	山形市指定相談支援事業所	9	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	9	3.5%
8	保育園・幼稚園・学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	インターネット	37	10.9%	2	50.0%	20	32.8%	13	5.1%
10	テレビ	23	6.8%	0	0.0%	4	6.6%	18	7.1%
11	新聞や雑誌	23	6.8%	0	0.0%	0	0.0%	22	8.6%
12	障がいの者の施設や団体の機関紙・パンフレット	15	4.4%	0	0.0%	5	8.2%	9	3.5%
13	家族や仲間の話	39	11.5%	0	0.0%	6	9.8%	29	11.4%
14	その他	8	2.4%	0	0.0%	2	3.3%	6	2.4%
15	知る手段がない	14	4.1%	0	0.0%	3	4.9%	11	4.3%
	不明	42	12.4%	1	25.0%	4	6.6%	34	13.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

福祉サービスの情報入手手段(全体)



福祉サービスの情報入手手段(年代別)

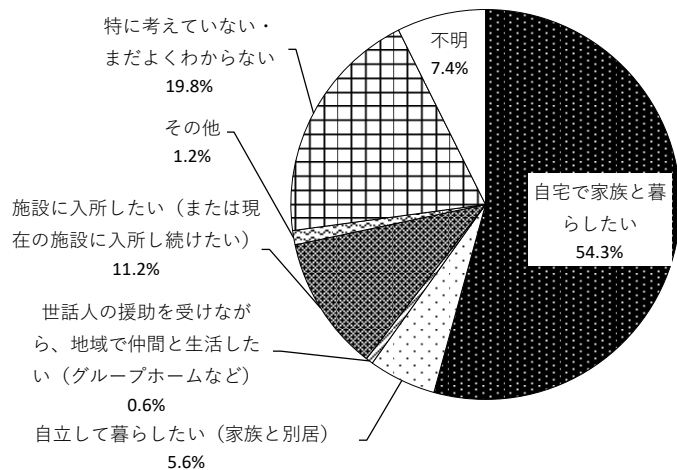


■ 今後の生活意向【SA】

問50 あなたは、今後(将来)どのように生活したい(させたい)ですか。(1つだけ○印)

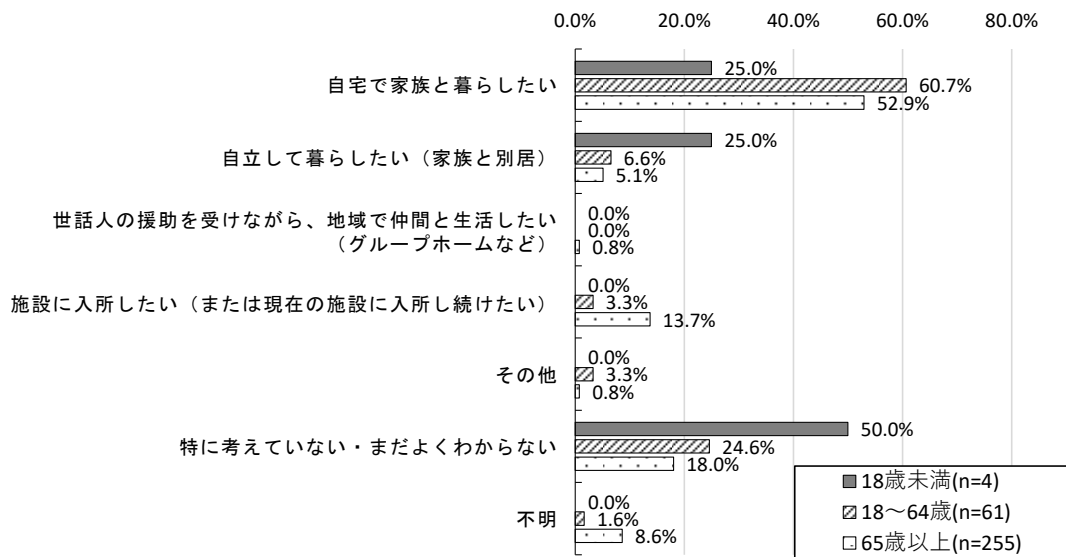
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	自宅で家族と暮らしたい	184	54.3%	1	25.0%	37	60.7%	135	52.9%
2	自立して暮らしたい(家族と別居)	19	5.6%	1	25.0%	4	6.6%	13	5.1%
3	世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい(グループホームなど)	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%
4	施設に入所したい(または現在の施設に入所し続けたい)	38	11.2%	0	0.0%	2	3.3%	35	13.7%
5	その他	4	1.2%	0	0.0%	2	3.3%	2	0.8%
6	特に考えていない・まだよくわからない	67	19.8%	2	50.0%	15	24.6%	46	18.0%
	不明	25	7.4%	0	0.0%	1	1.6%	22	8.6%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

今後の生活意向(全体)



(n=339)

今後の生活意向(年代別)

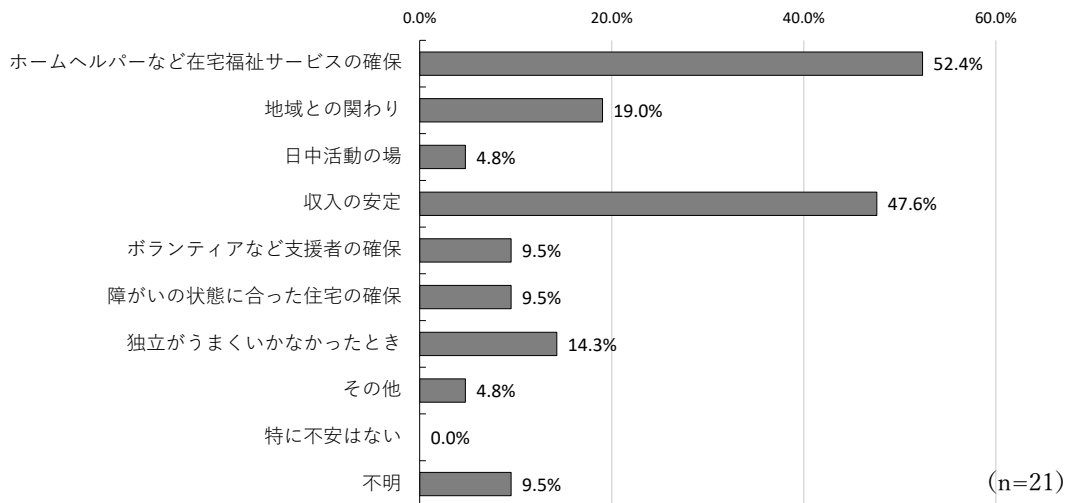


■ 独立にあたっての不安【MA】

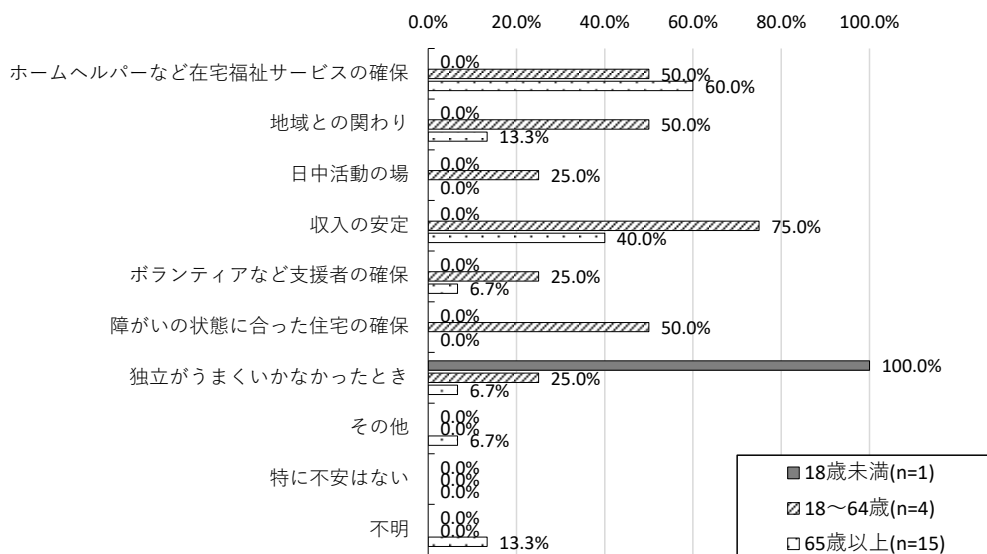
問51 問50で「2」または「3」を回答した方におたずねします。独立にあたり、どのようなことが不安ですか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保	11	52.4%	0	0.0%	2	50.0%	9	60.0%
2	地域との関わり	4	19.0%	0	0.0%	2	50.0%	2	13.3%
3	日中活動の場	1	4.8%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
4	収入の安定	10	47.6%	0	0.0%	3	75.0%	6	40.0%
5	ボランティアなど支援者の確保	2	9.5%	0	0.0%	1	25.0%	1	6.7%
6	障がいの状態に合った住宅の確保	2	9.5%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%
7	独立がうまくいかなかったとき	3	14.3%	1	100.0%	1	25.0%	1	6.7%
8	その他	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%
9	特に不安はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	13.3%
	全体	21	100.0%	1	100.0%	4	100.0%	15	100.0%

独立にあたっての不安(全体)



独立にあたっての不安(年代別)

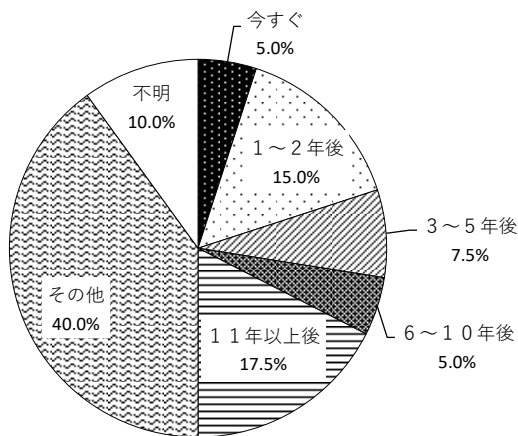


■ 施設等への入居・入所の時期【SA】

問52 問50で「3」または「4」を回答した方におたずねします。グループホームなどへの入居または施設への入所はいつ頃までにしたいと考えていますか。(1つだけ○印)

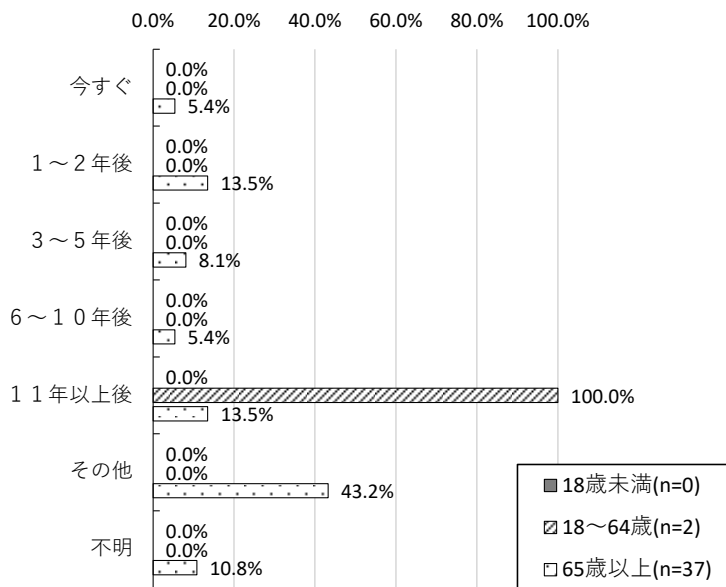
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	今すぐ	2	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.4%
2	1～2年後	6	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	13.5%
3	3～5年後	3	7.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.1%
4	6～10年後	2	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.4%
5	11年以上後	7	17.5%	0	0.0%	2	100.0%	5	13.5%
6	その他	16	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	43.2%
	不明	4	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	10.8%
	全体	40	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	37	100.0%

施設等への入居・入所の時期(全体)



(n=40)

施設等への入居・入所の時期(年代別)

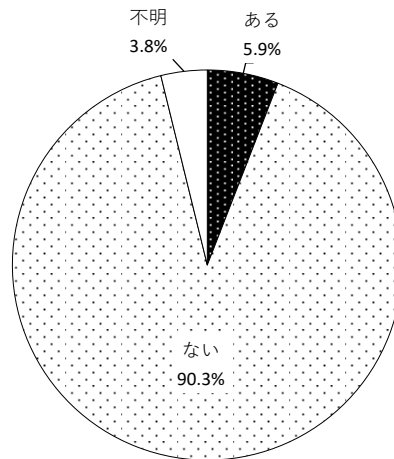


■ 悪徳商法の被害の有無【SA】

問53 あなたは、悪質商法などの被害にあったことがありますか。(1つだけ○印)

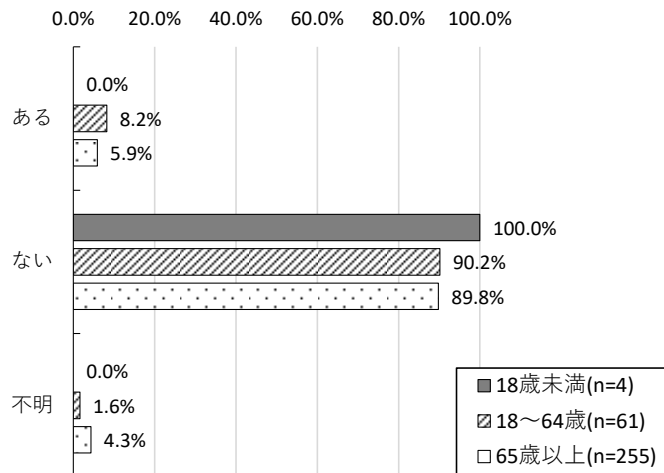
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	20	5.9%	0	0.0%	5	8.2%	15	5.9%
2	ない	306	90.3%	4	100.0%	55	90.2%	229	89.8%
	不明	13	3.8%	0	0.0%	1	1.6%	11	4.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

悪徳商法の被害の有無(全体)



(n=339)

悪徳商法の被害の有無(年代)

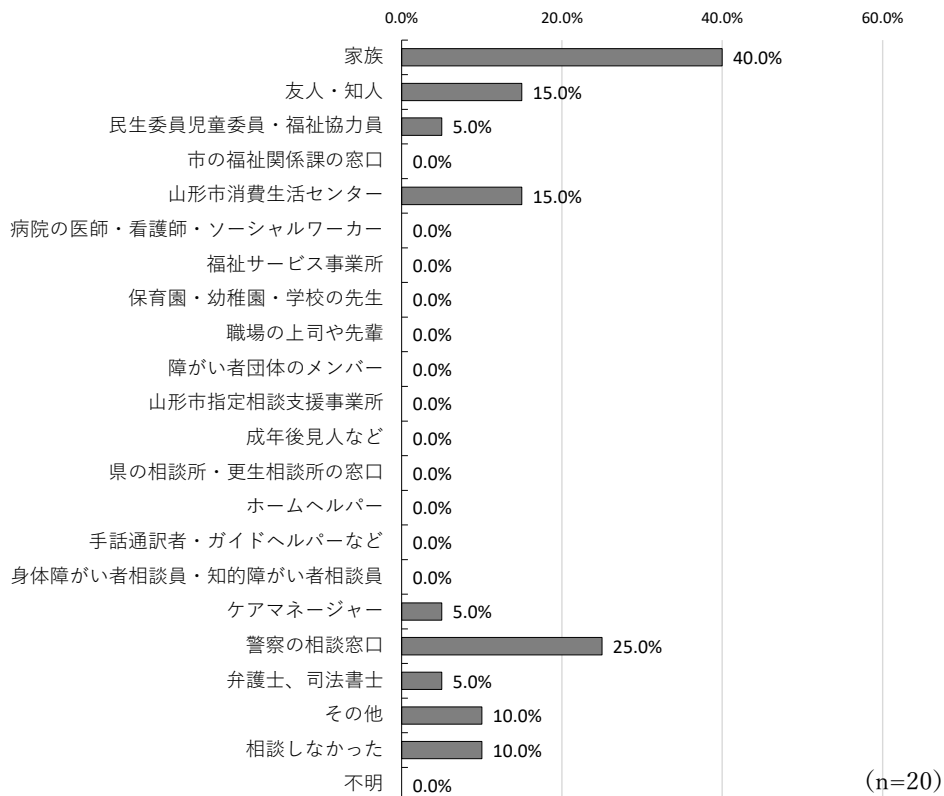


■ 被害の相談先【MA】

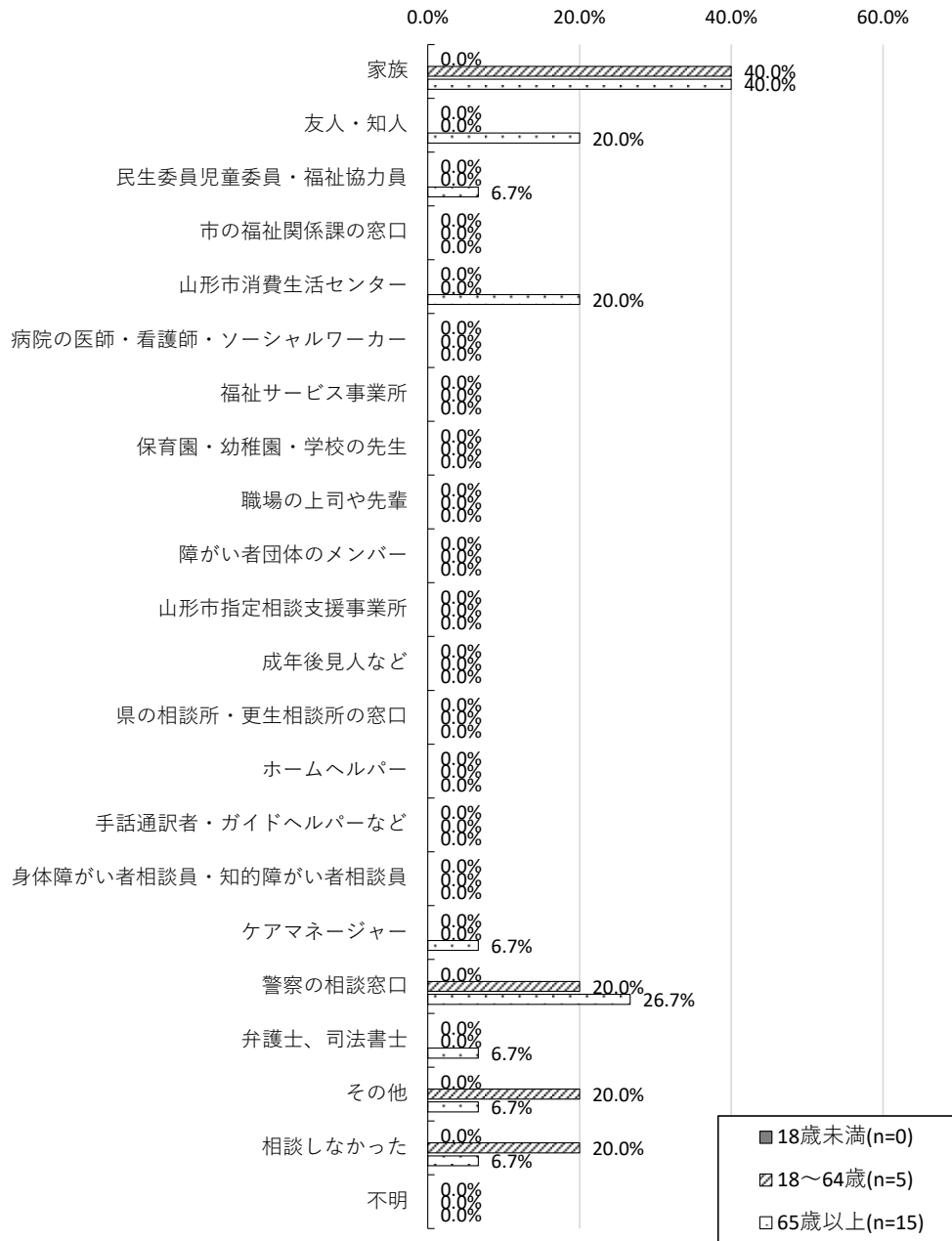
問54 問53で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰(どこ)へ相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家族	8	40.0%	0	0.0%	2	40.0%	6	40.0%
2	友人・知人	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	20.0%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%
4	市の福祉関係課の窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	山形市消費生活センター	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	20.0%
6	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	福祉サービス事業所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8	保育園・幼稚園・学校の先生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	職場の上司や先輩	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	障がい者団体のメンバー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	山形市指定相談支援事業所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12	成年後見人など	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
13	県の相談所・更生相談所の窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
15	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
17	ケアマネージャー	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%
18	警察の相談窓口	5	25.0%	0	0.0%	1	20.0%	4	26.7%
19	弁護士、司法書士	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%
20	その他	2	10.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	6.7%
21	相談しなかった	2	10.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	6.7%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	20	100.0%	0	0.0%	5	100.0%	15	100.0%

被害の相談先(全体)



被害の相談先(年代別)

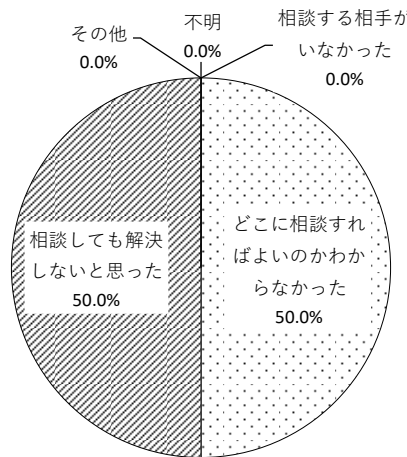


■ 被害について相談しなかった理由【SA】

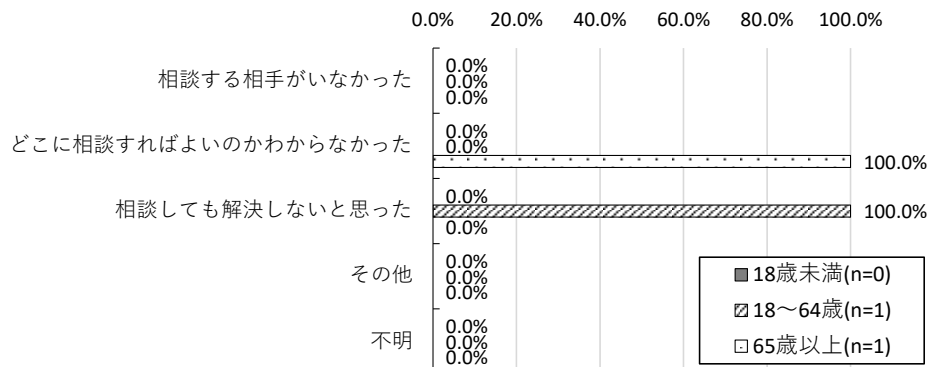
問55 問54で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。(1つだけ
○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	相談する相手がいなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	どこに相談すればよいのかわからなかった	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
3	相談しても解決しなかったと思った	1	50.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
4	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	2	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%

被害について相談しなかった理由(全体)



被害について相談しなかった理由(年代別)

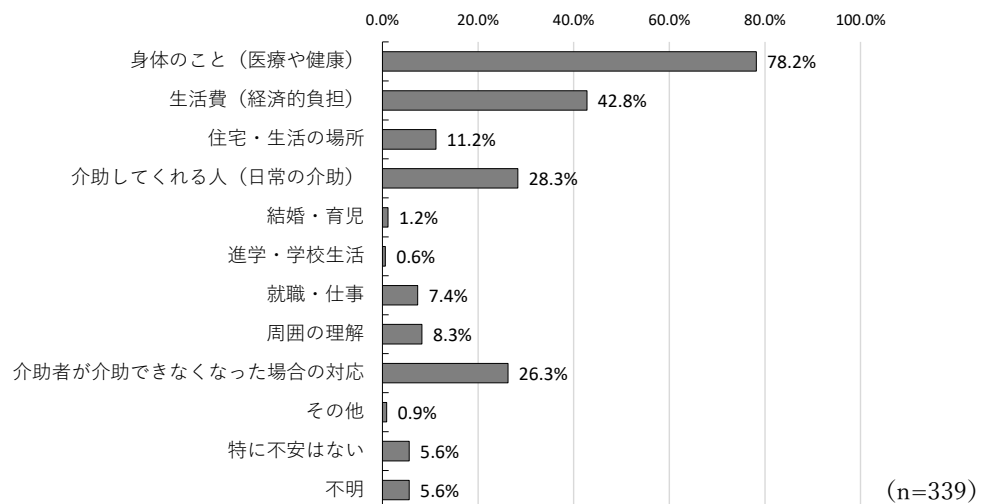


■ 今後の生活への不安【MA】

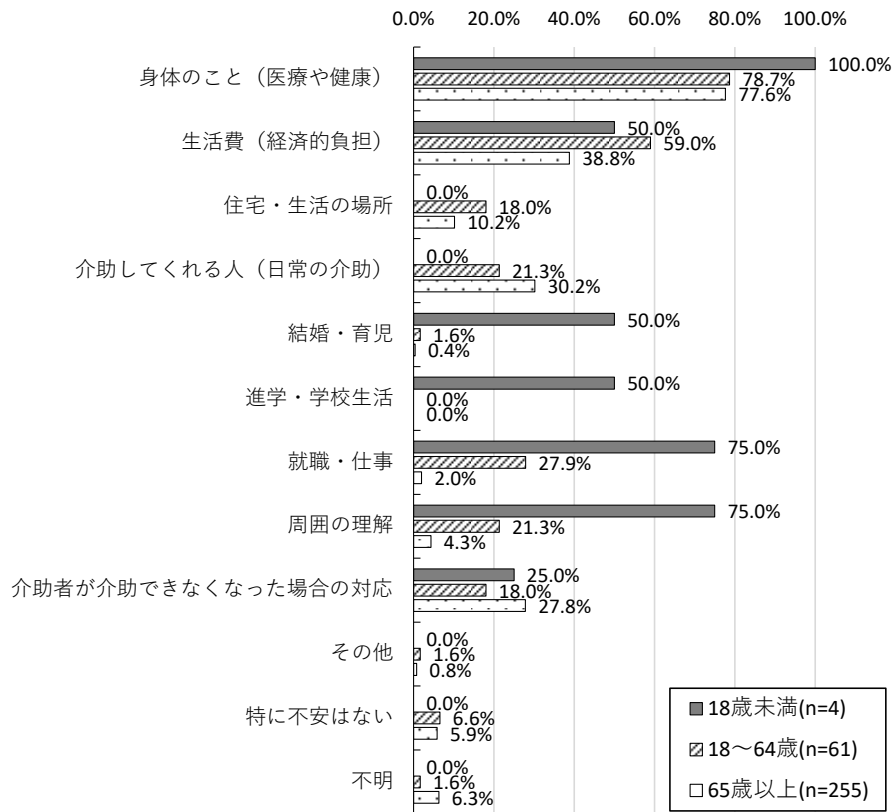
問56 あなたは今後の生活に対してどのような不安がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	身体のこと（医療や健康）	265	78.2%	4	100.0%	48	78.7%	198	77.6%
2	生活費（経済的負担）	145	42.8%	2	50.0%	36	59.0%	99	38.8%
3	住宅・生活の場所	38	11.2%	0	0.0%	11	18.0%	26	10.2%
4	介助してくれる人（日常の介助）	96	28.3%	0	0.0%	13	21.3%	77	30.2%
5	結婚・育児	4	1.2%	2	50.0%	1	1.6%	1	0.4%
6	進学・学校生活	2	0.6%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	就職・仕事	25	7.4%	3	75.0%	17	27.9%	5	2.0%
8	周囲の理解	28	8.3%	3	75.0%	13	21.3%	11	4.3%
9	介助者が介助できなくなった場合の対応	89	26.3%	1	25.0%	11	18.0%	71	27.8%
10	その他	3	0.9%	0	0.0%	1	1.6%	2	0.8%
11	特に不安はない	19	5.6%	0	0.0%	4	6.6%	15	5.9%
	不明	19	5.6%	0	0.0%	1	1.6%	16	6.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

今後の生活への不安(全体)



今後の生活への不安(年代別)

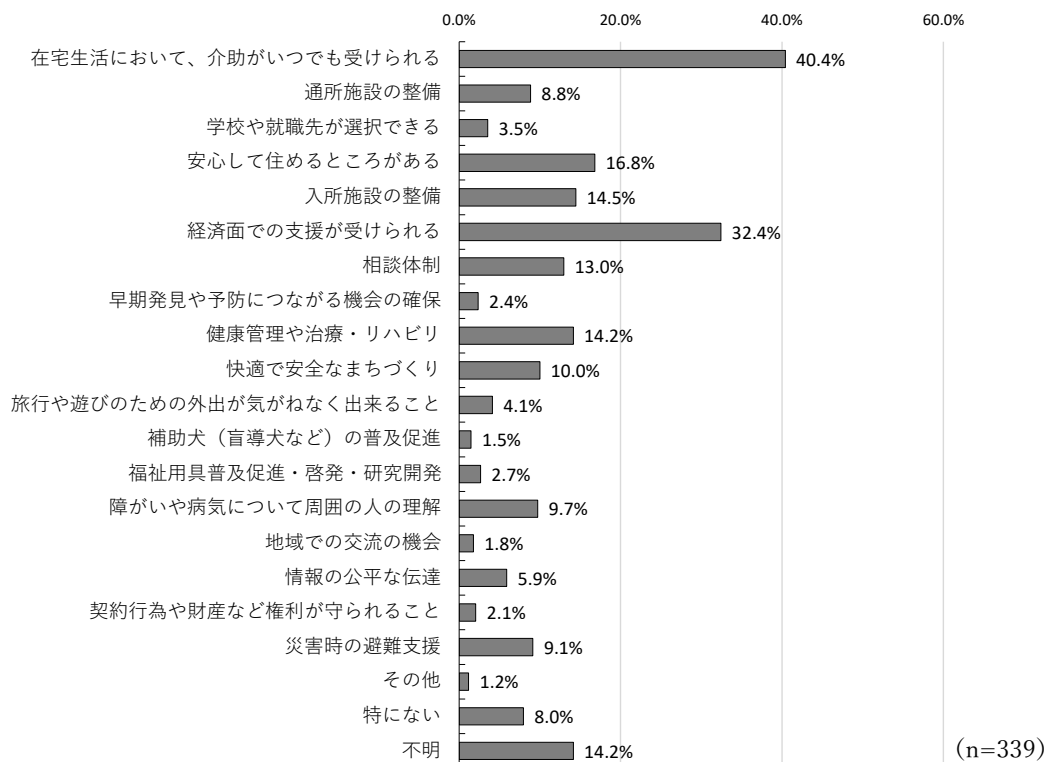


■ 障がい者福祉の充実に必要なこと【MA】

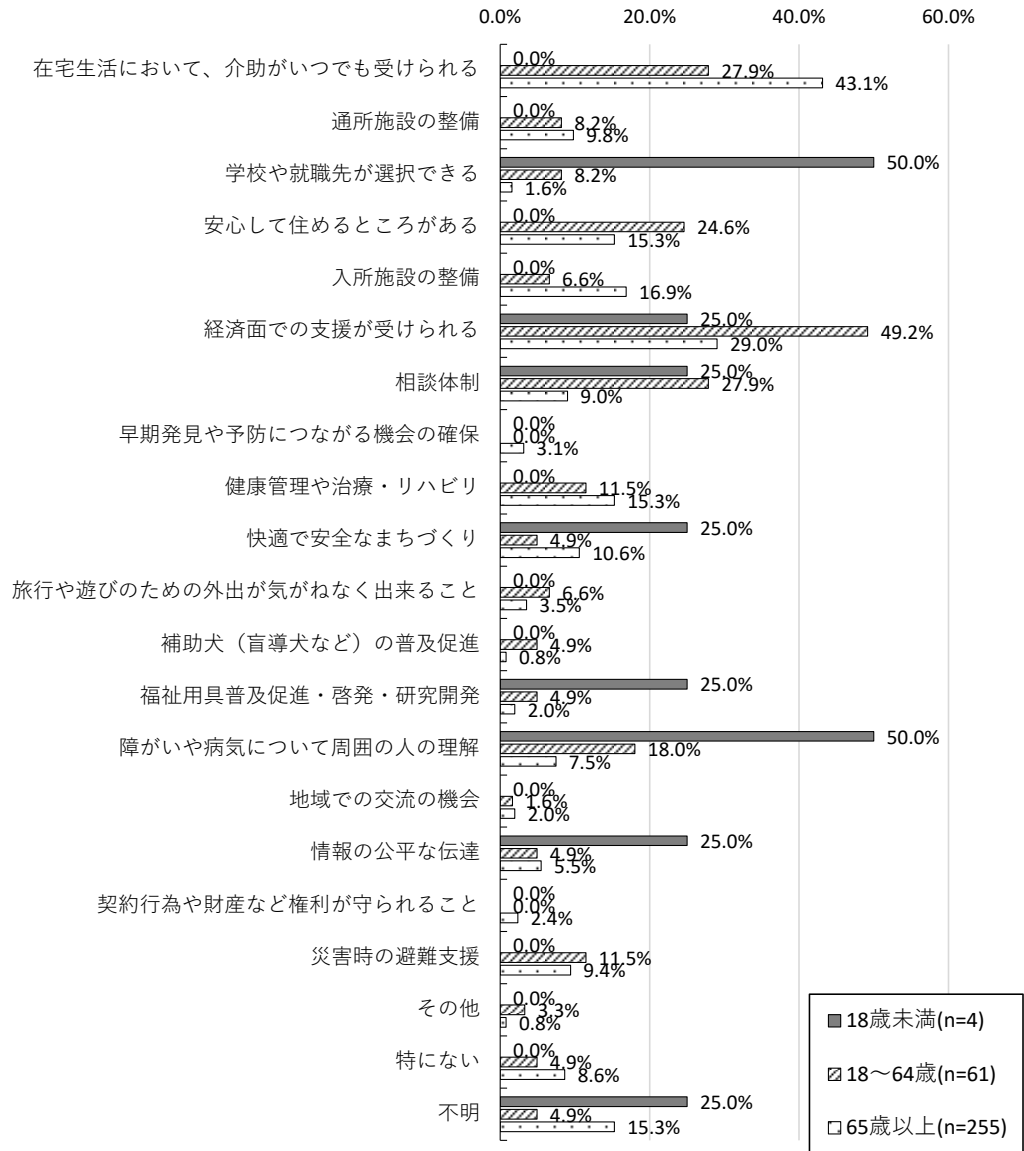
問57 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思われますか。（3つまで○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	在宅生活において、介助がいつでも受けられる	137	40.4%	0	0.0%	17	27.9%	110	43.1%
2	通所施設の整備	30	8.8%	0	0.0%	5	8.2%	25	9.8%
3	学校や就職先が選択できる	12	3.5%	2	50.0%	5	8.2%	4	1.6%
4	安心して住めるところがある	57	16.8%	0	0.0%	15	24.6%	39	15.3%
5	入所施設の整備	49	14.5%	0	0.0%	4	6.6%	43	16.9%
6	経済面での支援が受けられる	110	32.4%	1	25.0%	30	49.2%	74	29.0%
7	相談体制	44	13.0%	1	25.0%	17	27.9%	23	9.0%
8	早期発見や予防につながる機会の確保	8	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	8	3.1%
9	健康管理や治療・リハビリ	48	14.2%	0	0.0%	7	11.5%	39	15.3%
10	快適で安全なまちづくり	34	10.0%	1	25.0%	3	4.9%	27	10.6%
11	旅行や遊びのための外出が気ねなく出来ること	14	4.1%	0	0.0%	4	6.6%	9	3.5%
12	補助犬（盲導犬など）の普及促進	5	1.5%	0	0.0%	3	4.9%	2	0.8%
13	福祉用具普及促進・啓発・研究開発	9	2.7%	1	25.0%	3	4.9%	5	2.0%
14	障がいや病気について周囲の人の理解	33	9.7%	2	50.0%	11	18.0%	19	7.5%
15	地域での交流の機会	6	1.8%	0	0.0%	1	1.6%	5	2.0%
16	情報の公平な伝達	20	5.9%	1	25.0%	3	4.9%	14	5.5%
17	契約行為や財産など権利が守られること	7	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.4%
18	災害時の避難支援	31	9.1%	0	0.0%	7	11.5%	24	9.4%
19	その他	4	1.2%	0	0.0%	2	3.3%	2	0.8%
20	特にない	27	8.0%	0	0.0%	3	4.9%	22	8.6%
	不明	48	14.2%	1	25.0%	3	4.9%	39	15.3%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

障がい者福祉の充実に必要なこと(全体)



障がい者福祉の充実に必要なこと(年代別)



(11)災害時の対応について

火事や地震などの災害のときに、自宅にいる場合、一人で避難できるかを聞いたところ、「できる」(57.8%)が「できない」(36.0%)を21.8ポイント上回った。一人で避難できないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「一人で移動をすることができない」が74.6%と最も高く、次いで「一人で判断をすることができない」(11.5%)が続く。

居住地区の避難所の場所の認知状況については、「知っている」(73.7%)が「知らない」(20.9%)を52.8ポイント差と大きく上回った。また、火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、周囲の人に知らせることができるかを聞いたところ、「できる」(68.7%)が「できない」(23.9%)を44.8ポイント上回っている。

災害時、家族のほかに近所に助けてくれる人の有無については、「いない」(46.3%)が「いる」(44.0%)を2.3ポイント上回っている。家族のほかに助けてもらいたい人は、「近所の人」が49.6%と最も高く、次いで「行政機関などの職員」(9.4%)、「友人・知人」(9.1%)などとなっている。

「山形市避難行動支援制度」の認知状況について、「知らない」(70.8%)が『知っている』(20.1%:「知っているし、登録もしている」(2.1%) + 「知っているが、登録はしていない」(18.0%))を50.7ポイント差と大きく上回った。

災害時に避難支援を受けるために、個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することへの同意については、「同意できる」(72.0%)が「同意できない」(10.3%)を61.7ポイント差と大きく上回った。同意できない理由は、「個人情報などが他へ流出する恐れがあるから」が71.4%と最も高く、次いで「障がいがあることを知られたくないから」(11.4%)となっている。

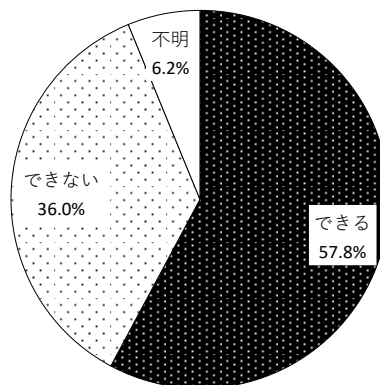
- ◎ 障がいのある人が地域社会において安全に安心して生活することができるよう、災害に強い地域づくりを推進する必要がある。また、災害発生時に、障害特性に配慮した適切な支援や避難場所の確保が求められる。アンケートによれば3割を超える方が「災害時に自宅から一人で避難できない」、4割を超える方が「災害時に家族のほかに近所に助けてくれる人がいない」と回答している。一方、災害時にこのような方々の避難を支援する「山形市避難行動支援制度」の認知度は、前回調査と比べて4.5ポイント下回るなど、まだまだ制度が浸透していない状況にある。

■ 一人での避難【SA】

問58 火事や地震などの災害のときに、自宅にいる場合、あなたは一人で避難できますか。(1つだけ○印)

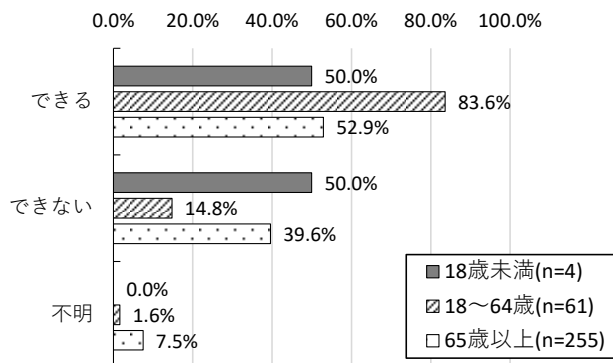
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	できる	196	57.8%	2	50.0%	51	83.6%	135	52.9%
2	できない	122	36.0%	2	50.0%	9	14.8%	101	39.6%
	不明	21	6.2%	0	0.0%	1	1.6%	19	7.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

一人での避難(全体)



(n=339)

一人での避難(年代別)

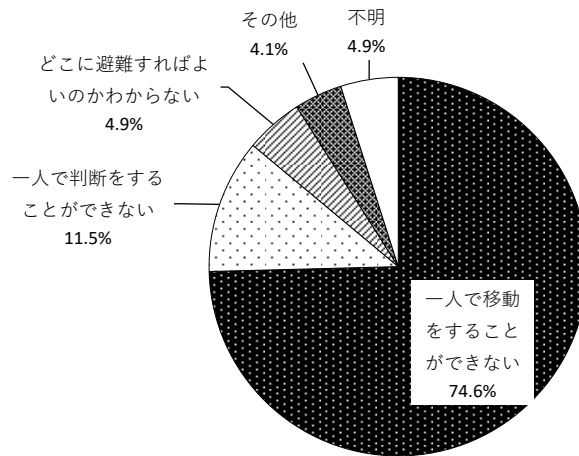


■ 一人で避難できない理由【SA】

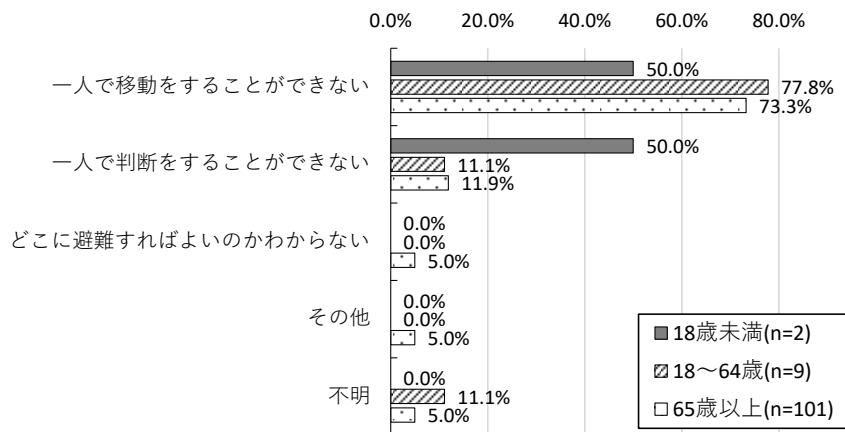
問59 問58で「2」を回答した方におたずねします。災害のときに一人で避難できない理由は何ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	一人で移動をすることができない	91	74.6%	1	50.0%	7	77.8%	74	73.3%
2	一人で判断をすることができない	14	11.5%	1	50.0%	1	11.1%	12	11.9%
3	どこに避難すればよいのかわからない	6	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	5.0%
4	その他	5	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	5	5.0%
	不明	6	4.9%	0	0.0%	1	11.1%	5	5.0%
	全体	122	100.0%	2	100.0%	9	100.0%	101	100.0%

一人で避難できない理由(全体)



一人で避難できない理由(年代別)

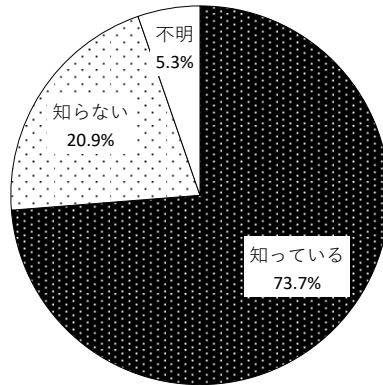


■ 地区の避難場所の認知状況【SA】

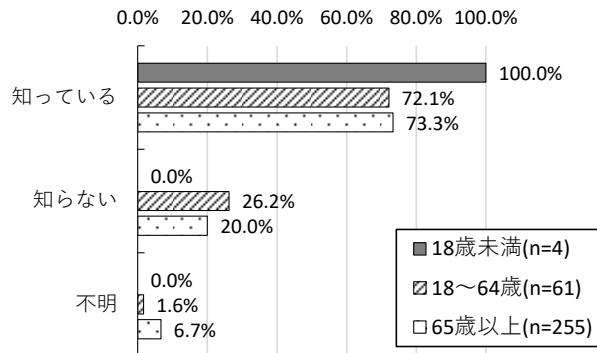
問60 あなたはお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	250	73.7%	4	100.0%	44	72.1%	187	73.3%
2	知らない	71	20.9%	0	0.0%	16	26.2%	51	20.0%
	不明	18	5.3%	0	0.0%	1	1.6%	17	6.7%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

地区の避難場所の認知状況(全体)



地区の避難場所の認知状況(年代別)

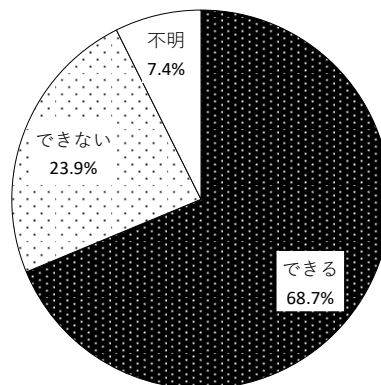


■ 災害時の自宅周囲の人への連絡【SA】

問61 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(1つだけ○印)

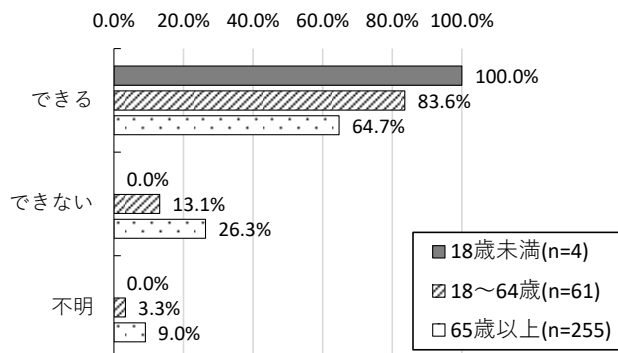
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	できる	233	68.7%	4	100.0%	51	83.6%	165	64.7%
2	できない	81	23.9%	0	0.0%	8	13.1%	67	26.3%
	不明	25	7.4%	0	0.0%	2	3.3%	23	9.0%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

災害時の自宅周囲の人への連絡(全体)



(n=339)

災害時の自宅周囲の人への連絡(年代別)

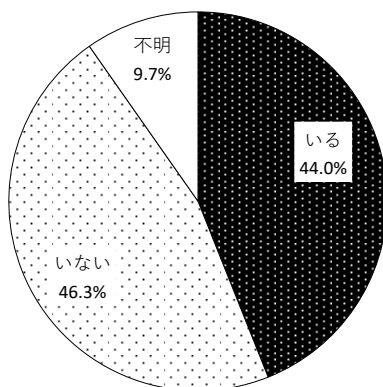


■ 災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無【SA】

問62 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、家族のほかにご近所にあなたを助けてくれる方はいますか。(1つだけ○印)

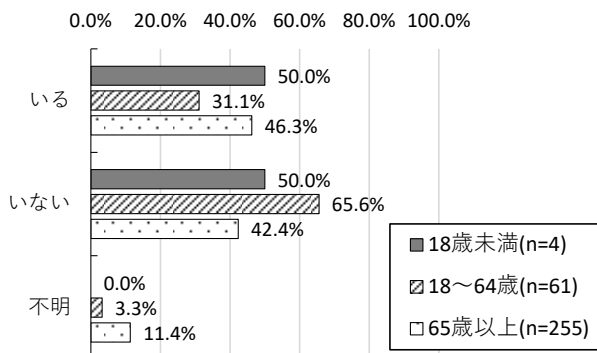
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	いる	149	44.0%	2	50.0%	19	31.1%	118	46.3%
2	いない	157	46.3%	2	50.0%	40	65.6%	108	42.4%
	不明	33	9.7%	0	0.0%	2	3.3%	29	11.4%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無(全体)



(n=339)

災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無(年代別)

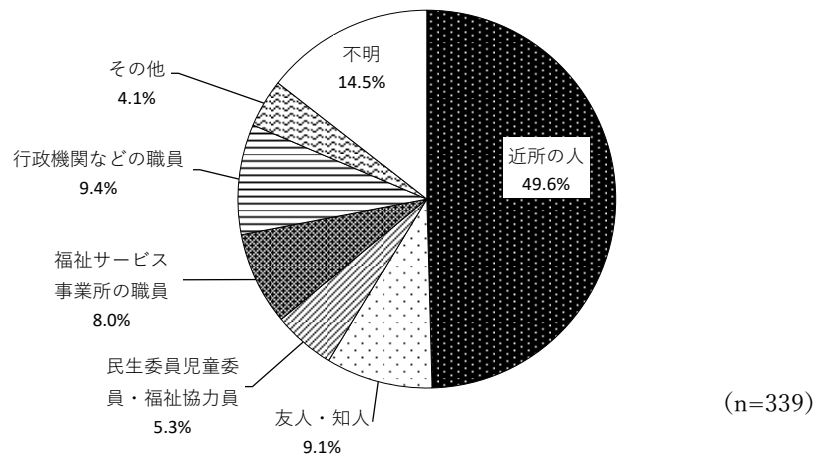


■ 家族以外で助けてもらいたい人【SA】

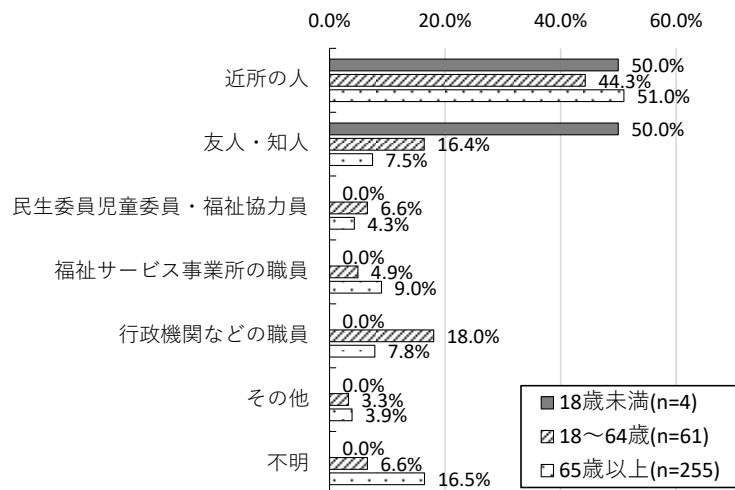
問63 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは家族のほかに誰に助けてもらいたいですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	近所の人	168	49.6%	2	50.0%	27	44.3%	130	51.0%
2	友人・知人	31	9.1%	2	50.0%	10	16.4%	19	7.5%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	18	5.3%	0	0.0%	4	6.6%	11	4.3%
4	福祉サービス事業所の職員	27	8.0%	0	0.0%	3	4.9%	23	9.0%
5	行政機関などの職員	32	9.4%	0	0.0%	11	18.0%	20	7.8%
6	その他	14	4.1%	0	0.0%	2	3.3%	10	3.9%
	不明	49	14.5%	0	0.0%	4	6.6%	42	16.5%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

家族以外で助けてもらいたい人(全体)



家族以外で助けてもらいたい人(年代別)

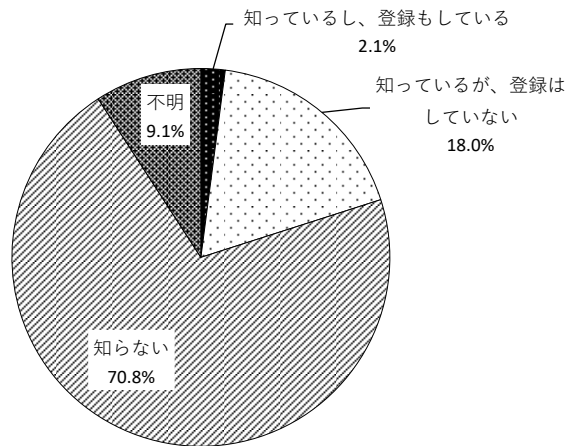


■ 山形市避難行動支援制度の認知【SA】

問64 「山形市避難行動支援制度」を知っていますか。(1つだけ○印)

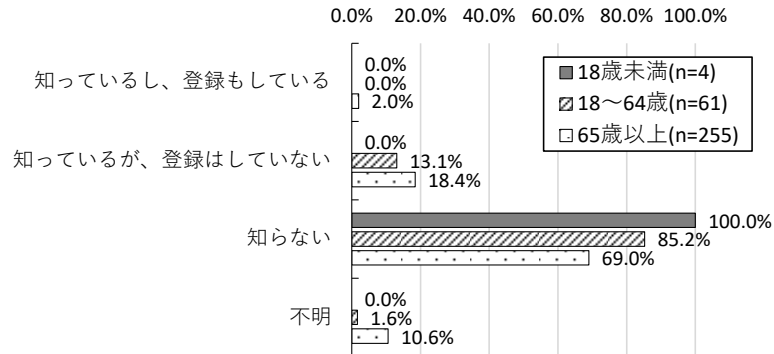
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っているし、登録もしている	7	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.0%
2	知っているが、登録はしていない	61	18.0%	0	0.0%	8	13.1%	47	18.4%
3	知らない	240	70.8%	4	100.0%	52	85.2%	176	69.0%
	不明	31	9.1%	0	0.0%	1	1.6%	27	10.6%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

山形市避難行動支援制度の認知(全体)



(n=339)

山形市避難行動支援制度の認知(年代別)

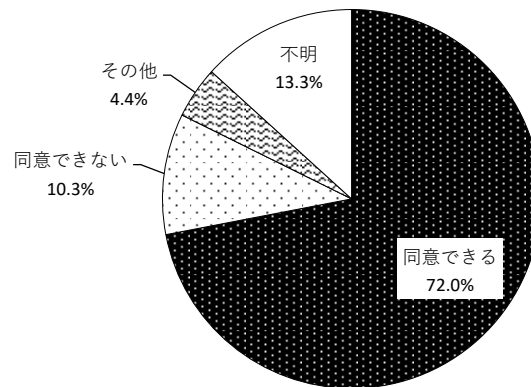


■ 個人情報の提供への同意【SA】

問65 災害時に避難支援を受けるために必要であれば、あなたの個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することに同意できますか。(この回答では、個人情報の提供に同意したことにはなりません。)(1つだけ○印)

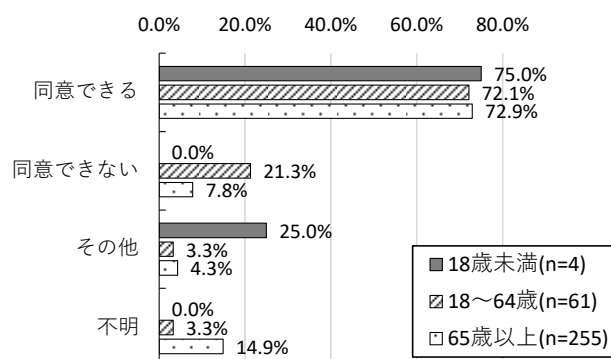
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	同意できる	244	72.0%	3	75.0%	44	72.1%	186	72.9%
2	同意できない	35	10.3%	0	0.0%	13	21.3%	20	7.8%
3	その他	15	4.4%	1	25.0%	2	3.3%	11	4.3%
	不明	45	13.3%	0	0.0%	2	3.3%	38	14.9%
	全体	339	100.0%	4	100.0%	61	100.0%	255	100.0%

個人情報の提供への同意(全体)



(n=339)

個人情報の提供への同意(年代別)

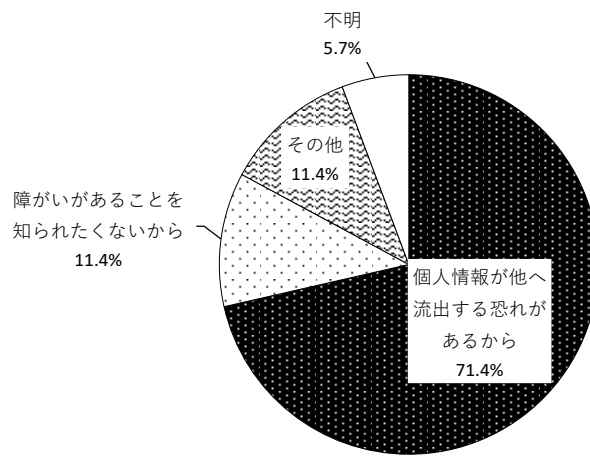


■ 個人情報の提供に同意できない理由【SA】

問66 問65で「2」を回答した方におたずねします。同意できない理由は何ですか。(1つだけ○印)

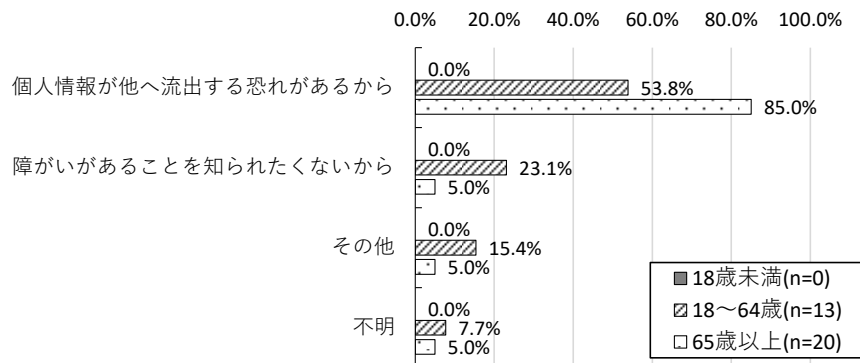
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	個人情報が他へ流出する恐れがあるから	25	71.4%	0	0.0%	7	53.8%	17	85.0%
2	障がいがあることを知られたくないから	4	11.4%	0	0.0%	3	23.1%	1	5.0%
3	その他	4	11.4%	0	0.0%	2	15.4%	1	5.0%
	不明	2	5.7%	0	0.0%	1	7.7%	1	5.0%
	全体	35	100.0%	0	0.0%	13	100.0%	20	100.0%

個人情報の提供に同意できない理由(全体)



(n=35)

個人情報の提供に同意できない理由(年代別)



(12)障がい者施策に関するご意見・ご要望

問67 山形市の障がい福祉施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

■ 障がい者支援体制の強化に関すること

- 90歳代、特養入所中であり、確かに身障者であるが介護保険サービスで維持しており、身体手帳も重度に変更申請できると思うが、要介護4(=重度)であり、身障サービスはほとんど利用していません。ケアマネは身障行政については、全く関知せず(相談しても私らの領分でない。知識もない。行政への橋渡しもしない)、手帳申請はDrと市担当への相談で家族が行いました。身障行政と介護行政の連携(身障行政を相談する人は民生委員と思うが、市役所ダイレクトの方が便利)。今日のアンケートにも少し馴染まない対象者だったと思う。

- 両親も高齢になり身体的にも私の支援が難しくなってきたのでヘルパーさんに支援してもらいながら一人暮らしに挑戦することになりました。重度訪問介護の申請をしましたが私には一日七時間くらいの支給時間しか与えられないと言われました。生活には七時間程度の支援では足りない私にとって一人ぐらしを諦めなければならないのかと絶望しました。のちに支給時間を超える申請があると知り申請しましたが気管挿管していない私には夜の支給時間は必要ないと言われました。ひとりひとりの障害の状態は違い、挿管していなくても出来ないことはたくさんあるのに、命が危険に陥ることもあり、私の生活を実際に見てもいない調査官がどうして一人一人に合わせた支給時間を決められるのか疑問に思い、支給時間をもらえないことに悲しくなりました。住宅を探すにも本当に大変で県営住宅の募集が出ていて高齢障がい者向けとなっていたので応募する前に車いすでも住める部屋か見せて欲しいと言ったら抽選に当たってからじゃないと絶対に見せられないと言われました。仕方なく抽選に応募して当たったので部屋を見せてもらったら、トイレも風呂も狭く、車椅子では全く住める住宅ではなかったのです。ある市営住宅は車いすでも住みやすくなっているものの市内のはずれにあり、会社に行くにも環境的に住みづらく、もっと中心に近い場所にどんな障がい者でも住める公営住宅を作って欲しいです。支援をしてもらわなければ一人暮らしできないので、重度訪問介護の事業所を探しましたが、人材不足を理由に全然見つかりませんでした。居宅介護よりかなり単価が安いと聞いているので撤退する事業所も多いので制度の料金の部分でも改善されるともっと挑戦する障害者も事業所も増えると思います。仕事の通勤や工作中に支援してもらえるヘルパーが利用できるようになることを希望します。

- 便利、近い、内容、充実、料金

- 病気入院から施設入所がスムーズにできるようにお願いしたい。

- 中ほどにも書かせて頂きましたが、現在娘は寝たきり状態です。週2日2ヶ所の施設をお風呂で利用させて頂いております。両方の施設の方々みなさん親切にさせて頂いておりますが、娘のような状態で、市内では2ヶ所の施設しか利用できず、今は、介護している私は面倒をみることができますが、体調が悪くなったとき、身内に不幸があった時など、数日預けなくてはいけなくなった時、胃ろうはしていますが、食べるのが好きなので三食+胃ろうできる場所があれば良いと思います。今後利用できる場所が増えれば嬉しいです。宜しくお願い致します。おむつの支援をさせていただいておりますが入退院を繰り返していて、退院して来た時のみ利用させて頂いておりますが、できれば入院中も利用できるのが嬉しいです。入院中の方がお金かかるので、オムツ代もかさむので、市で利用させて頂いているパッドとか購入させてもらいたいぐらいです。安くていいなーと…。

「身体障がい」調査結果

- 足の障害で歩きづらから自転車で移動しています。自転車道は傾いていて走りづらく転倒しやすい。駐輪場が目的地から遠い（駐輪できないところもある）。

- 障がい者が高齢になった時に、特別養護老人ホームなどに優先的に入れるようにしてほしい。

- 障がい者が内部なので他から見ると障害者に見られず駐車する時も白い目で見られ、年々年を取るたびに認知症になるのか心配事が増している！！この頃歩けなくなり、手術するたび体力がなくなり車で移動ができる内はいいが動けなくなったら息子は遠方に通勤なのでほとんど一人でいなければならず調子が悪い時は一人で泣いています。一応近所の民生員さんにも相談しているが車に乗れて一人で動いているので今の所話を聞いて貰うだけです。毎年弱って来ているので家事が出来ない所は誰にたのめるのか？誰に相談するのかはっきりしないのが現状です。障害者からか高齢からの相談がまた大動脈瘤の手術が（今回は去年手術したところがもれていなかったのでパス）有る時は医療の相談の窓口がはっきりしなくせつかく命をつないで貰ったのに死を考えている状況です。もう少し相談窓口を広げて頂いて医療費も一割がありがたいのですが検査費用ももう少し支援願えれば助かります。息子同世代と言うだけで介護保険も高いし一所に暮らしてる事になるが経済的にお互いに苦しく別世帯にしたいが中途半端で毎日の生活が心配です（手術が有ったりすると）またいずれ完全に動けなくなった場合施設にすぐ入れる様に何年か待ちの状態だったら、息子一人では困りはてるので設備を充実して貰いたい（増設？）公的年金を貰ってから障がい者になったので障害年金が受けられません。両方は無理との事ですが物価高や年金が上がらず毎日の生活が大変です。障害年金も貰えるとやっとなりで生活できると思います。

- 重度心身障がい者医療の給付内容について東北各県の県庁所在市と同程度まで引上げてほしい。

- 重度、軽度の分けへだてなく、相談や支援を行ってもらえればと思います。

- 持病が悪化した時だけの介助が受けられる様な所を紹介してほしいです。

- 紙おむつ支給には、同居家族の住民税でしぼりがあり、要介護4・5であっても支給が受けられません。若い人が同居していれば、当然受けられません。支給を受ける為に、別居するように言うしかありません。少しでも支給してくれることを望みます。

- 私は2年前施設に入所していたので、身体障害と精神障害の手帳の更新しなかったため、今は手帳を持っていないので、手帳を更新したいです。そして今まで障害者のお金をもらったことが無かったので、少しでも年金をもらいたいです。

- 支援制度が発足した頃だったと思うが、登録者より支援者としての話を受けたことはあったが、支援者としての確認はできなかった。幸い、避難するようなことはなくよかった。現況から見て、近隣者も高齢・少数化しており、2名の支援者をお願いできる状況にはない。

- 支援給付金、ごみ袋など、いつもありがとうございます。とても助かっています。

- 高齢者にとって地域の交通網の充実は重要な課題です。自家用車を手放すことが目の前にある状況での頼りは移動のサポートを重要な施策としてほしいです。ペニちゃんバスは優れた移動の方法として認識しています。郊外の地区にもそれを広げてほしいものです

- 公共交通機関、駐車場等の割り引き、レジャースポットの割り引き、医療費の割り引きなど、数々の減免措置を受けており、大変な恩恵を受けており、大変申し訳がないような気持ちにもなります。私には十分すぎますが、他の方で足りない方などいらっしやったら、その方たちにも福祉サービスを充実させていただきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

- 何事もより良い、素早い対応を切に願います。

- タクシー券、ガソリン券について、1回の利用における利用枚数制限をなくしてほしい。補助という考えもわかるが少ない為わずらわしく思う。ガソリンについてはきわめて高いスタンドでの対応となり、格安店のプリペイドと比べ20円/ℓほどの開きがある。

- 種々の減免措置がありますが、範囲を拡大してもらえるとありがたいです。

- 5級はあまりひどい障害と思われないうで(自分は足が結構痛い)あまりサービスがないようで残念です。よく調べてみたいと思います。

- 障害のある、なしに関係なく、地域に”ゆったりした気分で、散歩に出かけ、ベンチに腰かけ、景色(自然)を楽しめる”という環境がどこにもないため。特に高齢者は、家で過ごすよりないのかもしれない。最近、公園の遊具は少しずつリニューアルしきれいに整備されてきている感じがしますが大人(年配者)は、元気な人は自ら出掛け、参加したり、楽しみ方は色々あるようですが、交通弱者や(地域性もありますが)”楽しむ”という生活が手近かにないのが現状のように思います。

- 医療機関を利用する機会が増えているので、自己負担額は相当増加している。自己負担割合をもっと少なくして頂きたい。

■ 障がい者支援情報・制度等の広報強化に関すること

- ・年金だけで入れるホーム(施設)があるのかな。・社協だよりにあるとよいと思う。・街角にベンチがあると助かる。・全体の印刷物が、文字が小さい。あとすこし大きくあると、みる。読む。・この種のアンケート仕事とはいえ関係者方々に感謝します。・介護、国保料高いです。他の自治体もそうなのかしら。

- 身体障害者手帳は、以前から持っていましたが、本人は免除制度を知りませんでした。(独居)住民税・NHK受信料は、施設入所まで払い続けておりました。住民税は3年分還付して頂きましたが、(他市町村)NHK受信料は、還付してもらえませんでした。(無理なセールスがあり、断り切れなかったとの事)。山形市の行政さんと、NHKさんと連携をとる等、高齢者や立場の弱い人を守る工夫をして頂けるとありがたいです。よろしく願いいたします。

- 避難時、車いす、盲者、様々な障がいを持っている方が情報等、わかりやすい環境できたらうれしいと思っています。

「身体障がい」調査結果

- 私は訪問介護の事業管理者をしています。自分自身の事業所も出来ていない部分もあります。相談出来ない分からない部分もあります。お客様に対しては調べ答え何かあるときに障がい福祉課や社協の話もします。しかし知らない事が多すぎる、どんなサービスを使えるか分からない。
先日、通院介助時タクシーの中でミライロ ID を見つけびっくりした。
もっと福祉は分かりやすくすべきだと思います。駐車場でも勇気を持って駐車スペースなど試してみようと思いました。駐禁指定徐をもつ私でさえ事業管理者の私でさえできない分からない事沢山あります。
もっと事業所にもリーフなどメールでも送って欲しい。昔し昔しの障がい手帳使っている方もいます。もっと"福祉"充実できるはずです。
共に生きる社会を作るため私はこれからもヘルパーを続けます。どの障がいも同じ苦しみがあるのです。障がい手帳をもっている方には少しでも受けれるサービスを伝えて下さい。皆が共に生きれる社会を作って下さい。事業所としても勉強したい。伝えたいと実際ケアをしても知らない方の多さにびっくりします。勉強するキカイを下さい！もっとその人らしい生活ができる様サポートしたいです。
障がい福祉課の皆様いつもありがとうございます。いつも優しく対応して下さい。事業所としても障がい者としても。もっともっとメールをしてかたくるしくないチラシやリーフも欲しいです。
tel やメールの相談アドバイス窓口欲しい。
全ての人が住みなれた山形でその方らしく生きていけるように！
苦しんでいる方沢山います。
ケアしていますが私も相談してみたい、ヘルプカード P。

■ 行政への要望に関すること

- 毎年、福祉課に出向いて、福祉給付券を交付していただいておりますが、窓口の方から「では、これをおあげします」と言われました。何かすっきりしない言われ方だと感じました。窓口の方の名前はわかりませんが、その方から交付してもらおうわけでもなく、他の言い方があるのではと思います。
- 障がい者の申請に窓口に行った時、担当者がネームプレートに赤い羽根を入れて、名前がわからないようにしていた。
- 手続きのために市役所に行かなければいけないのが大変なので、インターネットなど、別の方法があってほしい。
- 市役所に行かなくても、また当該施設に出向かなくても、オンラインで制度の申し込みや、施設の利用登録などが出来る様にして下さい。
- 高齢身障者の医療費請求が障がい福祉課となり、窓口が一本化にされたことなどは大変ありがたい。今後も、窓口の簡素化を推進していただきたい。

■ 障がい者理解の促進に関すること

- 障害を持つ人の不安や困難を多くの（健常者たち）が理解することはよいではない。近年では子ども期からの教育や障害がある人との交流活動によって次第に理解が進んで来たとはいえるが、まだまだ十分ではない。行政には市民に対して広く障害や病気について知識理解を深める啓発を行ってほしい。また障害のある人たちやその協力支援者達とひんぱんに接する機会を作り、多くの声や意見を聞き入れ制度に反映させてほしい。行政には医療福祉機関や職場（会社）学校、また地区と情報の共有や連携をはかっていただきたい、当事者が一か所でも相談すれば済むようなネットワークの構築を検討してほしい。タクシーチケットの補助なども確かに助かる事業ではあるが、その制限枚数などは少し足りなさすぎると思う。本当に必要な方にはより多く支援できる制度が良いのではないかと思う。「障害」の種類や程度も多様で個人差も大きいと考えられる困難さがあれば個々に寄り添ったキメの細かさがあったほうが良いと思う。東北地方に限らず今後高齢化も進みより障害者への政策は重要性を増すと考えられる。山形市には是非全国の模範となる様な福祉分野の行政政策を進めていくことを期待します。当事者の声をひろく集め、当事者により沿った行政を期待しています。また、国内他地域や海外の先進事例を学び、市民住民にも広報、普及啓発をしてほしいと思います。大いに期待しています。

- 問 58～の質問でふと感じたのですが。（これは山形市さんの問題ではないので、あくまでも個人的に感じたこと）いろいろな所で障がい者の方が働けるようになり、ありがたいと思いますが。私が働く職場では、いわゆる火災や地震の時に備えて訓練が行われますが。私のような障がい者向けの訓練ではありません。これってどうなの？と。死ねって事か？ 山形市さんでも障がい者の方が働いてると思うのですが。地震や落雷等で停電した場合、体の不自由な方（車いすの方はもちろん、階段で1階まで自力で移動できない方々）避難どうされるのですか？〇〇さんがおんぶして外へ行こうとか何か対策をしたり、実際におんぶして階段を下ったりされてますか？障がい者を雇用している企業さんとかどうしてるのですか？すごく気になっていろいろ調べたけどデータとか対策とかがネット上でも見つけられません。お店で買物していても思うんですね。故障してエスカレーター・エレベーターがもしも動かなくなった場合、店員さん達を頼ってもだいじょうぶなのか？？とか。歩道を走行する自転車もなんとかしてほしいです。とくに朝、通学する高校生、2列で並走して、歩道を乗車してマナーが悪すぎる。クレームを言いたいけど学校もわからない。どこに言えばいいの？教育委員会？警察？ぶつかって、こちらが転んでも、自転車は通りすぎているし、誰も助けてくれない。大人も歩道を自転車で走行しているのも、すごく困ります。

- 障害の理解には、障がいを持つ方を身近に感じる必要があると思います。身近に感じるには小さいころからの関わりが必要です。差別は知らないことから始まると思っています。知らないこと→こわいこと→差別。小さいころから日常に障害のある方と関わることで障害のある方を特別視することなく普通に接することができるようになるのではないかと思います。保育園や学校で障害のある子とそうでない子が一緒に学ぶことができるように保育園や学校の環境を整えること（建物、人員を増やすなど）を検討していただけたらと思います。※他市町村のインクルーシブ教育事例をTVで観ました。ここまでいくには長い時間がかかるとは思いますが、目指していただけたら素晴らしいと思います。

「身体障がい」調査結果

- 私は、身体障がい者ではありますが、聴力なので体を動かしたりすることに対しては何も不自由がありません。なので、このアンケートに関することが他の障がいの方より当てはならないことが多いです。見た目も補聴器がかかっていると、障がい者とはわからないので、私が障がい者と知らない人からは、何で聞いていないの？無視をしているなど言われることも多くあります。わかりにくい障がいに対しては、対応も難しいとは思いますが、日々こういうことがあると精神的にも辛くなります。健常者の方に全部理解してもらうことは無理があると思います（私も難聴者ですが、視覚等他の障がいのことを理解できずにいます）が、少しでも間違った理解がなくなればいいなと思います。たとえば、難聴だから大きな声で言えばわかるだろうと、補聴器をしている耳元で大声を出したり、私のように中途難聴だと手話は分からない方が多くいるのに手話を使われたりなど。難聴だけでも、いろいろ間違った理解をしている人がいるのですから、多種多様な障がいに対する正しい知識など、理解する方が難しいと思うので、お手伝い、サポートして下さるかたにはまず、どうしてほしいのか、どうすればよいのか聞いてもらえる世界になるといいです。私も仕事をしていて聞こえない部分が職場の方にたくさん助けていただいています。職場の方は、どうしたらよいかをきちんと聞いて下さいますし、こちらも伝えやすい環境を作ってください。私達障がい者が生きていくうえで、健常者の方がいて助けてくださるから成り立っているということも当たり前にならないよう、感謝しております。

-
- 今後とも私共の声が社会に反映できますようによろしくお願い申し上げます

■ アンケートに関すること

- 障がい福祉政策がどういうものかわからない。
- 今回のアンケートの一部は60歳代高齢者にはそぐわないところがありました働き盛りの方と老後を考える方とは内容がかわるとおもいます。
- 此の度はこのようなアンケートに参加して広く社会に目を向けて、考え自分の行動を振り返り障害を持つ1人として様々な支援を頂いている事に感謝致します。
- 高齢のため文字を見るのが面倒くさい。訪問して話してもらえるのが一番ありがたい。
- このような広い内容のアンケートを受けたのは初めてです。自分自身にとっても勉強になりました。
- 「アンケートは無記名」とあるが、障がい種別、年齢、性別である程度特定できるのでは？せめて年齢を「00代」にするなど配慮が必要では。今年障がい者になって、山形市の福祉対策など初めて知った。いろいろ充実していること、認知されていないと感じた。もっとアピールと周知すべき。

■ その他

- 体に無理をしても働かないと食べていけない、生活していけない。住む家も賃貸アパートである。今後本当に生活していけるかもとても不安である。県営団地や市営団地も古くて環境が悪い。もっと街中にあるのがよいし、将来に向けて買い物しやすい所、除雪しなくてよい所などがよいと考えているが、全く考えられていない。
- 障がい者の事を色々考えてくださりとても嬉しく思います。でも何事も形式だけでなく中身が大切だと思います。ある意味特別に考えるのではなく、健常者の福祉が充実すれば、おのずと双方が良くなるような気がします。それぞれの現場の声をよく聞く事が大切と考えます。
- 実体験ないのでよくわからない。

- 視力障害の身障者手帳について、更新目的で病院への受診を勧告されているが、足腰が弱まっているため、とても受診は出来ない、どうしたらよいか。

- 私は透析に週3回通院していますが、皆いつも笑顔で対応してくれるので、逆に元気をもらって（障がい者1級）ですが、市の障がい福祉施策にも感謝しており、満足しております！これからもどうぞよろしくお願い致します。

- 今の処自分で出来る事は進んで時間がかかってもやりとげます。が、新聞雑誌ゴミの整理はしても指定の場所までは今の処主人に助けてもらってます。外で転倒してから足、手にしびれがあり、ホームドクターから薬を頂いてますがなかなかとれません。

- 近くのスーパー、銀行がどんどん移転したり無くなったり。喫茶店などもほとんどなくなってしまいました。友達や他人との交流もできなくなって淋しいかぎりです。高齢者、障がい者はとても生きづらい世の中になっていませんか。どうしたらよいのでしょうか。

- 一人暮らしなので、近所の友達作りが大切と思われれます。大事にしています。

(13)障がい者施策に関する主なニーズ「身体障がい者」

【働き続ける(または将来働く)ために必要だと思うこと】

働き続ける(または将来働く)ために特に必要だと思うことについて、全体では、「特にない・まだよくわからない」が31.6%と最も高いが、具体的な回答の中では「障がいや病気に対する理解や配慮」(16.2%)、「自分に合った仕事である」(15.9%)と続いている。

≪身体障がいの部位別≫

身体障がいの部位別でみると、いずれの区分でも「特にない・まだよくわからない」が最も高く、2割半ばから4割を占めたほか、「障がいや病気に対する理解や配慮」及び「自分に合った仕事である」はいずれの区分でも3位以内となった。また、<視覚>では「会社や家族などの自分への理解」と「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」が、<聴覚・平衡・音声・そしゃく>では「会社や家族などの自分への理解」が、<内部(心臓・腎臓など)>では「勤務時間や日数の短縮」「具合が悪くなった時に気軽に通院できる」「自宅で仕事ができること」「給料・賃金が妥当である」が他の項目に比べて比較的高くなった。

	回答件数	勤務時間や日数の短縮	通勤が自分でできる	具合が悪くなった時に気軽に通院できる	職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備	自宅で仕事ができること	給料・賃金が妥当である	自分に合った仕事である	職業訓練などで就労のための知識・技術習得	会社や家族などの自分への理解	徐々に仕事に慣れていけるようステップを踏めること	
全体	339 100.0%	22 6.5%	42 12.4%	25 7.4%	17 5.0%	32 9.4%	25 7.4%	54 15.9%	1 0.3%	16 4.7%	6 1.8%	
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	0 0.0%	2 11.1%	1 5.6%	1 5.6%	1 5.6%	4 22.2%	0 0.0%	2 11.1%	1 5.6%	
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	2 4.5%	3 6.8%	2 4.5%	1 2.3%	2 4.5%	7 15.9%	1 2.3%	5 11.4%	2 4.5%	
	肢体不自由	156 100.0%	6 3.8%	18 11.5%	11 7.1%	11 7.1%	13 8.3%	7 4.5%	22 14.1%	1 0.6%	7 4.5%	3 1.9%
	内部(心臓・腎臓など)	126 100.0%	13 10.3%	20 15.9%	14 11.1%	4 3.2%	17 13.5%	16 12.7%	25 19.8%	0 0.0%	5 4.0%	1 0.8%

	回答件数	職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること	障がいや病気に対する理解や配慮	その他	特にない・まだよくわからない	不明	
全体	339 100.0%	24 7.1%	55 16.2%	20 5.9%	107 31.6%	91 26.8%	
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	2 11.1%	5 27.8%	0 0.0%	8 44.4%	4 22.2%
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	4 9.1%	10 22.7%	4 9.1%	11 25.0%	14 31.8%
	肢体不自由	156 100.0%	6 3.8%	21 13.5%	13 8.3%	51 32.7%	43 27.6%
	内部(心臓・腎臓など)	126 100.0%	12 9.5%	23 18.3%	4 3.2%	39 31.0%	29 23.0%

1位 2位 3位 の項目

≪身体障がいの等級別≫

身体障がいの等級別でみると、＜1級＞から＜4級＞、＜6級＞の区分では「特にない・まだよくわからない」が2割半ばから4割を占めて最も高く、＜5級＞では、「自分に合った仕事である」が3割弱と最も高くなった。また、＜4級＞を除く区分で「障がいや病気に対する理解や配慮」が3位以内となり、関心の高さを示した。

	合計	勤務時間や日数の短縮	通勤が自分でできる	具合が悪くなった時に気軽に通院できる	職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備	自宅で仕事ができること	給料・賃金が妥当である	自分に合った仕事である	職業訓練などで就労のための知識・技術習得	会社や家族などの自分への理解	徐々に仕事に慣れていけるようステップを踏めること	
全体	318 100.0%	21 6.6%	42 13.2%	25 7.9%	17 5.3%	32 10.1%	24 7.5%	51 16.0%	1 0.3%	16 5.0%	6 1.9%	
身体障がいの等級	1級	106 100.0%	8 7.5%	18 17.0%	9 8.5%	5 4.7%	14 13.2%	8 7.5%	17 16.0%	0 0.0%	3 2.8%	1 0.9%
	2級	27 100.0%	1 3.7%	1 3.7%	1 3.7%	2 7.4%	0 0.0%	2 7.4%	5 18.5%	0 0.0%	2 7.4%	0 0.0%
	3級	54 100.0%	5 9.3%	6 11.1%	6 11.1%	4 7.4%	3 5.6%	6 11.1%	9 16.7%	0 0.0%	2 3.7%	1 1.9%
	4級	77 100.0%	5 6.5%	8 10.4%	8 10.4%	2 2.6%	9 11.7%	6 7.8%	8 10.4%	1 1.3%	6 7.8%	3 3.9%
	5級	32 100.0%	2 6.3%	8 25.0%	0 0.0%	3 9.4%	3 9.4%	2 6.3%	9 28.1%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%
	6級	12 100.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%

	合計	職場に適切な助言や指導、配慮をしている人がいること	障がいや病気に対する理解や配慮	その他	特にない・まだよくわからない	不明	
全体	318 100.0%	22 6.9%	52 16.4%	20 6.3%	103 32.4%	80 25.2%	
身体障がいの等級	1級	106 100.0%	7 6.6%	19 17.9%	5 4.7%	34 32.1%	25 23.6%
	2級	27 100.0%	0 0.0%	7 25.9%	1 3.7%	11 40.7%	8 29.6%
	3級	54 100.0%	6 11.1%	12 22.2%	4 7.4%	17 31.5%	13 24.1%
	4級	77 100.0%	4 5.2%	7 9.1%	4 5.2%	28 36.4%	19 24.7%
	5級	32 100.0%	4 12.5%	4 12.5%	4 12.5%	8 25.0%	7 21.9%
	6級	12 100.0%	1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	3 25.0%	4 33.3%

1位 2位 3位 の項目

「身体障がい」調査結果

【社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うこと】

社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では、「建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消」が28.9%と最も高く、次いで「障がい者用駐車スペースの確保」（23.3%）、「手すりの設置」（18.0%）で続いている。

《身体障がいの部位別》

身体障がいの部位別でみると、＜視覚＞＜肢体不自由＞では「建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消」が、＜聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく＞では「わかりやすい表示」が、＜内部（心臓・腎臓など）＞では「障がい者用駐車スペースの確保」が最も高い。このほか、＜視覚＞では「誰もが利用しやすい多機能トイレの設置」が、＜内部（心臓・腎臓など）＞では「休憩スペースの確保」が他の項目に比べて比較的高くなっている。

	合計	障がい者用駐車スペースの確保	建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消	点字ブロックの敷設	音の出る信号機の設置	エレベーターの設置	スロープの設置	自動ドアの設置	手すりの設置	公共施設などで常備してある車いすの数を増やす	車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保
全体	339 100.0%	79 23.3%	98 28.9%	3 0.9%	5 1.5%	40 11.8%	29 8.6%	9 2.7%	61 18.0%	15 4.4%	40 11.8%
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	4 22.2%	8 44.4%	0 0.0%	1 5.6%	1 5.6%	2 11.1%	0 0.0%	4 22.2%	2 11.1%
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	7 15.9%	10 22.7%	1 2.3%	2 4.5%	2 4.5%	6 13.6%	1 2.3%	6 13.6%	2 4.5%
	肢体不自由	156 100.0%	41 26.3%	54 34.6%	0 0.0%	2 1.3%	21 13.5%	16 10.3%	3 1.9%	36 23.1%	10 6.4%
	内部（心臓・腎臓など）	126 100.0%	37 29.4%	35 27.8%	1 0.8%	1 0.8%	16 12.7%	11 8.7%	4 3.2%	19 15.1%	4 3.2%

	合計	誰もが利用しやすい多機能トイレの設置	駅やバス停・歩道にベンチを増やす	休憩スペースの確保	わかりやすい表示	その他	特にない	不明
全体	339 100.0%	52 15.3%	37 10.9%	59 17.4%	31 9.1%	4 1.2%	37 10.9%	72 21.2%
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	5 27.8%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	1 5.6%	0 22.2%
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	4 9.1%	4 9.1%	4 9.1%	12 27.3%	1 2.3%	6 13.6%
	肢体不自由	156 100.0%	21 13.5%	20 12.8%	27 17.3%	11 7.1%	2 1.3%	11 7.1%
	内部（心臓・腎臓など）	126 100.0%	25 19.8%	15 11.9%	29 23.0%	9 7.1%	0 0.0%	19 15.1%

1位 2位 3位 の項目

《身体障がいの等級別》

身体障がいの等級別でみると、全ての区分で「建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消」が最も高く、「障がい者用駐車スペースの確保」や「手すりの設置」も概ね上位となっている。このほか、＜3級＞では「駅やバス停・歩道にベンチを増やす」が、＜4級＞では「休憩スペースの確保」が、＜6級＞では「誰もが利用しやすい多機能トイレの設置」および「休憩スペースの確保」が2割以上と他の項目に比べて高くなっている。

		合計	障がい者用駐車スペースの確保	建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消	点字ブロックの敷設	音の出る信号機の設置	エレベーターの設置	スロープの設置	自動ドアの設置	手すりの設置	公共施設などで常備してある車いすの数を増やす	車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保
全体		318 100.0%	79 24.8%	96 30.2%	2 0.6%	5 1.6%	37 11.6%	28 8.8%	8 2.5%	60 18.9%	15 4.7%	37 11.6%
身体障がいの等級	1級	106 100.0%	30 28.3%	32 30.2%	1 0.9%	2 1.9%	16 15.1%	11 10.4%	4 3.8%	13 12.3%	6 5.7%	17 16.0%
	2級	27 100.0%	5 18.5%	7 25.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	7 25.9%	3 11.1%	2 7.4%
	3級	54 100.0%	17 31.5%	18 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 9.3%	5 9.3%	1 1.9%	15 27.8%	2 3.7%	6 11.1%
	4級	77 100.0%	16 20.8%	20 26.0%	1 1.3%	1 1.3%	10 13.0%	7 9.1%	1 1.3%	14 18.2%	3 3.9%	7 9.1%
	5級	32 100.0%	7 21.9%	15 46.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 12.5%	2 6.3%	1 3.1%	8 25.0%	0 0.0%	4 12.5%
	6級	12 100.0%	4 33.3%	4 33.3%	0 0.0%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%

		合計	誰もが利用しやすい多機能トイレの設置	駅やバス停・歩道にベンチを増やす	休憩スペースの確保	わかりやすい表示	その他	特にない	不明
全体		318 100.0%	51 16.0%	36 11.3%	57 17.9%	29 9.1%	4 1.3%	34 10.7%	60 18.9%
身体障がいの等級	1級	106 100.0%	19 17.9%	9 8.5%	17 16.0%	9 8.5%	1 0.9%	15 14.2%	17 16.0%
	2級	27 100.0%	4 14.8%	2 7.4%	3 11.1%	1 3.7%	0 0.0%	2 7.4%	6 22.2%
	3級	54 100.0%	8 14.8%	11 20.4%	10 18.5%	6 11.1%	1 1.9%	4 7.4%	7 13.0%
	4級	77 100.0%	10 13.0%	12 15.6%	16 20.8%	10 13.0%	2 2.6%	8 10.4%	14 18.2%
	5級	32 100.0%	4 12.5%	2 6.3%	5 15.6%	2 6.3%	0 0.0%	3 9.4%	9 28.1%
	6級	12 100.0%	3 25.0%	0 0.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	2 16.7%

1位 2位 3位 の項目

「身体障がい」調査結果

【差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うこと】

差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では、「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が35.1%で最も高く、次いで「障がいや病気への正しい理解の啓発」（34.2%）、「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」（22.1%）と続いている。

《身体障がいの部位別》

身体障がいの部位別でみると、＜視覚＞と＜内部（心臓・腎臓など）＞は「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が4割以上、＜聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく＞と＜肢体不自由＞では「障がいや病気への正しい理解の啓発」が4割前後を占め、それぞれ最も高い結果となった。また、＜視覚＞は「福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす」および「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」が、＜聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく＞は「情報提供の充実」が、＜肢体不自由＞は「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」が、＜内部（心臓・腎臓など）＞は「公共施設などの改善・整備を進める」および「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」が2割以上を占め、他の項目に比べて高くなっている。

	合計	子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	情報提供の充実	障がいや病気への正しい理解の啓発	支援ボランティアの育成を進める	公共施設などの改善・整備を進める	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実	道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする	
全体	339 100.0%	119 35.1%	52 15.3%	56 16.5%	116 34.2%	24 7.1%	55 16.2%	16 4.7%	27 8.0%	8 2.4%	75 22.1%	
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	9 50.0%	4 22.2%	3 16.7%	6 33.3%	3 16.7%	0 0.0%	2 11.1%	1 5.6%	0 0.0%	4 22.2%
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	14 31.8%	4 9.1%	11 25.0%	19 43.2%	3 6.8%	3 6.8%	0 0.0%	4 9.1%	5 11.4%	4 9.1%
	肢体不自由	156 100.0%	53 34.0%	24 15.4%	21 13.5%	56 35.9%	12 7.7%	22 14.1%	5 3.2%	17 10.9%	2 1.3%	38 24.4%
	内部（心臓・腎臓など）	126 100.0%	55 43.7%	22 17.5%	22 17.5%	49 38.9%	11 8.7%	29 23.0%	10 7.9%	7 5.6%	2 1.6%	31 24.6%

	合計	補助犬（盲導犬など）の啓発	その他	特にない	不明	
全体	339 100.0%	8 2.4%	9 2.7%	49 14.5%	47 13.9%	
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	2 11.1%	1 5.6%	2 11.1%	2 11.1%
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	0 0.0%	1 2.3%	7 15.9%	5 11.4%
	肢体不自由	156 100.0%	3 1.9%	7 4.5%	18 11.5%	19 12.2%
	内部（心臓・腎臓など）	126 100.0%	5 4.0%	0 0.0%	20 15.9%	12 9.5%

1位 2位 3位 の項目

《身体障がいの等級別》

身体障がいの等級別でみると、＜1級＞の「障がいや病気への正しい理解の啓発」、＜3級＞の「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が4割以上を占めるほか、いずれの等級もこの2つが上位を占めている。このほか、＜5級＞では「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」および「福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす」が、＜6級＞では「情報提供の充実」および「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」がそれぞれ2割半ばから3割を占めており、他の項目に比べて高くなっている。

	合計	子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	情報提供の充実	障がいや病気への正しい理解の啓発	支援ボランティアの育成を進める	公共施設などの改善・整備を進める	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実	道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする	
全体	318 100.0%	117 36.8%	52 16.4%	55 17.3%	115 36.2%	23 7.2%	53 16.7%	15 4.7%	26 8.2%	8 2.5%	72 22.6%	
身体障がいの等級	1級	106 100.0%	42 39.6%	16 15.1%	14 13.2%	44 41.5%	9 8.5%	23 21.7%	5 4.7%	7 6.6%	3 2.8%	26 24.5%
	2級	27 100.0%	8 29.6%	5 18.5%	6 22.2%	7 25.9%	2 7.4%	2 7.4%	3 11.1%	1 3.7%	1 3.7%	3 11.1%
	3級	54 100.0%	24 44.4%	7 13.0%	13 24.1%	20 37.0%	2 3.7%	10 18.5%	2 3.7%	4 7.4%	3 5.6%	13 24.1%
	4級	77 100.0%	28 36.4%	13 16.9%	12 15.6%	25 32.5%	5 6.5%	9 11.7%	5 6.5%	9 11.7%	1 1.3%	17 22.1%
	5級	32 100.0%	10 31.3%	8 25.0%	3 9.4%	10 31.3%	4 12.5%	7 21.9%	0 0.0%	4 12.5%	0 0.0%	10 31.3%
	6級	12 100.0%	2 16.7%	1 8.3%	3 25.0%	4 33.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%

	合計	補助犬（盲導犬など）の啓発	その他	特になし	不明	
全体	318 100.0%	8 2.5%	9 2.8%	44 13.8%	36 11.3%	
身体障がいの等級	1級	106 100.0%	4 3.8%	3 2.8%	16 15.1%	11 10.4%
	2級	27 100.0%	1 3.7%	0 0.0%	5 18.5%	3 11.1%
	3級	54 100.0%	2 3.7%	2 3.7%	6 11.1%	4 7.4%
	4級	77 100.0%	0 0.0%	2 2.6%	10 13.0%	11 14.3%
	5級	32 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 9.4%	5 15.6%
	6級	12 100.0%	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%	1 8.3%

1位 2位 3位 の項目

「身体障がい」調査結果

【相談機能を充実させるために必要だと思うこと】

相談機能を充実させるために必要だと思うことについて、全体では、「身近な場所で相談できること」が39.5%と最も高く、次いで「適切なアドバイスができる人材」および「一か所で用事が済む相談窓口を設置する」（ともに28.9%）、「素早い対応をしてくれる」（25.4%）と続いている。

《身体障がいの部位別》

身体障がいの部位別でみると、＜視覚＞では「適切なアドバイスができる人材」および「素早い対応をしてくれる」が最も高く過半数を占める。また、＜聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく＞＜肢体不自由＞＜内部（心臓・腎臓など）＞では、「身近な場所で相談できること」が4割前後を占め、それぞれ最も高い結果となった。このほか、＜肢体不自由＞＜内部（心臓・腎臓など）＞では「一か所で用事が済む相談窓口を設置する」が3割以上を占め、他の項目に比べて高くなっている。

	合計	身近な場所で相談できること	プライバシーの配慮	適切なアドバイスができる人材	電話やFAX、Eメールなどによりいつでも相談できること	素早い対応をしてくれる	わかりやすい情報の提供	たらい回しにされない	相談員の資質向上	一か所で用事が済む相談窓口を設置する	市や県、民間相談機関の連携
全体	339 100.0%	134 39.5%	49 14.5%	98 28.9%	31 9.1%	86 25.4%	83 24.5%	62 18.3%	35 10.3%	98 28.9%	23 6.8%
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	6 33.3%	0 0.0%	10 55.6%	1 5.6%	10 22.2%	4 27.8%	5 22.2%	4 22.2%	2 11.1%
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	17 38.6%	6 13.6%	12 27.3%	8 18.2%	8 18.2%	11 25.0%	8 18.2%	1 2.3%	8 18.2%
	肢体不自由	156 100.0%	60 38.5%	23 14.7%	47 30.1%	8 5.1%	44 28.2%	40 25.6%	29 18.6%	18 11.5%	49 31.4%
	内部（心臓・腎臓など）	126 100.0%	51 40.5%	23 18.3%	36 28.6%	13 10.3%	33 26.2%	27 21.4%	26 20.6%	11 8.7%	40 31.7%

	合計	福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実	その他	不明
全体	339 100.0%	18 5.3%	9 2.7%	51 15.0%
身体障がいの部位	視覚	18 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	44 100.0%	1 2.3%	1 2.3%
	肢体不自由	156 100.0%	8 5.1%	5 3.2%
	内部（心臓・腎臓など）	126 100.0%	9 7.1%	2 1.6%

1位 2位 3位 の項目

《身体障がいの等級別》

身体障がいの等級別でみると、＜5級＞＜6級＞では「身近な場所で相談できること」が最も高く5割を占める。また、＜1級＞＜4級＞では「身近な場所で相談できること」が、＜2級＞では「身近な場所で相談できること」および「適切なアドバイスができる人材」が、＜3級＞では「一か所で用事が済む相談窓口を設置する」が最も高くそれぞれ4割前後を占めている。このほか、＜1級＞では「適切なアドバイスができる人材」および「素早い対応をしてくれる」が、＜3級＞では「身近な場所で相談できること」および「適切なアドバイスができる人材」が、＜5級＞では「一か所で用事が済む相談窓口を設置する」および「素早い対応をしてくれる」が3割以上と他の項目に比べて高くなっている。

		合計	身近な場所で 相談できること	プライバシー の配慮	適切なアドバ イスができる 人材	電話やF A X、Eメール などによりい つでも相談で きること	素早い対応を してくれる	わかりやすい 情報の提供	たらい回しに されない	相談員の資質 向上	一か所で用事 が済む相談窓 口を設置する	市や県、民間 相談機関の連 携
全体		318 100.0%	126 39.6%	49 15.4%	96 30.2%	30 9.4%	85 26.7%	78 24.5%	59 18.6%	33 10.4%	95 29.9%	23 7.2%
身体障 がいの 等級	1級	106 100.0%	41 38.7%	10 9.4%	34 32.1%	9 8.5%	37 34.9%	30 28.3%	21 19.8%	13 12.3%	31 29.2%	9 8.5%
	2級	27 100.0%	12 44.4%	3 11.1%	12 44.4%	2 7.4%	3 11.1%	4 14.8%	5 18.5%	5 18.5%	2 7.4%	1 3.7%
	3級	54 100.0%	19 35.2%	10 18.5%	18 33.3%	7 13.0%	13 24.1%	12 22.2%	10 18.5%	3 5.6%	20 37.0%	3 5.6%
	4級	77 100.0%	29 37.7%	16 20.8%	22 28.6%	8 10.4%	15 19.5%	19 24.7%	14 18.2%	6 7.8%	23 29.9%	6 7.8%
	5級	32 100.0%	16 50.0%	7 21.9%	6 18.8%	2 6.3%	11 34.4%	8 25.0%	5 15.6%	5 15.6%	12 37.5%	2 6.3%
	6級	12 100.0%	6 50.0%	3 25.0%	2 16.7%	0 0.0%	2 16.7%	2 16.7%	3 25.0%	1 8.3%	3 25.0%	1 8.3%

		合計	福祉・教育・ 就労などの一 貫した相談支 援体制を充実	その他	不明
全体		318 100.0%	17 5.3%	8 2.5%	42 13.2%
身体障 がいの 等級	1級	106 100.0%	5 4.7%	2 1.9%	13 12.3%
	2級	27 100.0%	2 7.4%	1 3.7%	5 18.5%
	3級	54 100.0%	3 5.6%	2 3.7%	9 16.7%
	4級	77 100.0%	6 7.8%	3 3.9%	8 10.4%
	5級	32 100.0%	1 3.1%	0 0.0%	3 9.4%
	6級	12 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%

1位 2位 3位 の項目

「身体障がい」調査結果

「知的障がい」 調査結果

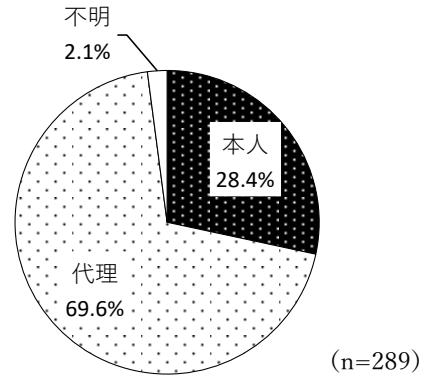
2-2 「知的障がい」調査結果

(1)回答者の属性

調査対象	配布数	有効回答数	有効回収率
療育手帳を持っている方	450	289	64.2%

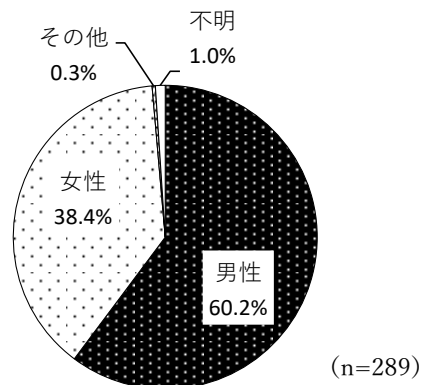
属性1 アンケートにお答えになった方【SA】

カテゴリー名	人数	%
本人	82	28.4%
代理	201	69.6%
不明	6	2.1%
全体	289	100.0%



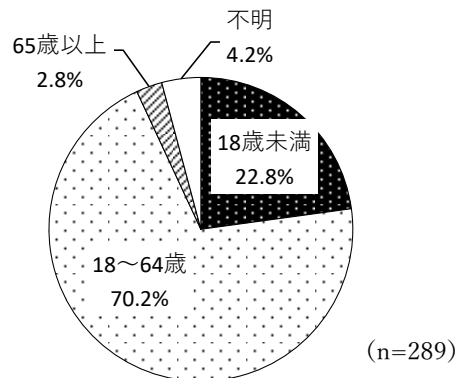
属性2 性別【SA】

カテゴリー名	人数	%
男性	174	60.2%
女性	111	38.4%
その他	1	0.3%
不明	3	1.0%
全体	289	100.0%



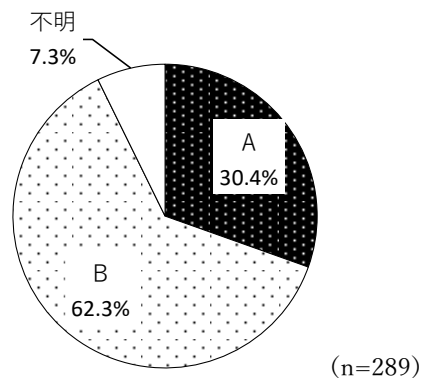
属性3 年齢 令和5年7月1日現在【FA】

カテゴリー名	人数	%
18歳未満	66	22.8%
18～64歳	203	70.2%
65歳以上	8	2.8%
不明	12	4.2%
全体	289	100.0%



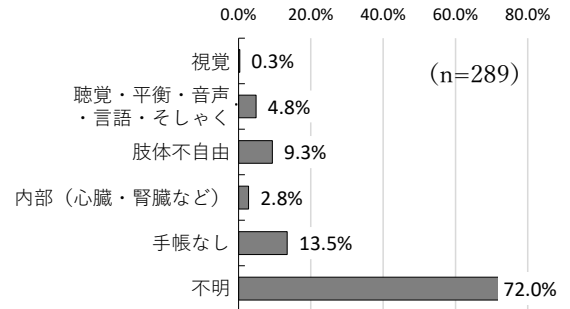
属性4 療育手帳の等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
A	88	30.4%
B	180	62.3%
不明	21	7.3%
全体	289	100.0%



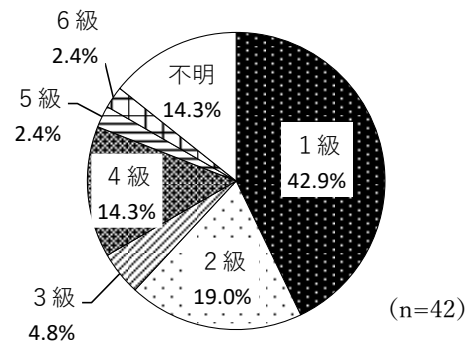
属性5 身体障がいの部位【MA】

カテゴリー名	人数	%
視覚	1	0.3%
聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	14	4.8%
肢体不自由	27	9.3%
内部（心臓・腎臓など）	8	2.8%
手帳なし	39	13.5%
不明	208	72.0%
全体	289	100.0%



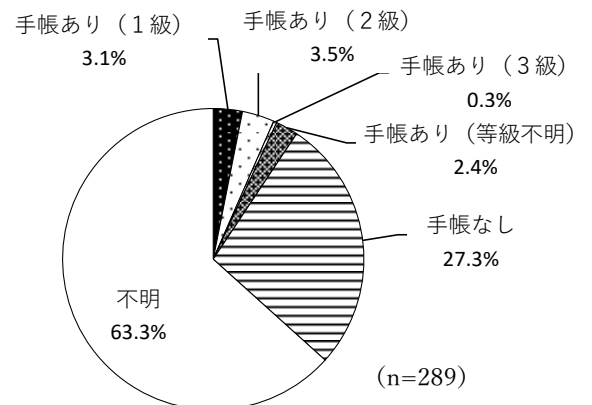
属性6 障害程度等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
1級	18	42.9%
2級	8	19.0%
3級	2	4.8%
4級	6	14.3%
5級	1	2.4%
6級	1	2.4%
不明	6	14.3%
全体	42	100.0%



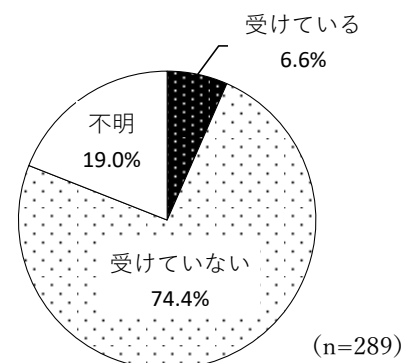
属性7 精神障がい手帳の有無・等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
手帳あり（1級）	9	3.1%
手帳あり（2級）	10	3.5%
手帳あり（3級）	1	0.3%
手帳あり（等級不明）	7	2.4%
手帳なし	79	27.3%
不明	183	63.3%
全体	289	100.0%



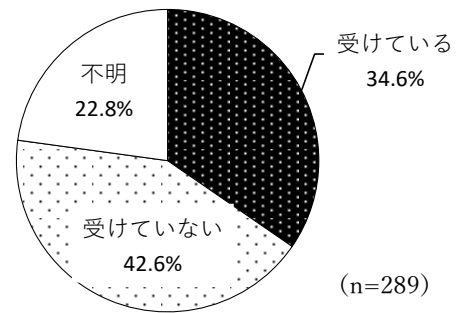
属性8 介護保険のサービス利用【SA】

カテゴリー名	人数	%
受けている	19	6.6%
受けていない	215	74.4%
不明	55	19.0%
全体	289	100.0%



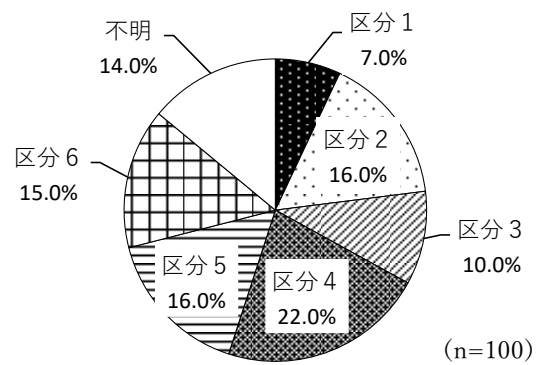
属性9 障害支援区分の認定【SA】

カテゴリー名	人数	%
受けている	100	34.6%
受けていない	123	42.6%
不明	66	22.8%
全体	289	100.0%



属性10 障害支援区分の度合い【SA】

カテゴリー名	人数	%
区分1	7	7.0%
区分2	16	16.0%
区分3	10	10.0%
区分4	22	22.0%
区分5	16	16.0%
区分6	15	15.0%
不明	14	14.0%
全体	100	100.0%



(2)生活の状況について

現在暮らしている場所について、「自宅（アパートなどを含む）」が86.9%と大半を占めており、次いで「グループホーム」（9.0%）、「福祉施設に入所」（2.1%）などとなっている。家族構成については、「二世帯世帯（親・子）」が67.8%と最も高く、次いで「三世帯世帯（親・子・孫）」（13.5%）、「一人暮らし」（5.9%）などとなっている。

保健・医療・福祉等の連携が特に必要な障害について、指定難病の認定を受けている方が2.8%、発達障がいと診断されたことがある方が47.1%、強度行動障がいと診断をされたことがある方が14.5%、高次脳機能障害と診断されたことがある方が1.7%となっている。高次脳機能障害と診断された方に関連障がいを聞いたところ、「肢体不自由（上肢）」および「肢体不自由（下肢）」がともに60.0%で最も高く、次いで「音声、言語、そしゃく機能障がい」および「内部障がい（1～6以外）」（ともに40.0%）などとなっている。また、医療的ケアを受けている方は17.6%で、医療ケアの内容は「服薬管理」が62.7%で最も高く、次いで「吸引」（13.7%）、「鼻腔経管栄養」（9.8%）などとなっている。

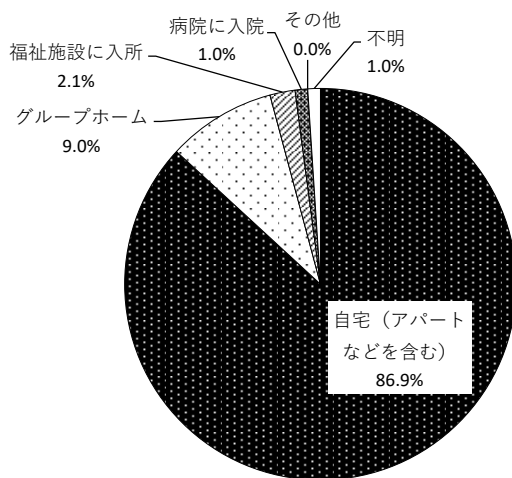
月収（年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む）は、「5万円～10万円未満」が37.7%と最も高く、次いで「10万円～20万円未満」（19.7%）、「なし」（18.7%）などとなっており、『10万円未満』が67.8%と過半数を占めている。また、収入がある人に主な収入源について聞いたところ、「障がい年金（国民・厚生・共済など）」が68.6%で最も多く、次いで本人の就労収入（工賃を含む）（43.0%）、「福祉手当（障がい者手当など）」（26.6%）などとなっている。

■ 住まい【SA】

問1 あなたは**現在**どこで暮らしていますか。(1つだけ○印)

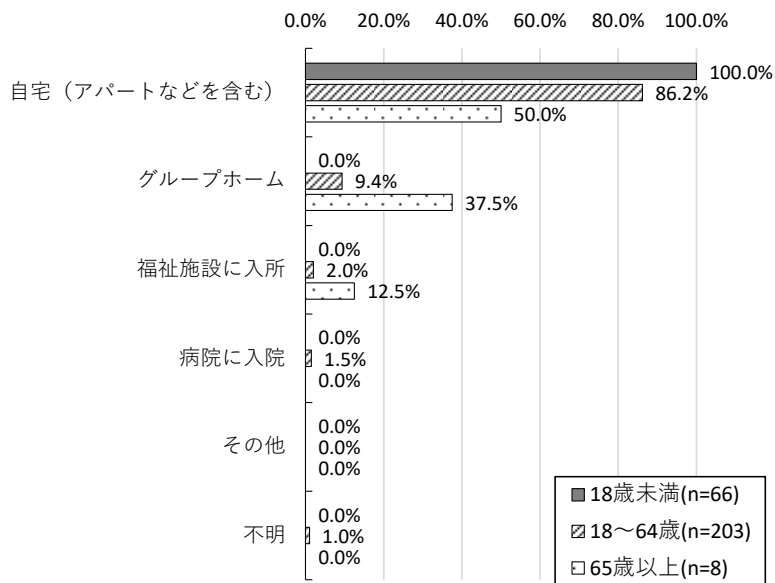
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	自宅（アパートなどを含む）	251	86.9%	66	100.0%	175	86.2%	4	50.0%
2	グループホーム	26	9.0%	0	0.0%	19	9.4%	3	37.5%
3	福祉施設に入所	6	2.1%	0	0.0%	4	2.0%	1	12.5%
4	病院に入院	3	1.0%	0	0.0%	3	1.5%	0	0.0%
5	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	3	1.0%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

住まい(全体)



(n=289)

住まい(年代別)

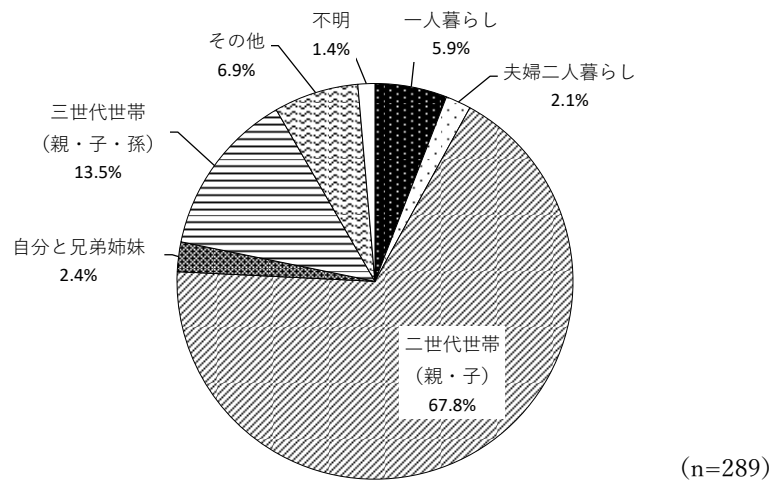


■ 家族構成【SA】

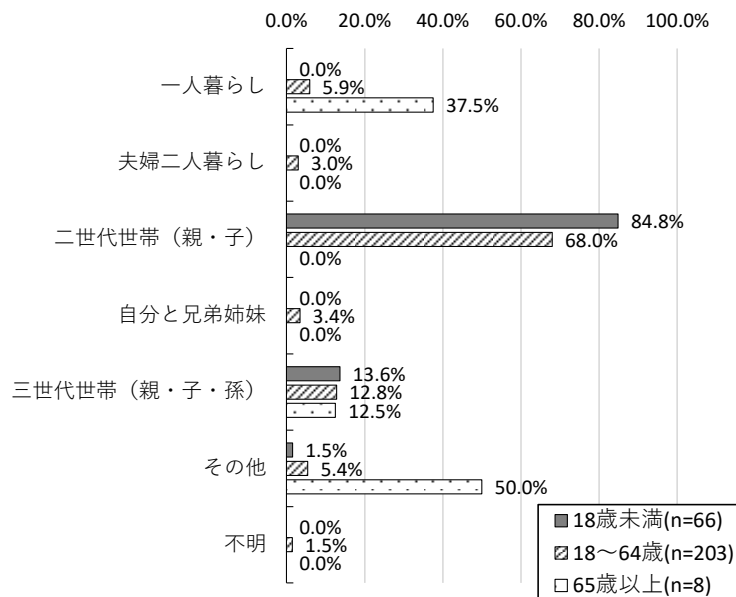
問2 あなたの家族構成をお答えください。施設入所・入院の方は、自宅(実家)の状態をお答えください。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	一人暮らし	17	5.9%	0	0.0%	12	5.9%	3	37.5%
2	夫婦二人暮らし	6	2.1%	0	0.0%	6	3.0%	0	0.0%
3	二世世代世帯(親・子)	196	67.8%	56	84.8%	138	68.0%	0	0.0%
4	自分と兄弟姉妹	7	2.4%	0	0.0%	7	3.4%	0	0.0%
5	三世世代世帯(親・子・孫)	39	13.5%	9	13.6%	26	12.8%	1	12.5%
6	その他	20	6.9%	1	1.5%	11	5.4%	4	50.0%
	不明	4	1.4%	0	0.0%	3	1.5%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

家族構成(全体)



家族構成(年代別)

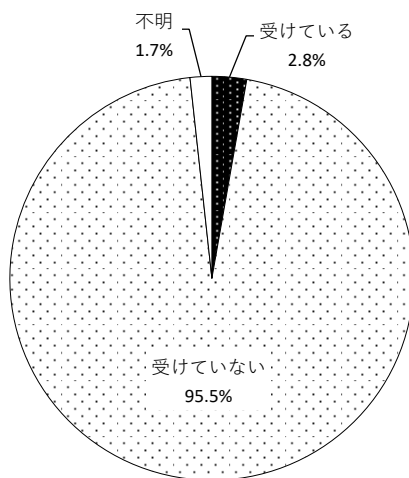


■ 指定難病の認定【SA】

問3 あなたは指定難病(※1)の認定を受けていますか。(1つだけ○印)
 ※1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。

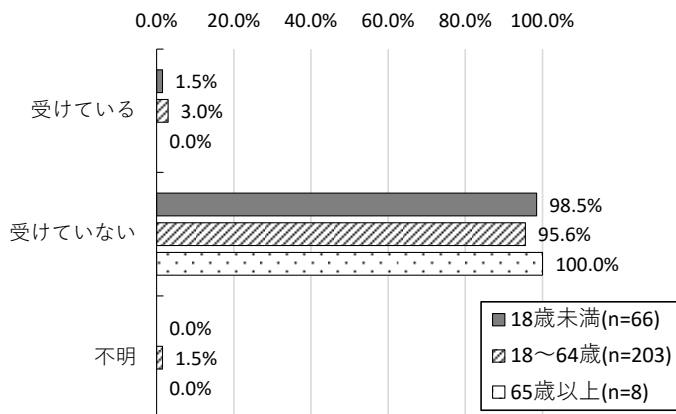
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	受けている	8	2.8%	1	1.5%	6	3.0%	0	0.0%
2	受けていない	276	95.5%	65	98.5%	194	95.6%	8	100.0%
	不明	5	1.7%	0	0.0%	3	1.5%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

指定難病の認定(全体)



(n=289)

指定難病の認定(年代別)

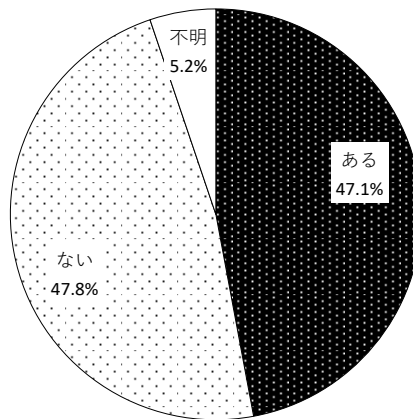


■ 発達障がいの診断【SA】

問4 あなたは発達障がい(※2)として診断されたことがありますか。(1つだけ○印)
 ※2 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。

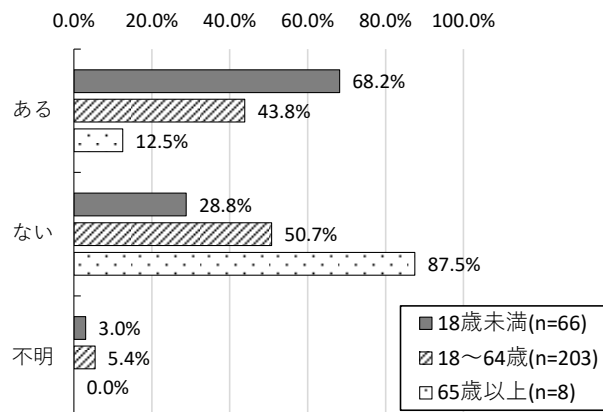
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	136	47.1%	45	68.2%	89	43.8%	1	12.5%
2	ない	138	47.8%	19	28.8%	103	50.7%	7	87.5%
	不明	15	5.2%	2	3.0%	11	5.4%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

発達障がいの診断(全体)



(n=289)

発達障がいの診断(年代別)



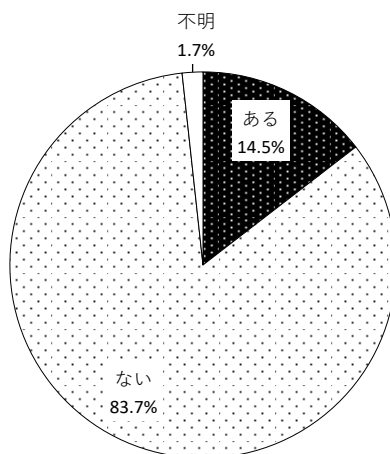
■ 強度行動障がいの診断【SA】

問5 あなたは強度行動障がい(※3)があると言われたことはありますか。(1つだけ〇印)

※3 自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいいます。障がい福祉サービス等を利用し重度障がい者支援加算の対象となっている方、障がい福祉サービスの行動援護を利用している方、医師や療育機関から指摘を受けた方は「1」を選択してください。

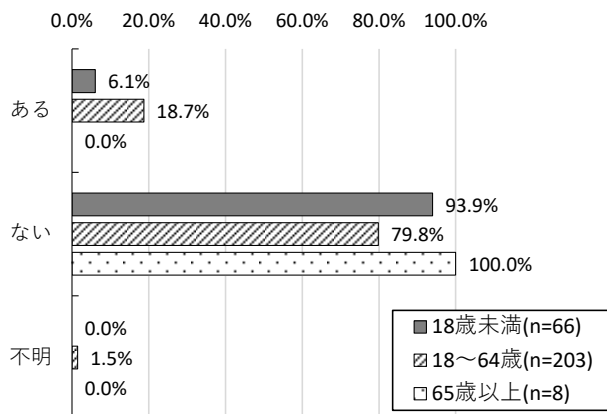
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	42	14.5%	4	6.1%	38	18.7%	0	0.0%
2	ない	242	83.7%	62	93.9%	162	79.8%	8	100.0%
	不明	5	1.7%	0	0.0%	3	1.5%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

強度行動障がいの診断(全体)



(n=289)

強度行動障がいの診断(年代別)

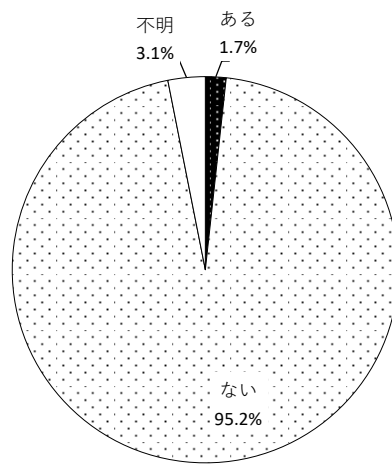


■ 高次脳機能障がいの診断【SA】

問6 あなたは高次脳機能障がい(※4)として診断されたことはありますか。(1つだけ○印)
 ※4 一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がい、失語などの認知障がい等を指すものとされており、具体的には「会話が上手かみ合わない」等の症状があります。

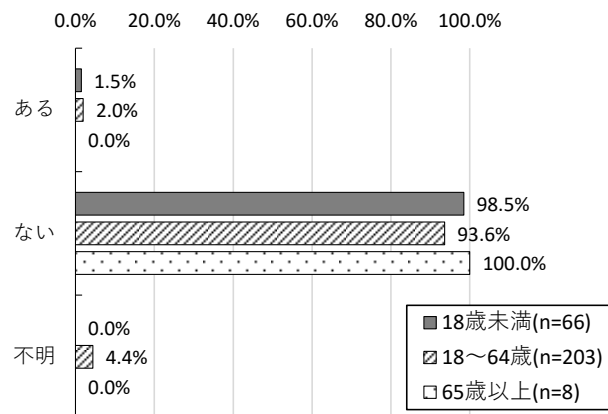
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	5	1.7%	1	1.5%	4	2.0%	0	0.0%
2	ない	275	95.2%	65	98.5%	190	93.6%	8	100.0%
	不明	9	3.1%	0	0.0%	9	4.4%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

高次脳機能障がいの診断(全体)



(n=289)

高次脳機能障がいの診断(年代別)

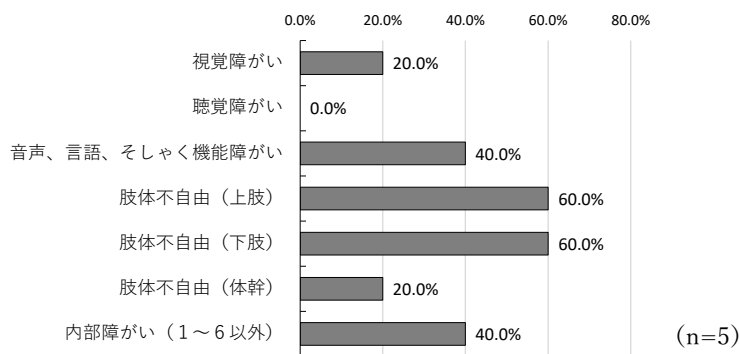


■ 高次脳機能障がいの関連障がい【MA】

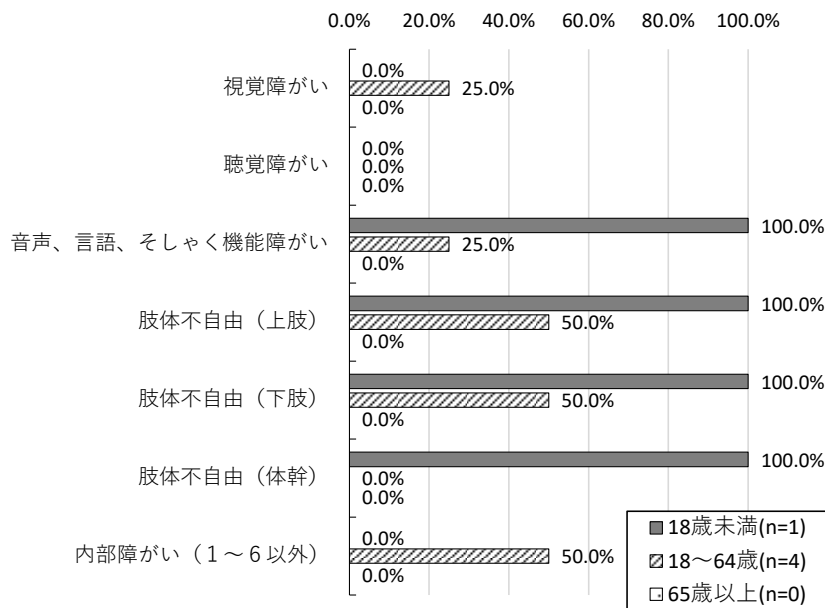
問7 問6で「1」を回答した方におたずねします。その関連障がいは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	視覚障がい	1	20.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%
2	聴覚障がい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	音声、言語、そしゃく機能障がい	2	40.0%	1	100.0%	1	25.0%	0	0.0%
4	肢体不自由（上肢）	3	60.0%	1	100.0%	2	50.0%	0	0.0%
5	肢体不自由（下肢）	3	60.0%	1	100.0%	2	50.0%	0	0.0%
6	肢体不自由（体幹）	1	20.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	内部障がい（1～6以外）	2	40.0%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	5	100.0%	1	100.0%	4	100.0%	0	0.0%

高次脳機能障がいの関連障がい(全体)



高次脳機能障がいの関連障がい(年代別)

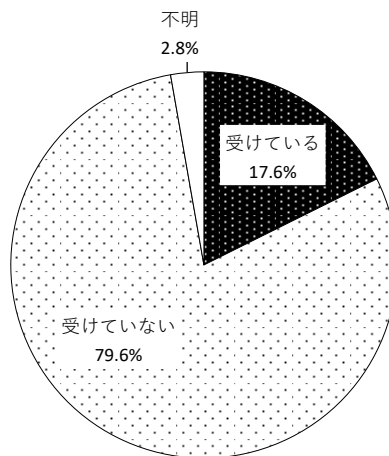


■ 医療的ケアの有無【SA】

問8 あなたは^{げんざいりようてき}現在医療的ケアを^う受けていますか。(1つだけ○印)

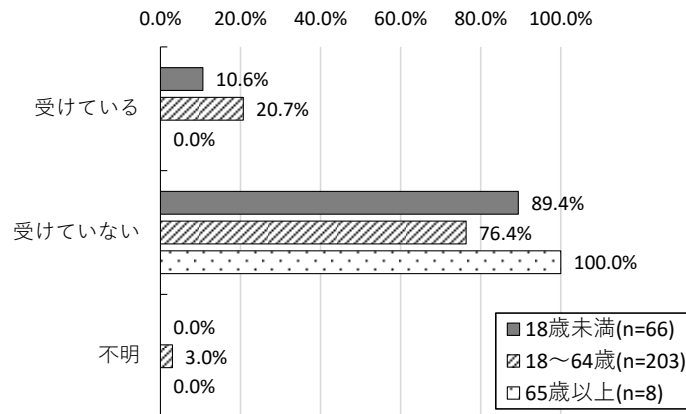
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	受けている	51	17.6%	7	10.6%	42	20.7%	0	0.0%
2	受けていない	230	79.6%	59	89.4%	155	76.4%	8	100.0%
	不明	8	2.8%	0	0.0%	6	3.0%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

医療的ケアの有無(全体)



(n=289)

医療的ケアの有無(年代別)

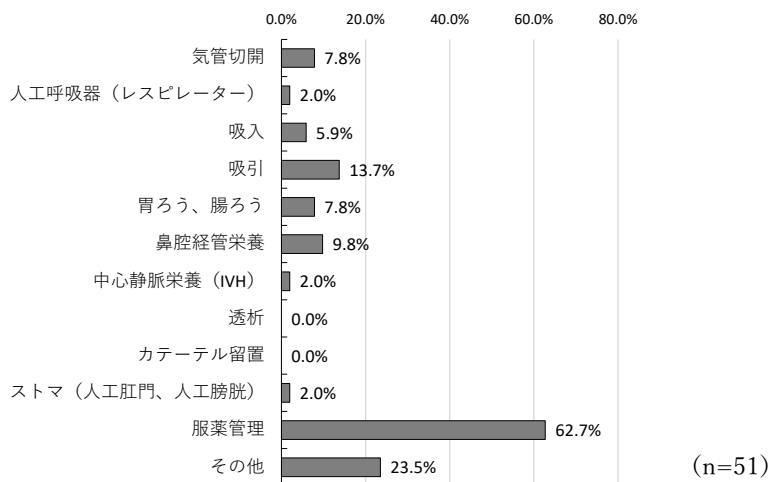


■ 医療的ケアの内容【MA】

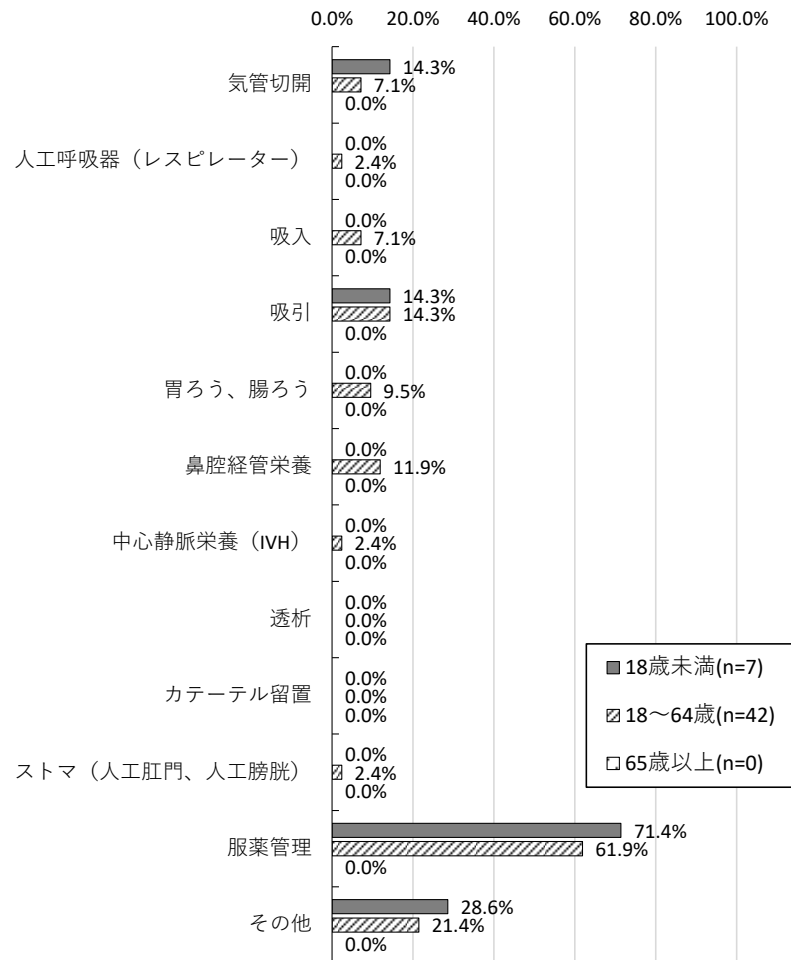
問9 問8で「1」を回答した方におたずねします。受けている医療的ケアは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	気管切開	4	7.8%	1	14.3%	3	7.1%	0	0.0%
2	人工呼吸器（レスピレーター）	1	2.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
3	吸入	3	5.9%	0	0.0%	3	7.1%	0	0.0%
4	吸引	7	13.7%	1	14.3%	6	14.3%	0	0.0%
5	胃ろう、腸ろう	4	7.8%	0	0.0%	4	9.5%	0	0.0%
6	鼻腔経管栄養	5	9.8%	0	0.0%	5	11.9%	0	0.0%
7	中心静脈栄養（IVH）	1	2.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
8	透析	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	カテーテル留置	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	ストマ（人工肛門、人工膀胱）	1	2.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%
11	服薬管理	32	62.7%	5	71.4%	26	61.9%	0	0.0%
12	その他	12	23.5%	2	28.6%	9	21.4%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	51	100.0%	7	100.0%	42	100.0%	0	0.0%

医療的ケアの内容(全体)



医療的ケアの内容(年代別)

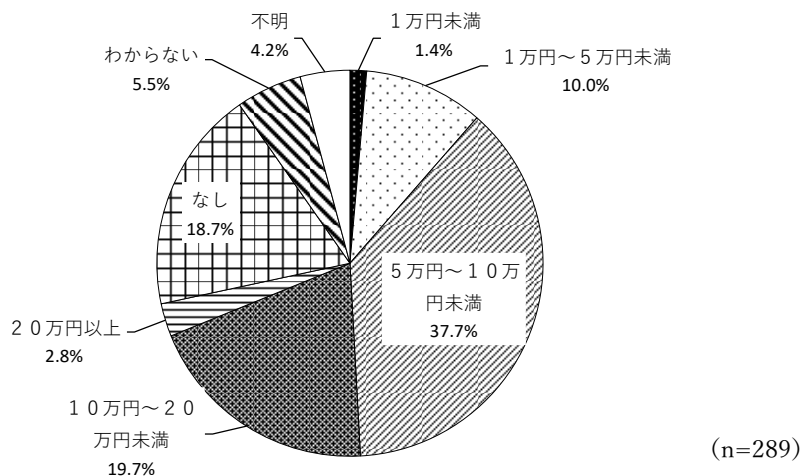


■ 月収【SA】

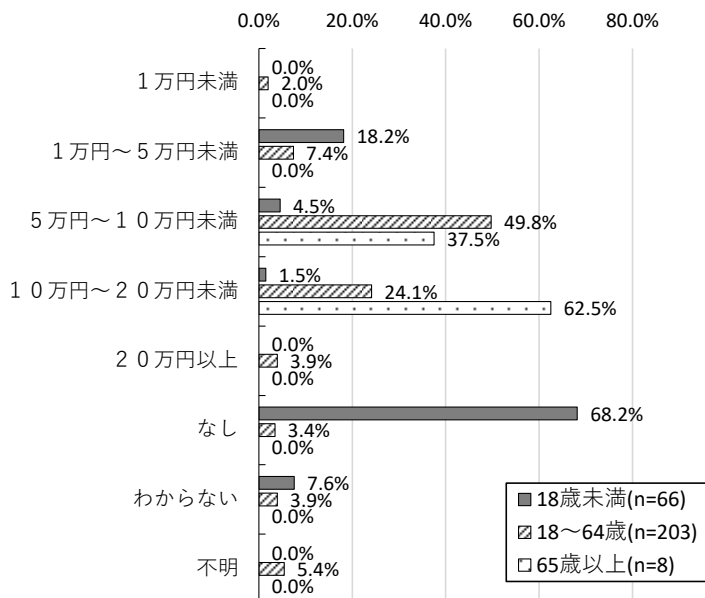
問10 あなたの月収は(年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む)どのくらいですか。税や社会保険料などの控除前の額をお答えください。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	1万円未満	4	1.4%	0	0.0%	4	2.0%	0	0.0%
2	1万円～5万円未満	29	10.0%	12	18.2%	15	7.4%	0	0.0%
3	5万円～10万円未満	109	37.7%	3	4.5%	101	49.8%	3	37.5%
4	10万円～20万円未満	57	19.7%	1	1.5%	49	24.1%	5	62.5%
5	20万円以上	8	2.8%	0	0.0%	8	3.9%	0	0.0%
6	なし	54	18.7%	45	68.2%	7	3.4%	0	0.0%
7	わからない	16	5.5%	5	7.6%	8	3.9%	0	0.0%
	不明	12	4.2%	0	0.0%	11	5.4%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

月収(全体)



月収(年代別)

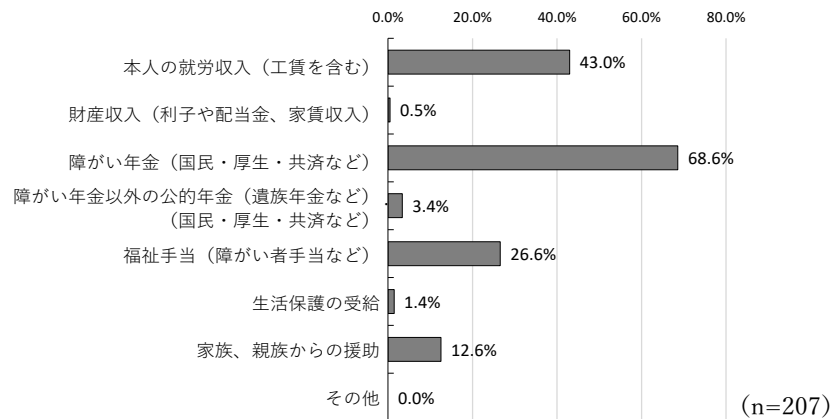


■ 収入源【MA】

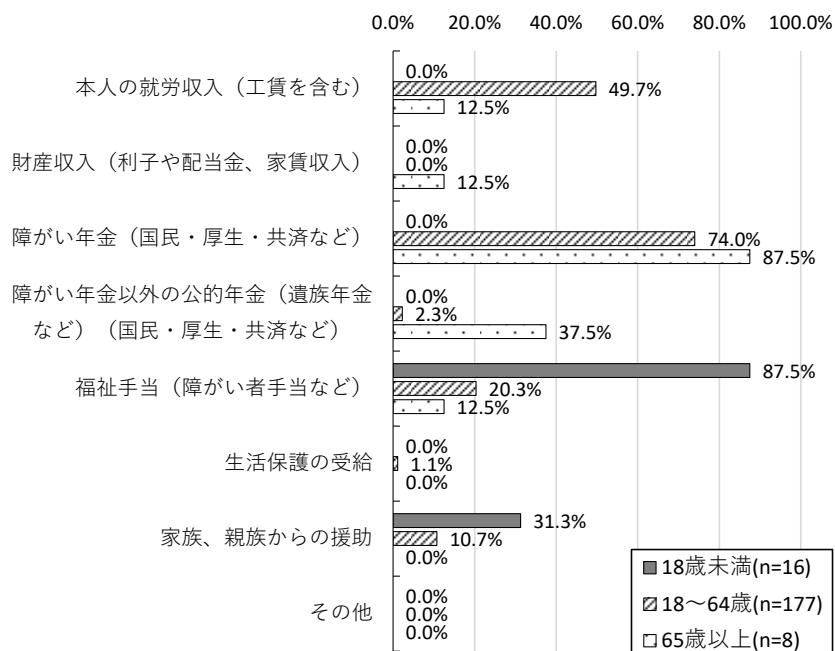
問11 問10で「1～5」を回答した方におたずねします。あなたの主な収入源はどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	本人の就労収入（工賃を含む）	89	43.0%	0	0.0%	88	49.7%	1	12.5%
2	財産収入（利子や配当金、家賃収入）	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%
3	障がい年金（国民・厚生・共済など）	142	68.6%	0	0.0%	131	74.0%	7	87.5%
4	障がい年金以外の公的年金（遺族年金など）（国民・厚生・共済など）	7	3.4%	0	0.0%	4	2.3%	3	37.5%
5	福祉手当（障がい者手当など）	55	26.6%	14	87.5%	36	20.3%	1	12.5%
6	生活保護の受給	3	1.4%	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%
7	家族、親族からの援助	26	12.6%	5	31.3%	19	10.7%	0	0.0%
8	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	207	100.0%	16	100.0%	177	100.0%	8	100.0%

収入源(全体)



収入源(年代別)



(3)日常生活について

普段の生活の中で困っていることは、「人とのコミュニケーション、情報入手」が39.4%で最も高く、次いで「身の回りのこと（食事・入浴など）」(27.3%)、「健康」(22.8%)などとなっている。一方、「困っていることはない」との回答は20.4%であった。

ヘルプカードの認知状況については、「知っている」(54.0%)が「知らない」(45.3%)を8.7ポイント上回っている。

日常生活で少しでも介助や支援が必要なことは、「お金の管理」が44.6%と最も高く、次いで「食事づくり」(38.4%)、「人とのコミュニケーション」(35.6%)、「掃除・片付け」(34.3%)、「日用品の買い物」(32.2%)などが続いた。日常生活の中で少しでも介助や支援が必要だと回答した人に、主な介助者について聞いたところ、「母」が65.5%と最も高く、次いで「ホームヘルパー・施設職員」(8.1%)、「父」(4.0%)などとなっている。また、介助者の健康状態については、「普通」が50.3%と過半数を占め、「良好」(18.2%)が続く一方、「高齢で健康状態に不安がある」(14.5%)、「病気がちである」(10.9%)と、健康状態に不安を抱える人も一定の割合を占めている。

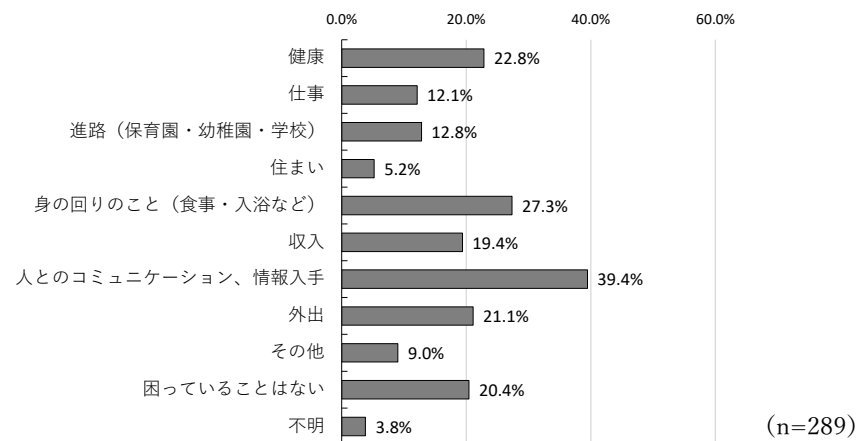
- ◎ ヘルプカードの認知状況について、前回調査と比べて「知っている」との回答が15ポイント以上上昇(34.7%→54.0%)しており、認知が進んだといえる。一方、自由記述では「ヘルプマークを付けているにもかかわらず理解されなかった」との声もあり、一部、市民の認知が進んでいない実態もうかがえる。
- ◎ 生活支援のニーズとしては「お金の管理」が高く、知的障がい者にとって日常生活を営むうえで障壁のひとつとなっていることがうかがえる。また、主な介助者は「母親」の割合が圧倒的に高く、これは前回調査でも同様である。

■ 困りごと【MA】

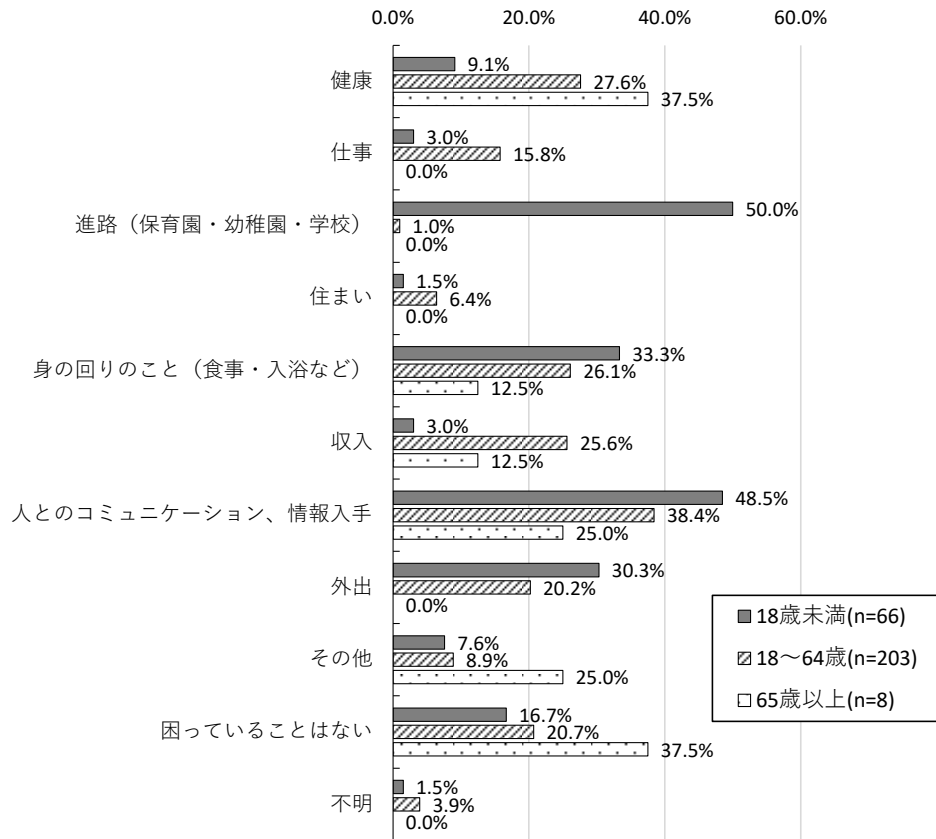
問 12 普段の生活の中で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	健康	66	22.8%	6	9.1%	56	27.6%	3	37.5%
2	仕事	35	12.1%	2	3.0%	32	15.8%	0	0.0%
3	進路（保育園・幼稚園・学校）	37	12.8%	33	50.0%	2	1.0%	0	0.0%
4	住まい	15	5.2%	1	1.5%	13	6.4%	0	0.0%
5	身の回りのこと（食事・入浴など）	79	27.3%	22	33.3%	53	26.1%	1	12.5%
6	収入	56	19.4%	2	3.0%	52	25.6%	1	12.5%
7	人とのコミュニケーション、情報入手	114	39.4%	32	48.5%	78	38.4%	2	25.0%
8	外出	61	21.1%	20	30.3%	41	20.2%	0	0.0%
9	その他	26	9.0%	5	7.6%	18	8.9%	2	25.0%
10	困っていることはない	59	20.4%	11	16.7%	42	20.7%	3	37.5%
	不明	11	3.8%	1	1.5%	8	3.9%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

困りごと(全体)



困りごと(年代別)

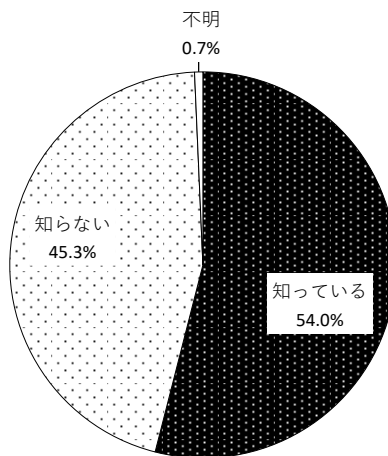


■ ヘルプカードの認知状況【SA】

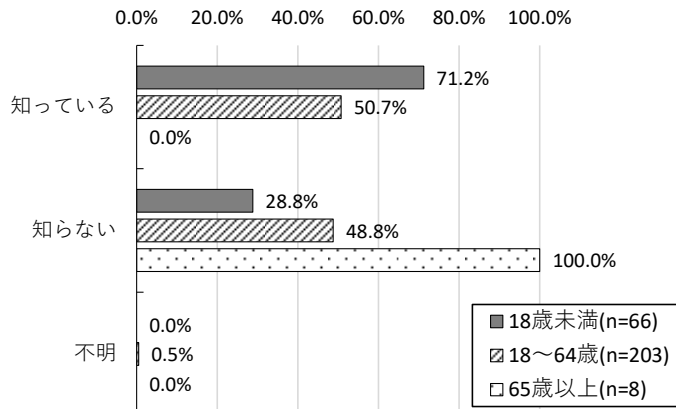
問 13 あなたはヘルプカードを知っていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	156	54.0%	47	71.2%	103	50.7%	0	0.0%
2	知らない	131	45.3%	19	28.8%	99	48.8%	8	100.0%
	不明	2	0.7%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

ヘルプカードの認知状況(全体)



ヘルプカードの認知状況(年代別)

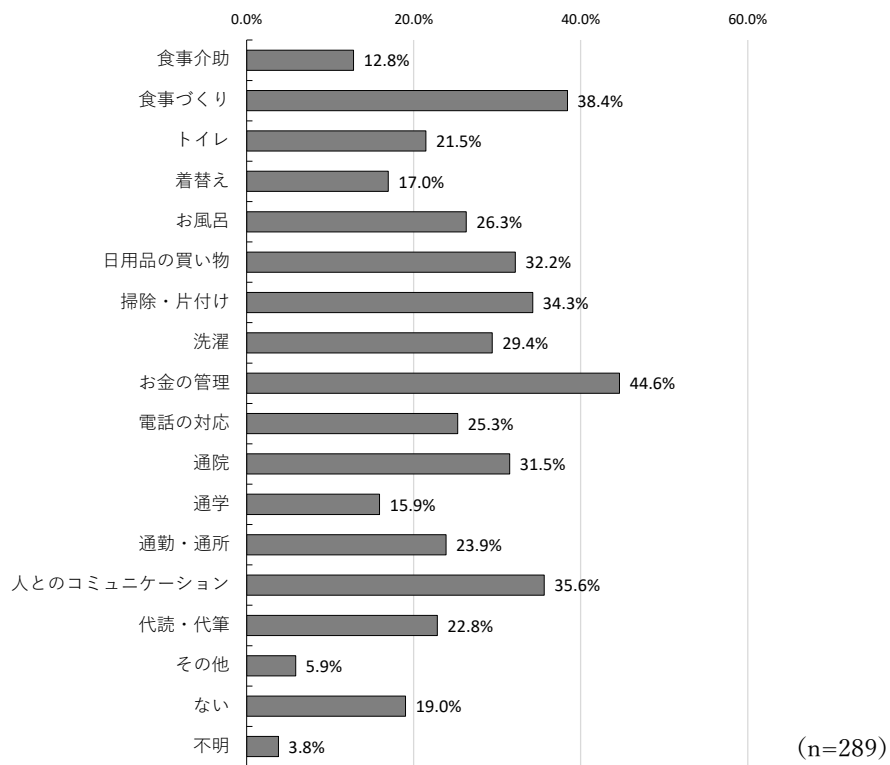


■ 支援のニーズ【MA】

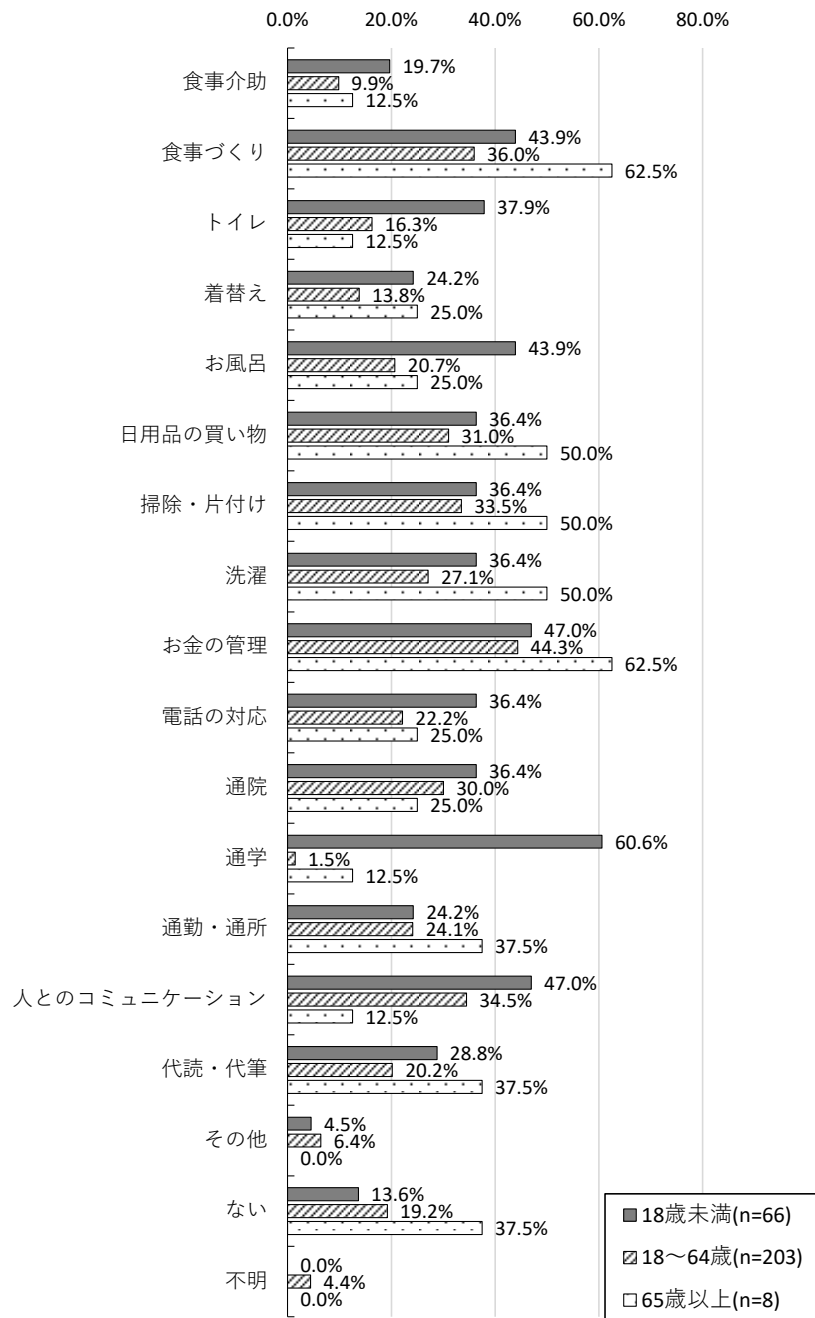
問14 ^{にちじょうせいかつ}日常生活で^{すこ}少しでも^{てつだ}手伝ってほしいことがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	食事介助	37	12.8%	13	19.7%	20	9.9%	1	12.5%
2	食事づくり	111	38.4%	29	43.9%	73	36.0%	5	62.5%
3	トイレ	62	21.5%	25	37.9%	33	16.3%	1	12.5%
4	着替え	49	17.0%	16	24.2%	28	13.8%	2	25.0%
5	お風呂	76	26.3%	29	43.9%	42	20.7%	2	25.0%
6	日用品の買い物	93	32.2%	24	36.4%	63	31.0%	4	50.0%
7	掃除・片付け	99	34.3%	24	36.4%	68	33.5%	4	50.0%
8	洗濯	85	29.4%	24	36.4%	55	27.1%	4	50.0%
9	お金の管理	129	44.6%	31	47.0%	90	44.3%	5	62.5%
10	電話の対応	73	25.3%	24	36.4%	45	22.2%	2	25.0%
11	通院	91	31.5%	24	36.4%	61	30.0%	2	25.0%
12	通学	46	15.9%	40	60.6%	3	1.5%	1	12.5%
13	通勤・通所	69	23.9%	16	24.2%	49	24.1%	3	37.5%
14	人とのコミュニケーション	103	35.6%	31	47.0%	70	34.5%	1	12.5%
15	代読・代筆	66	22.8%	19	28.8%	41	20.2%	3	37.5%
16	その他	17	5.9%	3	4.5%	13	6.4%	0	0.0%
17	ない	55	19.0%	9	13.6%	39	19.2%	3	37.5%
	不明	11	3.8%	0	0.0%	9	4.4%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

支援のニーズ(全体)



支援のニーズ(年代別)

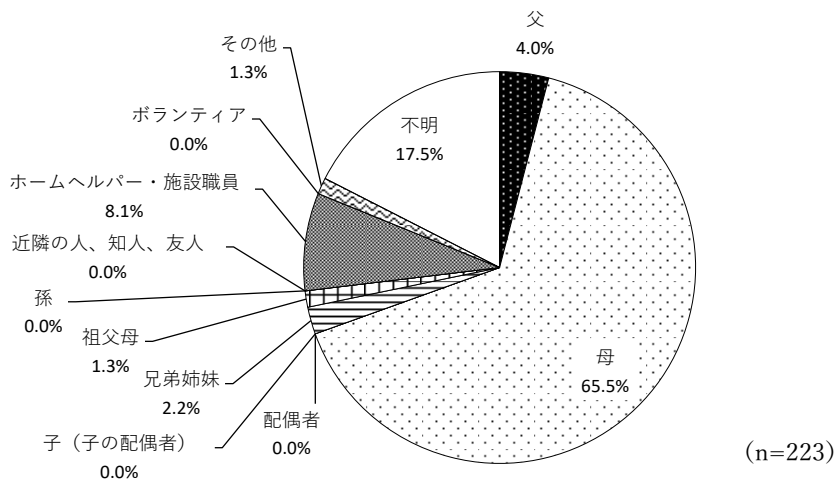


■ 主な介助者【SA】

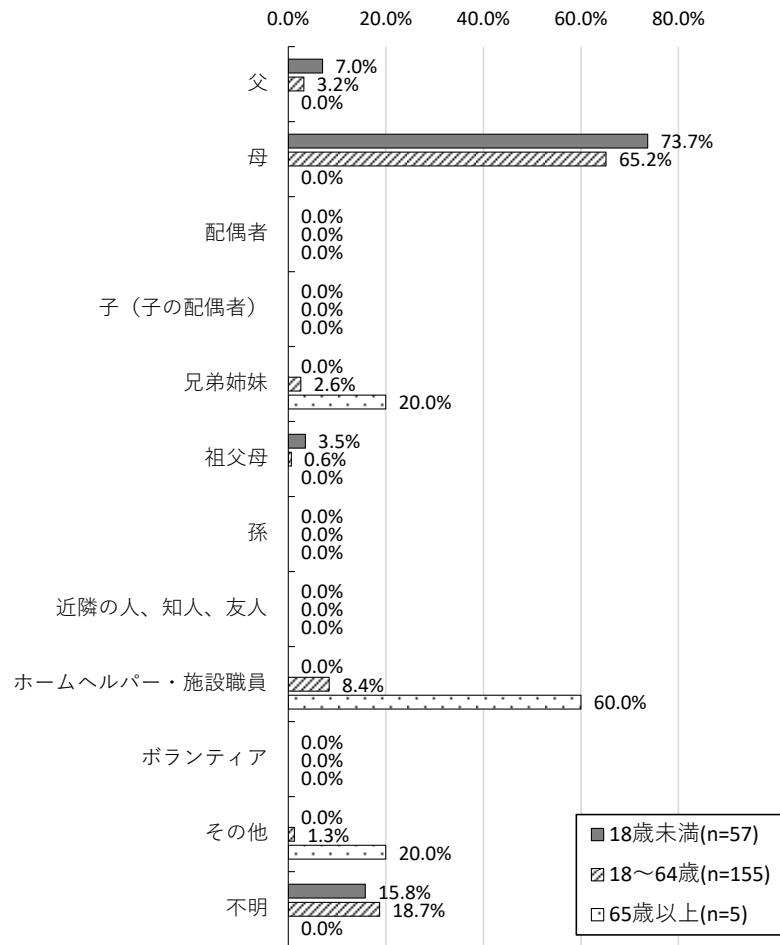
問15 問 14 で「1～16」を回答した方におたずねします。あなたを介助している方(介助者)はどなたですか。(主な介助者に1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	父	9	4.0%	4	7.0%	5	3.2%	0	0.0%
2	母	146	65.5%	42	73.7%	101	65.2%	0	0.0%
3	配偶者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	子(子の配偶者)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	兄弟姉妹	5	2.2%	0	0.0%	4	2.6%	1	20.0%
6	祖父母	3	1.3%	2	3.5%	1	0.6%	0	0.0%
7	孫	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8	近隣の人、知人、友人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	ホームヘルパー・施設職員	18	8.1%	0	0.0%	13	8.4%	3	60.0%
10	ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	その他	3	1.3%	0	0.0%	2	1.3%	1	20.0%
	不明	39	17.5%	9	15.8%	29	18.7%	0	0.0%
	全体	223	100.0%	57	100.0%	155	100.0%	5	100.0%

主な介助者(全体)



主な介助者(年代別)

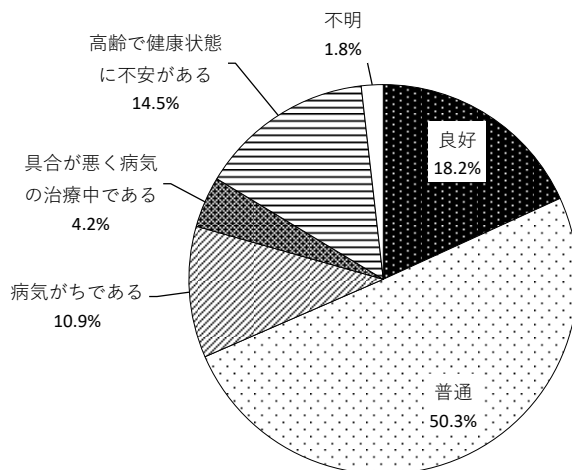


■ 介助者の健康状態【SA】

問16 問15で「1～8」を回答した方におたずねします。主な介助者の健康状態はいかがですか。
(1つだけ○印)

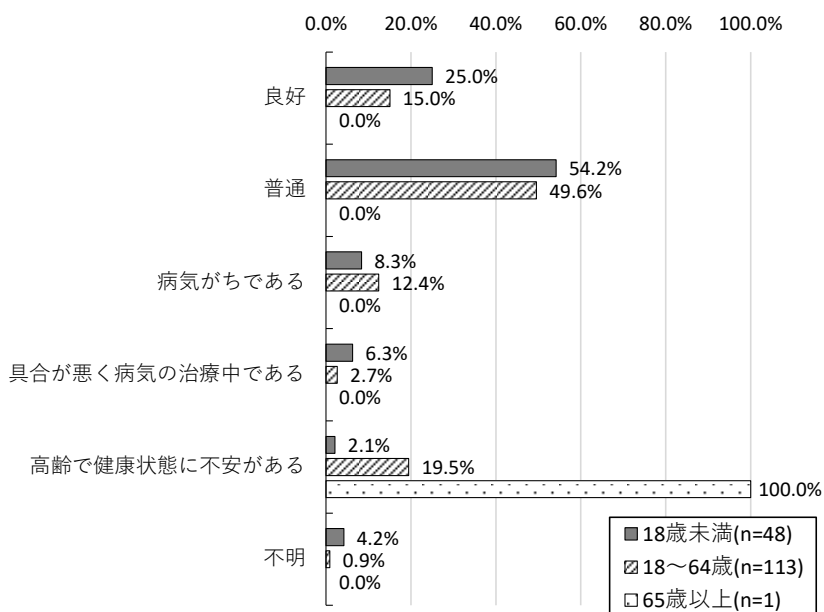
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	良好	30	18.2%	12	25.0%	17	15.0%	0	0.0%
2	普通	83	50.3%	26	54.2%	56	49.6%	0	0.0%
3	病気がちである	18	10.9%	4	8.3%	14	12.4%	0	0.0%
4	具合が悪く病気の治療中である	7	4.2%	3	6.3%	3	2.7%	0	0.0%
5	高齢で健康状態に不安がある	24	14.5%	1	2.1%	22	19.5%	1	100.0%
	不明	3	1.8%	2	4.2%	1	0.9%	0	0.0%
	全体	165	100.0%	48	100.0%	113	100.0%	1	100.0%

介助者の健康状態(全体)



(n=165)

介助者の健康状態(年代別)



(4)福祉サービスについて

福祉サービスの中で利用したことがあるサービスを聞いたところ、「放課後等デイサービス・児童発達支援」が29.8%と最も高く、次いで「生活介護（デイサービス）」（19.7%）、「就労継続支援B型（非雇用型）」（18.7%）などが続いた。また、今後利用したいサービスは、「グループホーム」が33.2%と最も高く、次いで「入所施設」（20.4%）、「就労継続支援B型（非雇用型）」（17.6%）などとなっている。

次に、福祉制度の中で利用したことのある制度を聞いたところ、いずれも10%未満にとどまった。今後利用したい福祉制度としては、「成年後見制度」が36.0%と最も高く、「福祉サービス利用援助事業」（29.4%）が続く。

知的障がい者入所施設からの地域移行について聞いたところ、「地域移行して、地域で生活したい（した方がよい）」（21.8%）が「地域移行したくない（しない方がよい）」（8.0%）を13.8ポイント上回った。一方、「どちらとも言えない」と決めかねている方は46.7%となっている。

山形市内の知的障がい者グループホームについて聞いたところ、グループホームの数は「不足している」（30.8%）が「ちょうどよい」（16.6%）を14.2ポイント上回った。一方、全体では「その他」が37.4%と最も高くなっている。また、グループホームの定員数は「ちょうどよい」（26.3%）が「不足している」（17.0%）を9.3ポイント上回った。一方、全体では「その他」が40.1%と最も高くなっている。

山形市内の知的障がい者通所事業所について、知的障がい者通所事業所の数は「不足している」（28.7%）が「ちょうどよい」（24.2%）を4.5ポイント上回った。一方、全体では「その他」が30.8%と最も高くなっている。また、知的障がい者通所事業所の定員数は「ちょうどよい」（30.4%）が「不足している」（19.0%）を11.4ポイント上回った。一方、全体では「その他」が33.9%と最も高くなっている。

- ◎ 障がいのある人の地域における自立した生活を支援するうえで福祉サービスや福祉制度の充実は不可欠である。アンケートによれば、今後利用したいサービスでは「グループホーム」が最も高い一方、グループホームの数は「不足している」と認識されている割合が高く、自由記述においても「グループホームは足りない」といった声も少なくないので、グループホームの拡充について検討する必要があると思われる。また、知的障がい者通所事業所の数も「不足している」との認識が「ちょうどよい」を若干上回っているため、必要定員の精査が必要である。

「知的障がい」調査結果

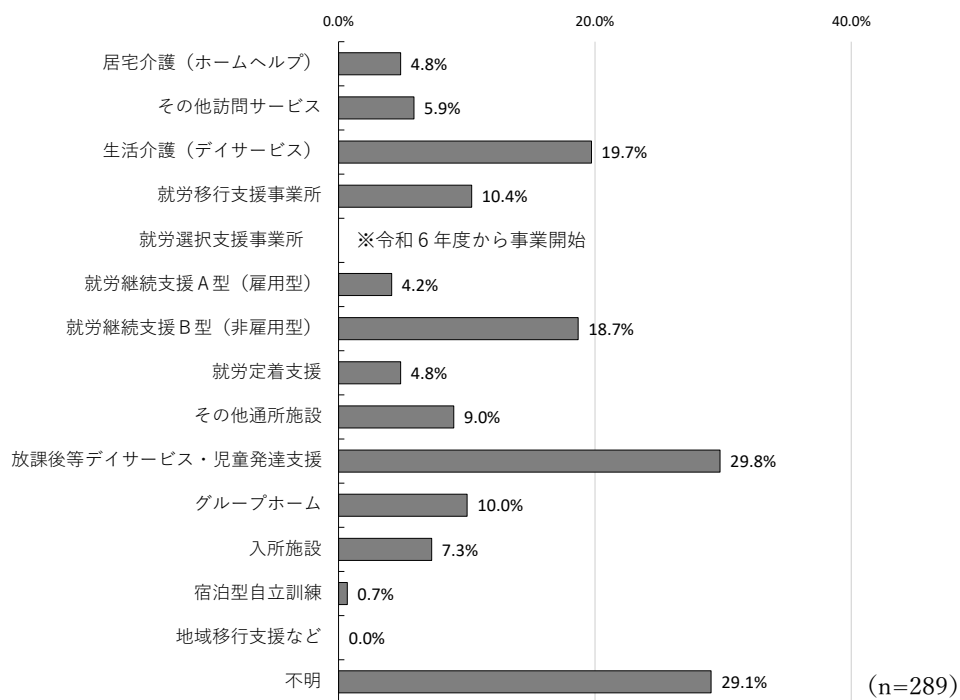
■ 福祉サービス

問17 次^{つぎ}にあげた福祉^{ふくし}サービス^{なか}の中で、あなたが「利用^{りよう}したことがある」、「今後^{こんごりよう}利用^{りよう}したい」サービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

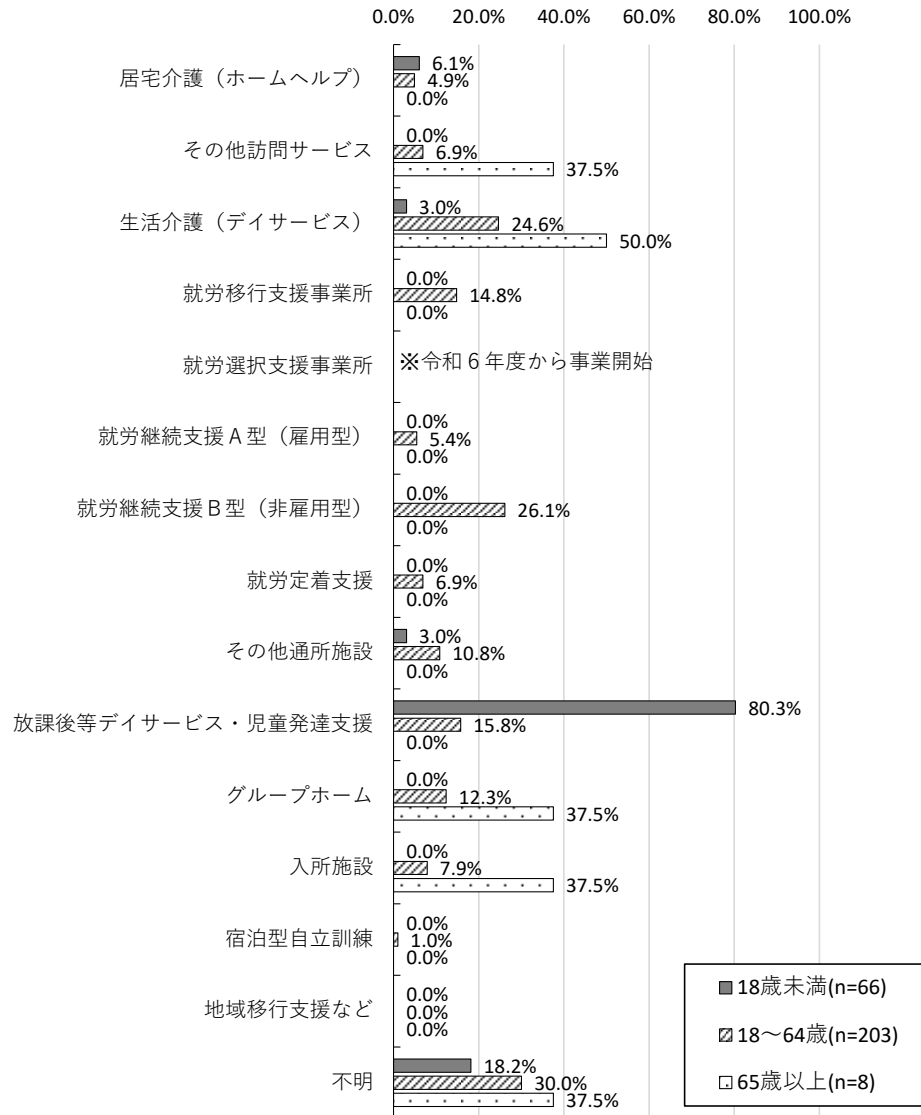
○ 利用したことがある福祉サービス【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	14	4.8%	4	6.1%	10	4.9%	0	0.0%
2	その他訪問サービス	17	5.9%	0	0.0%	14	6.9%	3	37.5%
3	生活介護（デイサービス）	57	19.7%	2	3.0%	50	24.6%	4	50.0%
4	就労移行支援事業所	30	10.4%	0	0.0%	30	14.8%	0	0.0%
5	就労選択支援事業所 【令和6年度から事業開始】	-	-	-	-	-	-	-	-
6	就労継続支援A型（雇用型）	12	4.2%	0	0.0%	11	5.4%	0	0.0%
7	就労継続支援B型（非雇用型）	54	18.7%	0	0.0%	53	26.1%	0	0.0%
8	就労定着支援	14	4.8%	0	0.0%	14	6.9%	0	0.0%
9	その他通所施設	26	9.0%	2	3.0%	22	10.8%	0	0.0%
10	放課後等デイサービス・児童発達支援	86	29.8%	53	80.3%	32	15.8%	0	0.0%
11	グループホーム	29	10.0%	0	0.0%	25	12.3%	3	37.5%
12	入所施設	21	7.3%	0	0.0%	16	7.9%	3	37.5%
13	宿泊型自立訓練	2	0.7%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%
14	地域移行支援など	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	84	29.1%	12	18.2%	61	30.0%	3	37.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

利用したことがある福祉サービス(全体)



利用したことがある福祉サービス(年代別)

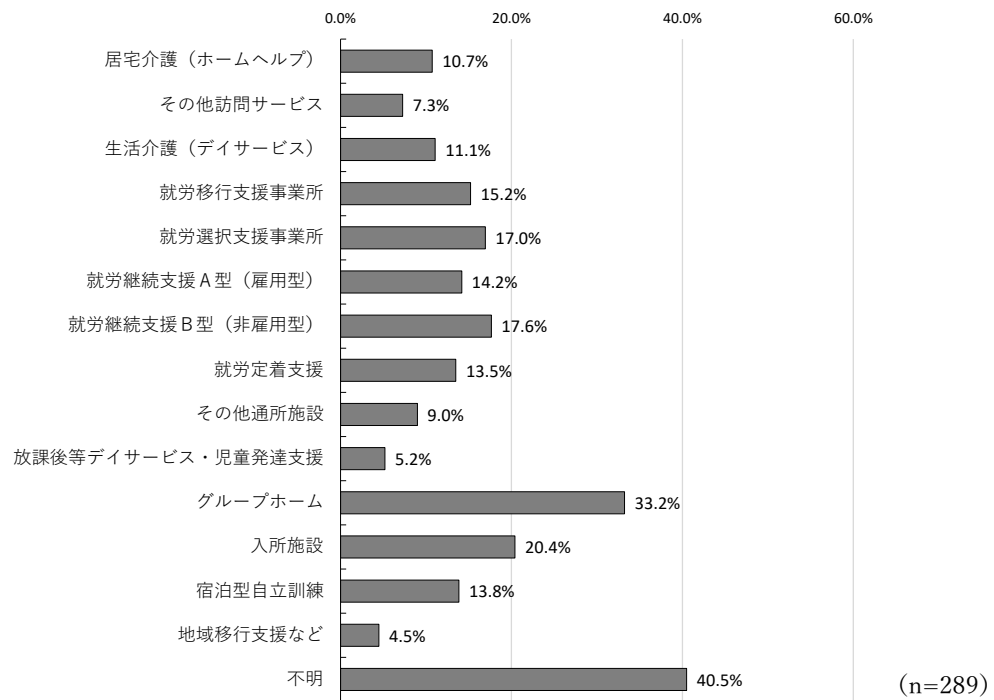


「知的障がい」調査結果

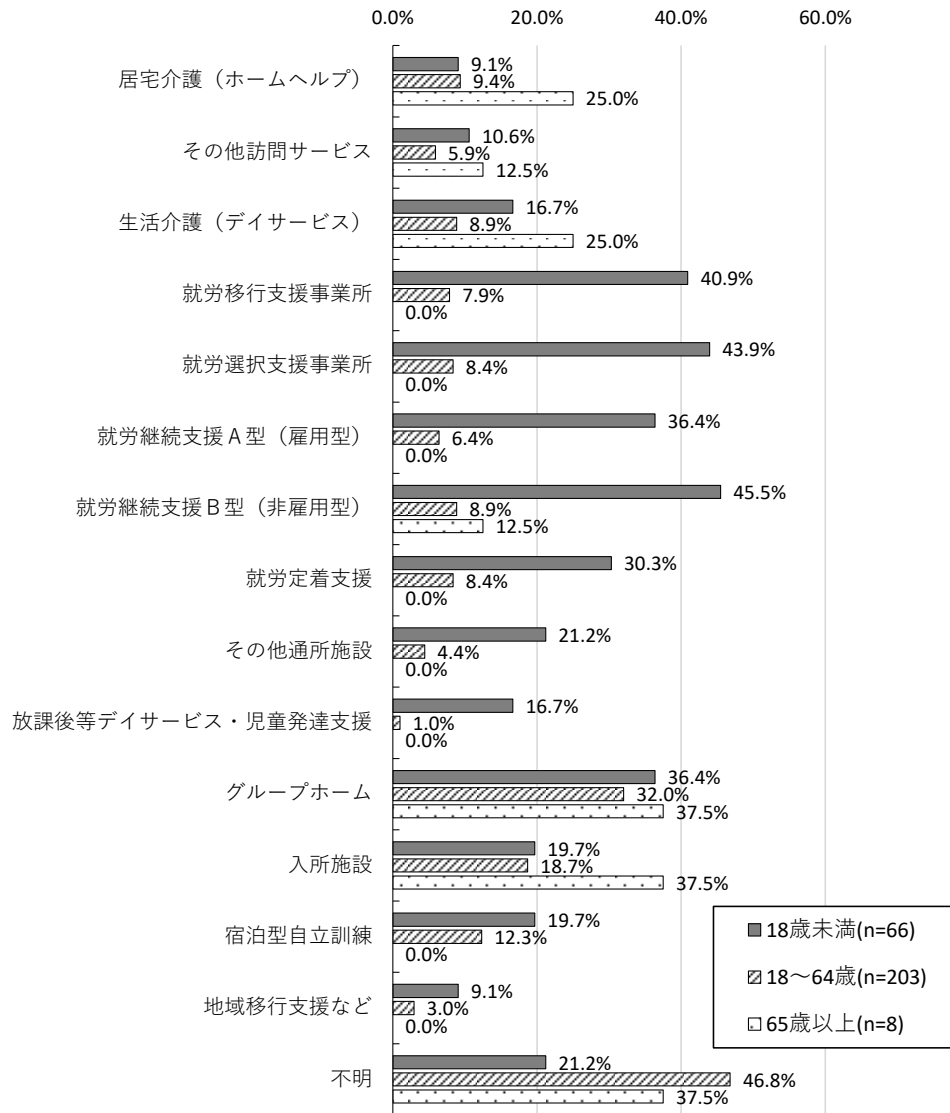
○ 今後利用したい福祉サービス【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	31	10.7%	6	9.1%	19	9.4%	2	25.0%
2	その他訪問サービス	21	7.3%	7	10.6%	12	5.9%	1	12.5%
3	生活介護（デイサービス）	32	11.1%	11	16.7%	18	8.9%	2	25.0%
4	就労移行支援事業所	44	15.2%	27	40.9%	16	7.9%	0	0.0%
5	就労選択支援事業所	49	17.0%	29	43.9%	17	8.4%	0	0.0%
6	就労継続支援A型（雇用型）	41	14.2%	24	36.4%	13	6.4%	0	0.0%
7	就労継続支援B型（非雇用型）	51	17.6%	30	45.5%	18	8.9%	1	12.5%
8	就労定着支援	39	13.5%	20	30.3%	17	8.4%	0	0.0%
9	その他通所施設	26	9.0%	14	21.2%	9	4.4%	0	0.0%
10	放課後等デイサービス・児童発達支援	15	5.2%	11	16.7%	2	1.0%	0	0.0%
11	グループホーム	96	33.2%	24	36.4%	65	32.0%	3	37.5%
12	入所施設	59	20.4%	13	19.7%	38	18.7%	3	37.5%
13	宿泊型自立訓練	40	13.8%	13	19.7%	25	12.3%	0	0.0%
14	地域移行支援など	13	4.5%	6	9.1%	6	3.0%	0	0.0%
	不明	117	40.5%	14	21.2%	95	46.8%	3	37.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

今後利用したい福祉サービス(全体)



今後利用したい福祉サービス(年代別)



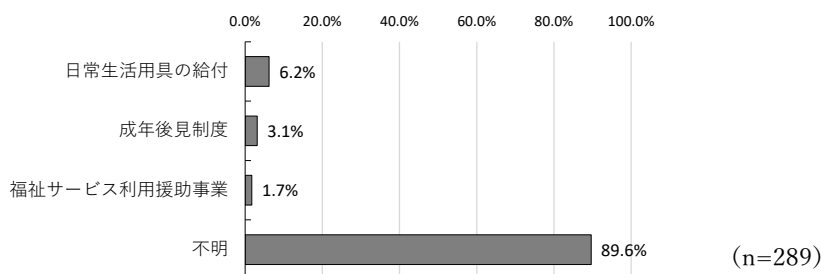
■ 福祉制度

問18 ^{つぎ}次にあげた^{ふくし}福祉制度^{せいど}の中で、あなたが^{なか}「利用^{りよう}したことがある」、「今後^{こんご}利用^{りよう}したい」ものはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

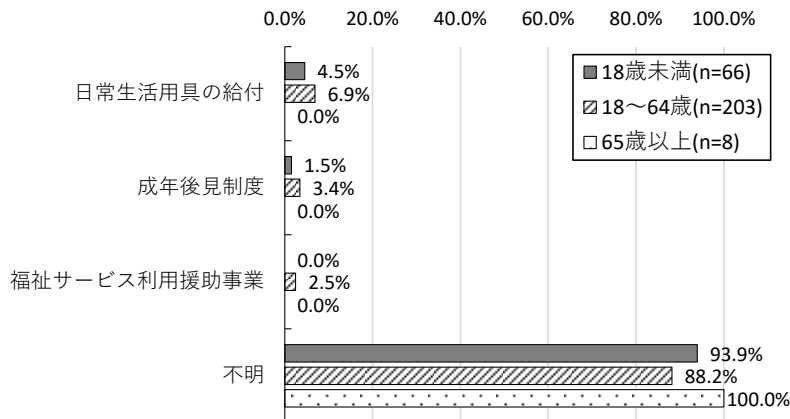
○ 利用したことがある福祉制度【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	日常生活用具の給付	18	6.2%	3	4.5%	14	6.9%	0	0.0%
2	成年後見制度	9	3.1%	1	1.5%	7	3.4%	0	0.0%
3	福祉サービス利用援助事業	5	1.7%	0	0.0%	5	2.5%	0	0.0%
	不明	259	89.6%	62	93.9%	179	88.2%	8	100.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

利用したことがある福祉制度(全体)



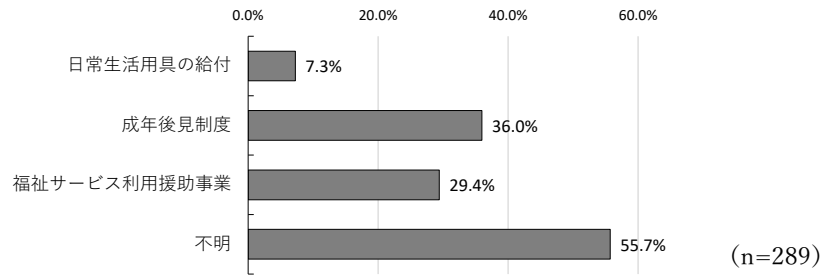
利用したことがある福祉制度(年代別)



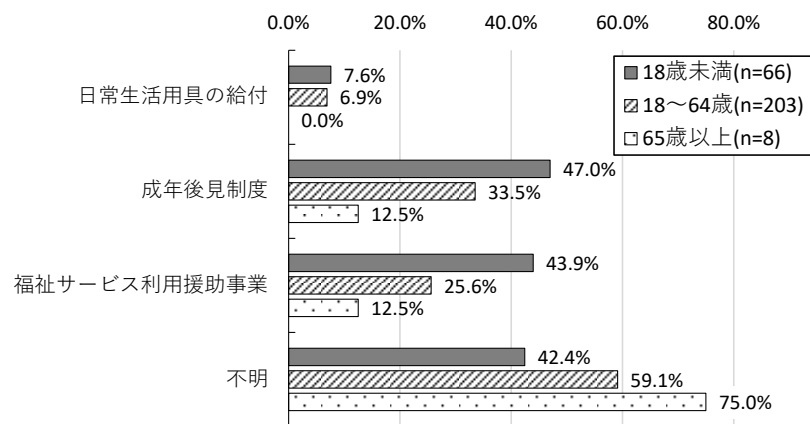
○ 今後利用したい福祉制度【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	日常生活用具の給付	21	7.3%	5	7.6%	14	6.9%	0	6.9%
2	成年後見制度	104	36.0%	31	47.0%	68	33.5%	1	33.5%
3	福祉サービス利用援助事業	85	29.4%	29	43.9%	52	25.6%	1	25.6%
	不明	161	55.7%	28	42.4%	120	59.1%	6	59.1%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

今後利用したい福祉制度(全体)



今後利用したい福祉制度(年代別)

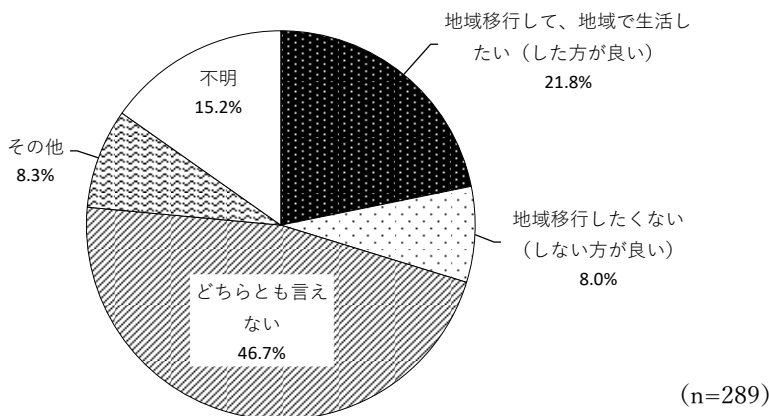


■ 知的障がい者入所施設からの地域移行 【SA】

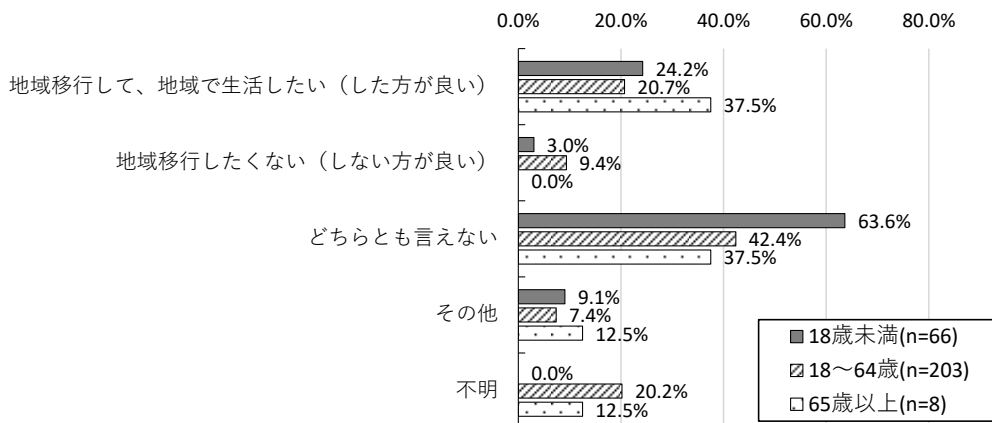
問19 あなたは知的障がい者入所施設からの地域移行(施設を退所して家やグループホームに住み、地域で生活することをいいます。)について、どう思いますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	地域移行して、地域で生活したい(した方が良い)	63	21.8%	16	24.2%	42	20.7%	3	37.5%
2	地域移行したくない(しない方が良い)	23	8.0%	2	3.0%	19	9.4%	0	0.0%
3	どちらとも言えない	135	46.7%	42	63.6%	86	42.4%	3	37.5%
4	その他	24	8.3%	6	9.1%	15	7.4%	1	12.5%
	不明	44	15.2%	0	0.0%	41	20.2%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

知的障がい者入所施設からの地域移行(全体)



知的障がい者入所施設からの地域移行(年代別)



■ 知的障がい者グループホーム

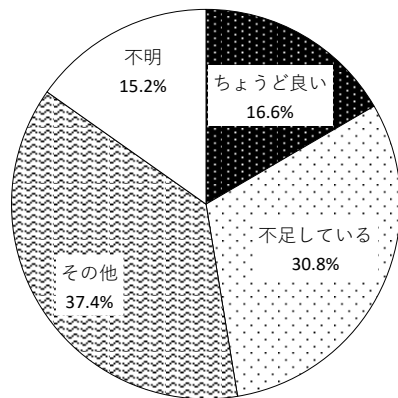
問20 ^{やまがたしない}山形市内の^{ちてきしょう}知的障がい者^{しゃ}グループホームの^{かずおよ}数及び^{ていいんすう}定員数について、^{おも}どう思いますか。
(それぞれ1つだけ○印)

○ グループホームの数【SA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	48	16.6%	6	9.1%	35	17.2%	3	37.5%
2	不足している	89	30.8%	19	28.8%	65	32.0%	2	25.0%
3	その他	108	37.4%	36	54.5%	66	32.5%	3	37.5%
	不明	44	15.2%	5	7.6%	37	18.2%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

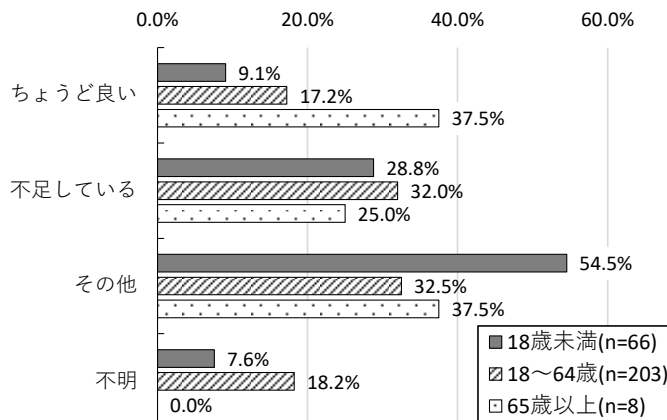
2 不足している：具体的に 介護系（老人向け）のグループホーム数より、少ないと思うので/希望している所に入るのではなく、空いている所に希望するような状態/希望者全員が入所できるわけではない/就労支援 B の事業所のグループホームが満室/障がいの程度、種別により入れるところが少ない/女性用が少ない/山形市南部に多くあるが市北部に少ない

グループホームの数(全体)



(n=289)

グループホームの数(年代別)

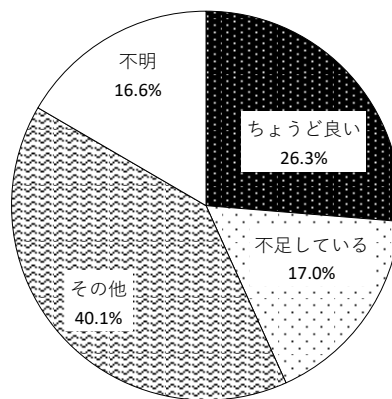


○ グループホームの定員数【SA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	76	26.3%	12	18.2%	55	27.1%	3	37.5%
2	不足している	49	17.0%	12	18.2%	35	17.2%	2	25.0%
3	その他	116	40.1%	38	57.6%	72	35.5%	3	37.5%
	不明	48	16.6%	4	6.1%	41	20.2%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

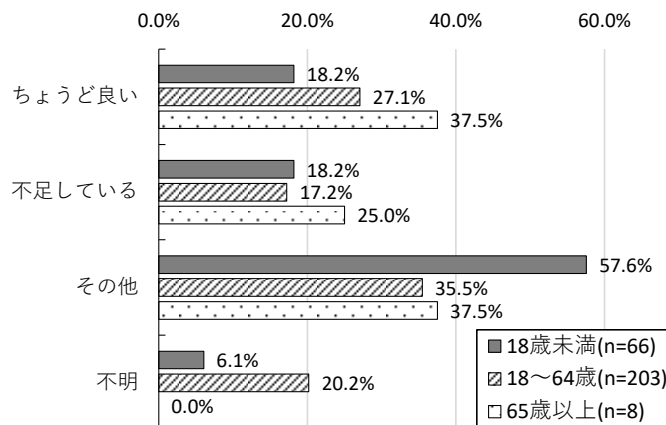
2 不足している：具体的に 入所できないから/先生方の人数が少ない/定員が小さい/サービスが不
充分/空気が全くない所が多い。すぐ埋まってしまう

グループホームの定員数(全体)



(n=289)

グループホームの定員数(年代別)



■ 知的障がい者通所事業所

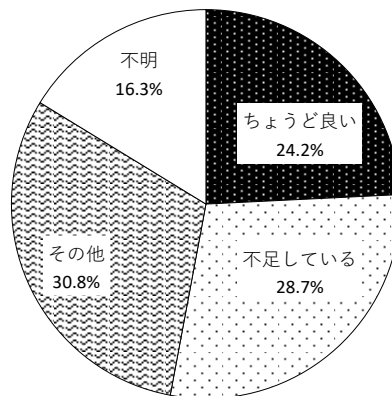
問21 ^{やまがたしない}山形市内の^{ちてきしょう}知的障がい者^{しやつうしよじぎょうしよ}通所事業所の^{かずおよ}数及び^{ていいんすう}定員数について、^{おも}どう思いますか。(1つだけ○印)

○ 障がい者通所事業所の数【SA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	70	24.2%	9	13.6%	54	26.6%	3	37.5%
2	不足している	83	28.7%	24	36.4%	56	27.6%	1	12.5%
3	その他	89	30.8%	28	42.4%	54	26.6%	3	37.5%
	不明	47	16.3%	5	7.6%	39	19.2%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

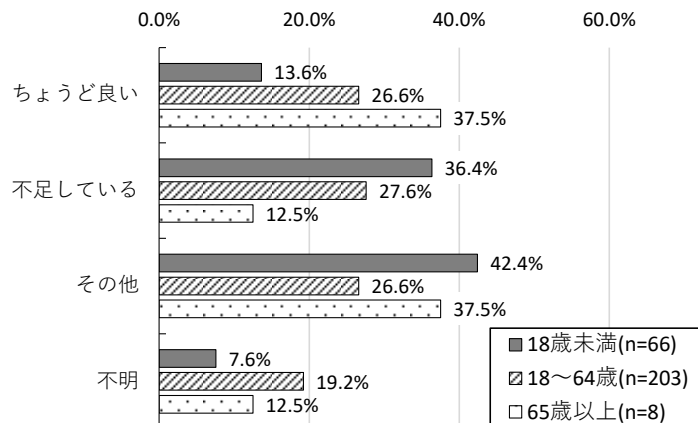
2 不足している：具体的に 肢体不自由もある重複障がい者が通所できる所が少ない/山形市内中心部（駅前～十日町・七日町等）に事業所がない/生活介護の通所事業所が不足/高等部卒業時に、なかなかなく苦労した/就Aの数が増えてほしい。就Bが増えているが作業内容が同一化、バラエティーがない/A型の事業所数と職種がとても少ない/障がい者同士で限られた事業所の取り合いになるほど不足している

障がい者通所事業所の数(全体)



(n=289)

障がい者通所事業所の数(年代別)

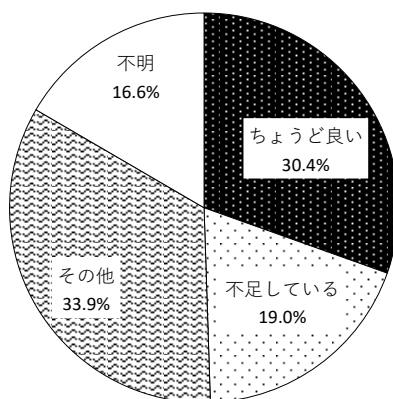


○ 障がい者通所事業所の定員数【SA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	88	30.4%	13	19.7%	66	32.5%	3	37.5%
2	不足している	55	19.0%	18	27.3%	35	17.2%	1	12.5%
3	その他	98	33.9%	30	45.5%	62	30.5%	3	37.5%
	不明	48	16.6%	5	7.6%	40	19.7%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

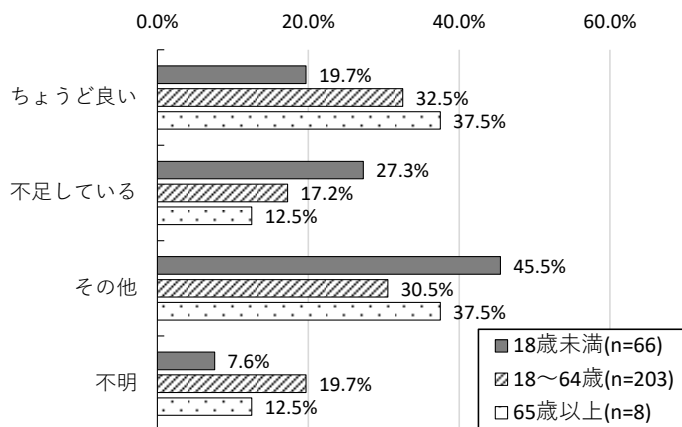
2 不足している：具体的に 今後実習（学校の）などで行くことはできても、定員不足で通所できないことがあると聞いています。放課後デイサービスの利用が決まるまでと一緒に、その年（学校を卒業する年）になる間際まで利用できるかどうかかわからず不安です / 人手不足で仕事に支障がある / 事業所の男女比が極端である / スタッフが不足で定員があっても利用できてないと聞いている

障がい者通所事業所の定員数(全体)



(n=289)

障がい者通所事業所の定員数(年代別)



(5)就労について

現在の就労状況については、「働いていない」(56.4%)が「働いている」(42.6%)を13.8ポイント上回っている。

働いている人に就労形態を聞いたところ、「就労継続支援事業所B型(非雇用型)」が46.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」(30.9%)、「正社員、正職員」(10.6%)などとなった。また、通勤手段については、「電車・バスなどの公共交通機関」および「徒歩・自転車」がともに17.9%と最も高く、次いで「家族などの送迎」(10.6%)などとなっている。また、「その他」(26.0%)の内訳としては“会社や事業所等の送迎”が多くなっている。現在の仕事をどのようにして見つけたかについては、「学校の紹介」が20.3%で最も高く、次いで「公共職業安定所(ハローワーク)」(12.2%)、「就労移行支援事業所」および「自分や家族で探した」(ともに10.6%)などとなっているほか、「その他」(11.4%)も一定の割合を占めている。仕事をするうえでの不安や不満については、「収入が少ない」が42.3%で最も高く、次いで「特にない」(26.0%)、「職場の人間関係にとけこめない」(14.6%)などとなっている。

一方、働いていない人に仕事をしていない理由を聞いたところ、「重度の障がいのため」が29.4%と最も高く、次いで「就学している」(25.2%)、「幼児・児童であるため」(23.9%)などとなった。今後の活動や将来の進路については、「職員などの支援を受けられる事業所」が27.6%と最も高く、次いで「障がい者の雇用が多い事業所」(20.2%)、「就労は難しいのでレクリエーションや創作活動などができる施設」(18.4%)などが続いた。

働き続ける(または将来働く)ために特に必要だと思うことは、「職場に仕事のアドバイスや配慮をしてくれる人がいること」および「障がいや病気に対する理解や配慮」がともに29.8%と最も高く、次いで「自分に合った仕事である」(28.7%)、「通勤が自分でできる」(15.6%)などとなっている。

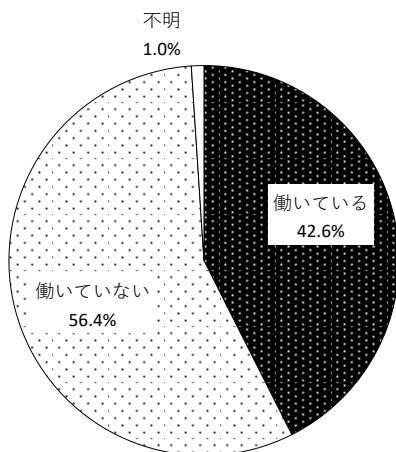
- ◎ 知的障がい者の就労は、身体障がい者に比べ、福祉的就労の割合が高く、全体でも正社員の割合が低くなっている。また、仕事をする上での不安や不満として「収入が少ない」を挙げた人の割合が高く、山形県の工賃の低さも反映していると思われる。今後働き続ける(または将来働く)ためには、「職場に仕事のアドバイスや配慮をしてくれる人がいること」や「障がいや病気に対する理解や配慮」などのニーズが高いことから、障がい者を受け入れる側の理解促進が必要と思われる。

■ 就労の有無【SA】

問22 あなたは^{げんざい}現在、^{はたら}働いていますか。(1つだけ○印)

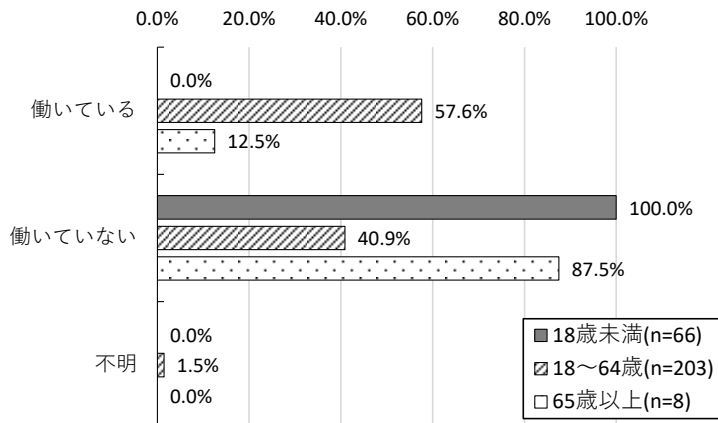
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	働いている	123	42.6%	0	0.0%	117	57.6%	1	12.5%
2	働いていない	163	56.4%	66	100.0%	83	40.9%	7	87.5%
	不明	3	1.0%	0	0.0%	3	1.5%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

就労の有無(全体)



(n=289)

就労の有無(年代別)

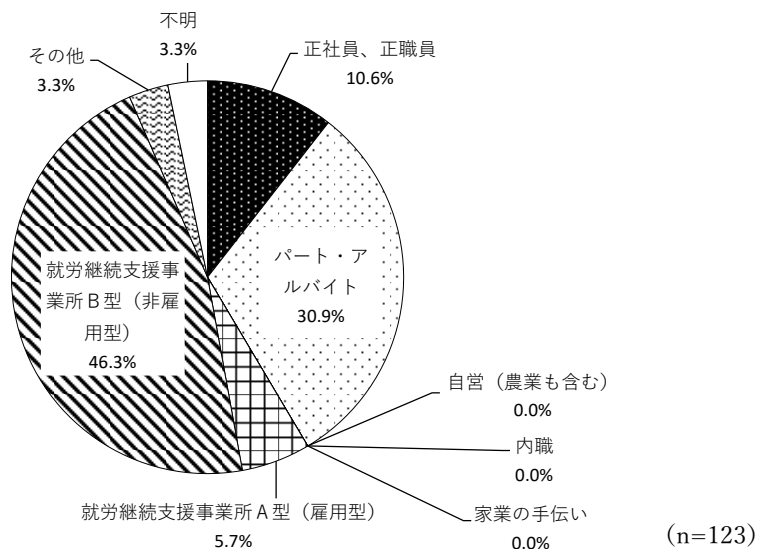


■ 就労形態【SA】

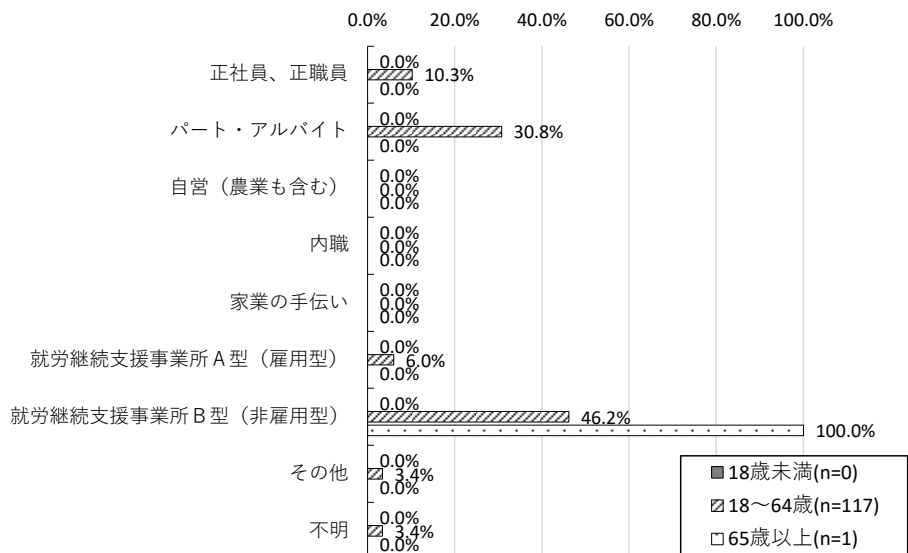
問23 問22で「1」を回答した方におたずねします。どのような形態で働いていますか。(1つだけ)
○印

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	正社員、正職員	13	10.6%	0	0.0%	12	10.3%	0	0.0%
2	パート・アルバイト	38	30.9%	0	0.0%	36	30.8%	0	0.0%
3	自営（農業も含む）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	内職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	家業の手伝い	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6	就労継続支援事業所A型（雇用型）	7	5.7%	0	0.0%	7	6.0%	0	0.0%
7	就労継続支援事業所B型（非雇用型）	57	46.3%	0	0.0%	54	46.2%	1	100.0%
8	その他	4	3.3%	0	0.0%	4	3.4%	0	0.0%
	不明	4	3.3%	0	0.0%	4	3.4%	0	0.0%
	全体	123	100.0%	0	0.0%	117	100.0%	1	100.0%

就労形態(全体)



就労形態(年代別)

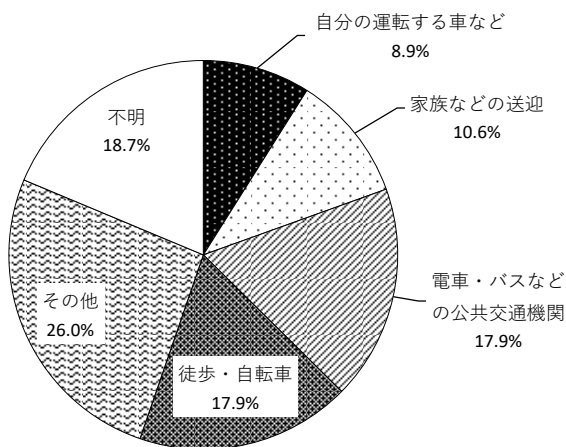


■ 通勤手段【SA】

問24 問22で「1」を回答した方におたずねします。通勤手段は主に何ですか。(1つだけ○印)

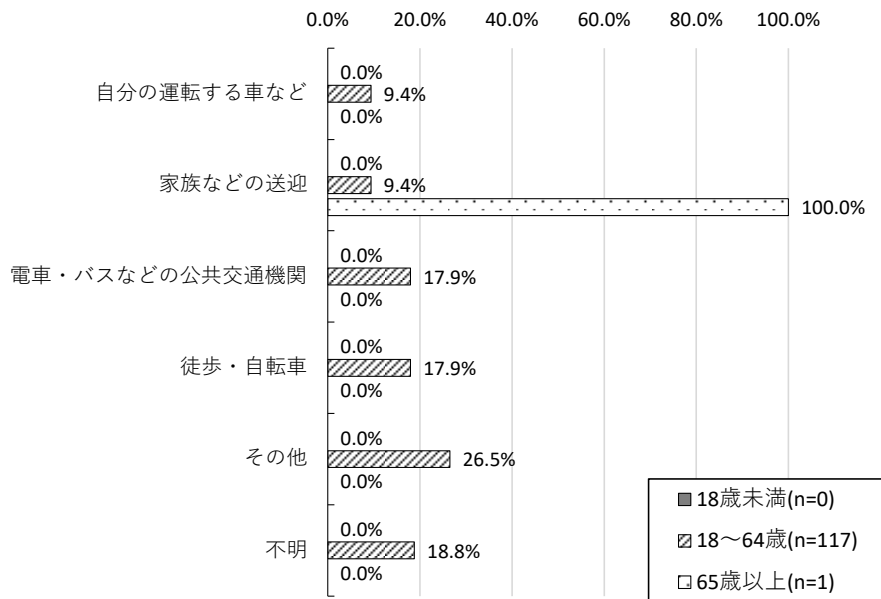
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	自分の運転する車など	11	8.9%	0	0.0%	11	9.4%	0	0.0%
2	家族などの送迎	13	10.6%	0	0.0%	11	9.4%	1	100.0%
3	電車・バスなどの公共交通機関	22	17.9%	0	0.0%	21	17.9%	0	0.0%
4	徒歩・自転車	22	17.9%	0	0.0%	21	17.9%	0	0.0%
5	その他	32	26.0%	0	0.0%	31	26.5%	0	0.0%
	不明	23	18.7%	0	0.0%	22	18.8%	0	0.0%
	全体	123	100.0%	0	0.0%	117	100.0%	1	100.0%

通勤手段(全体)



(n=123)

通勤手段(年代別)

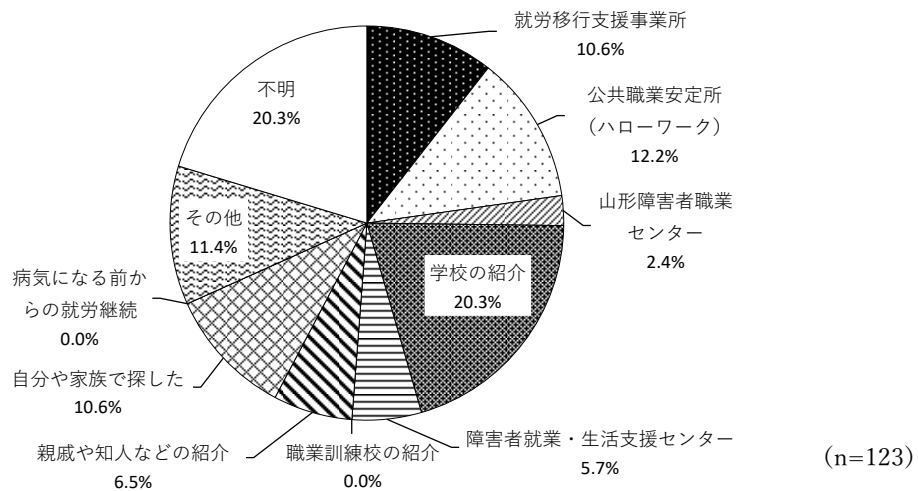


■ 現在の仕事の伝手【SA】

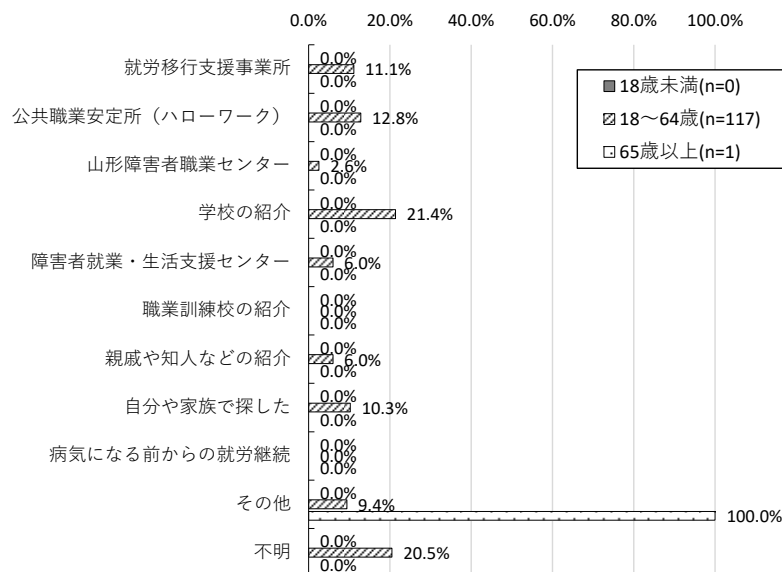
問25 問22で「1」を回答した方におたずねします。現在の仕事はどのようにして見つけましたか。
(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	就労移行支援事業所	13	10.6%	0	0.0%	13	11.1%	0	0.0%
2	公共職業安定所（ハローワーク）	15	12.2%	0	0.0%	15	12.8%	0	0.0%
3	山形障害者職業センター	3	2.4%	0	0.0%	3	2.6%	0	0.0%
4	学校の紹介	25	20.3%	0	0.0%	25	21.4%	0	0.0%
5	障害者就業・生活支援センター	7	5.7%	0	0.0%	7	6.0%	0	0.0%
6	職業訓練校の紹介	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	親戚や知人などの紹介	8	6.5%	0	0.0%	7	6.0%	0	0.0%
8	自分や家族で探した	13	10.6%	0	0.0%	12	10.3%	0	0.0%
9	病気になる前からの就労継続	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	その他	14	11.4%	0	0.0%	11	9.4%	1	100.0%
	不明	25	20.3%	0	0.0%	24	20.5%	0	0.0%
	全体	123	100.0%	0	0.0%	117	100.0%	1	100.0%

現在の仕事の伝手(全体)



現在の仕事の伝手(年代別)

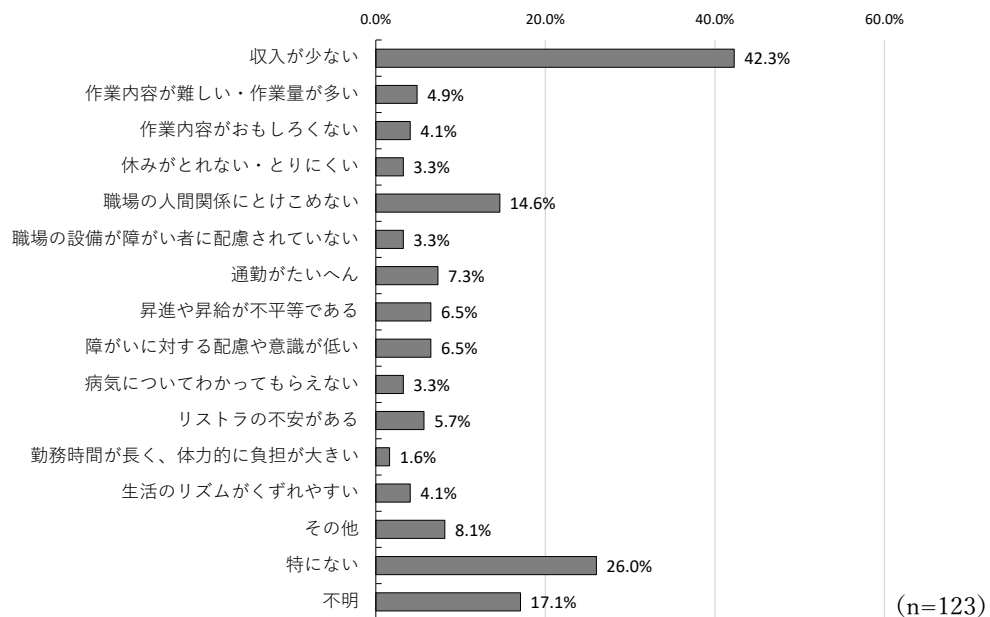


■ 仕事上の不安・不満【MA】

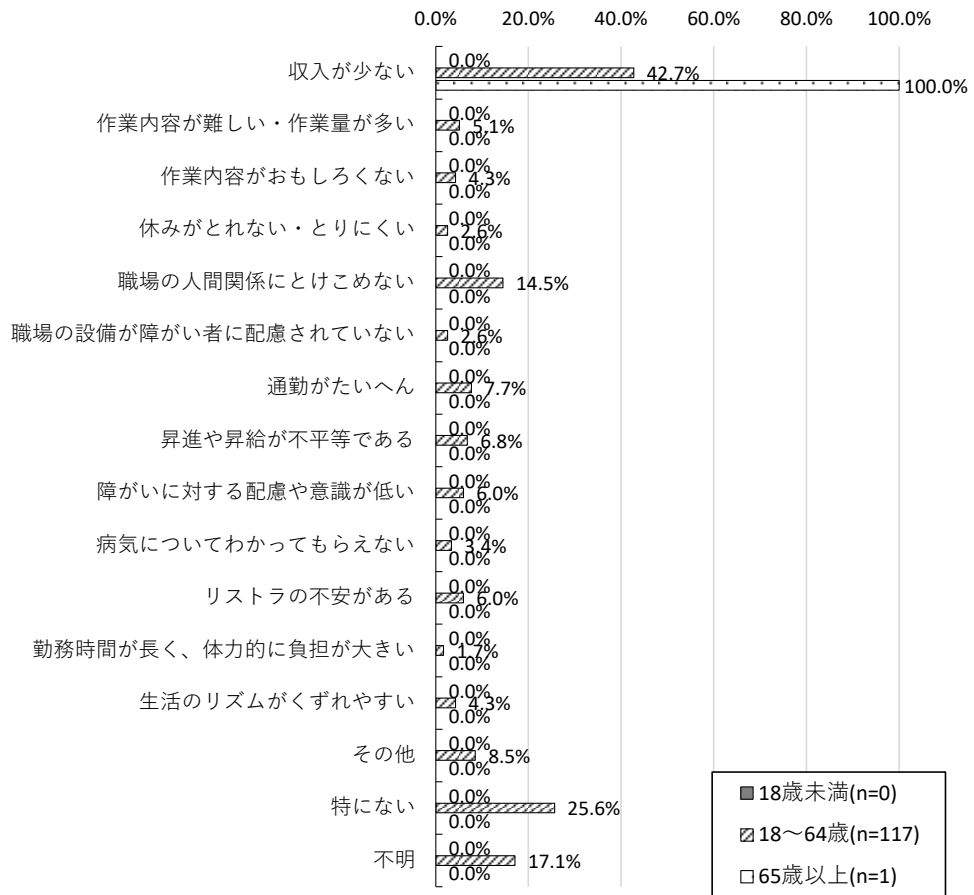
問26 問22で「1」を回答した方におたずねします。あなたは仕事をするうえで不安や不満はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	収入が少ない	52	42.3%	0	0.0%	50	42.7%	1	100.0%
2	作業内容が難しい・作業量が多い	6	4.9%	0	0.0%	6	5.1%	0	0.0%
3	作業内容がおもしろくない	5	4.1%	0	0.0%	5	4.3%	0	0.0%
4	休みがとれない・とりにくい	4	3.3%	0	0.0%	3	2.6%	0	0.0%
5	職場の人間関係にとけこめない	18	14.6%	0	0.0%	17	14.5%	0	0.0%
6	職場の設備が障がい者に配慮されていない	4	3.3%	0	0.0%	3	2.6%	0	0.0%
7	通勤がたいへん	9	7.3%	0	0.0%	9	7.7%	0	0.0%
8	昇進や昇給が不平等である	8	6.5%	0	0.0%	8	6.8%	0	0.0%
9	障がいに対する配慮や意識が低い	8	6.5%	0	0.0%	7	6.0%	0	0.0%
10	病気についてわかってもらえない	4	3.3%	0	0.0%	4	3.4%	0	0.0%
11	リストラの不安がある	7	5.7%	0	0.0%	7	6.0%	0	0.0%
12	勤務時間が長く、体力的に負担が大きい	2	1.6%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%
13	生活のリズムがくずれやすい	5	4.1%	0	0.0%	5	4.3%	0	0.0%
14	その他	10	8.1%	0	0.0%	10	8.5%	0	0.0%
15	特にない	32	26.0%	0	0.0%	30	25.6%	0	0.0%
	不明	21	17.1%	0	0.0%	20	17.1%	0	0.0%
	全体	123	100.0%	0	0.0%	117	100.0%	1	100.0%

仕事上の不安・不満(全体)



仕事上の不安・不満(年代別)

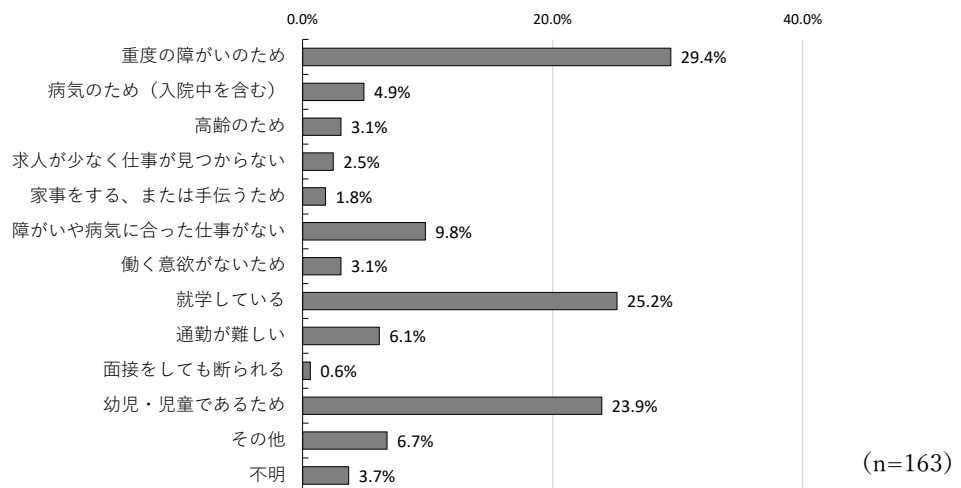


■ 仕事をしない理由【MA】

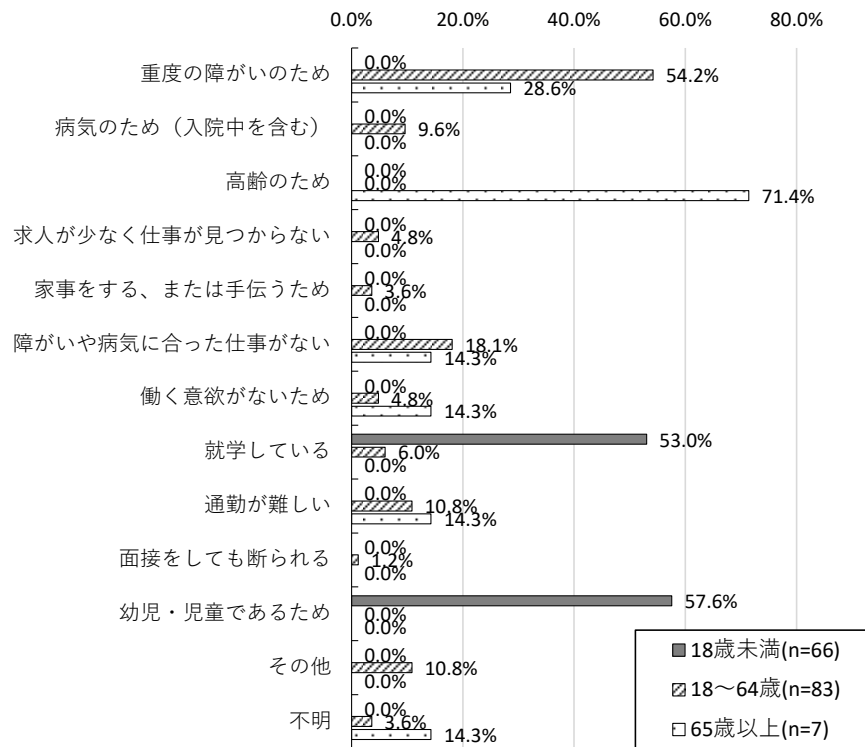
問27 問22で「2」を回答した方におたずねします。あなたが仕事をしていない理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	重度の障がいのため	48	29.4%	0	0.0%	45	54.2%	2	28.6%
2	病気のため（入院中を含む）	8	4.9%	0	0.0%	8	9.6%	0	0.0%
3	高齢のため	5	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	5	71.4%
4	求人が少なく仕事が見つからない	4	2.5%	0	0.0%	4	4.8%	0	0.0%
5	家事をする、または手伝うため	3	1.8%	0	0.0%	3	3.6%	0	0.0%
6	障がいや病気に合った仕事がない	16	9.8%	0	0.0%	15	18.1%	1	14.3%
7	働く意欲がないため	5	3.1%	0	0.0%	4	4.8%	1	14.3%
8	就学している	41	25.2%	35	53.0%	5	6.0%	0	0.0%
9	通勤が難しい	10	6.1%	0	0.0%	9	10.8%	1	14.3%
10	面接をしても断られる	1	0.6%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%
11	幼児・児童であるため	39	23.9%	38	57.6%	0	0.0%	0	0.0%
12	その他	11	6.7%	0	0.0%	9	10.8%	0	0.0%
	不明	6	3.7%	0	0.0%	3	3.6%	1	14.3%
	全体	163	100.0%	66	100.0%	83	100.0%	7	100.0%

仕事をしない理由(全体)



仕事をしない理由(年代別)

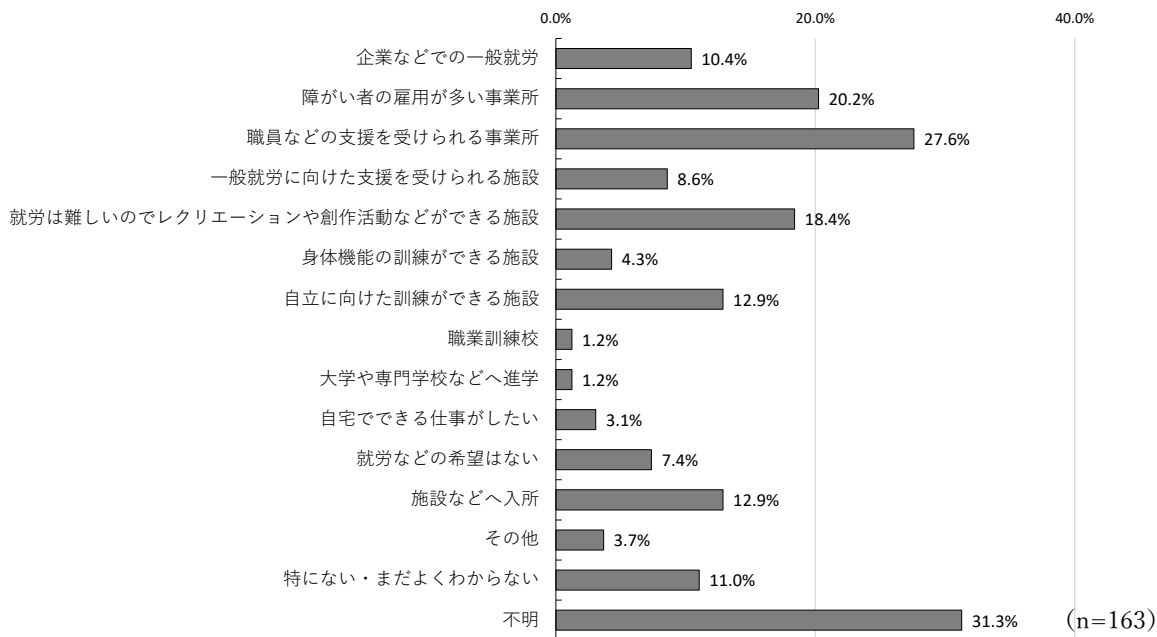


■ 将来の進路・希望【MA】

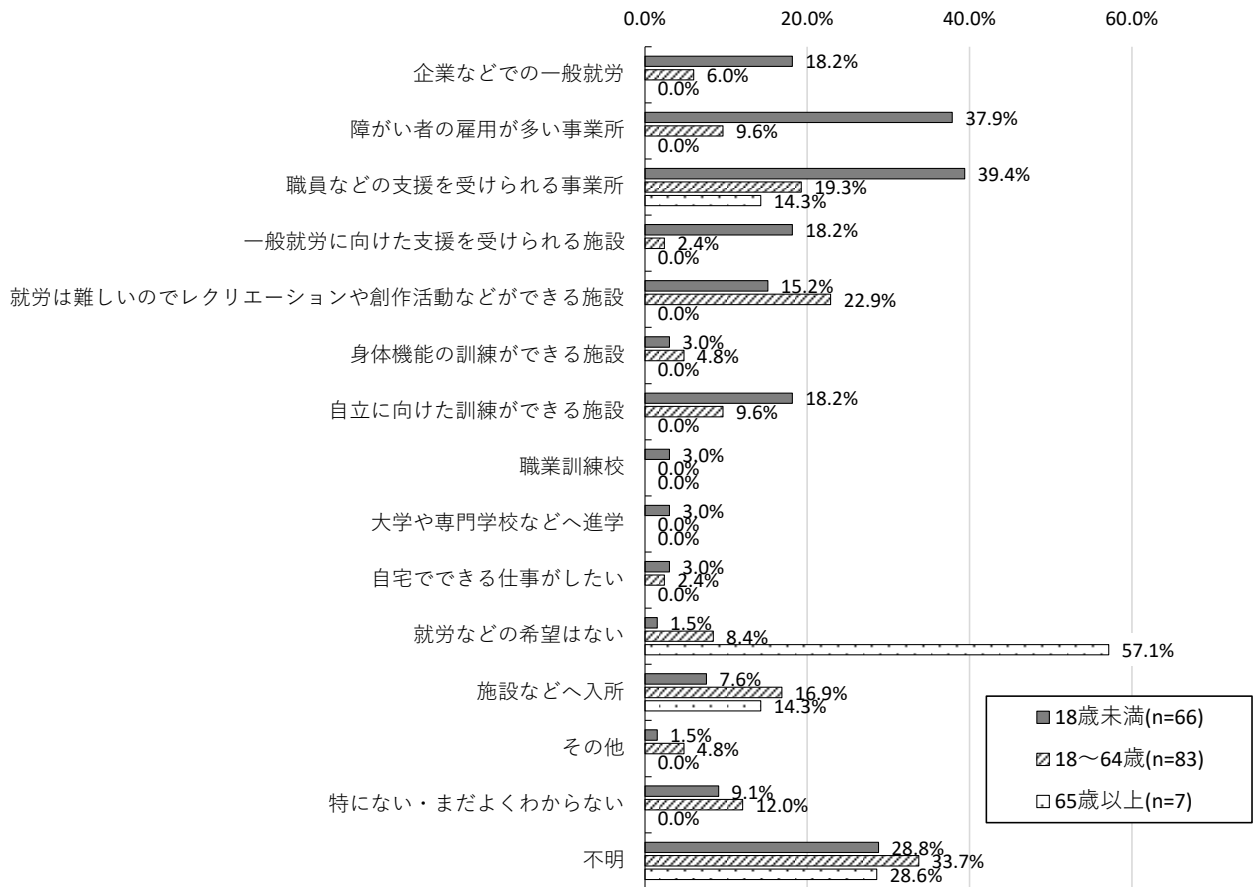
問28 問22で「2」を回答した方におたずねします。今後の活動や将来の進路について、どのような希望がありますか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	企業などでの一般就労	17	10.4%	12	18.2%	5	6.0%	0	0.0%
2	障がい者の雇用が多い事業所	33	20.2%	25	37.9%	8	9.6%	0	0.0%
3	職員などの支援を受けられる事業所	45	27.6%	26	39.4%	16	19.3%	1	14.3%
4	一般就労に向けた支援を受けられる施設	14	8.6%	12	18.2%	2	2.4%	0	0.0%
5	就労は難しいのでレクリエーションや創作活動などができる施設	30	18.4%	10	15.2%	19	22.9%	0	0.0%
6	身体機能の訓練ができる施設	7	4.3%	2	3.0%	4	4.8%	0	0.0%
7	自立に向けた訓練ができる施設	21	12.9%	12	18.2%	8	9.6%	0	0.0%
8	職業訓練校	2	1.2%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	大学や専門学校などへ進学	2	1.2%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	自宅でできる仕事がしたい	5	3.1%	2	3.0%	2	2.4%	0	0.0%
11	就労などの希望はない	12	7.4%	1	1.5%	7	8.4%	4	57.1%
12	施設などへ入所	21	12.9%	5	7.6%	14	16.9%	1	14.3%
13	その他	6	3.7%	1	1.5%	4	4.8%	0	0.0%
14	特にない・まだよくわからない	18	11.0%	6	9.1%	10	12.0%	0	0.0%
	不明	51	31.3%	19	28.8%	28	33.7%	2	28.6%
	全体	163	100.0%	66	100.0%	83	100.0%	7	100.0%

将来の進路・希望(全体)



将来の進路・希望(年代別)

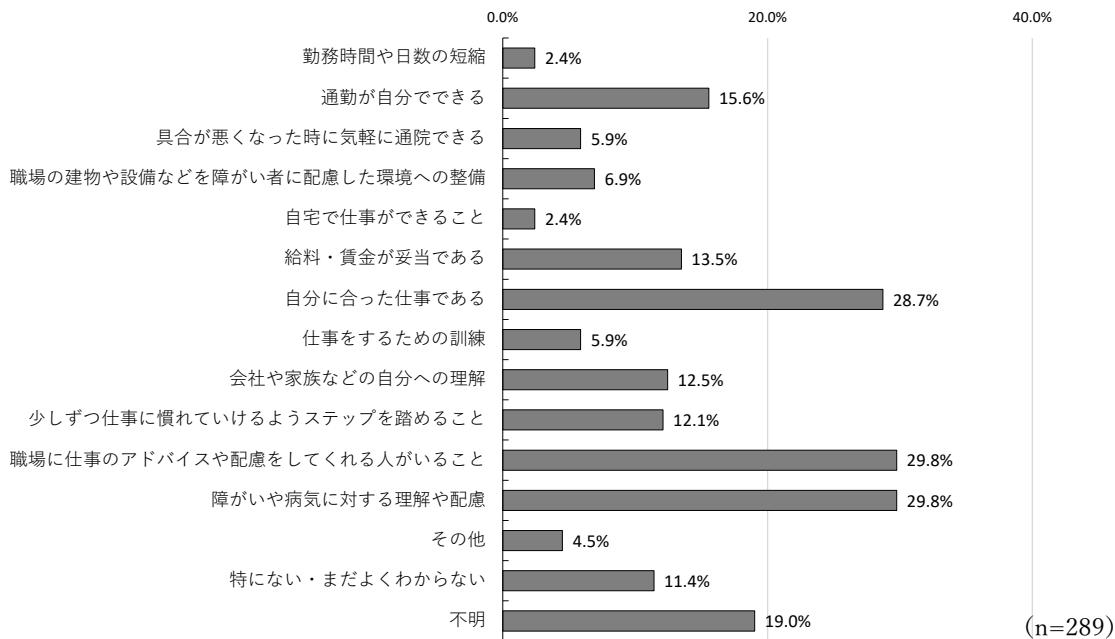


■ 働き続けるために必要なこと【MA】

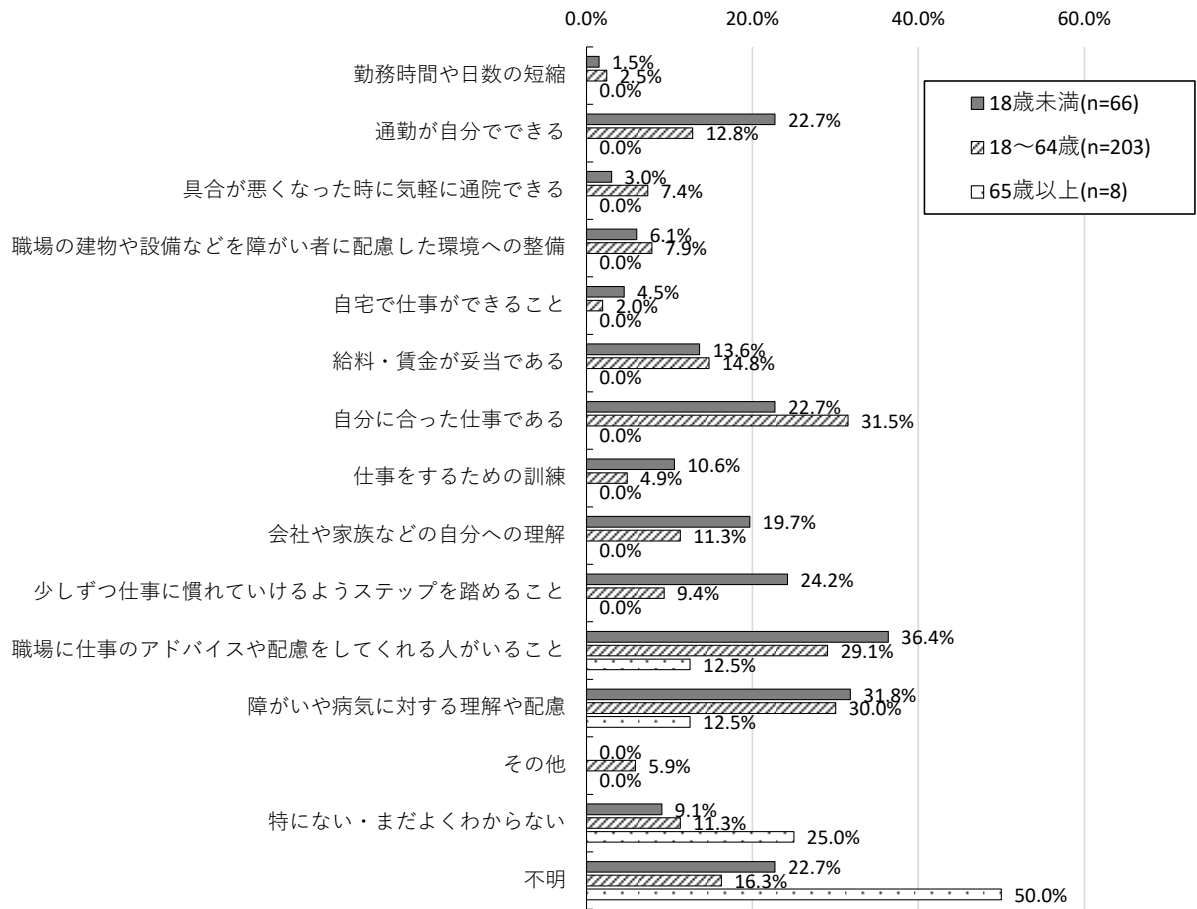
問29 あなたが働き続ける(または将来働く)には、どのようなことが特に必要だと思えますか。
(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	勤務時間や日数の短縮	7	2.4%	1	1.5%	5	2.5%	0	0.0%
2	通勤が自分ができる	45	15.6%	15	22.7%	26	12.8%	0	0.0%
3	具合が悪くなった時に気軽に通院できる	17	5.9%	2	3.0%	15	7.4%	0	0.0%
4	職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備	20	6.9%	4	6.1%	16	7.9%	0	0.0%
5	自宅で仕事ができること	7	2.4%	3	4.5%	4	2.0%	0	0.0%
6	給料・賃金が妥当である	39	13.5%	9	13.6%	30	14.8%	0	0.0%
7	自分に合った仕事である	83	28.7%	15	22.7%	64	31.5%	0	0.0%
8	仕事をするための訓練	17	5.9%	7	10.6%	10	4.9%	0	0.0%
9	会社や家族などの自分への理解	36	12.5%	13	19.7%	23	11.3%	0	0.0%
10	少しずつ仕事に慣れていけるようステップを踏めること	35	12.1%	16	24.2%	19	9.4%	0	0.0%
11	職場に仕事のアドバイスや配慮をしてくれる人がいること	86	29.8%	24	36.4%	59	29.1%	1	12.5%
12	障がいや病気に対する理解や配慮	86	29.8%	21	31.8%	61	30.0%	1	12.5%
13	その他	13	4.5%	0	0.0%	12	5.9%	0	0.0%
14	特にない・まだよくわからない	33	11.4%	6	9.1%	23	11.3%	2	25.0%
	不明	55	19.0%	15	22.7%	33	16.3%	4	50.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

働き続けるために必要なこと(全体)



働き続けるために必要なこと(年代別)



(6)バリアフリーに関することについて

外出頻度については、「ほぼ毎日」が61.2%と最も高く、次いで「週1～2回」(11.8%)、「週3～4回」(9.3%)などとなっており、『週1回以上』が82.3%と8割超を占めている。一方、ほとんど外出しないと回答した人にその理由を聞いたところ、「障がいや病気が重く、外出が難しい」が54.5%と最も高く、次いで「コミュニケーションが難しい」(36.4%)、「外出する必要がある」「付き添いや介助者がいない」「交通機関や道路・階段・トイレなどが使いづらい」(いずれも18.2%)などとなった。

外出するうえで困ることは、「コミュニケーションが難しい」が31.8%で最も高く、次いで「特に困ることはない」(29.8%)、「電車・バスなどへの乗車が難しい」(18.7%)などとなっている。

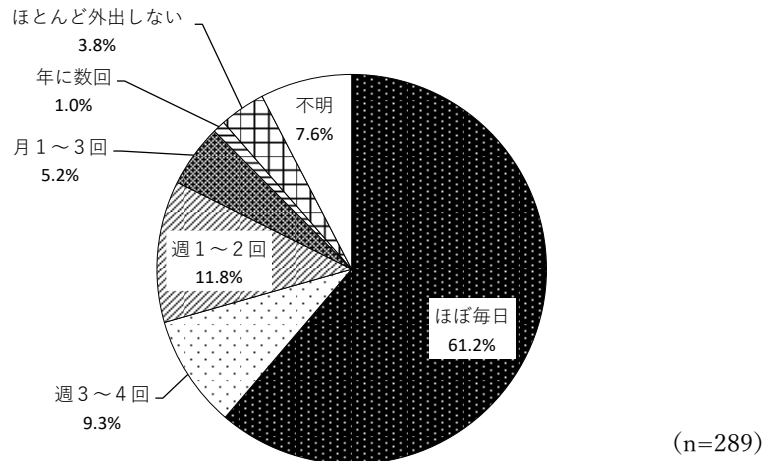
- ◎ 外出しない理由や、外出時の困りごととして、「コミュニケーションが難しい」を挙げた方の割合が高いことから、知的障がい者が安心して外出できる社会にするためには、ソフト的なバリアの解消(心のバリアフリー)が求められている。

■ 外出頻度【SA】

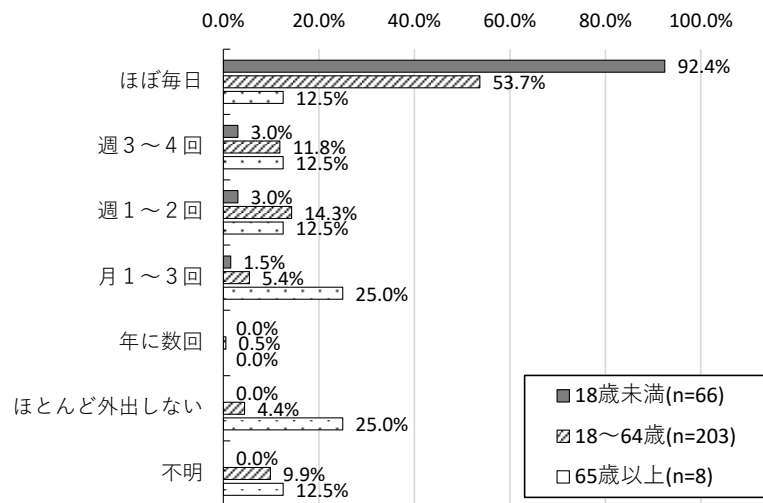
問30 あなたの^{がいしゅつかいすう}外出回数ほどのくらいですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ほぼ毎日	177	61.2%	61	92.4%	109	53.7%	1	12.5%
2	週3～4回	27	9.3%	2	3.0%	24	11.8%	1	12.5%
3	週1～2回	34	11.8%	2	3.0%	29	14.3%	1	12.5%
4	月1～3回	15	5.2%	1	1.5%	11	5.4%	2	25.0%
5	年に数回	3	1.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
6	ほとんど外出しない	11	3.8%	0	0.0%	9	4.4%	2	25.0%
	不明	22	7.6%	0	0.0%	20	9.9%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

外出頻度(全体)



外出頻度(年代別)

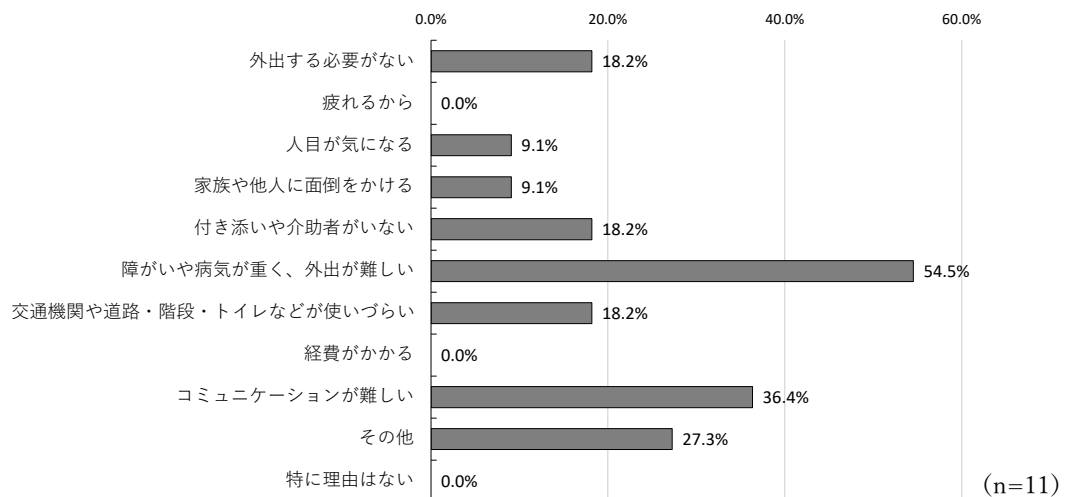


■ 外出しない理由【MA】

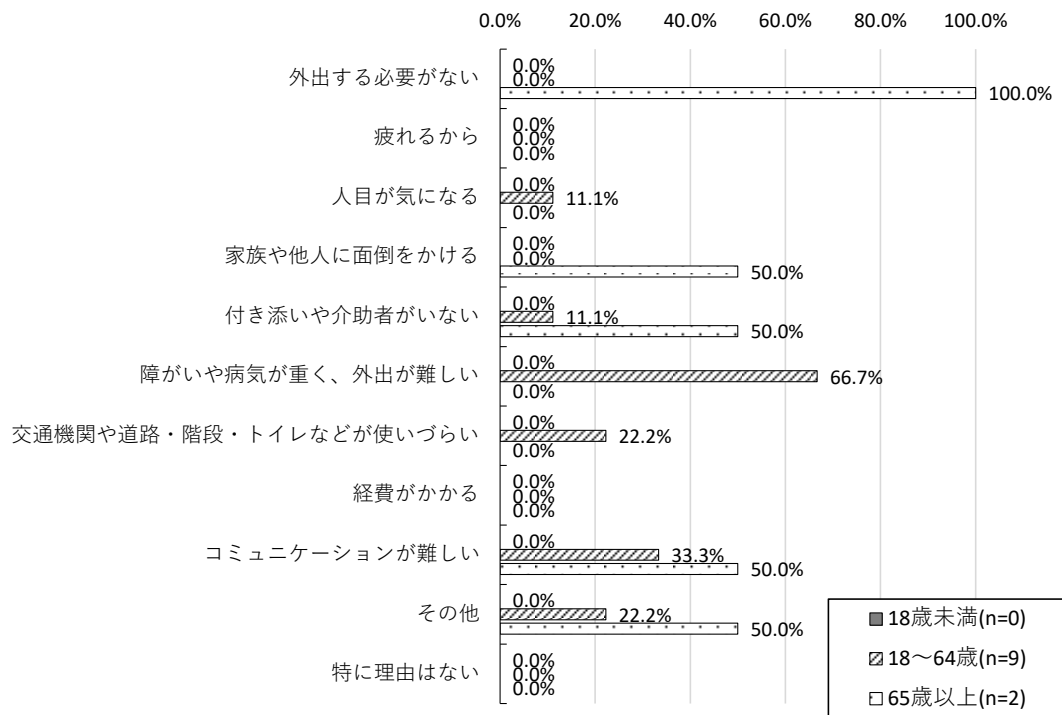
問31 問30で「6」を回答した方におたずねします。あなたが外出しない主な理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	外出する必要がない	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
2	疲れるから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	人目が気になる	1	9.1%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%
4	家族や他人に面倒をかける	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%
5	付き添いや介助者がいない	2	18.2%	0	0.0%	1	11.1%	1	50.0%
6	障がいや病気が重く、外出が難しい	6	54.5%	0	0.0%	6	66.7%	0	0.0%
7	交通機関や道路・階段・トイレなどが使いづらい	2	18.2%	0	0.0%	2	22.2%	0	0.0%
8	経費がかかる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	コミュニケーションが難しい	4	36.4%	0	0.0%	3	33.3%	1	50.0%
10	その他	3	27.3%	0	0.0%	2	22.2%	1	50.0%
11	特に理由はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	11	100.0%	0	0.0%	9	100.0%	2	100.0%

外出しない理由(全体)



外出しない理由(年代別)

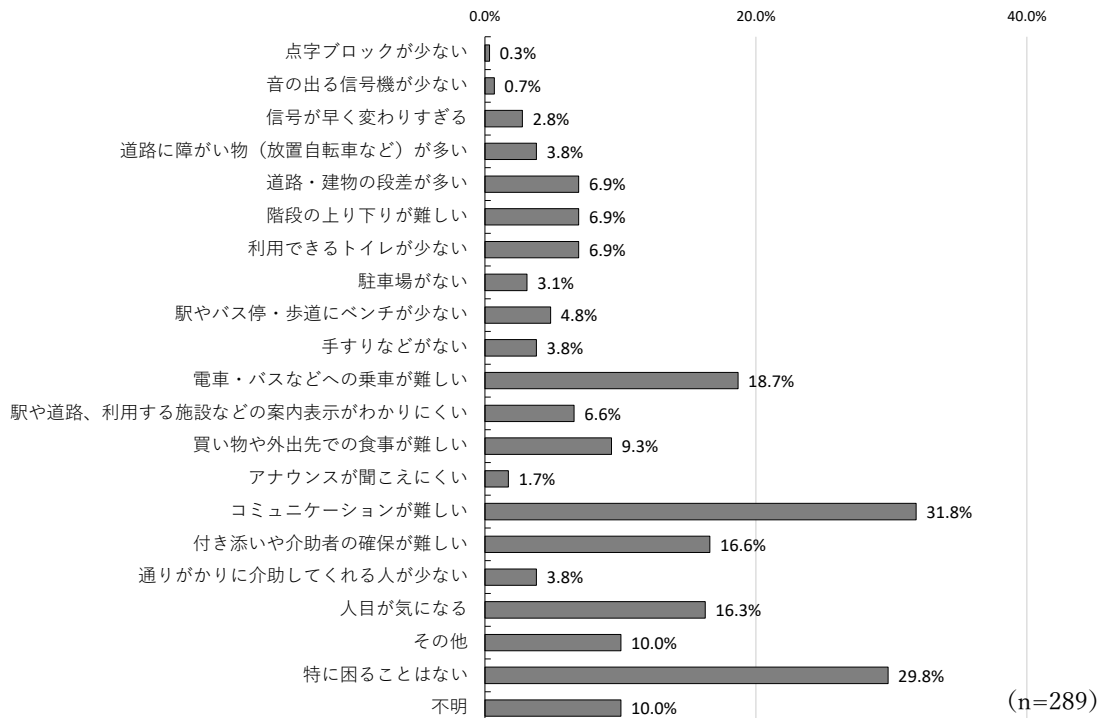


■ 外出するうえでの困りごと【MA】

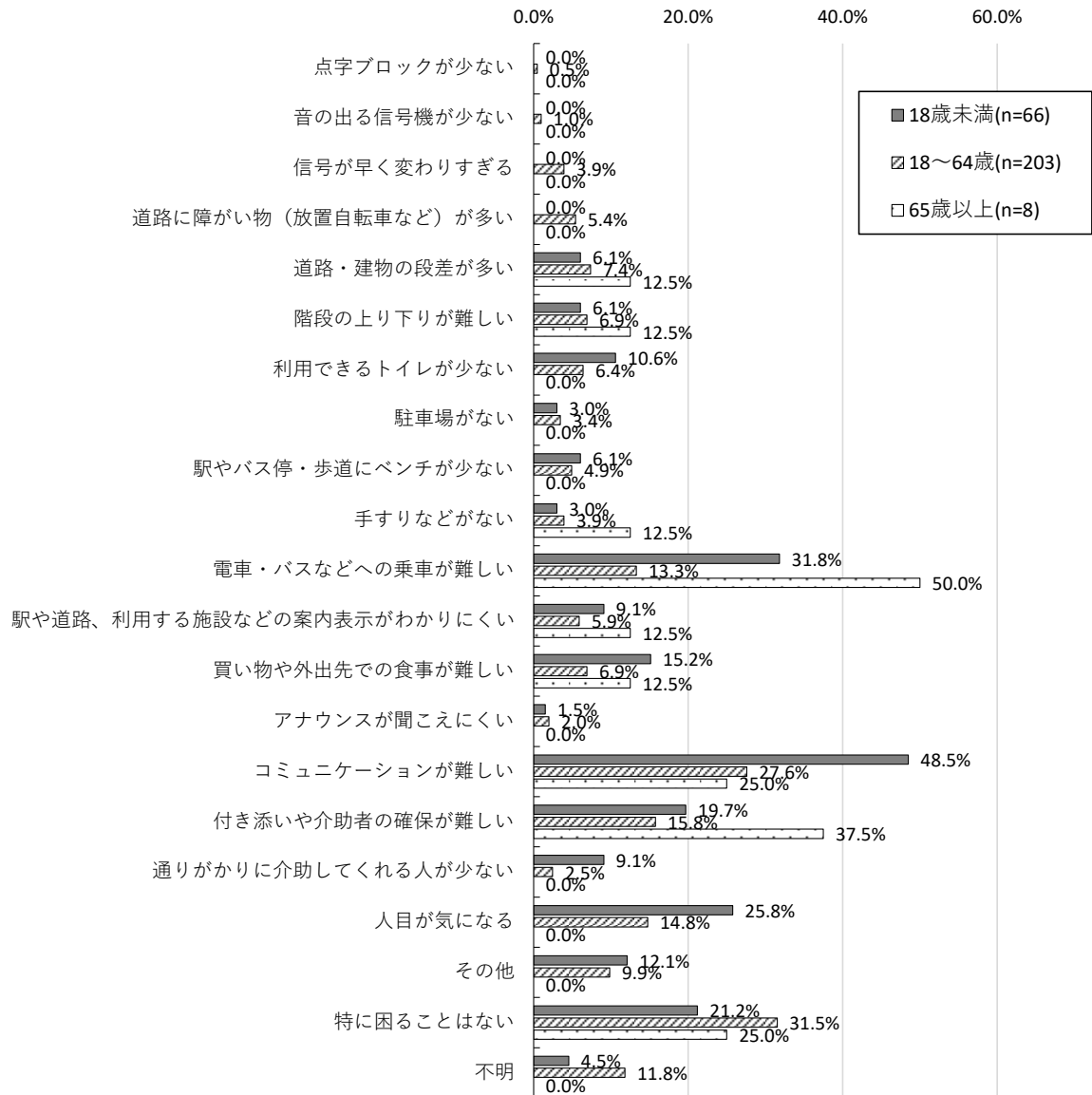
問32 あなたが外出するうえで困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	点字ブロックが少ない	1	0.3%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
2	音の出る信号機が少ない	2	0.7%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%
3	信号が早く変わりすぎる	8	2.8%	0	0.0%	8	3.9%	0	0.0%
4	道路に障がい物（放置自転車など）が多い	11	3.8%	0	0.0%	11	5.4%	0	0.0%
5	道路・建物の段差が多い	20	6.9%	4	6.1%	15	7.4%	1	12.5%
6	階段の上り下りが難しい	20	6.9%	4	6.1%	14	6.9%	1	12.5%
7	利用できるトイレが少ない	20	6.9%	7	10.6%	13	6.4%	0	0.0%
8	駐車場がない	9	3.1%	2	3.0%	7	3.4%	0	0.0%
9	駅やバス停・歩道にベンチが少ない	14	4.8%	4	6.1%	10	4.9%	0	0.0%
10	手すりなどがない	11	3.8%	2	3.0%	8	3.9%	1	12.5%
11	電車・バスなどへの乗車が難しい	54	18.7%	21	31.8%	27	13.3%	4	50.0%
12	駅や道路、利用する施設などの案内表示がわかりにくい	19	6.6%	6	9.1%	12	5.9%	1	12.5%
13	買い物や外出先での食事が難しい	27	9.3%	10	15.2%	14	6.9%	1	12.5%
14	アナウンスが聞こえにくい	5	1.7%	1	1.5%	4	2.0%	0	0.0%
15	コミュニケーションが難しい	92	31.8%	32	48.5%	56	27.6%	2	25.0%
16	付き添いや介助者の確保が難しい	48	16.6%	13	19.7%	32	15.8%	3	37.5%
17	通りがかりに介助してくれる人が少ない	11	3.8%	6	9.1%	5	2.5%	0	0.0%
18	人目が気になる	47	16.3%	17	25.8%	30	14.8%	0	0.0%
19	その他	29	10.0%	8	12.1%	20	9.9%	0	0.0%
20	特に困ることはない	86	29.8%	14	21.2%	64	31.5%	2	25.0%
	不明	29	10.0%	3	4.5%	24	11.8%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

外出するうえでの困りごと(全体)



外出するうえでの困りごと(年代別)



(7)余暇活動について

余暇の過ごし方については、「家でくつろぐ」が81.3%と最も高く、次いで「買い物やデパートや店を見て歩く」(32.2%)、「趣味・学習活動などをする」(22.5%)などとなっている。余暇に特に何もしていないと回答した人に、その理由を聞いたところ、「病状が重いため」および「何をしたらよいかわからない」がともに40.0%と最も高くなっている。

障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動への参加意向を聞いたところ、『参加する(したい)』(47.4%:「すでに参加している」(11.4%) + 「参加してみたい」(36.0%))が「興味がない」(45.3%)が2.1ポイント上回っている。

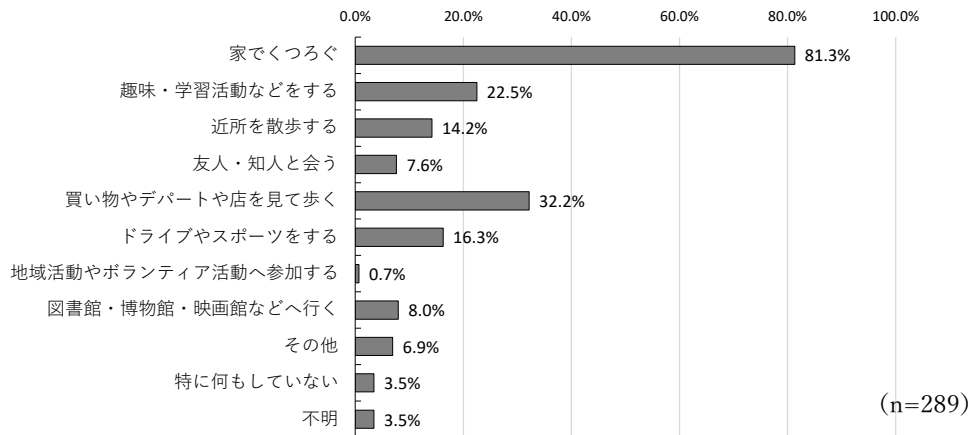
- ◎ 知的障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動への参加意向について、「参加してみたい」との回答割合は、身体障がい者、精神障がい者に比べて高いものの、5割以下にとどまり、「興味がない」との回答も4割以上を占めている。この結果は前回調査と同様である。引き続き、関係団体と連携し、障がい者の参加を促していくような取り組みが必要である。

■ 余暇の過ごし方【MA】

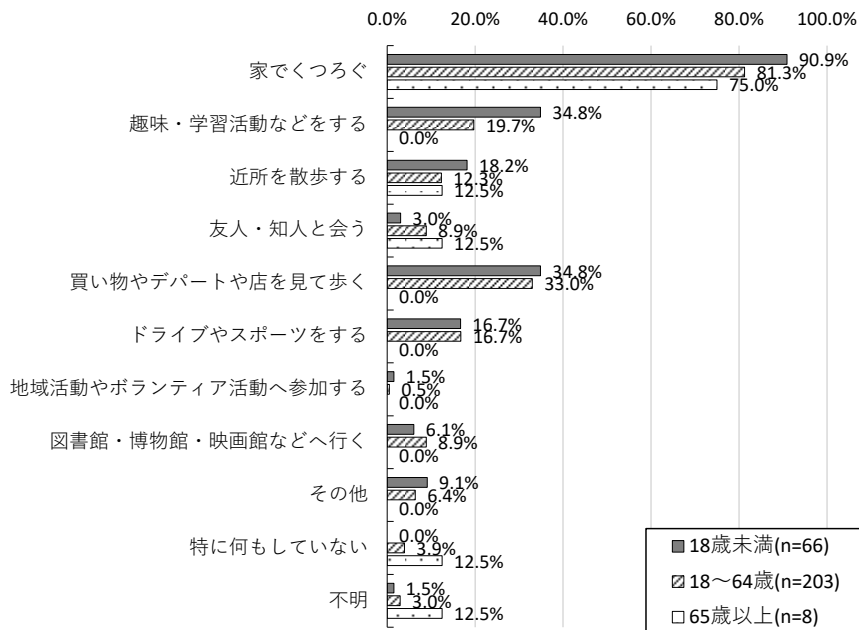
問33 あなたはどのように余暇よかすなどを過ごしていますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家でくつろぐ	235	81.3%	60	90.9%	165	81.3%	6	75.0%
2	趣味・学習活動などをする	65	22.5%	23	34.8%	40	19.7%	0	0.0%
3	近所を散歩する	41	14.2%	12	18.2%	25	12.3%	1	12.5%
4	友人・知人と会う	22	7.6%	2	3.0%	18	8.9%	1	12.5%
5	買い物やデパートや店を見て歩く	93	32.2%	23	34.8%	67	33.0%	0	0.0%
6	ドライブやスポーツをする	47	16.3%	11	16.7%	34	16.7%	0	0.0%
7	地域活動やボランティア活動へ参加する	2	0.7%	1	1.5%	1	0.5%	0	0.0%
8	図書館・博物館・映画館などへ行く	23	8.0%	4	6.1%	18	8.9%	0	0.0%
9	その他	20	6.9%	6	9.1%	13	6.4%	0	0.0%
10	特に何もしていない	10	3.5%	0	0.0%	8	3.9%	1	12.5%
	不明	10	3.5%	1	1.5%	6	3.0%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

余暇の過ごし方(全体)



余暇の過ごし方(年代別)

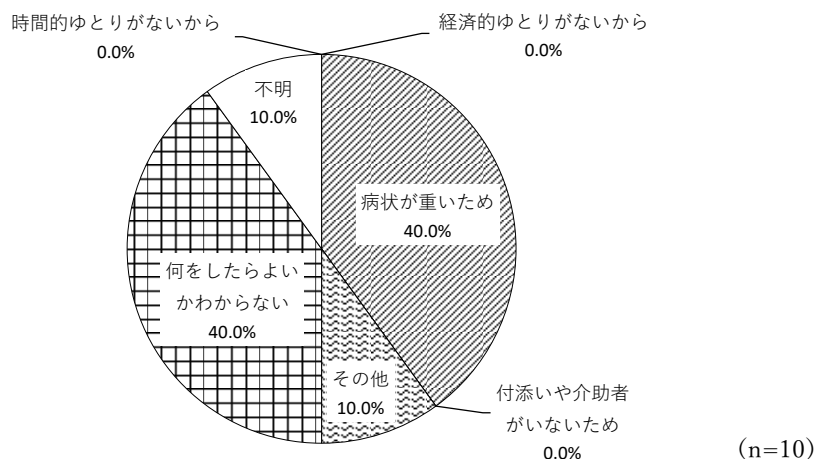


■ 余暇活動をしない理由【MA】

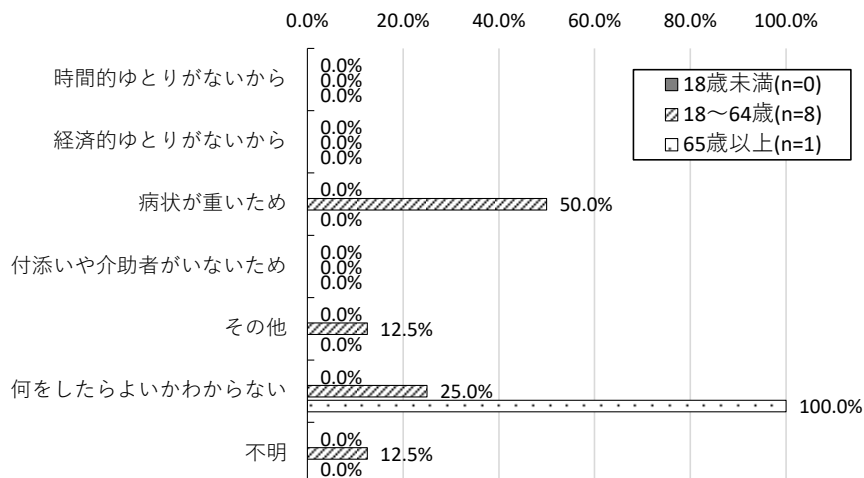
問34 問33で「10」と回答した方におたずねします。あなたが特に何もしていない理由は何か。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	時間的ゆとりがないから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	経済的ゆとりがないから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	病状が重いため	4	40.0%	0	0.0%	4	50.0%	0	0.0%
4	付添いや介助者がいないため	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	その他	1	10.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%
6	何をしたらよいかわからない	4	40.0%	0	0.0%	2	25.0%	1	100.0%
	不明	1	10.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%
	全体	10	100.0%	0	0.0%	8	100.0%	1	100.0%

余暇活動をしない理由(全体)



余暇活動をしない理由(年代別)

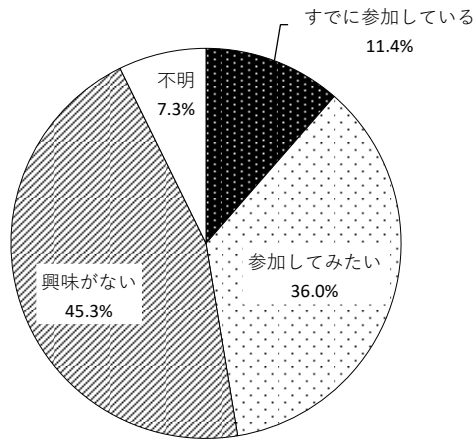


■ 芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向【SA】

問35 障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動に参加してみたいですか。(1つだけ○印)

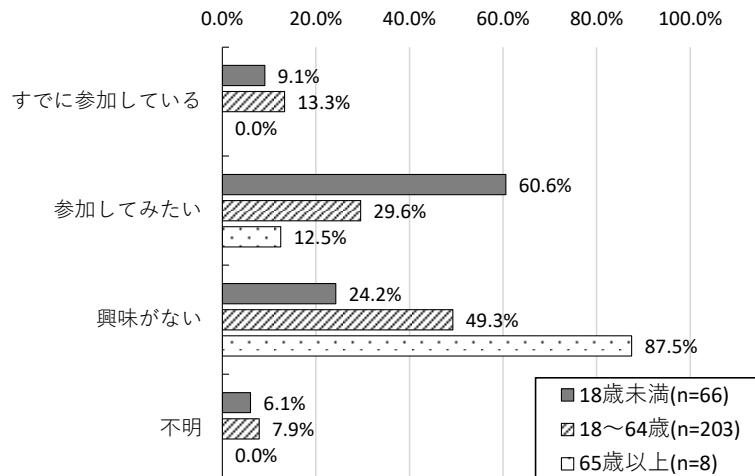
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	すでに参加している	33	11.4%	6	9.1%	27	13.3%	0	0.0%
2	参加してみたい	104	36.0%	40	60.6%	60	29.6%	1	12.5%
3	興味がない	131	45.3%	16	24.2%	100	49.3%	7	87.5%
	不明	21	7.3%	4	6.1%	16	7.9%	0	0.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向(全体)



(n=289)

芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向(年齢区分)



(8)権利擁護について

平成 29 年 4 月より施行された「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」について聞いたところ、「知らない」(80.6%)が「知っている」(16.3%)を 64.3 ポイント差と大きく上回っている。

日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じるかを聞いたところ、「ある」(46.0%)が「ない」(23.5%)が 22.5 ポイント上回った。一方、「わからない」と態度を保留する人も 27.7%と一定の割合を占めている。

障がい者に対する差別・偏見があると感じている人に、どのようなところにもっとも強く障がい者に対する差別・偏見または疎外感を感じるかを聞いたところ、「人の視線」が 70.7%と最も高く、次いで「仕事や収入」(33.8%)、「教育の機会」および「店などでの対応の態度」(ともに 15.8%)などとなった。また、差別をされたり、いやな思いをしたときに相談した人については、「家族」が 55.6%と最も高く、次いで「友人・知人」(23.3%)、「山形市指定相談支援事業所」(14.3%)などとなっている。一方、「相談しなかった」は 19.5%となっている。相談しなかったと回答した人の理由としては、「相談しても解決しないと思った」が 65.4%で最も高くなっている。

差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものとしては、「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が 50.9%と最も高く、次いで「障がいや病気への正しい理解の啓発」(39.4%)、「情報提供の充実」(24.6%)、「福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす」(24.2%)などとなっている。

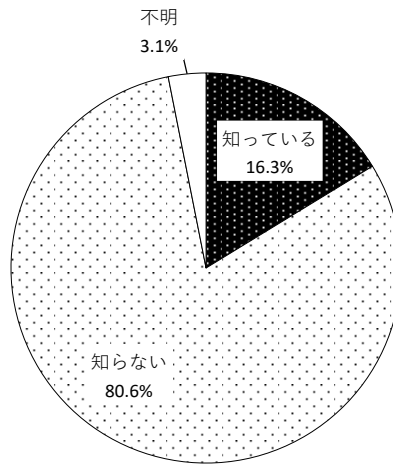
- ◎ 知的障がい者の「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」に関する認知は進んでおらず、これは身体障がい者、精神障がい者、その他市民に関しても同様である。今後、権利擁護に関する市民全体の意識を高めていくには、回答にもあるように「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」ことや「障がいや病気への正しい理解の啓発」が重要と考えられる。

■ 条例の認知状況【SA】

問36 あなたは、平成29年4月より施行された「山形市障がい者理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。(1つだけ○印)

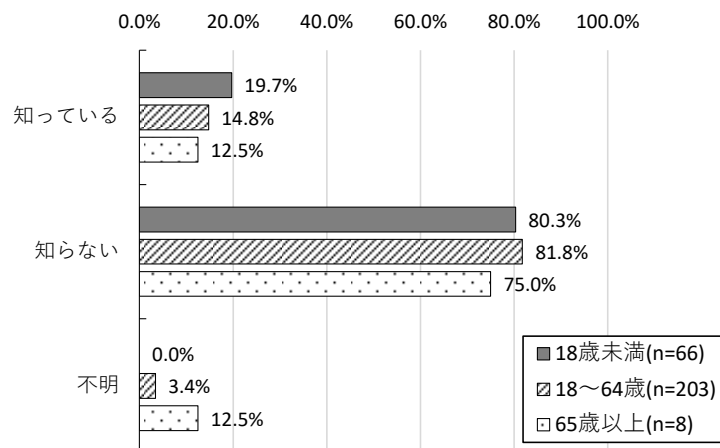
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	47	16.3%	13	19.7%	30	14.8%	1	12.5%
2	知らない	233	80.6%	53	80.3%	166	81.8%	6	75.0%
	不明	9	3.1%	0	0.0%	7	3.4%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

条例の認知状況(全体)



(n=289)

条例の認知状況(年代別)

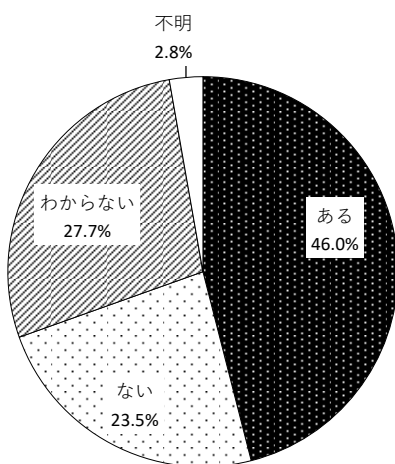


■ 差別や偏見・疎外感【SA】

問37 あなたは、日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じることがありますか。(1つだけ○印)

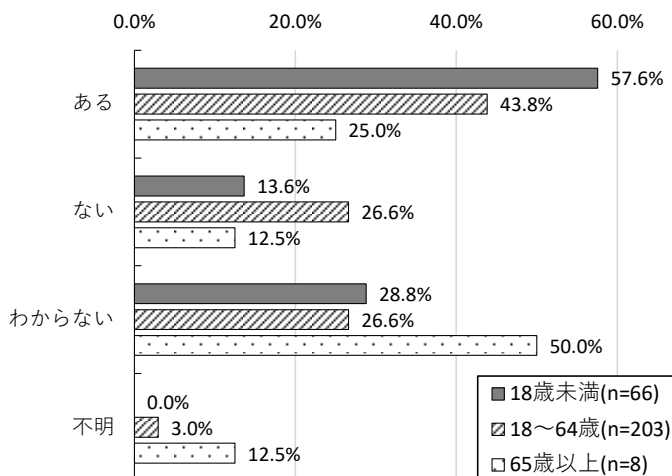
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	133	46.0%	38	57.6%	89	43.8%	2	25.0%
2	ない	68	23.5%	9	13.6%	54	26.6%	1	12.5%
3	わからない	80	27.7%	19	28.8%	54	26.6%	4	50.0%
	不明	8	2.8%	0	0.0%	6	3.0%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

差別や偏見・疎外感(全体)



(n=289)

差別や偏見・疎外感(年代別)

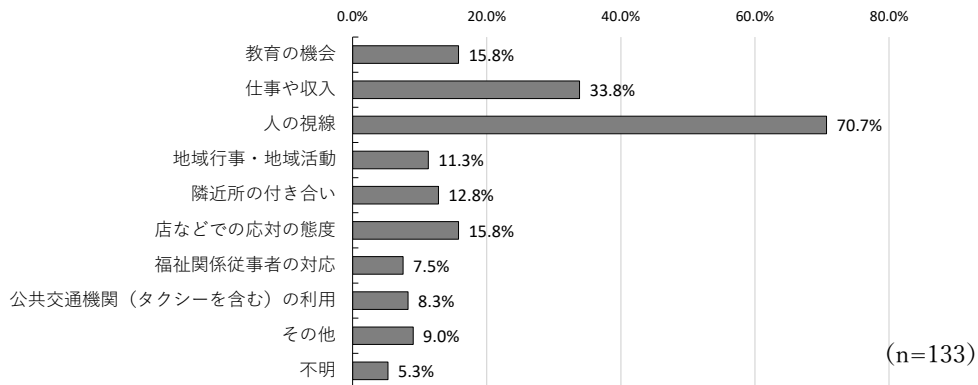


■ 差別・偏見や疎外感を感じる場面【MA】

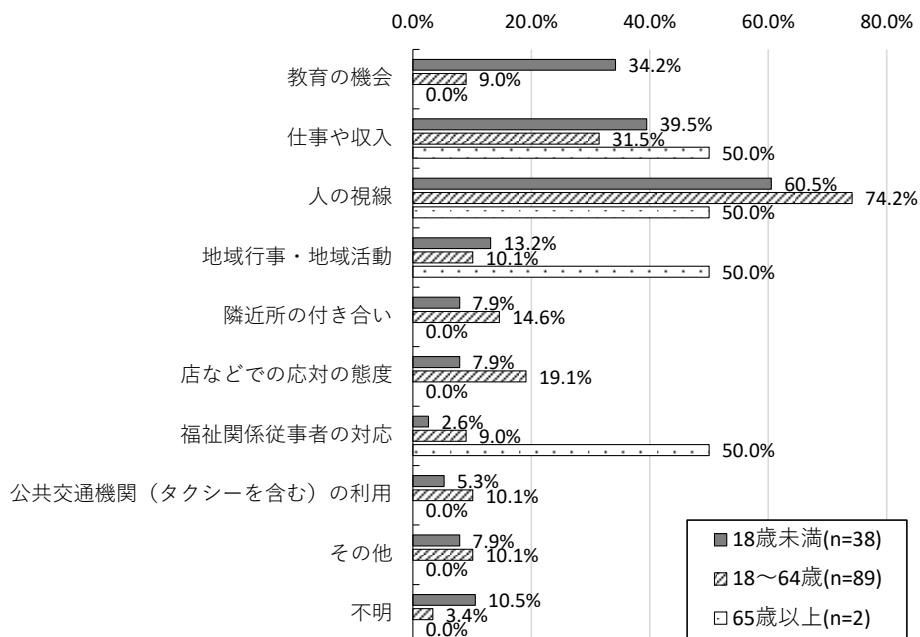
問38 問37で「1」を回答した方におたずねします。どのようなところに、障がい者に対する差別・偏見または疎外感をもっとも強く感じますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	教育の機会	21	15.8%	13	34.2%	8	9.0%	0	0.0%
2	仕事や収入	45	33.8%	15	39.5%	28	31.5%	1	50.0%
3	人の視線	94	70.7%	23	60.5%	66	74.2%	1	50.0%
4	地域行事・地域活動	15	11.3%	5	13.2%	9	10.1%	1	50.0%
5	隣近所の付き合い	17	12.8%	3	7.9%	13	14.6%	0	0.0%
6	店などでの対応の態度	21	15.8%	3	7.9%	17	19.1%	0	0.0%
7	福祉関係従事者の対応	10	7.5%	1	2.6%	8	9.0%	1	50.0%
8	公共交通機関（タクシーを含む）の利用	11	8.3%	2	5.3%	9	10.1%	0	0.0%
9	その他	12	9.0%	3	7.9%	9	10.1%	0	0.0%
	不明	7	5.3%	4	10.5%	3	3.4%	0	0.0%
	全体	133	100.0%	38	100.0%	89	100.0%	2	100.0%

差別・偏見や疎外感を感じる場面(全体)



差別・偏見や疎外感を感じる場面(年代別)

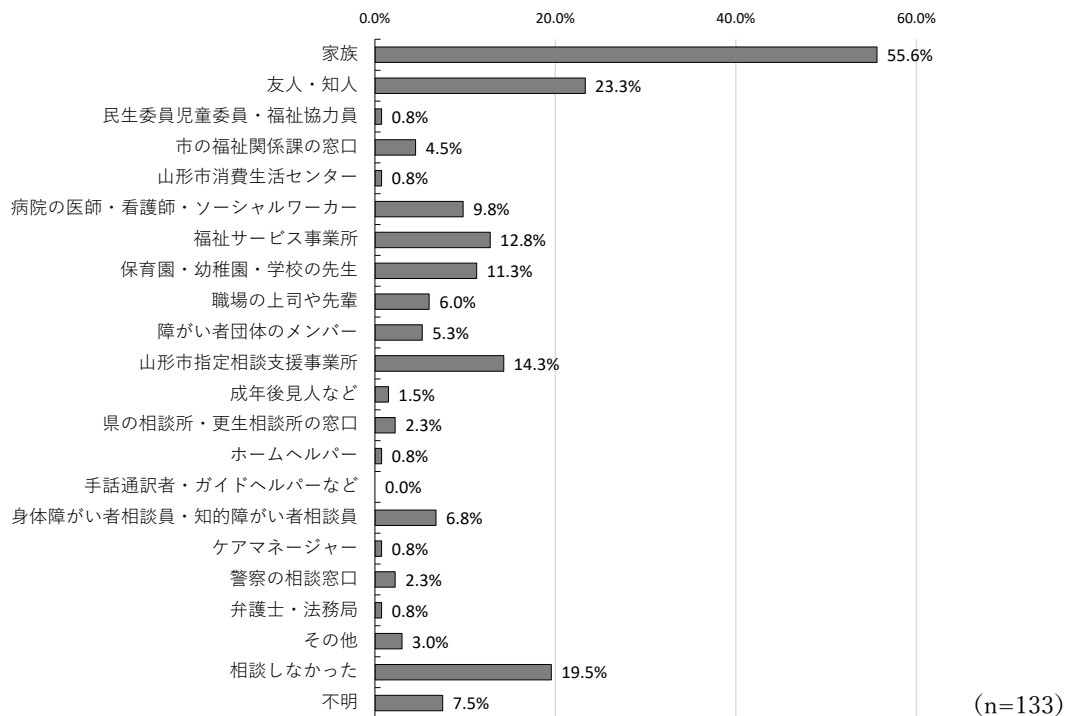


■ 差別を受けたときの相談相手【MA】

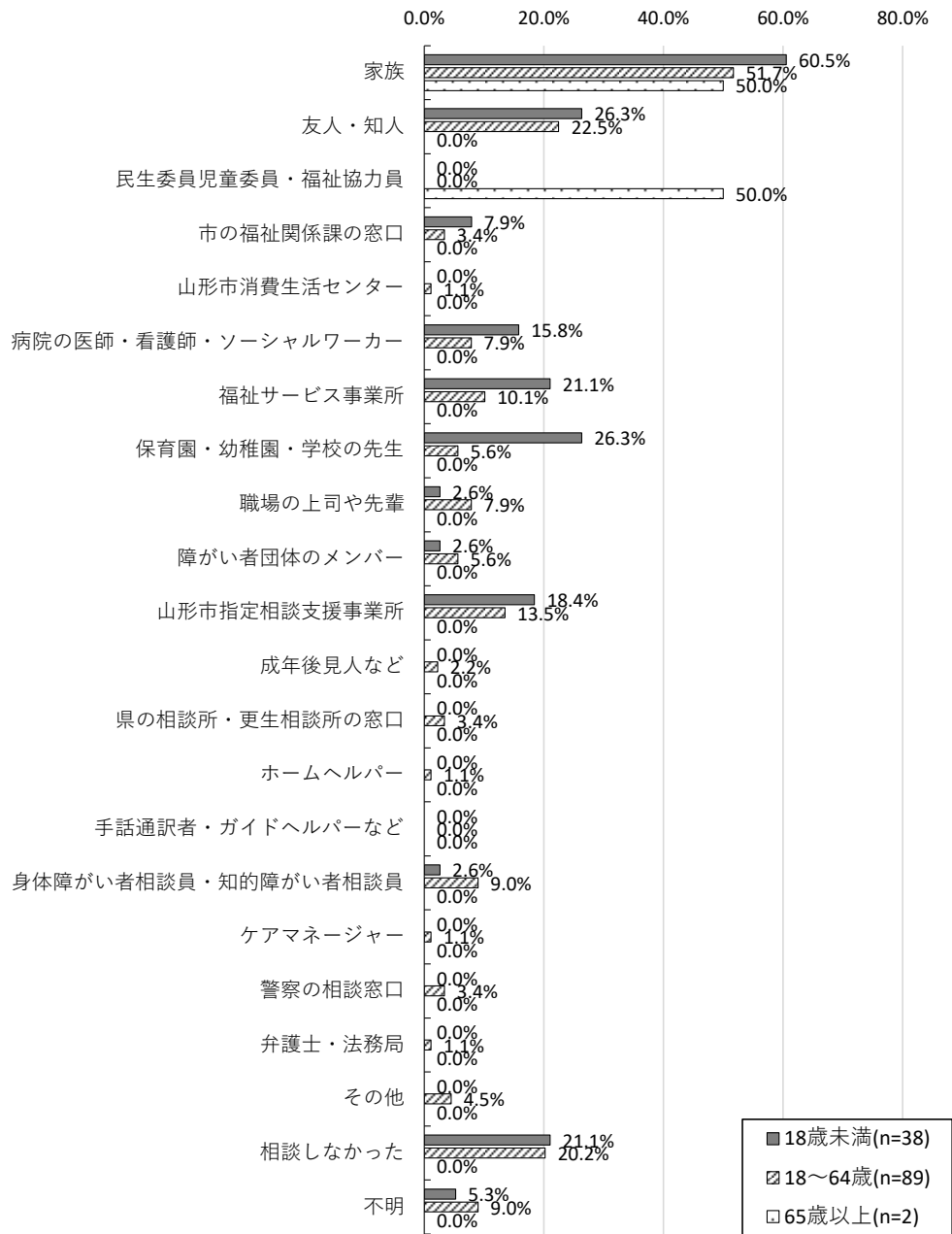
問39 問37で「1」を回答した方におたずねします。差別をされたり、いやな思いをしたときに誰に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家族	74	55.6%	23	60.5%	46	51.7%	1	50.0%
2	友人・知人	31	23.3%	10	26.3%	20	22.5%	0	0.0%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%
4	市の福祉関係課の窓口	6	4.5%	3	7.9%	3	3.4%	0	0.0%
5	山形市消費生活センター	1	0.8%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
6	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	13	9.8%	6	15.8%	7	7.9%	0	0.0%
7	福祉サービス事業所	17	12.8%	8	21.1%	9	10.1%	0	0.0%
8	保育園・幼稚園・学校の先生	15	11.3%	10	26.3%	5	5.6%	0	0.0%
9	職場の上司や先輩	8	6.0%	1	2.6%	7	7.9%	0	0.0%
10	障がい者団体のメンバー	7	5.3%	1	2.6%	5	5.6%	0	0.0%
11	山形市指定相談支援事業所	19	14.3%	7	18.4%	12	13.5%	0	0.0%
12	成年後見人など	2	1.5%	0	0.0%	2	2.2%	0	0.0%
13	県の相談所・更生相談所の窓口	3	2.3%	0	0.0%	3	3.4%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	1	0.8%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
15	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	9	6.8%	1	2.6%	8	9.0%	0	0.0%
17	ケアマネージャー	1	0.8%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
18	警察の相談窓口	3	2.3%	0	0.0%	3	3.4%	0	0.0%
19	弁護士・法務局	1	0.8%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
20	その他	4	3.0%	0	0.0%	4	4.5%	0	0.0%
21	相談しなかった	26	19.5%	8	21.1%	18	20.2%	0	0.0%
	不明	10	7.5%	2	5.3%	8	9.0%	0	0.0%
	全体	133	100.0%	38	100.0%	89	100.0%	2	100.0%

差別を受けたときの相談相手(全体)



差別を受けたときの相談相手(年代別)

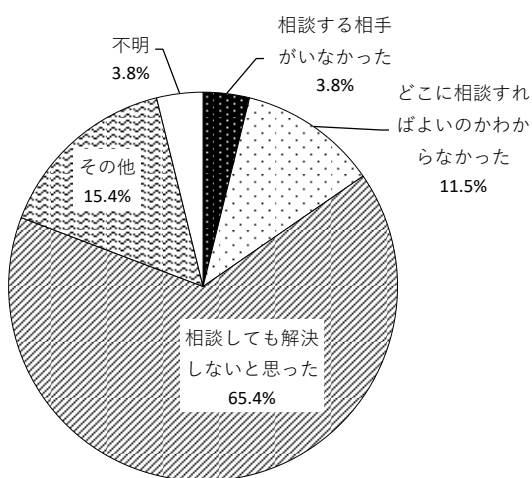


■ 差別を受けたときに相談しなかった理由【MA】

問40 問39で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。（1つだけ
○印）

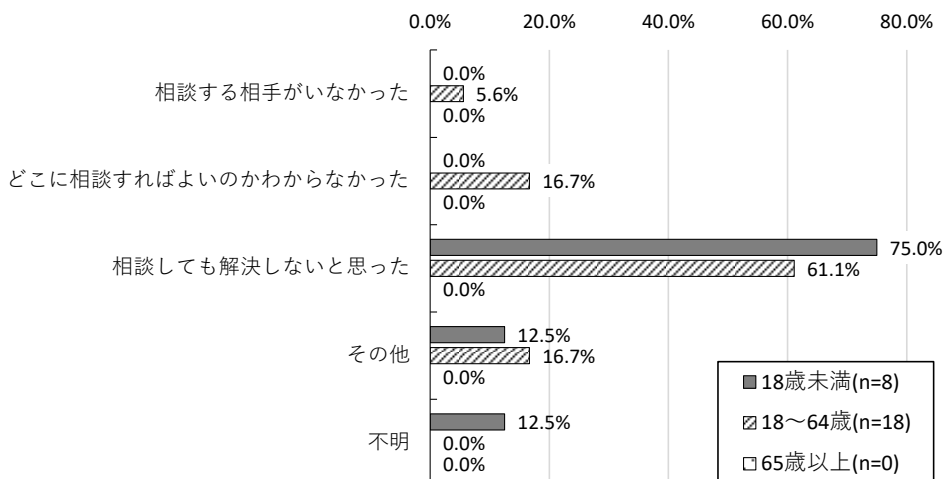
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	相談する相手がいなかった	1	3.8%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%
2	どこに相談すればよいのかわからなかった	3	11.5%	0	0.0%	3	16.7%	0	0.0%
3	相談しても解決しなかったと思った	17	65.4%	6	75.0%	11	61.1%	0	0.0%
4	その他	4	15.4%	1	12.5%	3	16.7%	0	0.0%
	不明	1	3.8%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	26	100.0%	8	100.0%	18	100.0%	0	0.0%

差別を受けたときに相談しなかった理由(全体)



(n=26)

差別を受けたときに相談しなかった理由(年代別)

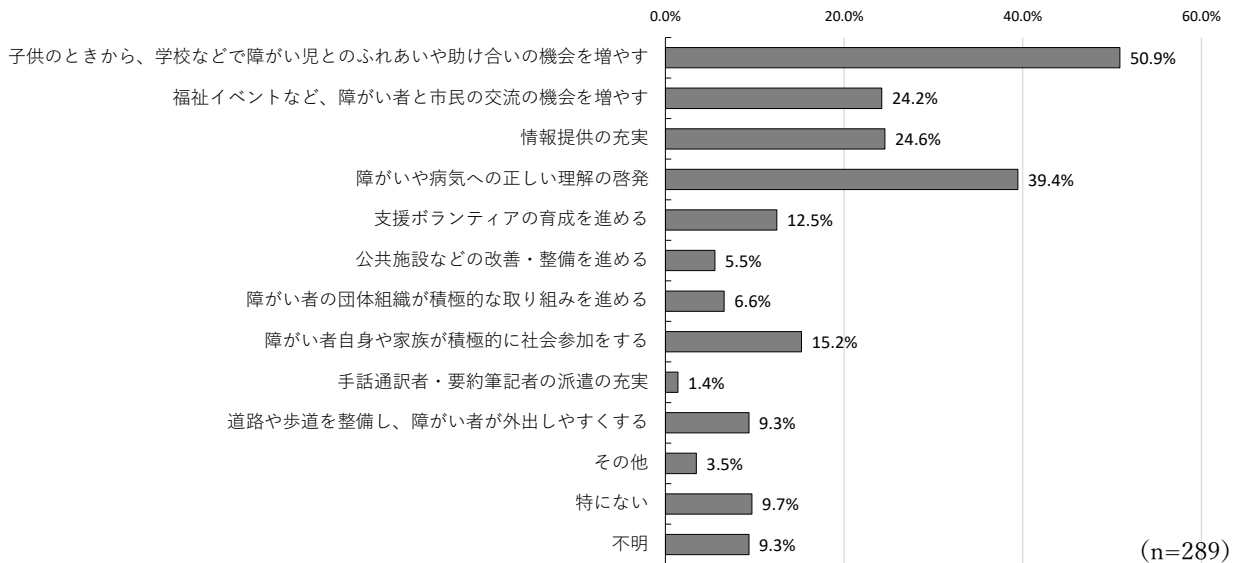


■ 差別や偏見等をなくすために必要なこと【MA】

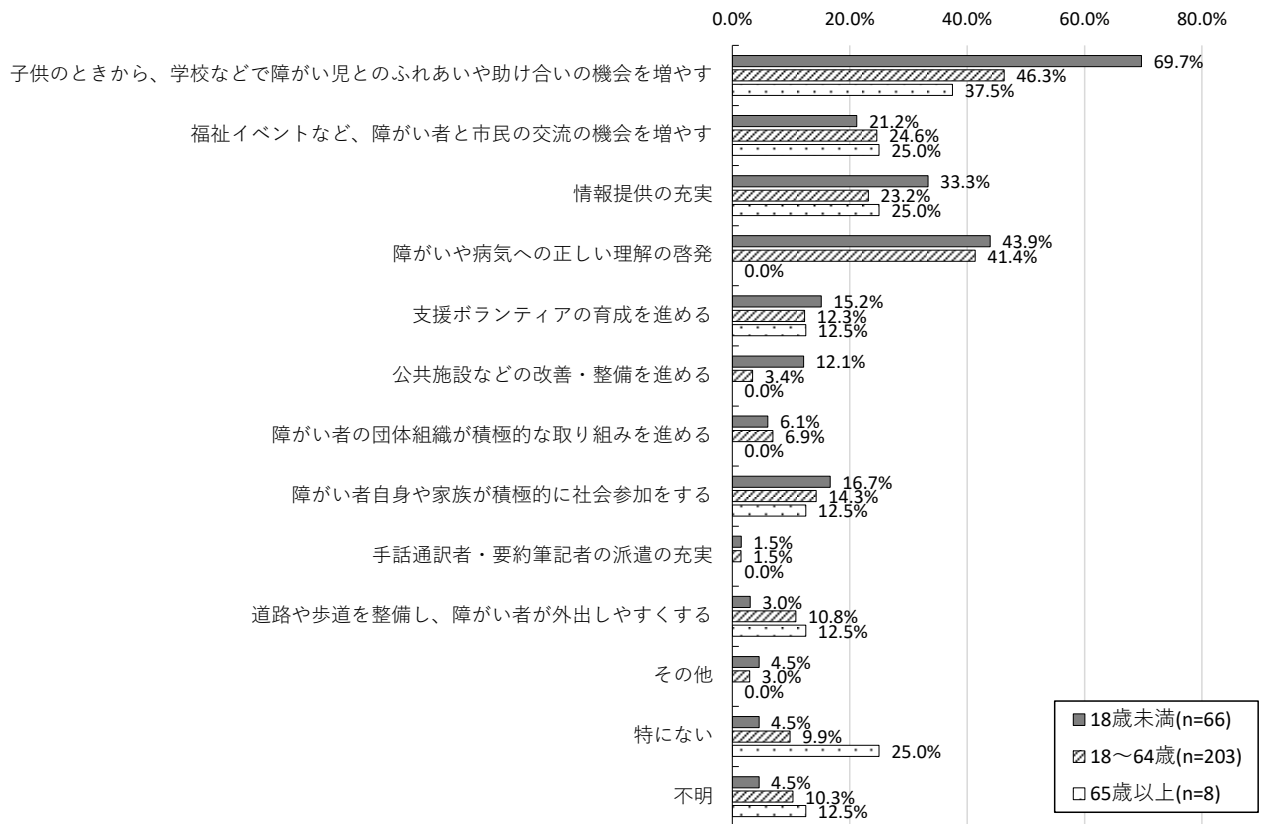
問41 あなたにとって差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	147	50.9%	46	69.7%	94	46.3%	3	37.5%
2	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	70	24.2%	14	21.2%	50	24.6%	2	25.0%
3	情報提供の充実	71	24.6%	22	33.3%	47	23.2%	2	25.0%
4	障がいや病気への正しい理解の啓発	114	39.4%	29	43.9%	84	41.4%	0	0.0%
5	支援ボランティアの育成を進める	36	12.5%	10	15.2%	25	12.3%	1	12.5%
6	公共施設などの改善・整備を進める	16	5.5%	8	12.1%	7	3.4%	0	0.0%
7	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	19	6.6%	4	6.1%	14	6.9%	0	0.0%
8	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	44	15.2%	11	16.7%	29	14.3%	1	12.5%
9	手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実	4	1.4%	1	1.5%	3	1.5%	0	0.0%
10	道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする	27	9.3%	2	3.0%	22	10.8%	1	12.5%
11	その他	10	3.5%	3	4.5%	6	3.0%	0	0.0%
12	特にない	28	9.7%	3	4.5%	20	9.9%	2	25.0%
	不明	27	9.3%	3	4.5%	21	10.3%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

差別や偏見等をなくすために必要なこと(全体)



差別や偏見等をなくすために必要なこと(年代別)



(9)相談・情報について

福祉サービスの利用にあたって相談する相手は、「家族」が65.7%と最も高くおよそ2/3を占めている。次いで「福祉サービス事業所の職員」(37.4%)、「山形市指定相談支援事業所の職員」(32.9%)などとなっている。

相談機能を充実させるために必要だと思うこととしては、「適切なアドバイスができる人材」が37.0%と最も高く、次いで「身近な場所で相談できること」(31.8%)、「わかりやすい情報の提供」(30.1%)などとなっている。

福祉サービスの内容を知る手段としては、「市の広報・資料」が29.8%と最も高く、次いで「福祉サービス事業所」(22.1%)、「山形市指定相談支援事業所」(21.5%)などとなっている。

今後(将来)の生活については、「自宅で家族と暮らしたい」が43.9%と最も高く、次いで「グループホームなどの共同生活」(23.9%)、「特に考えていない」(10.0%)などとなっている。今後(将来)、「自立して暮らしたい(家族と別居)」または「グループホームなどの共同生活」と回答した人に、独立にあたり不安なことを聞いたところ、「うまくいかなかった時のこと」が54.7%と最も高く、次いで「収入の安定」および「障がいの状態に合った住宅の確保」(ともに44.2%)、「ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保」(30.2%)などとなっている。また、今後(将来)、「施設に入所したい(または現在の施設に入所し続けたい)」と回答した人に、グループホームなどへの入居または施設への入所時期の意向を聞いたところ、「11年以上後」が23.4%と最も高く、「6~10年後」(17.0%)が続く。なお、「その他」は21.3%で、その内訳は『現在入所中』や『親がいなくなったら』といった回答が多かった。

悪質商法などの被害にあった経験については、「ない」(92.4%)が「ある」(2.4%)を90.0ポイント差と大きく上回った。悪質商法などの被害にあったことがある人に相談した相手を聞いたところ、「家族」が71.4%と最も高く、次いで「山形市消費生活センター」(57.1%)が続く。なお、「相談しなかった」と回答した人の理由は、「どこに相談すればよいのかわからなかった」(100.0%)となっている。

今後の生活に対しての不安については、「生活費(経済的負担)」が53.3%と最も高く、次いで「介助者が介助できなくなった場合の対応」(52.2%)、「身体のこと(医療や健康)」(48.1%)などとなっている。

今後、障がい者福祉を充実させるために山形市が特に力を入れていく必要があることについて聞いたところ、「経済面での支援が受けられる」が29.4%と最も高く、次いで「安心して住めるところがある」(27.7%)、「障がいや病気について周囲の人の理解」(26.3%)などとなっている。

- ◎ 福祉サービスの利用にあたり、相談機能を充実させるために必要なこととして前回調査と同様に「適切なアドバイスができる人材」が最も高かった。また、相談相手として、「家族」以外では、「福祉サービス事業所の職員」「山形市指定相談支援事業所の職員」が挙がっており、経験やノウハウに基づいた「適切なアドバイスができる人材」が求められていることがうかがえる。

「知的障がい」調査結果

一方、福祉サービスの内容を知るうえでは、「市の広報・資料」のほか、「福祉サービス事業所」、「山形市指定相談支援事業所」も情報入手手段としてニーズが高く、複数の入手手段をもっていることがうかがえる。

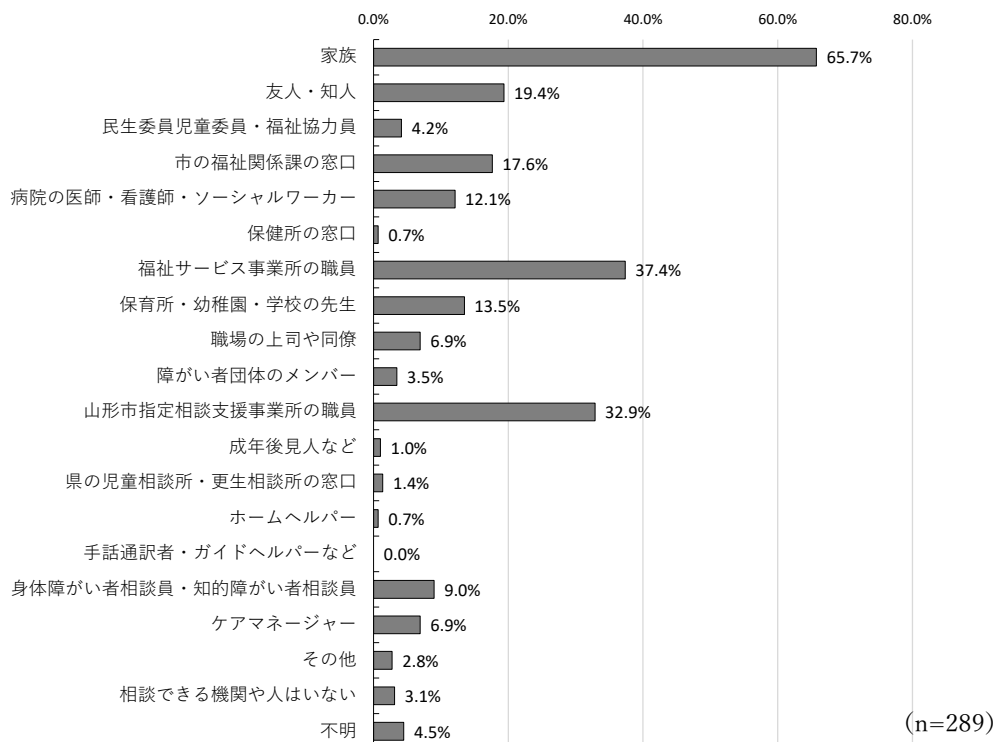
- ◎ 本市が障がい者福祉を充実させるために特に力を入れる必要があることとして、「経済面での支援が受けられる」と「安心して住めるところがある」の割合が高くなっており、知的障がい者が地域で暮らしていくためには、経済面での支援と住まいの場の確保が重視されていることがうかがえる。

■ 福祉サービス利用に際しての相談相手【MA】

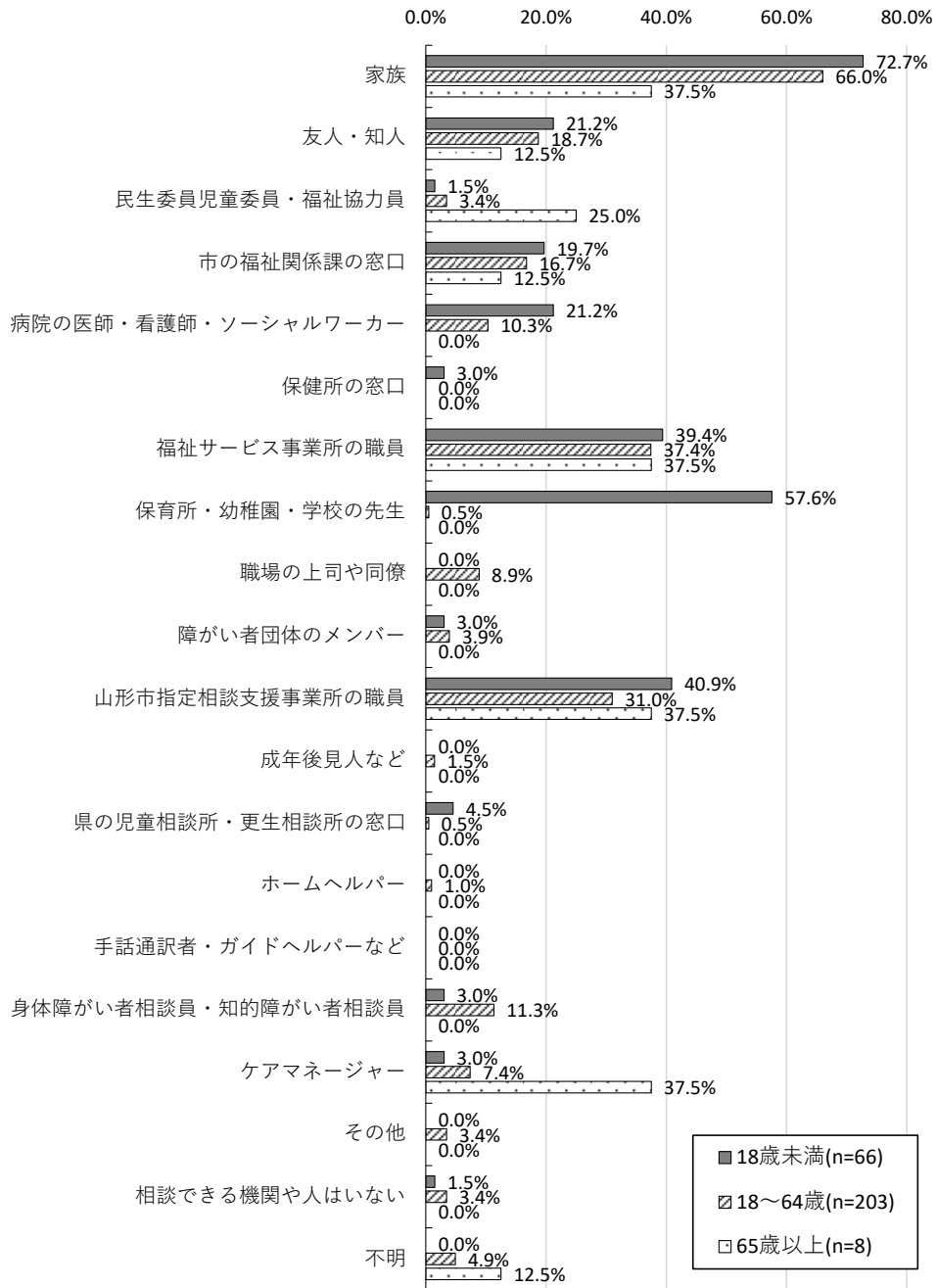
問42 あなたが福祉サービスの利用について相談する相手を教えてください。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家族	190	65.7%	48	72.7%	134	66.0%	3	37.5%
2	友人・知人	56	19.4%	14	21.2%	38	18.7%	1	12.5%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	12	4.2%	1	1.5%	7	3.4%	2	25.0%
4	市の福祉関係課の窓口	51	17.6%	13	19.7%	34	16.7%	1	12.5%
5	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	35	12.1%	14	21.2%	21	10.3%	0	0.0%
6	保健所の窓口	2	0.7%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	福祉サービス事業所の職員	108	37.4%	26	39.4%	76	37.4%	3	37.5%
8	保育所・幼稚園・学校の先生	39	13.5%	38	57.6%	1	0.5%	0	0.0%
9	職場の上司や同僚	20	6.9%	0	0.0%	18	8.9%	0	0.0%
10	障がい者団体のメンバー	10	3.5%	2	3.0%	8	3.9%	0	0.0%
11	山形市指定相談支援事業所の職員	95	32.9%	27	40.9%	63	31.0%	3	37.5%
12	成年後見人など	3	1.0%	0	0.0%	3	1.5%	0	0.0%
13	県の児童相談所・更生相談所の窓口	4	1.4%	3	4.5%	1	0.5%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	2	0.7%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%
15	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	26	9.0%	2	3.0%	23	11.3%	0	0.0%
17	ケアマネージャー	20	6.9%	2	3.0%	15	7.4%	3	37.5%
18	その他	8	2.8%	0	0.0%	7	3.4%	0	0.0%
19	相談できる機関や人はいない	9	3.1%	1	1.5%	7	3.4%	0	0.0%
	不明	13	4.5%	0	0.0%	10	4.9%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

福祉サービス利用に際しての相談相手(全体)



福祉サービス利用に際しての相談相手(年代別)

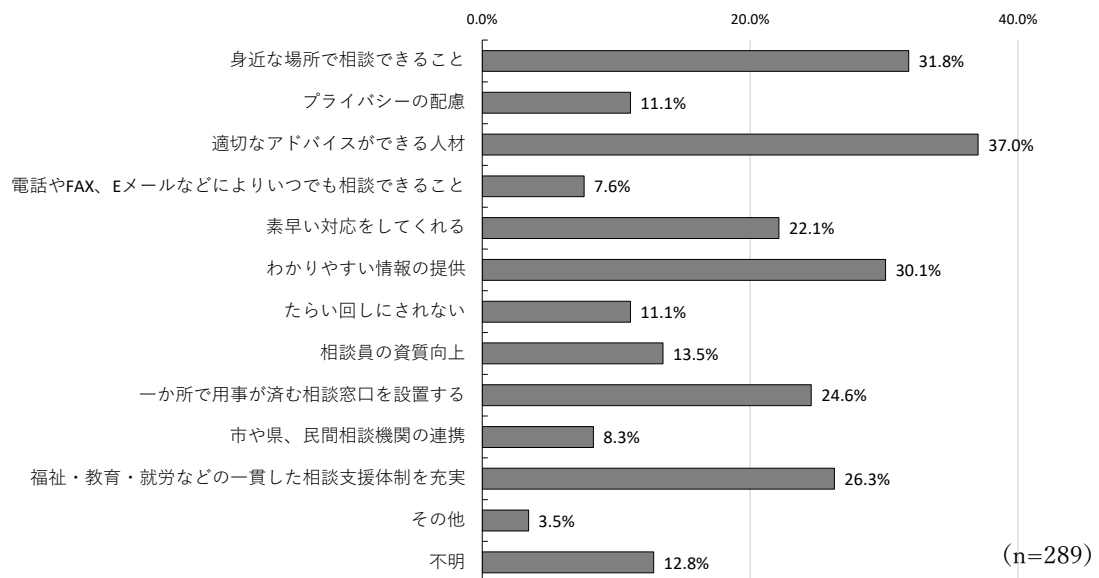


■ 相談機能を充実させるために必要なこと【MA】

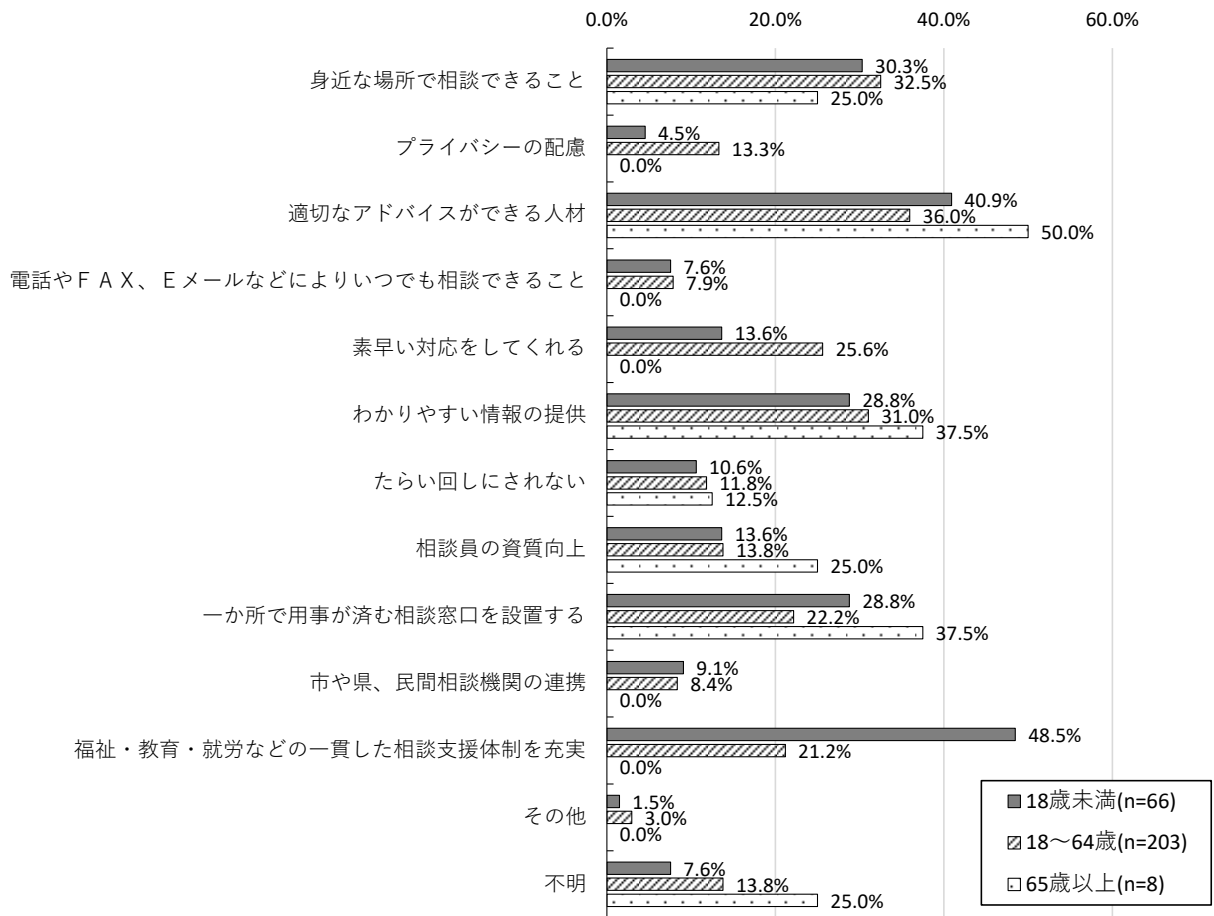
問43 ^{そうだんきのう}相談機能を^{じゅうじつ}充実させるためには、どのようなことが^{ひつよう}必要だと思^{おも}いますか。（3つまで○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	身近な場所で相談できること	92	31.8%	20	30.3%	66	32.5%	2	25.0%
2	プライバシーの配慮	32	11.1%	3	4.5%	27	13.3%	0	0.0%
3	適切なアドバイスができる人材	107	37.0%	27	40.9%	73	36.0%	4	50.0%
4	電話やFAX、Eメールなどによりいつでも相談できること	22	7.6%	5	7.6%	16	7.9%	0	0.0%
5	素早い対応をしてくれる	64	22.1%	9	13.6%	52	25.6%	0	0.0%
6	わかりやすい情報の提供	87	30.1%	19	28.8%	63	31.0%	3	37.5%
7	たらい回しにされない	32	11.1%	7	10.6%	24	11.8%	1	12.5%
8	相談員の資質向上	39	13.5%	9	13.6%	28	13.8%	2	25.0%
9	一か所で用事が済む相談窓口を設置する	71	24.6%	19	28.8%	45	22.2%	3	37.5%
10	市や県、民間相談機関の連携	24	8.3%	6	9.1%	17	8.4%	0	0.0%
11	福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実	76	26.3%	32	48.5%	43	21.2%	0	0.0%
12	その他	10	3.5%	1	1.5%	6	3.0%	0	0.0%
	不明	37	12.8%	5	7.6%	28	13.8%	2	25.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

相談機能を充実させるために必要なこと(全体)



相談機能を充実させるために必要なこと(年代別)

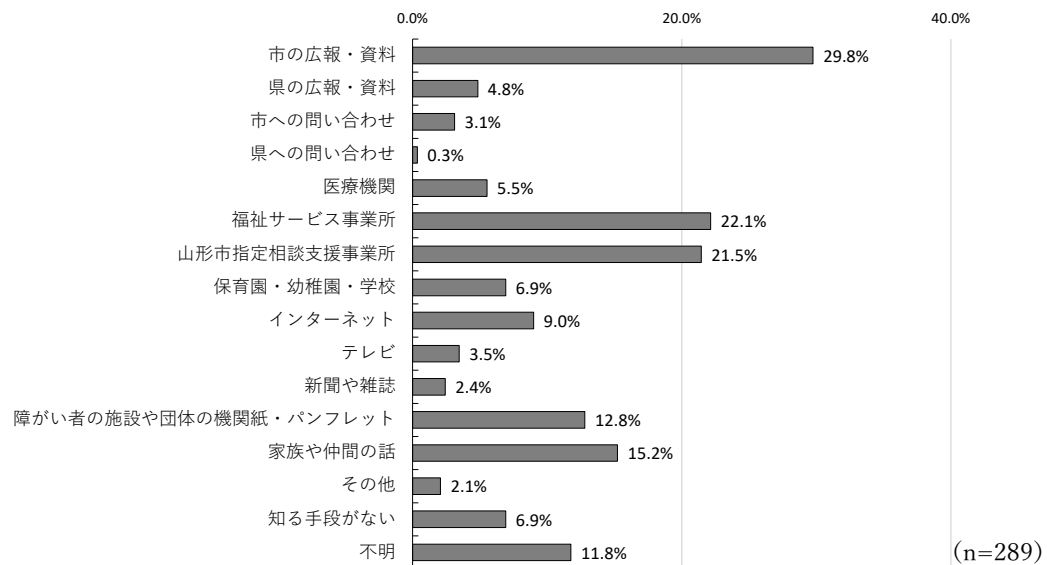


■ 福祉サービス情報の入手手段【MA】

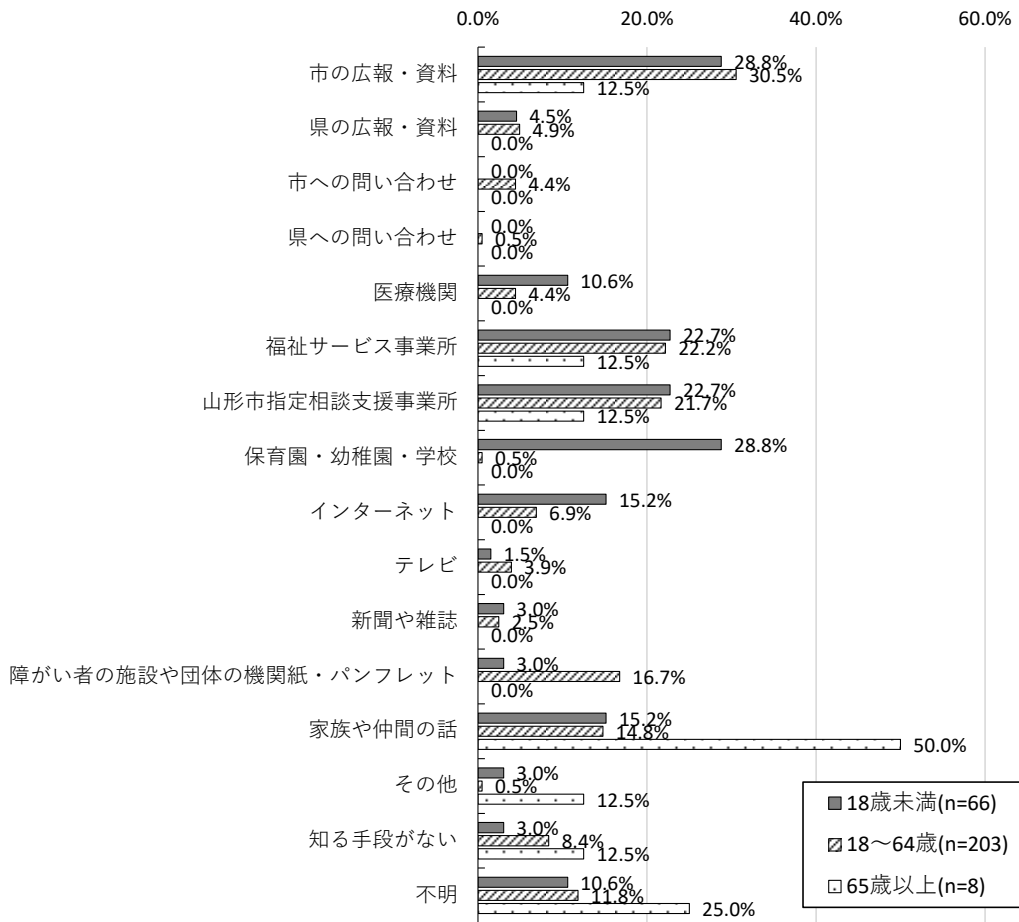
問44 あなたは、^{ふくし}福祉サービスの^{ないよう}内容について、どのようなもので^し知ることが^{おお}多いですか。（2つまで○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	市の広報・資料	86	29.8%	19	28.8%	62	30.5%	1	12.5%
2	県の広報・資料	14	4.8%	3	4.5%	10	4.9%	0	0.0%
3	市への問い合わせ	9	3.1%	0	0.0%	9	4.4%	0	0.0%
4	県への問い合わせ	1	0.3%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
5	医療機関	16	5.5%	7	10.6%	9	4.4%	0	0.0%
6	福祉サービス事業所	64	22.1%	15	22.7%	45	22.2%	1	12.5%
7	山形市指定相談支援事業所	62	21.5%	15	22.7%	44	21.7%	1	12.5%
8	保育園・幼稚園・学校	20	6.9%	19	28.8%	1	0.5%	0	0.0%
9	インターネット	26	9.0%	10	15.2%	14	6.9%	0	0.0%
10	テレビ	10	3.5%	1	1.5%	8	3.9%	0	0.0%
11	新聞や雑誌	7	2.4%	2	3.0%	5	2.5%	0	0.0%
12	障がい者の施設や団体の機関紙・パンフレット	37	12.8%	2	3.0%	34	16.7%	0	0.0%
13	家族や仲間の話	44	15.2%	10	15.2%	30	14.8%	4	50.0%
14	その他	6	2.1%	2	3.0%	1	0.5%	1	12.5%
15	知る手段がない	20	6.9%	2	3.0%	17	8.4%	1	12.5%
	不明	34	11.8%	7	10.6%	24	11.8%	2	25.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

福祉サービス情報の入手手段(全体)



福祉サービス情報の入手手段(年代別)

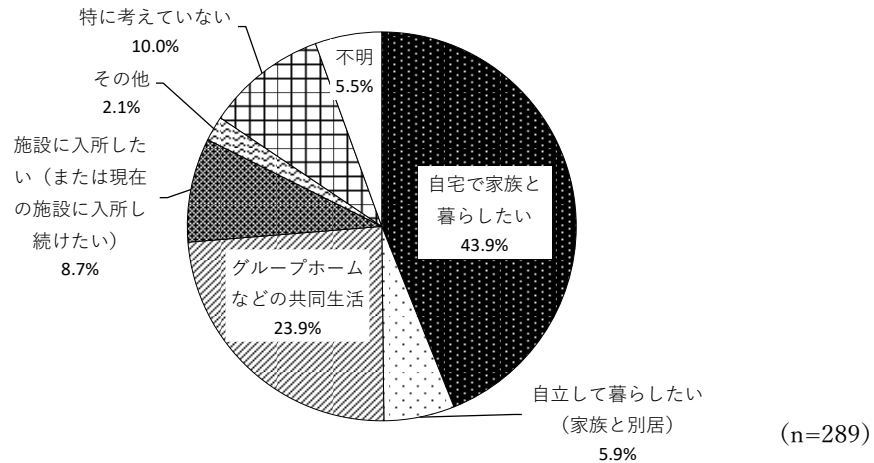


■ 今後の生活意向【SA】

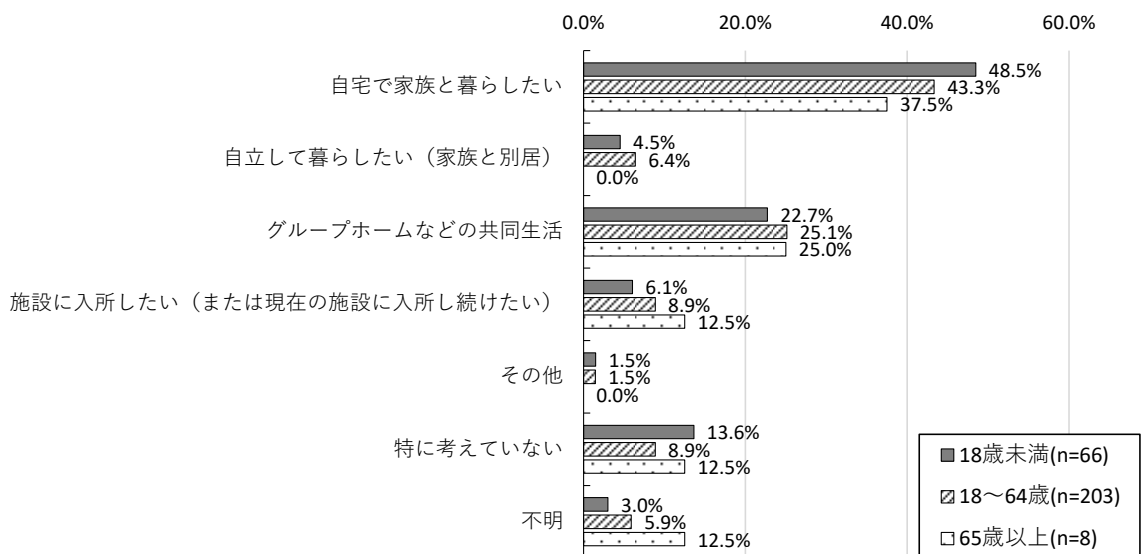
問45 あなたは、^{こんご しょうらい}今後(将来)どのように^{せいかつ}生活したい(させたい)ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	自宅で家族と暮らしたい	127	43.9%	32	48.5%	88	43.3%	3	37.5%
2	自立して暮らしたい(家族と別居)	17	5.9%	3	4.5%	13	6.4%	0	0.0%
3	グループホームなどの共同生活	69	23.9%	15	22.7%	51	25.1%	2	25.0%
4	施設に入所したい(または現在の施設に入所し続けたい)	25	8.7%	4	6.1%	18	8.9%	1	12.5%
5	その他	6	2.1%	1	1.5%	3	1.5%	0	0.0%
6	特に考えていない	29	10.0%	9	13.6%	18	8.9%	1	12.5%
	不明	16	5.5%	2	3.0%	12	5.9%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

今後の生活意向(全体)



今後の生活意向(年代別)

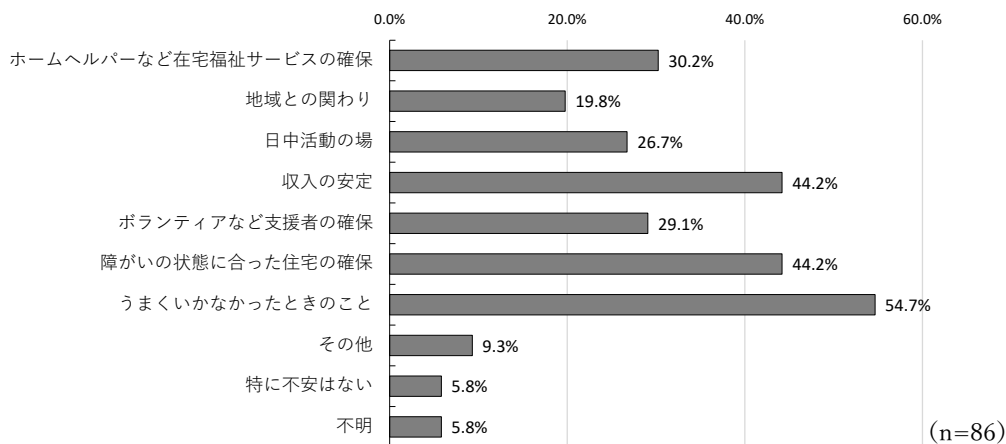


■ 独立にあたっての不安【MA】

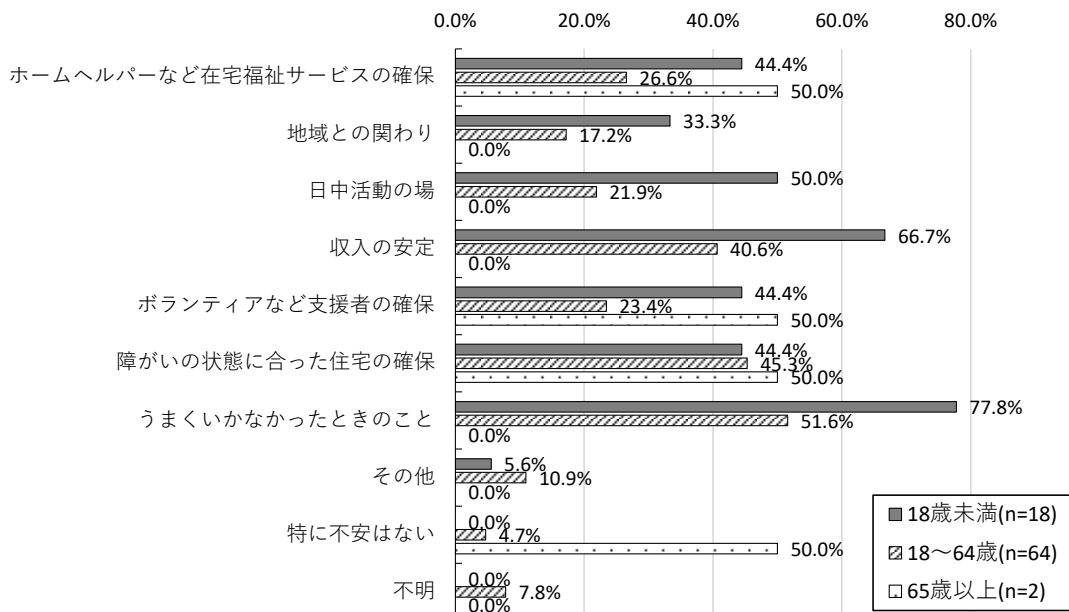
問46 問45で「2」または「3」を回答した方におたずねします。独立にあたり、どのようなことが不安ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリ名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保	26	30.2%	8	44.4%	17	26.6%	1	50.0%
2	地域との関わり	17	19.8%	6	33.3%	11	17.2%	0	0.0%
3	日中活動の場	23	26.7%	9	50.0%	14	21.9%	0	0.0%
4	収入の安定	38	44.2%	12	66.7%	26	40.6%	0	0.0%
5	ボランティアなど支援者の確保	25	29.1%	8	44.4%	15	23.4%	1	50.0%
6	障がいの状態に合った住宅の確保	38	44.2%	8	44.4%	29	45.3%	1	50.0%
7	うまくいかなかったときのこと	47	54.7%	14	77.8%	33	51.6%	0	0.0%
8	その他	8	9.3%	1	5.6%	7	10.9%	0	0.0%
9	特に不安はない	5	5.8%	0	0.0%	3	4.7%	1	50.0%
	不明	5	5.8%	0	0.0%	5	7.8%	0	0.0%
	全体	86	100.0%	18	100.0%	64	100.0%	2	100.0%

独立にあたっての不安(全体)



独立にあたっての不安(年代別)

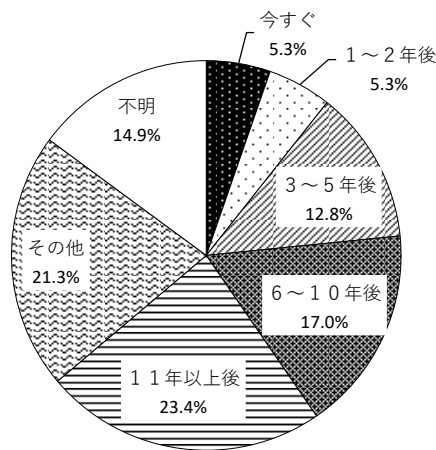


■ 施設等への入居・入所の時期【SA】

問47 問45で「3」または「4」を^{かいどう}回答した方^{かた}におたずねします。グループホームなどへの^{にゅうきょ}入居または施設^{しせつ}への入所^{にゅうしょ}はいつ頃^{ごろ}までにしたいと^{かんが}考えていますか。(1つだけ○印)

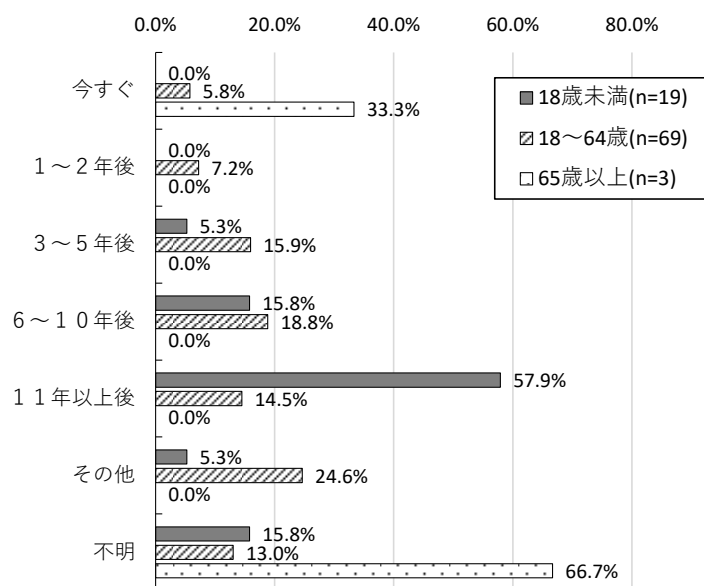
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	今すぐ	5	5.3%	0	0.0%	4	5.8%	1	33.3%
2	1～2年後	5	5.3%	0	0.0%	5	7.2%	0	0.0%
3	3～5年後	12	12.8%	1	5.3%	11	15.9%	0	0.0%
4	6～10年後	16	17.0%	3	15.8%	13	18.8%	0	0.0%
5	11年以上後	22	23.4%	11	57.9%	10	14.5%	0	0.0%
6	その他	20	21.3%	1	5.3%	17	24.6%	0	0.0%
	不明	14	14.9%	3	15.8%	9	13.0%	2	66.7%
	全体	94	100.0%	19	100.0%	69	100.0%	3	100.0%

施設等への入居・入所の時期(全体)



(n=94)

施設等への入居・入所の時期(年代別)

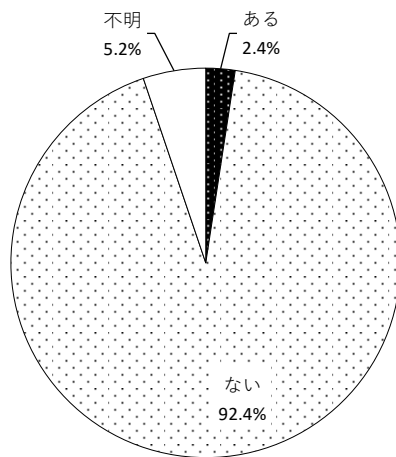


■ 悪徳商法の被害の有無【SA】

問48 あなたは、^{あくしつしょうほう}悪徳商法などの被害^{ひがい}にあつたことがありますか。(1つだけ○印)

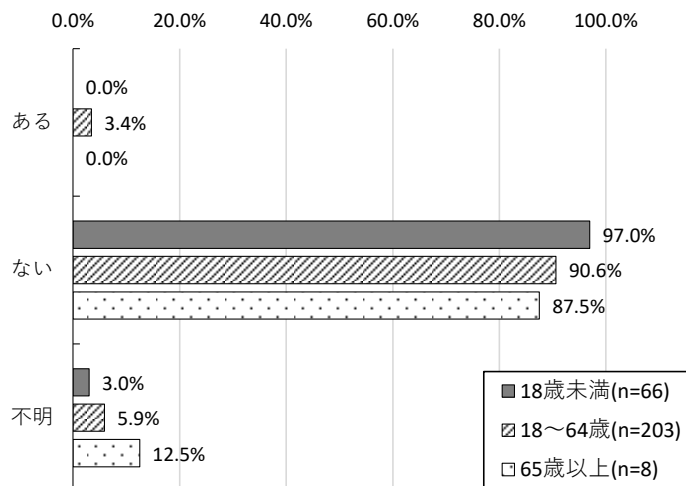
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	7	2.4%	0	0.0%	7	3.4%	0	0.0%
2	ない	267	92.4%	64	97.0%	184	90.6%	7	87.5%
	不明	15	5.2%	2	3.0%	12	5.9%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

悪徳商法の被害の有無(全体)



(n=289)

悪徳商法の被害の有無(年代別)

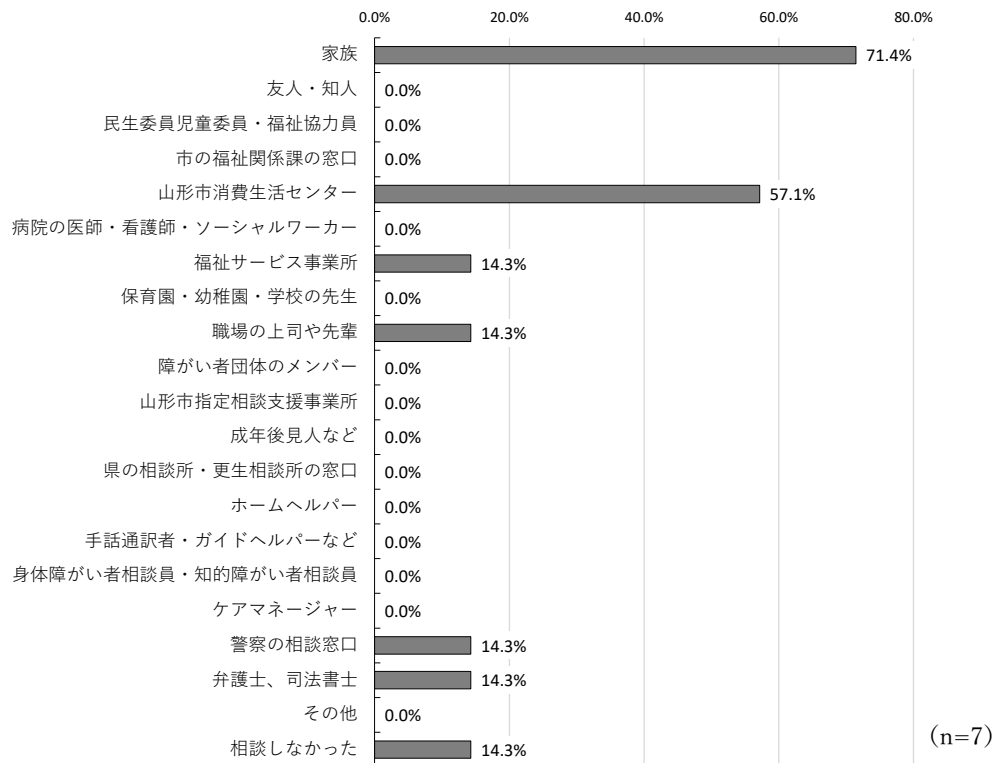


■ 被害の相談先【MA】

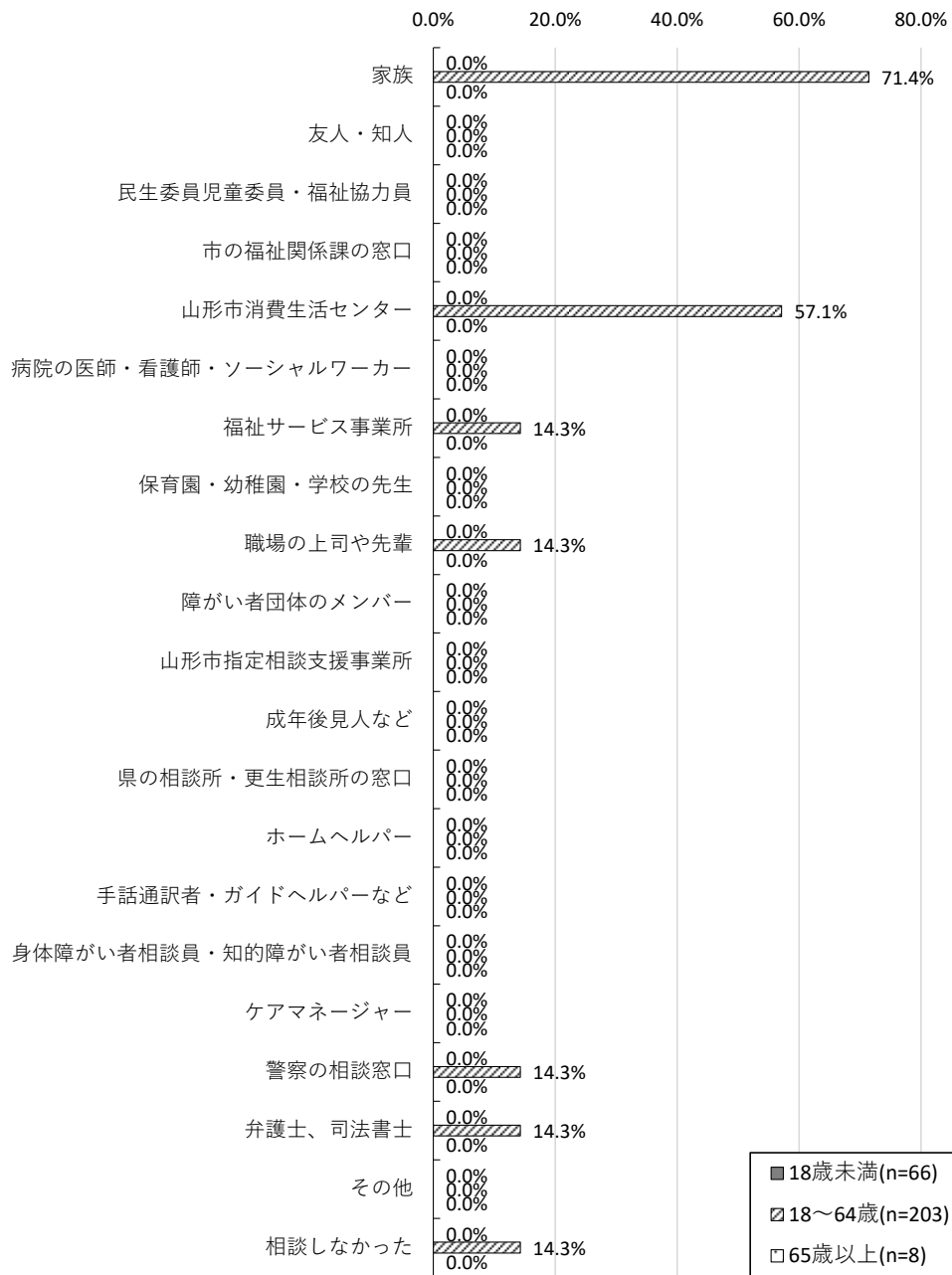
問49 問48で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰(どこ)へ相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	家族	5	71.4%	0	0.0%	5	71.4%	0	0.0%
2	友人・知人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	市の福祉関係課の窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	山形市消費生活センター	4	57.1%	0	0.0%	4	57.1%	0	0.0%
6	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	福祉サービス事業所	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
8	保育園・幼稚園・学校の先生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	職場の上司や先輩	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
10	障がい者団体のメンバー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	山形市指定相談支援事業所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12	成年後見人など	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
13	県の相談所・更生相談所の窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
15	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
17	ケアマネージャー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
18	警察の相談窓口	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
19	弁護士、司法書士	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
20	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
21	相談しなかった	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	7	100.0%	0	0.0%	7	100.0%	0	0.0%

被害の相談先(全体)



被害の相談先(年代別)

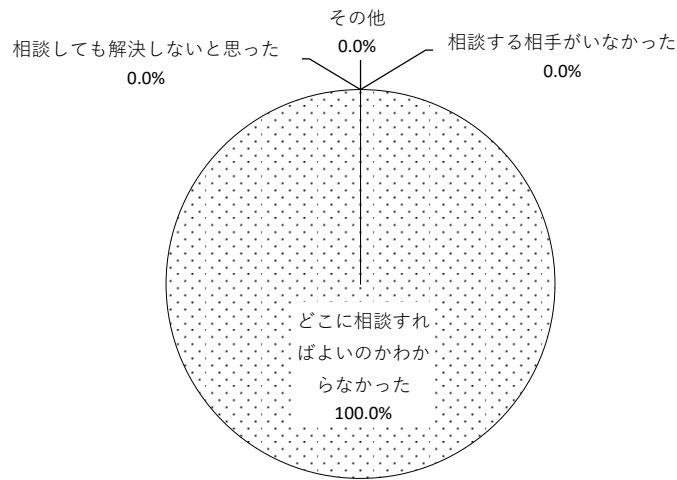


■ 被害について相談しなかった理由【SA】

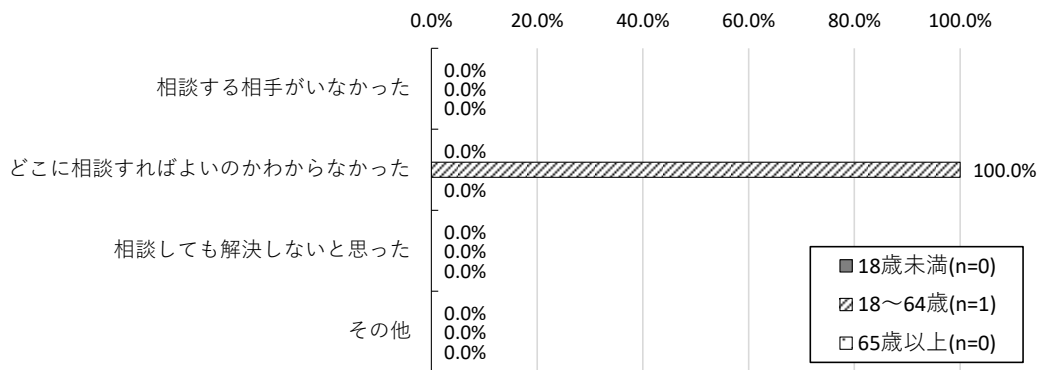
問50 問49で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。(1つだけ
○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	相談する相手がいなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	どこに相談すればよいのかわからなかった	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
3	相談しても解決しなかったと思った	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%

被害について相談しなかった理由(全体)



被害について相談しなかった理由(年代別)

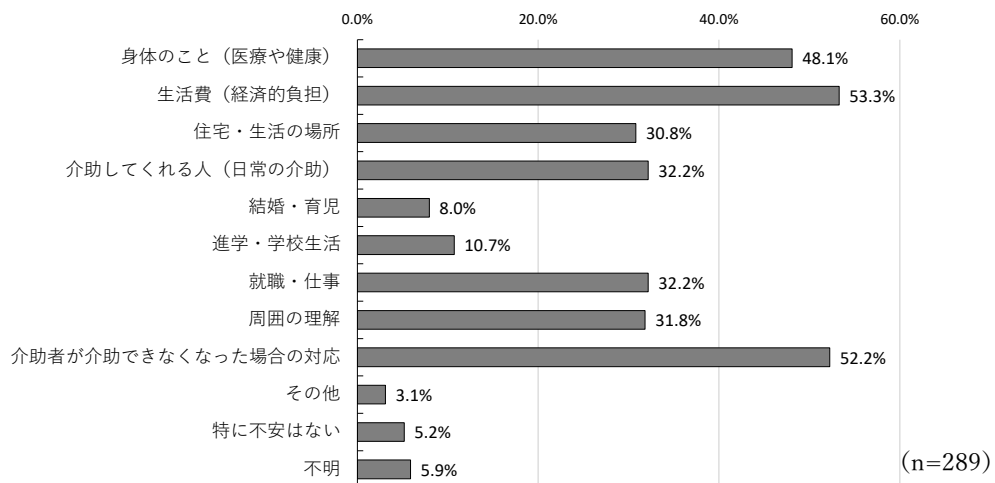


■ 今後の生活への不安【MA】

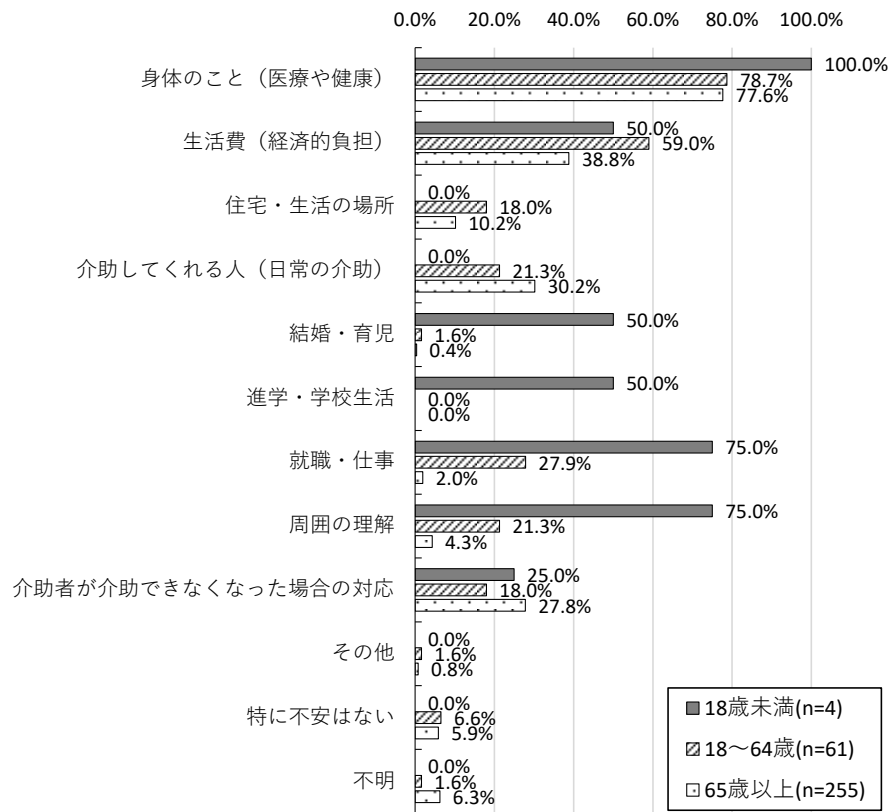
問51 あなたは今後の生活に対してどのような不安がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	身体のこと（医療や健康）	139	48.1%	23	34.8%	103	50.7%	7	87.5%
2	生活費（経済的負担）	154	53.3%	41	62.1%	107	52.7%	1	12.5%
3	住宅・生活の場所	89	30.8%	23	34.8%	63	31.0%	1	12.5%
4	介助してくれる人（日常の介助）	93	32.2%	28	42.4%	59	29.1%	4	50.0%
5	結婚・育児	23	8.0%	8	12.1%	14	6.9%	0	0.0%
6	進学・学校生活	31	10.7%	30	45.5%	0	0.0%	0	0.0%
7	就職・仕事	93	32.2%	49	74.2%	42	20.7%	0	0.0%
8	周囲の理解	92	31.8%	38	57.6%	50	24.6%	2	25.0%
9	介助者が介助できなくなった場合の対応	151	52.2%	44	66.7%	102	50.2%	4	50.0%
10	その他	9	3.1%	0	0.0%	8	3.9%	0	0.0%
11	特に不安はない	15	5.2%	0	0.0%	14	6.9%	0	0.0%
	不明	17	5.9%	0	0.0%	15	7.4%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

今後の生活への不安(全体)



今後の生活への不安(年代別)

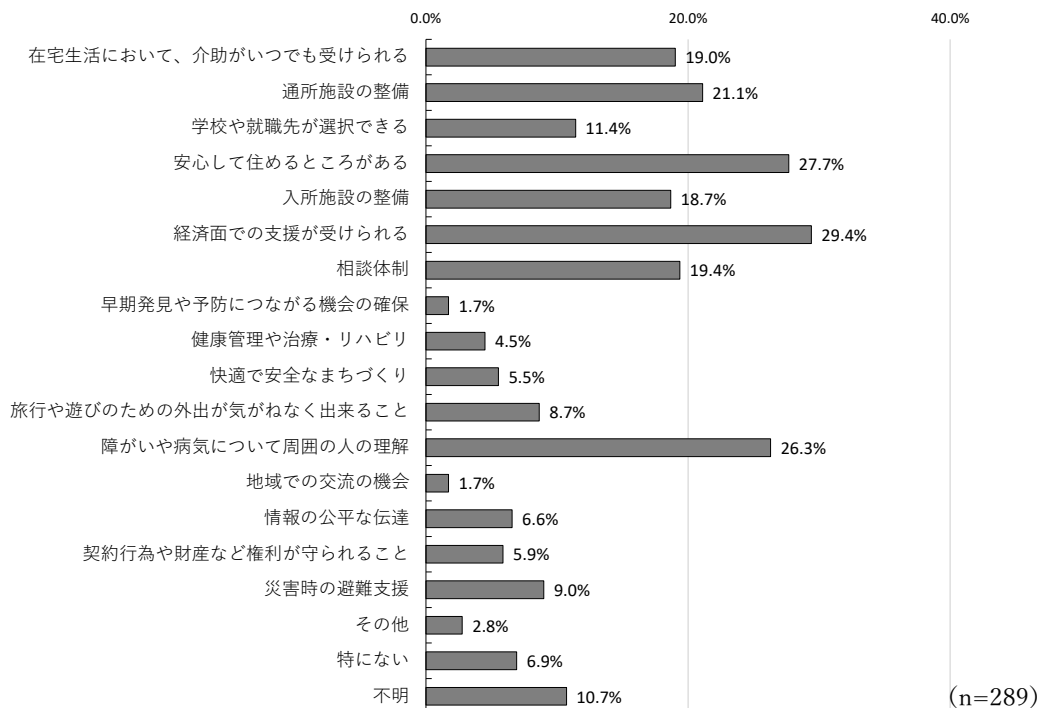


■ 障がい者福祉の充実に必要なこと【MA】

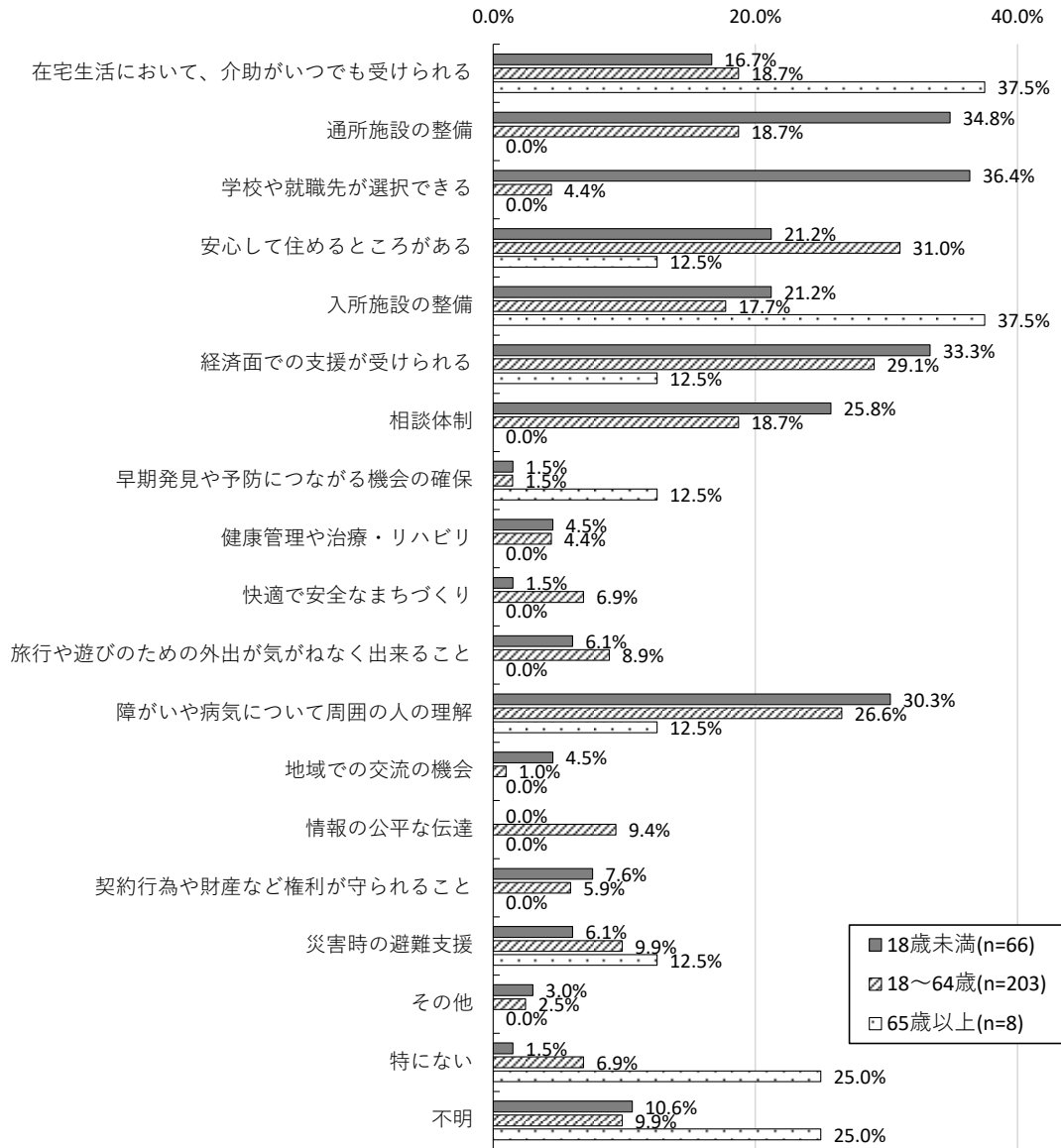
問52 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思われますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	在宅生活において、介助がいつでも受けられる	55	19.0%	11	16.7%	38	18.7%	3	37.5%
2	通所施設の整備	61	21.1%	23	34.8%	38	18.7%	0	0.0%
3	学校や就職先が選択できる	33	11.4%	24	36.4%	9	4.4%	0	0.0%
4	安心して住めるところがある	80	27.7%	14	21.2%	63	31.0%	1	12.5%
5	入所施設の整備	54	18.7%	14	21.2%	36	17.7%	3	37.5%
6	経済面での支援が受けられる	85	29.4%	22	33.3%	59	29.1%	1	12.5%
7	相談体制	56	19.4%	17	25.8%	38	18.7%	0	0.0%
8	早期発見や予防につながる機会の確保	5	1.7%	1	1.5%	3	1.5%	1	12.5%
9	健康管理や治療・リハビリ	13	4.5%	3	4.5%	9	4.4%	0	0.0%
10	快適で安全なまちづくり	16	5.5%	1	1.5%	14	6.9%	0	0.0%
11	旅行や遊びのための外出が気がねなく出来ること	25	8.7%	4	6.1%	18	8.9%	0	0.0%
12	障がいや病気について周囲の人の理解	76	26.3%	20	30.3%	54	26.6%	1	12.5%
13	地域での交流の機会	5	1.7%	3	4.5%	2	1.0%	0	0.0%
14	情報の公平な伝達	19	6.6%	0	0.0%	19	9.4%	0	0.0%
15	契約行為や財産など権利が守られること	17	5.9%	5	7.6%	12	5.9%	0	0.0%
16	災害時の避難支援	26	9.0%	4	6.1%	20	9.9%	1	12.5%
17	その他	8	2.8%	2	3.0%	5	2.5%	0	0.0%
18	特にない	20	6.9%	1	1.5%	14	6.9%	2	25.0%
	不明	31	10.7%	7	10.6%	20	9.9%	2	25.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

障がい者福祉の充実に必要なこと(全体)



障がい者福祉の充実に必要なこと(年代別)



(10)災害時の対応について

火事や地震などの災害のときに、自宅にいる場合、一人で避難できるかを聞いたところ、「できない」(68.5%)が「できる」(28.7%)を39.8ポイント上回った。一人で避難できないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「一人で判断をすることができない」が67.7%と最も高く、次いで「一人で移動をすることができない」(17.2%)が続く。

居住地区の避難所の場所の認知状況については、「知らない」(49.5%)が「知っている」(48.1%)を1.4ポイント上回った。また、火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、周囲の人に知らせることができるかを聞いたところ、「できない」(60.9%)が「できる」(36.0%)を24.9ポイント上回っている。

災害時、家族のほかに近所に助けてくれる人の有無については、「いない」(61.9%)が「いる」(33.2%)を28.7ポイント上回っている。家族のほかに助けてもらいたい人は、「近所の人」が31.8%と最も高く、次いで「福祉サービス事業所の職員」(29.1%)、「友人・知人」(9.0%)などとなっている。

「山形市避難行動支援制度」の認知状況について、「知らない」(78.5%)が『知っている』(17.7%：「知っているし、登録もしている」(2.1%) + 「知っているが、登録はしていない」(15.6%))を60.8ポイント差と大きく上回った。

災害時に避難支援を受けるために、個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することへの同意については、「同意できる」(69.2%)が「同意できない」(18.0%)を51.2ポイント差と大きく上回った。同意できない理由は、「個人情報が他へ流出する恐れがあるから」が60.4%と最も高く、次いで「障がいがあることを知られたくないから」(22.6%)が続いている。

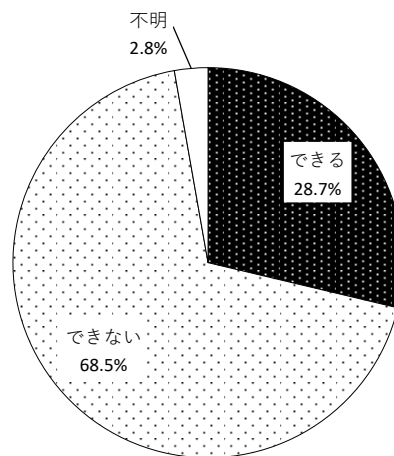
- ◎ 障がいのある人が地域社会において安全に安心して生活することができるよう、災害に強い地域づくりを推進する必要がある。また、災害発生時に、障がい特性に配慮した適切な支援や避難場所の確保が求められる。アンケートによればおよそ7割の方が「災害時に自宅から一人で避難できない」、6割を超える方が「災害時に家族のほかに近所に助けてくれる人がいない」と回答している。一方、災害時にこのような方々の避難を支援する「山形市避難行動支援制度」の認知度は、前回調査時をわずかに上回った(17.1%→17.7%)ものの、まだまだ制度が浸透していない状況にある。

■ 一人での避難【SA】

問53 ^{かじ}火事や^{じしん}地震などの^{さいがいじ}災害時に^{じたく}自宅にいる^{ばあい}場合、あなたは^{ひとり}一人で^{ひなん}避難できますか。(1つだけ○印)

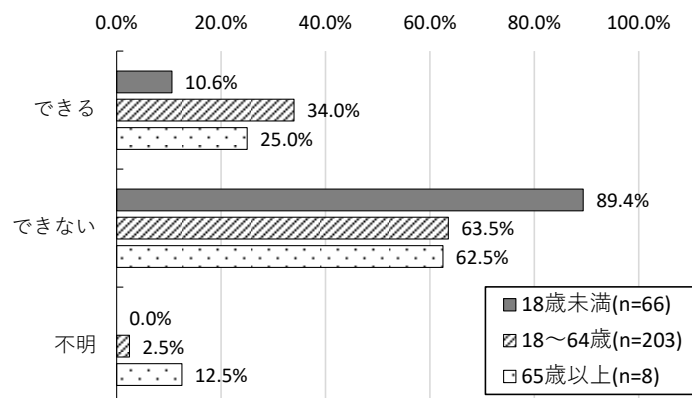
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	できる	83	28.7%	7	10.6%	69	34.0%	2	25.0%
2	できない	198	68.5%	59	89.4%	129	63.5%	5	62.5%
	不明	8	2.8%	0	0.0%	5	2.5%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

一人での避難(全体)



(n=289)

一人での避難(年代別)

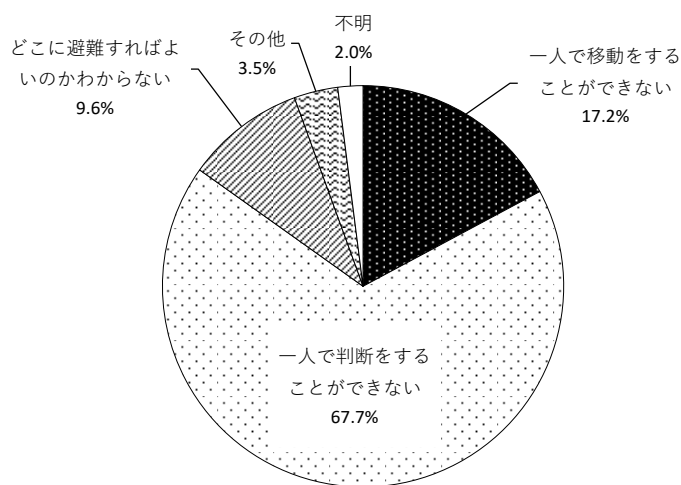


■ 一人で避難できない理由【SA】

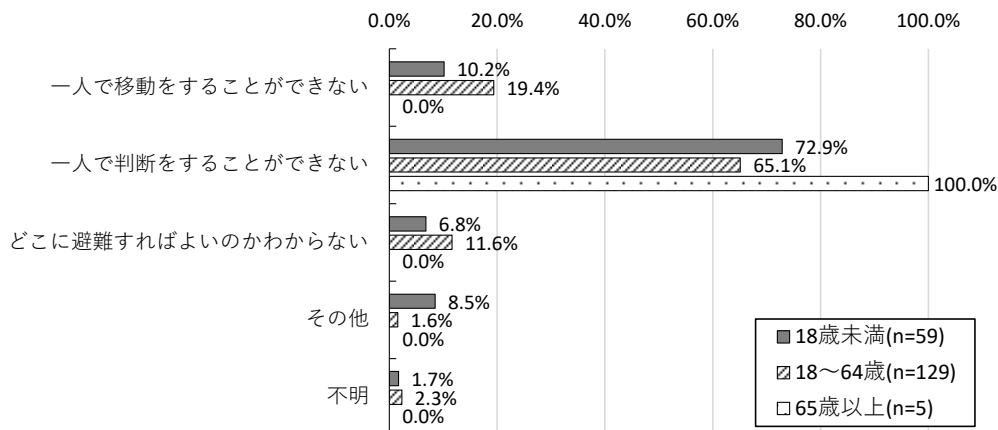
問54 問53で「2」を回答した方におたずねします。災害のときに一人で避難できない理由は何ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	一人で移動をすることができない	34	17.2%	6	10.2%	25	19.4%	0	0.0%
2	一人で判断をすることができない	134	67.7%	43	72.9%	84	65.1%	5	100.0%
3	どこに避難すればよいのかわからない	19	9.6%	4	6.8%	15	11.6%	0	0.0%
4	その他	7	3.5%	5	8.5%	2	1.6%	0	0.0%
	不明	4	2.0%	1	1.7%	3	2.3%	0	0.0%
	全体	198	100.0%	59	100.0%	129	100.0%	5	100.0%

一人で避難できない理由(全体)



一人で避難できない理由(年代別)

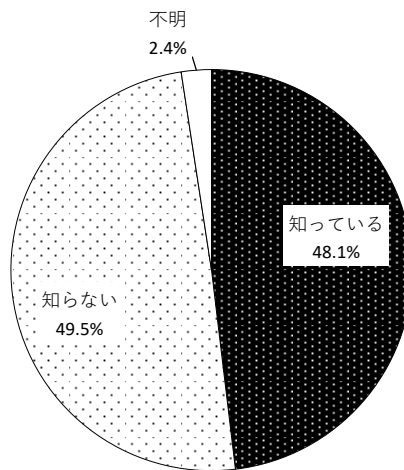


■ 地区の避難場所の認知状況【SA】

問55 あなたはお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。(1つだけ○印)

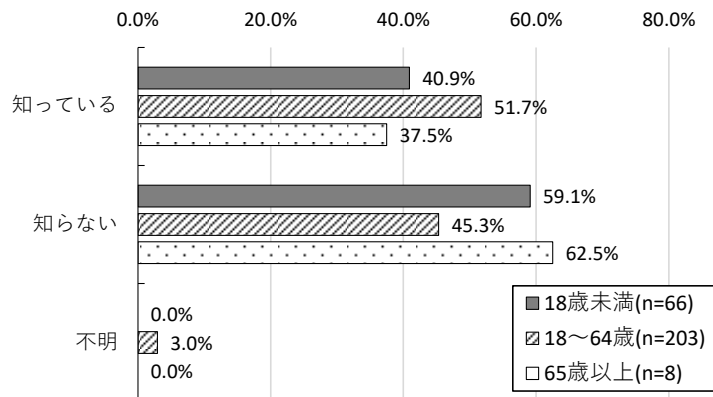
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	139	48.1%	27	40.9%	105	51.7%	3	37.5%
2	知らない	143	49.5%	39	59.1%	92	45.3%	5	62.5%
	不明	7	2.4%	0	0.0%	6	3.0%	0	0.0%
	全体	289	100.0	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

地区の避難場所の認知状況(全体)



(n=289)

地区の避難場所の認知状況(年代別)

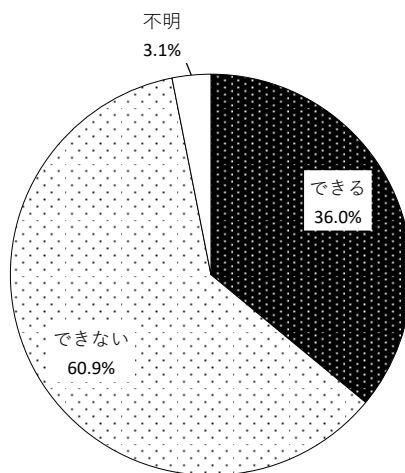


■ 災害時の自宅周囲の人への連絡【SA】

問56 かじ じしん 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは周囲のさいがいじ じたく ばあい人に知らせることができますか。
しゅうい ひと (1つだけ○印)

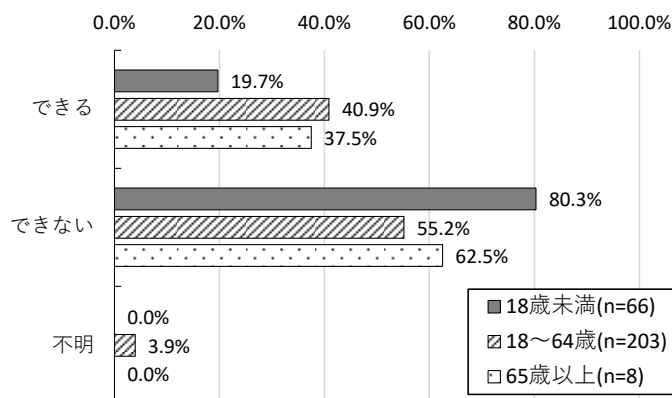
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	できる	104	36.0%	13	19.7%	83	40.9%	3	37.5%
2	できない	176	60.9%	53	80.3%	112	55.2%	5	62.5%
	不明	9	3.1%	0	0.0%	8	3.9%	0	0.0%
	全体	289	100.0	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

災害時の自宅周囲の人への連絡(全体)



(n=289)

災害時の自宅周囲の人への連絡(年代別)

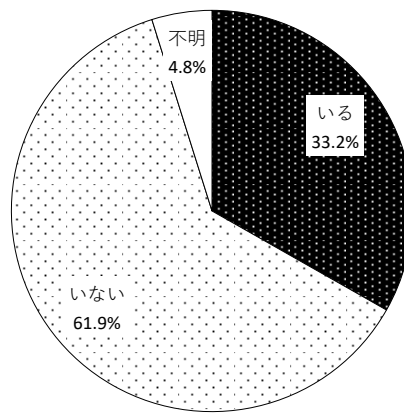


■ 災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無【SA】

問57 ^{かじ}火事や^{じしん}地震などの災害時に^{さいがいじ}自宅に^{じたく}いる場合、^{ばあい}ご近所に^{きんじよ}あなたを^{たす}助けてくれる^{かた}方はいますか。
(1つだけ○印)

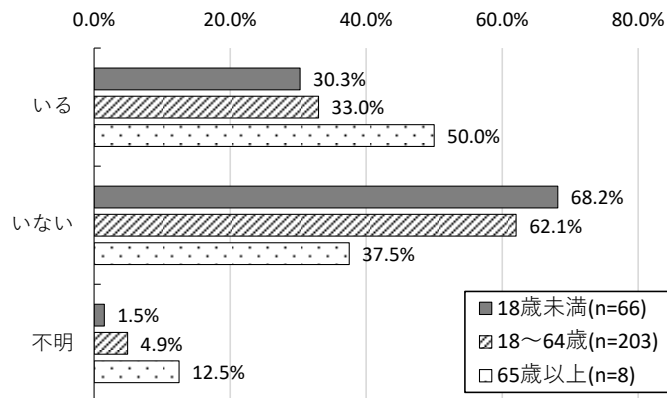
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	いる	96	33.2%	20	30.3%	67	33.0%	4	50.0%
2	いない	179	61.9%	45	68.2%	126	62.1%	3	37.5%
	不明	14	4.8%	1	1.5%	10	4.9%	1	12.5%
	全体	289	100.0	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無(全体)



(n=289)

災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無(年代別)

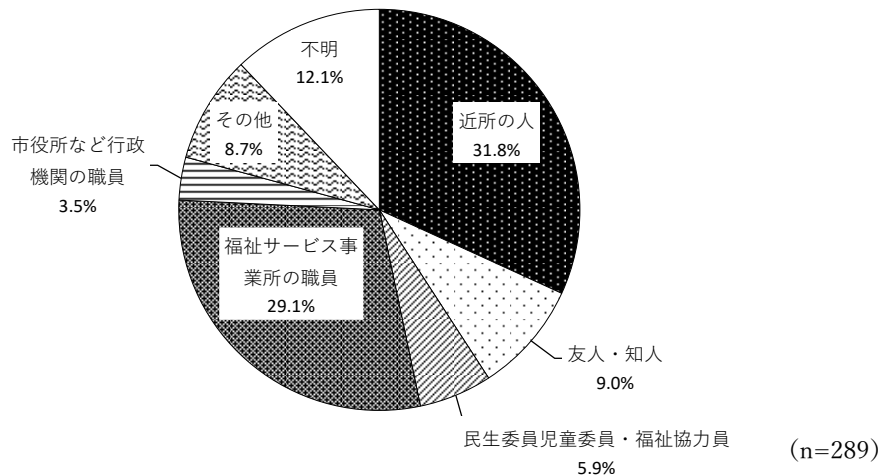


■ 家族以外で助けてもらいたい人【SA】

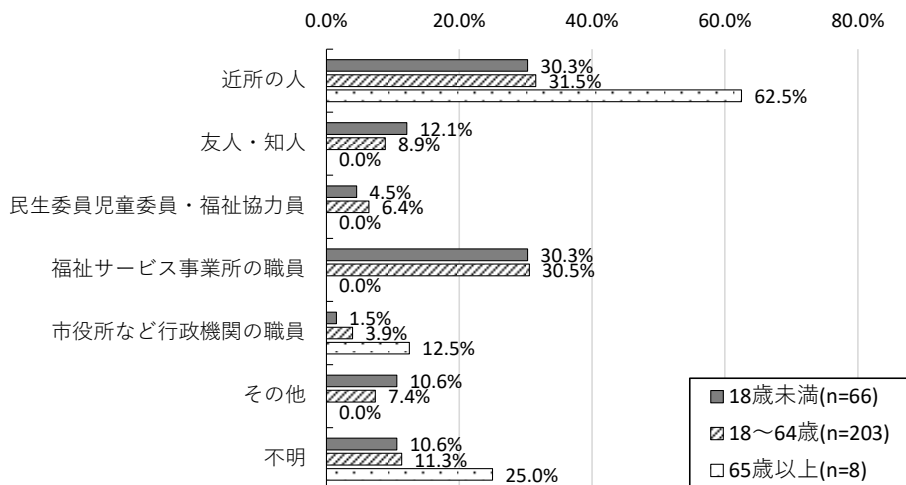
問58 かじ 火事や地震などの災害時に自宅にさいがいじ いる場合、あなたは家族のほかに誰に助けてもらいたいですか。
じたく ばあい かぞく だれ たす
 (1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
		人数	%	18歳未満		18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%	人数	%
1	近所の人	92	31.8%	20	30.3%	64	31.5%	5	62.5%
2	友人・知人	26	9.0%	8	12.1%	18	8.9%	0	0.0%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	17	5.9%	3	4.5%	13	6.4%	0	0.0%
4	福祉サービス事業所の職員	84	29.1%	20	30.3%	62	30.5%	0	0.0%
5	市役所など行政機関の職員	10	3.5%	1	1.5%	8	3.9%	1	12.5%
6	その他	25	8.7%	7	10.6%	15	7.4%	0	0.0%
	不明	35	12.1%	7	10.6%	23	11.3%	2	25.0%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

家族以外で助けてもらいたい人(全体)



家族以外で助けてもらいたい人(年代別)

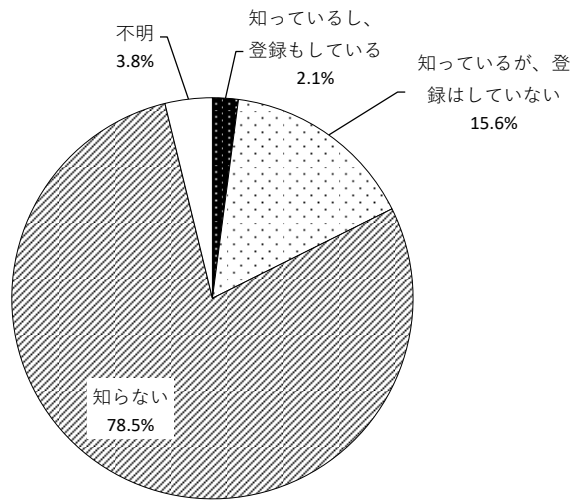


■ 山形市避難行動支援制度の認知【SA】

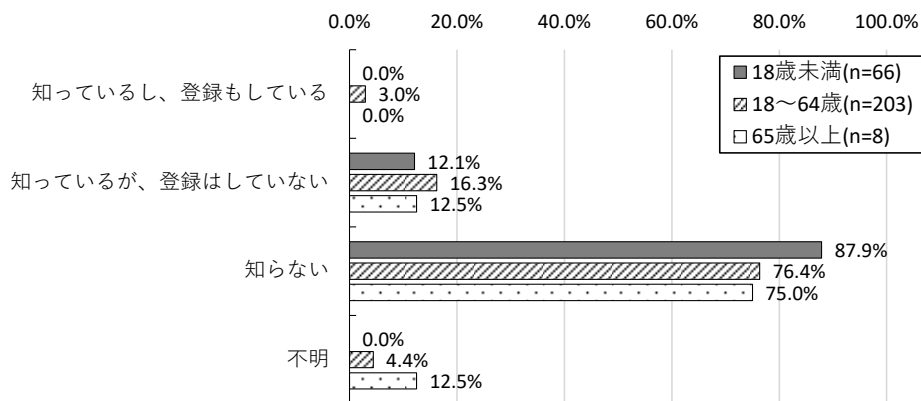
問59 「^{やまがたしひなんこうどうしえんせいど}山形市避難行動支援制度^し」を知っていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	知っているし、登録もしている	6	2.1%	0	0.0%	6	3.0%	0	0.0%
2	知っているが、登録はしていない	45	15.6%	8	12.1%	33	16.3%	1	12.5%
3	知らない	227	78.5%	58	87.9%	155	76.4%	6	75.0%
	不明	11	3.8%	0	0.0%	9	4.4%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

山形市避難行動支援制度の認知(全体)



山形市避難行動支援制度の認知(年代別)

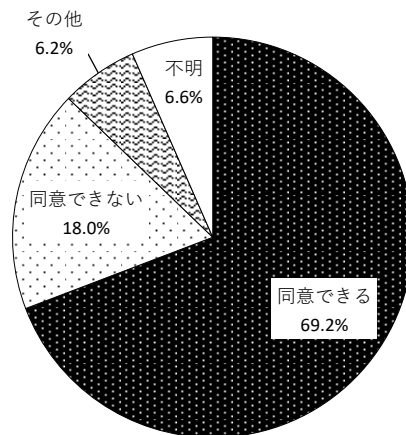


■ 個人情報の提供への同意【SA】

問60 災害時に避難支援を受けるために必要であれば、あなたの個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することに同意できますか。(この回答では、個人情報の提供に同意したことにはなりません。)(1つだけ○印)

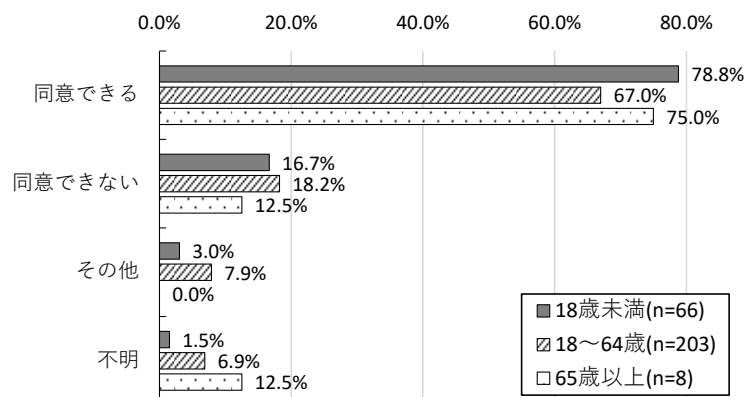
No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	同意できる	200	69.2%	52	78.8%	136	67.0%	6	75.0%
2	同意できない	52	18.0%	11	16.7%	37	18.2%	1	12.5%
3	その他	18	6.2%	2	3.0%	16	7.9%	0	0.0%
	不明	19	6.6%	1	1.5%	14	6.9%	1	12.5%
	全体	289	100.0%	66	100.0%	203	100.0%	8	100.0%

個人情報の提供への同意(全体)



(n=289)

個人情報の提供への同意(年代別)

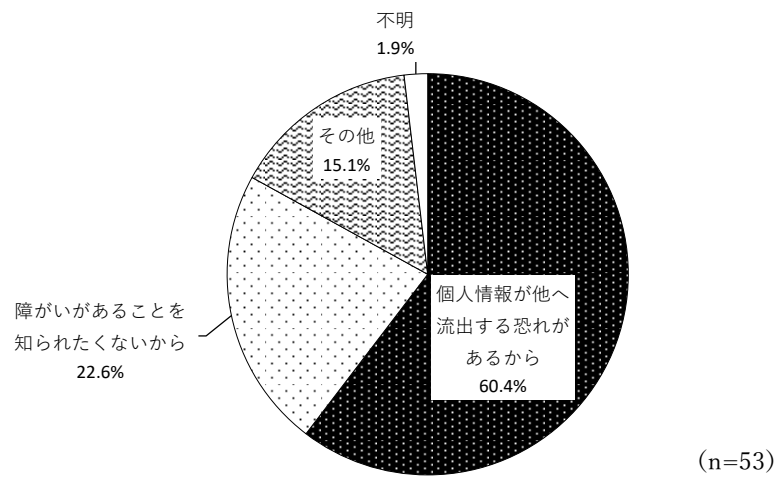


■ 個人情報の提供に同意できない理由【SA】

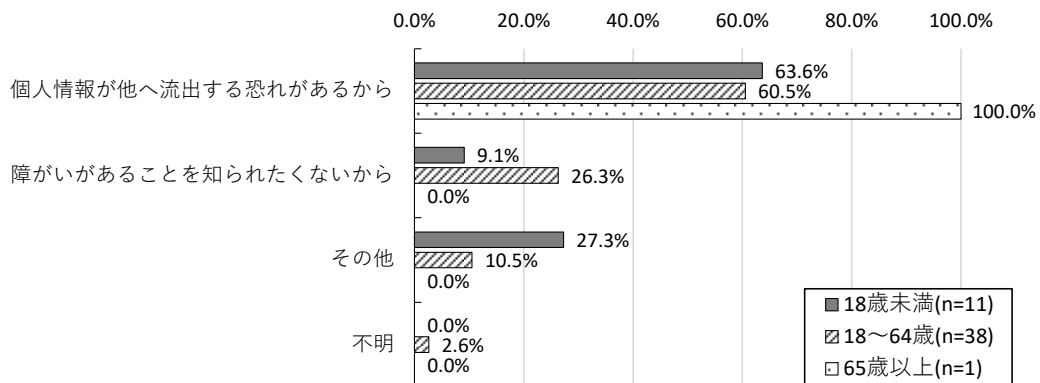
問61 問60で「2」を回答した方におたずねします。同意できない理由は何ですか。（1つだけ○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別					
				18歳未満		18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	個人情報が他へ流出する恐れがあるから	32	60.4%	7	63.6%	23	60.5%	1	100.0%
2	障がいがあることを知られたくないから	12	22.6%	1	9.1%	10	26.3%	0	0.0%
3	その他	8	15.1%	3	27.3%	4	10.5%	0	0.0%
	不明	1	1.9%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%
	全体	53	100.0	11	100.0%	38	100.0%	1	100.0%

個人情報の提供に同意できない理由(全体)



個人情報の提供に同意できない理由(年代別)



(11)山形市の障がい施策についての意見・要望

問62 ^{やまがたし}山形市の^{しょう}障がい者^{しゃしやく}施策^{いけん}について、^{ようぼう}ご意見^{じゆう}、^{きにゆう}ご要望^{きにゆう}がありましたら、自由にご記入ください。

■ 障がい者支援体制の強化に関すること

- 率直に言って、生活介護の施設（入所・通所）が少ないと思う。特に医療的ケアを全面的に受け入れてくれる、入浴サービス付の施設が足りない。重度の障害者（児）にとって、学校や事業所へ行くことが同時に外出のきっかけにもなっていることが多い。通所した先で、一緒に入浴サービスを受けられるのは、本人にとっても家族にとっても心身共に楽になれる。そもそも事業所の入浴サービスが少ない上、医療的ケアが必要となると、かなり施設が限られてしまう。入所施設も今後のことを考えると、増えることが望ましい（居住・短期共に）が、まずは通所施設が増えてくれることを望む。それだけで、介助者の時間が生まれ、用足しの時間・体を休める時間等に使える。残念ながら「医ケアの重身者は、慣れない家族でさえも数時間見ることを億劫がるので、自分の良いタイミングでヘアカットに行くのも難しい」のが現実。本人の他者との交流・外出のきっかけ、介助者の負担軽減等、いろんな面からも、ぜひ事業所が増えることを願う。

- 放課後デイサービスで1日1件の制限をなくしてほしい

- 福祉事業所の支援員の質の向上・専門性をもっと育成できる研修に力を入れてほしい。強度行動障害の研修を受けても実際の支援の場で全く発揮できていない支援員が多すぎる。加算のための資格なのかと思うほどである。強行の資格があっても適格な支援ができず「うちではもう見られません」と2か所の放デイから言われた経験がある。強度行動障害のある人はどこで生活すればいいのだろうか…。ケアマネの質も低い。全く相談にならないほどで残念。我慢の生活（周囲に謝罪ばかり etc）家族も疲れている。笑って生活したい。

- 入所施設とグループホームの建設を要望。日本全国高齢化しており私も70代、子どもも40代、3～5年後には施設と言っても空きがありません。何よりも緊急に利用したい場合等困ります。何年か前に出来た市内の施設でも一部屋だけとの事、遠いのもあります。市や県の施設ではありませんが生活保護に通所しています。詳しくは言えませんが一軒家（古い）の中で、子どもと支援員で30人ぐらいで活動しています。もう少し環境の良い所で過ごさせたいです。

- 特別支援学校に通学するためのバスを利用できるようにしてほしい。（学校では、保護者の要望として県にずっと前から要望書を提出しているようだが、全くやる気がない。例えば、他市町村では、何台ものバスが1つの支援学校で利用できている。せめて朝の送迎があれば、母親はものすごく助かります。仕事にも、他の従業員と同じように出勤できますし、これからパートも始められる。帰りの送迎もあるため、早い時間から働き始めないと、下校時間に間に合わなくなります。他の兄弟姉妹の世話もあり、朝の送迎（往復で1時間ほどかかってしまう。まして冬はもっとかかるため、パートにも行けない。）がないだけで、本当に助かります。是非、ご検討、実現を一日も早くお願いしたい。

- 知的障害児がショートステイできる（気軽に）ところが何か所かあると嬉しいです

- 他自治体には、特別支援学校の児童、生徒のための登下校用のスクールバスがある。山形県は、家族送迎が基本で、親が仕事ができない。障がいを持った子の家族支援が不足している。年48回の登校支援では、200日も授業日数があるのに全く足りない。自立を促したいにもかかわらず、いつまでも家族が支えなくてはいけなく、とても困っている。48回支援してもらっているのはとても助かるが、他自治体は1割負担もなくスクールバスを利用している。県に何度も問い合わせしても検討中の回答ばかり。困っています。助けてください。毎日学校へ1人で通学できるよう、支援してください。

ショートステイ先も少なく利用できない。

- 昔と違って、ケアマネージャーさんがいてくださるので、困った事があればすぐ相談できるので助かります。市の窓口も以前は敷居が高かったのですが、年をとってくると頼るところがなくなって、相談の窓口があるだけで助かります。知的障害者の地域移行とは言われても、両親が元気で家にいる時は、地域や近所の方とも交流ができますが、親亡き後は難しいと思います。グループホームや施設等に頼らざるを得ませんが、そういう受け皿が少ないと思います。

- 成人になった後も一人では生活が困難な障がい者に対し、介助等の公的なサポート支援のサービス充実をお願いしたい。(日常生活における買い物、食事、外出、行政等の手続き、障がい者が入居できるグループホーム等)

- 親が生きているうちはいいが、亡くなったら1人で暮らしていくのは難しい。グループホーム等に入所できるようなことができればいいと思う。(グループホームは足りなくて、すぐに入ることではできないみたいである)とにかく経済的に収入が少ないので、親の援助を受けている状態。経済的に自立できるような支援が必要。

- 色々な面で遅れている気がします。支援学校等の先生や講師の方の数が足りていない。先生1人にかかる負担が大きすぎる。スクールバスがない。デイ等の人材の育成やサービスの質等。親等が学ぶ機会が少ない、ない。今後が不安です。サービスがあっても受けにくいでは意味がない。

- 障害者だけが楽しく明るく暮らせるような世の中になるように、もっとたくさん制度を設けてほしいです。健常者が暮らしやすい世の中になんてならないように、障害者が生きてくうえで苦労しなくて済むようになってほしいです。

- 障がい者への車の免許取るためのお金の支援してほしい。

- 障がい者の就労について、就労定着支援がある一定期間で打ち切られるのは、就労の継続につながらないので、見直してほしい。一般就労できたとしても、他の健常者とコミュニケーションがキチンと取れるとは限らないし、意見・要望を的確に伝えられる事はほぼないと思うので、本人と会社との間に入ってもらうのは大事な事だと思う。

- 障がい者の工賃もまだまだ少ないですが、障がい者施設の支援員の給与も、まだまだ少ないので上げていただけると助かります。

- 障がい児を育てる保護者の立場として、自ら情報を求めに行かないと、様々な施策について知る機会を失ってしまうことが多々あると感じています。障がい児は体が弱く、特に乳幼児の時には医療的なケアが必要な場合が多く、なかなか身動きがとれないのが現状です。様々な申請をするために、市役所に行って手続きをしたり、診断書を病院からもらって来る必要があったり、と健常児連れでは可能なことも、障がい児を伴う場合は複数の大人が必要であったり、診断書であれば1ヵ月以上かかる大きな病院もあるので、少し早めに通知していただけたら、診断書の有効期限を延ばしていただければ、と思うことがありました。就学について、特別支援学校は始業が一般的に遅く、通学手段が親による送迎が主流になっており、公共の交通手段を使う必要があったりと、保護者の金銭的負担が大きいくように感じます。義務教育という点から、他市町村では、タクシーの送迎の制度を市で整えたところもあるようで、山形市でもぜひそういった配慮をお願いしたいです。相談支援事業所の対応に差があり、とても親身になって相談に乗って下さるところと、「どこの施設に行きたいか、等定めてから来てほしい」と断られたところとありました。すべての事業所で、ある程度一律の支援を受けられるようにしてほしいと感じています。対応について、利用者(相談者)の声が届くシステムを作っていた

「知的障がい」調査結果

だきたいです。

- 重度の知的障がい者が、親が年をとり自宅で生活できなくなった時に、生活介護支援を受けながらグループホームで暮らせるように施設の数を増やして頂きたい。
- 充実してほしい
- 児童発達支援が少ない。療育センターの発達検査の予約等も取りづらく、その間に特に子どもは十分な療育を受けられない。療育施設も少なく、定員オーバーで入園できなかつたり、保育園、幼稚園等も理解が少ない。障がいのせいで断られる事もあり、しょうがない部分はあるが、育てる親としては、職場に理解がないと、就労も難しい。核家族は特に送迎など頼める人もいないので、働きたくても働けない。保育園、幼稚園、学校に障害のある子どもに対応できる人材を増やしてもらいたい。障害を持っていても就園、就学先の選択肢が増える事を期待します。
- 支援学校卒業後の働く場所が増えてほしい。障がい者が参加できる習い事。親から離れて宿泊できる施設。
- 今現在、福祉サービスのグループホームで生活しているのですが、通院や日常の買い物へ行くための支援が足りないと感じています。実際にあった事では、移動サービスの支援者が時間で動ける内容が決まっており、通院予約が当日にならないと予約できない医者に連絡を取ったところ、午後からの予約となり、移動サービスの支援者は午前中までの内容だったため、移動サービスの支援者は帰ってしまい、困ってしまいました。（ほかに代われる人もいない）この事で、自分が動きたい時間に動きたいのに、思うように動けないのが大変な事でもあり、この先の不安にもなっています。
- 今、子どもが支援学校の2年生です。春と秋に事業所に実習に行くのですが、実習先がとても少ないと思います。あと、実習はOKだけど、就労となると定員がいっぱいでと事業所の方から言われるので、障がい者の方が働きやすい環境になってほしいと思います。
- 高校を卒業した後、入れる生活介護施設が充実していることを願います。障がい者も長生きする時代となり、施設は飽和状態、短時間利用など親は仕事を続けられるのか不安。一生介護する人生とならないようにしてほしい。
- 現在、40歳を過ぎて、就労支援B型に通園、グループホームを利用させて頂いております。親の会か友人たちと話をするたびに思う事は、施設でも支援員の格差とか、工賃の違い、サービスの内容がだいぶ違うように感じております。支援員の質の向上とか、グループホームを親の負担なしで利用できる工賃、日常の仕事等、もっと充実してほしいと思ってます。※施設を利用していても、親の気持ちを正直に伝えられない事が多々あります。
- 基本的には将来も家族で助け合い生活していくつもりだが、災害などあれば周囲の方の助けも必要になってくる。障がいのある方が地域にいる、どんな障がいなのかは知っていただきたい。グループホームも障がいの方々の割には少ないと思っている。トイレの数、お風呂の数、部屋の広さなど、障がいによって快適さは違ってくるので、規定だからとか規約とかで終わってほしくない。一緒に生活してみないとわからない事がたくさんあると思います。私的には大切な子どもをまだ行政に安心して任せられない気持ちがあります。福祉にどれだけお金を使っていたかかわかりませんが、福祉のスタッフさんの賃金アップ、障がいの人々の工賃のアップを希望します。（他県では1人暮らしできるくらいの賃金をもらえると聞きます）
- 介助者（保護者）の、メンタルケアの相談をできる場所と、専門的にアドバイスをしてくれる方の充実を望みます

- 医療的ケア者の短期入所先が少ないので増やしてほしい。家族の急病や急用があってもすぐに利用できない事が多く、ものすごい不便です。

- 医療ケア児・者や重度重複障がい児者が利用できるショートステイ施設が不足している。特にコロナ禍では受け入れを停止する医療機関もあり大変困った。緊急保護の場合も考えられるので、重度の障がい児・者が地域で安全、安心して暮らせるためにショートステイ施設を確保してほしい。

- ヘルパーさんが足りてないようで利用したいとき、利用できない。

- ショートステイの緊急の枠ですが、増やして頂きたいのと、緊急の利用の仕方を柔軟にして頂きたいです。不幸等でないと利用できないのでしょうか？今回、介助者の入院（5日間）手術のため利用したかったが、予定がわかっているものは緊急と認められず、利用できませんでした。介助者がいなければ、障がいを持っている者は生活が成り立ちません。ショートステイの普通の枠は予約がうまっていたので、緊急をお願いしたのに残念です。今回は友人が助けてくれたので何とかかなりりましたが、障がいをもってる者の立場に寄りそって頂きたいです。

- グループホーム、通所施設作ってください。いろいろ手続きが面倒です。書類も多く、同じようなことを何度も書くものが多いです。市内のプール、無料で利用でき、大変ありがたいです。今後ともよろしくをお願いします。

- ガソリンが上がっていて、毎日の送迎に負担になってます。補助券の枚数を増やしてほしいです！

- インフルエンザなどのワクチン代を高齢者と同じように助成して頂きたい

- ショートステイや日中一時預かりなどは、障がい程度の区別なく、毎日利用しているデイサービスで受け入れ可能にしていきたいと思います。本人も慣れている所がいいですし、親としても安心できます。よろしくお願いします。

- アンケートの中に“ボランティアの支援”というような選択肢があったが、人の善意に頼ることはとても不安に思います。有償でもシステムがキッチンとしているサービスが増えることを望みます。福祉業界で満足して働いてくださるかたが増えるよう待遇の改善がされつづけることを望みます。そのことが、障がい者の生活の安定につながると思います。

- ・市内の病院の敷地の中にある市で管理している宿泊施設を一日も早くたてなおしをお願いしたいです。
 - ・平家で中には、さんそ吸入できるように、他の障害しせつにも利用できるように。
 - ・相談員をふやして、親達の不安な事をへらしてほしいです。
 - ・親達が年とってしまったので、今後どうすればいいか。

- ・現在特別支援学校に通学しております。中学・高校とあるのは、市内1校ですが、市内北部、東部からの通学は非常に大変です。分校という形でも良いので、あと2ヶ所位は学校があればと思います。近距離であれば、1人で通学できたり、付き添う親の負担も軽減できます。通学用のスクールバス等があれば更に良いと思います。
 - ・放課後等デイサービスを利用しています。利用している事業所の人事異動等で発生する環境・人の変化で通うことができなくなった場合、フォローしてもらえらる相談窓口や他の事業所にスムーズに移行できる仕組みがあればありがたいです。事業所に対しての監査や職員、資格所有者への適正検査等も定期的に実施していただきたいです。

■ 将来的不安の解消・サポートに関すること

- 未熟児で40日早産で生まれ、大変な子どもでした。年齢は60歳代になるんですが、西も東もわか

「知的障がい」調査結果

らない子どもですので、人様にはお願い出来ないと思います。親の私が元気でいるうちはそばにいて、生活したいと思っています。私がいなくなった場合、どこへ相談すれば良いか、お聞きしたいと思っています。

-
- 本人は知的障害者で、生まれた時より、一般的に、特に稀な障害名で生まれ、出産後3か月、病院へ入院、その後3回心臓（動脈管開存症）、ていりゅうこうがん、両足の親指人差し指の合指による手術など、全てを越え今、周囲の皆様のおかげで、今は元気に私共両親と祖母と力を合わせ頑張っていますが、我々共が本人の世話ができなくなった時がすごく心配であります。
-
- 本人がまだ学生で親も元気なため、制度についても不勉強なのですが・・・やはり親が亡くなったあと兄弟に頼ることがむずかしい場合、どうしていくのが心配、不安です。本人が楽しく不自由なく生きていければ良いのですが、さみしく思ったり不安に感じることをないように（安全面も）暮らしていける手段・制度があるといいなあと思います。
-
- 本人（自分自身）では何もできない。すべて親や週5日通っている介護施設にお願いしている。現在は医療的な事も（特別には）ないが、今診てもらっている親が高齢化しているので、10年、20年後何もできない（意思表示も難しい）本人をちゃんと診てもらえるような介護ができるようになるよう希望します。
-
- 母親です。なかなか意見・要望を伝える機会がないので活用させていただきます。子どもも20代後半になり、私たち親も将来について具体的に考える事が多くなってきました。障がいがあっても安心して生活できる場所があることが切実な悩みとなります。兄弟もいますが、なるべく負担はかけたくありません。兄弟には兄弟の人生があります。私が強くお願いしたいことは、グレーゾーンに近い障がいのある人を中心とした住宅型有料老人ホームのような施設があればいいということです。自分の身の回りのことはほぼ自分ででき、一般就労もしております。が、サポートが必要な面もあります。息子が支援学校へ通学時、グループホームの説明を受けたりもしましたが、10年も前のことで、現在の状況を知らないこともあります。当時のグループホームは年齢層も高く、重度の障がいがある方が入居していたような印象です。現在もそのような状況であれば、息子には合うようには思えません。今回は本人へのアンケートでしたが、是非、親、保護者を対象としたアンケート、直接意見、要望を伝えられる場、グループホーム等の見学など、実施してほしいと思います。本人の意見、要望が一番ですが、親が亡き後も安心して生活できるよう、親が安心して旅立てるようお願いしたいです。同じ障がいを持つ母親同士、要望を話し合っても、どこに相談、具体的な話をもっていったらいいのかわからないこともあり、今回記入させていただきました。直接意見、要望が言える場があれば是非参加したいと思いますので検討をお願いします。もし実現していただけるのであれば、お手数だとは思いますが、対象となる方に確実に目に留まるようにしていただきたいと思います。（今回は無記名とのことなので）機会をいただけるなら本当に本当に参加したいのです。宜しくお願いします。
-
- 親がいなくなった後のことが心配。安心して暮らせる場所、支援者が不足していることが不安でなりません。何とかして頂きたいと切実に思います。
-
- 障がい者は40代の娘ですが、現在はグループホームで世話になっておりますが、親はともに80代、この先どうなるか全然わかりません。先が見えると良いのですが、これが一番気にかかる事です。息子に継がせるしかないのですかね。
-
- 将来についての不安が常にあります。家族の支えがむずかしくなった時の見通しがないのが今の状

態です。個人で情報収集しなければ情報は入ってこないし、情報に偏りが生まれます。相談できる人や団体が見つけれられないように思います。将来の不安を口にすると、なるようになる、と返す方がいます。が、本人の生活が過ごしやすく、暮らしやすく、困らないように、心を砕いてきたのに、と誤ってしまいます。将来につながる現在の日々の生活であればと思います。

- 就職の時お世話になりたい。親が亡くなってからの将来を相談できるようにしたい。

- 自分には父 70 代、母 60 代の 3 人暮らしです。自分の給料と父、母の年金で生活しています。今は自分の事を見守ってくれていますが、父と母が亡くなった時の事を考えると、とても不安です。親類の人達は自分の事を見てもらえるとは思いません。自分が 1 人で生活をするようになった場合、どこに相談すればいいのですか。教えてください。自分の障がいは、知的障がい療育手帳は B です。よろしく願います。自動車の免許は普通車を持っていますが、職場が近いので自転車または歩いて通勤しています。休みの時、父と自動車の練習をしています。(免許は過去に取得) 知的でも軽い人たちにも見合い、結婚を紹介してほしいのですが、自分は 40 代です。近所でも自分が障がいとわかっている人がいますが、馬鹿にする人がいます。好きで障がい者になったのではないのに、普通の人間に生まれてきたらよかったです。何回か死の事思ったかわかりません。今は父、母が亡くなった時、どういうふうに生活をすればいいのか心配です。私たちの地区は毎年福祉協力員が変わるので…。息子と話をしながら父(私)が書きました。

- 今支援学級に在籍しているが、今後どのような進路があったりどのような市の支援制度があるのかが不明なため、不安を感じる。どこにどのように相談して進路を決めていけば良いのか、就労につけるにはどのような準備が必要なのか、年齢に合った情報を入手できると不安も少しは軽くなると思うので、情報の開示してほしいと思います。

- 現在はグループホームで生活しているので問題はない。高齢になったり病気になったりした時、どこまで面倒見てもらえるか不安もある。

- 現在は、保護者のもとで生活ができておりますが、将来保護者も高齢となり、本人の面倒を見られなくなった時が、一番心配です。グループホーム等の充実を希望します。

- 介助者が年齢的に介助できなくなったときに不安。子の知的障がいに対して親が面倒を見れなくなる。現在は対応できているが、将来が不安。面倒を見ている者の心理的ストレスが大きいことへの対処。

- なかなか難しく回答に本人は無理だと思いました。収入が少ないし、療育手帳 B なので、医療費が結構かかって負担が大きいです。せめて、一割負担くらいにしてもらいたい。一人で暮らせるのかなと思います(親亡き後)

- アンケートについては、新聞で読み知っていました。ただ、送られてきた調査票を見て、ふりがなも付けてあるとはいえ、沢山の質問をどのように理解しているのか不安です。息子は、軽度の知的障がいがあります。全て本人が考えて答えました。学校を卒業したあとの進路についても、親が情報を集めて決めました。福祉のサービスについても、自分が探す事はあっても、行政からのアプローチは少ないと思います。親も年を重ね、これからの生活については大きな不安があります。グループホームの数や人数についても、具体的によくわかりません。知人は、山形の福祉サービスに限界を感じ、他県へ居を移しました。仕事も、その後の生活も考えての決断だったそうです。今回のアンケートを基に、福祉の充実、「グループホーム」の充実を切に願います。全ての人に優しい福祉の町であってほしいと思います。もっと情報発信願います。保護者

「知的障がい」調査結果

- ・本人が将来一人になった時に住む所（グループホーム）の不安がたくさん親の声です。グループホームの数や情報提供をしてほしいです。
 - ・6Pに書いてあるサービスについて、とてもわかりにくいです。（自分が使えるか、どうすれば利用できるか、など）
 - ・福祉サービス事業所の担当の方が変わると相談しにくくなるので、できるだけ同じ人に長く担当してほしいです。

-
- ・相談できる場所が少なく、将来に不安です。

- ・現在の不安は、介護人が介助できなくなった時に対応してくれるショートステイや短期入所などが少なすぎる、練習することもできない状態である。
 - ・グループホームなどを考えていても、医療ケアや食事制限、アレルギーなどある場合、人にゆだねることに不安があり、専門的知識がある栄養士、看護師（常勤）が必要不可欠である。
 - ・就労事業所、生活介護、グループホーム介護人や支援員すべてにおいて人員不足や知識不足が多く、また、その施設の影響設備（新築以外）にも配慮すべき点も多く感じる。

-
- 1 アンケートの内容が難しくわかりづらい。2 混乱するアンケートだった。3 選ぶ数を増やしてほしい。4 時間のかかるアンケートだったのでこのアンケートをきちんと役に立ててほしい。5 アンケートのように実際にしてほしい。6 アンケートだけではないようにしてほしい。

母より 障害者に対して、アンケートというのは、すごく難しく、読んだり、書いたり出来なかった時のことも考えてほしいです。アンケートに“障がい者”と言う文字を多く使用する事、やめてほしいです。“障がい者”にする為、私たちは、子どもを出産したわけではありません。日常生活の中で少しずつ変化があり、“障がい者”になっただけです。今後は、アンケートをやめて、実際に目で見たいです。非常に気分が悪いアンケートでした。

■ 障がい者支援情報・制度に関する広報強化に関すること

- 障害の手帳や、手当等の更新の時、手紙だけではなく、希望者に電話などの対応が欲しいです。（期限が〇〇までなので、手続き大丈夫ですか？など。）難しい場合は、支援員さんなどの方が一緒に連絡くださったり、ついて来てくださったりなど。

-
- 自立支援について、高等部を卒業後、就労先として学校と連携を取って入所したところ、意外と福祉事業所であるにもかかわらず、特性のある利用者への関わり方のノウハウを持っておられず、本人がパニックを起こし、所員の方々から健常者に求めるようなことを言われて退所したことがあります。その経験から、就労事業所の個性（どういう障がいの人に知識的に強く、弱いのか）がわかりやすければと思います。また、事業所の質のチェックをしてほしいと思いますが、なかなか問題が生じた時、助けを言える場がなかったのも、ぜひ改善点として考えていただきたいと思いました。

-
- 私の場合は障がいのある子どもを持つ知り合いがいるので色々教えていただいたが、その方がいなければ、どこでどのようなサービス、手当を受けられるのか全然わからない。

-
- 今、子どもが小学1年生でどのような進路のとりかたをしたらよいのかわからないので、ケース1、支援学校のAさんの場合・ケース2、支援学級Bさんの場合と具体的に例文で教えていただけるとわかりやすいです。

-
- 現在は指定相談事業所や事業所の職員の方に聞きたい事があれば連絡し、教えてもらっているが、障がい者側が動かない限り、情報が入ってこないの、知っている人は多くの事を知っているし、知らない人は少しの事しかわかっていない状況だと思う。何でもホームページを見て下さいの時代です

が、市役所や県からの情報提供を多くしてほしい。(市報や、説明会の開催など) 山形市の LINE に登録しているが、障がい者に関するお知らせ・情報なども発信してほしい。

- 軽度でも知的しょうがいの子どもには成人ですがアンケートに答えることが難しいです。そのため代理で書きましたが知的しょうがいを前提としていない問いが多いように感じました。現在は親が同居し、支援できていますが将来一人になったときに独り暮らしできるのか心配です。軽度な障がいだと通院もないため相談する機会もなくどんな支援があるか情報を得ることが少ないです。(メンタルクリニックに一度行きリーフレットをみたことがあります) そのような情報を定期的に郵送などで知らせていただくことはできないでしょうか? 自分で調べないとわからない状況を改善してほしいです。
- まだまだわからないこと、不安な事等が多い状況です。私(母)がともに元気で、できる限り一緒にと考えてはおりますが、家族状況からも、(主人が早く亡くなった etc) 今後、課題が多いのが現状です。まわりに、通っている通所事業所の方や、支援事業所の方、相談できるので、まだ良いのですが…。障がい者施策…本当に障害者の方々の立場を考えて、相談しやすい場をはじめ、親身に考えて下さり、情報提供していただけるのが一番ではないでしょうか。よろしく願いいたします。
- このようなアンケートで少しでも要望に耳を傾けてもらうことは有難い。様々な支援制度についてまだまだ知らないことが多く感じた。利用する側の受け取る努力はもちろんだが、もっと周知が徹底するようにしてほしい。(わかりやすく)

■ 障がい者理解の促進に関すること

- 当事者本人は、自分から話することができないので、周りの人に理解してもらえない事が多いです。公共の場所での行動で、時々困ってしまう事があります。だいたい社会の理解も進んできたと思いますが、思いもよらない場面で、辛い言葉をかけられたり見られたりすると、本人もそうですが、介助者(親)がかなりメンタルやられてしまいます。そういうところが体調不良にもつながってしまいます。何かリラックスできる場所や会合等あるといいと思ってしまいます。
- 通院で困る事の1つに、医院が混んでいる時に、本人が待ってられないとか、奇声を発して人目にさらされるというのがあり、特に、皮膚科・耳鼻咽喉科はいつもすごく混んでいて受診をあきらめてしまいます。例えば、一定の規模の病院などで、入所者・入院者以外でも受診できるようになると、それほど気を遣わずに待ってられる気がします。
- 窓口ではいつもいねいに対応していただいています。放課後デイサービスなど子ども向けのサービス充足してきていると思いますが、その先が受け入れ先が少なく不安なところ。人生長いので、経済的なもの、生きていく上で必要な住居や仕事、QOLの充実を考えていただければと思います。山形市(村山地区)は支援学校ができたのが他地区より遅く、障がい者に対しての人や土壌が希薄であると感じています。子どもと出かけても心がつらい時が多いです。いることがあたりまえの町になってほしいと思います。障がい者手帳での割引(無料)施設も少ないと思います。そういう場所が多ければ、出かけやすい雰囲気になると思います。親亡きあとも市や公共のところはよりどころです。いつも頼りになる存在でいてください。よろしくお願いします。
- 障がい者の事をもっと多くの人に理解を深めてほしいです。そして、一言で障がい者と言っても、色々な人がいる事、みんな同じではなく、その人その人個性が違うという事、重度の障がい者だけでなく、軽度だからこそ、悩みや葛藤もあるという事も理解していただきたい。そして、その家族の負担も大きいという事。まだまだ、障がい者の子どもがいるというだけで、仕事の採用が得られないの

「知的障がい」調査結果

が現状です。まだ、他人事の人が多いと思います。「こちら側もボランティアで雇っているわけではないので」とよく言われます。障がい者の子ども達にも夢を持ってほしいと思える社会にして欲しいと心より願っています。

-
- 障がい者が住みやすい町になってほしいと思います。偏見が無くなってほしいと思います。
-
- 障がいの種類や程度も人によって様々で、支援の方法やあり方も、様々だと感じています。いろいろ配慮してもらっていると感じる一方、まだまだ障がいのある人が安心して暮らせる社会ではないのかなと思います。障がいのある人もない人も、みんなが個性そのままに安心して楽しく生きられる社会になってほしいと思います。情報をどこで知ることができるのか、それすら知らない人も思うので、幅広く発信してほしいと思います。大変なことも多いと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。
-
- ヘルプマーク付けてると障がい者だってわかって自転車をぶつけられたり、知的な障がいだってわかれば何かあっても説明してもらえない。知的なことでもみんなが普通に知ってることを知らないから、それで男の人に性的なことされたり言われたり、ストーカーされたりするの嫌だ。あからさまにバカとかガイジって言われて、意味がガイジって障がい者の略なんだって知ったこと。クソガキとか。トラブル起きて殴られたりする。算数の勉強してるのバレるとなんで20超えてるのにわかんないの？お前小学校は行って卒業したのかよってバカにされる。思うことは止められないけどせめて口に出して言わないでほしい。みんなが普通なら、この年ならできることができないのそんなバカにしないでほしい。だって生まれたときから知的なことでもみんなできるのにできないんだもん。やりたくてもできない。それでフラッシュバックして発作起きたりするからやめてほしい。
-
- ある日、家族で飲食店に行きました。その日はいつもより機嫌が悪く落ち着かなかったのですが、きちんと順番を守り席に着きました。何度か静かにするように家族から話し、一瞬静かになるのですが、またすぐに大声を出してしまいました。ラーメンが出てくれば静かに食べられるので注文を待っていると、1人の中年男性が席まで来て、険しい表情で怒った声で「もう少し静かにしてもらえませんか！」と言われてしまいました。特に大声以外、物を叩いたり歩き回ったり迷惑な行動もしておらず、ヘルプマークも付けているにも関わらず理解されなかったことに悲しくなり、結局ラーメンをキャンセルして泣きながらお店を出たことがあります。今でも外出時に落ち着かないことがあると人目が気になり、もっと不安定になります。子ども達は学校で少しずつ障がいについて学ぶ機会がありますが、特に大人の人達はまだまだ理解不足、偏見を感じます。一般就労でも、障がい枠があっても、結局障がい者を教える職員を取られるので負担が増えるだけとの話も聞きました。それぞれの特性に合った就労であれば、誰より真面目に働けると思うので、残念に思いました。
-
- ・仕事終わり～18時頃まで放デイのように時間を過ごせる居場所があれば助かる。親は仕事を続けたいが、息子の仕事時間に合わせると、長時間の勤務は厳しくなる。
・知的障害、自閉症に対して、まだまだ周囲に理解されていないこと、たくさんあると思う。ちょっと変わった行動や言動をすると、変な目で見られることがある。知らない人に写真を撮られ笑われたこともあり、不快に思う。障がいがあっても過ごしやすい世の中になってほしい。もっと周囲に理解してほしいと願っています。
-
- 「障がい者」と聞くと健常者の方々はどのように感じるのでしょうか。大半は…なんか変なの…かわいそう…といったところでしょうか。障がい者本人とその家族は結局のところ弱者。ジロジロ見られ、他人の迷惑にならぬよう人の目を気にしながら個々のこだわりや個性を主張しすぎないよう正

しながら生活しています。様々な障がい者がいます。たくさんのカラーがあり介助方法も一律ではありません。このアンケートがどのように使用されるのか不明ですが、①～⑩で選んで終わるような簡単なものではありません。人が苦手な人に提供するサービスありますか。発語がない方にどのように対応できますか。障がい者と住まいを生活を共にしてみてください。今からどんな事が必要かがすぐにわかるかと思います。

■ 行政への要望に関すること

- 親が見られなくなった場合、(急な時もある)どこに入れて、(グループホーム)どう生き続けていけるのかが、非常に心配である。相談しても、なかなか細かく示してくれる部所が少ない。一覧表になったものを示してくれない。人手が少ないのではないか。また、仕事の幅が多すぎて、手が回らないのではないか。専門的に把握していて示してくれる人材をかかえてほしい。たらい回しではなく。親も本人も、刻々と変化していくので、本人が健やかに生きていけるように、目と心を配ってほしいと思います。

- 山形市だけではないが、役所の手続きは手書きの書類が多く、文字が自分で書けない子どもは、内容を理解していても、書類の記入ができないので将来自分でできない。そもそも障がい者本人が手続きすることを想定していないのかもしれないが、もう少し手続きの方法が、簡単や電子入力でも可になるといいと思います。

- 今まで他市町村に住んでおり、山形市に越してから30年程になりますが、福祉課の方の訪問や連絡を頂いた事はないように思っています。山形市に居住しているので福祉課の担当の方にお会いしたいと思います。母より

- アンケートありがとうございます。要望というか、お願いとしては、障がい福祉課の窓口で、感じるのですが、「お子さんの様子、聞きとりさせて下さい～」とのこととお話させて頂くのですが、職員の方が支援学校や放課後等デイサービス等あまり詳しく分かっていない様な方がいたりして…。こちらとしては、お話ししながら大丈夫なんだろうか～と不安になってくる事がしばしばありました。私だけかな！？と思っていたら、お母さん方の集まりの際、「分かる分かる～!!」と皆さんからも声が聞かれ…障がい児・者を抱え、頼りにしたい!!と思っている場所の1つなので是非、その点をクリアして頂きたいです。
・ショートを受け入れ数、場所を増やして頂きたいです。(学校卒業後も気軽に利用出来る所が少ないです。)大変だとは思いますが、どうぞよろしく願います!

■ アンケートに関すること

- 本人がまだ中学生で記入できないので、母が回答しましたが、本人の考えというより母の考えが主になってしまっているかもしれません。宜しく願います。

- わかる所だけ記入させていただきました。宜しく願い致します。

- 難しかったです。

- 成人になっていないので難しい。

- わかる所だけ記入しました。

- アンケートについて、本人に知的障がいがあり、回答は親が行いました。本人目線で記入した部分、親目線で記入した部分が混在してしまいました。未成年で知的障がいがある方へのアンケートは、親

(保護者)宛(向け)のもので作成して頂きたい。

- アンケートが難しかったです。一人では書けませんでした。
- アンケートが難しすぎる。
- 「計画見直し」のためのアンケートとあるが、質問の内容が、見直しに役に立つのか、甚だ疑問である質問ばかり。非常につまらない、腹立たしいアンケートだ。

■ その他の意見

- 福祉利用事業所の職員の方には、日頃よくお世話になりまして感謝申し上げます。介助者(母)もこのところ入院、退院も多くなり、身体障がい者施設に長期サービスなどをお世話になりながら生活している所です。1日も長く子どもと一緒に生活していきたいと思います。いいサービスを作っていただきたいと思っています。障がい者子ども50代、介助者母80代です。
- 親が健康なうちは良いですが、将来のこと考えると不安と心配だけが残っています。障害としては思うように言葉が発せず、相手にうまく伝えられない事が一番の難点だと思います。小さい時から携帯電話は持たせていて、困った時などは姉妹に電話したりしています。今はこれぞと困っている事はまだ深く心配等はしていないが、今はお互いに健康でいつまでも子どもと楽しく過ごせることが私にとって一番の幸せです。毎週土曜日はほぼ必ずショッピングモールに行き買い物したりコーヒーを飲むことが本人にとって一番の幸せ、心安らく時でないかと思えます。近くに住んでる娘、孫たちも一緒に我が家で食事したりすることも唯一の楽しみかもしれません。市のほうも障害者に対しての援助、思いやり、気配りは充分配慮できていると思っています!!今後とも障害者が安心して過ごせる町づくりに不安の少ない町にぜひ力を入れてほしいと思っています。
- 障害があっても恋愛・結婚・子育てもできるように支援していただけたら有り難いです。
- 障がい児の母です。子どもが幼稚園の時、入園の許可をもらえてその幼稚園に入園したのに「年長になると加配がつけられない」と言われたので、年少の時に退園しました。この世界ではよくある話だとは思いますが、悔しくてたまりません。小さいうちから障がい者と関わる事で偏見が少なくなると思っているのに、とても悲しい気持ちになりました。この悔しい思いがあり、私が保育士の資格を取り“入園した子は誰も退園させない保育園を作りたい”と思っています。B型就労などの施設で企業主導型保育事業はできないのですかね?支援者が増える事も願っているので…。まだ保育士の資格はありませんが詳しくお話をお聞きする機会があればお聞きしたいと思っています。
- 手厚い対応、利用できる制度に感謝しています。今後、成長していけるか、大丈夫か、不安はつきませんが、本人の意思優先で見守りしていきたいです。
- 自閉症の息子は他人とのコミュニケーションなどがとても苦手なのでグループホームには向いていません。軽度障がい者が安価で安心してサポートが整った個室アパートのような住める所が山形にたくさん出来る事を願っています。私達は転勤族で関東地方の都市圏などでは将来年金で住めるような家賃のホームやアパートはなかなかありません。山形は家賃も安く広いので上手に土地活用すれば障がい者に住みやすい市になると思います。福祉に優れた市として日本一を目指して欲しいと思います。よろしくお祈りします。
- 私は今の日本・福祉に怒っています。先天性による咀嚼機能障害(身体障がい4級)で昔もらったたそれだけなのに別な精神病(統合失調症)になってからイライラします。今頃になって治るとか色々昔と今違うらしいけど?今さらって思っています。
- 施策は軽度の人を対象にしている感じがします。障がいはいろいろあるので、もっと障がいに合わせ

た細分割した施策があっても良いのではないのでしょうか。親亡き後をどうするかの施策があれば。

- 山形市障がい児福祉手当を受給しています。特児手当を受給できないので（所得制限により）、とてもありがたいです。放課後等デイサービスを利用しており、おかげ様で母（私）もパート勤めができています。14時半頃学校が終わり放デイの送迎サービスを利用し、15時から15時半頃に放デイが始まります。18時に迎えに行き自宅へ。2時間から2時間半の利用で1日1万数千円の利用率なのですが、高額に感じます。（30分以上の利用で同額です。）（高い月は27～28万円です。）迎えに行くと4～5回に1回の頻度で座っている職員の方を見かけます。（児童・生徒と少し離れたところで。）（もちろん少しの間座っていただけかもしれませんが。）その方は話し方などはとても丁寧なのですが、何を話そうとしているのか少しわからないこともあります。疑問に思うことがあっても他の職員の方に聞く勇気（？）がなく、悶々としています。山形市の職員の方で、放デイの様子を見学（チェック？）して下さる機会があれば、もっと素晴らしいサービスの提供につながるのではないかなと思います。

- 山形市の施設に生活介護でお世話になっています。息子が落ち着いて過ごせるよう力添えをしていただいています。これまでのことで感じるのは人ということです。子どもたちのことをそれぞれの個性やこだわりを理解しようとしてくださる先生や職員さんたちの出会いでここまで来られたと思っています。今やっと親子で向き合っているかなと思います。ただ、いい先生、いい職員さんが異動や辞められたりすることがとても多くて、変化に合わせるのが苦手な子たちが多い中でとても残念で、困ることも多かったです。理解しよう、寄りそおうとしてくださる方々を守る、育てることも本当に必要と思っています。障がい者と言われる子どもを持つ親として、見守る方々の立場や支援も、働きやすい環境があれば、それは子どもにとってもとても助けになるとしています。笑顔が増えますから。せっかくのアンケートで、ずれた思いかもしれませんが、どうか一意見として書かせていただきましたので、お心にとめてくだされば幸いです。（親の回答になっています。本人の意見はわかりません。）

- 今、息子は30代で、デイサービスの事業所に通所していますが、前に3、4回ほど、体にあざ（押さえつけられてできたような）とか、別々に目のあたりに殴られたようなあざがありました。それで、医院に行って診てもらいました。その事を、通所している事業所に言ったところ、自分で騒いだという事でした。私も、家族も全員で、今までそのような事が一度もなかったのに、納得がいかなかったままになりました。事業所のほうでは、その時見ていなかったのに、自分でしたという事です。職員の方に一人一人聞いてほしかったのですが、調査もされずに終わってしまいました。そういう時に、山形市のどういう所に相談したり、行政のほうで立ち入り検査とかしていただけたらと思います。私としては、ただ、どうしてそのような事になったのか、息子は自分で話は少しできても、その時の事をうまく話せなくて、悔しい思いをしました。ただ、事実を知りたかったです。他にも悔しい思いをしてる人がいると思うので、本当なら事実を調べられるようにしてほしいです。

- 家族に何かあったことを考えて、緊急一時的な宿泊（山形市からの委託）を利用させて頂いたのですが、あまりにも粗暴な行動だった為、今後の利用について見通しが立たない状況です。現時点でショートステイを利用できる施設は一つもありません。強度行動障がいがあると言われたことがある人の対応は難しいという事は、重々承知しておりますが、家族もまた、心身共に疲弊しております。どうか、重度の障がいがある人にこそ、ご加護を。思い起こせば我が子が幼少の頃、どこを歩いても、どこに行っても障がいのある方はあまり見かけませんでした。なぜだろうと不思議に思ったまま、我

「知的障がい」調査結果

が子が成人しやっと思いが分かりました。体は成人しても心は幼少の頃のままで、一緒に外出するにはあまりにも親が大変だし、疲れてしまうのです。それは政府が、障がいのある方も地域で安心して暮らせる地域移行型になっても同じです。今回、市の方からアンケート調査のために1430名の方に送付されたようですが、外ではあまりお見掛けしないのが現実です。数年前に起きた残虐な事件、犯人の犯行動機の根底にある、障がい者は社会の負担であるという考え方で、重度障がい者は人間であるが人ではない etc の発言が今でも鮮明に蘇り、ことあるごとに考えさせられ自問自答しております。あまりにも衝撃的な事件です。親が健在なうちに、我が子の生活の場を確保したいという気持ちは、身勝手とは思いますが、福祉アンケートを機にどうかご一考願います。何卒宜しく願います。

-
- コロナが始まってからは、ドライブすら、出かけられなくなってしまいました。ドライブぐらいは、出来る世の中になって欲しいものですね。
-
- ・放課後デイサービスの見学に行き行って感じることは、ほとんどがスペースのレンタルで営業されており、個別に建築されたものではありません。建物が古かったり大人用のトイレが1個しかなかったり、冷暖房が行き届いていなかったりと、環境を整備する資金が足りないのではないかと思います。
 - ・定員がすぐいっぱいになり、1年以上前から枠の確保が必要でした。
 - ・入学前に通っていた障がい児通所支援事業所では、先生方が数ヶ月に数名やめていました。給与が安いのか1人当たりの業務量に無理があるのか…。→事業所ごとにそれぞれ問題はあると思いますが、行政からも資金支援があれば、設備が充実したり多くのスタッフの確保ができて、定員やサービスにも余裕が生まれるのではないかと思います。
 - ・R4に特別支援学校に見学に行った際、教頭先生に育児と仕事の両立を相談したら「障がい児には経済的サービスもたくさんあるのでお母さんは安心して退職してください」と言われた。仕事は私にとってお金を稼ぐだけでなく自己実現に大切なものです。障がい児を産んだら母親は自分の居場所をすべて手放して療育に専念しないといけいのでしょうか。家庭の相談にのる立場の方がこの考え方でいいのでしょうか。
-
- ・自然災害が増えている昨今、避難を余儀なくされた場合、健常者の方でも大変な避難生活、障がいや（重症の）疾患を抱えている人、その家族は不安が募ります。たとえうまく避難できたとしても、そのあとのこと（本人は知的障がいと重症のてんかん発作を持つので、避難中の発作の対応（周囲の方の反応、迷惑をかけてしまうことなど）、不安やストレス、睡眠不足などで、発作の誘因に繋がるようなことを少しでも減らしてやれるように家族も心していなければと思います。
 - ・市役所からの通知文書への小さな疑問、問い合わせに、お忙しい中返答くださいますとありがとうございます。
 - ・申請等が“郵送で可能”になったことも助かっています。（今まで窓口に行っていた家族にとってはありがたいです。（時間の取り方など））
 - ・健常者も障がいをもつ人も笑顔で助け合っていけるようにと願っています。
- ☆申し訳ありません。回答に本人の意向というより代理の者の思いが大きくなりました。これからも御支援をよろしく願います。

(12)障がい者施策に関する主なニーズ「身体障がい者」

【働き続ける(または将来働く)ために必要だと思うこと】

働き続ける（または将来働く）ために特に必要だと思うことについて、全体では、「職場に仕事のアドバイスや配慮をしてくれる人がいること」および「障がいや病気に対する理解や配慮」がともに29.8%と最も高く、次いで「自分に合った仕事である」（28.7%）、「通勤が自分でできる」（15.6%）と続いている。

《知的障がいの等級別》

知的障がいの等級別でみると、＜A区分＞では、「障がいや病気に対する理解や配慮」が4割弱と最も高く、＜B区分＞では、「職場に仕事のアドバイスや配慮をしてくれる人がいること」が4割弱と最も高くなっている。また、両区分とも「自分に合った仕事である」が2番目に高くなっている。このほか、＜A区分＞では「職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備」が、＜B区分＞では「通勤が自分でできる」が他の項目に比べて比較的高くなっている。

	合計	勤務時間や日数の短縮	通勤が自分でできる	具合が悪くなった時に気軽に通院できる	職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備	自宅で仕事ができること	給料・賃金が妥当である	自分に合った仕事である	仕事をするための訓練	会社や家族などの自分への理解	少しずつ仕事に慣れていけるようステップを踏めること	
全体	289 100.0%	7 2.4%	45 15.6%	17 5.9%	20 6.9%	7 2.4%	39 13.5%	83 28.7%	17 5.9%	36 12.5%	35 12.1%	
等級	A	88 100.0%	2 2.3%	7 8.0%	4 4.5%	14 15.9%	1 1.1%	6 6.8%	21 23.9%	5 5.7%	7 8.0%	8 9.1%
	B	180 100.0%	5 2.8%	38 21.1%	13 7.2%	6 3.3%	5 2.8%	32 17.8%	58 32.2%	11 6.1%	27 15.0%	27 15.0%

	合計	職場に仕事のアドバイスや配慮をしてくれる人がいること	障がいや病気に対する理解や配慮	その他	特にない・まだよくわからない	不明	
全体	289 100.0%	86 29.8%	86 29.8%	13 4.5%	33 11.4%	55 19.0%	
等級	A	88 100.0%	15 17.0%	34 38.6%	9 10.2%	9 10.2%	20 22.7%
	B	180 100.0%	68 37.8%	49 27.2%	2 1.1%	16 8.9%	32 17.8%

1位 2位 3位 の項目

「知的障がい」調査結果

【差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うこと】

差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では、「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が 50.9%と最も高く過半数を占めている。次いで「障がいや病気への正しい理解の啓発」(39.4%)、「情報提供の充実」(24.6%)と続いている。

《知的障がいの等級別》

知的障がいの等級別でみると、＜A区分＞＜B区分＞ともに、「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が最も高く、次いで「障がいや病気への正しい理解の啓発」が続いている。このほか、「情報提供の充実」および「福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす」といった項目で2割以上を占めており、制度や意識の面で特に力を入れていく必要があることとしての認識が高いことが示された。

	合計	子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	情報提供の充実	障がいや病気への正しい理解の啓発	支援ボランティアの育成を進める	公共施設などの改善・整備を進める	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実	道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする	
全体	289 100.0%	147 50.9%	70 24.2%	71 24.6%	114 39.4%	36 12.5%	16 5.5%	19 6.6%	44 15.2%	4 1.4%	27 9.3%	
等級	A	88 100.0%	49 55.7%	20 22.7%	24 27.3%	36 40.9%	16 18.2%	5 5.7%	3 3.4%	11 12.5%	2 2.3%	6 6.8%
	B	180 100.0%	89 49.4%	47 26.1%	46 25.6%	72 40.0%	19 10.6%	8 4.4%	14 7.8%	28 15.6%	2 1.1%	16 8.9%

	合計	その他	特にない	不明	
全体	289 100.0%	10 3.5%	28 9.7%	27 9.3%	
等級	A	88 100.0%	6 6.8%	6 6.8%	9 10.2%
	B	180 100.0%	3 1.7%	17 9.4%	18 10.0%

1位 2位 3位 の項目

【相談機能を充実させるために必要だと思うこと】

相談機能を充実させるために必要だと思うことについて、全体では、「適切なアドバイスができる人材」が37.0%と最も高く、次いで「身近な場所で相談できること」(31.8%)、「わかりやすい情報の提供」(30.1%)と続いている。

《知的障がいの等級別》

知的障がいの等級別でみると、＜A区分＞では、「適切なアドバイスができる人材」が4割半ばを占めて最も高く、次いで「わかりやすい情報の提供」が3割半ば、「素早い対応をしてくれる」が3割弱と続いた。＜B区分＞では、「身近な場所で相談できること」「適切なアドバイスができる人材」が3割半ばを占めて最も高く、次いで「福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実」が3割、「わかりやすい情報の提供」が3割弱で続いている。

	合計	身近な場所 で相談でき ること	プライバ シーの配慮	適切なアド バイスので きる人材	電話やF A X、Eメー ルなどによ りいつでも 相談できる こと	素早い対応 をしてくれ る	わかりやす い情報の提 供	たらい回し にされない	相談員の資 質向上	一か所で用 事が済む相 談窓口を設 置する	市や県、民 間相談機関 の連携	
全体	289 100.0%	92 31.8%	32 11.1%	107 37.0%	22 7.6%	64 22.1%	87 30.1%	32 11.1%	39 13.5%	71 24.6%	24 8.3%	
等級	A	88 100.0%	24 27.3%	5 5.7%	39 44.3%	5 5.7%	26 29.5%	31 35.2%	6 6.8%	17 19.3%	25 28.4%	3 3.4%
	B	180 100.0%	61 33.9%	25 13.9%	61 33.9%	15 8.3%	32 17.8%	50 27.8%	22 12.2%	19 10.6%	41 22.8%	17 9.4%

	合計	福祉・教 育・就労な どの一貫し た相談支援 体制を充実	その他	不明	
全体	289 100.0%	76 26.3%	10 3.5%	37 12.8%	
等級	A	88 100.0%	19 21.6%	2 2.3%	12 13.6%
	B	180 100.0%	55 30.6%	5 2.8%	24 13.3%

1位 2位 3位 の項目

「知的障がい」調査結果

【今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思うこと】

今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では、「経済面での支援が受けられる」が29.4%と最も高く、次いで「安心して住めるところがある」(27.7%)、「通所施設の整備」(21.1%)と続いている。

《知的障がいの等級別》

知的障がいの等級別でみると、＜A区分＞では、「安心して住めるところがある」が3割半ばと最も高く、このほか「在宅生活において、介助がいつでも受けられる」「通所施設の整備」「入所施設の整備」で3割以上を占めている。＜B区分＞では、「経済面での支援が受けられる」が3割半ばと最も高く、次いで「障がいや病気について周囲の人の理解」が3割、「安心して住めるところがある」が2割半ばで続き、等級別で特に力を入れていく必要があると思うことは意見が分かれる結果となった。

	合計	在宅生活において、介助がいつでも受けられる	通所施設の整備	学校や就職先が選択できる	安心して住めるところがある	入所施設の整備	経済面での支援が受けられる	相談体制	早期発見や予防につながる機会の確保	健康管理や治療・リハビリ	快適で安全なまちづくり	
全体	289 100.0%	55 19.0%	61 21.1%	33 11.4%	80 27.7%	54 18.7%	85 29.4%	56 19.4%	5 1.7%	13 4.5%	16 5.5%	
等級	A	88 100.0%	28 31.8%	27 30.7%	5 5.7%	30 34.1%	27 30.7%	19 21.6%	13 14.8%	0 0.0%	7 8.0%	3 3.4%
	B	180 100.0%	21 11.7%	33 18.3%	27 15.0%	44 24.4%	21 11.7%	63 35.0%	39 21.7%	4 2.2%	5 2.8%	12 6.7%

	合計	旅行や遊びのための外出が気兼ねなく出来ること	障がいや病気について周囲の人の理解	地域での交流の機会	情報の公平な伝達	契約行為や財産など権利が守られること	災害時の避難支援	その他	特になし	不明	
全体	289 100.0%	25 8.7%	76 26.3%	5 1.7%	19 6.6%	17 5.9%	26 9.0%	8 2.8%	20 6.9%	31 10.7%	
等級	A	88 100.0%	9 10.2%	19 21.6%	0 0.0%	7 8.0%	2 2.3%	11 12.5%	4 4.5%	3 3.4%	8 9.1%
	B	180 100.0%	14 7.8%	55 30.6%	5 2.8%	11 6.1%	13 7.2%	13 7.2%	3 1.7%	14 7.8%	22 12.2%

1位 2位 3位 の項目

「精神障がい」 調査結果

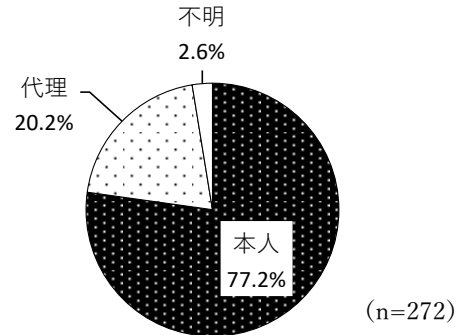
2-3 「精神障がい」調査結果

(1)回答者の属性

調査対象	配布数	有効回答数	有効回収率
精神障がい者保健福祉手帳を持っている方	450	272	60.4%

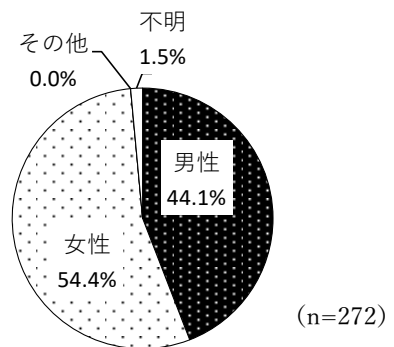
属性1 アンケートにお答えになった方【SA】

カテゴリー名	人数	%
本人	210	77.2%
代理	55	20.2%
不明	7	2.6%
全体	272	100.0%



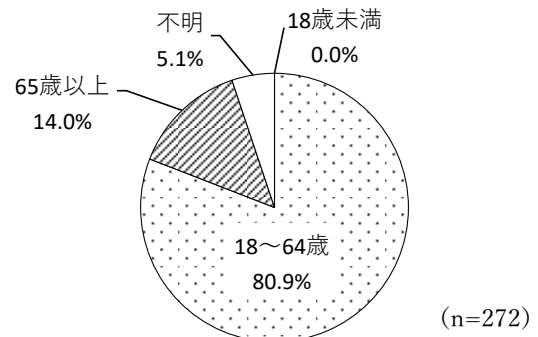
属性2 性別【SA】

カテゴリー名	人数	%
男性	120	44.1%
女性	148	54.4%
その他	0	0.0%
不明	4	1.5%
全体	272	100.0%



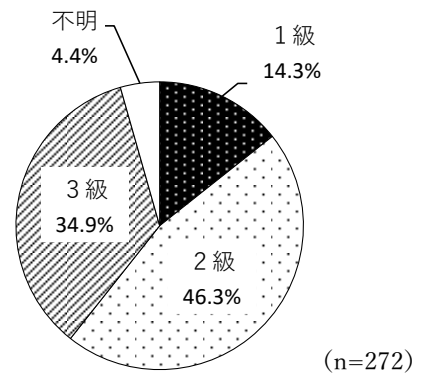
属性3 年齢 令和5年7月1日現在【FA】

カテゴリー名	人数	%
18歳未満	0	0.0%
18～64歳	220	80.9%
65歳以上	38	14.0%
不明	14	5.1%
全体	272	100.0%



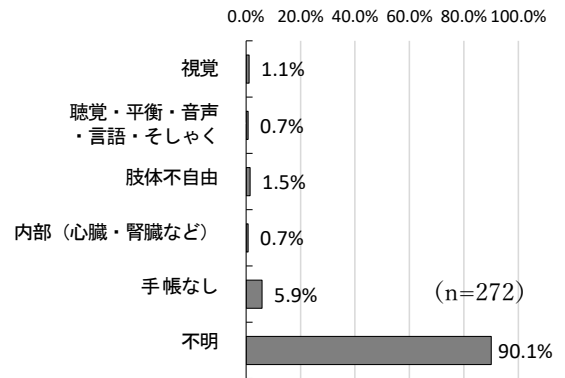
属性4 精神障がい者保健福祉手帳の等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
1級	39	14.3%
2級	126	46.3%
3級	95	34.9%
不明	12	4.4%
全体	272	100.0%



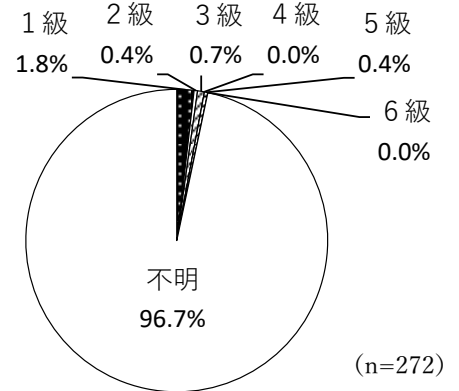
属性5 身体障がいの部位【MA】

カテゴリー名	人数	%
視覚	3	1.1%
聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	2	0.7%
肢体不自由	4	1.5%
内部（心臓・腎臓など）	2	0.7%
手帳なし	16	5.9%
不明	245	90.1%
全体	272	100.0%



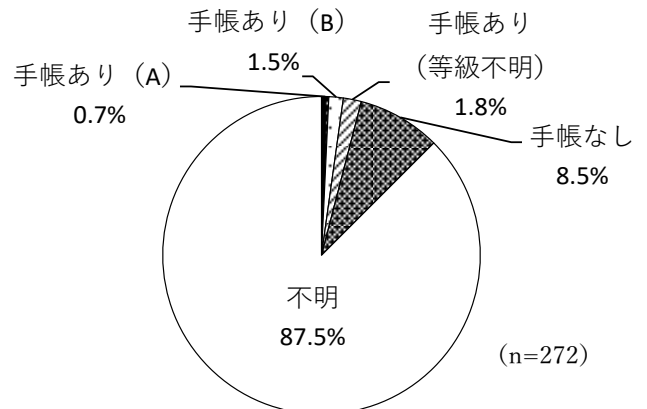
属性6 身体障がい者手帳の総合等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
1級	5	1.8%
2級	1	0.4%
3級	2	0.7%
4級	0	0.0%
5級	1	0.4%
6級	0	0.0%
不明	263	96.7%
全体	272	100.0%



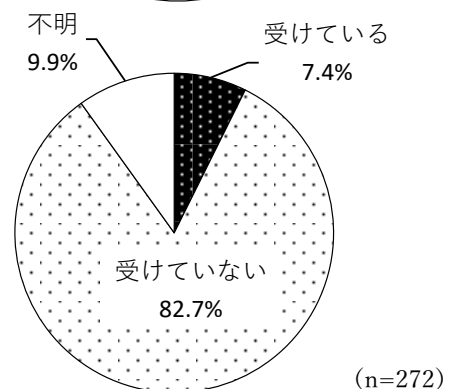
属性7 療育手帳の有無・等級【SA】

カテゴリー名	人数	%
手帳あり (A)	2	0.7%
手帳あり (B)	4	1.5%
手帳あり (等級不明)	5	1.8%
手帳なし	23	8.5%
不明	238	87.5%
全体	272	100.0%



属性8 介護保険のサービス利用【SA】

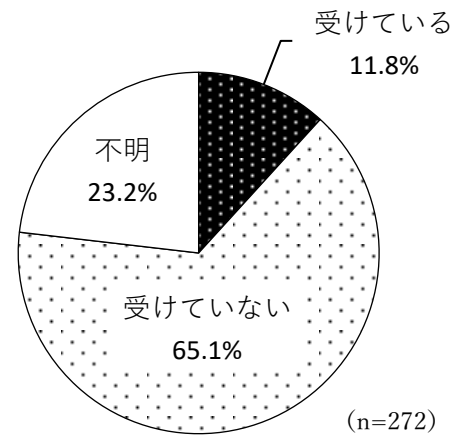
カテゴリー名	人数	%
受けている	20	7.4%
受けていない	225	82.7%
不明	27	9.9%
全体	272	100.0%



「精神障がい」調査結果

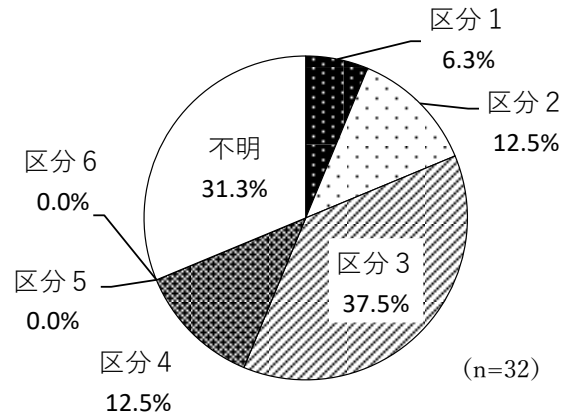
属性9 障害支援区分の認定【SA】

カテゴリー名	人数	%
受けている	32	11.8%
受けていない	177	65.1%
不明	63	23.2%
全体	272	100.0%



属性10 障害支援区分の度合い【SA】

カテゴリー名	人数	%
区分1	2	6.3%
区分2	4	12.5%
区分3	12	37.5%
区分4	4	12.5%
区分5	0	0.0%
区分6	0	0.0%
不明	10	31.3%
全体	32	100.0%



(2)生活の状況について

現在暮らしている場所について、「自宅（アパートなどを含む）」が 86.0%と最も高く、次いで「病院に入院」（9.2%）、「福祉ホームやグループホーム」（2.2%）などとなった。家族構成については、「二世帯世帯（親・子）」が 52.6%と最も高く、次いで「一人暮らし」（23.2%）、「夫婦二人暮らし」（11.8%）などとなった。

保健・医療・福祉等の連携が特に必要な障害について、指定難病の認定を受けている方が 2.2%、発達障がいと診断されたことがある方が 28.3%、強度行動障がいと診断をされたことがある方が 11.0%、高次脳機能障害と診断されたことがある方が 5.9%となっている。高次脳機能障害と診断された方に関連障がいを聞いたところ、「内部障がい（1～6以外）」が 43.8%で最も高く、次いで「音声、言語、そしゃく機能障がい」（25.0%）、「肢体不自由（下肢）」（18.8%）などとなっている。また、医療的ケアを受けている方は 23.2%で、医療ケアの内容は「服薬管理」が 76.2%で最も高く、次いで「胃ろう、腸ろう」（1.6%）となっている。

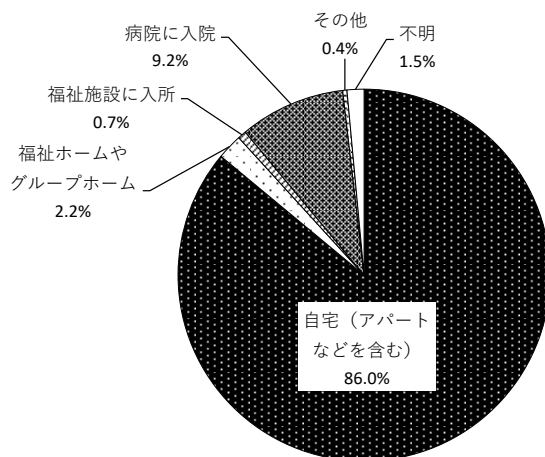
月収（年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む）は、「5万円～10万円未満」が 41.5%と最も高く、次いで「10万円～20万円未満」（32.0%）、「20万円以上」（6.6%）となり、『10万円未満』が 57.7%と過半数を占めている。また、収入がある人に主な収入源について尋ねたところ、「障がい年金（国民・厚生・共済など）」が 71.8%と最も高く 7割以上を占め、次いで「本人の就労収入（工賃を含む）」（34.4%）、「生活保護の受給」（10.8%）などとなっている。

■ 住まい【SA】

問1 あなたは現在どこで暮らしていますか。(1つだけ○印)

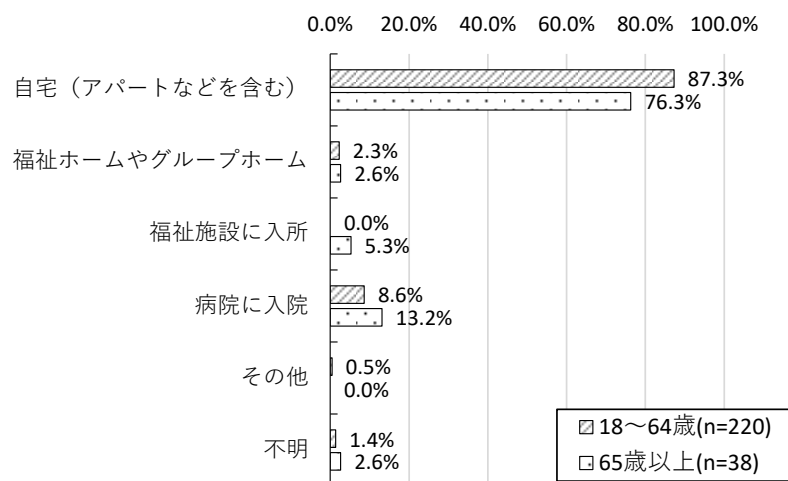
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	自宅（アパートなどを含む）	234	86.0%	192	87.3%	29	76.3%
2	福祉ホームやグループホーム	6	2.2%	5	2.3%	1	2.6%
3	福祉施設に入所	2	0.7%	0	0.0%	2	5.3%
4	病院に入院	25	9.2%	19	8.6%	5	13.2%
5	その他	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
	不明	4	1.5%	3	1.4%	1	2.6%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

住まい(全体)



(n=272)

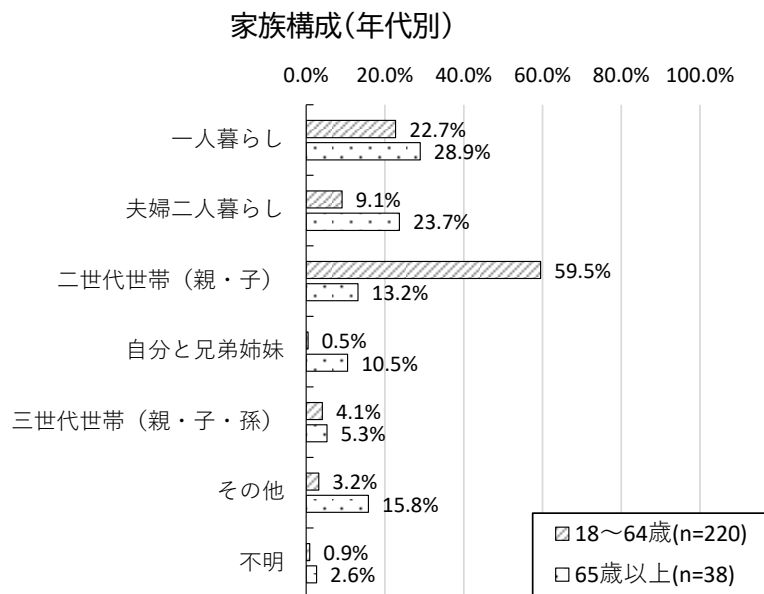
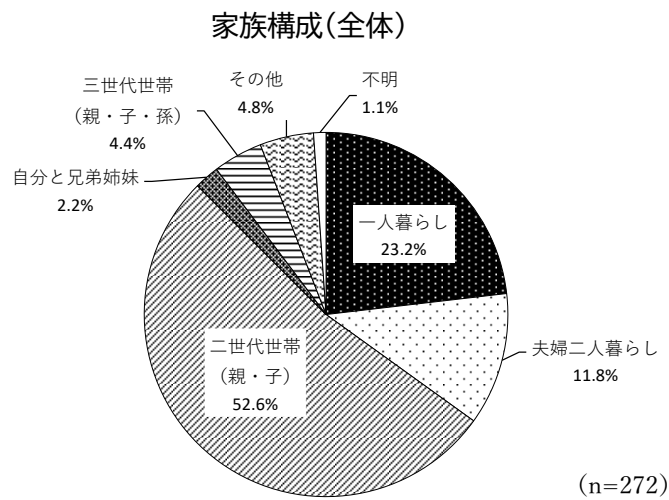
住まい(年代別)



■ 家族構成【SA】

問2 あなたの家族構成をお答えください。施設入所・入院の方は、自宅(実家)の状態をお答えください。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	一人暮らし	63	23.2%	50	22.7%	11	28.9%
2	夫婦二人暮らし	32	11.8%	20	9.1%	9	23.7%
3	二世代会世帯(親・子)	143	52.6%	131	59.5%	5	13.2%
4	自分と兄弟姉妹	6	2.2%	1	0.5%	4	10.5%
5	三世代会世帯(親・子・孫)	12	4.4%	9	4.1%	2	5.3%
6	その他	13	4.8%	7	3.2%	6	15.8%
	不明	3	1.1%	2	0.9%	1	2.6%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

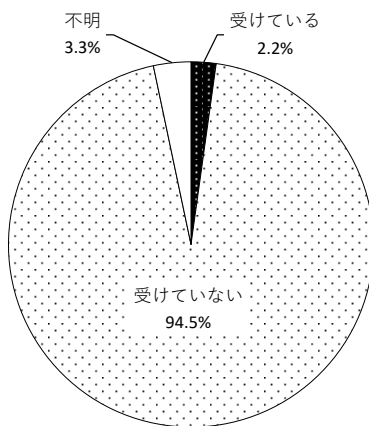


■ 指定難病の認定【SA】

問3 あなたは指定難病(※1)の認定を受けていますか。(1つだけ○印)
 ※1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。

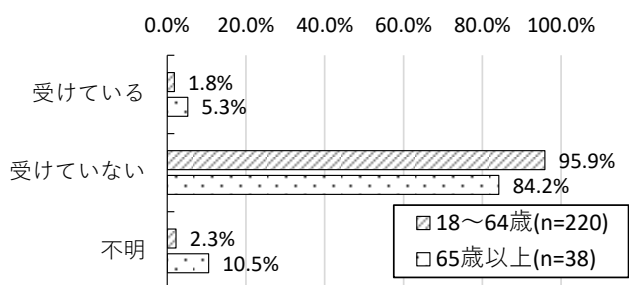
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	受けている	6	2.2%	4	1.8%	2	5.3%
2	受けていない	257	94.5%	211	95.9%	32	84.2%
	不明	9	3.3%	5	2.3%	4	10.5%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

指定難病の認定(全体)



(n=272)

指定難病の認定(年代別)

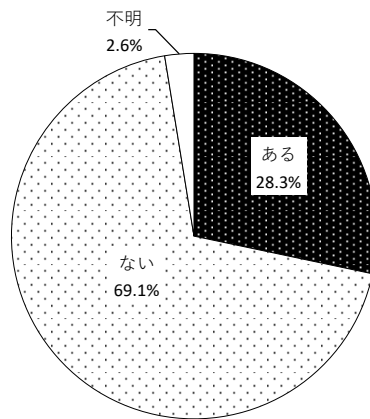


■ 発達障がいの診断【SA】

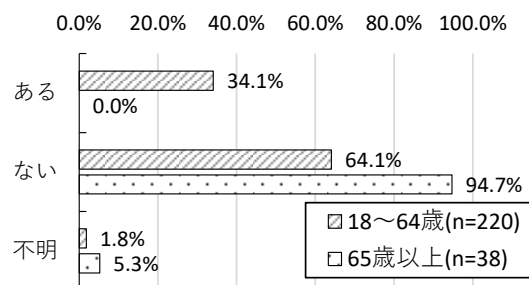
問4 あなたは発達障がい(※2)として診断されたことがありますか。(1つだけ○印)
 ※2 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	77	28.3%	75	34.1%	0	0.0%
2	ない	188	69.1%	141	64.1%	36	94.7%
	不明	7	2.6%	4	1.8%	2	5.3%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

発達障がいの診断(全体)



発達障がいの診断(年代別)



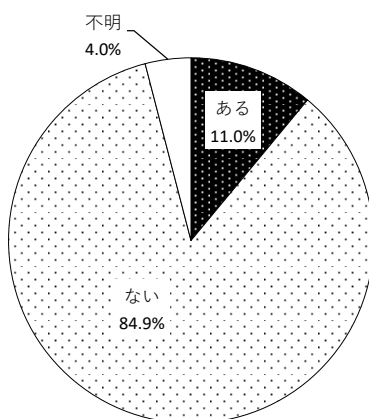
■ 強度行動障がいの診断【SA】

問5 あなたは強度行動障がい(※3)があると言われたことはありますか。(1つだけ○印)

※3 自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいいます。障がい福祉サービス等を利用し重度障がい者支援加算の対象となっている方、障がい福祉サービスの行動援護を利用している方、医師や療育機関から指摘を受けた方は「1」を選択してください。

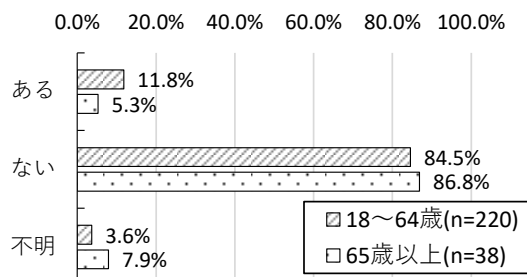
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ある	30	11.0%	26	11.8%	2	5.3%
2	ない	231	84.9%	186	84.5%	33	86.8%
	不明	11	4.0%	8	3.6%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

強度行動障がいの診断(全体)



(n=272)

強度行動障がいの診断(年代別)



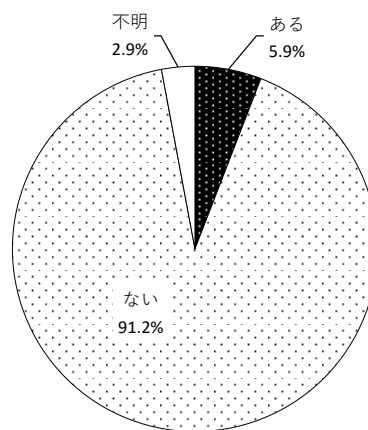
■ 高次脳機能障がいの診断【SA】

問6 あなたは高次脳機能障がい(※4)として診断されたことはありますか。(1つだけ○印)

※4 一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がい、失語などの認知障がい等を指すものとされており、具体的には「会話が上手くかみ合わない」等の症状があります。

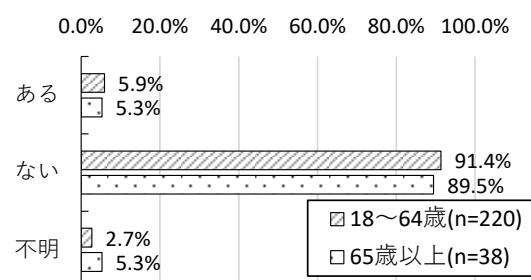
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ある	16	5.9%	13	5.9%	2	5.3%
2	ない	248	91.2%	201	91.4%	34	89.5%
	不明	8	2.9%	6	2.7%	2	5.3%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

高次脳機能障がいの診断(全体)



(n=272)

高次脳機能障がいの診断(年代別)

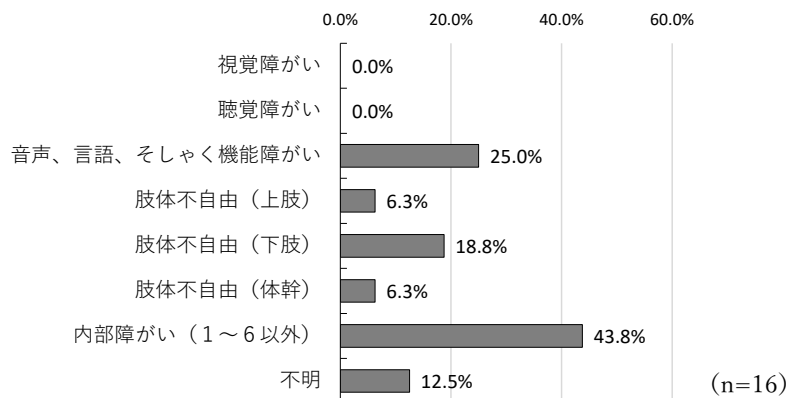


■ 高次脳機能障がいの関連障がい【MA】

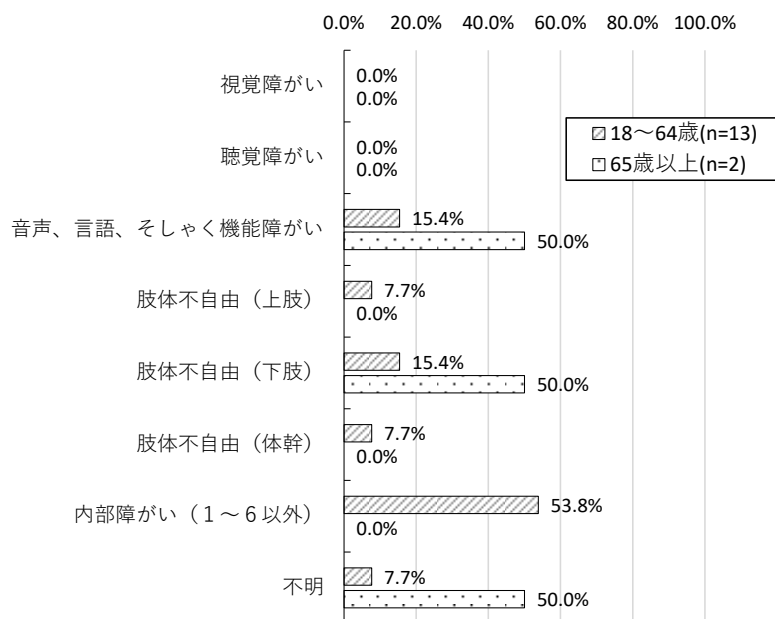
問7 問6で「1」を回答した方におたずねします。その関連障がいは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	視覚障がい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	聴覚障がい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	音声、言語、そしゃく機能障がい	4	25.0%	2	15.4%	1	50.0%
4	肢体不自由（上肢）	1	6.3%	1	7.7%	0	0.0%
5	肢体不自由（下肢）	3	18.8%	2	15.4%	1	50.0%
6	肢体不自由（体幹）	1	6.3%	1	7.7%	0	0.0%
7	内部障がい（1～6以外）	7	43.8%	7	53.8%	0	0.0%
	不明	2	12.5%	1	7.7%	1	50.0%
	全体	16	100.0%	13	100.0%	2	100.0%

高次脳機能障がいの関連障がい(全体)



高次脳機能障がいの関連障がい(年代別)

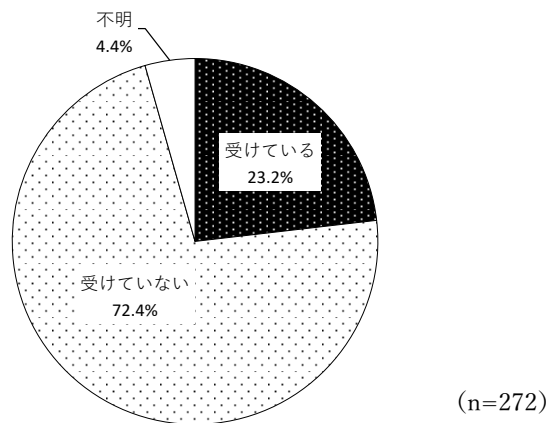


■ 医療的ケアの有無【SA】

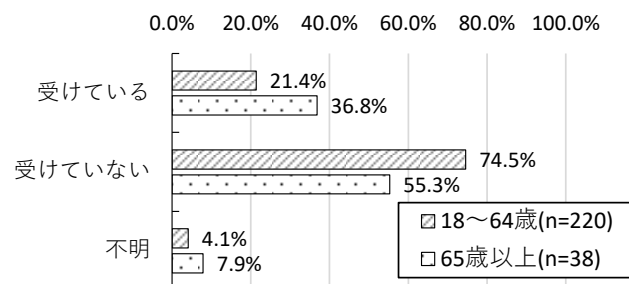
問8 あなたは現在医療的ケアを受けていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	受けている	63	23.2%	47	21.4%	14	36.8%
2	受けていない	197	72.4%	164	74.5%	21	55.3%
	不明	12	4.4%	9	4.1%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

医療的ケアの有無(全体)



医療的ケアの有無(年代別)

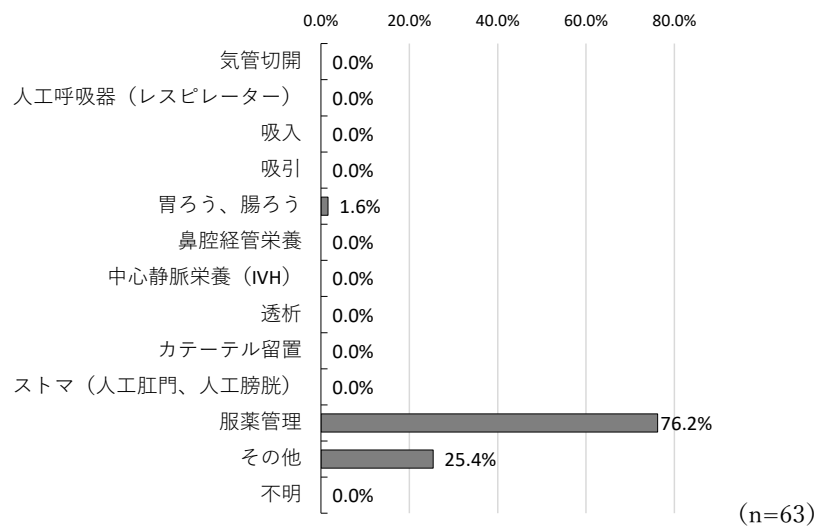


■ 医療的ケアの内容【MA】

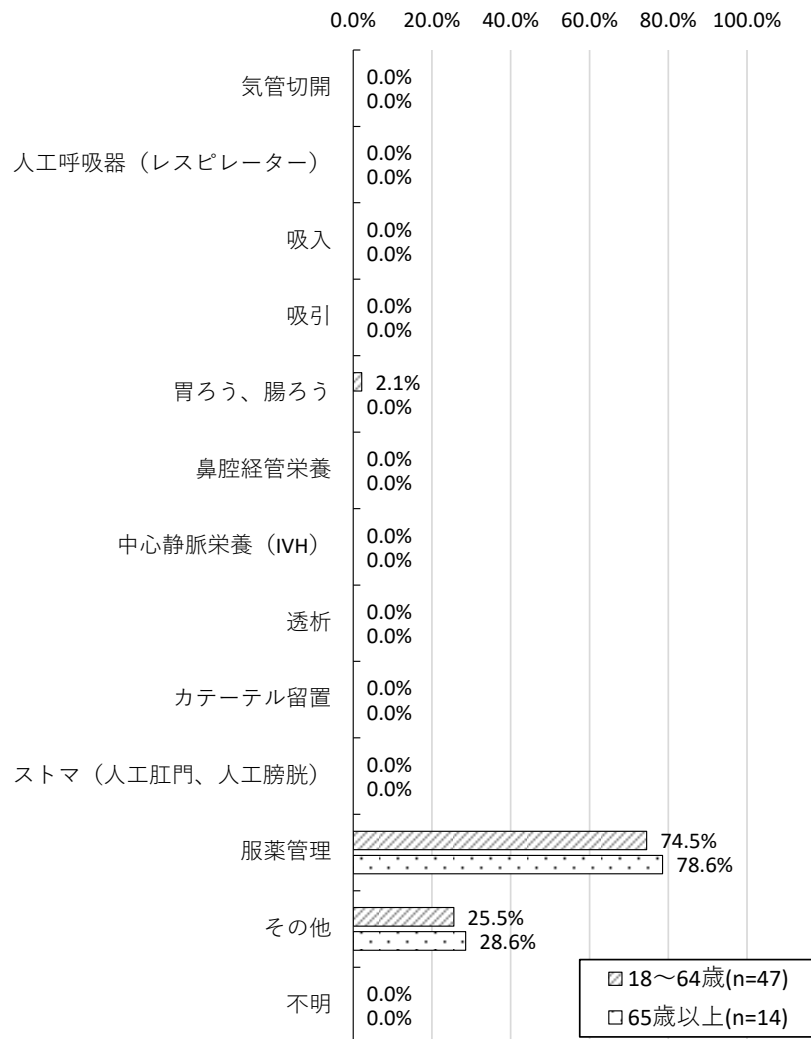
問9 問8で「1」を回答した方におたずねします。受けている医療的ケアは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	気管切開	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	人工呼吸器（レスピレーター）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	吸入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	吸引	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	胃ろう、腸ろう	1	1.6%	1	2.1%	0	0.0%
6	鼻腔経管栄養	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	中心静脈栄養（IVH）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8	透析	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	カテーテル留置	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	ストマ（人工肛門、人工膀胱）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	服薬管理	48	76.2%	35	74.5%	11	78.6%
12	その他	16	25.4%	12	25.5%	4	28.6%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	63	100.0%	47	100.0%	14	100.0%

医療的ケアの内容(全体)



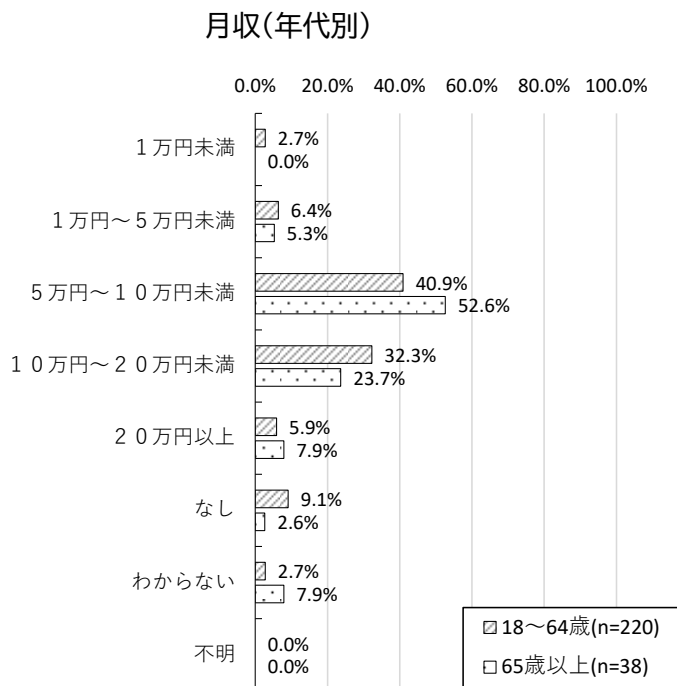
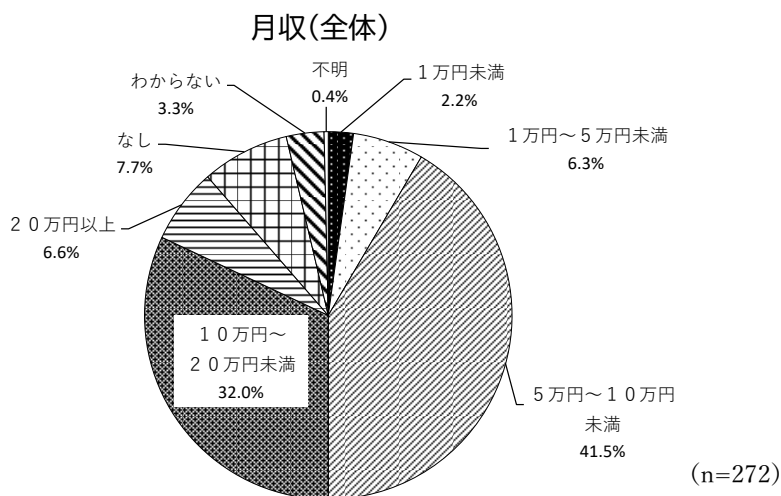
医療的ケアの内容(年代別)



■ 月収【SA】

問10 あなたの月収は(年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む)どのくらいですか。税や社会保険料等控除前の額をお答えください。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	1万円未満	6	2.2%	6	2.7%	0	0.0%
2	1万円～5万円未満	17	6.3%	14	6.4%	2	5.3%
3	5万円～10万円未満	113	41.5%	90	40.9%	20	52.6%
4	10万円～20万円未満	87	32.0%	71	32.3%	9	23.7%
5	20万円以上	18	6.6%	13	5.9%	3	7.9%
6	なし	21	7.7%	20	9.1%	1	2.6%
7	わからない	9	3.3%	6	2.7%	3	7.9%
	不明	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

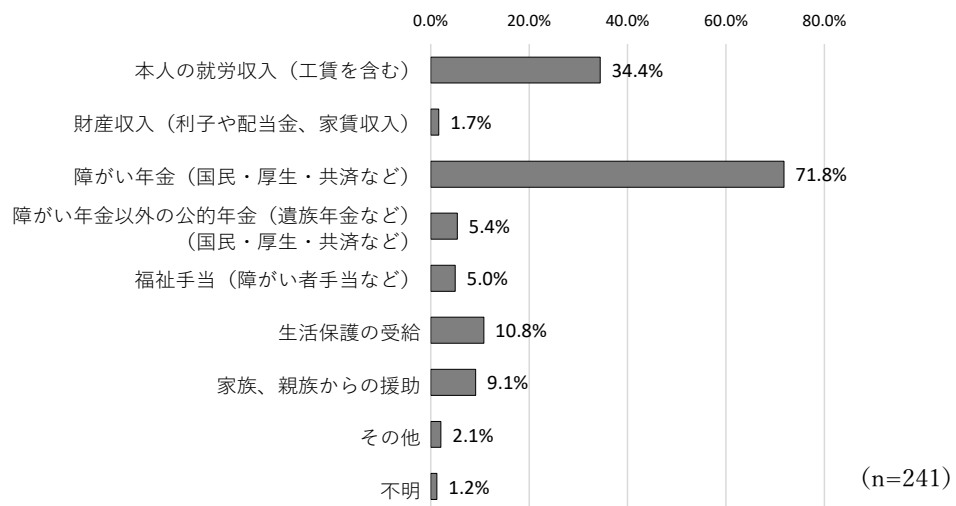


■ 収入源【MA】

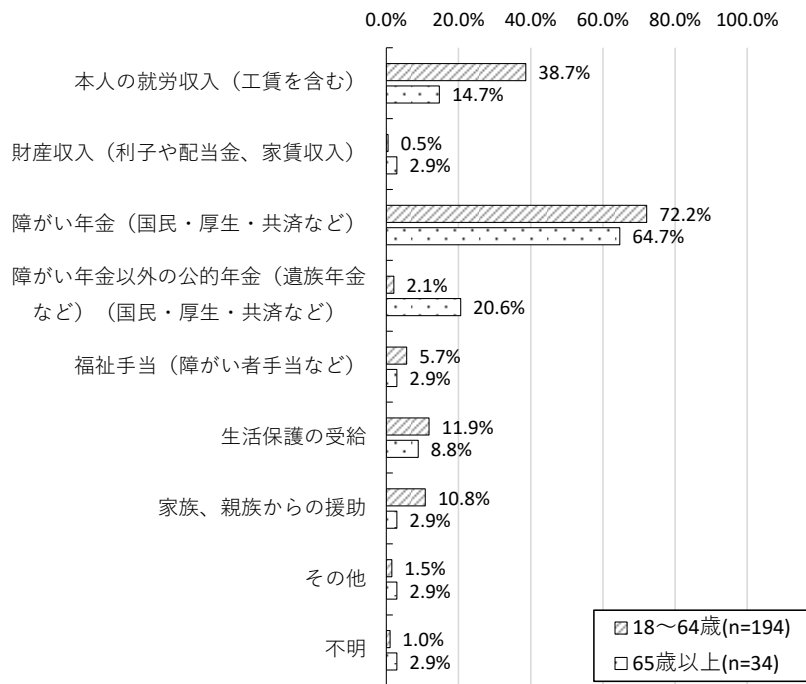
問11 問 10 で「1～5」を回答した方におたずねします。あなたの主な収入源はどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	本人の就労収入（工賃を含む）	83	34.4%	75	38.7%	5	14.7%
2	財産収入（利子や配当金、家賃収入）	4	1.7%	1	0.5%	1	2.9%
3	障がい年金（国民・厚生・共済など）	173	71.8%	140	72.2%	22	64.7%
4	障がい年金以外の公的年金（遺族年金など）（国民・厚生・共済など）	13	5.4%	4	2.1%	7	20.6%
5	福祉手当（障がい者手当など）	12	5.0%	11	5.7%	1	2.9%
6	生活保護の受給	26	10.8%	23	11.9%	3	8.8%
7	家族、親族からの援助	22	9.1%	21	10.8%	1	2.9%
8	その他	5	2.1%	3	1.5%	1	2.9%
	不明	3	1.2%	2	1.0%	1	2.9%
	全体	241	100.0%	194	100.0%	34	100.0%

収入源(全体)



収入源(年代別)



(3)障がいの状況について

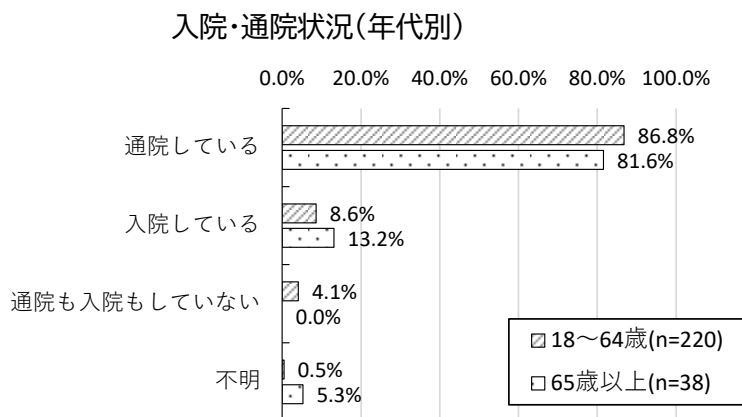
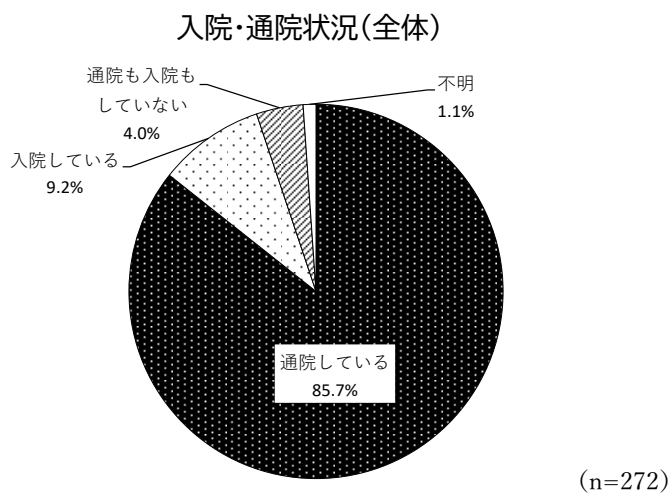
現在の精神科・神経科などへの入院・通院の状況は、「通院している」が85.7%と最も高く8割以上を占め、次いで「入院している」(9.2%)、「通院も入院もしていない」(4.0%) などとなっている。通院している人に通院頻度を尋ねたところ、「月1回程度」が62.7%と最も高く、次いで、「2か月～5か月に1回程度」(16.3%)、「2～3週間に1回程度」(12.4%) となった。また、入院している人に退院できる条件を尋ねたところ、「病気が良くなること」が52.0%と最も高く、次いで「退院後の生活の支援をしてもらえること」(36.0%)、「家族の受け入れ準備が整うこと」(24.0%) などとなっている。

初めて病院に通院してから、病気（精神障がい）を自分で受け入れられるまでの期間は、「初診からまもなく」が30.9%と最も高く、次いで「1年以内」「10年以上」（ともに12.1%）、「10年以内」(11.4%) となった。

■ 入院・通院状況【SA】

問12 現在の精神科・神経科などへの入院・通院の状況をお答えください。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	通院している	233	85.7%	191	86.8%	31	81.6%
2	入院している	25	9.2%	19	8.6%	5	13.2%
3	通院も入院もしていない	11	4.0%	9	4.1%	0	0.0%
	不明	3	1.1%	1	0.5%	2	5.3%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

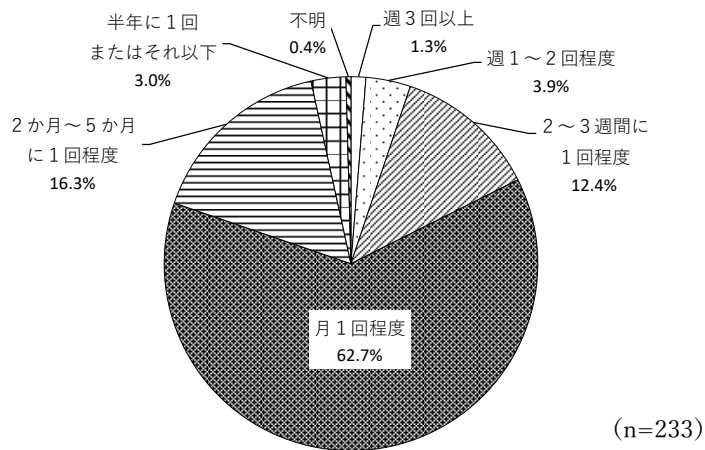


■ 通院頻度【SA】

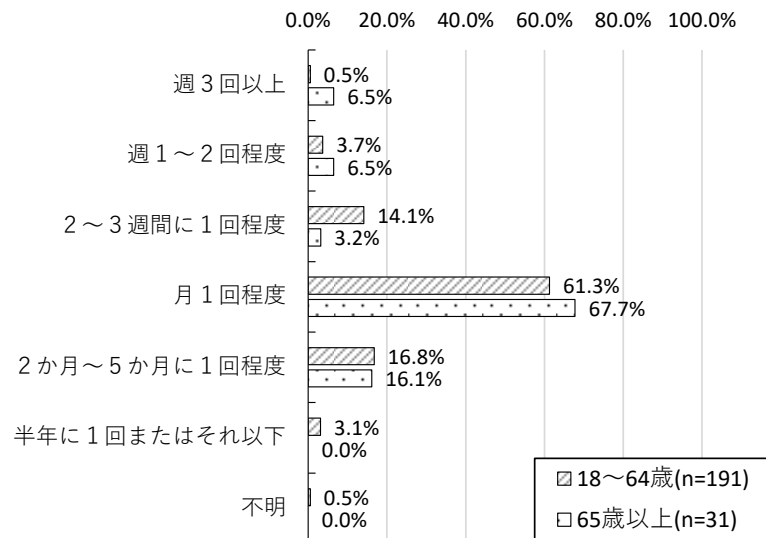
問13 問12で「1」を回答した方におたずねします。あなたの通院の頻度はどのくらいですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	週3回以上	3	1.3%	1	0.5%	2	6.5%
2	週1～2回程度	9	3.9%	7	3.7%	2	6.5%
3	2～3週間に1回程度	29	12.4%	27	14.1%	1	3.2%
4	月1回程度	146	62.7%	117	61.3%	21	67.7%
5	2か月～5か月に1回程度	38	16.3%	32	16.8%	5	16.1%
6	半年に1回またはそれ以下	7	3.0%	6	3.1%	0	0.0%
	不明	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
	全体	233	100.0%	191	100.0%	31	100.0%

通院頻度(全体)



通院頻度(年代別)

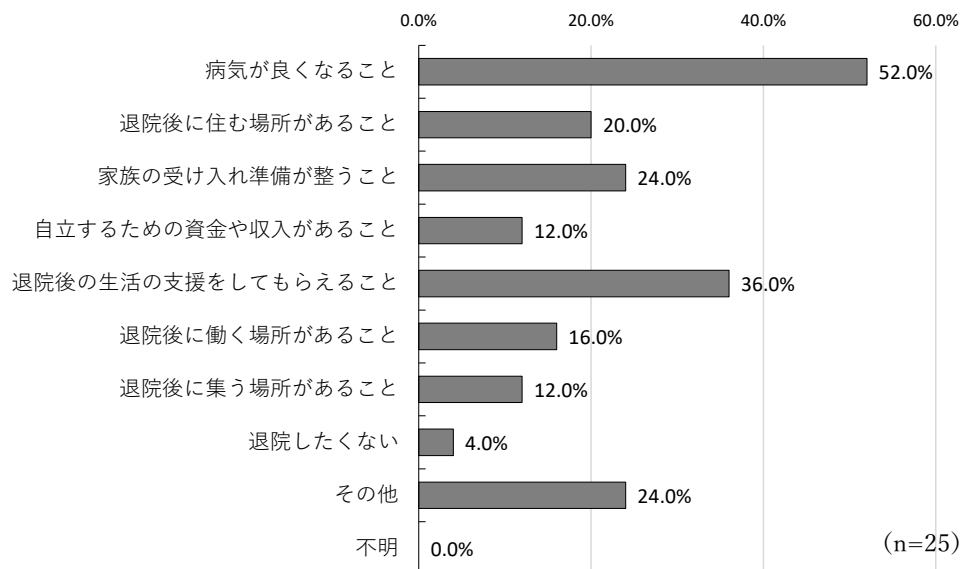


■ 退院可能な条件【MA】

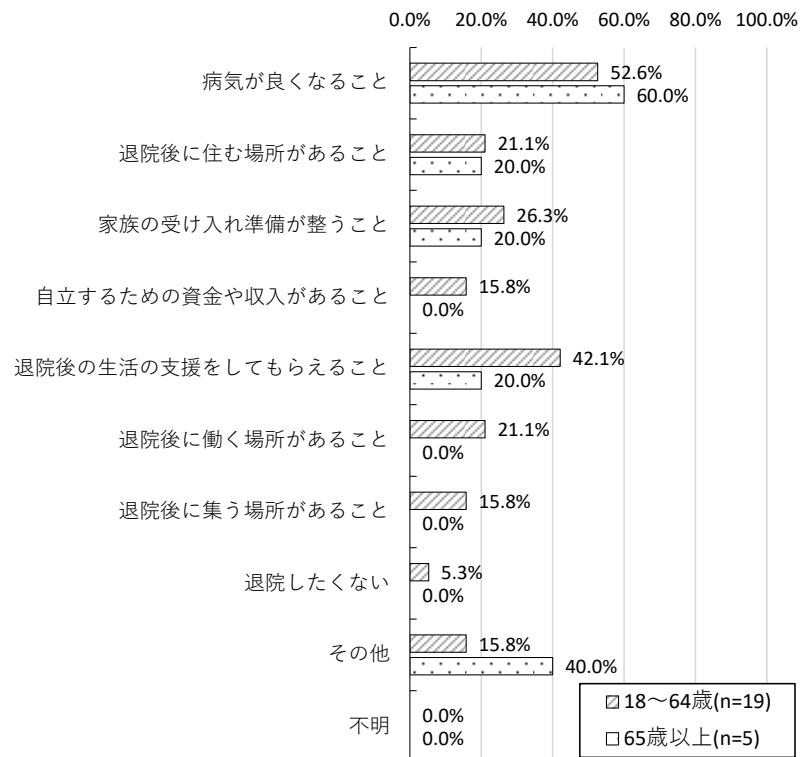
問14 問 12 で「2」を回答した方におたずねします。どんな条件が整えば退院できると思いますか。
 (あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	病気が良くなること	13	52.0%	10	52.6%	3	60.0%
2	退院後に住む場所があること	5	20.0%	4	21.1%	1	20.0%
3	家族の受け入れ準備が整うこと	6	24.0%	5	26.3%	1	20.0%
4	自立するための資金や収入があること	3	12.0%	3	15.8%	0	0.0%
5	退院後の生活の支援をしてもらえること	9	36.0%	8	42.1%	1	20.0%
6	退院後に働く場所があること	4	16.0%	4	21.1%	0	0.0%
7	退院後に集う場所があること	3	12.0%	3	15.8%	0	0.0%
8	退院したくない	1	4.0%	1	5.3%	0	0.0%
9	その他	6	24.0%	3	15.8%	2	40.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	25	100.0%	19	100.0%	5	100.0%

退院可能な条件(全体)



退院可能な条件(年代別)

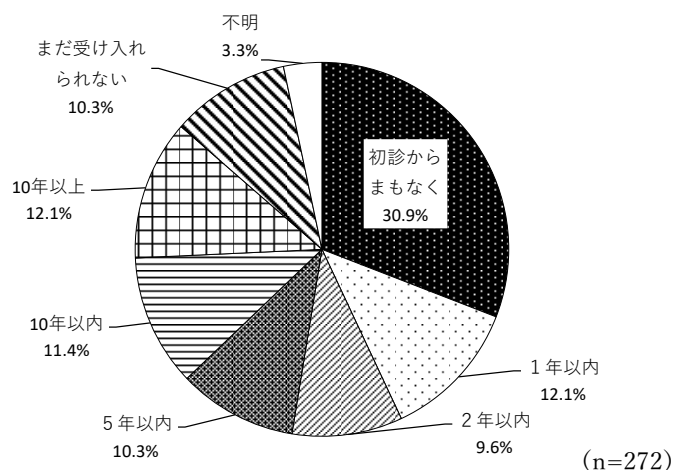


■ 病気(精神障がい)を受け入れるまでの期間【SA】

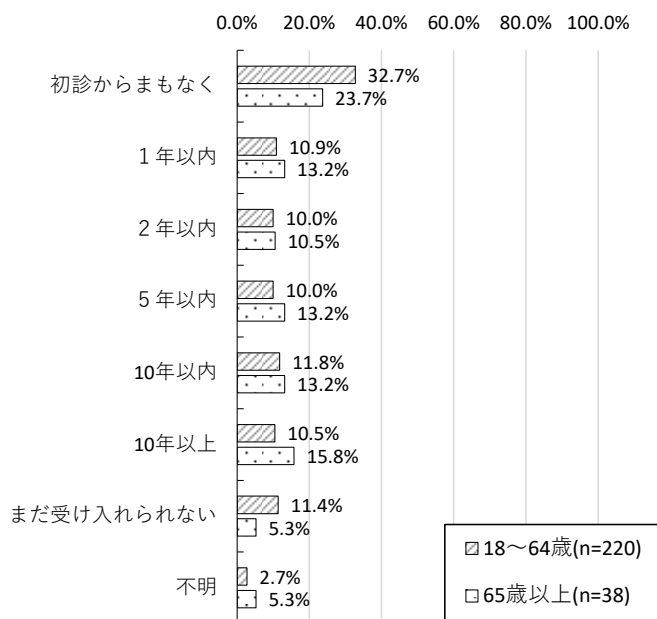
問15 初めて病院に通院してから、病気(精神障がい)を自分で受け入れられるまで、どのくらいの期間がかかりましたか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	初診からまもなく	84	30.9%	72	32.7%	9	23.7%
2	1年以内	33	12.1%	24	10.9%	5	13.2%
3	2年以内	26	9.6%	22	10.0%	4	10.5%
4	5年以内	28	10.3%	22	10.0%	5	13.2%
5	10年以内	31	11.4%	26	11.8%	5	13.2%
6	10年以上	33	12.1%	23	10.5%	6	15.8%
7	まだ受け入れられない	28	10.3%	25	11.4%	2	5.3%
	不明	9	3.3%	6	2.7%	2	5.3%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

病気(精神障がい)を受け入れるまでの期間(全体)



病気(精神障がい)を受け入れるまでの期間(年代別)



(4)日常生活について

普段の生活の中で困っていることは、「収入」が50.7%と半数以上を占めて最も高く、次いで「健康」(48.5%)、「人とのコミュニケーション、情報入手」(43.4%)などとなっている。

ヘルプカードの認知状況については、「知らない」(51.8%)が「知っている」(46.7%)を5.1ポイント上回っている。

日常生活で少しでも介助や支援が必要なことは、「掃除・片付け」が33.8%と最も高く、次いで「食事づくり」(33.1%)、「人とのコミュニケーション」(28.7%)などとなっている。一方、「ない」とする回答は30.9%であった。日常生活の中で少しでも介助や支援が必要があると回答した人に、主な介助者について尋ねたところ、「母」が30.5%と最も高く、次いで「配偶者」(18.1%)、「ホームヘルパー・施設職員」(10.7%)などとなっている。また、介助者の健康状態については、「普通」が44.7%と最も高くなったが、「高齢で健康状態に不安がある」(15.8%)、「具合が悪く病気の治療中である」(14.0%)、「病気がちである」(6.1%)と、健康状態に不安を抱える人も3割以上を占めている。

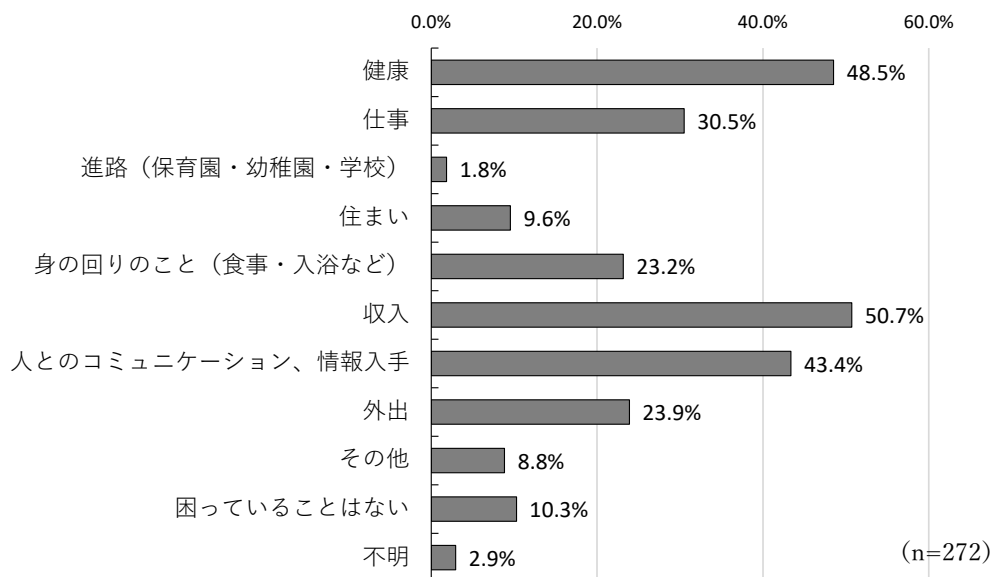
- ◎ ヘルプカードの認知状況について、前回調査と比べて「知っている」との回答が20ポイント以上上昇(17.8%→46.7%)しており、認知が進んだといえる。
- ◎ 障がい者自身の健康が一定数以上、困りごととして挙げられている一方で、主な介助者である家族の高齢化や健康状態が将来の不安要素となっている状況も見て取れる。

■ 困りごと【MA】

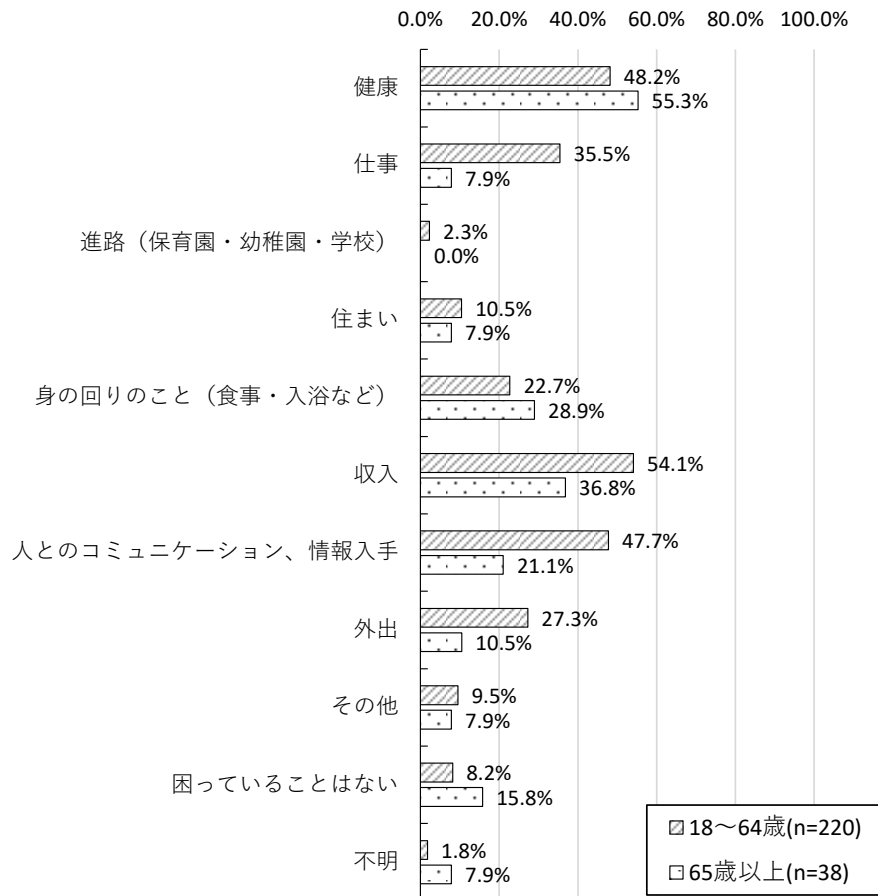
問 16 普段の生活の中で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	健康	132	48.5%	106	48.2%	21	55.3%
2	仕事	83	30.5%	78	35.5%	3	7.9%
3	進路（保育園・幼稚園・学校）	5	1.8%	5	2.3%	0	0.0%
4	住まい	26	9.6%	23	10.5%	3	7.9%
5	身の回りのこと（食事・入浴など）	63	23.2%	50	22.7%	11	28.9%
6	収入	138	50.7%	119	54.1%	14	36.8%
7	人とのコミュニケーション、情報入手	118	43.4%	105	47.7%	8	21.1%
8	外出	65	23.9%	60	27.3%	4	10.5%
9	その他	24	8.8%	21	9.5%	3	7.9%
10	困っていることはない	28	10.3%	18	8.2%	6	15.8%
	不明	8	2.9%	4	1.8%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

困りごと(全体)



困りごと(年代別)

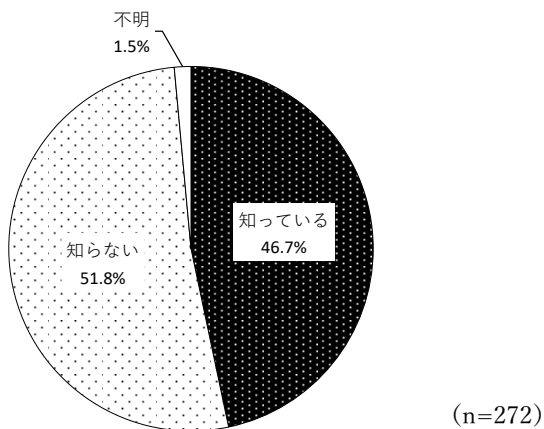


■ ヘルプカードの認知状況【SA】

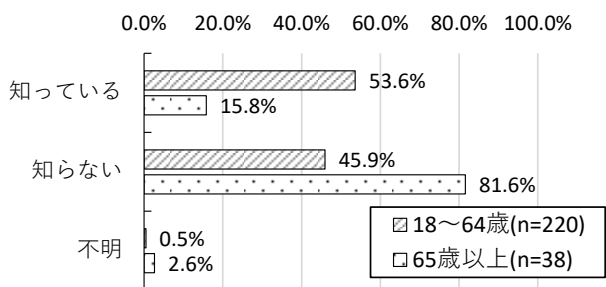
問 17 あなたはヘルプカードを知っていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	127	46.7%	118	53.6%	6	15.8%
2	知らない	141	51.8%	101	45.9%	31	81.6%
	不明	4	1.5%	1	0.5%	1	2.6%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

ヘルプカードの認知状況(全体)



ヘルプカードの認知状況(年代別)

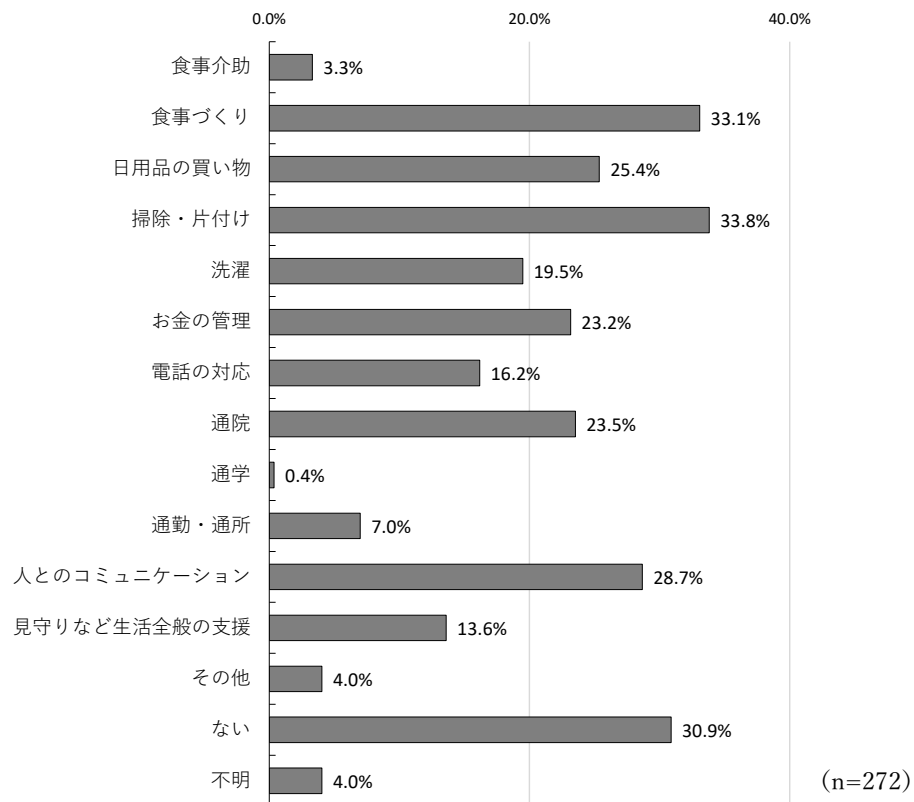


■ 介助や支援のニーズ【MA】

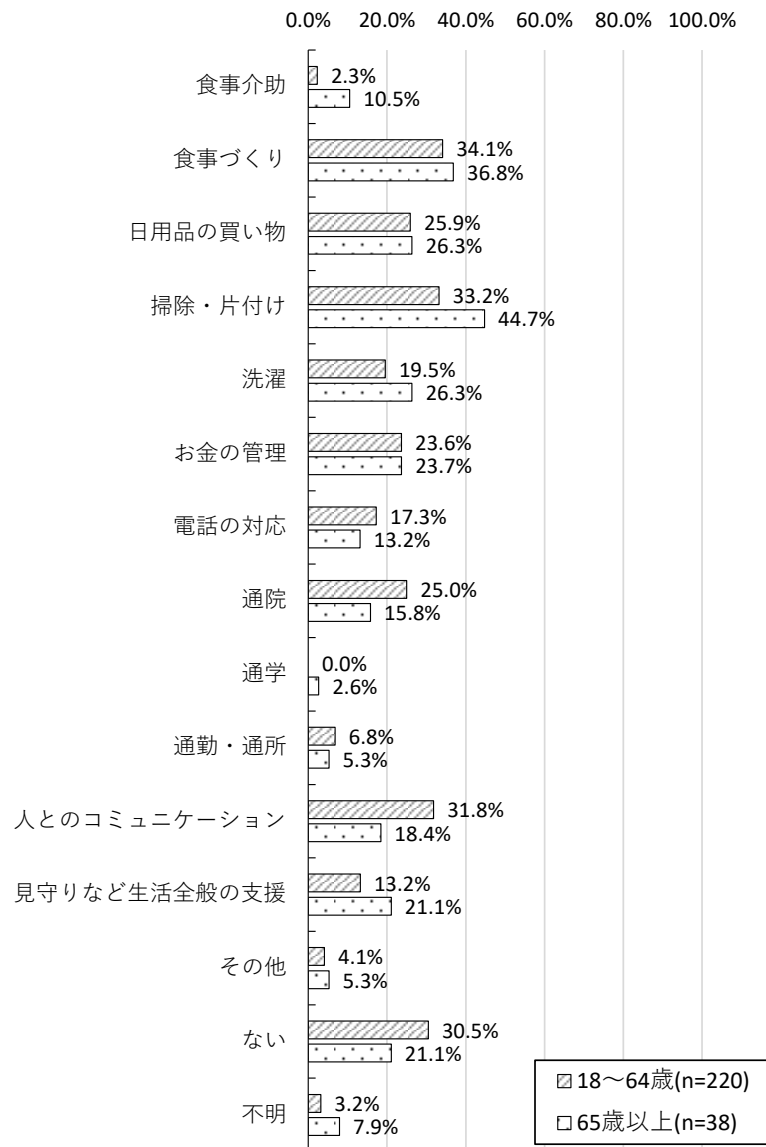
問 18 日常生活で少しでも介助や支援が必要なことがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	食事介助	9	3.3%	5	2.3%	4	10.5%
2	食事づくり	90	33.1%	75	34.1%	14	36.8%
3	日用品の買い物	69	25.4%	57	25.9%	10	26.3%
4	掃除・片付け	92	33.8%	73	33.2%	17	44.7%
5	洗濯	53	19.5%	43	19.5%	10	26.3%
6	お金の管理	63	23.2%	52	23.6%	9	23.7%
7	電話の対応	44	16.2%	38	17.3%	5	13.2%
8	通院	64	23.5%	55	25.0%	6	15.8%
9	通学	1	0.4%	0	0.0%	1	2.6%
10	通勤・通所	19	7.0%	15	6.8%	2	5.3%
11	人とのコミュニケーション	78	28.7%	70	31.8%	7	18.4%
12	見守りなど生活全般の支援	37	13.6%	29	13.2%	8	21.1%
13	その他	11	4.0%	9	4.1%	2	5.3%
14	ない	84	30.9%	67	30.5%	8	21.1%
	不明	11	4.0%	7	3.2%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

介助や支援のニーズ(全体)



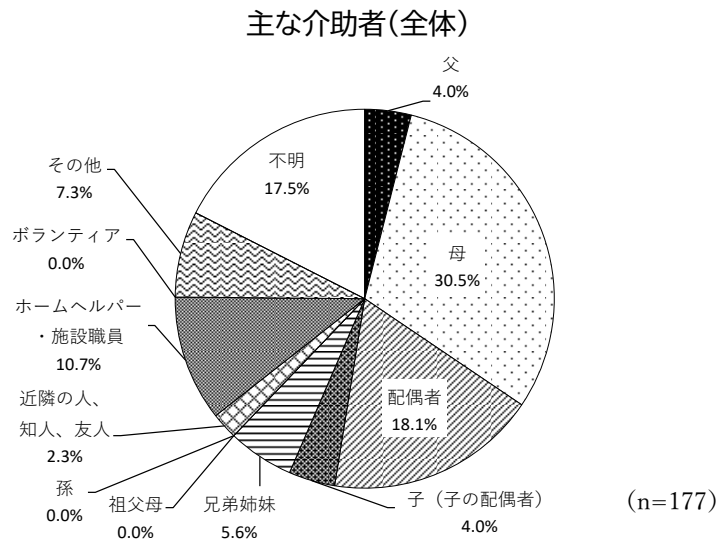
介助や支援のニーズ(年代別)



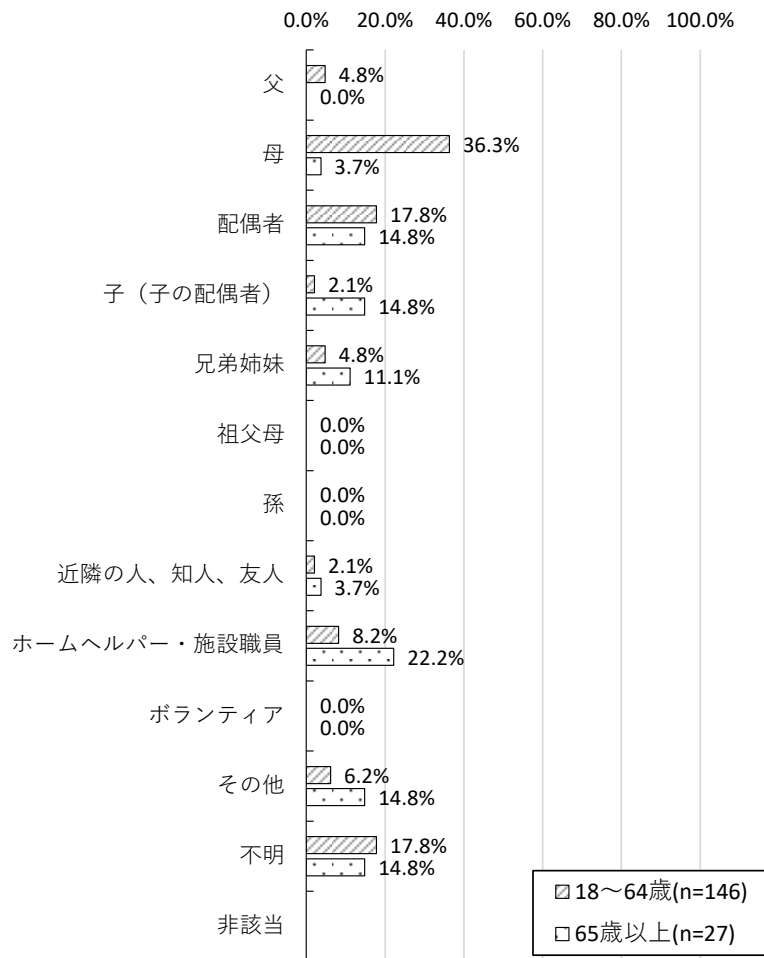
■ 主な介助者【SA】

問19 問18で「1～13」を回答した方におたずねします。あなたを介助している方(介助者)はどなたですか。(主な介助者に1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	父	7	4.0%	7	4.8%	0	0.0%
2	母	54	30.5%	53	36.3%	1	3.7%
3	配偶者	32	18.1%	26	17.8%	4	14.8%
4	子(子の配偶者)	7	4.0%	3	2.1%	4	14.8%
5	兄弟姉妹	10	5.6%	7	4.8%	3	11.1%
6	祖父母	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	孫	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8	近隣の人、知人、友人	4	2.3%	3	2.1%	1	3.7%
9	ホームヘルパー・施設職員	19	10.7%	12	8.2%	6	22.2%
10	ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	その他	13	7.3%	9	6.2%	4	14.8%
	不明	31	17.5%	26	17.8%	4	14.8%
	全体	177	100.0%	146	100.0%	27	100.0%



主な介助者(年代別)

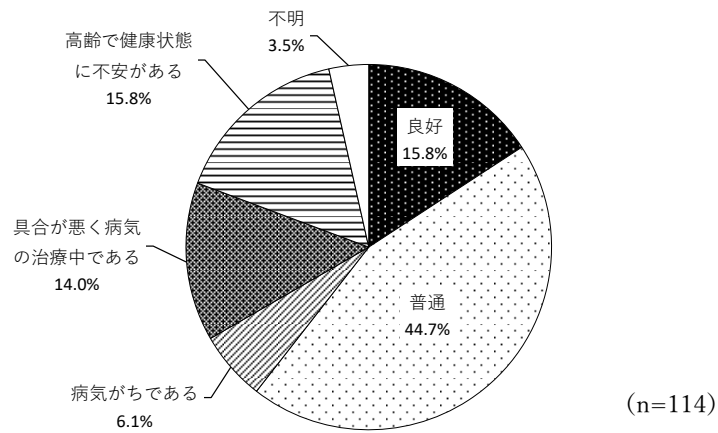


■ 介助者の健康状態【SA】

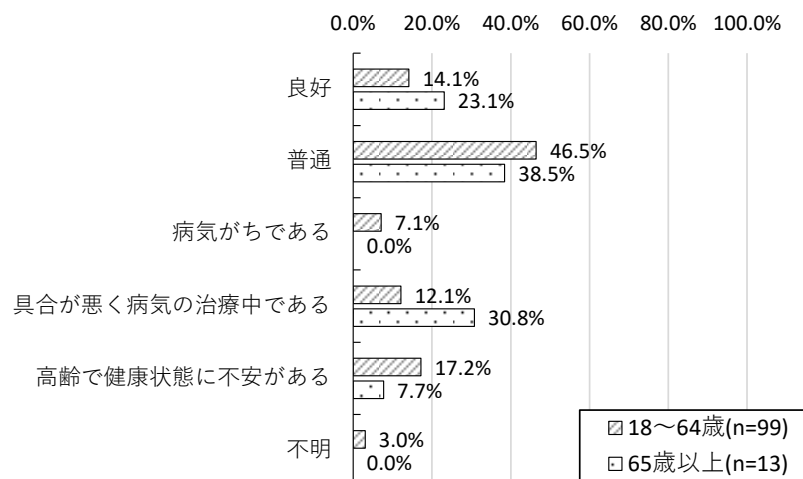
問20 問19で「1～8」を回答した方におたずねします。主な介助者の健康状態はいかがですか。
(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	良好	18	15.8%	14	14.1%	3	23.1%
2	普通	51	44.7%	46	46.5%	5	38.5%
3	病気がちである	7	6.1%	7	7.1%	0	0.0%
4	具合が悪く病気の治療中である	16	14.0%	12	12.1%	4	30.8%
5	高齢で健康状態に不安がある	18	15.8%	17	17.2%	1	7.7%
	不明	4	3.5%	3	3.0%	0	0.0%
	全体	114	100.0%	99	100.0%	13	100.0%

介助者の健康状態(全体)



介助者の健康状態(年代別)



(5)福祉サービスについて

福祉サービスの中で知っているサービスを聞いたところ、「生活介護（デイサービス）」が 40.8%と最も高く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」(38.2%)、「短期入所（ショートステイ）」(31.3%)、「共同生活援助（グループホーム）」(30.9%)と続いた。利用したことがあるサービスは、「就労継続支援B型（非雇用型）」が 13.6%と最も高く、次いで「就労移行支援」(11.8%)、「生活介護（デイサービス）」(6.6%)などとなっている。また、今後利用したいサービスは、「共同生活援助（グループホーム）」が 5.1%と最も高く、次いで「施設入所」「就労継続支援A型（雇用型）」「就労定着支援」（いずれも 4.4%）、「生活介護（デイサービス）」(3.7%)などとなった。

次に、福祉制度の中で知っている制度を聞いたところ、「福祉タクシー券・給油券の交付」が 48.2%と最も高く、次いで「デイケア」(40.1%)、「訪問看護」「自立支援医療（精神通院）の給付」（ともに 36.0%）などが続いた。利用したことがある制度では、「福祉タクシー券・給油券の交付」が 63.6%で最も高く、次いで「自立支援医療（精神通院）の給付」(49.3%)、「ハローワークでの職業相談」(33.1%)などとなっている。また、今後利用したい制度では、「税金の障がい者控除」が 12.9%で最も高く、次いで「NHK 受信料の減免」(12.1%)、「福祉タクシー券・給油券の交付」(11.4%)などとなっている。

障がい者入所施設等からの地域移行について聞いたところ、「地域移行して、地域で生活したい（した方がよい）」(25.4%)が「地域移行したくない（しない方がよい）」(11.0%)を 14.4 ポイント上回った。一方、「どちらとも言えない」と決めかねている方は 50.4%と過半数を占める。

山形市内の精神障がい者グループホームについて聞いたところ、グループホームの数は「ちょうど良い」(25.7%)が「不足している」(11.4%)を 14.3 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 47.4%と最も高くなっている。また、グループホームの定員数は「ちょうど良い」(28.7%)が「不足している」(5.9%)を 22.8 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 48.2%と最も高くなっている。

山形市内の精神障がい福祉サービス通所事業所について、精神障がい者通所事業所の数は「ちょうど良い」(32.0%)が「不足している」(10.7%)を 21.3 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 40.4%と最も高くなっている。また、精神障がい者通所事業所の定員数は「ちょうど良い」(33.1%)が「不足している」(8.1%)を 25.0 ポイント上回った。一方、全体では「その他」が 41.5%と最も高くなっている。

- ◎ 障がいのある人の地域における自立した生活を支援するうえで福祉サービスや福祉制度の充実
は不可欠である。アンケートによれば、福祉サービスについて、近年新設された「就労定着支
援」は今後利用したいとする回答者が 10 人以上いる福祉サービスの中で、知っているとする回
答の割合が 1 割前後となっている。また、福祉制度について、「税金の障がい者控除」は今後利
用したいとする回答者が 30 人以上いる福祉制度の中で、知っているとする回答の割合が 2 割
前後となっている。両者ともに、該当項目はニーズに対して、認知度が低い状況にあると考え
られ、周知の強化が求められる。

- ◎ グループホームについて、施設数、定員数ともに概ね充足が認められるものの、時期や条件によっては障がいの方が利用できていないとする状況もみられる。また、障がい者通所事業所についても、同様に事業所数、定員数ともに概ね充足が認められるものの、作業内容や多様な障がいへの対応度合いなどに改善が望まれている状況もうかがえる。

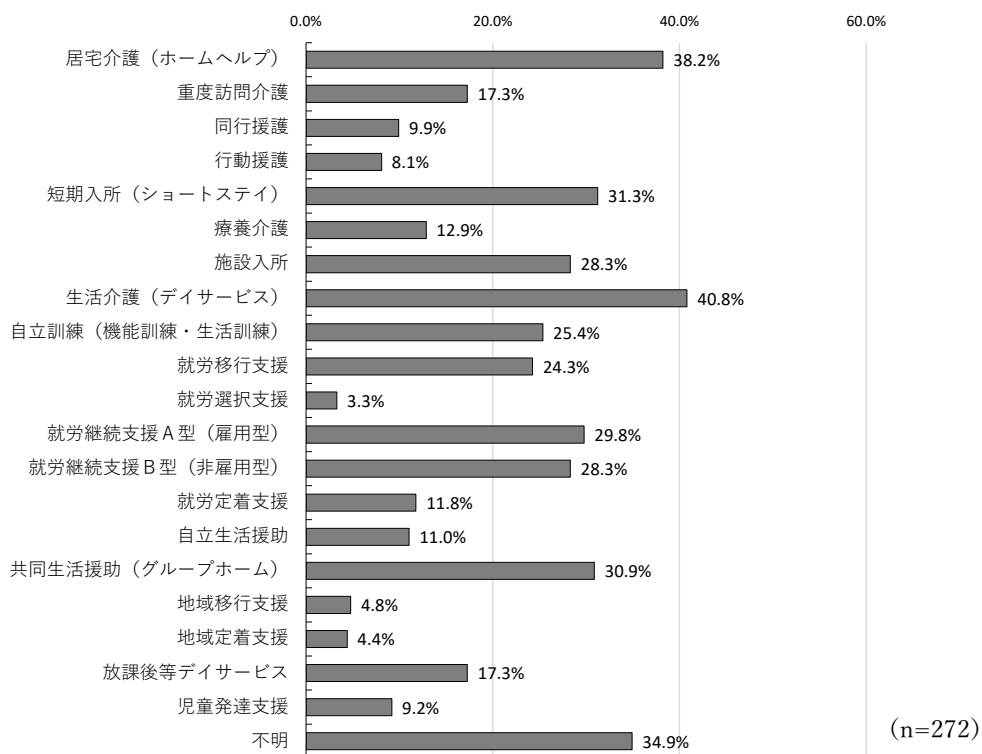
■ 福祉サービス

問21 次にあげた障がい者、障がい児の福祉サービスの中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ものはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

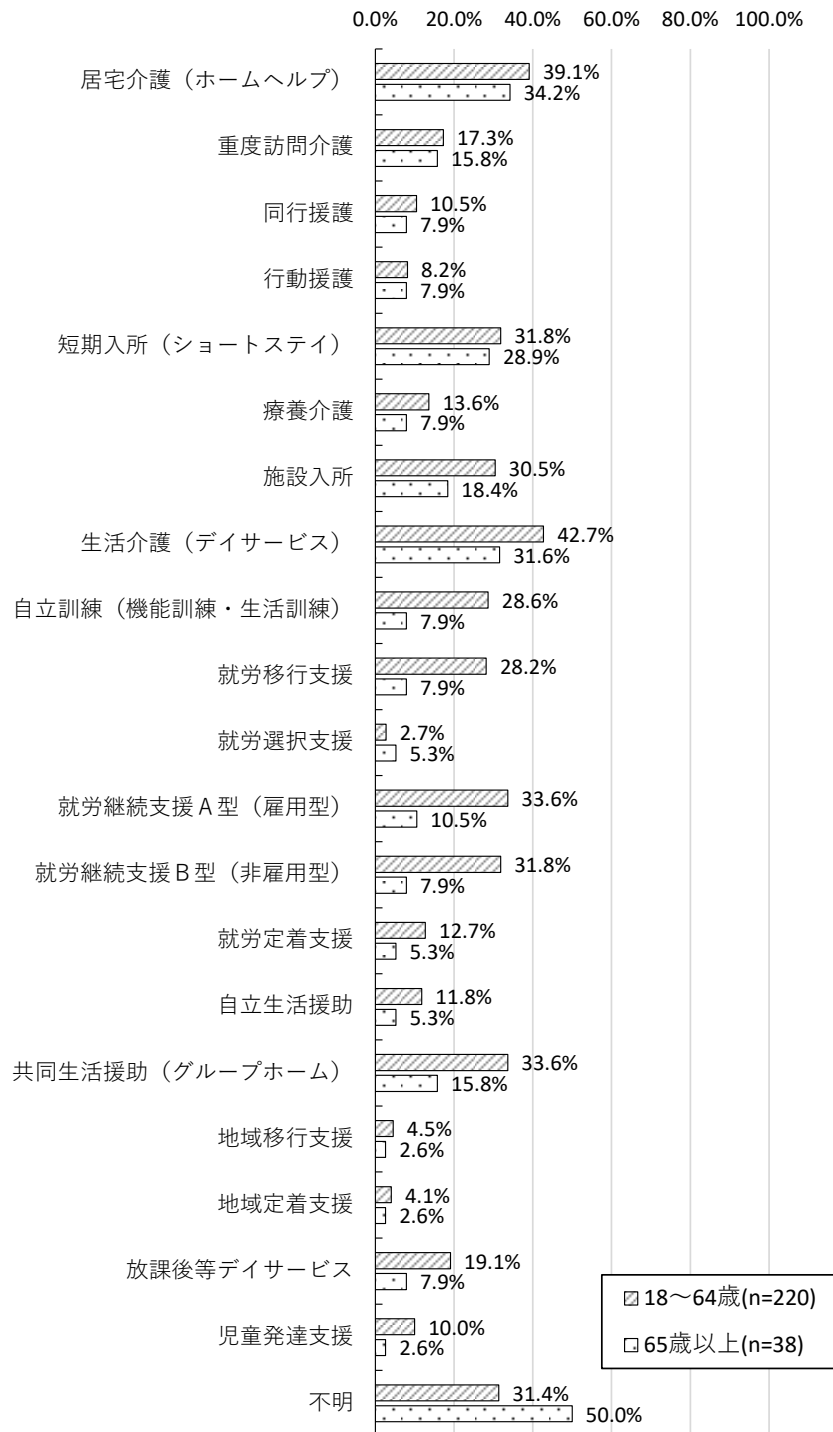
○ 知っている福祉サービス【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	104	38.2%	86	39.1%	13	34.2%
2	重度訪問介護	47	17.3%	38	17.3%	6	15.8%
3	同行援護	27	9.9%	23	10.5%	3	7.9%
4	行動援護	22	8.1%	18	8.2%	3	7.9%
5	短期入所（ショートステイ）	85	31.3%	70	31.8%	11	28.9%
6	療養介護	35	12.9%	30	13.6%	3	7.9%
7	施設入所	77	28.3%	67	30.5%	7	18.4%
8	生活介護（デイサービス）	111	40.8%	94	42.7%	12	31.6%
9	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	69	25.4%	63	28.6%	3	7.9%
10	就労移行支援	66	24.3%	62	28.2%	3	7.9%
11	就労選択支援	9	3.3%	6	2.7%	2	5.3%
12	就労継続支援A型（雇用型）	81	29.8%	74	33.6%	4	10.5%
13	就労継続支援B型（非雇用型）	77	28.3%	70	31.8%	3	7.9%
14	就労定着支援	32	11.8%	28	12.7%	2	5.3%
15	自立生活援助	30	11.0%	26	11.8%	2	5.3%
16	共同生活援助（グループホーム）	84	30.9%	74	33.6%	6	15.8%
17	地域移行支援	13	4.8%	10	4.5%	1	2.6%
18	地域定着支援	12	4.4%	9	4.1%	1	2.6%
19	放課後等デイサービス	47	17.3%	42	19.1%	3	7.9%
20	児童発達支援	25	9.2%	22	10.0%	1	2.6%
	不明	95	34.9%	69	31.4%	19	50.0%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

知っている福祉サービス(全体)



知っている福祉サービス(年代別)

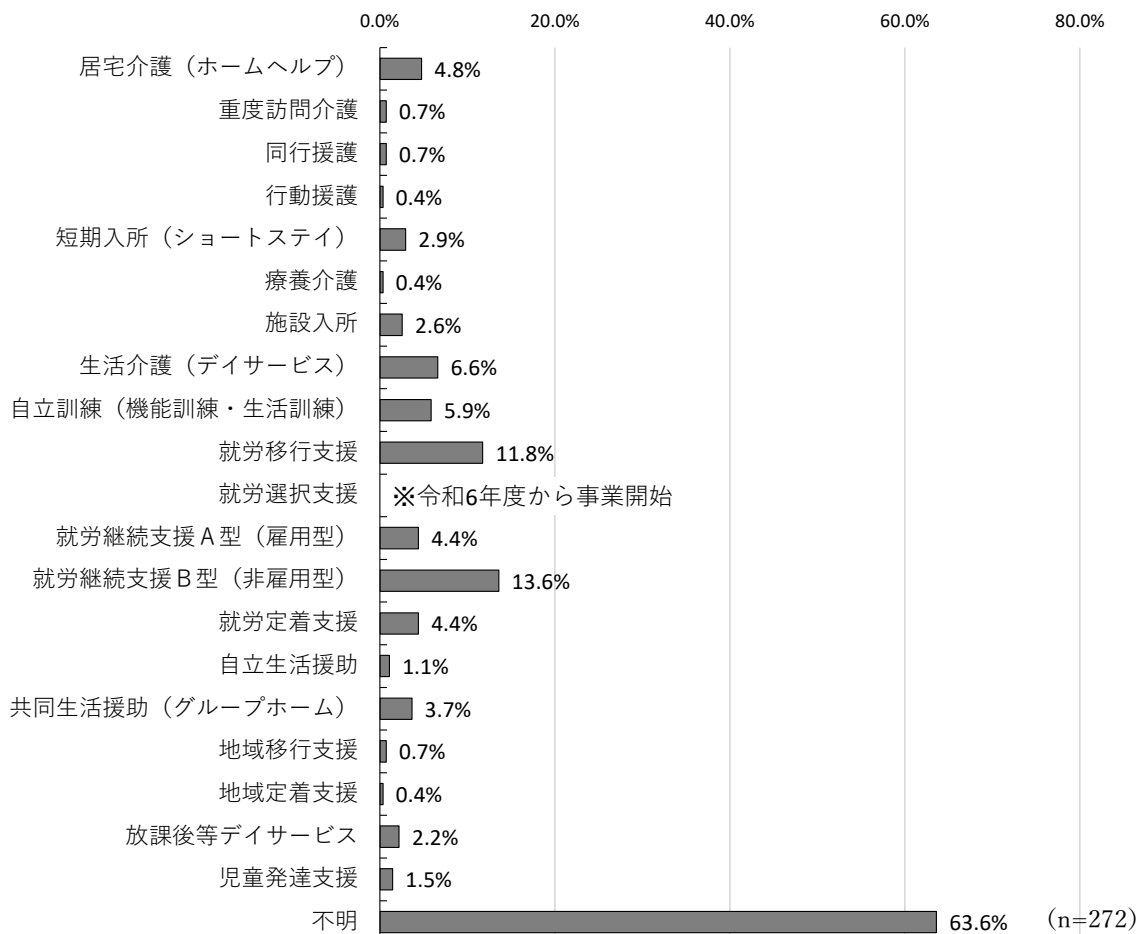


「精神障がい」調査結果

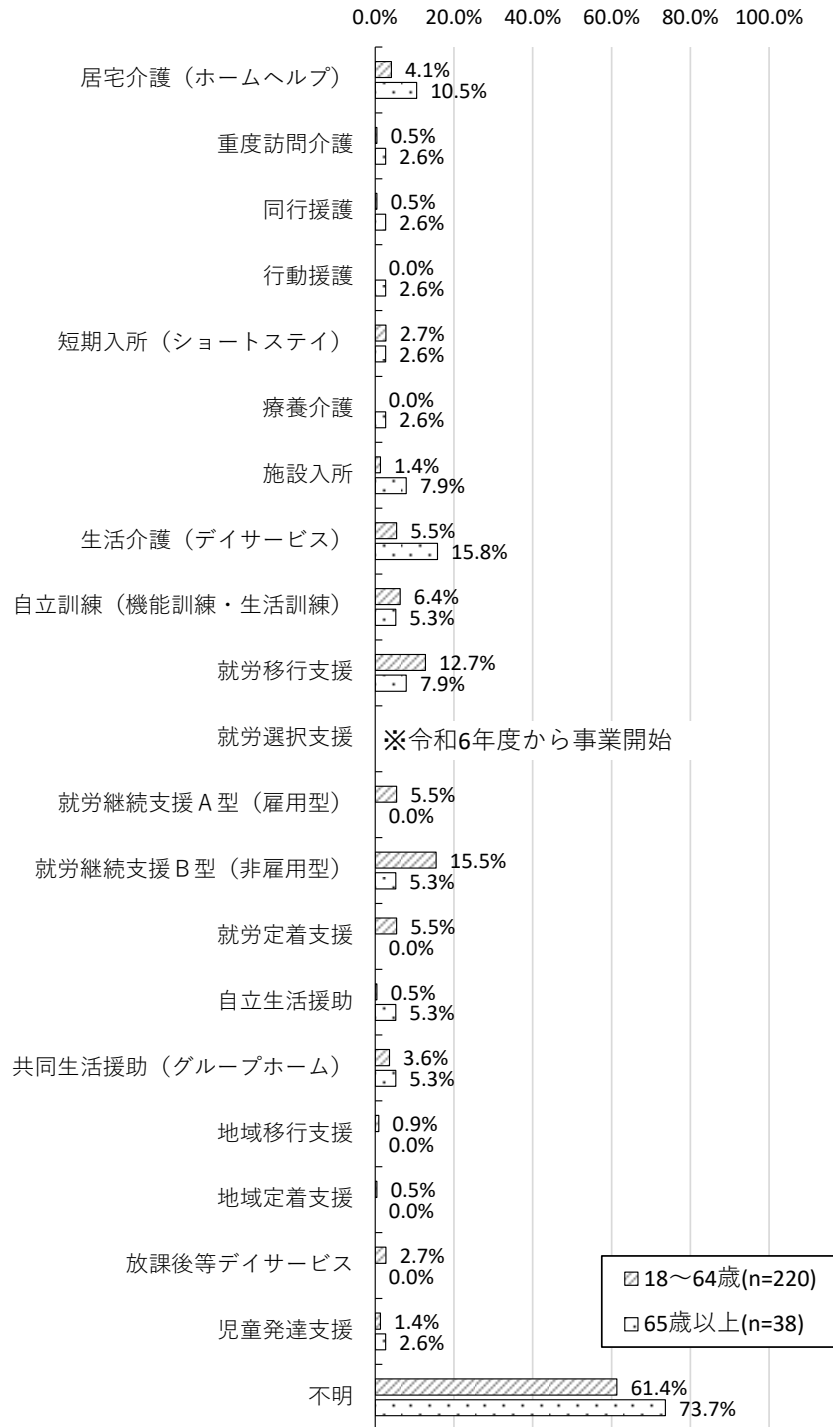
○ 利用したことがある福祉サービス【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	13	4.8%	9	4.1%	4	10.5%
2	重度訪問介護	2	0.7%	1	0.5%	1	2.6%
3	同行援護	2	0.7%	1	0.5%	1	2.6%
4	行動援護	1	0.4%	0	0.0%	1	2.6%
5	短期入所（ショートステイ）	8	2.9%	6	2.7%	1	2.6%
6	療養介護	1	0.4%	0	0.0%	1	2.6%
7	施設入所	7	2.6%	3	1.4%	3	7.9%
8	生活介護（デイサービス）	18	6.6%	12	5.5%	6	15.8%
9	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	16	5.9%	14	6.4%	2	5.3%
10	就労移行支援	32	11.8%	28	12.7%	3	7.9%
11	就労選択支援【令和6年度から事業開始】	-	-	-	-	-	-
12	就労継続支援A型（雇用型）	12	4.4%	12	5.5%	0	0.0%
13	就労継続支援B型（非雇用型）	37	13.6%	34	15.5%	2	5.3%
14	就労定着支援	12	4.4%	12	5.5%	0	0.0%
15	自立生活援助	3	1.1%	1	0.5%	2	5.3%
16	共同生活援助（グループホーム）	10	3.7%	8	3.6%	2	5.3%
17	地域移行支援	2	0.7%	2	0.9%	0	0.0%
18	地域定着支援	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
19	放課後等デイサービス	6	2.2%	6	2.7%	0	0.0%
20	児童発達支援	4	1.5%	3	1.4%	1	2.6%
	不明	173	63.6%	135	61.4%	28	73.7%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

利用したことがある福祉サービス(全体)



利用したことがある福祉サービス(年代別)

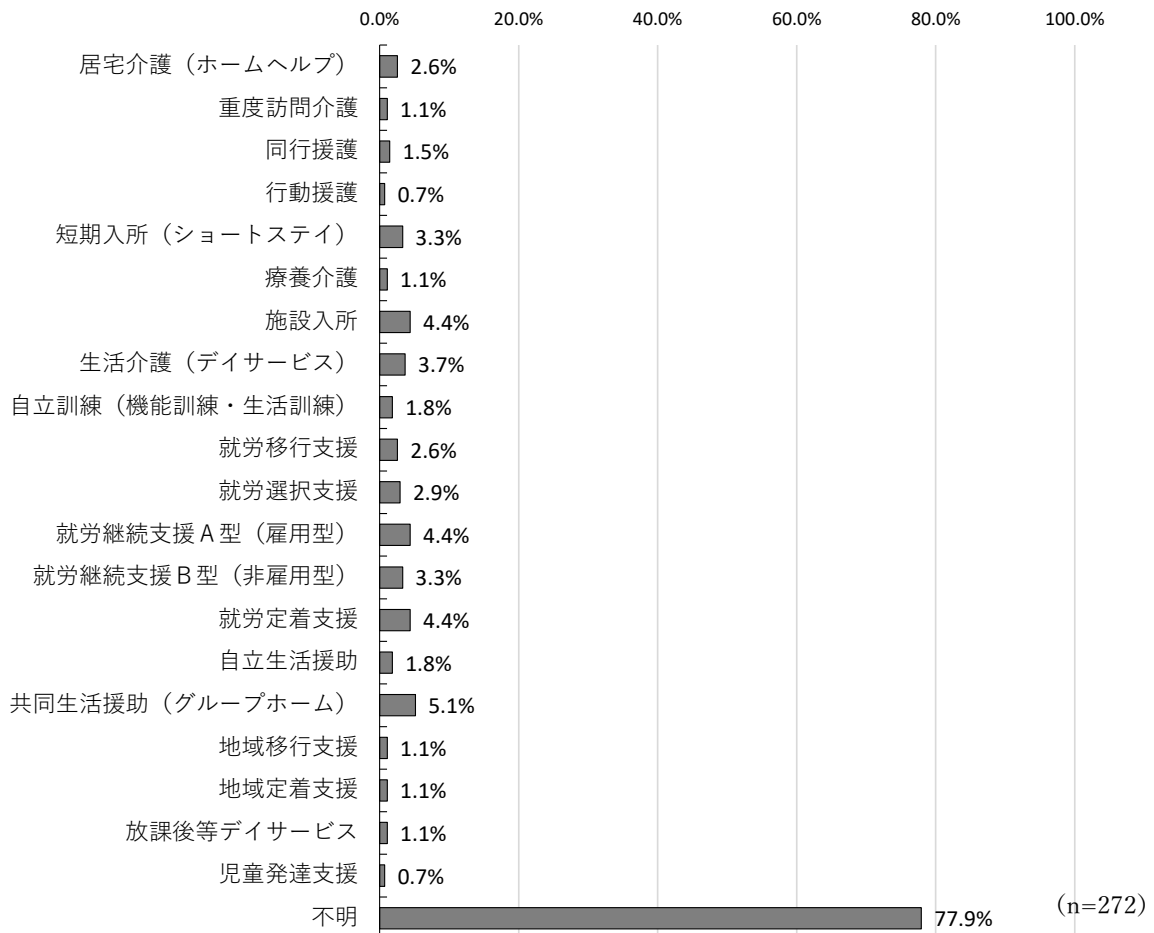


「精神障がい」調査結果

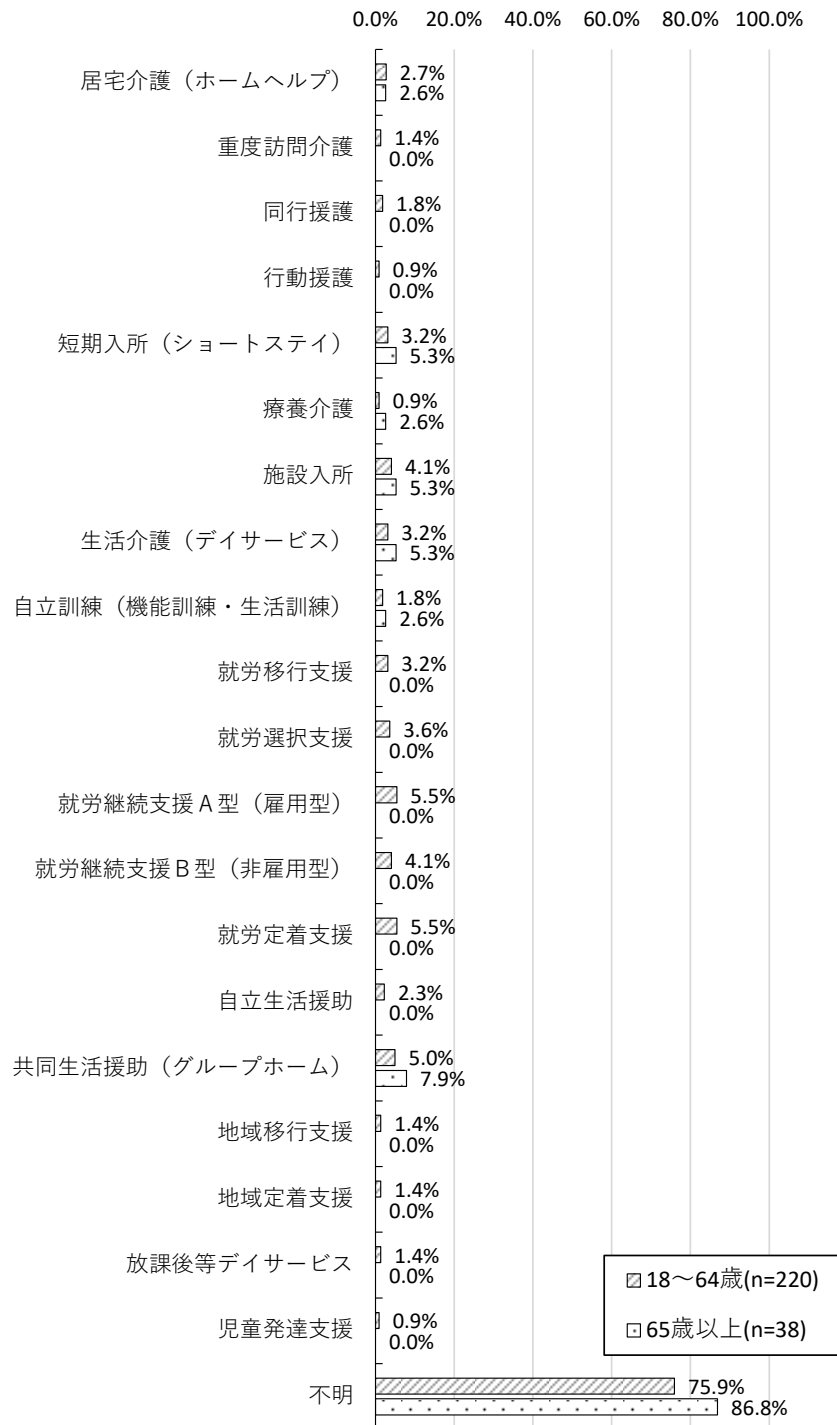
○ 今後利用したい福祉サービス【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	居宅介護（ホームヘルプ）	7	2.6%	6	2.7%	1	2.6%
2	重度訪問介護	3	1.1%	3	1.4%	0	0.0%
3	同行援護	4	1.5%	4	1.8%	0	0.0%
4	行動援護	2	0.7%	2	0.9%	0	0.0%
5	短期入所（ショートステイ）	9	3.3%	7	3.2%	2	5.3%
6	療養介護	3	1.1%	2	0.9%	1	2.6%
7	施設入所	12	4.4%	9	4.1%	2	5.3%
8	生活介護（デイサービス）	10	3.7%	7	3.2%	2	5.3%
9	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	5	1.8%	4	1.8%	1	2.6%
10	就労移行支援	7	2.6%	7	3.2%	0	0.0%
11	就労選択支援	8	2.9%	8	3.6%	0	0.0%
12	就労継続支援A型（雇成型）	12	4.4%	12	5.5%	0	0.0%
13	就労継続支援B型（非雇成型）	9	3.3%	9	4.1%	0	0.0%
14	就労定着支援	12	4.4%	12	5.5%	0	0.0%
15	自立生活援助	5	1.8%	5	2.3%	0	0.0%
16	共同生活援助（グループホーム）	14	5.1%	11	5.0%	3	7.9%
17	地域移行支援	3	1.1%	3	1.4%	0	0.0%
18	地域定着支援	3	1.1%	3	1.4%	0	0.0%
19	放課後等デイサービス	3	1.1%	3	1.4%	0	0.0%
20	児童発達支援	2	0.7%	2	0.9%	0	0.0%
	不明	212	77.9%	167	75.9%	33	86.8%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

今後利用したい福祉サービス(全体)



今後利用したい福祉サービス(年代別)



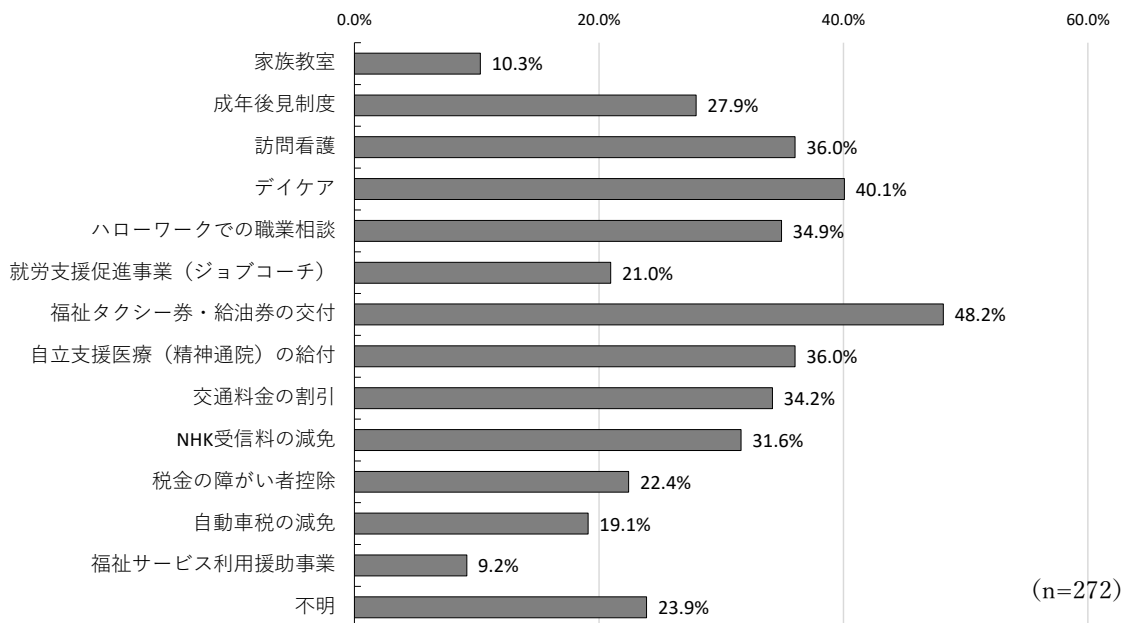
■ 福祉制度

問22 次にあげた福祉制度の中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ものはどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

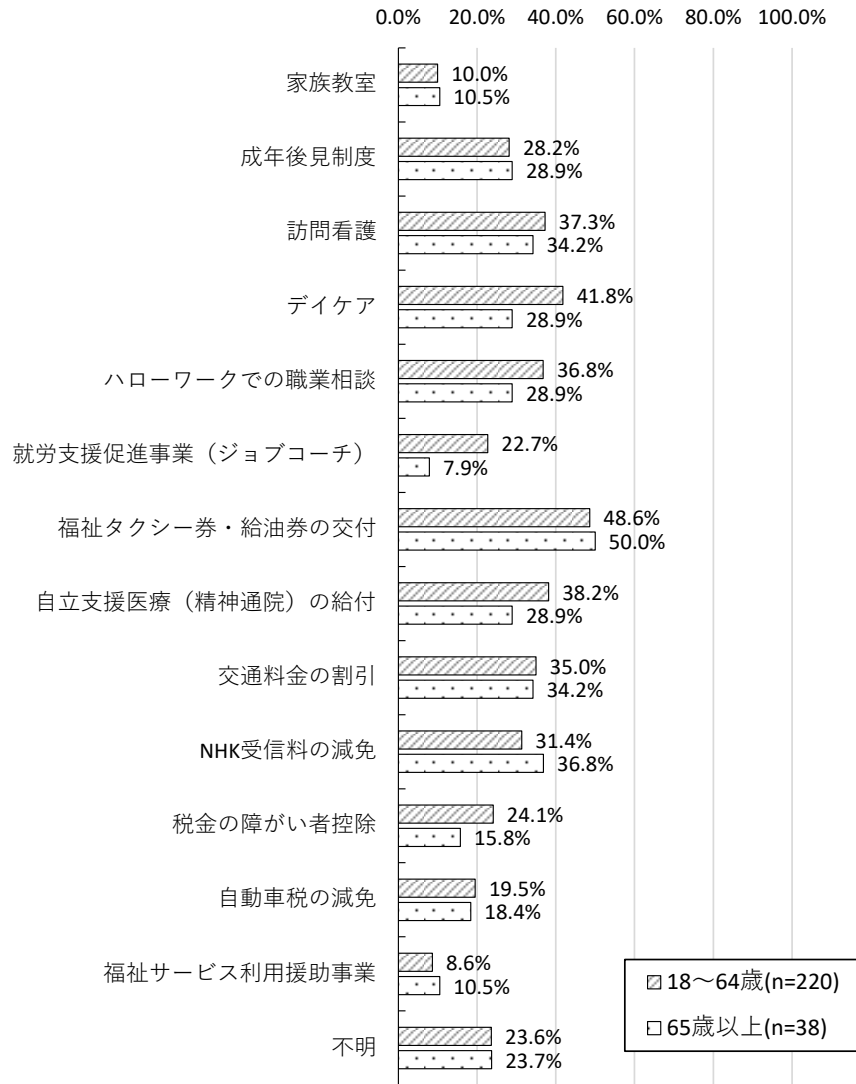
○ 知っている福祉制度【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	家族教室	28	10.3%	22	10.0%	4	10.5%
2	成年後見制度	76	27.9%	62	28.2%	11	28.9%
3	訪問看護	98	36.0%	82	37.3%	13	34.2%
4	デイケア	109	40.1%	92	41.8%	11	28.9%
5	ハローワークでの職業相談	95	34.9%	81	36.8%	11	28.9%
6	就労支援促進事業（ジョブコーチ）	57	21.0%	50	22.7%	3	7.9%
7	福祉タクシー券・給油券の交付	131	48.2%	107	48.6%	19	50.0%
8	自立支援医療（精神通院）の給付	98	36.0%	84	38.2%	11	28.9%
9	交通料金の割引	93	34.2%	77	35.0%	13	34.2%
10	NHK受信料の減免	86	31.6%	69	31.4%	14	36.8%
11	税金の障がい者控除	61	22.4%	53	24.1%	6	15.8%
12	自動車税の減免	52	19.1%	43	19.5%	7	18.4%
13	福祉サービス利用援助事業	25	9.2%	19	8.6%	4	10.5%
	不明	65	23.9%	52	23.6%	9	23.7%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

知っている福祉制度(全体)



知っている福祉制度(年代別)

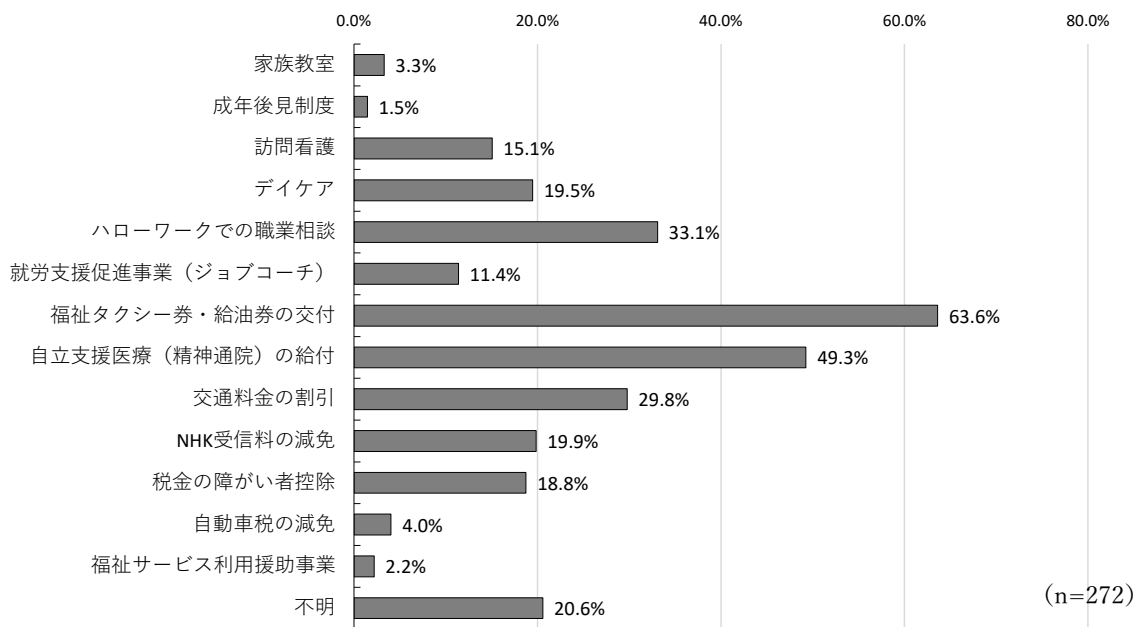


「精神障がい」調査結果

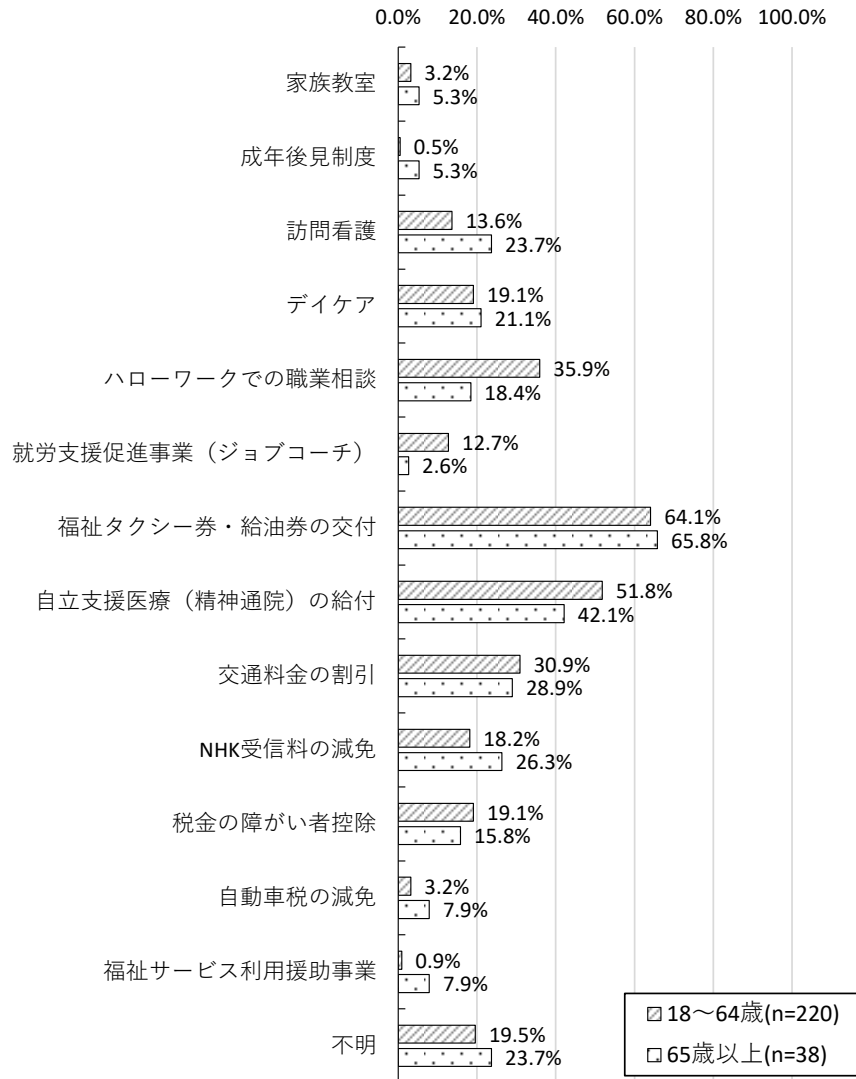
○ 利用したことがある福祉制度【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	家族教室	9	3.3%	7	3.2%	2	5.3%
2	成年後見制度	4	1.5%	1	0.5%	2	5.3%
3	訪問看護	41	15.1%	30	13.6%	9	23.7%
4	デイケア	53	19.5%	42	19.1%	8	21.1%
5	ハローワークでの職業相談	90	33.1%	79	35.9%	7	18.4%
6	就労支援促進事業（ジョブコーチ）	31	11.4%	28	12.7%	1	2.6%
7	福祉タクシー券・給油券の交付	173	63.6%	141	64.1%	25	65.8%
8	自立支援医療（精神通院）の給付	134	49.3%	114	51.8%	16	42.1%
9	交通料金の割引	81	29.8%	68	30.9%	11	28.9%
10	NHK受信料の減免	54	19.9%	40	18.2%	10	26.3%
11	税金の障がい者控除	51	18.8%	42	19.1%	6	15.8%
12	自動車税の減免	11	4.0%	7	3.2%	3	7.9%
13	福祉サービス利用援助事業	6	2.2%	2	0.9%	3	7.9%
	不明	56	20.6%	43	19.5%	9	23.7%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

利用したことがある福祉制度(全体)



利用したことがある福祉制度(年代別)

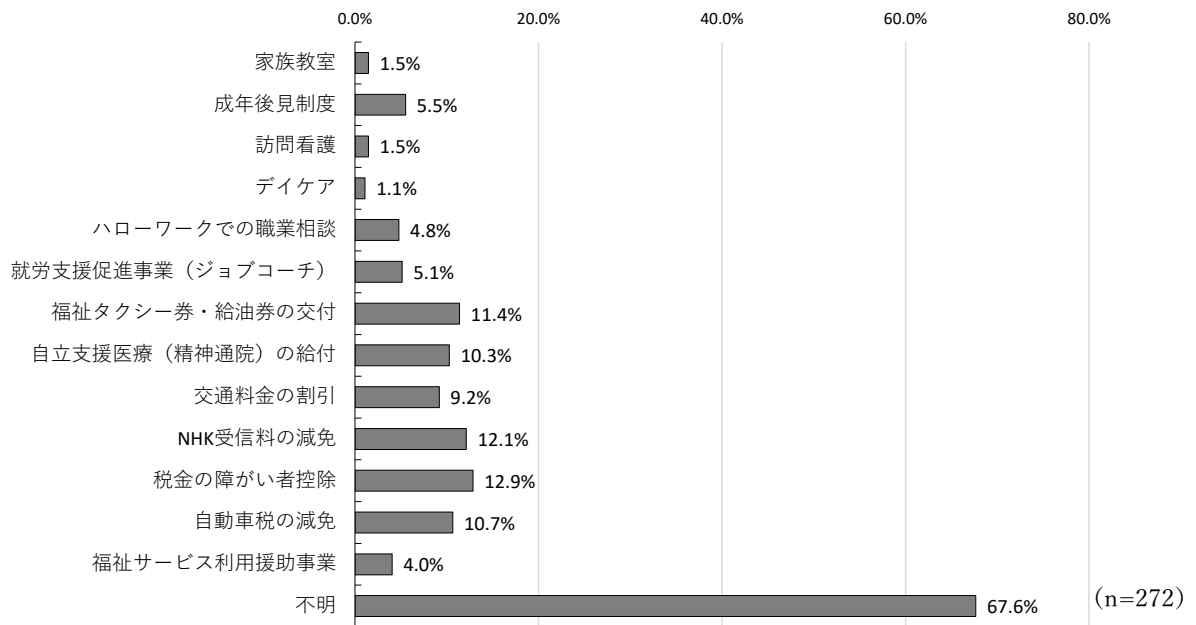


「精神障がい」調査結果

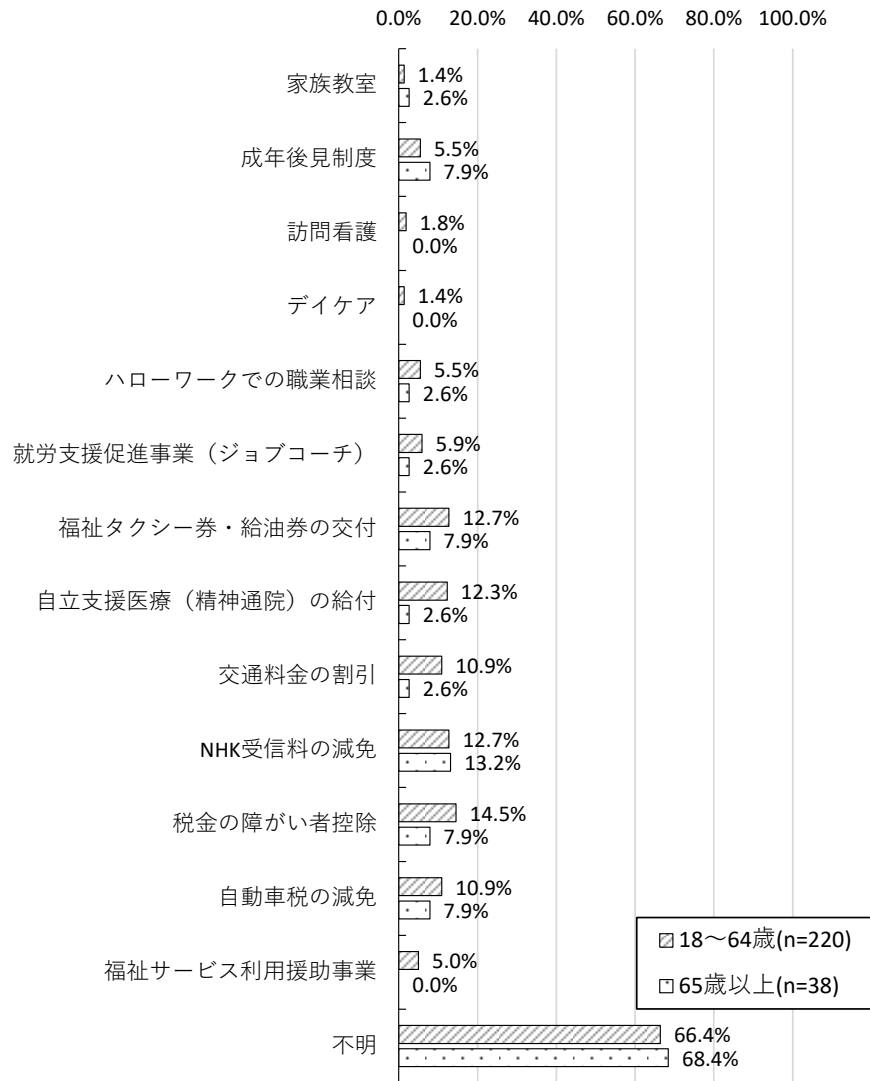
○ 今後利用したい福祉制度【MA】

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	家族教室	4	1.5%	3	1.4%	1	2.6%
2	成年後見制度	15	5.5%	12	5.5%	3	7.9%
3	訪問看護	4	1.5%	4	1.8%	0	0.0%
4	デイケア	3	1.1%	3	1.4%	0	0.0%
5	ハローワークでの職業相談	13	4.8%	12	5.5%	1	2.6%
6	就労支援促進事業（ジョブコーチ）	14	5.1%	13	5.9%	1	2.6%
7	福祉タクシー券・給油券の交付	31	11.4%	28	12.7%	3	7.9%
8	自立支援医療（精神通院）の給付	28	10.3%	27	12.3%	1	2.6%
9	交通料金の割引	25	9.2%	24	10.9%	1	2.6%
10	NHK受信料の減免	33	12.1%	28	12.7%	5	13.2%
11	税金の障がい者控除	35	12.9%	32	14.5%	3	7.9%
12	自動車税の減免	29	10.7%	24	10.9%	3	7.9%
13	福祉サービス利用援助事業	11	4.0%	11	5.0%	0	0.0%
	不明	184	67.6%	146	66.4%	26	68.4%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

今後利用したい福祉制度(全体)



今後利用したい福祉制度(年代別)

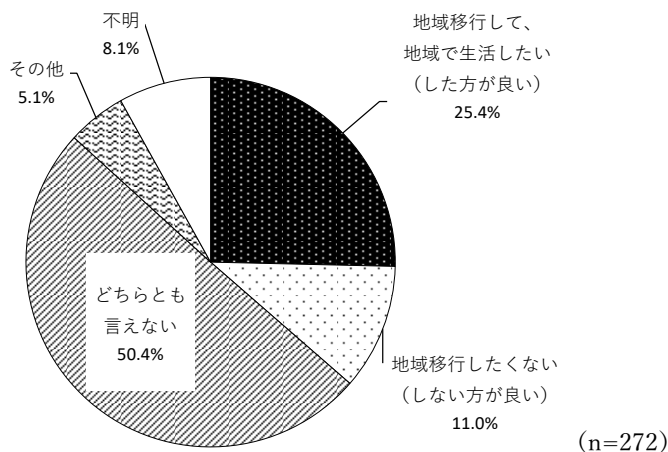


■ 障がい者入所施設等からの地域移行 【SA】

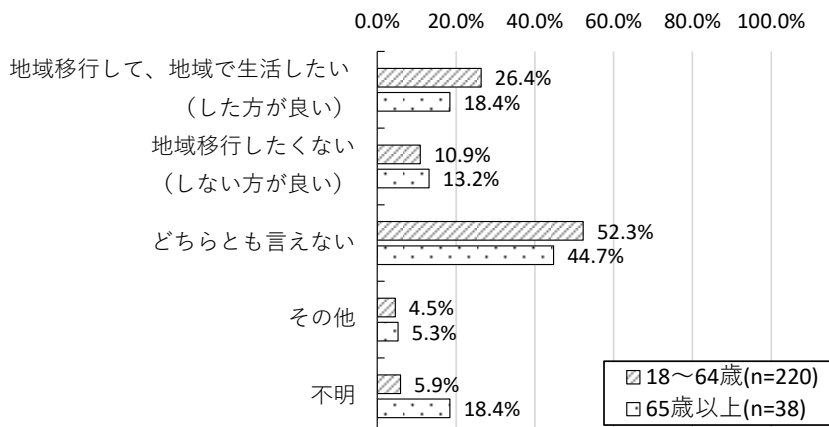
問23 あなたは障がい者入所施設、長期入院先の病院からの地域移行(施設を退所、病院を退院して家やグループホームに住み、地域で生活することをいいます。)について、どう思いますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	地域移行して、地域で生活したい(した方が良い)	69	25.4%	58	26.4%	7	18.4%
2	地域移行したくない(しない方が良い)	30	11.0%	24	10.9%	5	13.2%
3	どちらとも言えない	137	50.4%	115	52.3%	17	44.7%
4	その他	14	5.1%	10	4.5%	2	5.3%
	不明	22	8.1%	13	5.9%	7	18.4%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

障がい者入所施設等からの地域移行(全体)



障がい者入所施設等からの地域移行(年代別)



■ 精神障がい者グループホーム

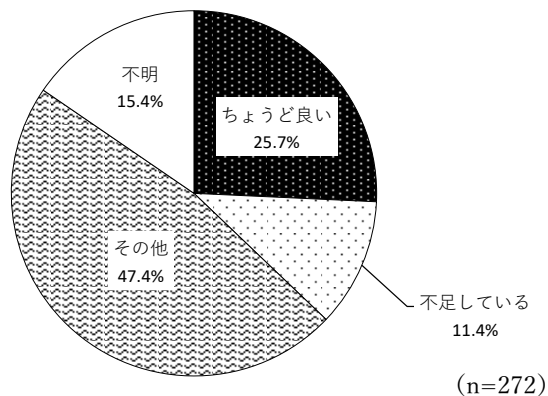
問24 山形市内の精神障がい者グループホームの数及び定員数について、どう思いますか。(それぞれ1つだけ○印)

○ グループホーム数【SA】

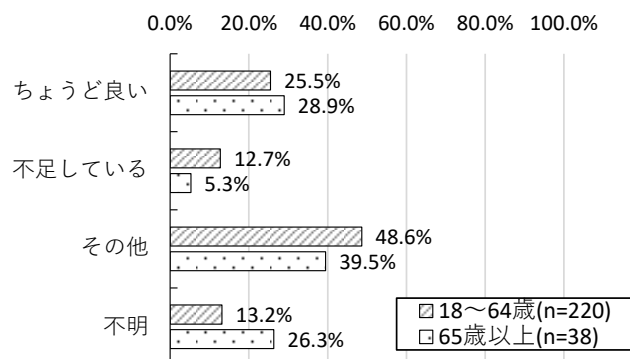
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	70	25.7%	56	25.5%	11	28.9%
2	不足している	31	11.4%	28	12.7%	2	5.3%
3	その他	129	47.4%	107	48.6%	15	39.5%
	不明	42	15.4%	29	13.2%	10	26.3%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

2 不足している：具体的に 近くで利用できる所がない/精神病患者が増える割に山形市のグループホームが少ない/高齢者向けのイメージが強い/条件で入れない時あり/空きが少ないから/友人にグループホームの空きを長く待ってる人がいるから

グループホーム数(全体)



グループホーム数(年代別)

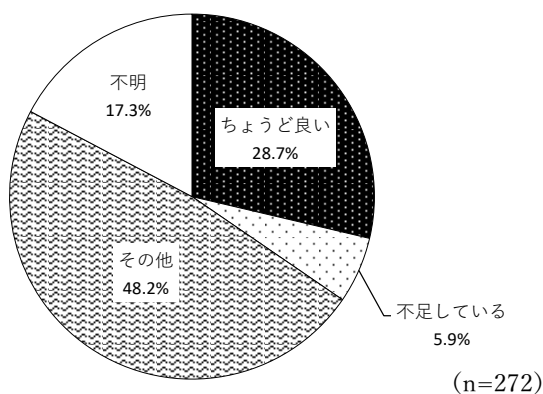


○ グループホームの定員数【SA】

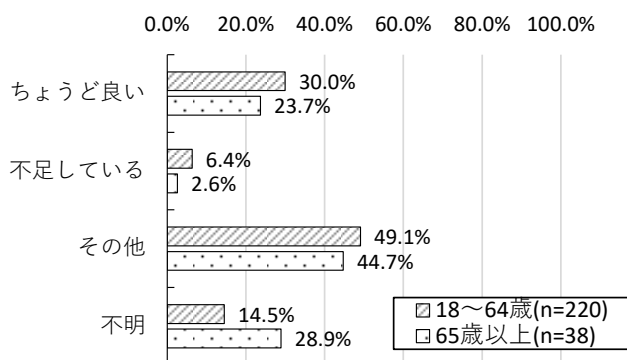
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	78	28.7%	66	30.0%	9	23.7%
2	不足している	16	5.9%	14	6.4%	1	2.6%
3	その他	131	48.2%	108	49.1%	17	44.7%
	不明	47	17.3%	32	14.5%	11	28.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

2 不足している：具体的に 短期での利用登録をしても利用したいときに空きがない/一度就職してまた利用するとなると同じところになりがち/グループホーム自体が少ないから自然に定員も少ないのではないか/空きが少ないから

グループホームの定員数(全体)



グループホームの定員数(年代別)



■ 精神障がい福祉サービス通所事業所

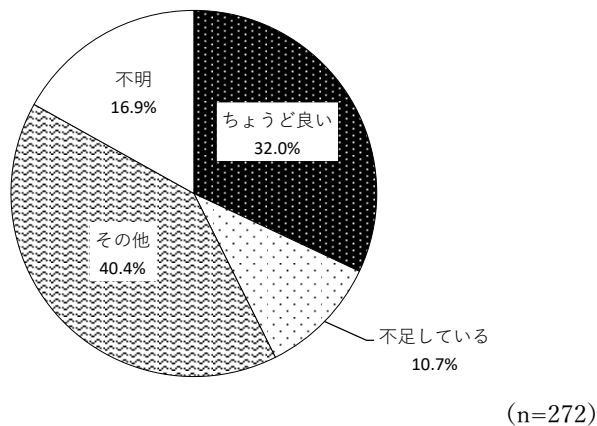
問25 山形市内の精神障がい福祉サービス通所事業所の数及び定員数について、どう思いますか。(それぞれ1つだけ○印)

○ 障がい者通所事業所の数【SA】

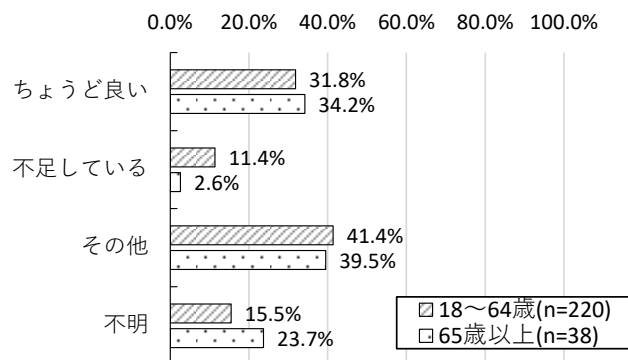
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	87	32.0%	70	31.8%	13	34.2%
2	不足している	29	10.7%	25	11.4%	1	2.6%
3	その他	110	40.4%	91	41.4%	15	39.5%
	不明	46	16.9%	34	15.5%	9	23.7%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

2 不足している：具体的に A型就労事業所（精神）が少ない/人が足りない/精神病患者が増える割に事業所が少ない/利用を申し込んだが人がいっぱい断られたから/老人ホームと比べると少ない気がする/発達障害者のサポート施設が不足している。一口に精神障害と言っても症状が異なるので発達障害専門の施設が必要である。さらに ASD や ADHD、LD でも全く異なるのでくくりにするのは無理がある。/現在利用している就労移行支援事業所だけでは足りない/家の近くにないので通所が大変/行ってみると人であふれている/数が少ないうえに職種も少ない

障がい者通所事業所の数(全体)



障がい者通所事業所の数(年代別)

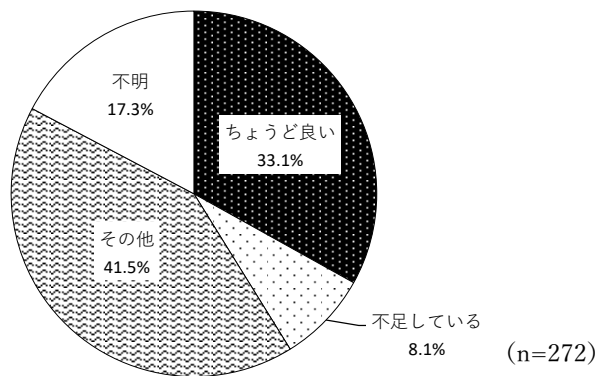


○ 障がい者通所事業所の定員数【SA】

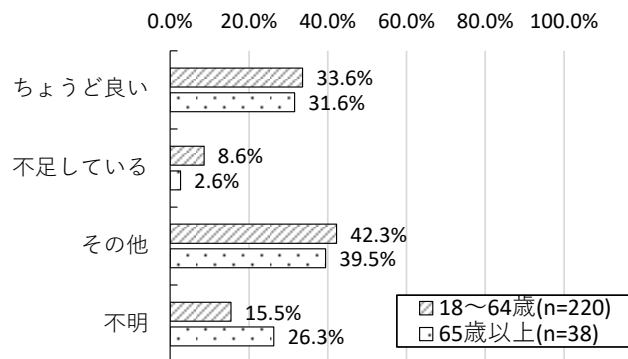
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	ちょうど良い	90	33.1%	74	33.6%	12	31.6%
2	不足している	22	8.1%	19	8.6%	1	2.6%
3	その他	113	41.5%	93	42.3%	15	39.5%
	不明	47	17.3%	34	15.5%	10	26.3%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

2 不足している：具体的に 人が足りない/利用を申し込んだが人がいっぱいまで断られたから/事業所（身体、知的、精神）と区分け細分化している。多様性のある障がい者の受け入れを/いつも定員がいっぱいの所が多い/現在利用している就労移行支援事業所だけでは足りない/行ってみると人であふれている/もう少しほしい

障がい者通所事業所の定員数(全体)



障がい者通所事業所の定員数(年代別)



(6)就労について

現在の就労状況については、「働いていない」(60.7%)が「働いている」(37.5%)を23.2ポイント上回った。

働いている人に就労形態を聞いたところ、「臨時・日雇い・パート・嘱託・アルバイト」が51.0%と過半数を占めて最も高く、次いで「就労継続支援事業所B型(非雇用型)」(28.4%)、「正社員、正職員」(7.8%)などとなった。また、通勤手段については、「自分の運転する車など」が36.3%と最も高く、次いで「徒歩・自転車」(23.5%)、「家族などの送迎」(13.7%)などとなっている。現在の仕事をどのようにして見つけたかについては、「公共職業安定所(ハローワーク)」が29.4%で最も高く、次いで「自分や家族で探した」(14.7%)、「就労移行支援事業所」(12.7%)などとなっている。仕事をするうえでの不安や不満については、「収入が少ない」(45.1%)が最も高く、「職場の人間関係にとけこめない」(24.5%)、「障がいに対する配慮や意識が低い」(15.7%)などが続いた。

一方、働いていない人に仕事をしていない理由を聞いたところ、「病気のため(入院中を含む)」が40.6%と最も高く、次いで「障がいや病気に合った仕事がない」(32.7%)、「重度の障がいのため」(21.2%)などとなった。今後の活動や将来の進路については、「特にない・まだよくわからない」が23.0%と最も高く、「障がい者の雇用が多い事業所」(18.8%)が続いた。

働き続ける(または将来働く)ために特に必要だと思うことは、「障がいや病気に対する理解や配慮」が28.7%と最も高く、次いで「自分に合った仕事である」(27.2%)、「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」(23.2%)などとなっている。

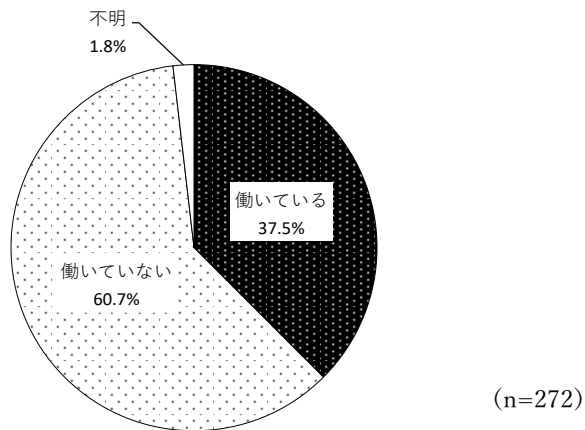
- ◎ 精神障がい者の就労は、身体障がい者や知的障害者よりも「臨時・日雇い・パート・嘱託・アルバイト」の割合が高く、前回調査よりも更に10ポイント上昇している(41.0%→51.0%)。その上昇した分、福祉的就労の割合も減っているが、正社員の割合も減っているため、安定的な雇用に向けた取り組みが重要である。
- ◎ 仕事をしていない理由として「病気のため(入院中を含む)」や「障がいや病気に合った仕事がない」等、病気を理由にしている方が多く、また、今後働き続ける(または将来働く)ためには「障がいや病気に対する理解や配慮」を必要としている方も多いことから、精神疾患に対する職場の理解をより深めていく必要がある。

■ 就労の有無【SA】

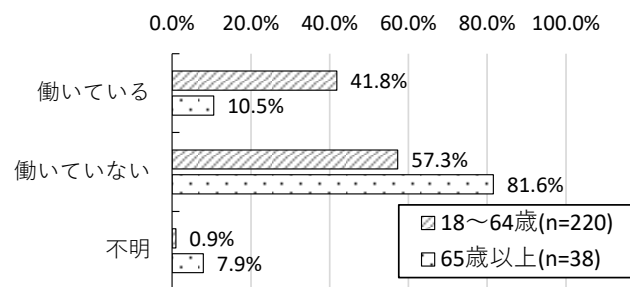
問 26 あなたは現在、働いていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	働いている	102	37.5%	92	41.8%	4	10.5%
2	働いていない	165	60.7%	126	57.3%	31	81.6%
	不明	5	1.8%	2	0.9%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

就労の有無(全体)



就労の有無(年代別)

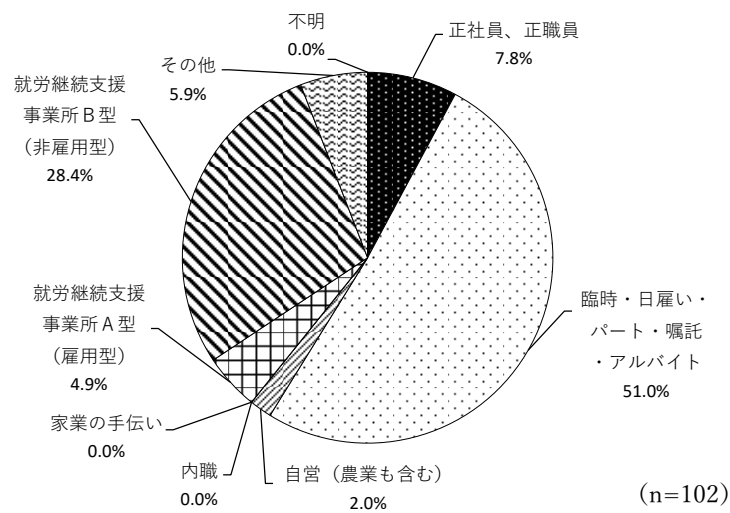


■ 就労形態【SA】

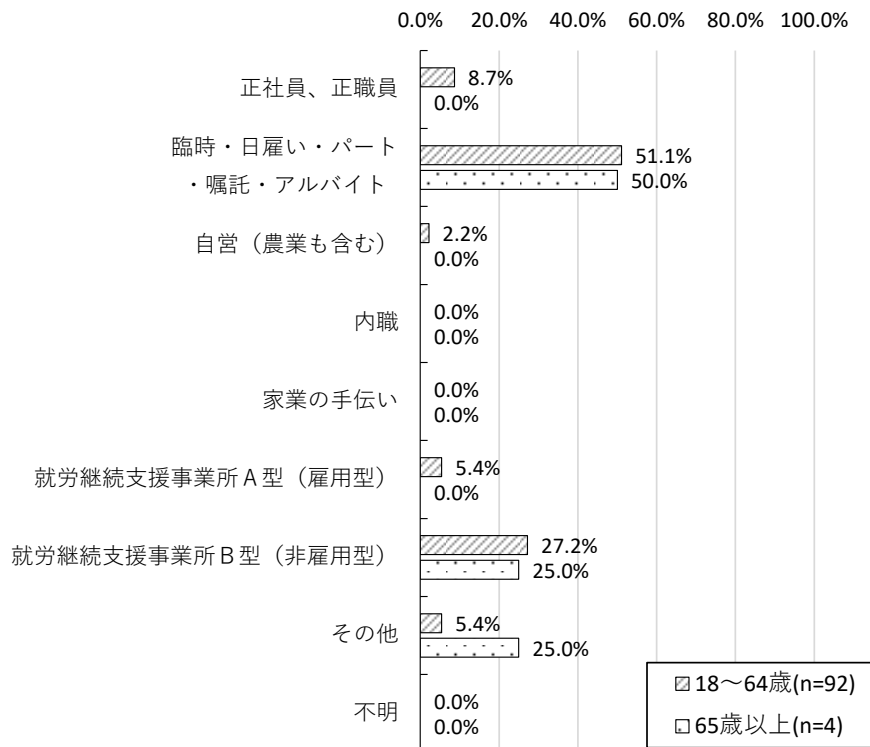
問27 問26で「1」を回答した方におたずねします。どのような形態で働いていますか。(1つだけ
○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	正社員、正職員	8	7.8%	8	8.7%	0	0.0%
2	臨時・日雇い・パート・嘱託・アルバイト	52	51.0%	47	51.1%	2	50.0%
3	自営（農業も含む）	2	2.0%	2	2.2%	0	0.0%
4	内職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	家業の手伝い	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6	就労継続支援事業所A型（雇用型）	5	4.9%	5	5.4%	0	0.0%
7	就労継続支援事業所B型（非雇用型）	29	28.4%	25	27.2%	1	25.0%
8	その他	6	5.9%	5	5.4%	1	25.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	102	100.0%	92	100.0%	4	100.0%

就労形態(全体)



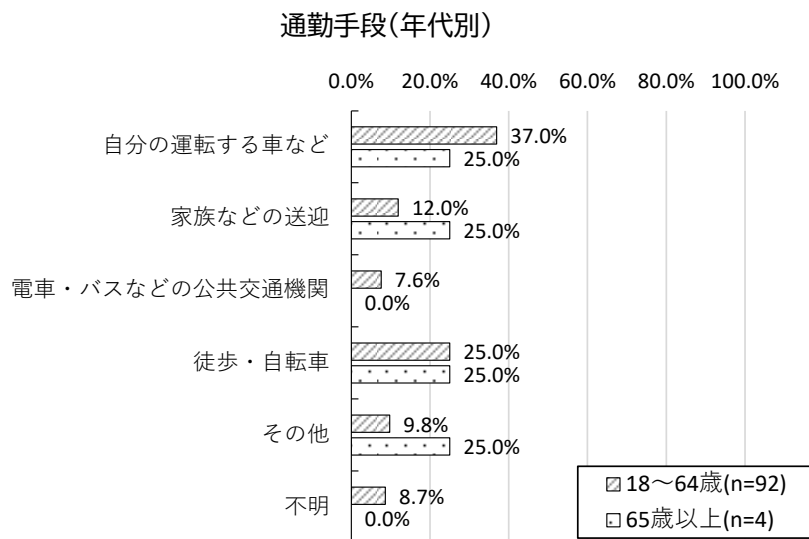
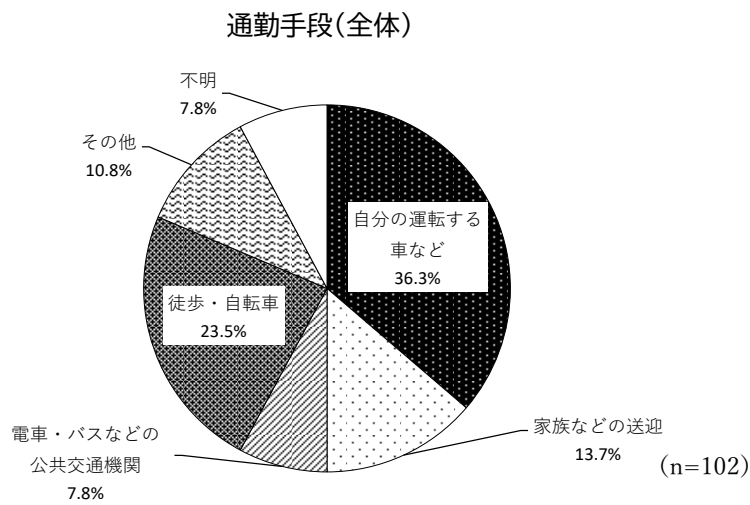
就労形態(年代別)



■ 通勤手段【SA】

問28 問26で「1」を回答した方におたずねします。通勤手段は主に何ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	自分の運転する車など	37	36.3%	34	37.0%	1	25.0%
2	家族などの送迎	14	13.7%	11	12.0%	1	25.0%
3	電車・バスなどの公共交通機関	8	7.8%	7	7.6%	0	0.0%
4	徒歩・自転車	24	23.5%	23	25.0%	1	25.0%
5	その他	11	10.8%	9	9.8%	1	25.0%
	不明	8	7.8%	8	8.7%	0	0.0%
	全体	102	100.0%	92	100.0%	4	100.0%

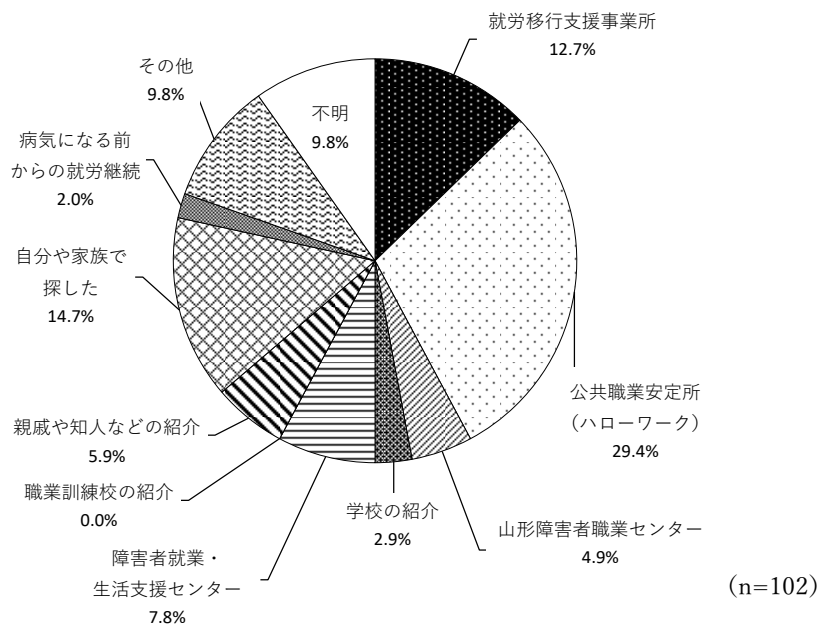


■ 現在の仕事の伝手【SA】

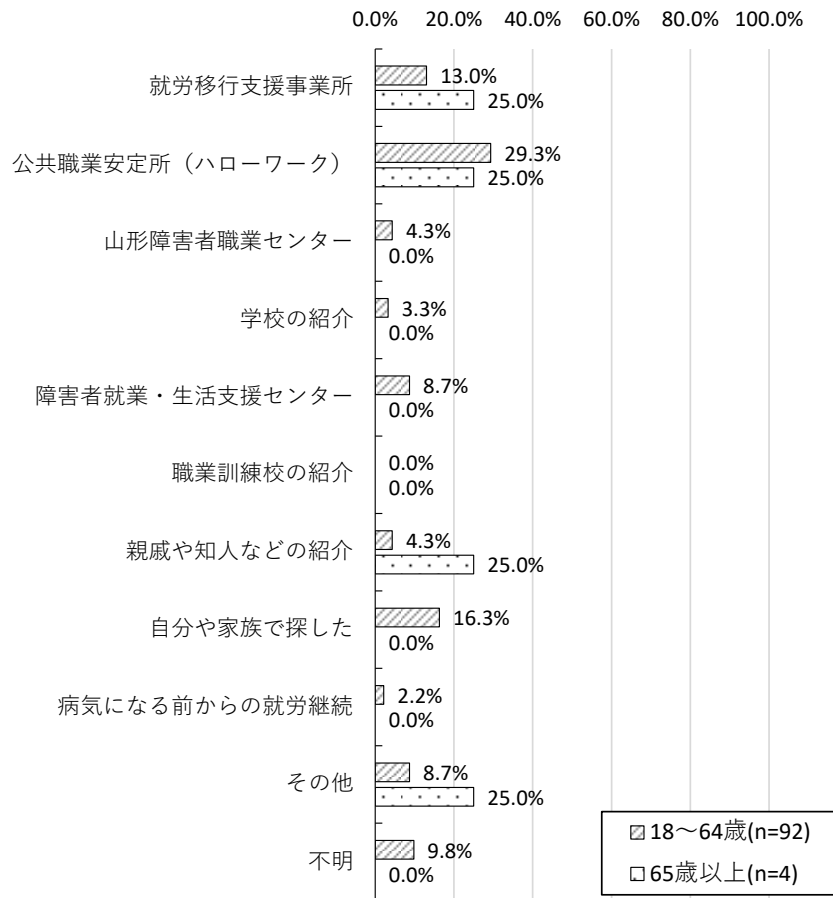
問29 問26で「1」を回答した方におたずねします。現在の仕事はどのようにして見つけましたか。
(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	就労移行支援事業所	13	12.7%	12	13.0%	1	25.0%
2	公共職業安定所（ハローワーク）	30	29.4%	27	29.3%	1	25.0%
3	山形障害者職業センター	5	4.9%	4	4.3%	0	0.0%
4	学校の紹介	3	2.9%	3	3.3%	0	0.0%
5	障害者就業・生活支援センター	8	7.8%	8	8.7%	0	0.0%
6	職業訓練校の紹介	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	親戚や知人などの紹介	6	5.9%	4	4.3%	1	25.0%
8	自分や家族で探した	15	14.7%	15	16.3%	0	0.0%
9	病気になる前からの就労継続	2	2.0%	2	2.2%	0	0.0%
10	その他	10	9.8%	8	8.7%	1	25.0%
	不明	10	9.8%	9	9.8%	0	0.0%
	全体	102	100.0%	92	100.0%	4	100.0%

現在の仕事の伝手(全体)



現在の仕事の伝手(年代別)

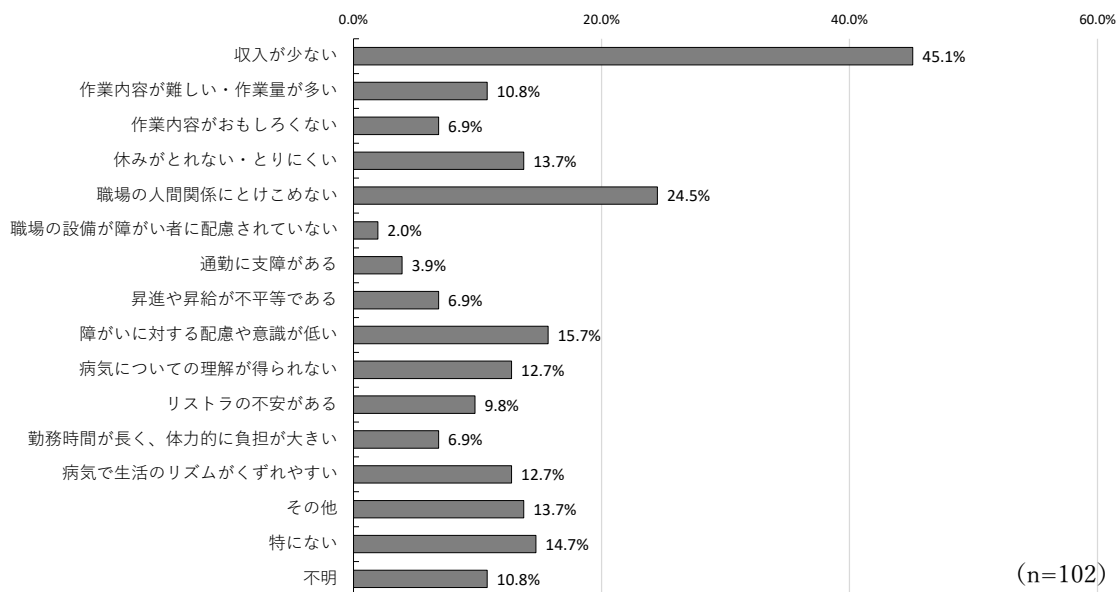


■ 仕事上の不安・不満【MA】

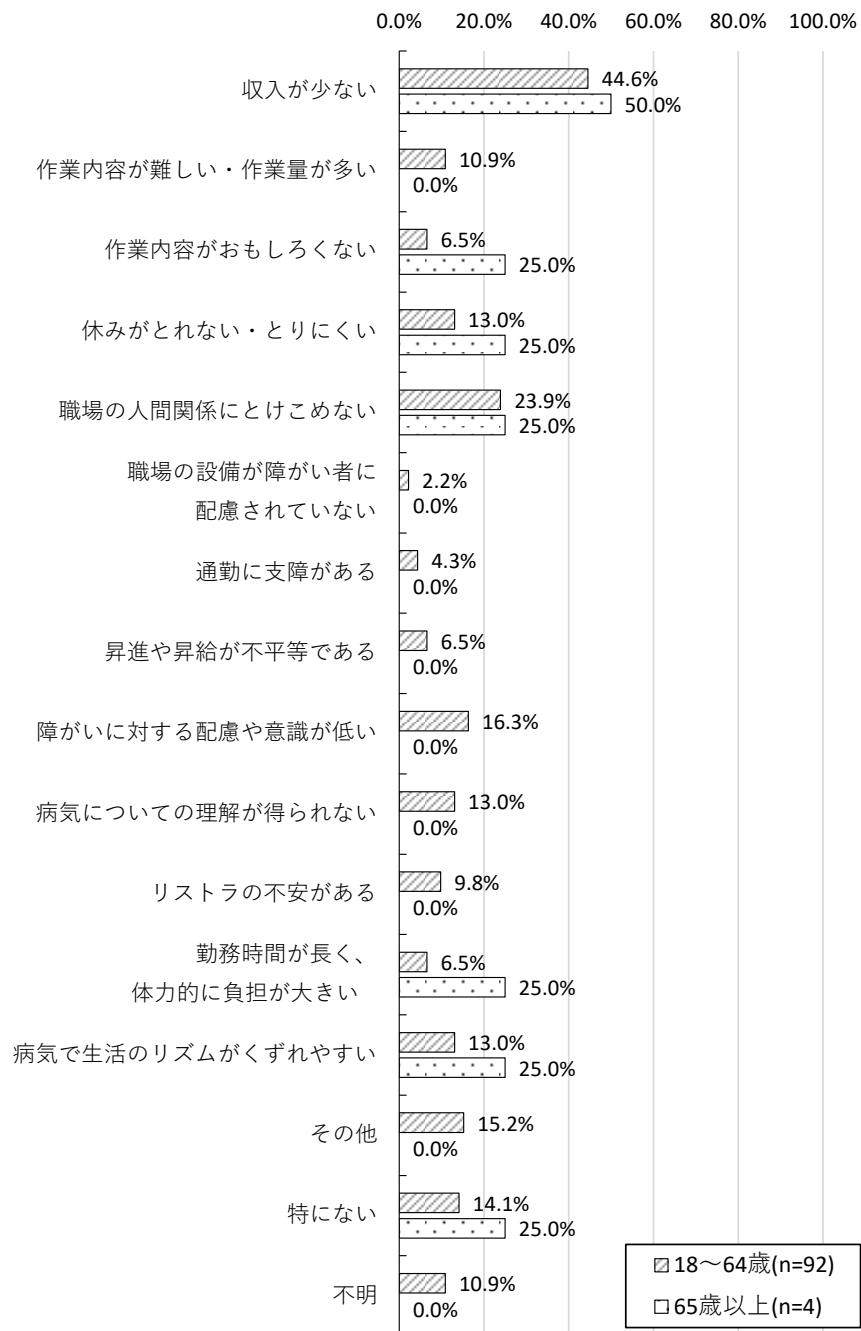
問30 問26で「1」を回答した方におたずねします。あなたは仕事をするうえで不安や不満はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	収入が少ない	46	45.1%	41	44.6%	2	50.0%
2	作業内容が難しい・作業量が多い	11	10.8%	10	10.9%	0	0.0%
3	作業内容がおもしろくない	7	6.9%	6	6.5%	1	25.0%
4	休みがとれない・とりにくい	14	13.7%	12	13.0%	1	25.0%
5	職場の人間関係にとけこめない	25	24.5%	22	23.9%	1	25.0%
6	職場の設備が障がい者に配慮されていない	2	2.0%	2	2.2%	0	0.0%
7	通勤に支障がある	4	3.9%	4	4.3%	0	0.0%
8	昇進や昇給が不平等である	7	6.9%	6	6.5%	0	0.0%
9	障がいに対する配慮や意識が低い	16	15.7%	15	16.3%	0	0.0%
10	病気についての理解が得られない	13	12.7%	12	13.0%	0	0.0%
11	リストラの不安がある	10	9.8%	9	9.8%	0	0.0%
12	勤務時間が長く、体力的に負担が大きい	7	6.9%	6	6.5%	1	25.0%
13	病気で生活のリズムがくずれやすい	13	12.7%	12	13.0%	1	25.0%
14	その他	14	13.7%	14	15.2%	0	0.0%
15	特にない	15	14.7%	13	14.1%	1	25.0%
	不明	11	10.8%	10	10.9%	0	0.0%
	全体	102	100.0%	92	100.0%	4	100.0%

仕事上の不安・不満(全体)



仕事上の不安・不満(年代別)

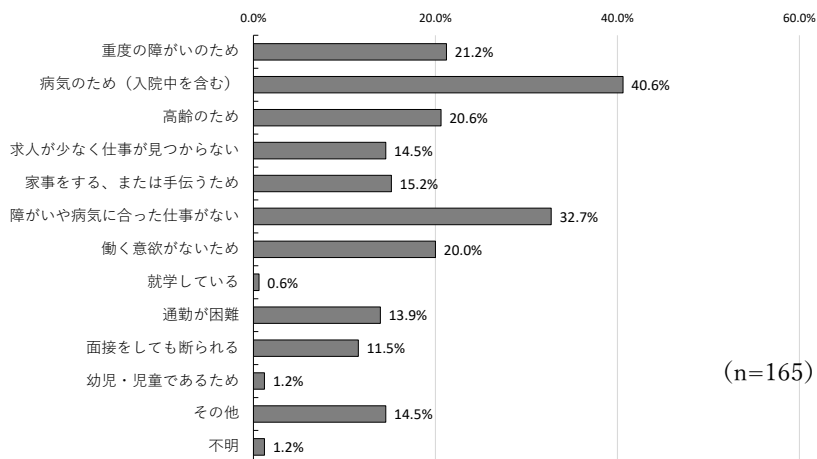


■ 仕事をしない理由【MA】

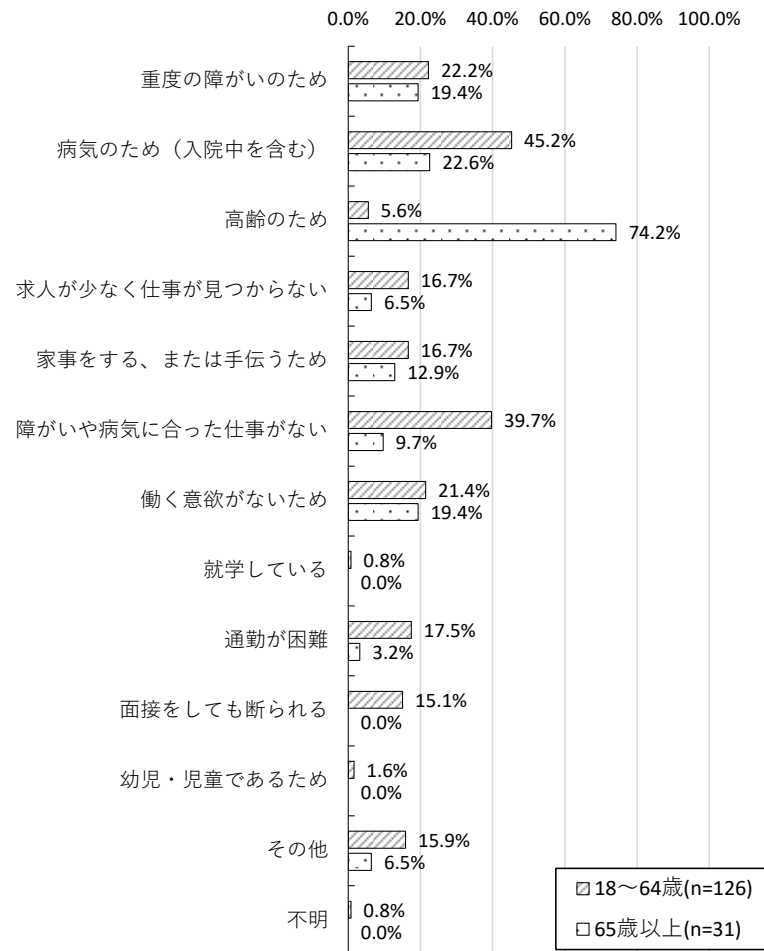
問31 問26で「2」を回答した方におたずねします。あなたが仕事をしていない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	重度の障がいのため	35	21.2%	28	22.2%	6	19.4%
2	病気のため（入院中を含む）	67	40.6%	57	45.2%	7	22.6%
3	高齢のため	34	20.6%	7	5.6%	23	74.2%
4	求人が少なく仕事が見つからない	24	14.5%	21	16.7%	2	6.5%
5	家事をする、または手伝うため	25	15.2%	21	16.7%	4	12.9%
6	障がいや病気に合った仕事がない	54	32.7%	50	39.7%	3	9.7%
7	働く意欲がないため	33	20.0%	27	21.4%	6	19.4%
8	就学している	1	0.6%	1	0.8%	0	0.0%
9	通勤が困難	23	13.9%	22	17.5%	1	3.2%
10	面接をしても断られる	19	11.5%	19	15.1%	0	0.0%
11	幼児・児童であるため	2	1.2%	2	1.6%	0	0.0%
12	その他	24	14.5%	20	15.9%	2	6.5%
	不明	2	1.2%	1	0.8%	0	0.0%
	全体	165	100.0%	126	100.0%	31	100.0%

仕事をしない理由(全体)



仕事をしない理由(年代別)

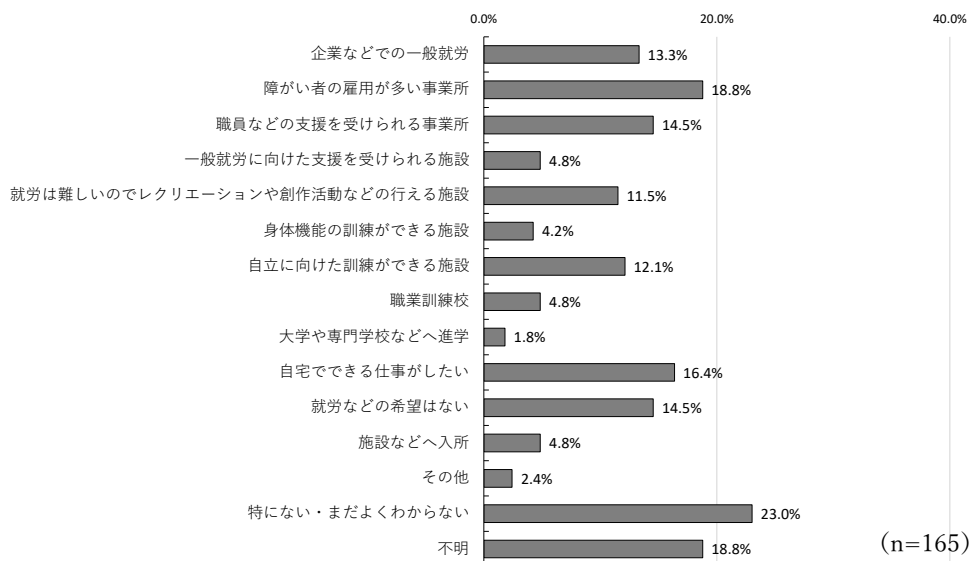


■ 将来の進路・希望【MA】

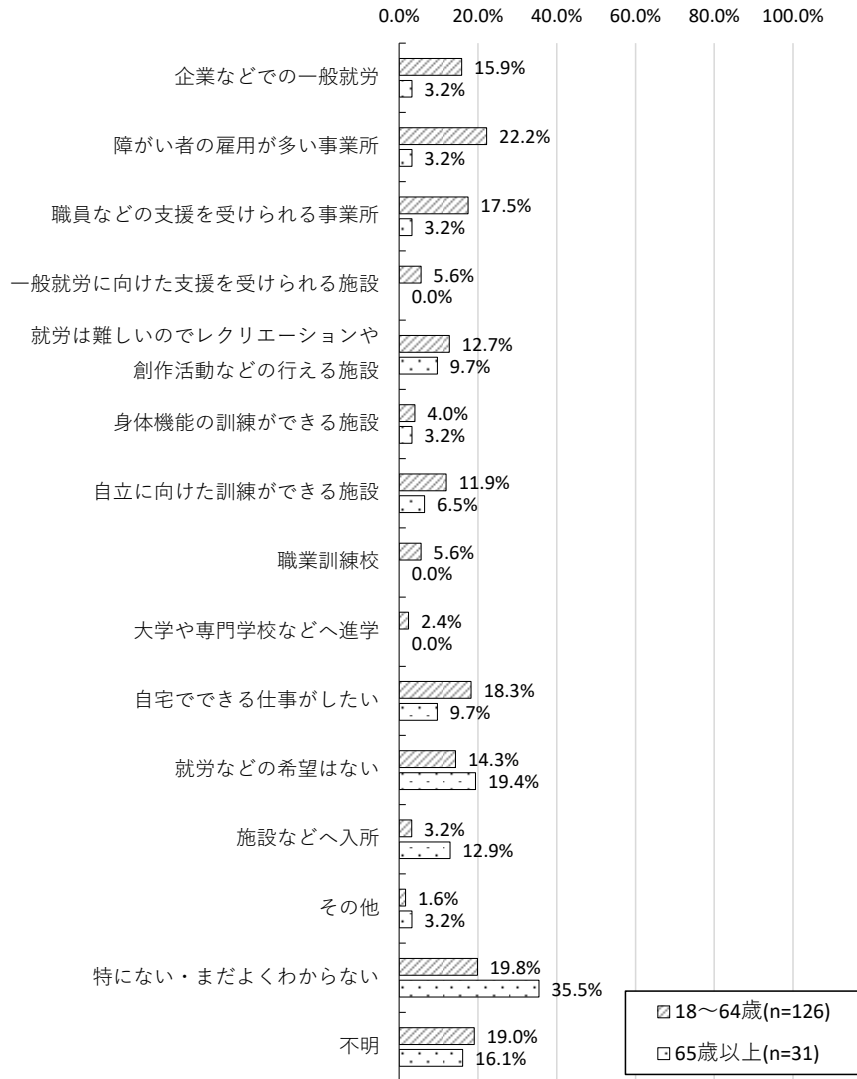
問32 問26で「2」を回答した方におたずねします。今後の活動や将来の進路について、どのような希望がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	企業などでの一般就労	22	13.3%	20	15.9%	1	3.2%
2	障がい者の雇用が多い事業所	31	18.8%	28	22.2%	1	3.2%
3	職員などの支援を受けられる事業所	24	14.5%	22	17.5%	1	3.2%
4	一般就労に向けた支援を受けられる施設	8	4.8%	7	5.6%	0	0.0%
5	就労は難しいのでレクリエーションや創作活動などので行える施設	19	11.5%	16	12.7%	3	9.7%
6	身体機能の訓練ができる施設	7	4.2%	5	4.0%	1	3.2%
7	自立に向けた訓練ができる施設	20	12.1%	15	11.9%	2	6.5%
8	職業訓練校	8	4.8%	7	5.6%	0	0.0%
9	大学や専門学校などへ進学	3	1.8%	3	2.4%	0	0.0%
10	自宅でできる仕事がしたい	27	16.4%	23	18.3%	3	9.7%
11	就労などの希望はない	24	14.5%	18	14.3%	6	19.4%
12	施設などへ入所	8	4.8%	4	3.2%	4	12.9%
13	その他	4	2.4%	2	1.6%	1	3.2%
14	特にない・まだよくわからない	38	23.0%	25	19.8%	11	35.5%
	不明	31	18.8%	24	19.0%	5	16.1%
	全体	165	100.0%	126	100.0%	31	100.0%

将来の進路・希望(全体)



将来の進路・希望(年代別)

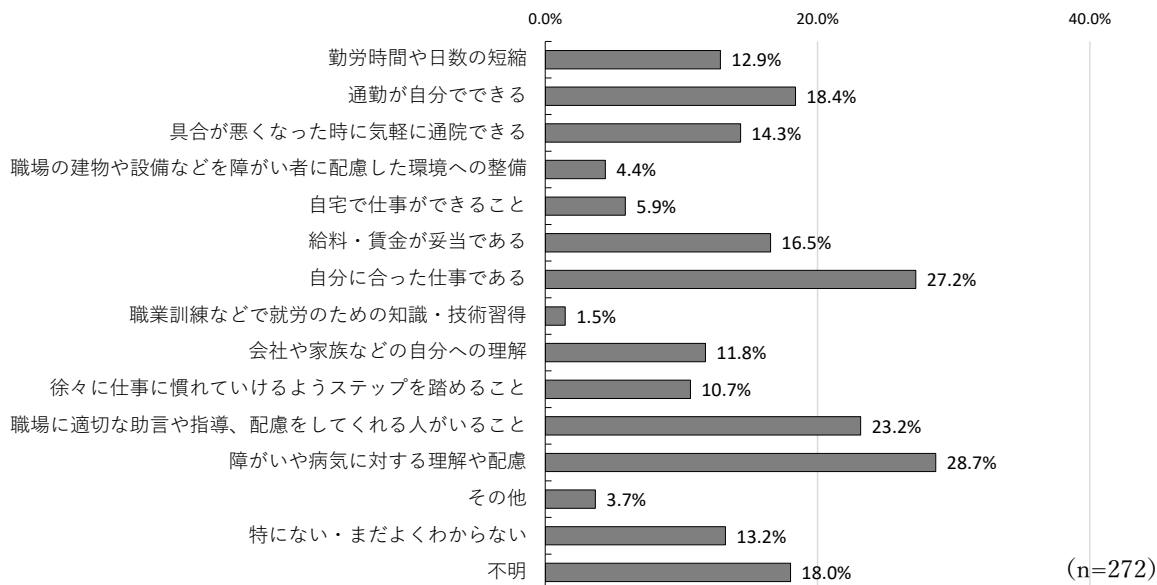


■ 働き続けるために必要なこと【MA】

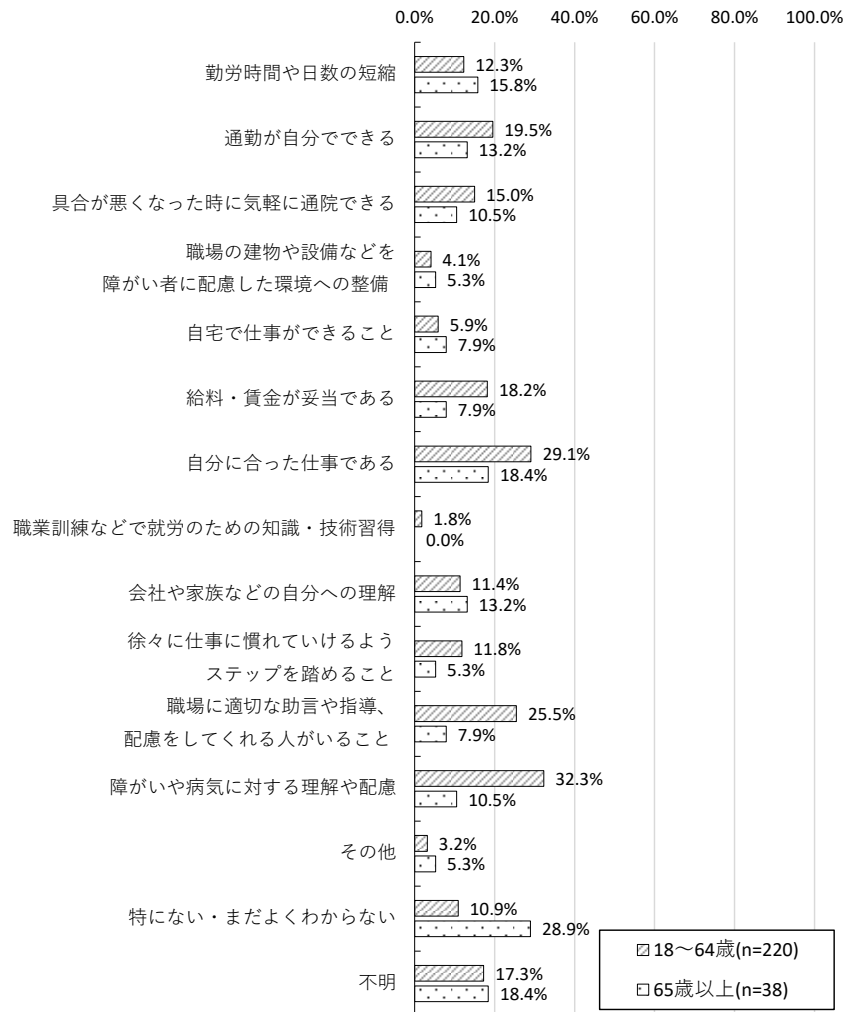
問33 あなたが働き続ける(または将来働く)には、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18~64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	勤務時間や日数の短縮	35	12.9%	27	12.3%	6	15.8%
2	通勤が自分ができる	50	18.4%	43	19.5%	5	13.2%
3	具合が悪くなった時に気軽に通院できる	39	14.3%	33	15.0%	4	10.5%
4	職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備	12	4.4%	9	4.1%	2	5.3%
5	自宅で仕事ができること	16	5.9%	13	5.9%	3	7.9%
6	給料・賃金が妥当である	45	16.5%	40	18.2%	3	7.9%
7	自分に合った仕事である	74	27.2%	64	29.1%	7	18.4%
8	職業訓練などで就労のための知識・技術習得	4	1.5%	4	1.8%	0	0.0%
9	会社や家族などの自分への理解	32	11.8%	25	11.4%	5	13.2%
10	徐々に仕事に慣れていけるようステップを踏めること	29	10.7%	26	11.8%	2	5.3%
11	職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること	63	23.2%	56	25.5%	3	7.9%
12	障がいや病気に対する理解や配慮	78	28.7%	71	32.3%	4	10.5%
13	その他	10	3.7%	7	3.2%	2	5.3%
14	特にない・まだよくわからない	36	13.2%	24	10.9%	11	28.9%
	不明	49	18.0%	38	17.3%	7	18.4%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

働き続けるために必要なこと(全体)



働き続けるために必要なこと(年代別)



(7)バリアフリーに関することについて

外出頻度については、「ほぼ毎日」が39.3%と最も高く、次いで「週3～4回」(19.1%)、「週1～2回」(17.6%)などとなっており、『週1回以上』が76.0%とおよそ7割以上を占めている。一方、ほとんど外出しないと回答した人にその理由を聞いたところ、「外出する必要がない」が28.1%と最も高く、「その他」(28.1%)も並んでいる。次いで「障がいや疾病が重く、外出が難しい」(25.0%)、「家族や他人に面倒をかける」(18.8%)などとなっている。

外出するうえで困ることは、「特に困ることはない」が33.1%で最も高いが、具体的な回答の中では「人目が気になる」が23.2%と最も高く、次いで「コミュニケーションが難しい」(19.1%)、「電車・バスなどへの乗車が難しい」(11.8%)などとなっているほか、「その他」(14.0%)も一定の割合を占めている。

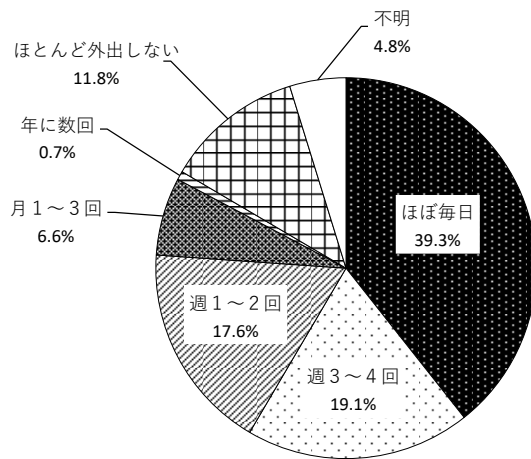
- ◎ 精神障がい者は、知的障がい者と同様に、外出について、ハード的な障壁よりも、人目やコミュニケーションなどのソフト的な障壁を課題に挙げている方が多い。

■ 外出頻度【SA】

問34 あなたの外出頻度はどの位ですか。(1つだけ○印)

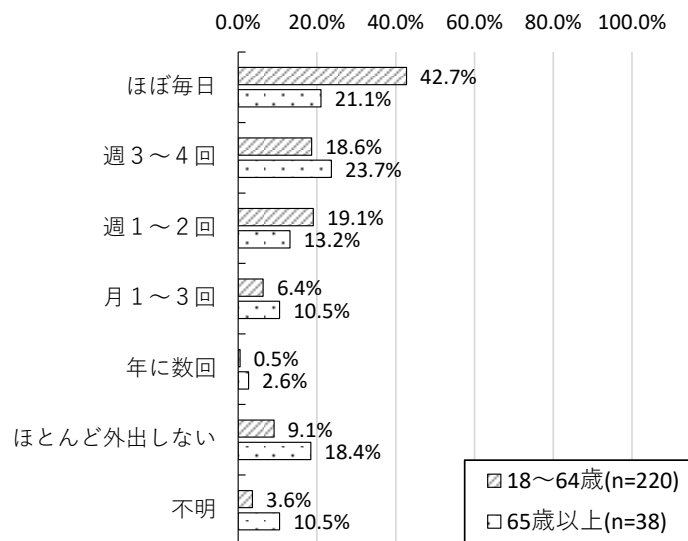
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ほぼ毎日	107	39.3%	94	42.7%	8	21.1%
2	週3～4回	52	19.1%	41	18.6%	9	23.7%
3	週1～2回	48	17.6%	42	19.1%	5	13.2%
4	月1～3回	18	6.6%	14	6.4%	4	10.5%
5	年に数回	2	0.7%	1	0.5%	1	2.6%
6	ほとんど外出しない	32	11.8%	20	9.1%	7	18.4%
	不明	13	4.8%	8	3.6%	4	10.5%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

外出頻度(全体)



(n=272)

外出頻度(年代別)

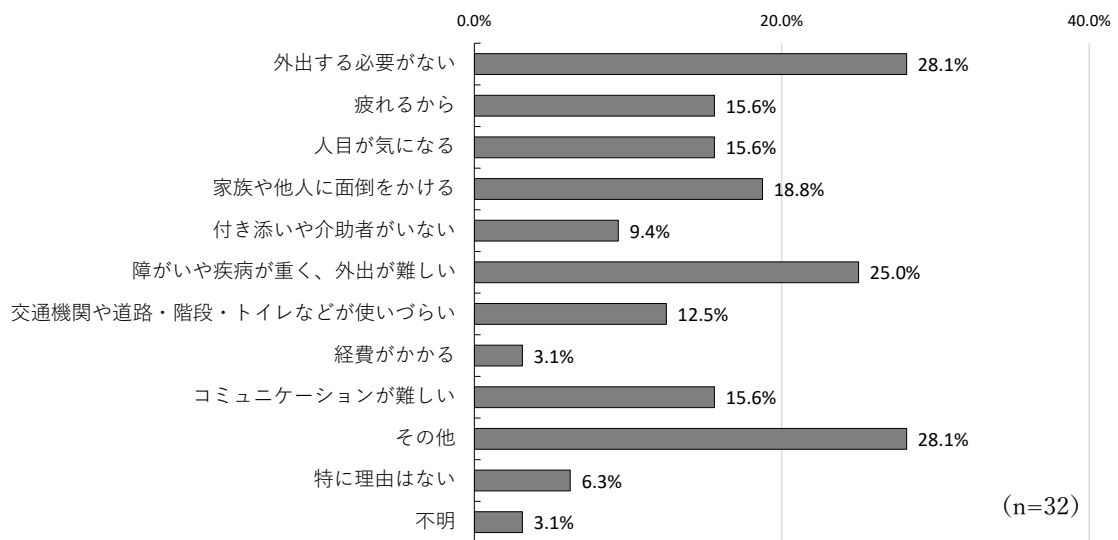


■ 外出しない理由【MA】

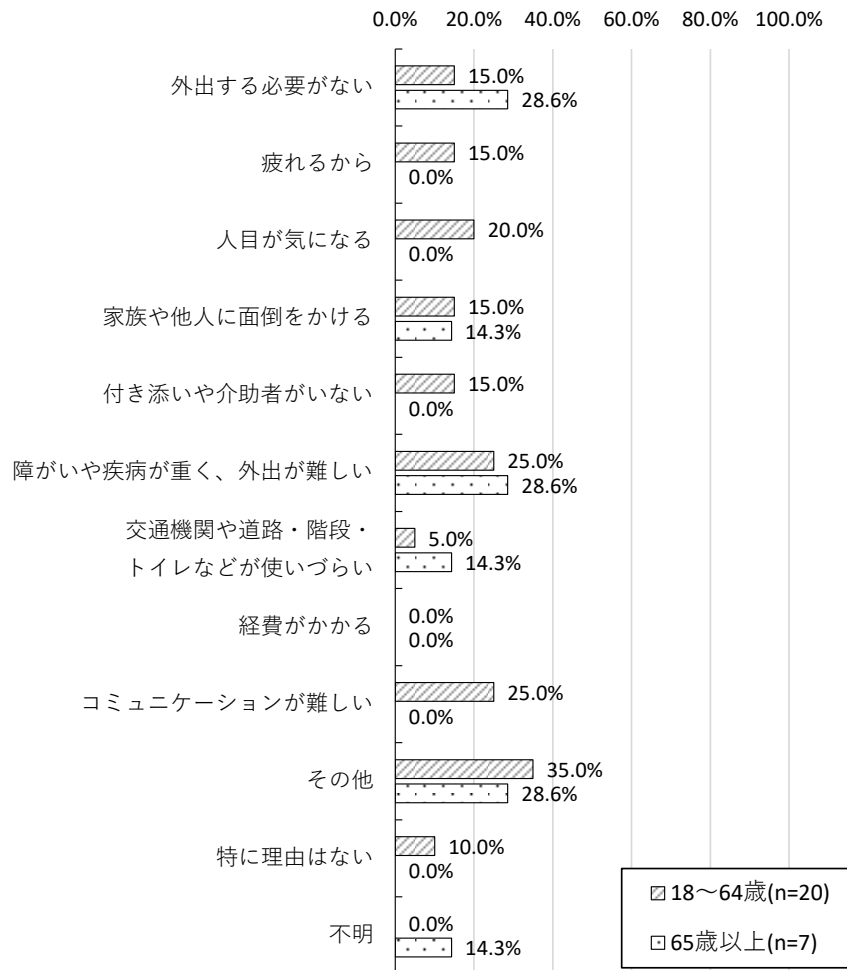
問35 問34で「6」を回答した方におたずねします。あなたが外出しない主な理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	外出する必要がない	9	28.1%	3	15.0%	2	28.6%
2	疲れるから	5	15.6%	3	15.0%	0	0.0%
3	人目が気になる	5	15.6%	4	20.0%	0	0.0%
4	家族や他人に面倒をかける	6	18.8%	3	15.0%	1	14.3%
5	付き添いや介助者がいない	3	9.4%	3	15.0%	0	0.0%
6	障がいや疾病が重く、外出が難しい	8	25.0%	5	25.0%	2	28.6%
7	交通機関や道路・階段・トイレなどが使いづらい	4	12.5%	1	5.0%	1	14.3%
8	経費がかかる	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
9	コミュニケーションが難しい	5	15.6%	5	25.0%	0	0.0%
10	その他	9	28.1%	7	35.0%	2	28.6%
11	特に理由はない	2	6.3%	2	10.0%	0	0.0%
	不明	1	3.1%	0	0.0%	1	14.3%
	全体	32	100.0%	20	100.0%	7	100.0%

外出しない理由(全体)



外出しない理由(年代別)

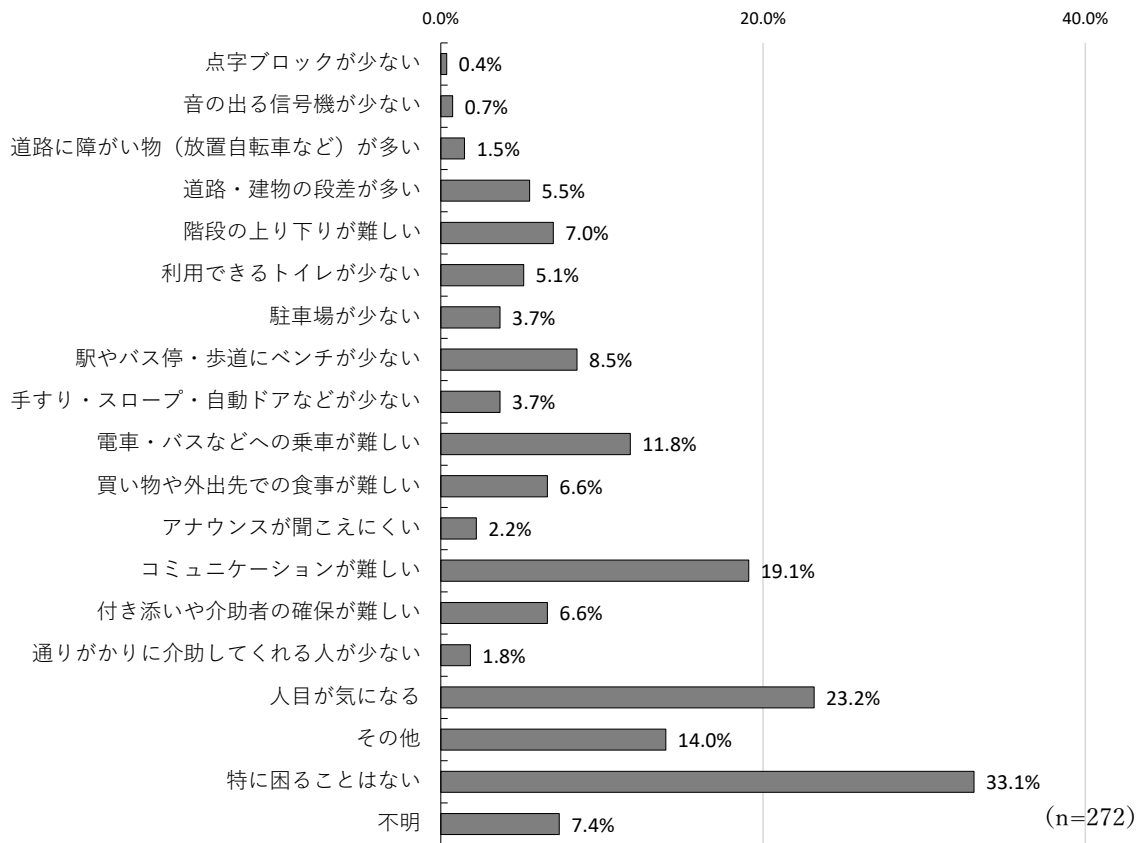


■ 外出するうえでの困りごと【MA】

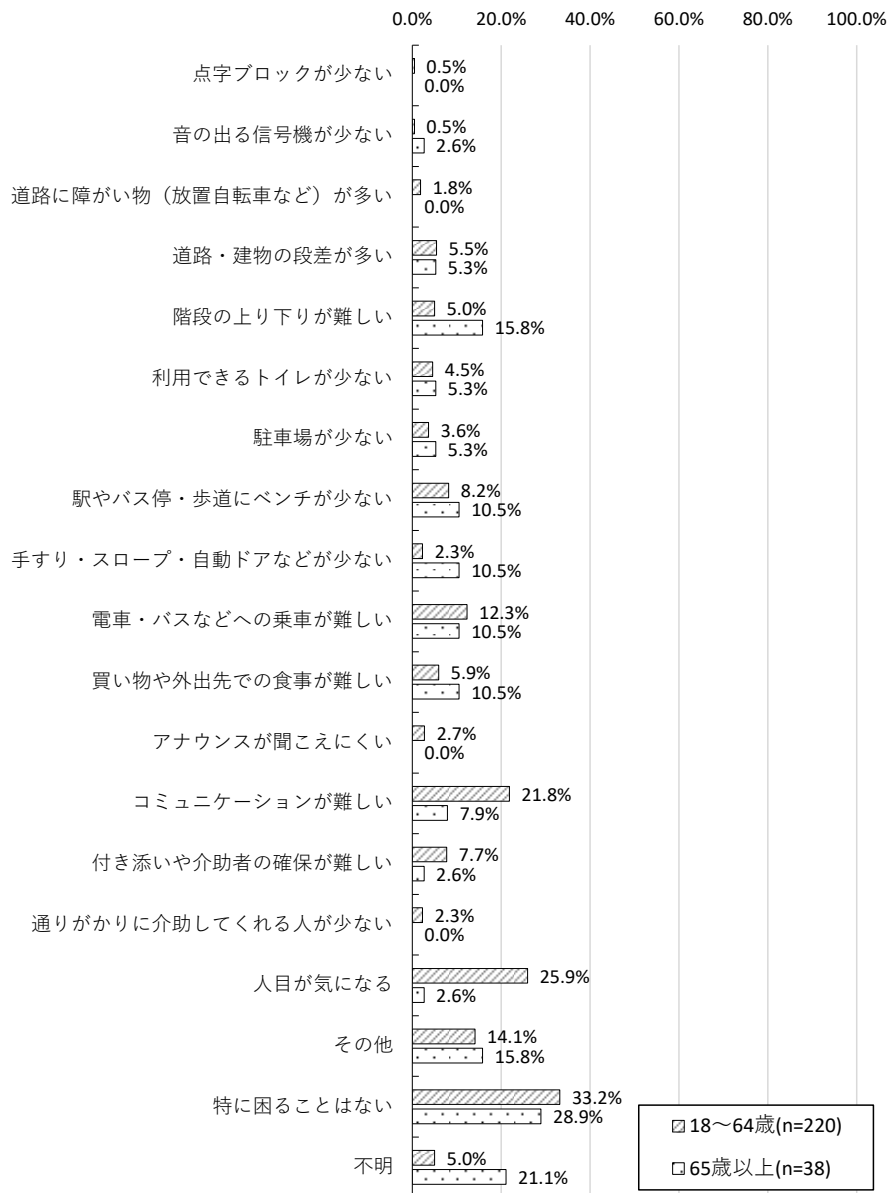
問36 あなたが外出するうえで困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	点字ブロックが少ない	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
2	音の出る信号機が少ない	2	0.7%	1	0.5%	1	2.6%
3	道路に障がい物（放置自転車など）が多い	4	1.5%	4	1.8%	0	0.0%
4	道路・建物の段差が多い	15	5.5%	12	5.5%	2	5.3%
5	階段の上り下りが難しい	19	7.0%	11	5.0%	6	15.8%
6	利用できるトイレが少ない	14	5.1%	10	4.5%	2	5.3%
7	駐車場が少ない	10	3.7%	8	3.6%	2	5.3%
8	駅やバス停・歩道にベンチが少ない	23	8.5%	18	8.2%	4	10.5%
9	手すり・スロープ・自動ドアなどが少ない	10	3.7%	5	2.3%	4	10.5%
10	電車・バスなどへの乗車が難しい	32	11.8%	27	12.3%	4	10.5%
11	買い物や外出先での食事が難しい	18	6.6%	13	5.9%	4	10.5%
12	アナウンスが聞こえにくい	6	2.2%	6	2.7%	0	0.0%
13	コミュニケーションが難しい	52	19.1%	48	21.8%	3	7.9%
14	付き添いや介助者の確保が難しい	18	6.6%	17	7.7%	1	2.6%
15	通りがかりに介助してくれる人が少ない	5	1.8%	5	2.3%	0	0.0%
16	人目が気になる	63	23.2%	57	25.9%	1	2.6%
17	その他	38	14.0%	31	14.1%	6	15.8%
18	特に困ることはない	90	33.1%	73	33.2%	11	28.9%
	不明	20	7.4%	11	5.0%	8	21.1%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

外出するうえでの困りごと(全体)



外出するうえでの困りごと(年代別)



(8)余暇活動について

余暇の過ごし方については、「家でくつろぐ」が69.1%と最も高く、次いで「趣味・学習活動などをする」(26.8%)、「買い物やデパートや店を見て歩く」(23.9%)などとなっている。余暇に特に何もしていないと回答した人に、その理由を聞いたところ、「病状が重いため」が41.4%と最も高く、次いで「何をしたらよいかわからない」(34.5%)が続いたほか、「その他」も27.6%と一定の割合を占めた。

障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動への参加意向を聞いたところ、「興味がない」(66.5%)が『参加する(したい)』(27.9% : 「すでに参加している」(3.3%) + 「参加してみたい」(24.6%))を38.6ポイント上回っている。

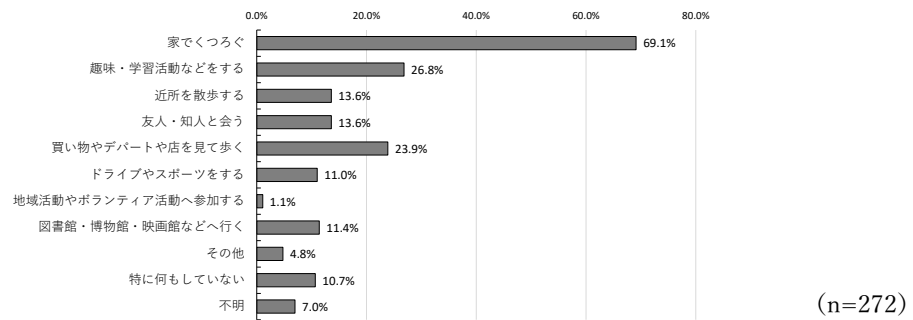
- ◎ 精神障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動への参加意向について、「参加してみたい」との回答割合は27.9%で、身体障がい者よりは高いが、知的障がい者よりは低い。また、「興味がない」との回答は6割を超えており、この傾向は前回調査と同様である。引き続き、関係団体と連携し、障がい者の参加を促していくような取り組みが必要である。

■ 余暇の過ごし方【MA】

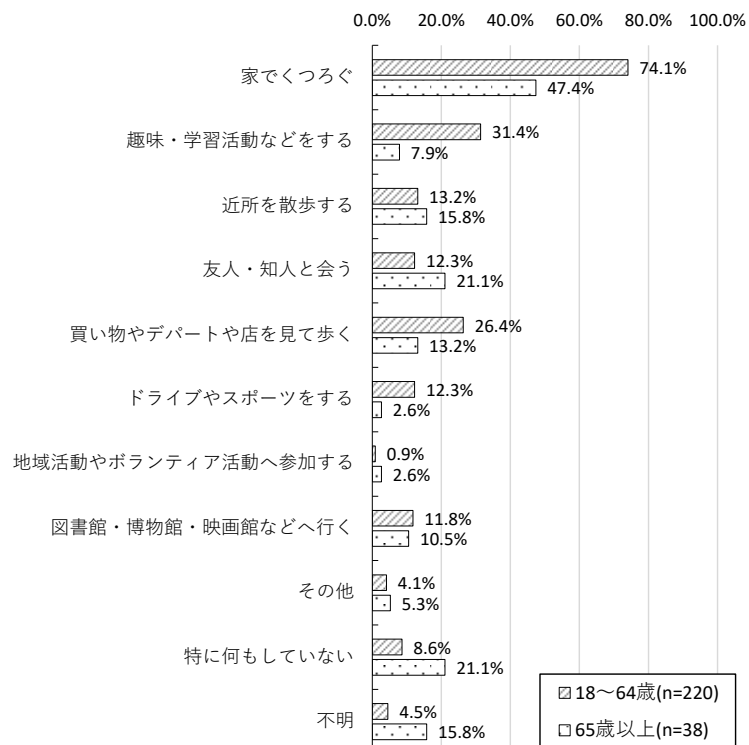
問37 あなたはどのように余暇などを過ごしていますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	家でくつろぐ	188	69.1%	163	74.1%	18	47.4%
2	趣味・学習活動などをする	73	26.8%	69	31.4%	3	7.9%
3	近所を散歩する	37	13.6%	29	13.2%	6	15.8%
4	友人・知人と会う	37	13.6%	27	12.3%	8	21.1%
5	買い物やデパートや店を見て歩く	65	23.9%	58	26.4%	5	13.2%
6	ドライブやスポーツをする	30	11.0%	27	12.3%	1	2.6%
7	地域活動やボランティア活動へ参加する	3	1.1%	2	0.9%	1	2.6%
8	図書館・博物館・映画館などへ行く	31	11.4%	26	11.8%	4	10.5%
9	その他	13	4.8%	9	4.1%	2	5.3%
10	特に何もしていない	29	10.7%	19	8.6%	8	21.1%
	不明	19	7.0%	10	4.5%	6	15.8%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

余暇の過ごし方(全体)



余暇の過ごし方(年代別)

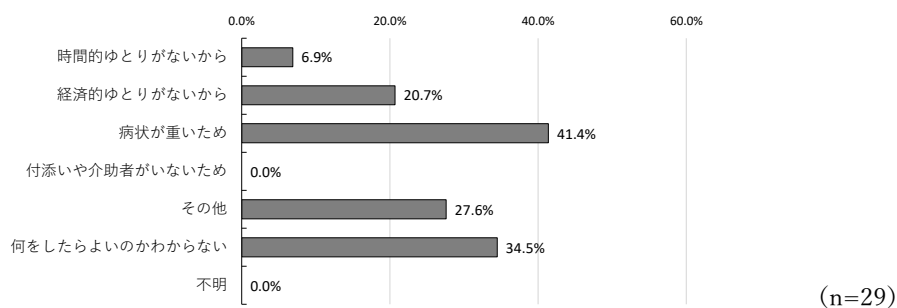


■ 余暇活動をしない理由【MA】

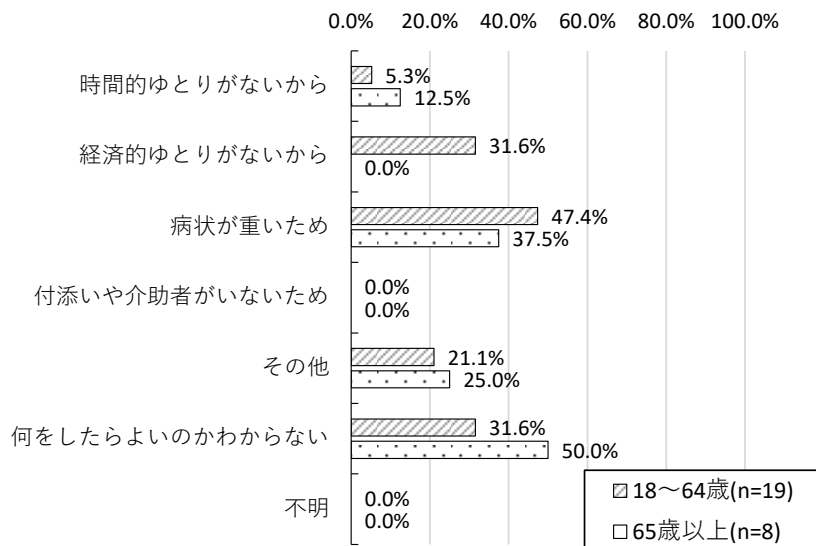
問38 問37で「10」と回答した方におたずねします。あなたが特に何もしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	時間的ゆとりがないから	2	6.9%	1	5.3%	1	12.5%
2	経済的ゆとりがないから	6	20.7%	6	31.6%	0	0.0%
3	病状が重い	12	41.4%	9	47.4%	3	37.5%
4	付添いや介助者がいないため	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5	その他	8	27.6%	4	21.1%	2	25.0%
6	何をしたらよいのかわからない	10	34.5%	6	31.6%	4	50.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	29	100.0%	19	100.0%	8	100.0%

余暇活動をしない理由(全体)



余暇活動をしない理由(年代別)

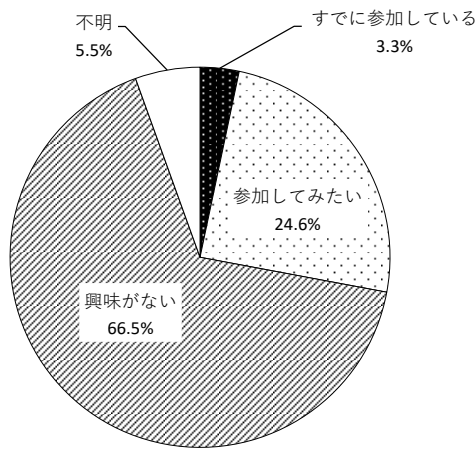


■ 芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向【SA】

問39 障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動に参加してみたいですか。(1つだけ○印)

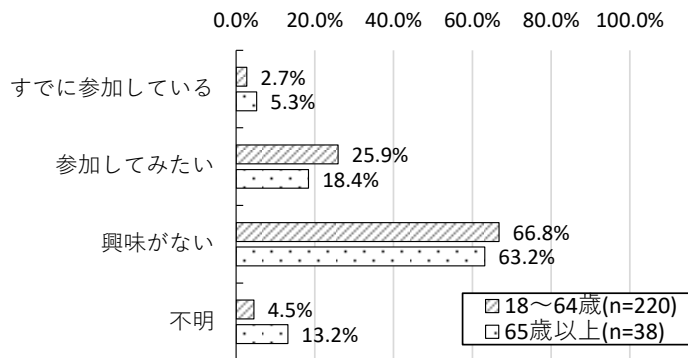
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	すでに参加している	9	3.3%	6	2.7%	2	5.3%
2	参加してみたい	67	24.6%	57	25.9%	7	18.4%
3	興味がない	181	66.5%	147	66.8%	24	63.2%
	不明	15	5.5%	10	4.5%	5	13.2%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向(全体)



(n=272)

芸術文化活動・スポーツ活動への参加意向(年代別)



(9) 権利擁護について

平成 29 年 4 月より施行された「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」について聞いたところ、「知らない」(87.1%)が「知っている」(11.0%)を 76.1 ポイント差と大きく上回っている。

日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じるかを聞いたところ、「ある」(41.9%)が「ない」(20.6%)を 21.3 ポイント上回った。一方、「わからない」と態度を保留する人も 35.3%と一定の割合を占めている。

障がい者に対する差別・偏見があると感じている人に、どのようなところにもっとも強く障がい者に対する差別・偏見または疎外感を感じるかを聞いたところ、「仕事や収入」が 57.9%と最も高く、次いで「人の視線」(57.0%)、「隣近所の付き合い」(36.0%)などとなった。また、差別をされたり、いやな思いをしたときに相談した人については、「家族」が 49.1%と最も高く、「病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー」(32.5%)が続いた。一方、「相談しなかった」は 22.8%となっている。相談しなかったと回答した人の理由としては、「相談しても解決しないと思った」が 73.1%で最も高く、次いで「どこに相談すればよいのかわからなかった」(11.5%)、「相談する相手がいなかった」(7.7%)となっている。

差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものとしては、「障がいや病気への正しい理解の啓発」が 50.4%と最も高く、次いで「地域に気軽に相談できるサポートセンター」(27.9%)、「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」(23.2%)などとなっている。

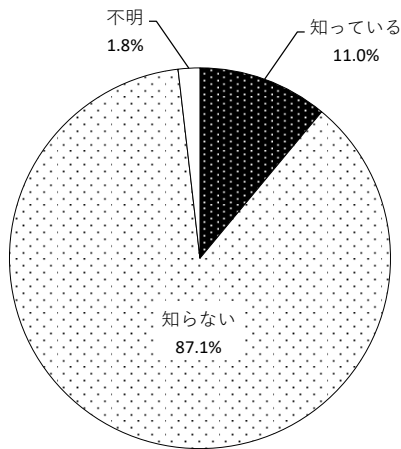
- ◎ 精神障がい者の「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」に関する認知は進んでおらず、これは身体障がい者、知的障がい者、その他市民に関しても同様である。今後、権利擁護に関する市民全体の意識を高めていくには、「障がいや病気への正しい理解の啓発」が特に重要と考えられる。

■ 条例の認知状況【SA】

問40 あなたは、平成29年4月より施行された「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。(1つだけ○印)

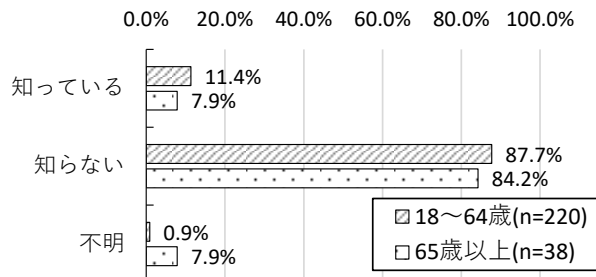
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	知っている	30	11.0%	25	11.4%	3	7.9%
2	知らない	237	87.1%	193	87.7%	32	84.2%
	不明	5	1.8%	2	0.9%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

条例の認知状況(全体)



(n=272)

条例の認知状況(年代別)

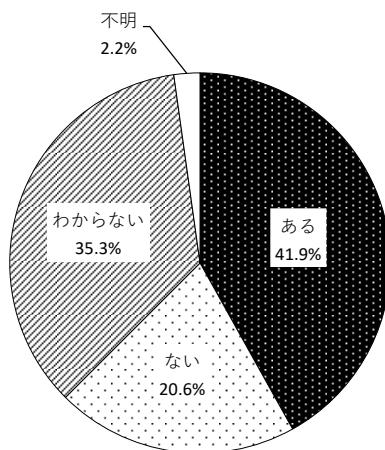


■ 差別や偏見・疎外感【SA】

問41 あなたは、日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じることはありませんか。(1つだけ○印)

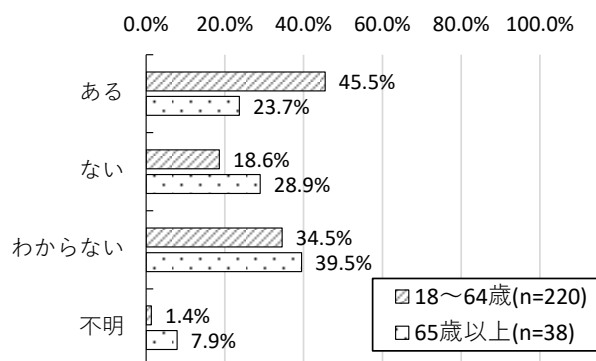
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ある	114	41.9%	100	45.5%	9	23.7%
2	ない	56	20.6%	41	18.6%	11	28.9%
3	わからない	96	35.3%	76	34.5%	15	39.5%
	不明	6	2.2%	3	1.4%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

差別や偏見・疎外感(全体)



(n=272)

差別や偏見・疎外感(年代別)

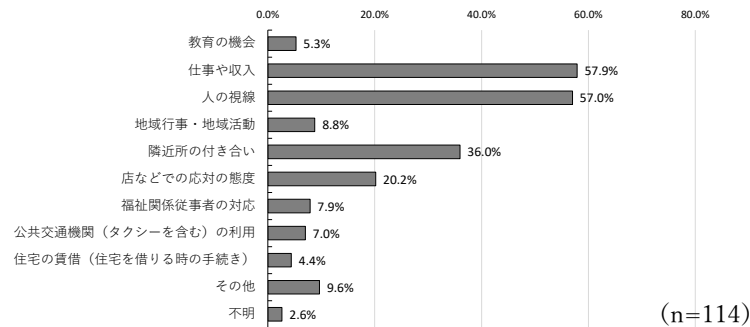


■ 差別・偏見や疎外感を感じる場面【MA】

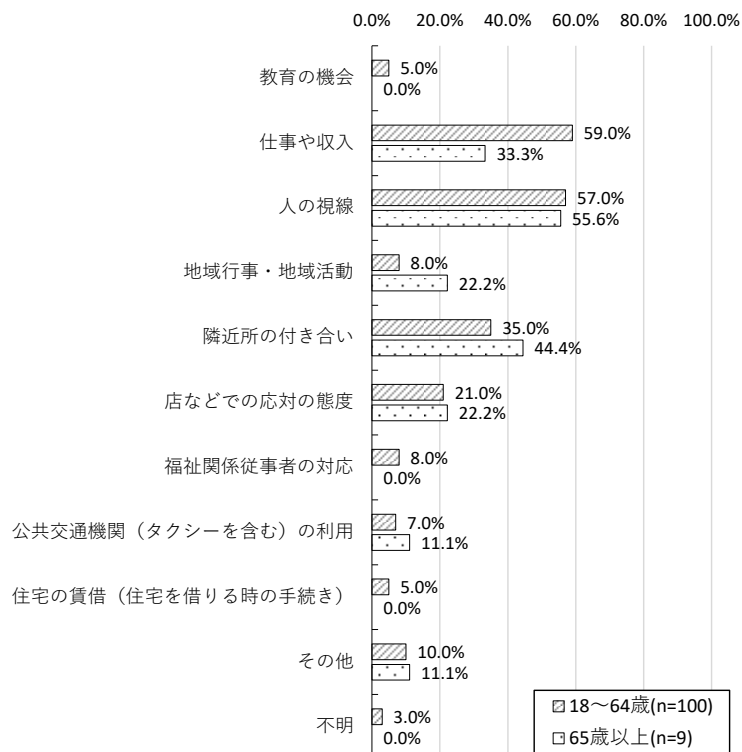
問42 問41で「1」を回答した方におたずねします。どのようなところに、もっとも強く障がい者に対する差別・偏見または疎外感を感じますか。（3つまで○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	教育の機会	6	5.3%	5	5.0%	0	0.0%
2	仕事や収入	66	57.9%	59	59.0%	3	33.3%
3	人の視線	65	57.0%	57	57.0%	5	55.6%
4	地域行事・地域活動	10	8.8%	8	8.0%	2	22.2%
5	隣近所の付き合い	41	36.0%	35	35.0%	4	44.4%
6	店などでの対応の態度	23	20.2%	21	21.0%	2	22.2%
7	福祉関係従事者の対応	9	7.9%	8	8.0%	0	0.0%
8	公共交通機関（タクシーを含む）の利用	8	7.0%	7	7.0%	1	11.1%
9	住宅の賃借（住宅を借りる時の手続き）	5	4.4%	5	5.0%	0	0.0%
10	その他	11	9.6%	10	10.0%	1	11.1%
	不明	3	2.6%	3	3.0%	0	0.0%
	全体	114	100.0%	100	100.0%	9	100.0%

差別・偏見や疎外感を感じる場面(全体)



差別・偏見や疎外感を感じる場面(年代別)

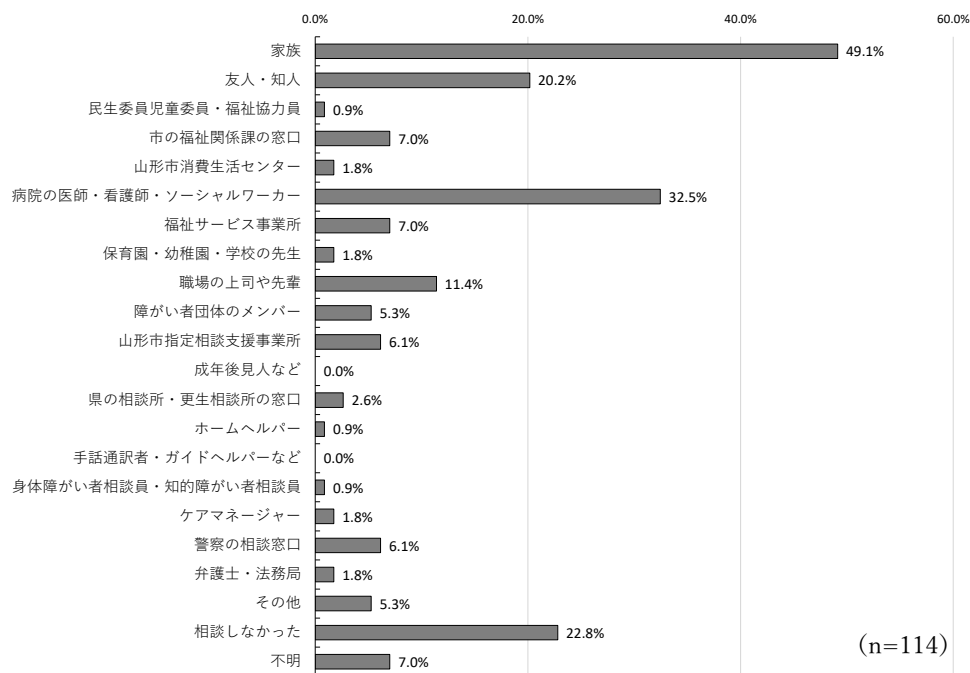


■ 差別を受けたときの相談相手【MA】

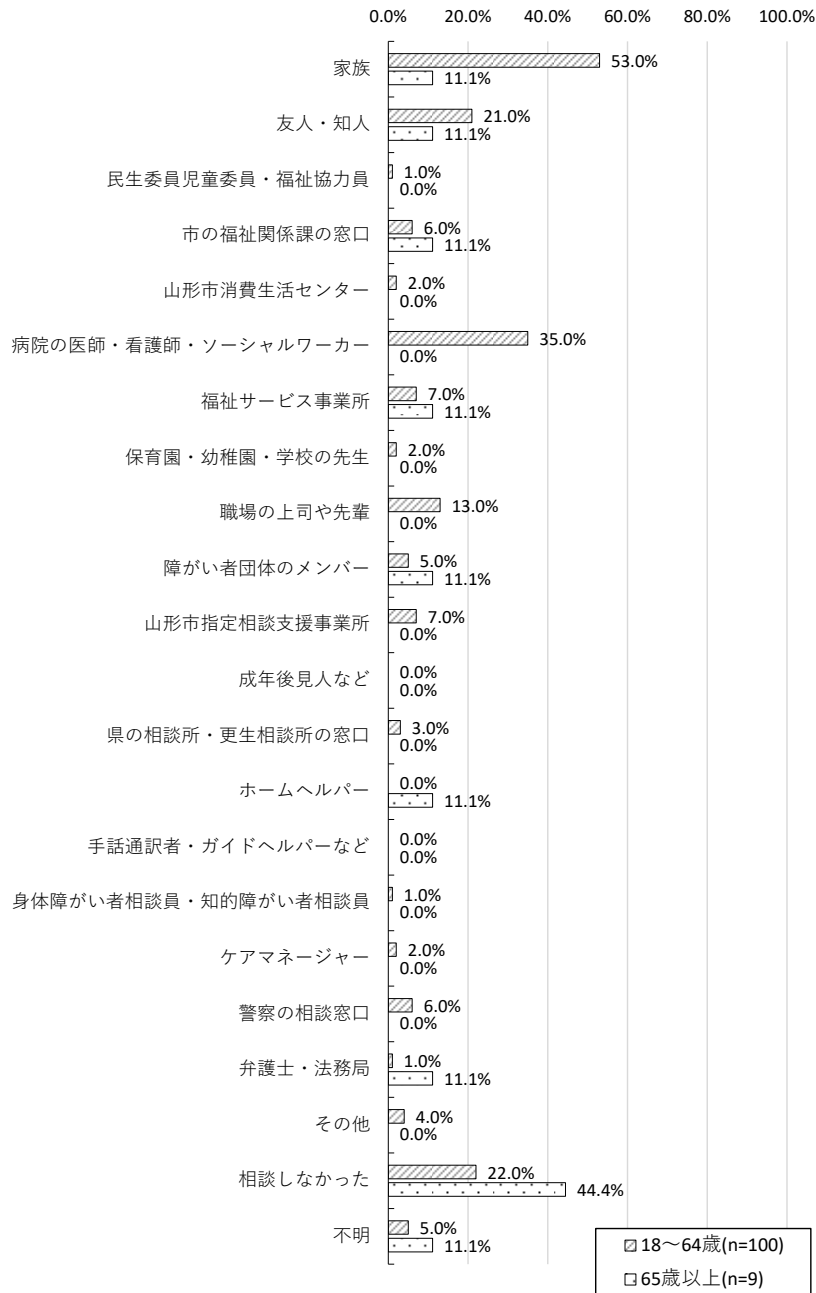
問43 問41で「1」を回答した方におたずねします。差別をされたり、いやな思いをしたときに誰に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	家族	56	49.1%	53	53.0%	1	11.1%
2	友人・知人	23	20.2%	21	21.0%	1	11.1%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	1	0.9%	1	1.0%	0	0.0%
4	市の福祉関係課の窓口	8	7.0%	6	6.0%	1	11.1%
5	山形市消費生活センター	2	1.8%	2	2.0%	0	0.0%
6	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	37	32.5%	35	35.0%	0	0.0%
7	福祉サービス事業所	8	7.0%	7	7.0%	1	11.1%
8	保育園・幼稚園・学校の先生	2	1.8%	2	2.0%	0	0.0%
9	職場の上司や先輩	13	11.4%	13	13.0%	0	0.0%
10	障がい者団体のメンバー	6	5.3%	5	5.0%	1	11.1%
11	山形市指定相談支援事業所	7	6.1%	7	7.0%	0	0.0%
12	成年後見人など	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
13	県の相談所・更生相談所の窓口	3	2.6%	3	3.0%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	1	0.9%	0	0.0%	1	11.1%
15	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	1	0.9%	1	1.0%	0	0.0%
17	ケアマネージャー	2	1.8%	2	2.0%	0	0.0%
18	警察の相談窓口	7	6.1%	6	6.0%	0	0.0%
19	弁護士・法務局	2	1.8%	1	1.0%	1	11.1%
20	その他	6	5.3%	4	4.0%	0	0.0%
21	相談しなかった	26	22.8%	22	22.0%	4	44.4%
	不明	8	7.0%	5	5.0%	1	11.1%
	全体	114	100.0%	100	100.0%	9	100.0%

差別を受けたときの相談相手(全体)



差別を受けたときの相談相手(年代別)

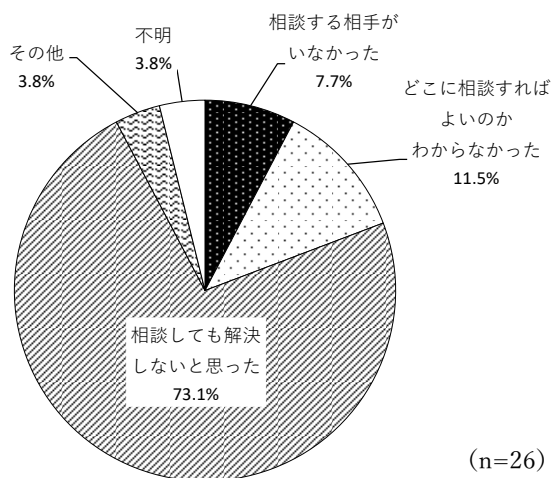


■ 差別を受けたときに相談しなかった理由【SA】

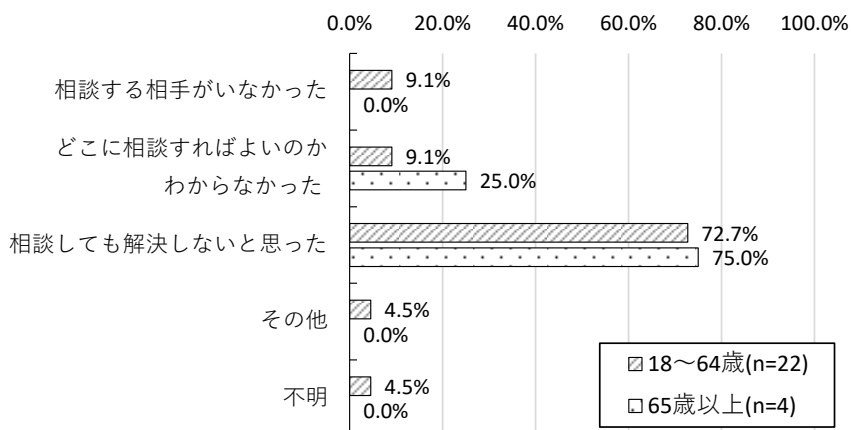
問44 問43で「21」を回答した方におたずねします。なぜ相談をしなかったのか理由を選んでください。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	相談する相手がいなかった	2	7.7%	2	9.1%	0	0.0%
2	どこに相談すればよいかわからなかった	3	11.5%	2	9.1%	1	25.0%
3	相談しても解決しなかったと思った	19	73.1%	16	72.7%	3	75.0%
4	その他	1	3.8%	1	4.5%	0	0.0%
	不明	1	3.8%	1	4.5%	0	0.0%
	全体	26	100.0%	22	100.0%	4	100.0%

差別を受けたときに相談しなかった理由(全体)



差別を受けたときに相談しなかった理由(年代別)

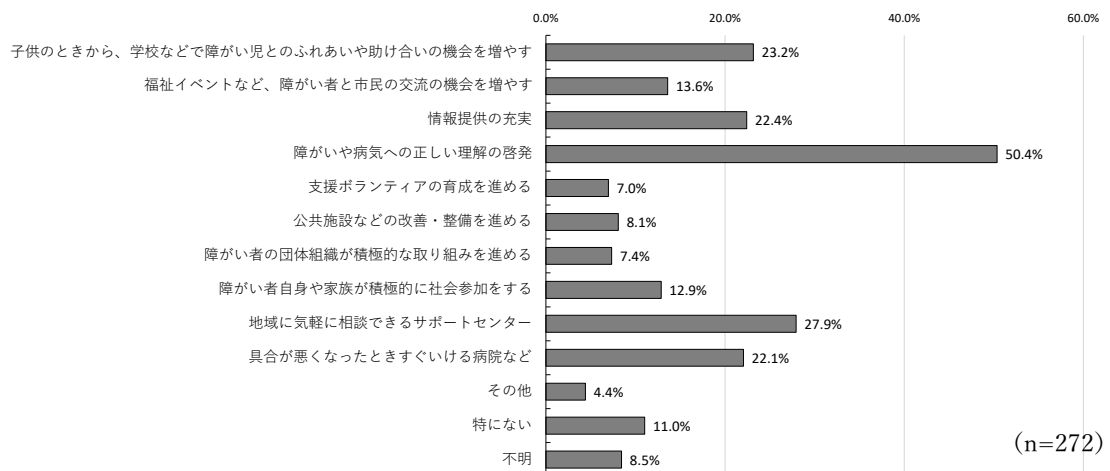


■ 差別や偏見等をなくすために必要なこと【MA】

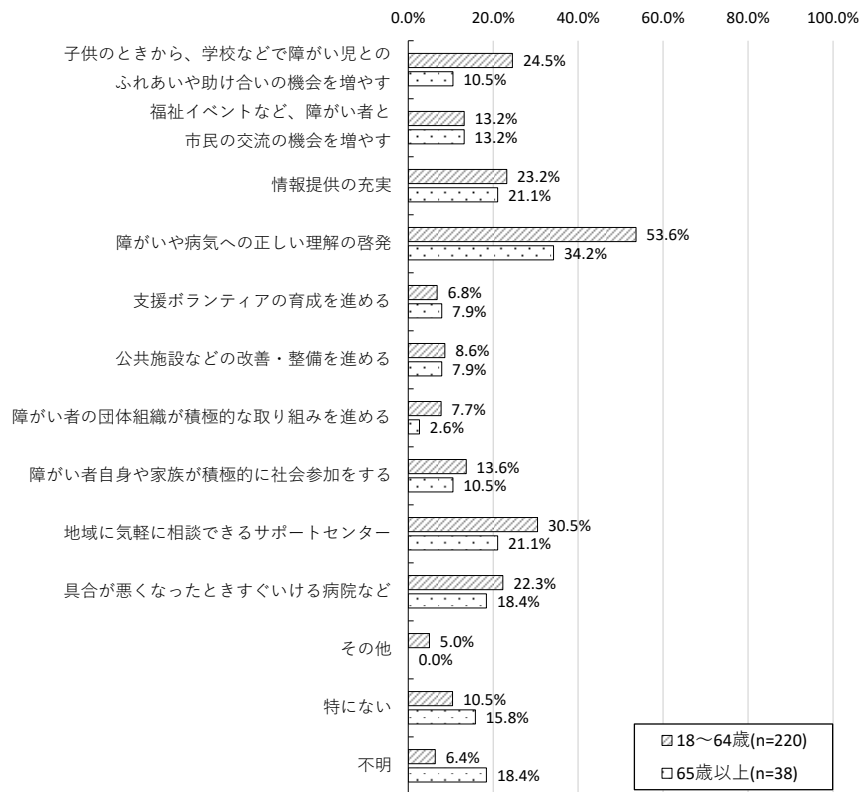
問45 あなたにとって差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。（3つまで○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	63	23.2%	54	24.5%	4	10.5%
2	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	37	13.6%	29	13.2%	5	13.2%
3	情報提供の充実	61	22.4%	51	23.2%	8	21.1%
4	障がいや病気への正しい理解の啓発	137	50.4%	118	53.6%	13	34.2%
5	支援ボランティアの育成を進める	19	7.0%	15	6.8%	3	7.9%
6	公共施設などの改善・整備を進める	22	8.1%	19	8.6%	3	7.9%
7	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	20	7.4%	17	7.7%	1	2.6%
8	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	35	12.9%	30	13.6%	4	10.5%
9	地域に気軽に相談できるサポートセンター	76	27.9%	67	30.5%	8	21.1%
10	具合が悪くなったときすぐいける病院など	60	22.1%	49	22.3%	7	18.4%
11	その他	12	4.4%	11	5.0%	0	0.0%
12	特にない	30	11.0%	23	10.5%	6	15.8%
	不明	23	8.5%	14	6.4%	7	18.4%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

差別や偏見等をなくすために必要なこと(全体)



差別や偏見等をなくすために必要なこと(年代別)



(10)相談・情報について

福祉サービスの利用にあたって相談する相手は、「家族」が61.8%と最も高く6割以上を占めている。次いで「病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー」(44.5%)、「市の福祉関係課の窓口」(21.7%)などとなっている。

相談機能を充実させるために必要だと思うこととしては、「身近な場所で相談できること」が35.3%と最も高く、次いで「適切なアドバイスができる人材」(32.7%)、「プライバシーの配慮」(29.0%)などとなっている。

福祉サービスの内容を知る手段としては、「市の広報・資料」が34.6%と最も高く、次いで「医療機関」(30.1%)、「インターネット」(15.8%)などとなっている。

今後(将来)の生活については、「自宅で家族と暮らしたい」が44.9%と最も高く、次いで「特に考えていない・まだよくわからない」(21.3%)、「自立して暮らしたい(家族と別居)」(18.8%)などとなっている。今後(将来)、「自立して暮らしたい(家族と別居)」または「世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい(グループホームなど)」と回答した人に、独立にあたり不安なことを聞いたところ、「収入の安定」が78.0%と最も高く、次いで「地域との関わり」及び「独立がうまくいかなかったとき」(ともに40.7%)、「障がいの状態に合った住宅の確保」(22.0%)などとなっている。また、今後(将来)、「世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい(グループホームなど)」または「施設に入所したい(または現在の施設に入所し続けたい)」と回答した人に、グループホームなどへの入居または施設への入所時期の意向を聞いたところ、「3～5年後」が24.0%で最も高く、「その他」も並んでいる。次いで「今すぐ」(20.0%)、「1～2年後」(12.0%)などとなっている。

悪質商法などの被害にあった経験については、「ない」(80.1%)が「ある」(16.5%)を63.6ポイント差と大きく上回った。悪質商法などの被害にあったことがある人に相談した相手を聞いたところ、「家族」が53.3%と最も高く、次いで「山形市消費生活センター」(33.3%)、「友人・知人」(22.2%)などとなっている。なお、「相談しなかった」と回答した人の理由は、「どこに相談すればよいのかわからなかった」(60.0%)が最も高くなっている。

今後の生活に対しての不安については、「生活費(経済的負担)」が68.8%と最も高く、次いで「身体のこと(医療や健康)」(67.3%)、「就職・仕事」(35.3%)、「生活全般を見守ってくれる人がいるかどうか不安」(33.5%)などとなっている。

今後、障がい者福祉を充実させるために山形市が特に力を入れていく必要があることについて聞いたところ、「経済面での支援が受けられる」が44.9%と最も高く、次いで「障がいや病気について周囲の人の理解」(34.9%)、「安心して住めるところがある」(27.9%)などとなっている。

- ◎ 福祉サービスの利用にあたり、相談機能を充実させるために必要なこととして前回調査と同様に「身近な場所で相談できること」「適切なアドバイスができる人材」などが高かった。また、相談相手としては「家族」のほか、「病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー」や「市の福祉

「精神障がい」調査結果

関係課の窓口」が挙がっており、相談内容によって適切な助言が受けられる相談先を選択していると考えられる。一方、福祉サービスの内容を知るうえでは、「市の広報・資料」および「医療機関」が情報入手手段としてニーズが高くなっており、より一層の情報提供の充実が求められる。

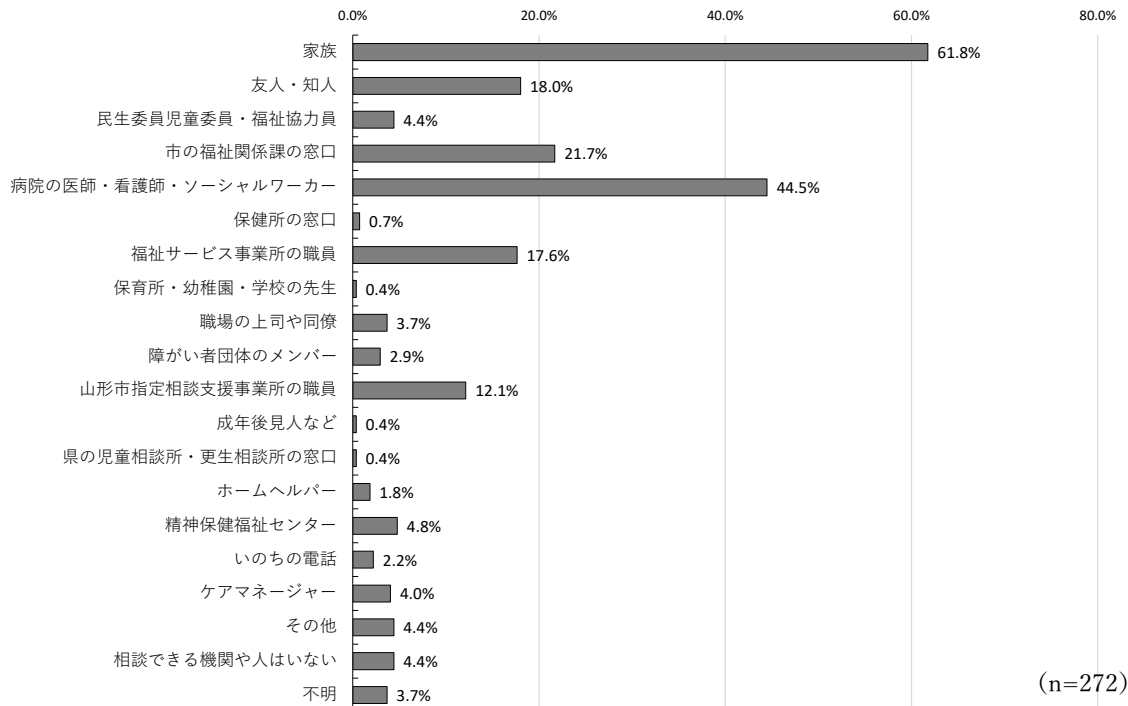
- ◎ 本市が障がい者福祉を充実させるために特に力を入れる必要があることとして、「経済面での支援が受けられる」と「障がいや病気について周囲の人の理解」の割合が高くなっており、精神障がい者が地域で暮らしていくためには、経済面での支援と精神疾患の理解が重視されていることがうかがえる。

■ 福祉サービス利用に際しての相談相手【MA】

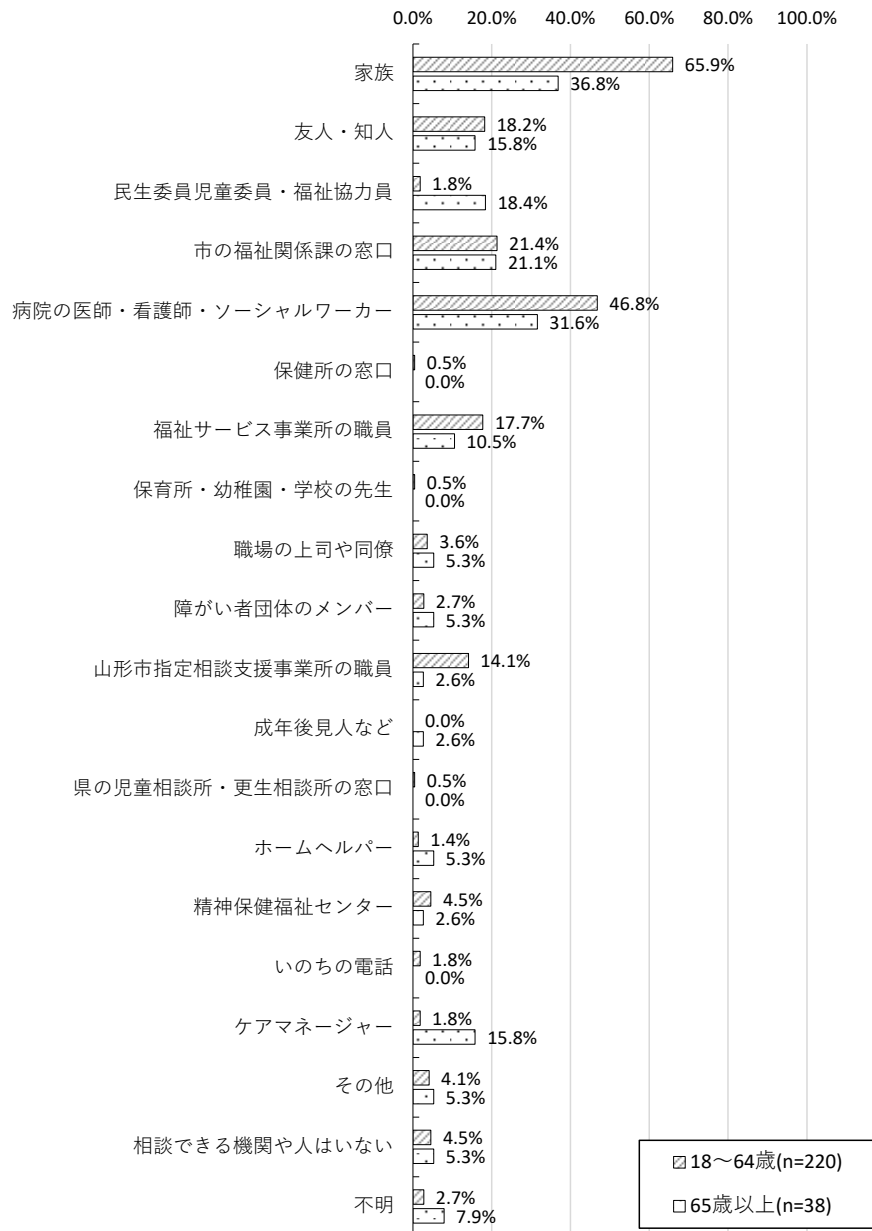
問46 あなたが福祉サービスの利用について相談する相手を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	家族	168	61.8%	145	65.9%	14	36.8%
2	友人・知人	49	18.0%	40	18.2%	6	15.8%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	12	4.4%	4	1.8%	7	18.4%
4	市の福祉関係課の窓口	59	21.7%	47	21.4%	8	21.1%
5	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	121	44.5%	103	46.8%	12	31.6%
6	保健所の窓口	2	0.7%	1	0.5%	0	0.0%
7	福祉サービス事業所の職員	48	17.6%	39	17.7%	4	10.5%
8	保育所・幼稚園・学校の先生	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
9	職場の上司や同僚	10	3.7%	8	3.6%	2	5.3%
10	障がい者団体のメンバー	8	2.9%	6	2.7%	2	5.3%
11	山形市指定相談支援事業所の職員	33	12.1%	31	14.1%	1	2.6%
12	成年後見人など	1	0.4%	0	0.0%	1	2.6%
13	県の児童相談所・更生相談所の窓口	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	5	1.8%	3	1.4%	2	5.3%
15	精神保健福祉センター	13	4.8%	10	4.5%	1	2.6%
16	いのちの電話	6	2.2%	4	1.8%	0	0.0%
17	ケアマネージャー	11	4.0%	4	1.8%	6	15.8%
18	その他	12	4.4%	9	4.1%	2	5.3%
19	相談できる機関や人はいない	12	4.4%	10	4.5%	2	5.3%
	不明	10	3.7%	6	2.7%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

福祉サービス利用に際しての相談相手(全体)



福祉サービス利用に際しての相談相手(年代別)

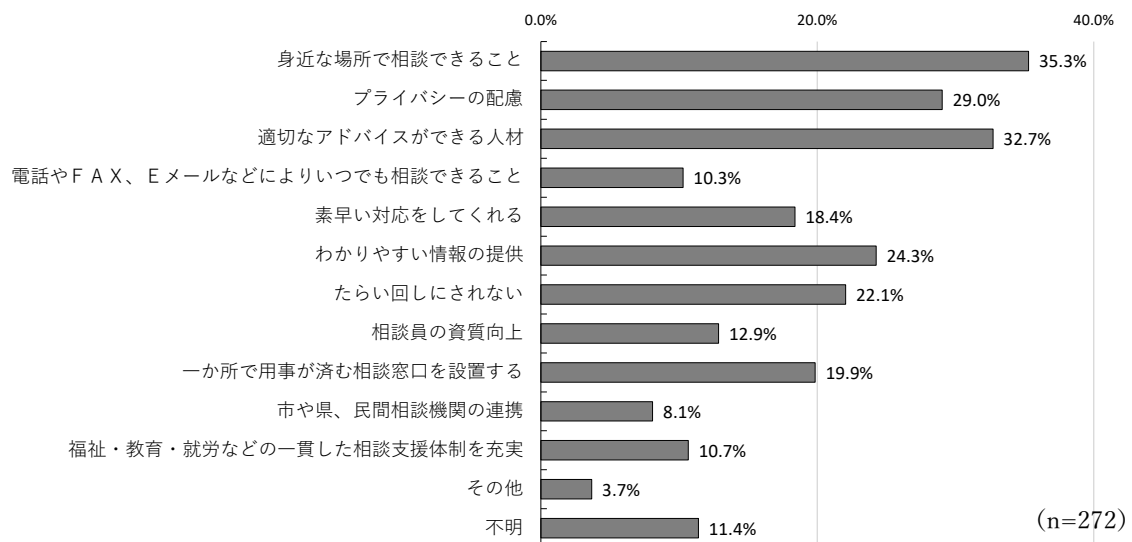


■ 相談機能を充実させるために必要なこと【MA】

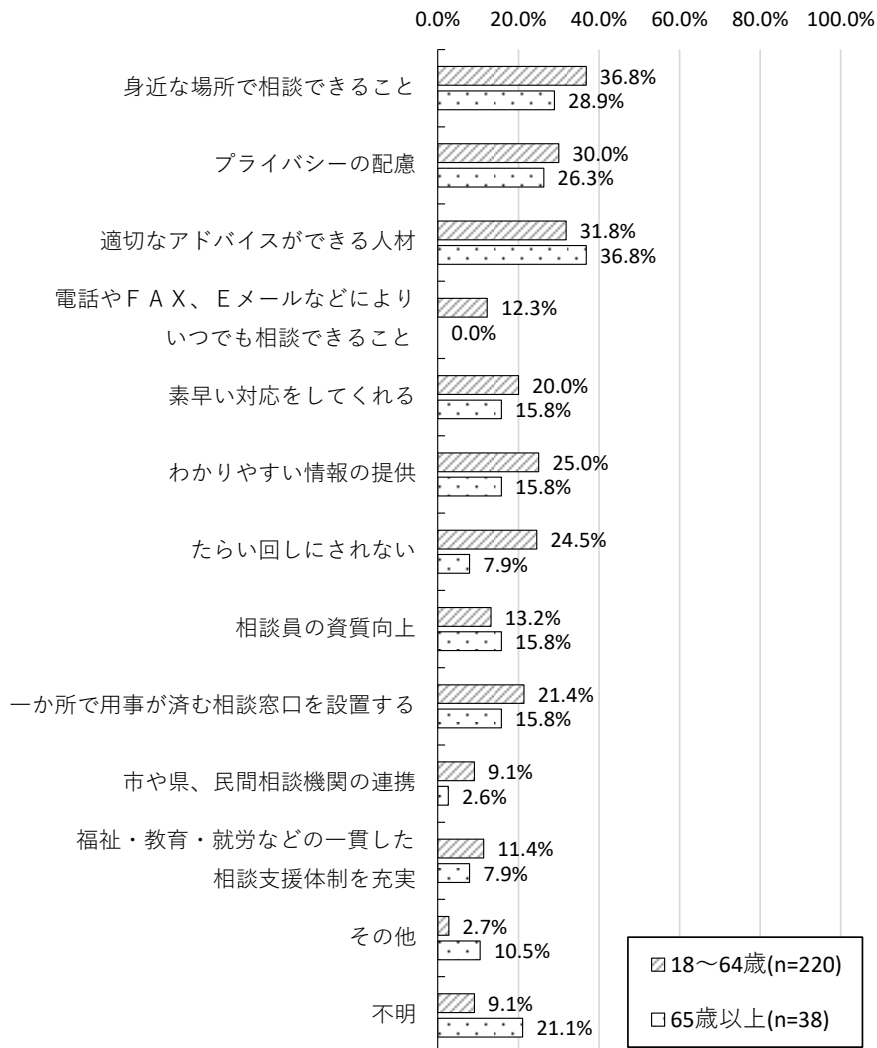
問47 相談機能を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	身近な場所で相談できること	96	35.3%	81	36.8%	11	28.9%
2	プライバシーの配慮	79	29.0%	66	30.0%	10	26.3%
3	適切なアドバイスができる人材	89	32.7%	70	31.8%	14	36.8%
4	電話やFAX、Eメールなどによりいつでも相談できること	28	10.3%	27	12.3%	0	0.0%
5	素早い対応をしてくれる	50	18.4%	44	20.0%	6	15.8%
6	わかりやすい情報の提供	66	24.3%	55	25.0%	6	15.8%
7	たらい回しにされない	60	22.1%	54	24.5%	3	7.9%
8	相談員の資質向上	35	12.9%	29	13.2%	6	15.8%
9	一か所で用事が済む相談窓口を設置する	54	19.9%	47	21.4%	6	15.8%
10	市や県、民間相談機関の連携	22	8.1%	20	9.1%	1	2.6%
11	福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実	29	10.7%	25	11.4%	3	7.9%
12	その他	10	3.7%	6	2.7%	4	10.5%
	不明	31	11.4%	20	9.1%	8	21.1%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

相談機能を充実させるために必要なこと(全体)



相談機能を充実させるために必要なこと(年代別)

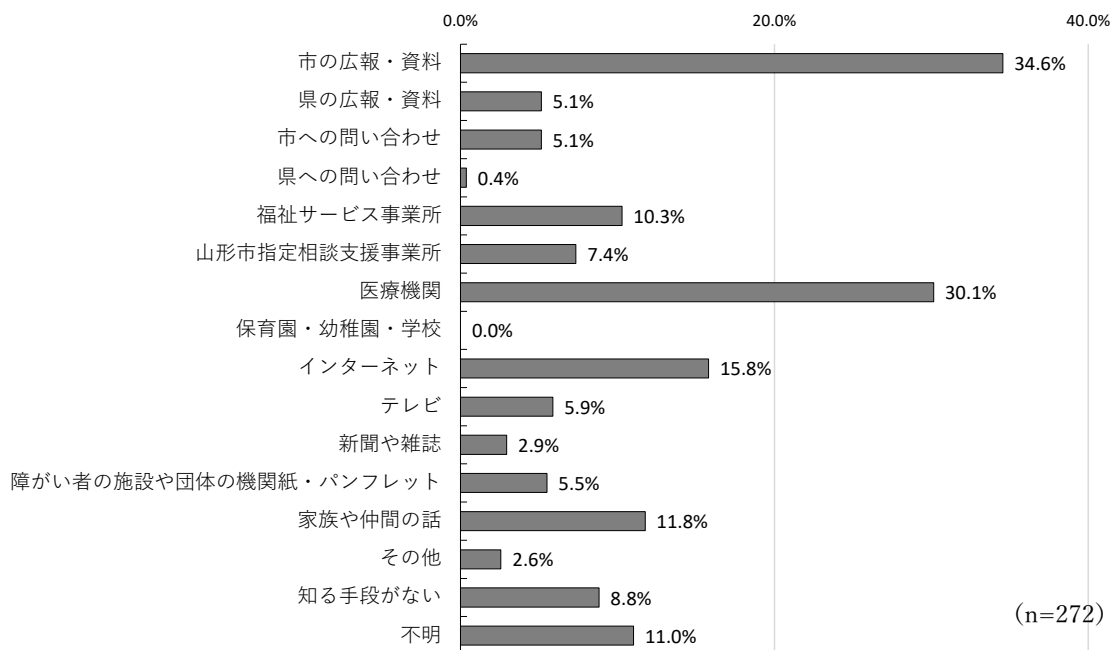


■ 福祉サービスの情報入手手段【MA】

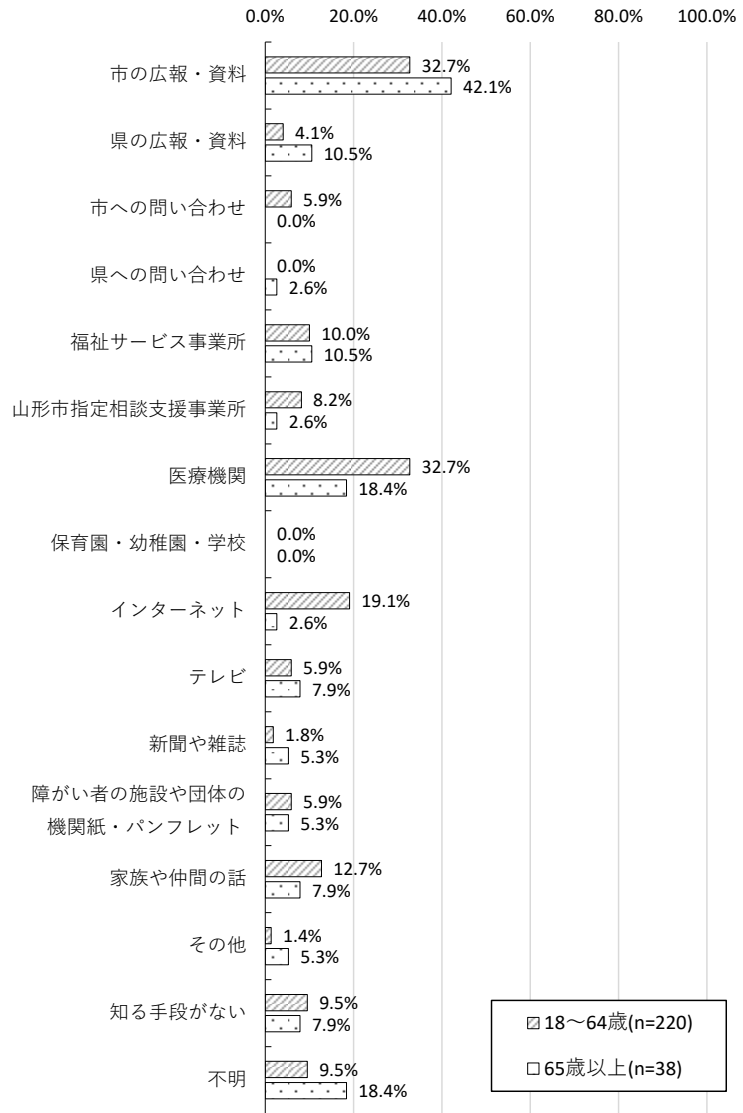
問48 あなたは、福祉サービスの内容について、どのようなもので知ることが多いですか。(2つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	市の広報・資料	94	34.6%	72	32.7%	16	42.1%
2	県の広報・資料	14	5.1%	9	4.1%	4	10.5%
3	市への問い合わせ	14	5.1%	13	5.9%	0	0.0%
4	県への問い合わせ	1	0.4%	0	0.0%	1	2.6%
5	福祉サービス事業所	28	10.3%	22	10.0%	4	10.5%
6	山形市指定相談支援事業所	20	7.4%	18	8.2%	1	2.6%
7	医療機関	82	30.1%	72	32.7%	7	18.4%
8	保育園・幼稚園・学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	インターネット	43	15.8%	42	19.1%	1	2.6%
10	テレビ	16	5.9%	13	5.9%	3	7.9%
11	新聞や雑誌	8	2.9%	4	1.8%	2	5.3%
12	障がいの施設や団体の機関紙・パンフレット	15	5.5%	13	5.9%	2	5.3%
13	家族や仲間の話	32	11.8%	28	12.7%	3	7.9%
14	その他	7	2.6%	3	1.4%	2	5.3%
15	知る手段がない	24	8.8%	21	9.5%	3	7.9%
	不明	30	11.0%	21	9.5%	7	18.4%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

福祉サービスの情報入手手段(全体)



福祉サービスの情報入手手段(年代別)

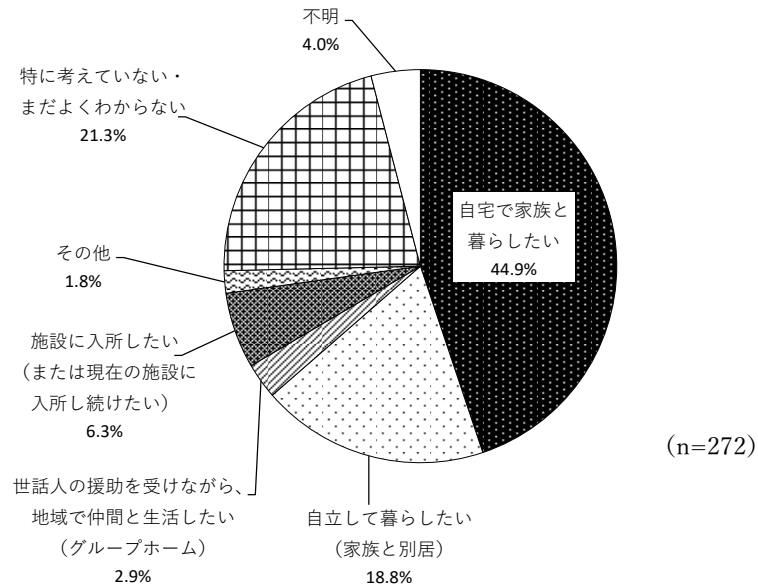


■ 今後の生活意向【SA】

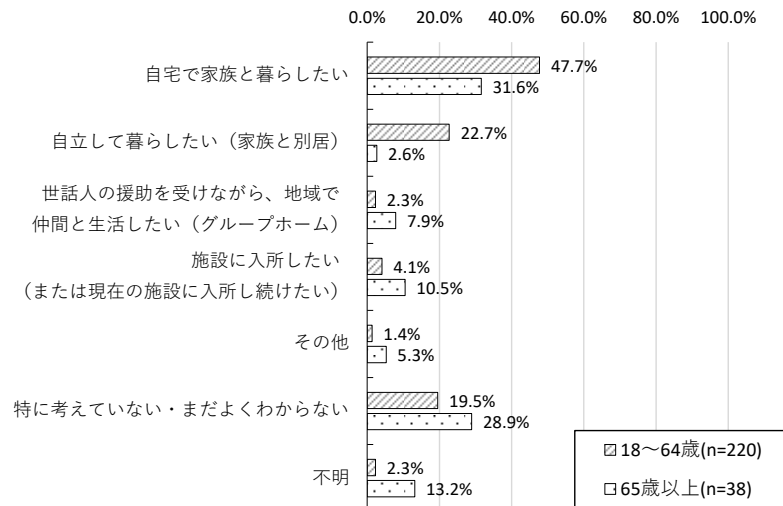
問49 あなたは、今後(将来)どのように生活したい(させたい)ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	自宅で家族と暮らしたい	122	44.9%	105	47.7%	12	31.6%
2	自立して暮らしたい(家族と別居)	51	18.8%	50	22.7%	1	2.6%
3	世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい(グループホーム)	8	2.9%	5	2.3%	3	7.9%
4	施設に入所したい(または現在の施設に入所し続けたい)	17	6.3%	9	4.1%	4	10.5%
5	その他	5	1.8%	3	1.4%	2	5.3%
6	特に考えていない・まだよくわからない	58	21.3%	43	19.5%	11	28.9%
	不明	11	4.0%	5	2.3%	5	13.2%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

今後の生活意向(全体)



今後の生活意向(年代別)

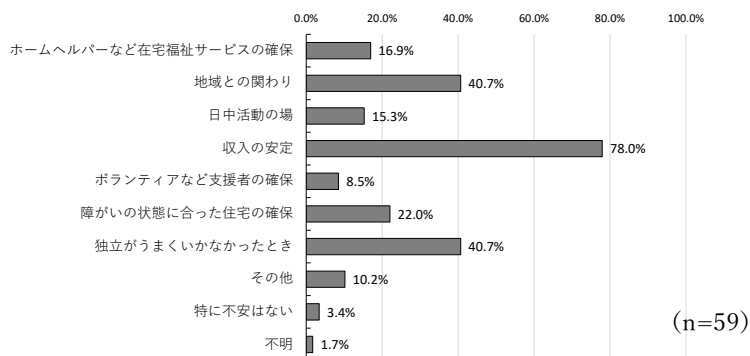


■ 独立にあたっての不安【MA】

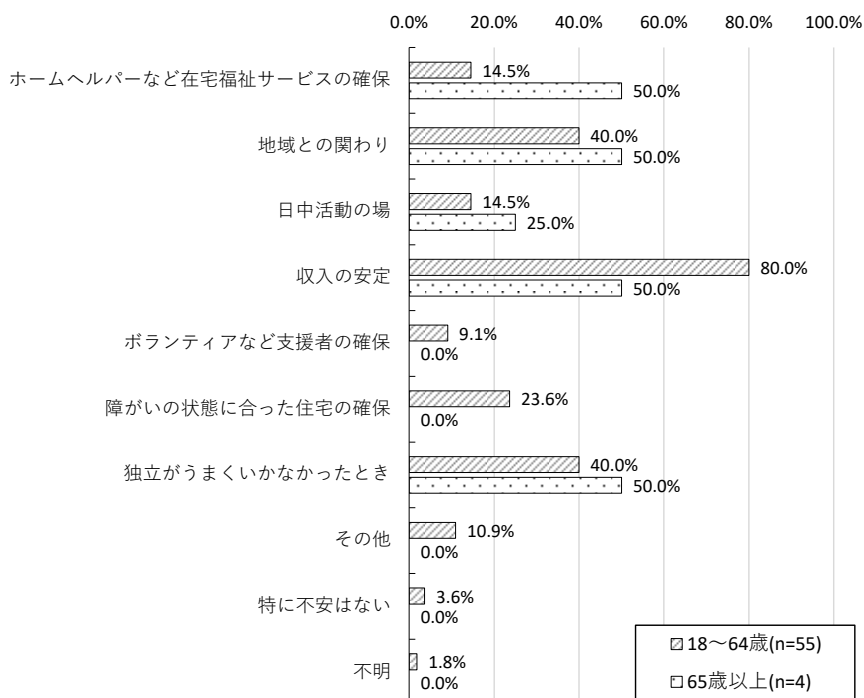
問50 問49で「2」または「3」を回答した方におたずねします。独立にあたり、どのようなことが不安ですか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保	10	16.9%	8	14.5%	2	50.0%
2	地域との関わり	24	40.7%	22	40.0%	2	50.0%
3	日中活動の場	9	15.3%	8	14.5%	1	25.0%
4	収入の安定	46	78.0%	44	80.0%	2	50.0%
5	ボランティアなど支援者の確保	5	8.5%	5	9.1%	0	0.0%
6	障がいの状態に合った住宅の確保	13	22.0%	13	23.6%	0	0.0%
7	独立がうまくいかなかったとき	24	40.7%	22	40.0%	2	50.0%
8	その他	6	10.2%	6	10.9%	0	0.0%
9	特に不安はない	2	3.4%	2	3.6%	0	0.0%
	不明	1	1.7%	1	1.8%	0	0.0%
	全体	59	100.0%	55	100.0%	4	100.0%

独立にあたっての不安(全体)



独立にあたっての不安(年代別)

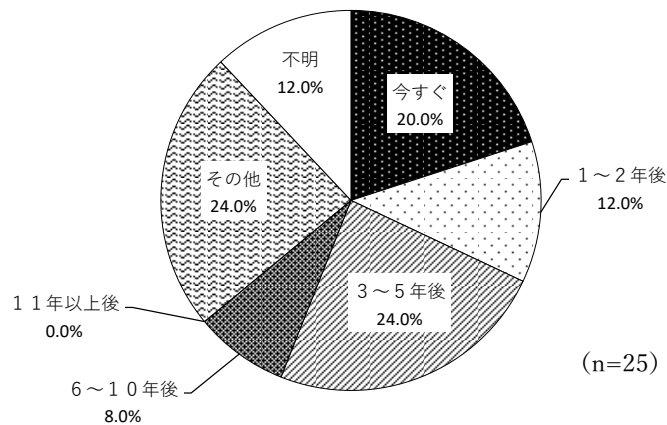


■ 施設等への入居・入所の時期【SA】

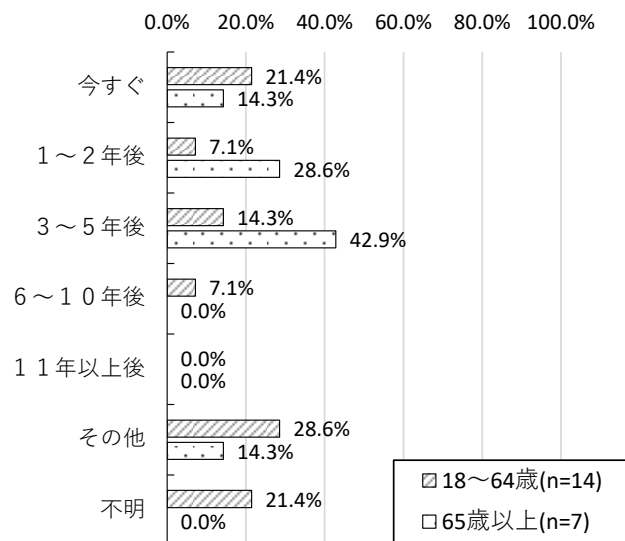
問51 問49で「3」または「4」を回答した方におたずねします。グループホームなどへの入居または施設への入所はいつ頃までにしたいと考えていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	今すぐ	5	20.0%	3	21.4%	1	14.3%
2	1～2年後	3	12.0%	1	7.1%	2	28.6%
3	3～5年後	6	24.0%	2	14.3%	3	42.9%
4	6～10年後	2	8.0%	1	7.1%	0	0.0%
5	11年以上後	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6	その他	6	24.0%	4	28.6%	1	14.3%
	不明	3	12.0%	3	21.4%	0	0.0%
	全体	25	100.0%	14	100.0%	7	100.0%

施設等への入居・入所の時期(全体)



施設等への入居・入所の時期(年代別)

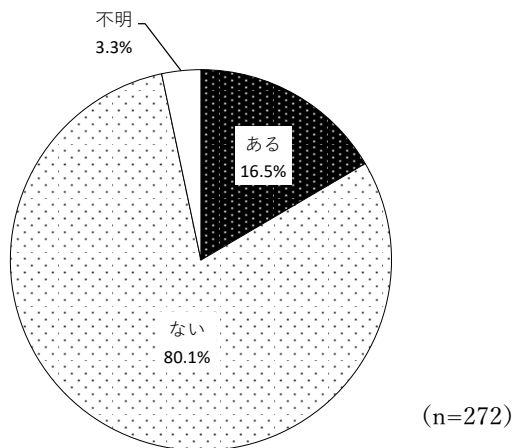


■ 悪徳商法の被害の有無【SA】

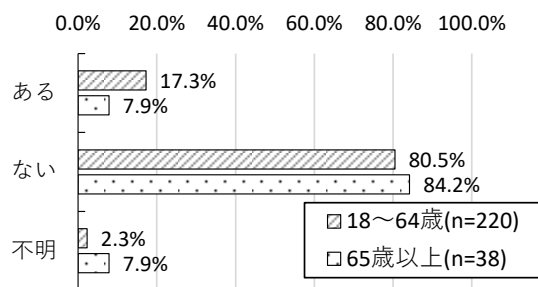
問52 あなたは、悪質商法などの被害にあったことがありますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	ある	45	16.5%	38	17.3%	3	7.9%
2	ない	218	80.1%	177	80.5%	32	84.2%
	不明	9	3.3%	5	2.3%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

悪徳商法の被害の有無(全体)



悪徳商法の被害の有無(年代別)

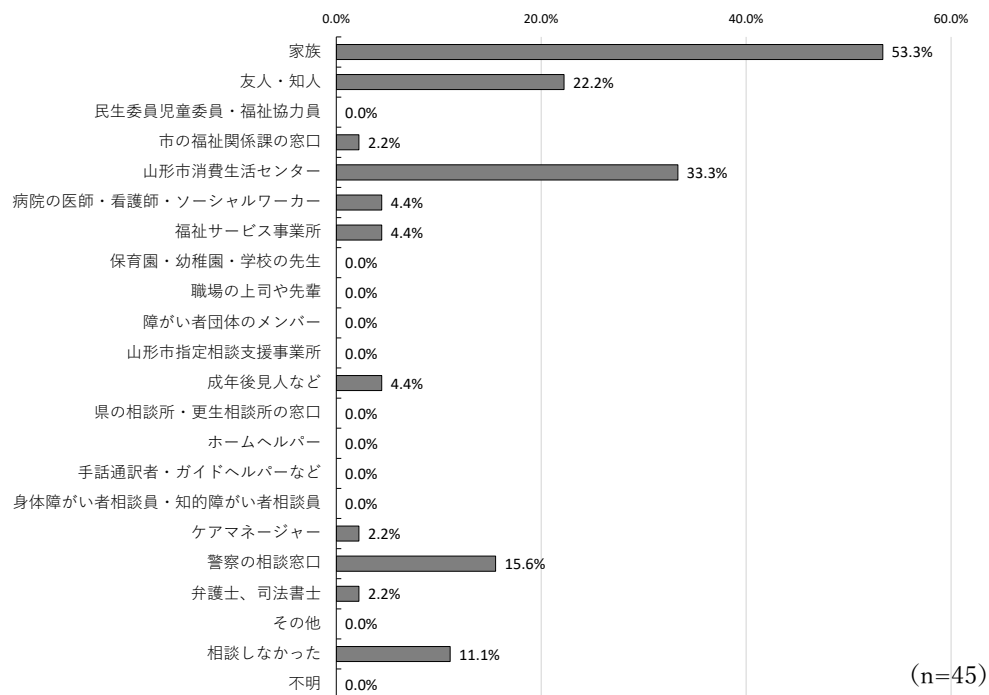


■ 被害の相談先【MA】

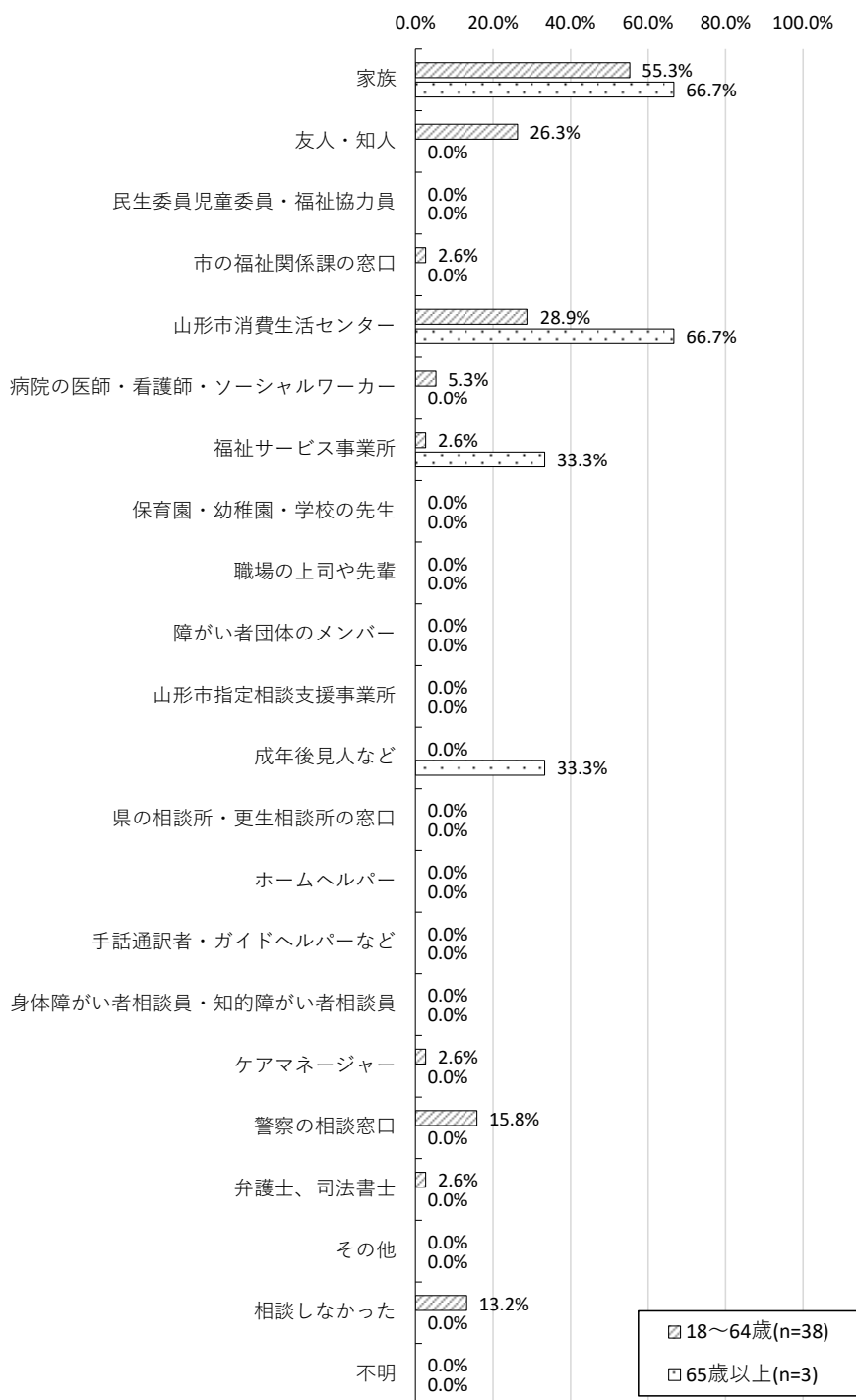
問53 問52で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰(どこ)へ相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	家族	24	53.3%	21	55.3%	2	66.7%
2	友人・知人	10	22.2%	10	26.3%	0	0.0%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	市の福祉関係課の窓口	1	2.2%	1	2.6%	0	0.0%
5	山形市消費生活センター	15	33.3%	11	28.9%	2	66.7%
6	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	2	4.4%	2	5.3%	0	0.0%
7	福祉サービス事業所	2	4.4%	1	2.6%	1	33.3%
8	保育園・幼稚園・学校の先生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	職場の上司や先輩	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	障がい者団体のメンバー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11	山形市指定相談支援事業所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12	成年後見人など	2	4.4%	0	0.0%	1	33.3%
13	県の相談所・更生相談所の窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
14	ホームヘルパー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
15	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
16	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
17	ケアマネジャー	1	2.2%	1	2.6%	0	0.0%
18	警察の相談窓口	7	15.6%	6	15.8%	0	0.0%
19	弁護士、司法書士	1	2.2%	1	2.6%	0	0.0%
20	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
21	相談しなかった	5	11.1%	5	13.2%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	45	100.0%	38	100.0%	3	100.0%

被害の相談先(全体)



被害の相談先(年代別)

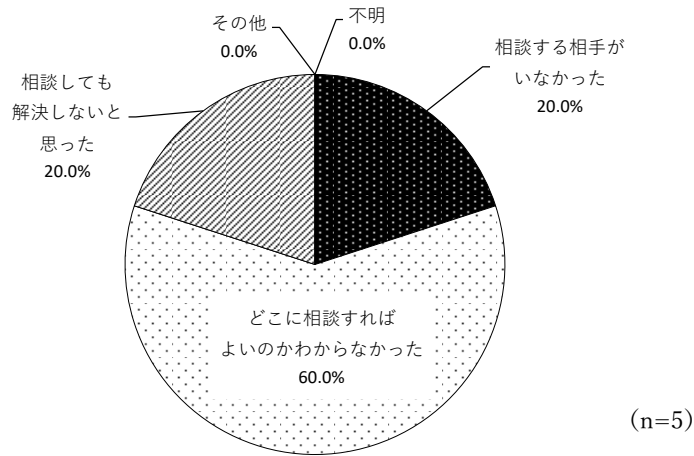


■ 被害について相談しなかった理由【SA】

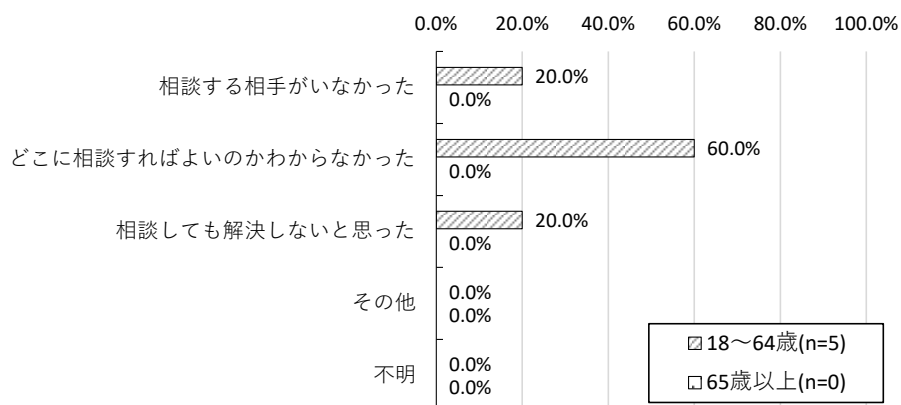
問54 問53で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。(1つだけ
○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	相談する相手がいなかった	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%
2	どこに相談すればよいのかわからなかった	3	60.0%	3	60.0%	0	0.0%
3	相談しても解決しなかったと思った	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%
4	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	5	100.0%	5	100.0%	0	100.0%

被害について相談しなかった理由(全体)



被害について相談しなかった理由(年代別)

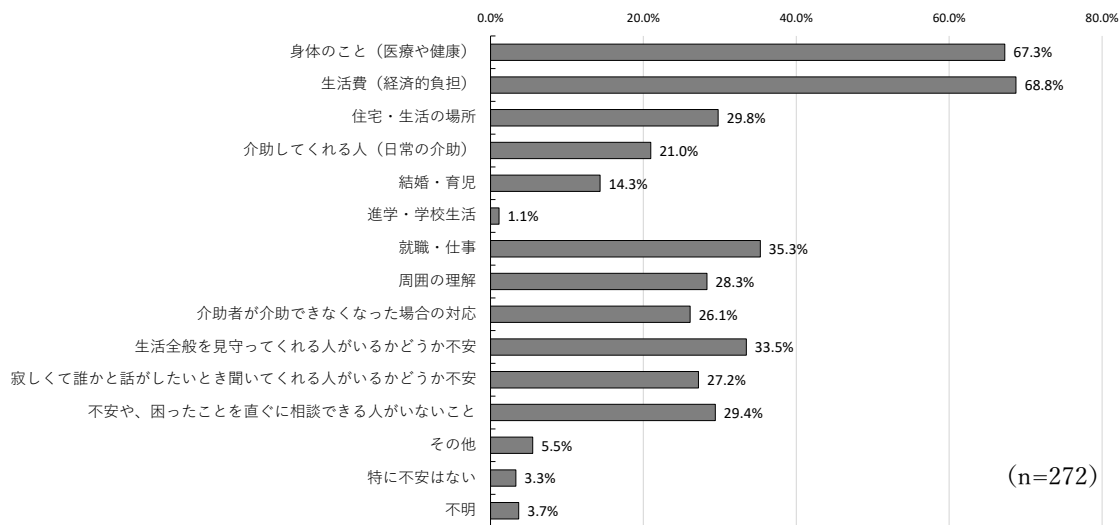


■ 今後の生活への不安【MA】

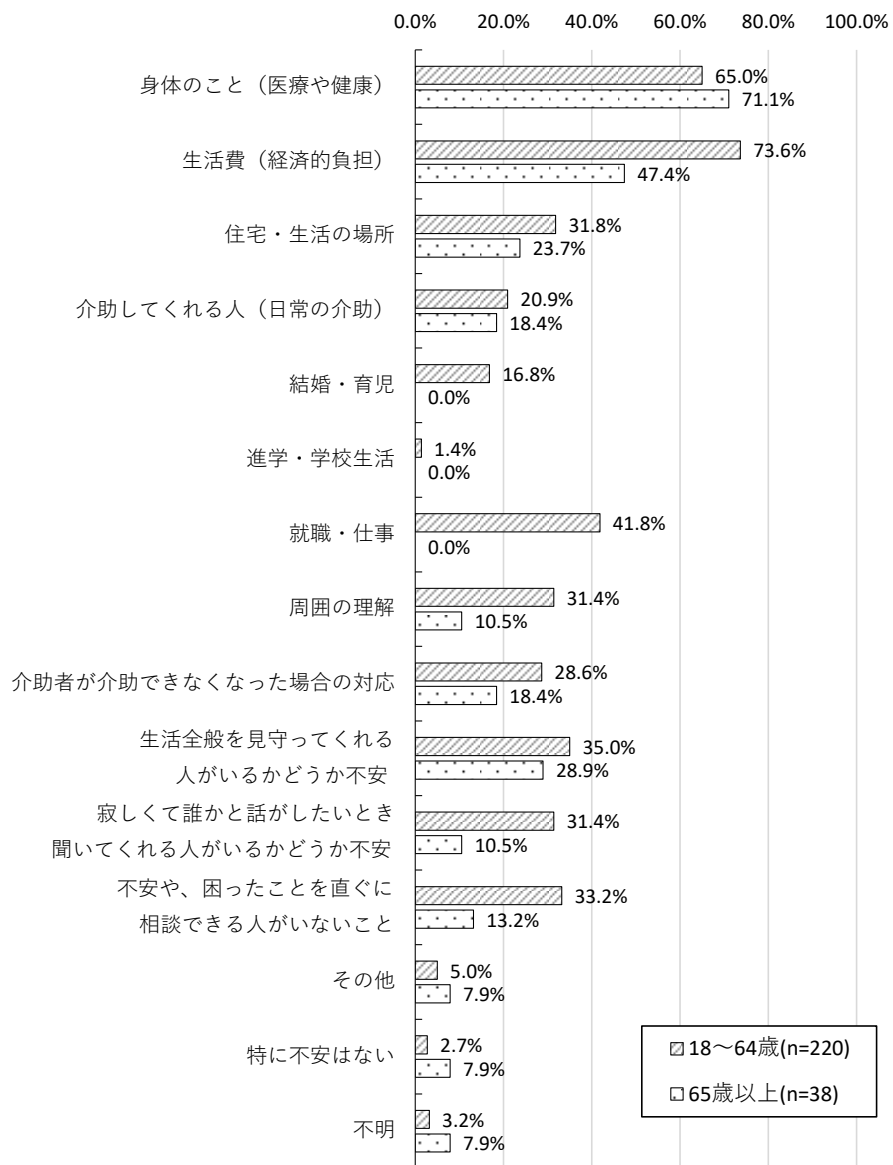
問55 あなたは今後の生活に対してどのような不安がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	身体のこと（医療や健康）	183	67.3%	143	65.0%	27	71.1%
2	生活費（経済的負担）	187	68.8%	162	73.6%	18	47.4%
3	住宅・生活の場所	81	29.8%	70	31.8%	9	23.7%
4	介助してくれる人（日常の介助）	57	21.0%	46	20.9%	7	18.4%
5	結婚・育児	39	14.3%	37	16.8%	0	0.0%
6	進学・学校生活	3	1.1%	3	1.4%	0	0.0%
7	就職・仕事	96	35.3%	92	41.8%	0	0.0%
8	周囲の理解	77	28.3%	69	31.4%	4	10.5%
9	介助者が介助できなくなった場合の対応	71	26.1%	63	28.6%	7	18.4%
10	生活全般を見守ってくれる人がいるかどうか不安	91	33.5%	77	35.0%	11	28.9%
11	寂しくて誰かと話したいとき聞いてくれる人がいるかどうか不安	74	27.2%	69	31.4%	4	10.5%
12	不安や、困ったことを直ぐに相談できる人がいないこと	80	29.4%	73	33.2%	5	13.2%
13	その他	15	5.5%	11	5.0%	3	7.9%
14	特に不安はない	9	3.3%	6	2.7%	3	7.9%
	不明	10	3.7%	7	3.2%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

今後の生活への不安(全体)



今後の生活への不安(年代別)

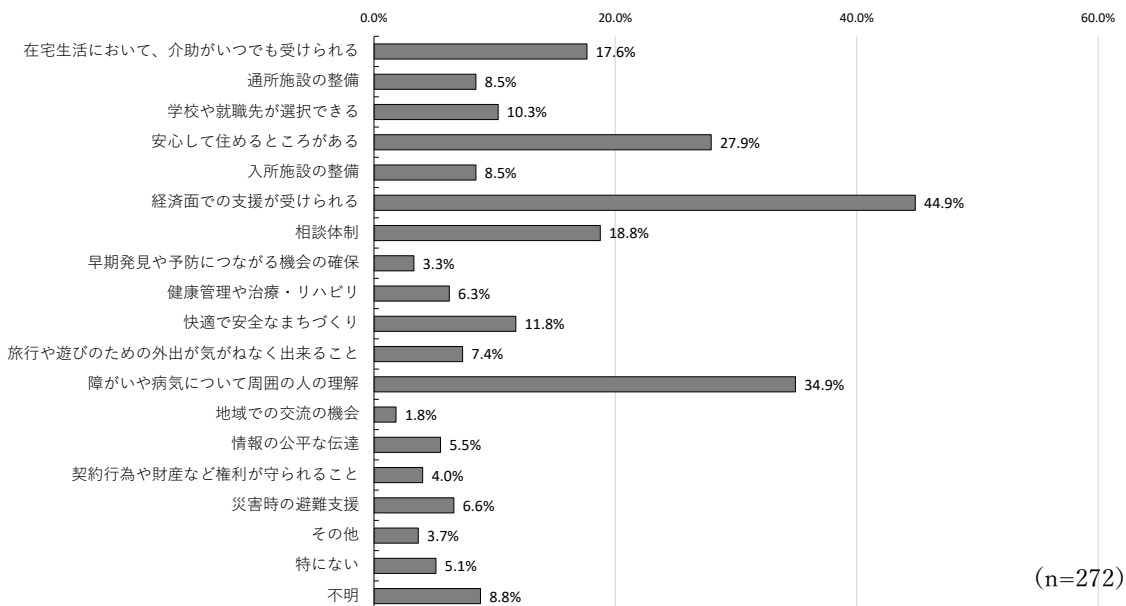


■ 障がい者福祉の充実に必要なこと【MA】

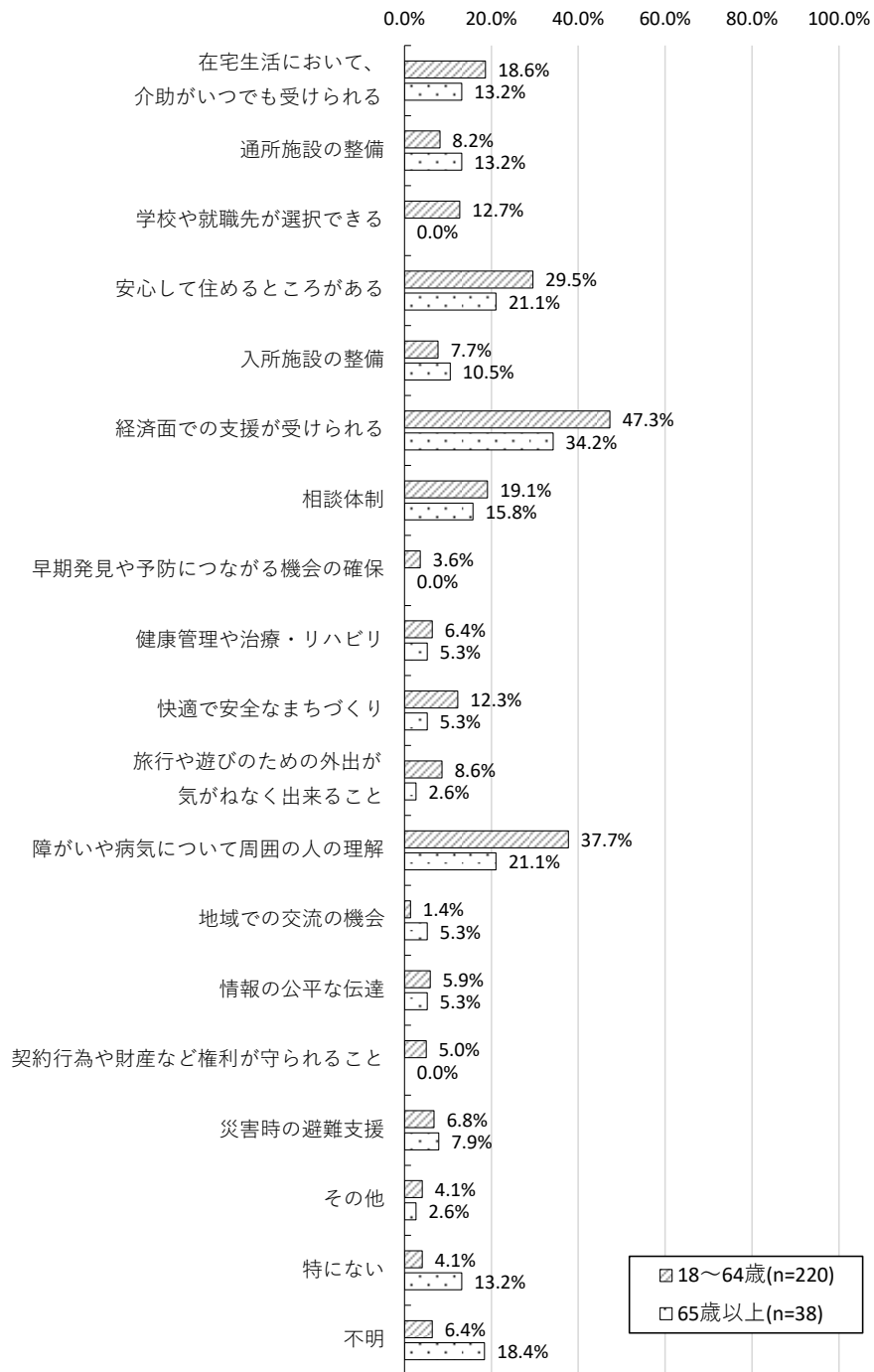
問56 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思われますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	在宅生活において、介助がいつでも受けられる	48	17.6%	41	18.6%	5	13.2%
2	通所施設の整備	23	8.5%	18	8.2%	5	13.2%
3	学校や就職先が選択できる	28	10.3%	28	12.7%	0	0.0%
4	安心して住めるところがある	76	27.9%	65	29.5%	8	21.1%
5	入所施設の整備	23	8.5%	17	7.7%	4	10.5%
6	経済面での支援が受けられる	122	44.9%	104	47.3%	13	34.2%
7	相談体制	51	18.8%	42	19.1%	6	15.8%
8	早期発見や予防につながる機会の確保	9	3.3%	8	3.6%	0	0.0%
9	健康管理や治療・リハビリ	17	6.3%	14	6.4%	2	5.3%
10	快適で安全なまちづくり	32	11.8%	27	12.3%	2	5.3%
11	旅行や遊びのための外出が気兼ねなく出来ること	20	7.4%	19	8.6%	1	2.6%
12	障がいや病気について周囲の人の理解	95	34.9%	83	37.7%	8	21.1%
13	地域での交流の機会	5	1.8%	3	1.4%	2	5.3%
14	情報の公平な伝達	15	5.5%	13	5.9%	2	5.3%
15	契約行為や財産など権利が守られること	11	4.0%	11	5.0%	0	0.0%
16	災害時の避難支援	18	6.6%	15	6.8%	3	7.9%
17	その他	10	3.7%	9	4.1%	1	2.6%
18	特にない	14	5.1%	9	4.1%	5	13.2%
	不明	24	8.8%	14	6.4%	7	18.4%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

障がい者福祉の充実に必要なこと(全体)



障がい者福祉の充実に必要なこと(年代別)



(11)災害時の対応について

火事や地震などの災害のときに、自宅にいる場合、一人で避難できるかを聞いたところ、「できる」(64.3%)が「できない」(31.6%)を32.7ポイント上回った。一人で避難できないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「一人で判断をすることができない」が50.0%と最も高く、次いで「どこに避難すればよいのかわからない」(30.2%)が続く。

居住地区の避難所の場所の認知状況については、「知っている」(57.4%)が「知らない」(39.7%)を17.7ポイント上回った。また、火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、周囲の人に知らせることができるかを聞いたところ、「できる」(65.8%)が「できない」(30.1%)を35.7ポイント上回っている。

災害時、家族のほかに近所に助けてくれる人の有無については、「いない」(67.3%)が「いる」(29.0%)を38.3ポイント上回っている。家族のほかに助けてもらいたい人は、「近所の人」が33.5%と最も高く、次いで「友人・知人」(19.1%)、「行政機関などの職員」(13.6%)などとなっている。

「山形市避難行動支援制度」の認知状況について、「知らない」(89.3%)が『知っている』(7.3%：「知っているし、登録もしている」(0.7%) + 「知っているが、登録はしていない」(6.6%))を82.0ポイント差と大きく上回った。

災害時に避難支援を受けるために、個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することへの同意については、「同意できる」(59.9%)が「同意できない」(29.8%)を30.1ポイント上回った。同意できない理由は、「障がいがあることを知られたくないから」が45.7%と最も高く、次いで「個人情報などが他へ流出する恐れがあるから」(44.4%)となっている。

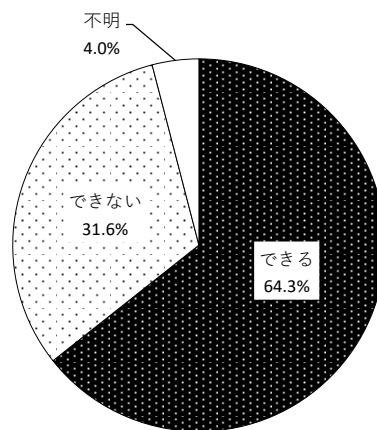
- ◎ 障がいのある人が地域社会において安全に安心して生活することができるよう、災害に強い地域づくりを推進する必要がある。また、災害発生時に、障がい特性に配慮した適切な支援や避難場所の確保が求められる。アンケートによれば3割を超える方が「災害時に自宅から一人で避難できない」、6割を超える方が「災害時に家族のほかに近所に助けてくれる人がいない」と回答している。一方、災害時にこのような方々の避難を支援する「山形市避難行動支援制度」の認知度は、前回調査と比べて若干低下して(8.0%→7.3%)依然1割を下回るなど、まだまだ制度が浸透していない状況にある。

■ 一人での避難【SA】

問57 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは一人で避難できますか。(1つだけ○印)

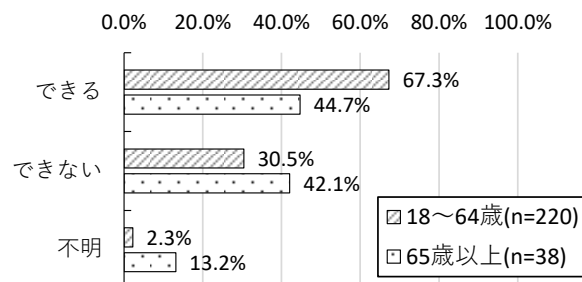
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	できる	175	64.3%	148	67.3%	17	44.7%
2	できない	86	31.6%	67	30.5%	16	42.1%
	不明	11	4.0%	5	2.3%	5	13.2%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

一人での避難(全体)



(n=272)

一人での避難(年代別)

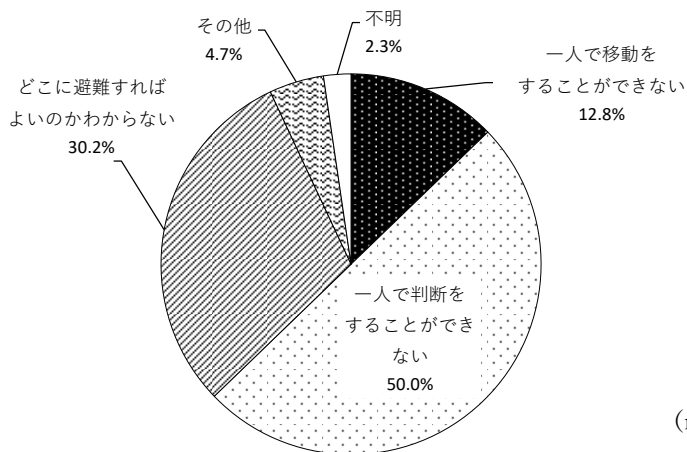


■ 一人で避難できない理由【SA】

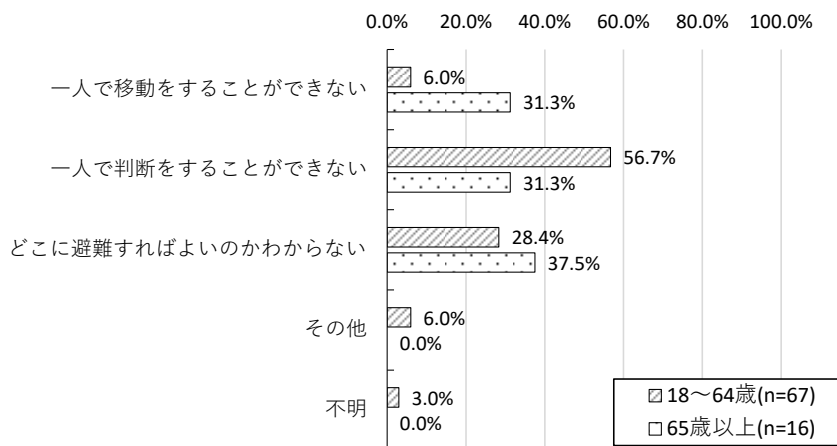
問58 問57で「2」を回答した方におたずねします。災害のときに一人で避難できない理由は何ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	一人で移動をすることができない	11	12.8%	4	6.0%	5	31.3%
2	一人で判断をすることができない	43	50.0%	38	56.7%	5	31.3%
3	どこに避難すればよいのかわからない	26	30.2%	19	28.4%	6	37.5%
4	その他	4	4.7%	4	6.0%	0	0.0%
	不明	2	2.3%	2	3.0%	0	0.0%
	全体	86	100.0%	67	100.0%	16	100.0%

一人で避難できない理由(全体)



一人で避難できない理由(年代別)

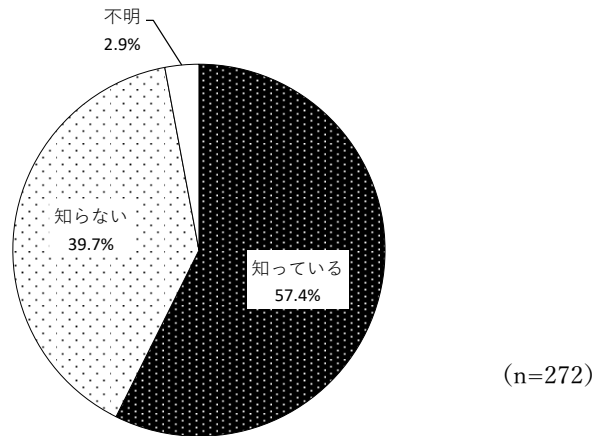


■ 地区の避難場所の認知状況【SA】

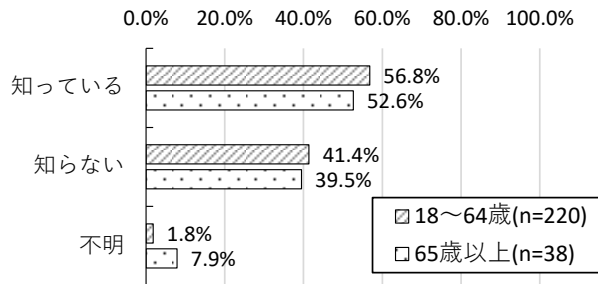
問59 あなたはお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	156	57.4%	125	56.8%	20	52.6%
2	知らない	108	39.7%	91	41.4%	15	39.5%
	不明	8	2.9%	4	1.8%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

地区の避難場所の認知状況(全体)



地区の避難場所の認知状況(年代別)

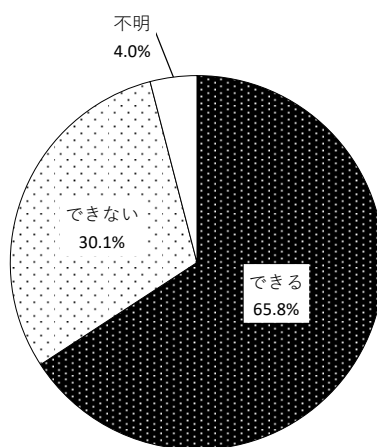


■ 災害時の自宅周囲の人への連絡【SA】

問60 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(1つだけ○印)

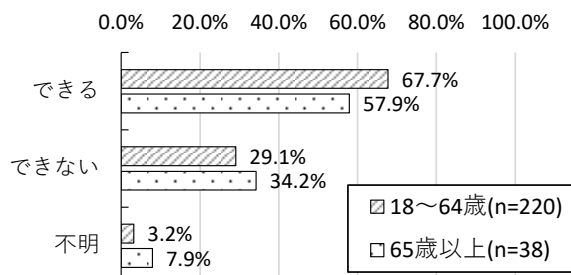
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	できる	179	65.8%	149	67.7%	22	57.9%
2	できない	82	30.1%	64	29.1%	13	34.2%
	不明	11	4.0%	7	3.2%	3	7.9%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

災害時の自宅周囲の人への連絡(全体)



(n=272)

災害時の自宅周囲の人への連絡(年代別)

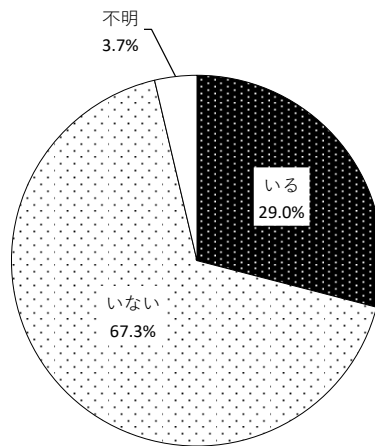


■ 災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無【SA】

問61 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、家族のほかにご近所にあなただけを助けてくれる方はいますか。(1つだけ○印)

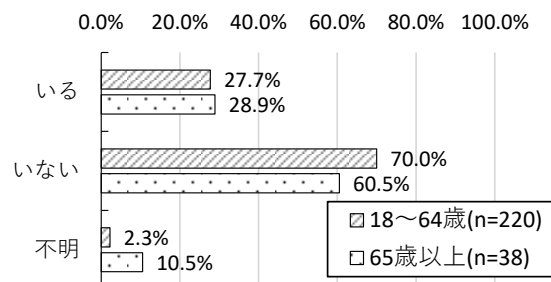
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	いる	79	29.0%	61	27.7%	11	28.9%
2	いない	183	67.3%	154	70.0%	23	60.5%
	不明	10	3.7%	5	2.3%	4	10.5%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無(全体)



(n=272)

災害時に自宅近所で助けてくれる人の有無(年代別)

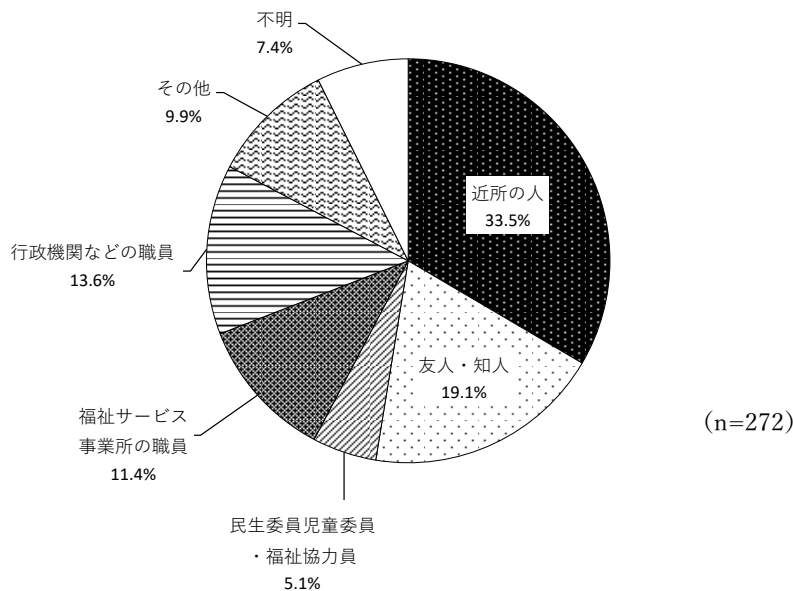


■ 家族以外で助けてもらいたい人【SA】

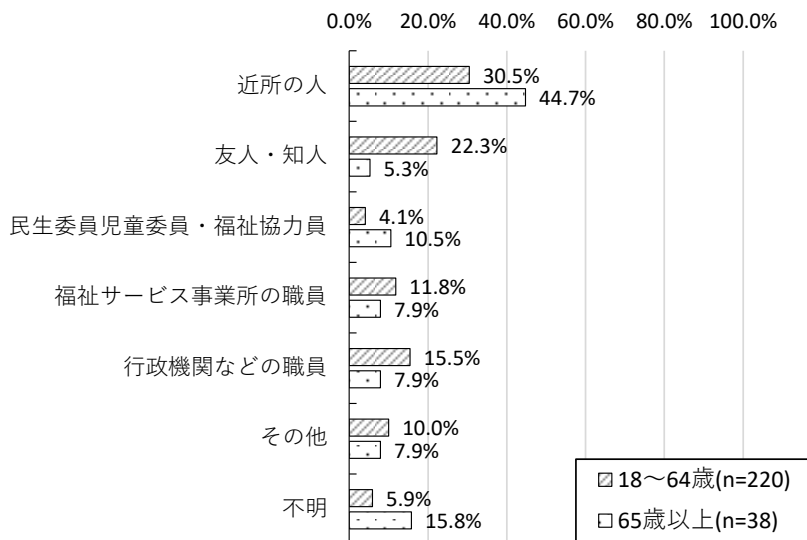
問62 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは家族のほかに誰に助けてもらいたいですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	近所の人	91	33.5%	67	30.5%	17	44.7%
2	友人・知人	52	19.1%	49	22.3%	2	5.3%
3	民生委員児童委員・福祉協力員	14	5.1%	9	4.1%	4	10.5%
4	福祉サービス事業所の職員	31	11.4%	26	11.8%	3	7.9%
5	行政機関などの職員	37	13.6%	34	15.5%	3	7.9%
6	その他	27	9.9%	22	10.0%	3	7.9%
	不明	20	7.4%	13	5.9%	6	15.8%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

家族以外で助けてもらいたい人(全体)



家族以外で助けてもらいたい人(年代別)

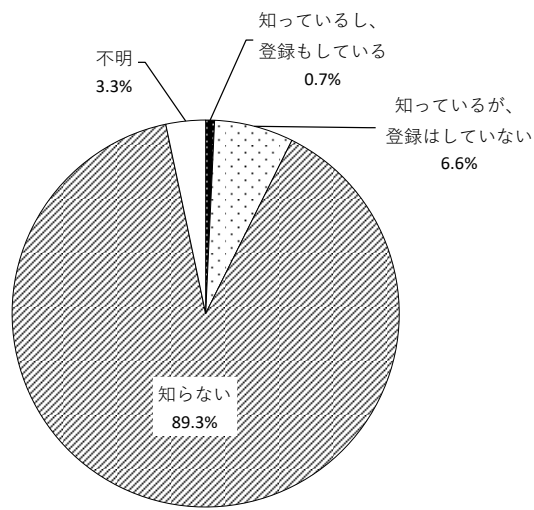


■ 山形市避難行動支援制度の認知【SA】

問63 「山形市避難行動支援制度」を知っていますか。(1つだけ○印)

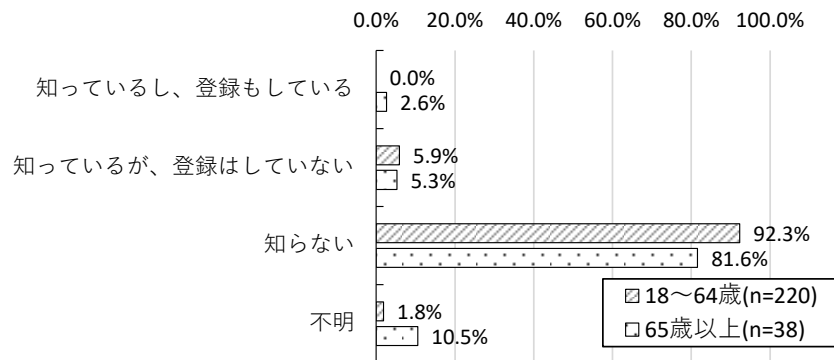
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	知っているし、登録もしている	2	0.7%	0	0.0%	1	2.6%
2	知っているが、登録はしていない	18	6.6%	13	5.9%	2	5.3%
3	知らない	243	89.3%	203	92.3%	31	81.6%
	不明	9	3.3%	4	1.8%	4	10.5%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

山形市避難行動支援制度の認知(全体)



(n=272)

山形市避難行動支援制度の認知(年代別)

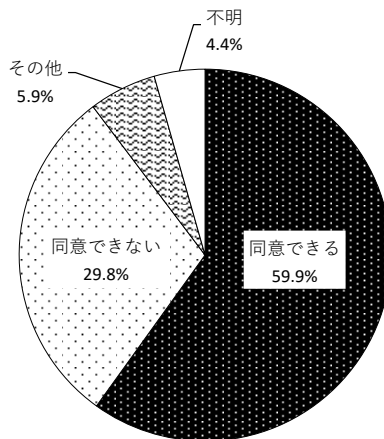


■ 個人情報の提供への同意【SA】

問64 災害時に避難支援を受けるために必要であれば、あなたの個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することに同意できますか。(この回答では、個人情報の提供に同意したことにはなりません。)(1つだけ○印)

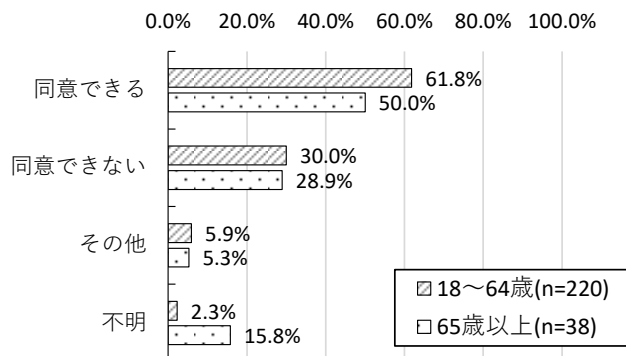
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	同意できる	163	59.9%	136	61.8%	19	50.0%
2	同意できない	81	29.8%	66	30.0%	11	28.9%
3	その他	16	5.9%	13	5.9%	2	5.3%
	不明	12	4.4%	5	2.3%	6	15.8%
	全体	272	100.0%	220	100.0%	38	100.0%

個人情報の提供への同意(全体)



(n=272)

個人情報の提供への同意(年代別)

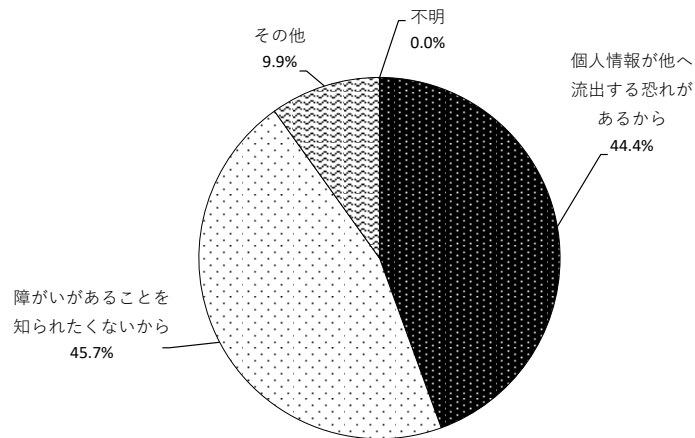


■ 個人情報の提供に同意できない理由【SA】

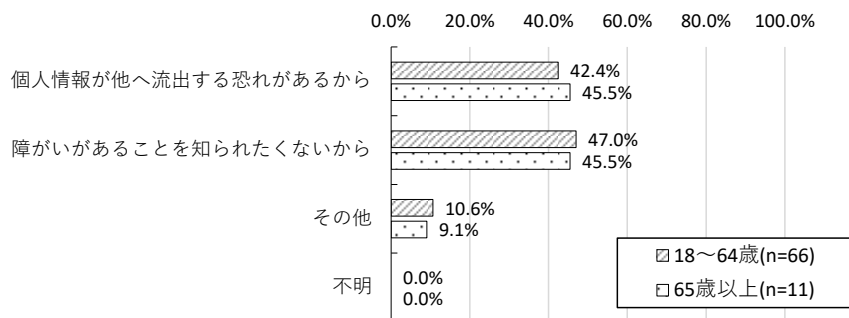
問65 問64で「2」を回答した方におたずねします。同意できない理由は何ですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	個人情報が他へ流出する恐れがあるから	36	44.4%	28	42.4%	5	45.5%
2	障がいがあることを知られたくないから	37	45.7%	31	47.0%	5	45.5%
3	その他	8	9.9%	7	10.6%	1	9.1%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	81	100.0%	66	100.0%	11	100.0%

個人情報の提供に同意できない理由(全体)



個人情報の提供に同意できない理由(年代別)



(12)障がい者施策に関するご意見・ご要望

問66 山形市の障がい者施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

■ 障がい者支援体制の強化に関すること

- ガソリン券を増やして欲しい。あつという間になくなるので。もっとサービスを増やして欲しい。
- 国の施策に則り行われていると思う。特別な独自の施策はないように感じる（印象として）。精神障がいの相談にしても 65 歳以上となると「地域包括支援センター」に相談先がなくなってしまい、適正な相談が出来るか疑問を感じる。日々の業務のいそがしさに追われて今以上の施策は望めないように思う。個人的には ACT（他市町村で行われている、行政が介入してるかまでは不明）のような取り組みがあれば、と望んでいる。
- 周囲から障がい者であるとみられる事に抵抗があり、受けられる支援を受けないでいる事がある。駐車場ですら、使えない。割引サービスも使わない事がある。もっと気軽に使用できる工夫が欲しい。
- 万一何かあれば、病院や警察とも連携してほしいです。
- 公共交通網をもっと充実してほしい。マイカーを運転できないと不便なのが山形市のネックではないでしょうか。特にバスが 20 時台で最終便なのは夕方からのコンサートや催し物に帰りの足がなくて行くことができない。出来れば市営のバス路線・運行範囲の充実をお願いします。
- 障がい者を支援する組織に予算を割くのも重要なことだと思うが、障がいがあっても才能や意欲のある方には、その方々を直接支援する施策もあると良いと思います。例えば、弱みを改善することも大事だと思いますが、強みを徹底して伸ばす専門性の高い就労移行支援、それも在宅で受けることも可能などころもあればひきこもる人にとっても有意義になると思います。他には、障がいがあっても起業したい人のための支援があると助かります。私も将来的には第 3 の居場所となるような場を作っていきたいと思っておりますが、そのときに相談にのってくれたり支援してくれる方がいてくれたら、実現できる可能性が高まりますので、そういう支援がもしあればとても助かります。
- 病院へ勤めていらっしゃる、先生、看護師の生命尊厳の行動、ふるまい等お願いしたいです。
- 障害者がもうちょっと住みやすい山形市に。障害者が日中利用できる施設や障害者が地域にとけこみやすい町作りをお願いします。
- 経済的に自立できる支援が必要。
- 全ての障害者がその人に合った内容で活躍できる場があると良いと思います。
- 発達障がいは先天性のもので、治ったり良くなったりする病気ではないため、精神保健福祉手帳の更新手続きは不要にしていきたいです。または、発達障がい独自の手帳をつくっていただきたいです。意見、要望をお伝えする機会をつくってくださり、ありがとうございました。今回を機に、山形市内の精神障がいの福祉サービスについて調べて知っていきたいと思います。
- 自転車が通れる道幅がせまい。舗装整備が終わっていない所があるので危ない。歩道がポコポコして（つぎはぎだらけ）歩きづらい。車が乗れない人の環境整備をしていただくと助かります。
- ・子どもに知的障がいなしの場合、小中学校では特別支援学級に所属できても高校以降になると支援がほぼ受けられなくなる（一部の学校ではあるようですが）ので、その点を何とかしてほしいです。高校は義務教育外なので仕方ないのかもしれませんが、親も子も割と大変な思いをしています。・差別をなくすために色々な試みが行われているようですが、結局はその人の性格や根本的な

考えにもよるので、正直差別や偏見をなくすことは困難だと思います。理解して下さる方がいればありがたいですが、現実そうでない人の方が多いと実感しております。

- 家族がいなくても入れる施設を作ってほしい。
- 自分の障害について受け入れられない人も多いと思います。対面ではなく web 会議ツールなどで同じ状況の人と相談し合えるようなコミュニティがあると、家族も本人も気持ちが楽になれると思うのですが。経済的なことももちろんですが、孤立感の方が大きいと思います。
- 障害を持つ人が、家や病院などで過ごすだけでなく、社会の中で活動、活躍できるような市政作りを行って頂きたいと思っています（障害を持つ人も自立していけるような教育体制をつくるなど…）。
- 障がい者手帳の更新や自立支援の更新を電子化して、オンラインでも手続きが可能ないようにしてほしい。
- 二階の障害福祉課にはお世話になっております。身体障がいで来られる方もいるので、課を一階に移してもらえると助かります。現在行っている会社ですが、週6日、8時間、農業に営んでおります。週48時間、普通の会社は、現在、土日休み完全週休二日制だと思います。病院の医師に、「マルチタスクになってない？」と聞かれますが、殆んど毎日、午前と午後と違います。百姓だけに百の事を覚えてもらわないと困ると言われ、意気消沈です。天気に関係するので、夏は、猛暑、冬は極寒です。上司は障害者という言葉は知っていますが、病名までは知らないで医者に頼りなさいと言われ残念です。農家だから、普通の会社とは違うという概念を取り払ってもらいたい。でない、ハローワークや農の雇用といった機関に通報したくなる気持ちが出てくる。相談事業所はたまに相談、のってくれる事もありますが、苦痛です。2024年あたりに、何人従業員がいたら、障害者何人を取らなければならないという所も、本当に知的や精神や身体を欲しいという所に行けたらいいなと思います。（希望です。）取らなくちゃいけない従業員もいないのに、取るという事は数合わせなのかなと思います。うちの疾病を理解してくれるカウンセラーがいる会社に行けたらいいなと思います。年1回ある「ふれあい合同面接会」ですが、午後1時～4時と時間が短い様な気がします。年齢の欄に不問と書くから、参加するのに、○才以上は無理みたいな言葉を聞いた事があり残念な結果に終わる事が多々ありました。どの障がい者を、お取りになりたいかわからない。求人票に、何も記載していないから参加するんですが、大半が身体の方を、お取りになるみたいで、参加する方にもう少しわかりやすい情報を求人票に記載してもらえれば助かるなと思います。
- 生活保護でも車の使用が出来ること。
- 山形市は障がい福祉が充実している方だと思いますが、まだまだ足りないように思います。もう少し予算を付けてほしいと思います。
- 幼稚園や小学校で変だなと教育者が気づき、親に相談やアドバイスしてくれたなら親は気づいたはず。娘の場合はアドバイスが全くなく、親が今考えてみれば変なところがまあまああったと思う。先生が発見して親に知らせるとい学校義務があるのか、先生は子どもたちの教育に専念するのが優先でしょうか。教育者の方が障害があるかもと気づく知識があればいいと思う、教育が先で先生方には障害の観察する義務があるのか。
- 障害者求人を推進している企業が大変少なく感じるので、もう少し増やして頂きたいです。
- 精神、身体、知的で受けられる公共でのサービスが異なる（電車の料金等）ので、障がいがある人全てに支援してほしい。収入が少ない人が大半のため。

-
- 障害者＝身体障害者という世間のイメージが強く、精神障害者への理解やサポートが明らかに足りない。特に発達障害者の就労支援が追いついておらずサポート体制が整った企業は山形市にほとんどない。山形市役所ですら精神障害者の就労支援が画一的で、前に臨時職員として働こうとした際に発達障害の特性に対応してもらえず結局働けなかったことがある。また、片方が障害者の夫婦に対する支援も見逃されがちで、私のように働けないと一人親世帯とほぼ変わらないのに支援がなく孤立して経済的に困っている。一番の問題はやはり収入です。障害の特性に合っていれば働くことができるが、その特性を活かす環境（職場）がほとんどなく、あったとしても障害者の給料は少なすぎる。せめて障害年金が増えてもらえれば良いのですが・・・最後に、障害者を支える家族のサポートも忘れずをお願いしたいです。加えて、山形市の数少ない移動手段である福祉タクシー券についてなのですが、今どき紙で、しかも500円単位は不便。電子マネー（タクシーのみ使える）で配布し、1円単位で支払えるようにしてもらいたい。例えばベニpayを活用するなど。
-
- 障害者雇用について、現状法定雇用率を満たしていない企業へ障害者雇用を奨励し、障害者雇用と同時に補助金を企業へ出すなどの施策があると障害者雇用も進むのではないか。学校教育の中で障害者も社会にはたくさんいるということを生徒や児童に教育し、多様性を認め合える基盤があると、より障害の社会的な認知が進んでいくと思う。
-
- 障がい者向けの施設が自転車で行くのが大変なので近場にあれば行く気になり、もっと前向きになれると思う。
-
- 就労がもっとしやすくなるようにしてほしい。自動車免許が障害があるために取得できない人のために配慮した施策があると助かります。高速バスの障がい者手帳の利用が精神障がい者手帳だけ適用されないのは納得がいけないところがあります。
-
- 他の県などよりすべてがおくれて少ない。
-
- 障害者手帳を申請して何年にもなりますが、今回の書替えの時に、医療費が免除になると教えてくれました。最初申請した時に何で教えてくれなかったのかと思います。何年と医療費が免除になっていたのに払い続けてその分は戻ってこないとの事でした。生活が決して楽なわけでもないに、残念です。ばかにならない金額になります。差し引くものは、申請しなくても連絡が来るのに、免除になるようなものは、あえて教えてくれないのは不親切だと思います。

■ 障がい者理解の促進に関すること

- 今の時代、枠の中に入れすぎの傾向がありすぎると思っています。記入した私は妻です。夫は障害者ですがたまたま障害者だった。でも長いこと見てきて普通にがんばってきてる時もありましたが、やはり病気ののだと思うこともくらしの中でわかってきて、これからも寄り添って暮らしていこうと思っています。理解しないと暮らせませんから。
-
- 私が現在、精神障害者である事は、自分で理解しているつもりです。精神障害を抱えると、幻聴など、服薬なしには困難なリスクのある病気と向き合っていかなければいけません。正直、この病気と向き合うようになってから、私の生活は一変してしまいました。以前には感じた事のないような不安で頭がいっぱいになりました。でも、この病気に関する様々な教えや、情報の中から得られる事は、沢山あり、逆に、他人に助けられた事や、家族達が支えになってくれているんだなあ、と身に染みて感じる機会にもなり、今となっては、非常に、心の救いになったと思うようになりました。皆乗り越え方は様々ですが、今は自分の足で一步一步進んで行こうと、強く決心しています。
-

- よく通勤手段がないと言うと、決まりごとのように女性の人でも自転車で通っている人もいますか、私は男性ですが言われます。膝痛には年齢や性別は関係ないと思います。
- 一人の人間として扱ってほしいです。
- ・人間関係が難しい。・集中力がとぎれることがある。・緊張する。・社会のことがわからない。・理解出来ない。・コミュニケーションが難しい。・視線が気になることがある。・寂しいときがある。・障がい者の皆さんが安心して生活・仕事が出来る環境を作ってほしい！！・障がい者に対しての差別・偏見・いじめをしないでほしい！！・障害者雇用を増やしてほしい。・臨機応変に対応が出来ない。
- 見た目で障がいを理解されないので理解してほしい。
- 2年前よりショートステイを利用しているが、担当の方が今年4月より変わってしまい所長も変わり、自分の思っているサービスが受けにくい。対応がスムーズにいかない、ショートステイ利用時の送迎をしてくれる人がなくなったため看護タクシーを使ってほしいといわれたがいやだ。親身になって相談に乗ってくれる人が家族以外いない。ショートステイも行きたくない。面倒を見てくれる人、相談に乗ってくれる人がなくなった。（女性の支援事業所の人には話がしづらい）自分の気持ち、考えを上手にコミュニケーションできない。他人との対話がうまくできない。思っていることを相手に伝えられないので悩むことが多い。
- 私達をもう少し良い目で見て下さい。タクシーの運転手さん、お医者様の言葉使い。
- 家族代筆です。本人はとにかく人の目が気になり、悪口を言われている、笑われていることを気にしています。精神科で治療中ですが、時間がかかることなのでできるだけ明るい気持ちになれるようサポートしています。窓口で相談する時の職員さんが怖いと言う時もあり、ほんの少しでいいのでやさしい表情で接して下さると助かります。とんちんかんなことを話したりしてご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。
- 発達障害（自閉症）などに進んで好きでなっているわけではありません。障害者の人達を偏見したり理解してもらえなかったりと、とても悲しい気持ちでいます。障害があっても一生懸命生活をして生きているんです。健常者の人達が少しだけでも、一歩前に出て手をさしのべていただければ助かります。どうぞ宜しくお願いします。だれか助けてください。

■ 収入・年金・生活費・給料等、金銭の不安に関すること

- 自宅で過ごしています。子どもが学校にいる間、在宅ワークしたいのですが、ネットにでているものはあやしくて申し込めません。安心できる在宅ワークを紹介してくれる場所がほしいです。在宅ワークをしても障害年金がでるようにしてほしいです。
- 両親がなくなると、生活費が足りなくなるので、市役所から援助してもらいたい。
- 障害者雇用の収入をアップしてほしい。
- 若いとオムツ代が支給されないので検討してほしい。
- 障がい者年金は、要件を満たさないということに不可だということ。万一救済策があれば知りたい。将来を考えると、生存権を維持することは、極めて、困難である。
- 金銭面での不安が大きいので、福祉金などがすぐに借りられる、支援してもらえる環境にしてほしい。

-
- ガソリンの料金が上がっているので、給油券の給付金の額を上げてほしい。発達障害の人でも職場で活躍できるように、就業している事業所に理解を促してもらいたい。発達障害者を雇用している事業所に交付金を支給してほしい。もっと市町村民税を下げしてほしい。発達障害をもちながらの子育てで困難をかかえることがあるのでその点で支援を受けられる仕組みがあるといい。
-
- ずっと働けていないので税金免除してもらいたい。
 - 常日頃障がい者における支援に本当に助けられており、なんとか生活する事が出来ており、感謝しております。が、一方で健常者のように会社勤めが出来なかったり、仕事に就けても短時間のパートで精一杯なこともあり、収入（経済面）での不安が尽きないのが現状です。
-

■ 障がい者支援情報・制度の広報強化に関すること

- 障害者雇用で1年ほど働きましたが、会社に理解があっても直接接する人に理解がなければ無意味だと思いました。次はクローズの方がましかと思いました。こちらは障害に対する理解があるから受け入れてもらっていると思っているので、まさか上司が理解がない人なんて想定外でショックでした。ぜひこの溝を埋めてほしいと願っています。「精神障がい福祉制度利用のしおり」大変便利なのですが、欲を言うと「1級」「2級」「3級」それぞれあればいいのになあと考えています。特に3級は利用できない項目が多く、あまり目を通す気になれないのです。すべて利用できることだけ載っていれば、見落とさずに良いなと思いました。
-
- 精神障がい者ですが、きっかけは睡眠不足や誤ったダイエットなども関係していたと思うので、睡眠の大切さや正しい食生活について啓発していただき、予防に力を入れていただきたいです。プールの無料水中歩行はとても良かったのですが、現在は行われていないのでしょうか？また復活していただきたいです。
 - 障がいがあっても、安心して生活できるような社会になるよう、周囲の人の理解が得られるような正しい情報の共有、教育が、子どもの時からあったらよいと思っています（母代筆）。
 - 私は以前働いていた会社で差別を受けました。その時、一人の人間としてとても苦しい思いを持ちその時の事がとても心残り思い出すと辛くなってしまいます。今、思い返してみれば相談をしていれば何か違う結果になったのではと思います。適切な相談場所があれば、知っていれば適切な対応が出来たのではないかと思います。
 - HP の奥深くまでじっくり読まないことのない情報が多く、支援を受けるまで数年かかったので、もう少し様々な場面で情報を見られる機会が増えるとうれしいです。いつもありがとうございます。
 - ・人によって事情があるから、自分はどこに相談すればいいのか、一覧表みたいなものがあつたらいい。・人を孤立させないためには何が必要なのか考えてほしい。・本人を家族も含めて支援体制を整えてほしい。
-

■ 将来的不安の解消・サポートに関すること

- ある程度病気がよくなっても就職先が見つからず、就労B型を利用して様子見をしていたら年齢が上がり婚期が遅くなってしまい将来を一人で暮らすとなると不安がある。障害者でも希望すれば結婚できる風潮があればいい。
-

- 一人くらしなので、今はまだ生活がなんとなく出来ているが、この先、家や、その他の事が維持していくことが無理なのではないかと不安です。近い将来、施設にお世話になるのではと、考える事が多くなりました。手伝いや相談を早めにできると助かります。
- 災害時、地域での避難になった場合。辛い思いをした時代の人達（学校不登校時）と避難場所が一緒になるのは無理です。数年経ってもフラッシュバックして“うつ”症状が酷くなる。そういう子どもを持つ家族はどこへ避難すれば良いのだろうと常々思う。他の地域といった場合どこのどいつだ？ってなりませんか？
- 高齢の母が心配。

■ アンケートに関すること

- 目が見えず。アンケートに答える理由がよくわかりません。妹の事を思うと入院しっ放しも無理だし今後どうすれば良いか頭が痛いです。考える事も出来ない妹の意見ではなく姉の私の考えで○をつけているように思いました。我々の事はだれもわかってはくれないでしょうね。私より先に死んでほしいとしか言えません。
- 問答の中の多くの障がい、障がい、障がい…文字。「害」を「がい」に変えるだけで何か意味ありますか？世間一般の「優秀」な方々にも様々な性格があるように、個性の1つとして…では「ダメ」ですか？障がい者は、「馬鹿」で「愚かな」「生きもの」である！！と決め付けた質問に、多くの差別を感じました。障がい者はムカついたり、苛立ったりすることは禁止されているのですか？あと専門用語が多く、ネットで調べてから答えた用語（物）も多かったです。最後に質問項目が多すぎます。自分で答えたいと思う方の中には時間がかかる方もいらっしゃると思います。（障がい者なので…）多忙の代理の方も多いいと思います。本当に知りたい項目のアンケート（調査票）をお願いします。
- 書字障害があるためアンケートなどをインターネット、パソコンでできるようにしてほしい。
- このアンケート自体がかたよっている。
- いみのわからない言葉をつかわないでください。大変ふゆかいでした。
- 精神障害者に対してこのアンケートは難しすぎる内容かと思います。障害者に対しての理解をしたらの方がいいのではないのでしょうか？山形県はまだまだ理解してもらっていないと思います。就労B型でもさんざんいやな思いもしてきました。人間一人一人違う考えはあると思いますが精神障害者に対しての能力がある職員さんはあまりいなかったです。何年もいやな思いをしてやっと理解してもらえる所に出会い行っていますが、障害者は奴隷扱いするような所もありますよ。賃金高くしてるから手を止めずひたすら働けと精神障害者でなく一般の人も無理かと思います。障害者がいきいき仕事出来る所が多くあるといいです。

■ その他

- いい加減被害者が泣き寝入りしなければならない風潮をどうかしてくれ。仮にどう考えてもやられた側が勇気を出して声を上げて相談相手はなあなあですませようとしてくるし、加害者サイドは、やれ「被害妄想だ」だの、「大した事じゃない」だの言って責任逃れしては、そのままどこ吹く風でこの町で必要なのは加害者側を徹底的につるし上げ、暴いて周知させることだ。正直いって、今のままでは本当の被害者は守られないどころか、どんどん増えていく。諸外国の対策は加害者へのペナルティが設けられているにも関わらず、未だに事を荒立てたくないのを理由に、差別の声を放任している。はっきり言って異常だ。攻撃してくる奴らへのペナルティがない事にはどんなフォローも綺麗ごとの暴論にすぎない。

- 何もかも分かりづらい、市役所の人はやさしくもない、頼りたいとも思わない。

- 関東地方の都市圏と比べて（以前住んでいた）障がい者は住みやすいなと思っています。スーパーの駐車場や、スーパーの通路が広いので車いすの方が1人で買い物に来ている。もちろん雪もあるのでその間はむりですが、バス、タクシーもしっかりしているし、いいと思います。

- 統合失調症なので、障がい者手帳を2級に上げてほしい。

- 市や施設でよく仕事をやってくれ感謝してます。

- 個人情報については、まだ信用できる段階に至っていないと感じます。よく自治会の役員をさせていただいていますが、会長自ら会員の障がい内容（他に世帯の状況も）を公開してしまっているのを見ます。他にもいろいろあり、民生委員や自主防災組織（自治会はもちろん）自分の障がいや個人情報全般を提供できないと思います。

- 個人情報はなるべくというか絶対に他への提供はしてもらいたくないです。

- 身体が思うように動かず、体力がないために、シャワーを浴びるのをやめたり、次の日に伸ばしたりする事が多くあります。ギリギリ不潔にならないラインをキープしているかも。

(13)障がい者施策に関する主なニーズ「精神障がい者」

【働き続ける(または将来働く)ために必要だと思うこと】

働き続ける（または将来働く）ために必要だと思うことについて、全体では「障がいや病気に対する理解や配慮」が28.7%と最も高く、次いで「自分に合った仕事である」（27.2%）、「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」（23.2%）と続いている。

《精神障がいの等級別》

精神障がいの等級別でみると、＜1級＞と＜2級＞は「障がいや病気に対する理解や配慮」、＜3級＞は「自分に合った仕事である」がそれぞれ3割を占めて最も高い結果となった。また、＜2級＞では「自分に合った仕事である」、＜3級＞では「通勤が自分でできる」「給料・賃金が妥当である」「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」が2割半ばを超えて高い割合となっている。＜1級＞では「特にない・まだよくわからない」が2割を占めて次点となった。

		回答件数	勤務時間や日数の短縮	通勤が自分でできる	具合が悪くなった時に気軽に通院できる	職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備	自宅で仕事ができること	給料・賃金が妥当である	自分に合った仕事である	職業訓練などで就労のための知識・技術習得
全体		272 100.0%	35 12.9%	50 18.4%	39 14.3%	12 4.4%	16 5.9%	45 16.5%	74 27.2%	4 1.5%
精神障がいの等級	1級	39 100.0%	3 7.7%	4 10.3%	6 15.4%	2 5.1%	2 5.1%	0 0.0%	8 20.5%	0 0.0%
	2級	126 100.0%	16 12.7%	21 16.7%	17 13.5%	7 5.6%	10 7.9%	19 15.1%	32 25.4%	0 0.0%
	3級	95 100.0%	15 15.8%	25 26.3%	14 14.7%	3 3.2%	4 4.2%	25 26.3%	30 31.6%	4 4.2%

		回答件数	会社や家族などの自分への理解	徐々に仕事に慣れていけるようステップを踏めること	職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること	障がいや病気に対する理解や配慮	その他	特にない・まだよくわからない	不明
全体		272 100.0%	32 11.8%	29 10.7%	63 23.2%	78 28.7%	10 3.7%	36 13.2%	49 18.0%
精神障がいの等級	1級	39 100.0%	4 10.3%	3 7.7%	5 12.8%	12 30.8%	1 2.6%	9 23.1%	10 25.6%
	2級	126 100.0%	19 15.1%	8 6.3%	30 23.8%	40 31.7%	6 4.8%	21 16.7%	19 15.1%
	3級	95 100.0%	8 8.4%	15 15.8%	26 27.4%	24 25.3%	3 3.2%	4 4.2%	16 16.8%

1位 2位 3位 の項目

【差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うこと】

差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では「障がいや病気への正しい理解の啓発」が50.4%と最も高く、次いで「地域に気軽に相談できるサポートセンター」(27.9%)、「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」(23.2%)と続いている。

《精神障がいの等級別》

精神障がいの等級別でみると、＜3級＞では5割、＜1級＞と＜2級＞では4割を占めて、「障がいや病気への正しい理解の啓発」がすべての等級で最も高くなった。次点は、＜1級＞では「子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が2割を占め、＜2級＞では「地域に気軽に相談できるサポートセンター」、＜3級＞では「情報提供の充実」がそれぞれ3割を占めて続いた。なお、「地域に気軽に相談できるサポートセンター」は＜3級＞においても3割弱を占めて高い割合となっている。

		回答件数	子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	情報提供の充実	障がいや病気への正しい理解の啓発	支援ボランティアの育成を進める	公共施設などの改善・整備を進める	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める
全体		272 100.0%	63 23.2%	37 13.6%	61 22.4%	137 50.4%	19 7.0%	22 8.1%	20 7.4%
精神障がいの等級	1級	39 100.0%	8 20.5%	7 17.9%	4 10.3%	18 46.2%	5 12.8%	3 7.7%	1 2.6%
	2級	126 100.0%	26 20.6%	22 17.5%	27 21.4%	61 48.4%	4 3.2%	6 4.8%	10 7.9%
	3級	95 100.0%	26 27.4%	6 6.3%	29 30.5%	54 56.8%	9 9.5%	12 12.6%	7 7.4%

		回答件数	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	地域に気軽に相談できるサポートセンター	具合が悪くなったときすぐいける病院など	その他	特にない	不明
全体		272 100.0%	35 12.9%	76 27.9%	60 22.1%	12 4.4%	30 11.0%	23 8.5%
精神障がいの等級	1級	39 100.0%	4 10.3%	5 12.8%	7 17.9%	1 2.6%	7 17.9%	4 10.3%
	2級	126 100.0%	15 11.9%	41 32.5%	32 25.4%	6 4.8%	11 8.7%	10 7.9%
	3級	95 100.0%	14 14.7%	28 29.5%	19 20.0%	5 5.3%	11 11.6%	7 7.4%

1位 2位 3位 の項目

【相談機能を充実させるために必要だと思うこと】

相談機能を充実させるために必要だと思うことについて、全体では「身近な場所で相談できること」が35.3%と最も高く、次いで「適切なアドバイスができる人材」（32.7%）、「プライバシーの配慮」（29.0%）と続いている。

《精神障がいの等級別》

精神障がいの等級別でみると、＜1級＞と＜2級＞では「身近な場所で相談できること」が、＜3級＞では「適切なアドバイスができる人材」がいずれも3割半ば以上を占めて最も高くなった。＜1級＞では「プライバシーの配慮」と「適切なアドバイスができる人材」が3割弱を占めて同率で次点となっている。＜2級＞では「プライバシーの配慮」が、＜3級＞では「身近な場所で相談できること」がそれぞれ3割を占めて次点となった。

		回答件数	身近な場所で 相談できること	プライバシー の配慮	適切なアドバ イスができる 人材	電話やFAX、Eメール などによりい つでも相談で きること	素早い対応を してくれる	わかりやすい 情報の提供	たらい回しに されない
全体		272 100.0%	96 35.3%	79 29.0%	89 32.7%	28 10.3%	50 18.4%	66 24.3%	60 22.1%
精神 障 が い の 等 級	1級	39 100.0%	14 35.9%	11 28.2%	11 28.2%	4 10.3%	7 17.9%	8 20.5%	8 20.5%
	2級	126 100.0%	48 38.1%	44 34.9%	37 29.4%	14 11.1%	21 16.7%	31 24.6%	25 19.8%
	3級	95 100.0%	30 31.6%	21 22.1%	36 37.9%	10 10.5%	19 20.0%	24 25.3%	25 26.3%

		回答件数	相談員の資質 向上	一か所で用事 が済む相談窓 口を設置する	市や県、民間 相談機関の連 携	福祉・教育・ 就労などの一 貫した相談支 援体制を充実	その他	不明
全体		272 100.0%	35 12.9%	54 19.9%	22 8.1%	29 10.7%	10 3.7%	31 11.4%
精神 障 が い の 等 級	1級	39 100.0%	4 10.3%	5 12.8%	3 7.7%	1 2.6%	4 10.3%	6 15.4%
	2級	126 100.0%	12 9.5%	26 20.6%	8 6.3%	10 7.9%	2 1.6%	16 12.7%
	3級	95 100.0%	17 17.9%	19 20.0%	10 10.5%	17 17.9%	4 4.2%	8 8.4%

1位 2位 3位 の項目

「精神障がい」調査結果

【今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思うこと】

今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では「経済面での支援が受けられる」が44.9%と最も高く、次いで「障がいや病気について周囲の人の理解」（34.9%）、「安心して住めるところがある」（27.9%）と続いている。

《精神障がいの等級別》

精神障がいの等級別でみると、＜1級＞では3割、＜2級＞では4割、＜3級＞では5割を占めて、「経済面での支援が受けられる」がすべての等級で最も高くなった。次点は、＜1級＞では「安心して住めるところがある」が2割を占め、＜2級＞と＜3級＞では「障がいや病気について周囲の人の理解」がそれぞれ3割以上を占めて続いた。なお、「安心して住めるところがある」は＜2級＞においても3割を占めて高い割合となっている。

		回答件数	在宅生活において、介助がいつでも受けられる	通所施設の整備	学校や就職先が選択できる	安心して住めるところがある	入所施設の整備	経済面での支援が受けられる	相談体制	早期発見や予防につながる機会の確保	健康管理や治療・リハビリ	快適で安全なまちづくり
全体		272 100.0%	48 17.6%	23 8.5%	28 10.3%	76 27.9%	23 8.5%	122 44.9%	51 18.8%	9 3.3%	17 6.3%	32 11.8%
精神障がいの等級	1級	39 100.0%	5 12.8%	6 15.4%	1 2.6%	11 28.2%	6 15.4%	15 38.5%	3 7.7%	0 0.0%	3 7.7%	3 7.7%
	2級	126 100.0%	29 23.0%	10 7.9%	12 9.5%	39 31.0%	5 4.0%	53 42.1%	23 18.3%	4 3.2%	7 5.6%	14 11.1%
	3級	95 100.0%	11 11.6%	6 6.3%	15 15.8%	21 22.1%	10 10.5%	50 52.6%	24 25.3%	5 5.3%	7 7.4%	10 10.5%

		回答件数	旅行や遊びのための外出が気兼ねなく出来ること	障がいや病気について周囲の人の理解	地域での交流の機会	情報の公平な伝達	契約行為や財産など権利が守られること	災害時の避難支援	その他	特にない	不明
全体		272 100.0%	20 7.4%	95 34.9%	5 1.8%	15 5.5%	11 4.0%	18 6.6%	10 3.7%	14 5.1%	24 8.8%
精神障がいの等級	1級	39 100.0%	3 7.7%	9 23.1%	1 2.6%	0 0.0%	1 2.6%	4 10.3%	2 5.1%	3 7.7%	6 15.4%
	2級	126 100.0%	5 4.0%	46 36.5%	2 1.6%	7 5.6%	5 4.0%	8 6.3%	4 3.2%	7 5.6%	12 9.5%
	3級	95 100.0%	11 11.6%	39 41.1%	2 2.1%	8 8.4%	4 4.2%	5 5.3%	4 4.2%	4 4.2%	4 4.2%

1位 2位 3位 の項目

「その他市民」

(障がい手帳を所持していない方)

調査結果

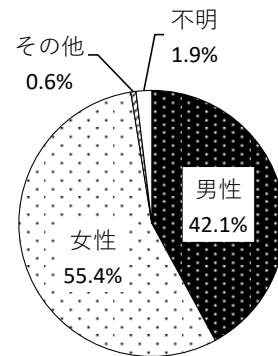
2-4 「その他市民」調査結果

(1)回答者の属性

調査対象	配布数	有効回答数	有効回収率
山形市在住の18歳以上の方	550	316	57.5%

属性1 性別【SA】

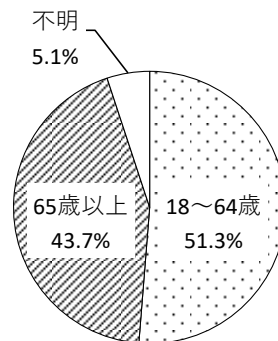
カテゴリー名	人数	%
男性	133	42.1%
女性	175	55.4%
その他	2	0.6%
不明	6	1.9%
全体	316	100.0%



(n=316)

属性2 年齢 令和5年7月1日現在【FA】

カテゴリー名	人数	%
18～64歳	162	51.3%
65歳以上	138	43.7%
不明	16	5.1%
全体	316	100.0%



(n=316)

(2)生活の状況について

知っている、または聞いたことのある言葉について、「バリアフリー法」が58.5%と過半数を占めて最も高く、次いで「ヘルプカード・ヘルプマーク」(55.1%)、「ユニバーサルデザイン」(44.6%)などとなっている。また、知っている、または聞いたことのある言葉があると回答した人にその経緯を聞いたところ、「テレビ・新聞など」が78.0%と最も高く、次いで「市報」(30.5%)、「インターネット」(25.9%)などとなった。

障がいのある方に関する行事や催し物で知っているものについて、「パラリンピック」が95.3%と9割半ばを占めて最も高く、次いで「障がい者スポーツ大会」(59.8%)、「アビリンピック」(25.9%)などとなっている。また、障がいのある方に関する行事や催し物を見に行ったり参加したりしてみたいか聞いたところ、『そうしたい』(49.4% : 「ぜひそうしたい」(2.2%) + 「機会があればそうしたい」(47.2%))が『そうしたくない』(16.8% : 「あまりそうしたくない」(9.8%) + 「そうしたくない」(7.0%))を32.6ポイント上回った。なお、「どちらともいえない」と決めかねている方も32.6%と一定の割合を占めている。

「障がい福祉」への関心度は、『関心がある』(57.3% : 「大変関心がある」(8.2%) + 「関心がある」(49.1%))が過半数を占めており、『関心がない』(41.5% : 「あまり関心がない」(35.8%) + 「ほとんど関心がない」(5.7%))を15.8ポイント上回った。

身近な障がいのある方の存在について聞いたところ、「いない」(47.5%)が「いる」(43.4%)を4.1ポイント差とわずかに上回った。

障がいのある方に対してお手伝いをした経験については、「特にお手伝いをしたことはない」が34.5%と最も高かった。具体的な回答の中では「車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った」が30.7%と最も高く、次いで「乗り物で席を譲った」(22.5%)、「荷物を持った」(21.5%)などが続いた。また、「特にお手伝いをしたことはない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「お手伝いを必要とする人が身近にいない・必要とされたことがない」が69.7%と7割弱を占めて最も高く、次いで「お手伝いをするほど親しい人がいない」(38.5%)、「どのようにしてよいかわからない」(22.9%)などと続いた。

地域行事に障がいのある方が参加しようとした場合の手伝いの参加意向について聞いたところ、「手伝ってもいい」(50.6%)が半数以上を占めて「お手伝いできそうにない」(21.5%)を29.1ポイント上回った。なお、「わからない」も24.7%と一定の割合を占めている。

障がい者就労施設等の物品の購入経験について、「購入したことがある」が58.5%と最も高く、次いで「購入したことはないが、購入してみたい」(17.1%)、「購入したことはないし、購入したいと思わない」(7.3%)などとなっている。「わからない」は15.5%と1割以上を占めている。また、「購入したことがある」と「購入したことはないが、購入してみたい」と回答した人に購入したい物品について聞いたところ、「パン・菓子類」が59.4%と6割弱を占めて最も高く、次いで「野菜・果物・卵・肉等」(34.7%)、「園芸品(花・花苗等)」(33.1%)などとなった。

「その他市民」調査結果

悪質商法などの被害にあった障がいのある方の認知状況について聞いたところ、「知らない」が94.3%と9割以上を占め、「知っている」(4.1%)を90.2ポイント差と大きく上回った。また、悪質商法などの被害にあった障害のある方を「知っている」と回答した人に相談した相手を聞いたところ、「相談しなかった」が23.1%と最も高かった。具体的な回答の中では「民生委員児童委員・福祉協力員」「市の相談窓口(市民相談課)」がともに同率で23.1%と最も高く、次いで「山形市消費生活センター」「身体障がい者相談員・知的障がい者相談員」「ケアマネージャー」(いずれも15.4%)などが続いた。

自宅に一人で住んでいる障がいのある方の認知状況について聞いたところ、「知らない」が89.2%と9割弱を占め、「知っている」(9.8%)を79.4ポイント差と大きく上回った。また、自宅に一人で住んでいる障がいのある方を「知っている」と回答した人に災害時に障がいのある方の避難を手伝うことはできるか聞いたところ、「できる」と「できない」がともに35.5%となった。一方、「わからない」も25.8%と2割以上を占めている。

障がいのある方に対するボランティアへの関心度は、『関心がある』(56.6%:「非常に関心がある」(6.3%) + 「ある程度関心がある」(50.3%))が過半数を占めており、『関心がない』(41.5%:「あまり関心がない」(38.0%) + 「まったく関心がない」(3.5%))を15.1ポイント上回った。

ボランティア活動の経験について聞いたところ、「したことがない」が67.7%と7割弱を占めて最も高かった。具体的な回答の中では「障がいのある方の日常生活のお手伝い」が12.0%と最も高く、次いで「福祉施設などでのお手伝い」(10.8%)、「相談・安否の確認」「スポーツ・レクリエーションの指導・介助」(ともに6.0%)などが続いた。ボランティア活動を「したことがない」と回答した人に今後のボランティアに対する参加意向について聞いたところ、『活動したい』(38.8%:「ぜひ活動したい」(1.4%) + 「機会があれば活動したい」(37.4%))が「あまり活動したくない」(22.4%)を16.4ポイント上回った。一方、「わからない」も35.0%と3割以上を占めている。また、ボランティア活動を「したことがない」と回答した人にボランティア活動に参加するために必要と思われるものを聞いたところ、「活動に必要な知識」が50.9%と半数を占めて最も高く、次いで「きっかけ・機会」(49.5%)、「時間」(37.9%)などとなっている。

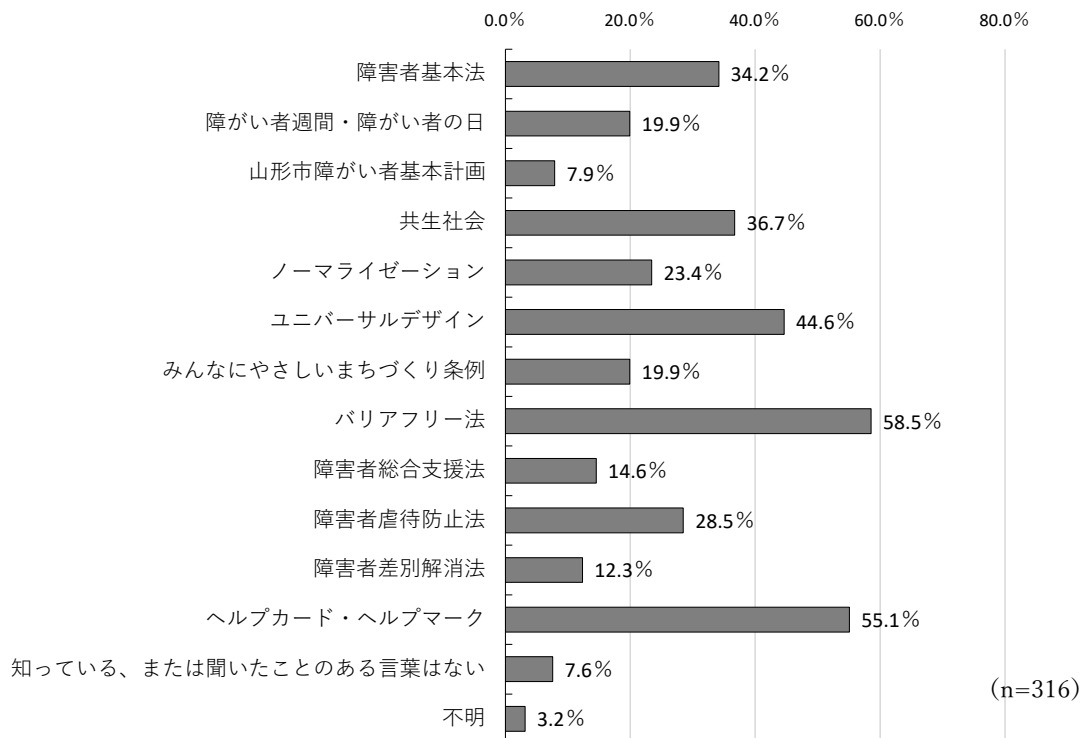
- ◎ 障がいへの理解について前回調査と比較してみると、用語の認知については、ほとんどの用語で認知度は高まっており、特に「ヘルプカード・ヘルプマーク」については、30ポイント以上上昇している。また、用語の認知経路として「インターネット」とを回答した割合が、10ポイント以上上昇しており、今後の周知経路としては、重視すべきと考える。
- ◎ 障がい福祉への関心度については、前回調査よりも『関心がある』割合は若干(3.3ポイント)増加したものの、依然4割程度の方が『関心がない』と回答しており、今後更なる周知が必要と考えられる。なお、障がい者施設の物品を購入したことがあるという割合は、前回調査から約10ポイント上昇しており、障がい者の工賃向上のためにも、今後ともそのような機会を増やしていくのが望ましい。

■ 用語の認知【MA】

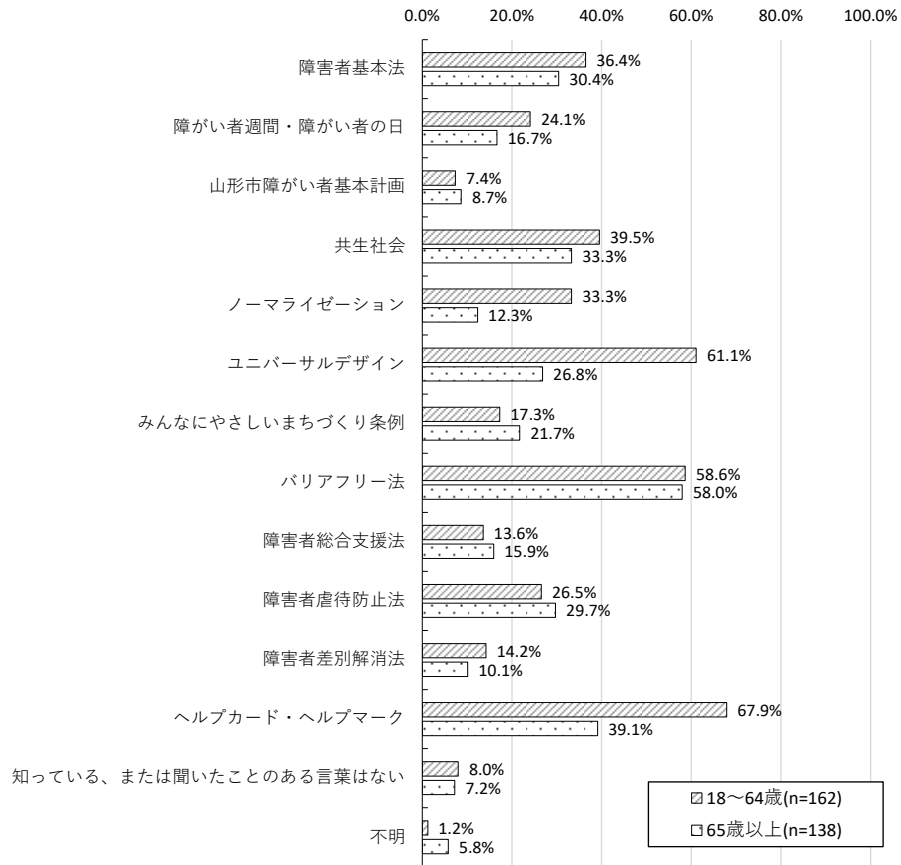
問1 あなたが知っている、または聞いたことのある言葉はありますか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	障害者基本法	108	34.2%	59	36.4%	42	30.4%
2	障がい者週間・障がい者の日	63	19.9%	39	24.1%	23	16.7%
3	山形市障がい者基本計画	25	7.9%	12	7.4%	12	8.7%
4	共生社会	116	36.7%	64	39.5%	46	33.3%
5	ノーマライゼーション	74	23.4%	54	33.3%	17	12.3%
6	ユニバーサルデザイン	141	44.6%	99	61.1%	37	26.8%
7	みんなにやさしいまちづくり条例	63	19.9%	28	17.3%	30	21.7%
8	バリアフリー法	185	58.5%	95	58.6%	80	58.0%
9	障害者総合支援法	46	14.6%	22	13.6%	22	15.9%
10	障害者虐待防止法	90	28.5%	43	26.5%	41	29.7%
11	障害者差別解消法	39	12.3%	23	14.2%	14	10.1%
12	ヘルプカード・ヘルプマーク	174	55.1%	110	67.9%	54	39.1%
13	知っている、または聞いたことのある言葉はない	24	7.6%	13	8.0%	10	7.2%
	不明	10	3.2%	2	1.2%	8	5.8%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

用語の認知(全体)



用語の認知(年代別)

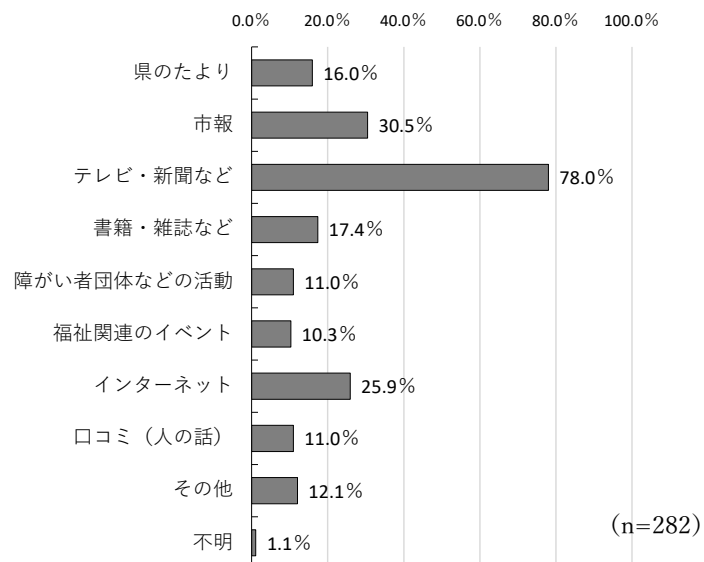


■ 用語の認知経路【MA】

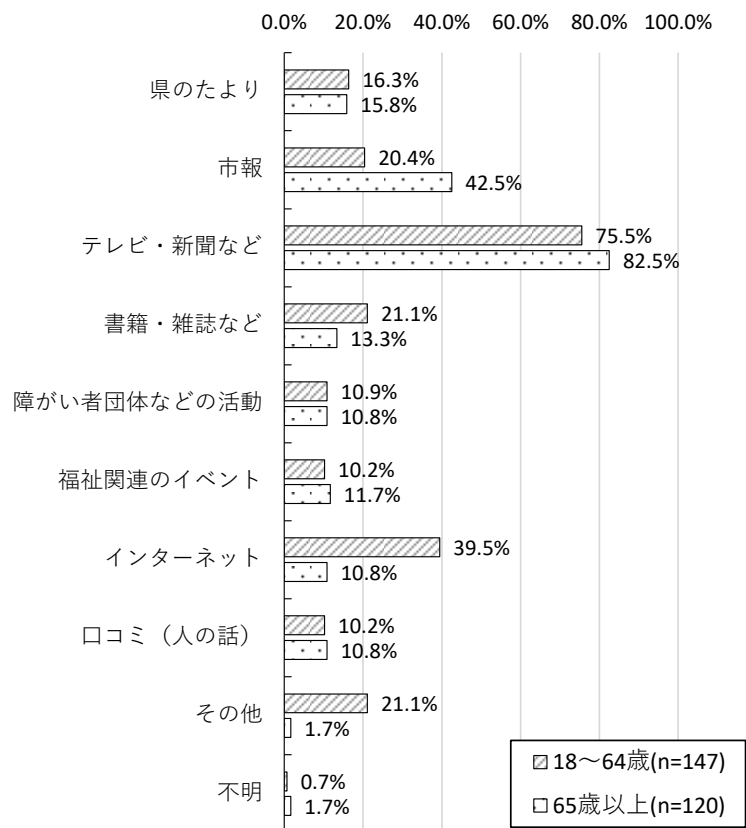
問2 問1で「1～12」を回答した方におたずねします。その言葉はどのようにして知ったり、聞いたりしましたか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	県のたより	45	16.0%	24	16.3%	19	15.8%
2	市報	86	30.5%	30	20.4%	51	42.5%
3	テレビ・新聞など	220	78.0%	111	75.5%	99	82.5%
4	書籍・雑誌など	49	17.4%	31	21.1%	16	13.3%
5	障がい者団体などの活動	31	11.0%	16	10.9%	13	10.8%
6	福祉関連のイベント	29	10.3%	15	10.2%	14	11.7%
7	インターネット	73	25.9%	58	39.5%	13	10.8%
8	口コミ（人の話）	31	11.0%	15	10.2%	13	10.8%
9	その他	34	12.1%	31	21.1%	2	1.7%
	不明	3	1.1%	1	0.7%	2	1.7%
	全体	282	100.0%	147	100.0%	120	100.0%

用語の認知経路(全体)



用語の認知経路(年代別)

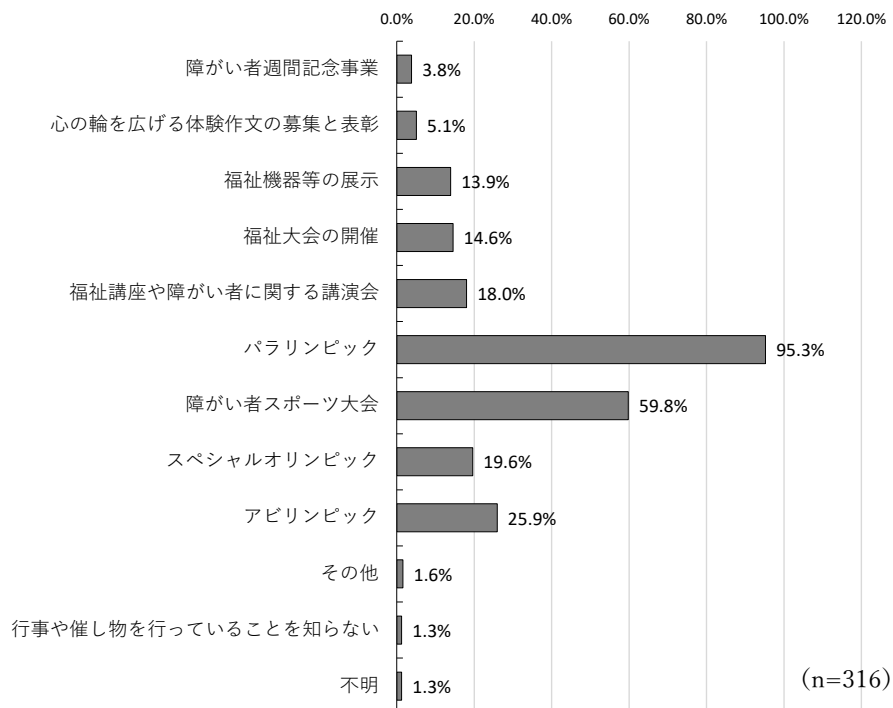


■ 行事等の認知【MA】

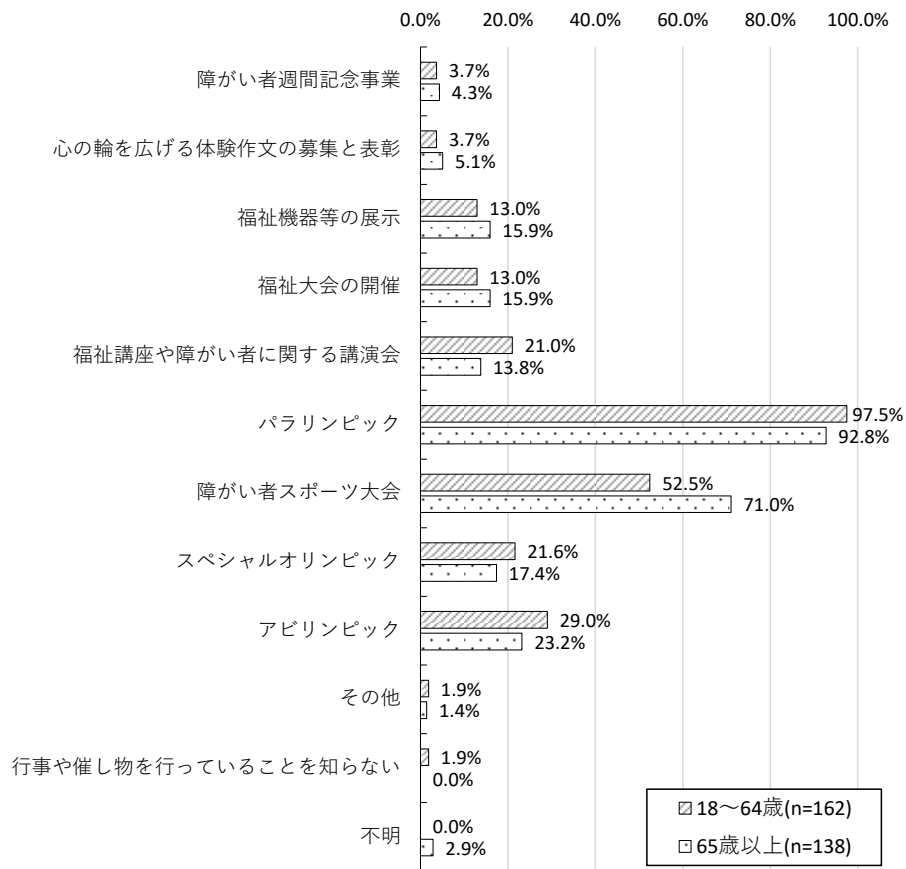
問3 障がいのある方に関する行事や催し物で知っているものはありますか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	障がい者週間記念事業	12	3.8%	6	3.7%	6	4.3%
2	心の輪を広げる体験作文の募集と表彰	16	5.1%	6	3.7%	7	5.1%
3	福祉機器等の展示	44	13.9%	21	13.0%	22	15.9%
4	福祉大会の開催	46	14.6%	21	13.0%	22	15.9%
5	福祉講座や障がい者に関する講演会	57	18.0%	34	21.0%	19	13.8%
6	パラリンピック	301	95.3%	158	97.5%	128	92.8%
7	障がい者スポーツ大会	189	59.8%	85	52.5%	98	71.0%
8	スペシャルオリンピック	62	19.6%	35	21.6%	24	17.4%
9	アビリンピック	82	25.9%	47	29.0%	32	23.2%
10	その他	5	1.6%	3	1.9%	2	1.4%
11	行事や催し物を行っていることを知らない	4	1.3%	3	1.9%	0	0.0%
	不明	4	1.3%	0	0.0%	4	2.9%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

行事等の認知(全体)



行事等の認知(年代別)

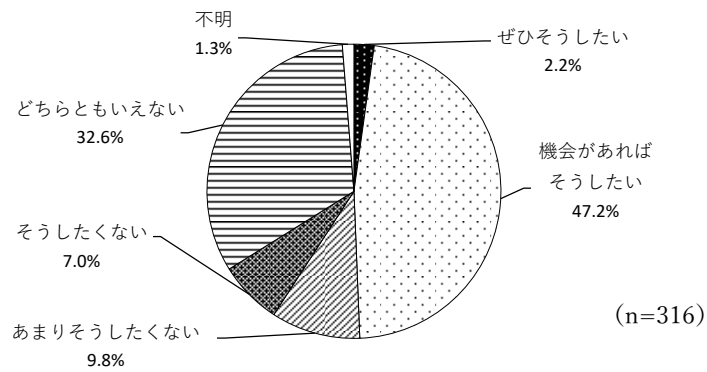


■ 行事等への参加意向【SA】

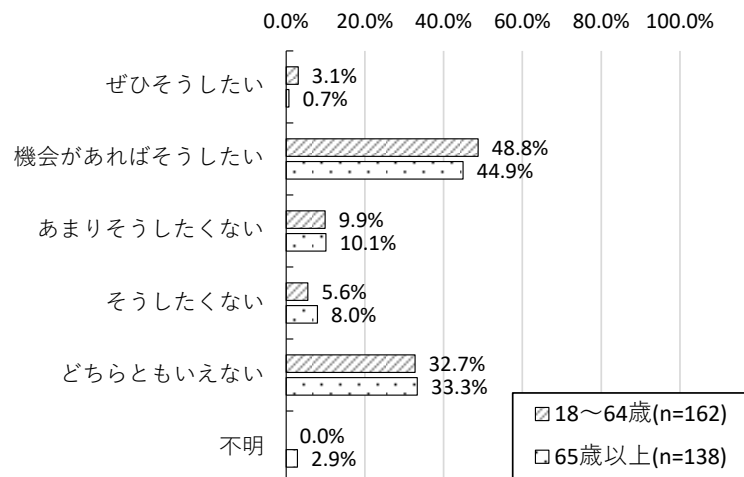
問4 問3のような障がいのある方に関する行事や催し物を見に行ったり参加したりしてみたいと思いますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ぜひそうしたい	7	2.2%	5	3.1%	1	0.7%
2	機会があればそうしたい	149	47.2%	79	48.8%	62	44.9%
3	あまりそうしたくない	31	9.8%	16	9.9%	14	10.1%
4	そうしたくない	22	7.0%	9	5.6%	11	8.0%
5	どちらともいえない	103	32.6%	53	32.7%	46	33.3%
	不明	4	1.3%	0	0.0%	4	2.9%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

行事等への参加意向(全体)



行事等への参加意向(年代別)

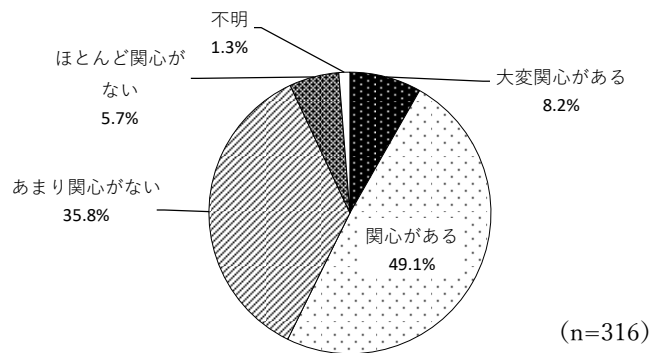


■ 障がい福祉への関心度【SA】

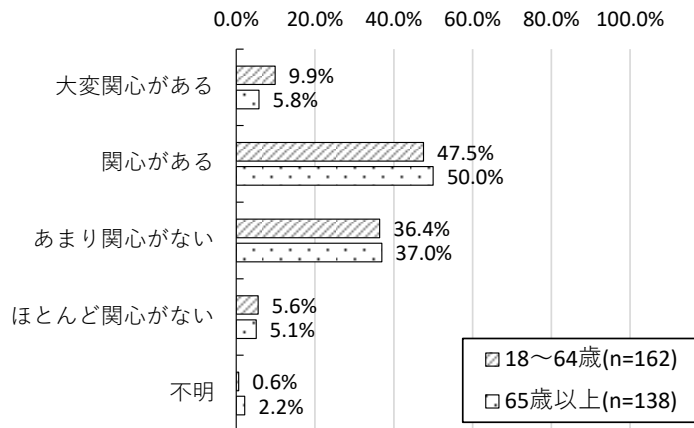
問5 あなたの「障がい福祉」への関心度はどのくらいですか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	大変関心がある	26	8.2%	16	9.9%	8	5.8%
2	関心がある	155	49.1%	77	47.5%	69	50.0%
3	あまり関心がない	113	35.8%	59	36.4%	51	37.0%
4	ほとんど関心がない	18	5.7%	9	5.6%	7	5.1%
	不明	4	1.3%	1	0.6%	3	2.2%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

障がい福祉への関心度(全体)



障がい福祉への関心度(年代別)

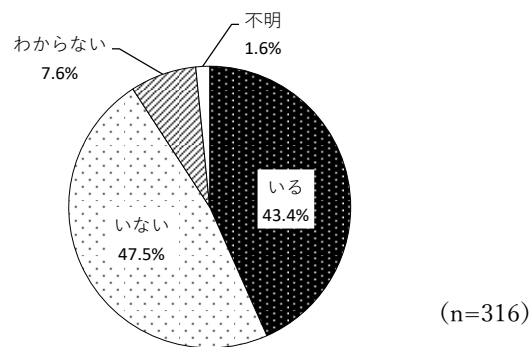


■ 身近な障がい者の有無【SA】

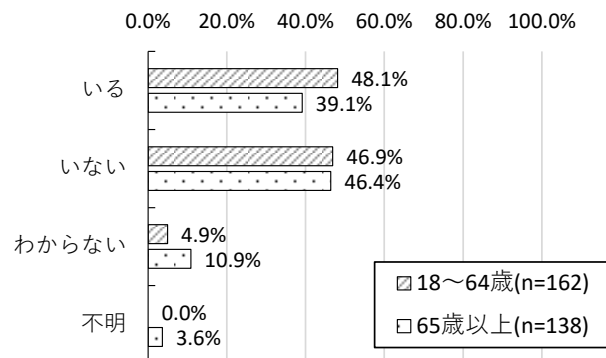
問6 あなたの身近に障がいのある方はいらっしゃいますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	いる	137	43.4%	78	48.1%	54	39.1%
2	いない	150	47.5%	76	46.9%	64	46.4%
3	わからない	24	7.6%	8	4.9%	15	10.9%
	不明	5	1.6%	0	0.0%	5	3.6%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

身近な障がい者の有無(全体)



身近な障がい者の有無(年代別)

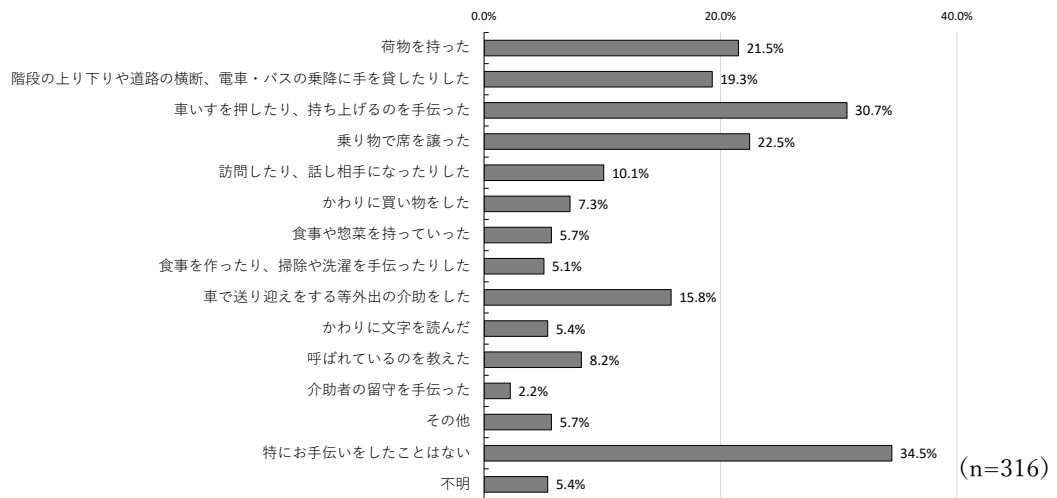


■ 障がい者のお手伝い【MA】

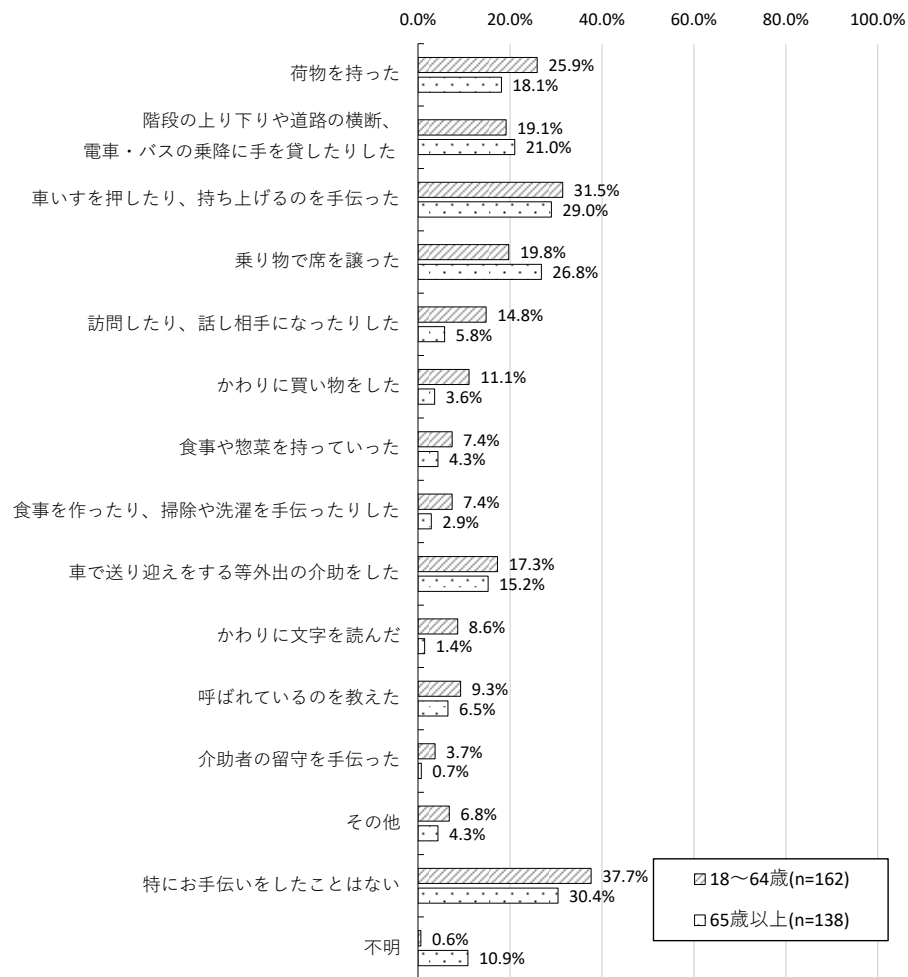
問7 あなたは障がいのある方に対して、次のようなお手伝いをしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	荷物を持った	68	21.5%	42	25.9%	25	18.1%
2	階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗降に手を貸したりした	61	19.3%	31	19.1%	29	21.0%
3	車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った	97	30.7%	51	31.5%	40	29.0%
4	乗り物で席を譲った	71	22.5%	32	19.8%	37	26.8%
5	訪問したり、話し相手になったりした	32	10.1%	24	14.8%	8	5.8%
6	かわりに買い物をした	23	7.3%	18	11.1%	5	3.6%
7	食事や惣菜を持っていった	18	5.7%	12	7.4%	6	4.3%
8	食事を作ったり、掃除や洗濯を手伝ったりした	16	5.1%	12	7.4%	4	2.9%
9	車で送り迎えをする等外出の介助をした	50	15.8%	28	17.3%	21	15.2%
10	かわりに文字を読んだ	17	5.4%	14	8.6%	2	1.4%
11	呼ばれているのを教えた	26	8.2%	15	9.3%	9	6.5%
12	介助者の留守を手伝った	7	2.2%	6	3.7%	1	0.7%
13	その他	18	5.7%	11	6.8%	6	4.3%
14	特にお手伝いをしたことはない	109	34.5%	61	37.7%	42	30.4%
	不明	17	5.4%	1	0.6%	15	10.9%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

障がい者のお手伝い(全体)



障がい者のお手伝い(年代別)

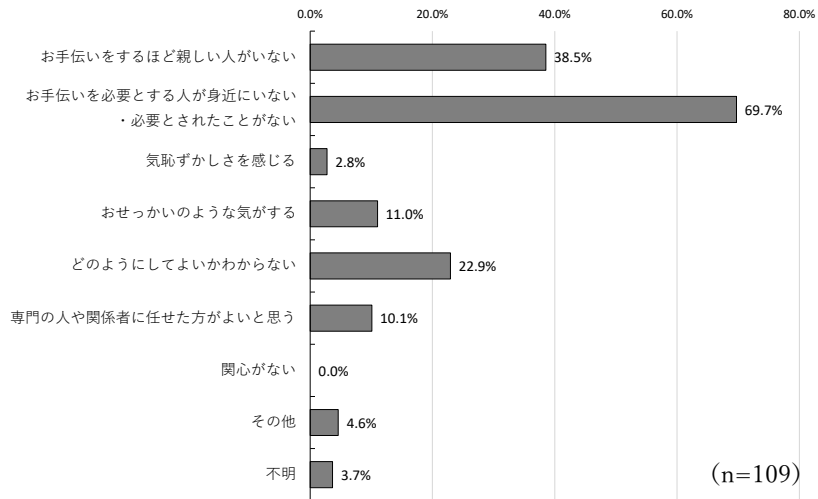


■ お手伝いをしたことのない理由【MA】

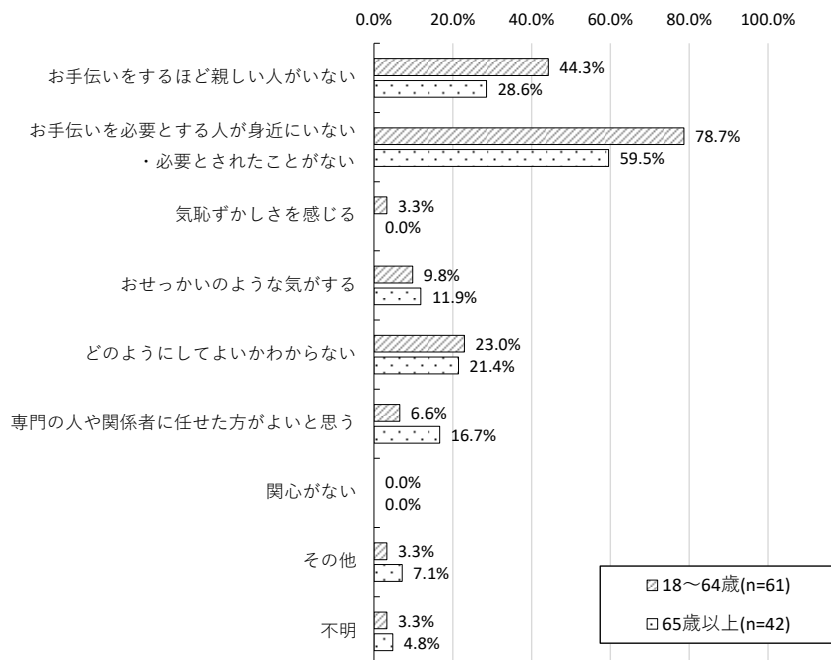
問8 問7で「14」を回答した方におたずねします。お手伝いをしたことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	お手伝いをするほど親しい人がいない	42	38.5%	27	44.3%	12	28.6%
2	お手伝いを必要とする人が身近にいない・必要とされたことがない	76	69.7%	48	78.7%	25	59.5%
3	気恥ずかしさを感じる	3	2.8%	2	3.3%	0	0.0%
4	おせっかいのような気がする	12	11.0%	6	9.8%	5	11.9%
5	どのようにしてよいかわからない	25	22.9%	14	23.0%	9	21.4%
6	専門の人や関係者に任せた方がよいと思う	11	10.1%	4	6.6%	7	16.7%
7	関心がない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8	その他	5	4.6%	2	3.3%	3	7.1%
	不明	4	3.7%	2	3.3%	2	4.8%
	全体	109	100.0%	61	100.0%	42	100.0%

お手伝いをしたことのない理由(全体)



お手伝いをしたことのない理由(年代別)

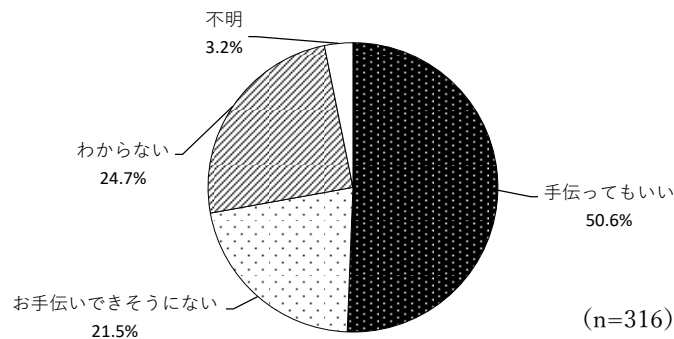


■ 地域行事に参加する障がい者のお手伝い【SA】

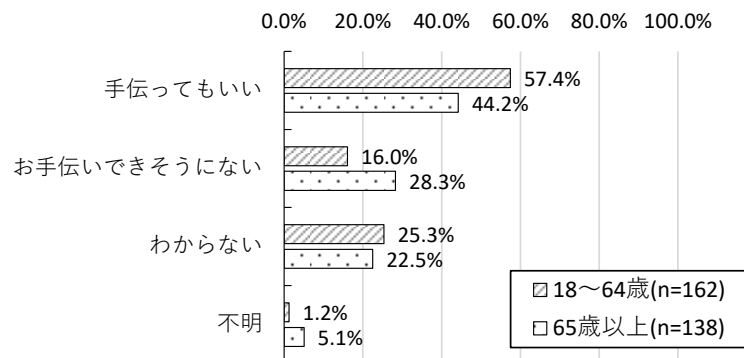
問9 あなたの地域行事に障がいのある方が参加しようとした場合、何かお手伝いをしてもいいと考えますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	手伝ってもいい	160	50.6%	93	57.4%	61	44.2%
2	お手伝いできそうにない	68	21.5%	26	16.0%	39	28.3%
3	わからない	78	24.7%	41	25.3%	31	22.5%
	不明	10	3.2%	2	1.2%	7	5.1%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

地域行事に参加する障がい者のお手伝い(全体)



地域行事に参加する障がい者のお手伝い(年代別)

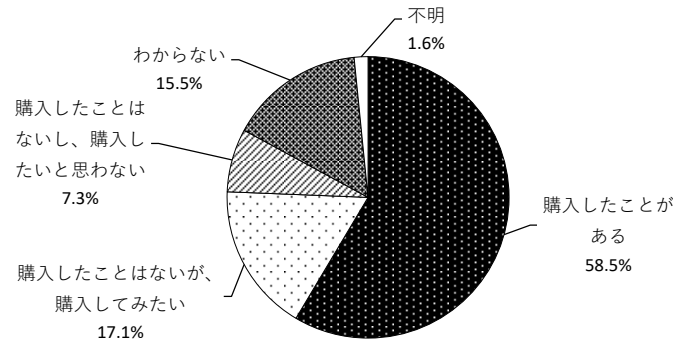


■ 障がい者就労施設等による販売物品の購入経験・意向【SA】

問10 障がい者就労施設等の物品をこれまで購入したことがありますか、あるいは今後購入してみたいですか。(1つだけ○印)

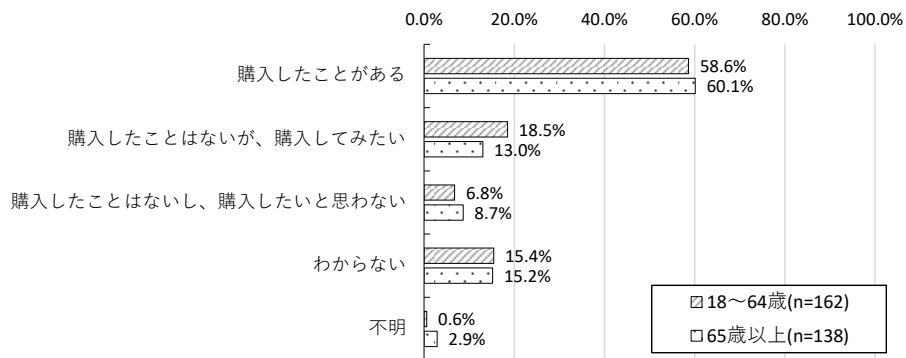
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	購入したことがある	185	58.5%	95	58.6%	83	60.1%
2	購入したことはないが、購入してみたい	54	17.1%	30	18.5%	18	13.0%
3	購入したことはないし、購入したいと思わない	23	7.3%	11	6.8%	12	8.7%
4	わからない	49	15.5%	25	15.4%	21	15.2%
	不明	5	1.6%	1	0.6%	4	2.9%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

障がい者就労施設等による販売物品の購入経験・意向(全体)



(n=316)

障がい者就労施設等による販売物品の購入経験・意向(年代別)

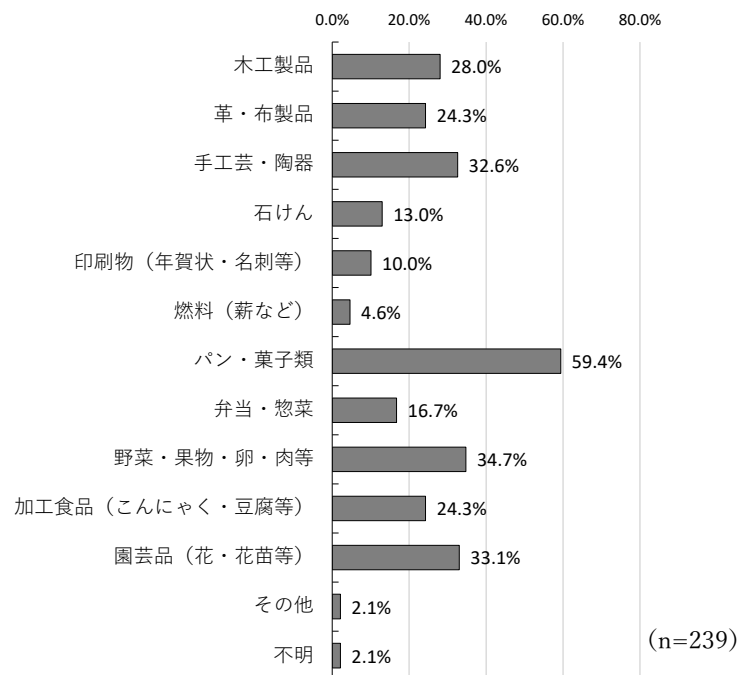


■ 購入したい物品【MA】

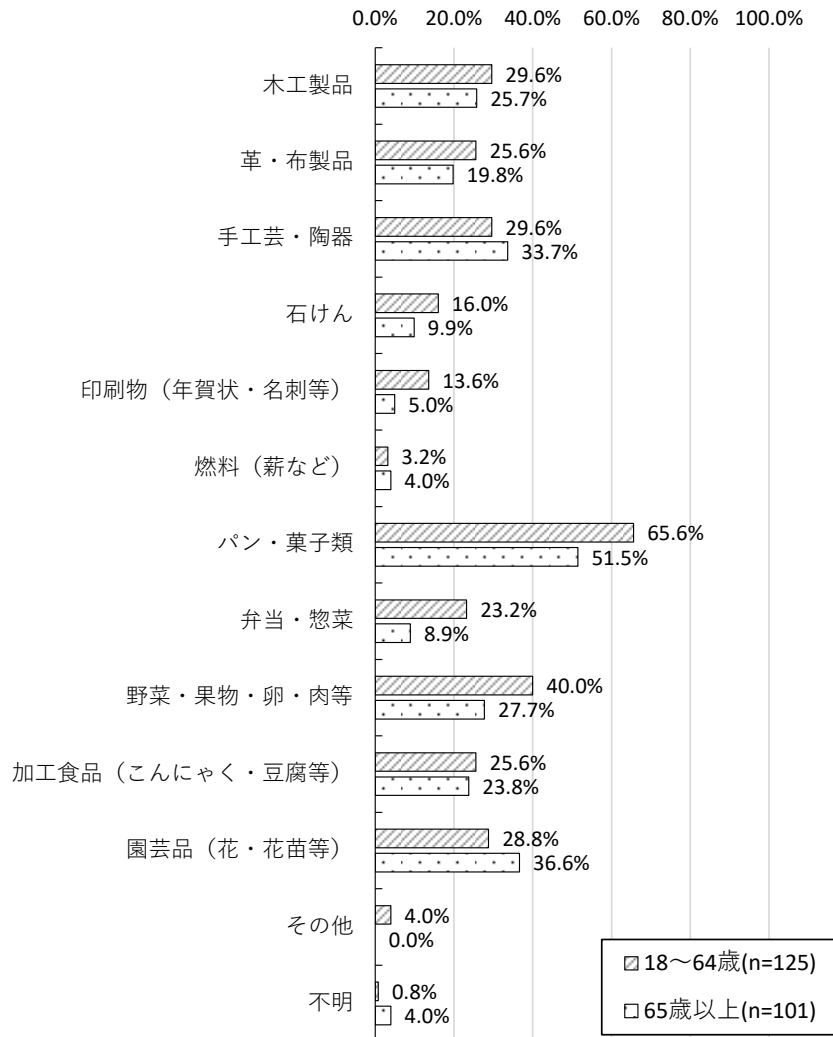
問11 問 10 で「1」または「2」を回答した方におたずねします。どのような物品があれば購入してみたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	木工製品	67	28.0%	37	29.6%	26	25.7%
2	革・布製品	58	24.3%	32	25.6%	20	19.8%
3	手工芸・陶器	78	32.6%	37	29.6%	34	33.7%
4	石けん	31	13.0%	20	16.0%	10	9.9%
5	印刷物（年賀状・名刺等）	24	10.0%	17	13.6%	5	5.0%
6	燃料（薪など）	11	4.6%	4	3.2%	4	4.0%
7	パン・菓子類	142	59.4%	82	65.6%	52	51.5%
8	弁当・惣菜	40	16.7%	29	23.2%	9	8.9%
9	野菜・果物・卵・肉等	83	34.7%	50	40.0%	28	27.7%
10	加工食品（こんにゃく・豆腐等）	58	24.3%	32	25.6%	24	23.8%
11	園芸品（花・花苗等）	79	33.1%	36	28.8%	37	36.6%
12	その他	5	2.1%	5	4.0%	0	0.0%
	不明	5	2.1%	1	0.8%	4	4.0%
	全体	239	100.0%	125	100.0%	101	100.0%

購入したい物品(全体)



購入したい物品(年代別)

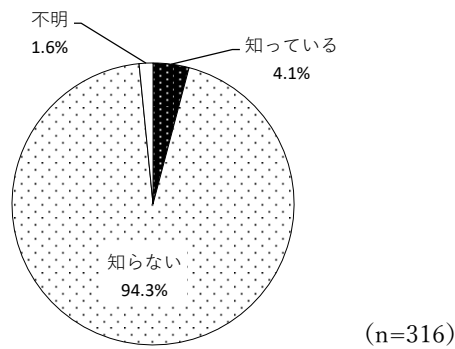


■ 悪質商法などの被害の認知【SA】

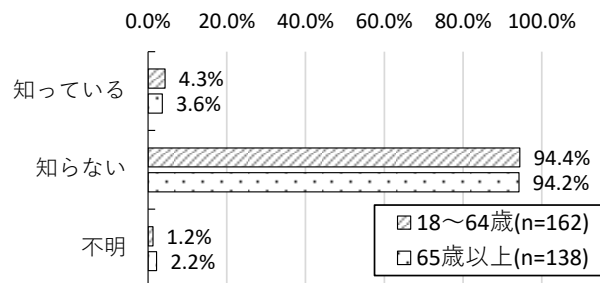
問12 あなたは、悪質商法などの被害にあった障がい者を知っていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	13	4.1%	7	4.3%	5	3.6%
2	知らない	298	94.3%	153	94.4%	130	94.2%
	不明	5	1.6%	2	1.2%	3	2.2%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

悪質商法などの被害の認知(全体)



悪質商法などの被害の認知(年代別)

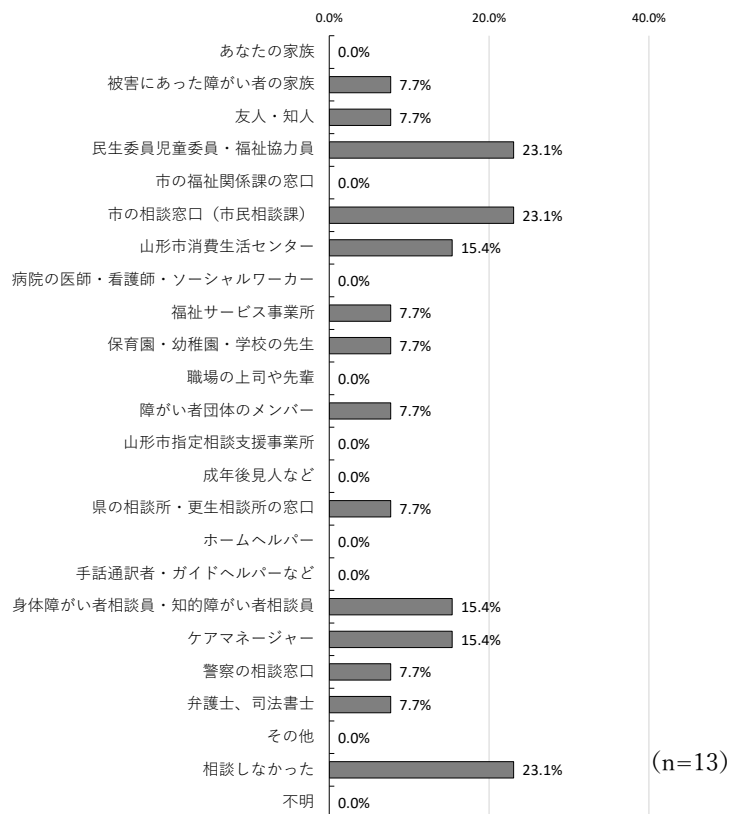


■ 被害の相談先【MA】

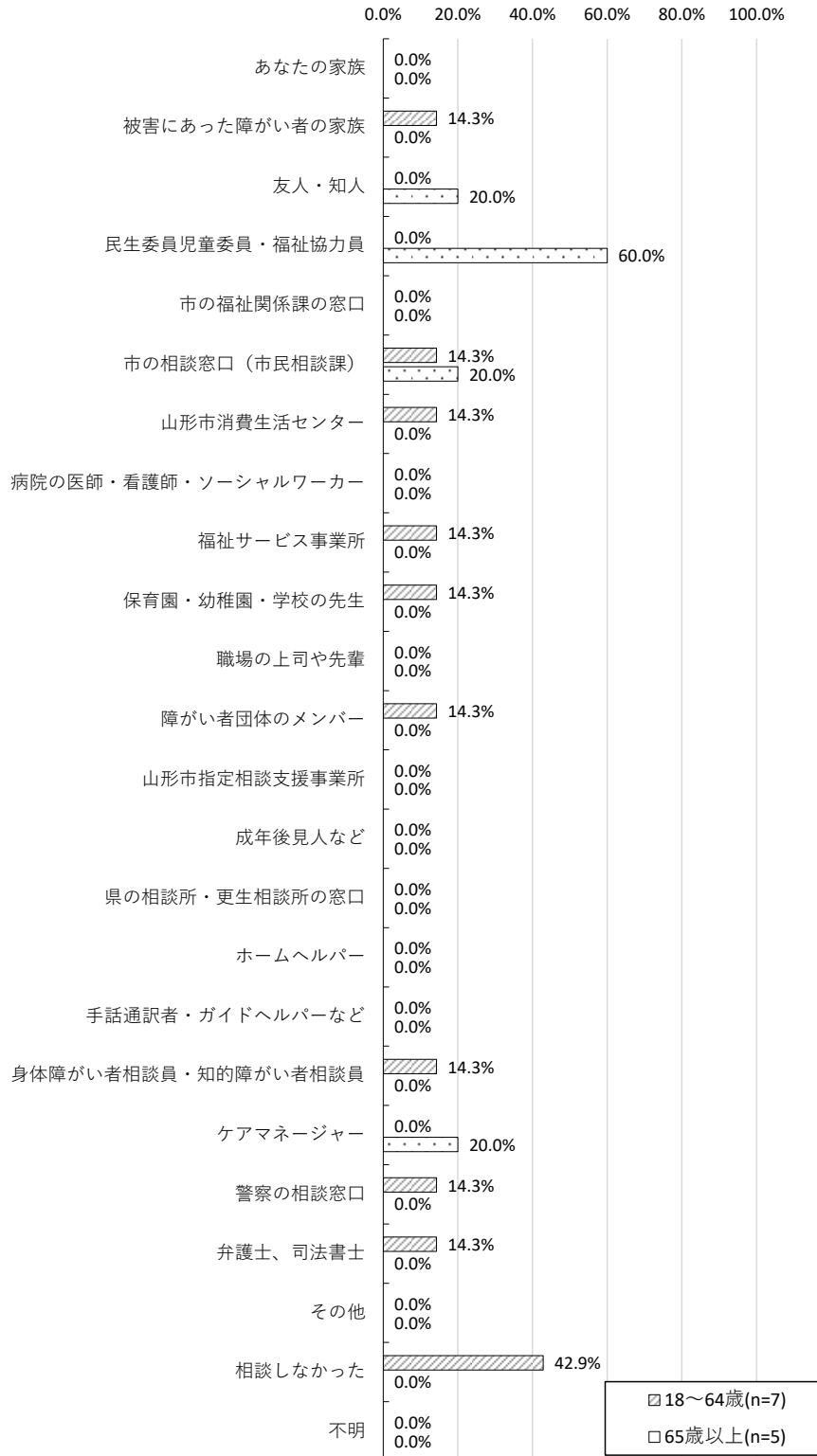
問13 問12で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰(どこ)へ相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	あなたの家族	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	被害にあった障がい者の家族	1	7.7%	1	14.3%	0	0.0%
3	友人・知人	1	7.7%	0	0.0%	1	20.0%
4	民生委員児童委員・福祉協力員	3	23.1%	0	0.0%	3	60.0%
5	市の福祉関係課の窓口	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6	市の相談窓口(市民相談課)	3	23.1%	1	14.3%	1	20.0%
7	山形市消費生活センター	2	15.4%	1	14.3%	0	0.0%
8	病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	福祉サービス事業所	1	7.7%	1	14.3%	0	0.0%
10	保育園・幼稚園・学校の先生	1	7.7%	1	14.3%	0	0.0%
11	職場の上司や先輩	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12	障がい者団体のメンバー	1	7.7%	1	14.3%	0	0.0%
13	山形市指定相談支援事業所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
14	成年後見人など	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
15	県の相談所・更生相談所の窓口	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
16	ホームヘルパー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
17	手話通訳者・ガイドヘルパーなど	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
18	身体障がい者相談員・知的障がい者相談員	2	15.4%	1	14.3%	0	0.0%
19	ケアマネージャー	2	15.4%	0	0.0%	1	20.0%
20	警察の相談窓口	1	7.7%	1	14.3%	0	0.0%
21	弁護士、司法書士	1	7.7%	1	14.3%	0	0.0%
22	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
23	相談しなかった	3	23.1%	3	42.9%	0	0.0%
	不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	全体	13	100.0%	7	100.0%	5	100.0%

被害の相談先(全体)



被害の相談先(年代別)

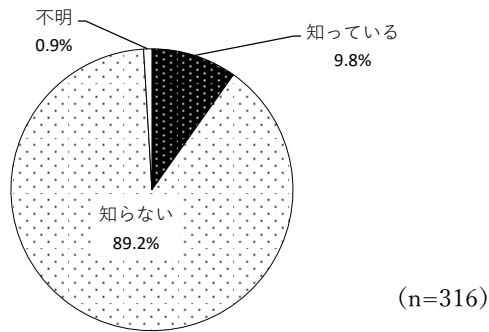


■ 一人暮らしの障がい者の認知【SA】

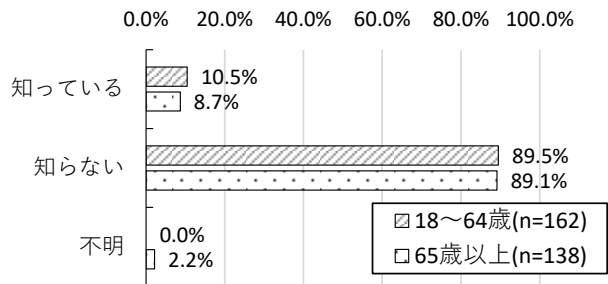
問14 あなたは、自宅に一人で住んでいる障がい者を知っていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	知っている	31	9.8%	17	10.5%	12	8.7%
2	知らない	282	89.2%	145	89.5%	123	89.1%
	不明	3	0.9%	0	0.0%	3	2.2%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

一人暮らしの障がい者の認知(全体)



一人暮らしの障がい者の認知(年代別)

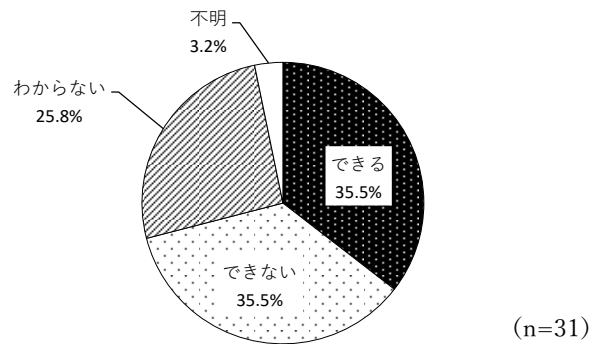


■ 避難の補助意向【SA】

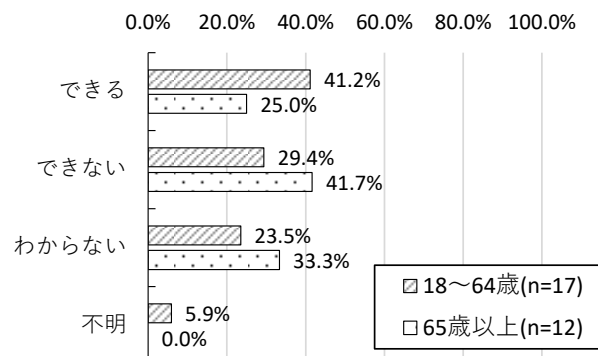
問15 問 14 で「1」を回答した方におたずねします。その方の災害時の避難を手伝うことはできますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	できる	11	35.5%	7	41.2%	3	25.0%
2	できない	11	35.5%	5	29.4%	5	41.7%
3	わからない	8	25.8%	4	23.5%	4	33.3%
	不明	1	3.2%	1	5.9%	0	0.0%
	全体	31	100.0%	17	100.0%	12	100.0%

避難の補助意向(全体)



避難の補助意向(年代別)

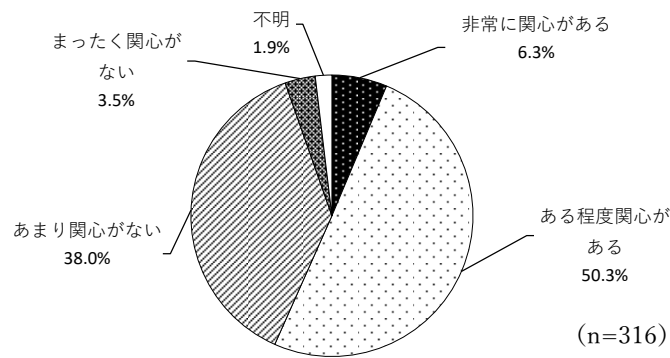


■ 障がい者ボランティアの関心【SA】

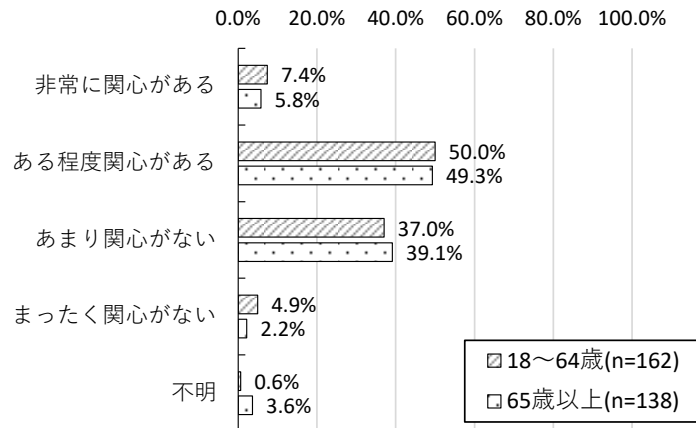
問16 あなたは、障がいのある方に対しての「ボランティア」に関心がありますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	非常に関心がある	20	6.3%	12	7.4%	8	5.8%
2	ある程度関心がある	159	50.3%	81	50.0%	68	49.3%
3	あまり関心がない	120	38.0%	60	37.0%	54	39.1%
4	まったく関心がない	11	3.5%	8	4.9%	3	2.2%
	不明	6	1.9%	1	0.6%	5	3.6%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

障がい者ボランティアの関心(全体)



障がい者ボランティアの関心(年代別)

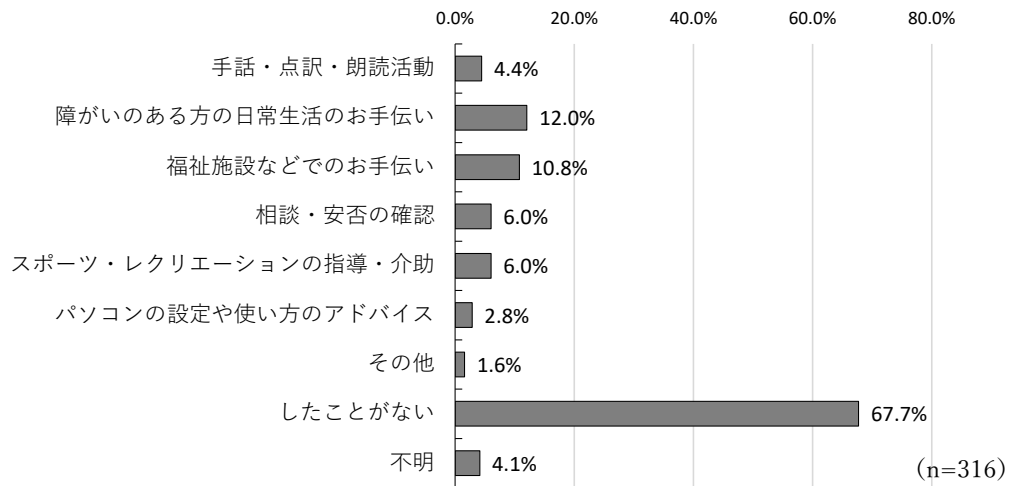


■ ボランティア活動の経験【MA】

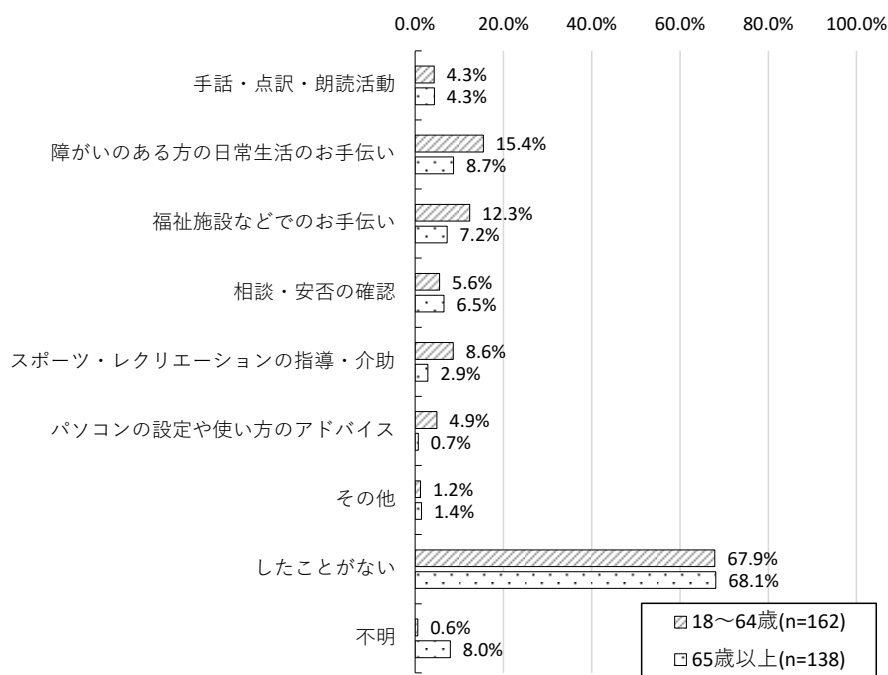
問17 あなたは、次のような活動をしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	手話・点訳・朗読活動	14	4.4%	7	4.3%	6	4.3%
2	障がいのある方の日常生活のお手伝い	38	12.0%	25	15.4%	12	8.7%
3	福祉施設などでのお手伝い	34	10.8%	20	12.3%	10	7.2%
4	相談・安否の確認	19	6.0%	9	5.6%	9	6.5%
5	スポーツ・レクリエーションの指導・介助	19	6.0%	14	8.6%	4	2.9%
6	パソコンの設定や使い方のアドバイス	9	2.8%	8	4.9%	1	0.7%
7	その他	5	1.6%	2	1.2%	2	1.4%
8	したことがない	214	67.7%	110	67.9%	94	68.1%
	不明	13	4.1%	1	0.6%	11	8.0%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

ボランティア活動の経験(全体)



ボランティア活動の経験(年代別)

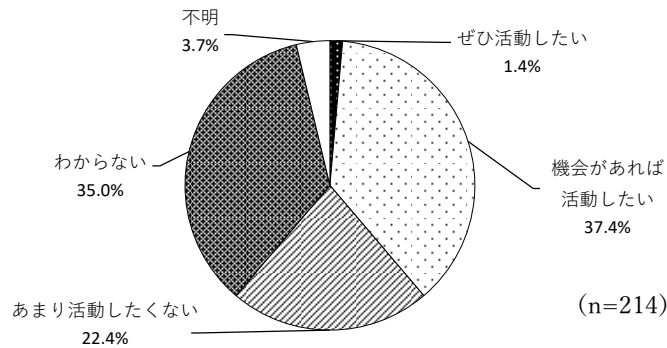


■ ボランティア活動の意向【SA】

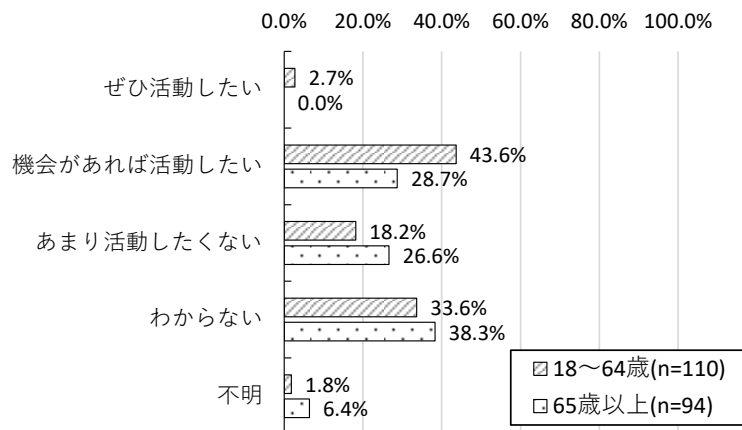
問18 問 17 で「8」を回答した方におたずねします。今後、あなたは障がいのある方に対してボランティア活動をしたいと思いますか。（1つだけ○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ぜひ活動したい	3	1.4%	3	2.7%	0	0.0%
2	機会があれば活動したい	80	37.4%	48	43.6%	27	28.7%
3	あまり活動したくない	48	22.4%	20	18.2%	25	26.6%
4	わからない	75	35.0%	37	33.6%	36	38.3%
	不明	8	3.7%	2	1.8%	6	6.4%
	全体	214	100.0%	110	100.0%	94	100.0%

ボランティア活動の意向(全体)



ボランティア活動の意向(年代別)

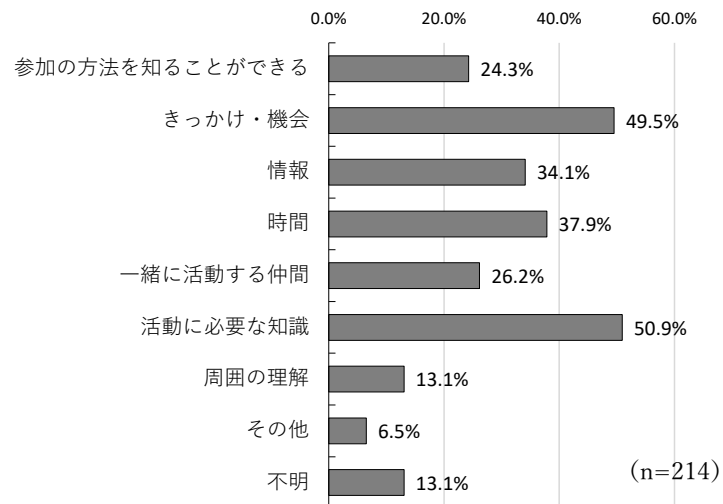


■ ボランティア活動に参加するために必要なこと【MA】

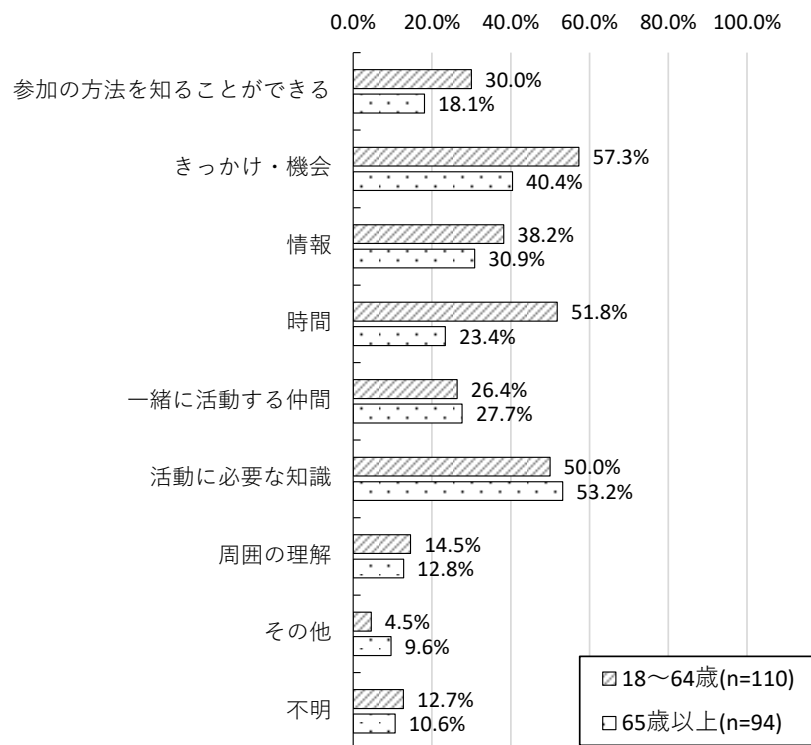
問19 問 17 で「8」を回答した方におたずねします。あなたが障がいのある方に対してのボランティア活動に参加する為に、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	参加の方法を知ることができる	52	24.3%	33	30.0%	17	18.1%
2	きっかけ・機会	106	49.5%	63	57.3%	38	40.4%
3	情報	73	34.1%	42	38.2%	29	30.9%
4	時間	81	37.9%	57	51.8%	22	23.4%
5	一緒に活動する仲間	56	26.2%	29	26.4%	26	27.7%
6	活動に必要な知識	109	50.9%	55	50.0%	50	53.2%
7	周囲の理解	28	13.1%	16	14.5%	12	12.8%
8	その他	14	6.5%	5	4.5%	9	9.6%
	不明	28	13.1%	14	12.7%	10	10.6%
	全体	214	100.0%	110	100.0%	94	100.0%

ボランティア活動に参加するために必要なこと(全体)



ボランティア活動に参加するために必要なこと(年代別)



(3)バリアフリーに関することについて

社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うものは、「建物・乗り物・道路等の出入り口の段差解消」が63.0%と最も高く、次いで「車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保」(31.0%)、「わかりやすい表示」(24.5%)などとなっている。

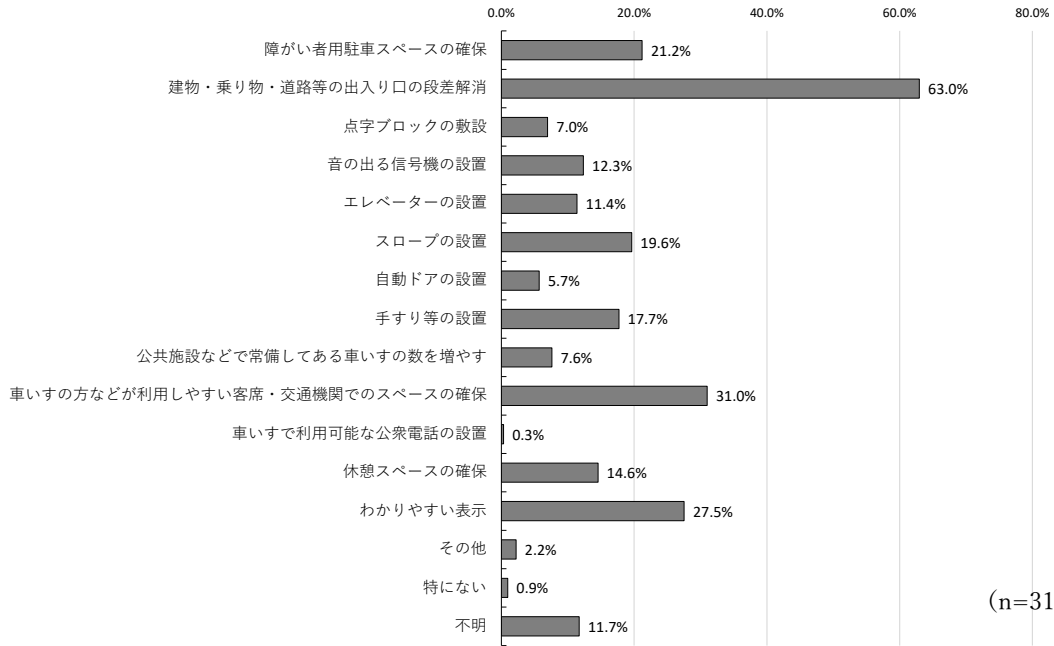
- ◎ 前回調査と比較すると、ほとんどの項目で割合は低減しており、着実にバリアフリー化は進んでいると認められる。ただし、障がい者駐車スペースの確保については、若干(0.6ポイント)割合が増加しており、施設設置者等への更なる周知が必要と考えられる。

■ バリアフリー化推進にあたり設備面で必要なもの【MA】

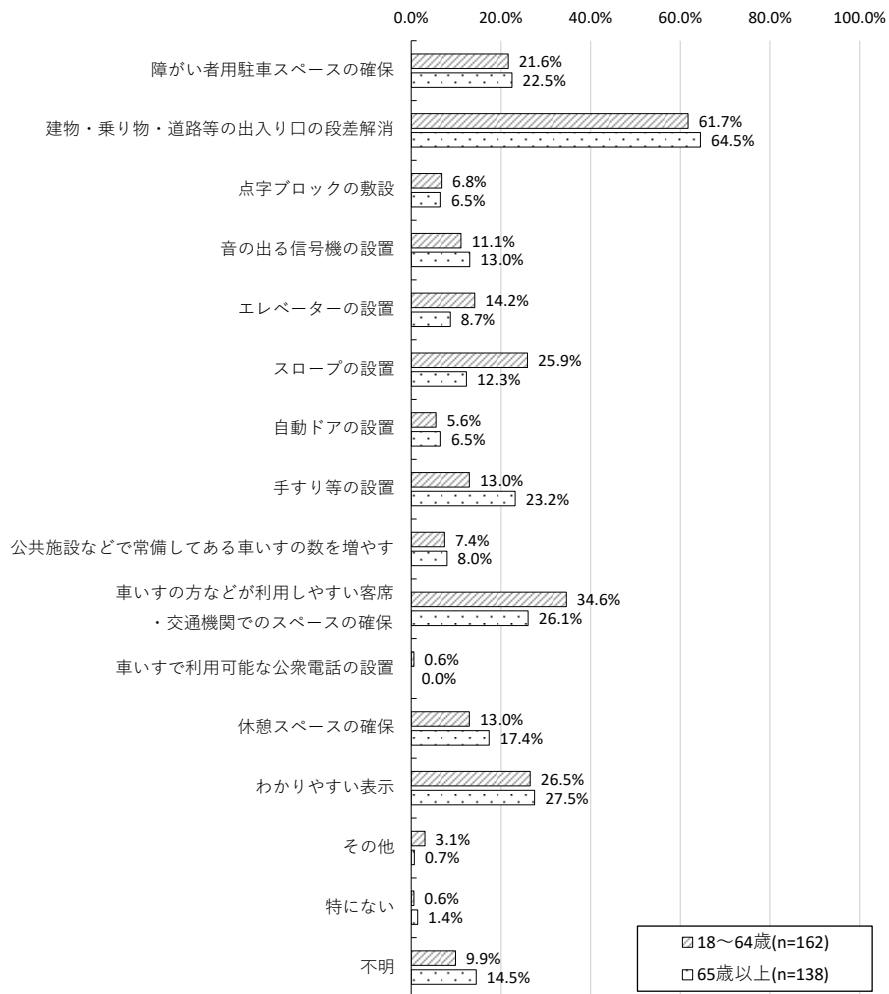
問20 社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	障がい者用駐車スペースの確保	67	21.2%	35	21.6%	31	22.5%
2	建物・乗り物・道路等の出入り口の段差解消	199	63.0%	100	61.7%	89	64.5%
3	点字ブロックの敷設	22	7.0%	11	6.8%	9	6.5%
4	音の出る信号機の設置	39	12.3%	18	11.1%	18	13.0%
5	エレベーターの設置	36	11.4%	23	14.2%	12	8.7%
6	スロープの設置	62	19.6%	42	25.9%	17	12.3%
7	自動ドアの設置	18	5.7%	9	5.6%	9	6.5%
8	手すり等の設置	56	17.7%	21	13.0%	32	23.2%
9	公共施設などで常備してある車いすの数を増やす	24	7.6%	12	7.4%	11	8.0%
10	車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保	98	31.0%	56	34.6%	36	26.1%
11	車いすで利用可能な公衆電話の設置	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%
12	休憩スペースの確保	46	14.6%	21	13.0%	24	17.4%
13	わかりやすい表示	87	27.5%	43	26.5%	38	27.5%
14	その他	7	2.2%	5	3.1%	1	0.7%
15	特にない	3	0.9%	1	0.6%	2	1.4%
	不明	37	11.7%	16	9.9%	20	14.5%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

バリアフリー化推進にあたり設備面で必要なもの(全体)



バリアフリー化推進にあたり設備面で必要なもの(年代別)



(4)権利擁護について

平成29年4月より施行された「山形市障がい理由とする差別の解消の推進に関する条例」の認知状況について聞いたところ、「知らない」が89.6%と9割弱を占め、「知っている」(7.9%)を81.7ポイント差と大きく上回った。

日常生活や地域で、障がいのある方に対する差別・偏見を身の回りで感じる可能性があるかについて聞いたところ、「ない」が38.6%と4割弱を占め、「ある」(31.3%)を7.3ポイント上回った。一方、「わからない」も26.9%と2割以上を占めている。障がいのある方に対する差別・偏見を身の回りで感じたことが「ある」と回答した人に、どのようなところに差別・偏見を最も強く感じるかを聞いたところ、「人の視線」が56.6%と最も高く、次いで「仕事や収入」(48.5%)、「店などでの対応の態度」(22.2%)などとなっている。

社会のバリアフリー化を推進するために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があることについて聞いたところ、「子供のときから、学校などで障がい児とふれあいや助け合いの機会を増やす」が55.7%と過半数を占めて最も高く、次いで「障がいや病気への正しい理解の啓発」(46.8%)、「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」(35.4%)などとなっている。

今後、障がい者福祉を充実させるために、山形市が特に力を入れていく必要があることについて聞いたところ、「在宅生活において、介助がいつでも受けられる」が38.0%と4割弱を占めて最も高く、次いで「安心して住めるところがある」「障がいや病気について周囲の人の理解」(ともに31.3%)、「経済面での支援が受けられる」(29.4%)などとなっている。

国や市・市民の障がい者施策に対する取り組みについて聞いたところ、「国や市と市民が一緒になって取り組むべきだと思う」が69.6%と7割弱を占めて最も高く、次いで「国や市が主体となって取り組むべきだと思う」(23.4%)、「国や市よりも、市民が主体となって取り組むべきだと思う」(3.2%)などとなっている。

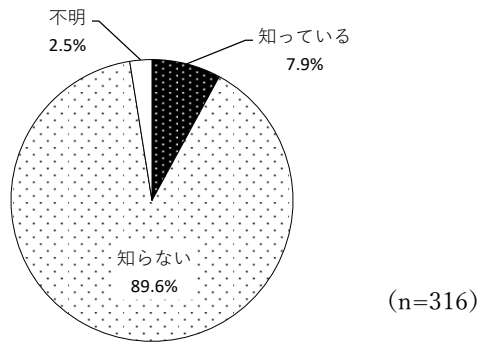
- ◎ 権利擁護について、前回調査と比較してみると、「山形市障がい理由とする差別の解消の推進に関する条例」の認知度は若干下がり(8.6%→7.9%)、逆に、差別・偏見を身の回りで感じたことがあると回答した方の割合は増えている(22.8%→31.3%)。また、障がい者施策に対する取り組みについては、「国や市と市民が一緒になって取り組むべきだと思う」の割合が減り(76.0%→69.6%)、国や市が主体となって取り組むべきだと思うの割合が増えている(17.6%→23.4%)。これらを踏まえると、条例や権利擁護の意識が市民に浸透しているとは言い難く、今後、更なる条例の周知と市民参加の取り組みが求められる。

■ 条例の認知状況【SA】

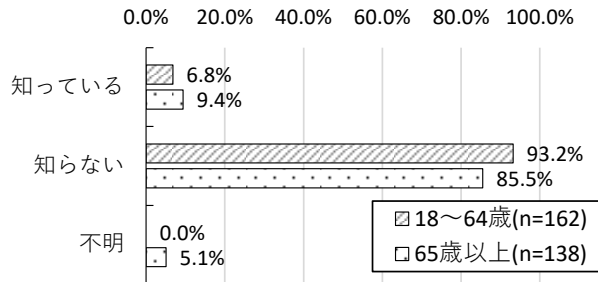
問21 あなたは、平成 29 年 4 月より施行された「山形市障がい者を理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。（1つだけ○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	知っている	25	7.9%	11	6.8%	13	9.4%
2	知らない	283	89.6%	151	93.2%	118	85.5%
	不明	8	2.5%	0	0.0%	7	5.1%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

条例の認知状況(全体)



条例の認知状況(年代別)

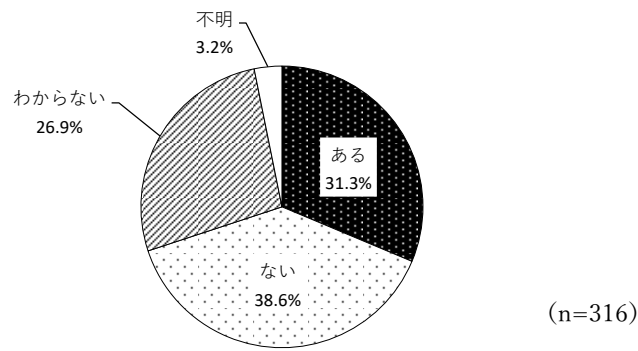


■ 障がい者に対する差別・偏見【SA】

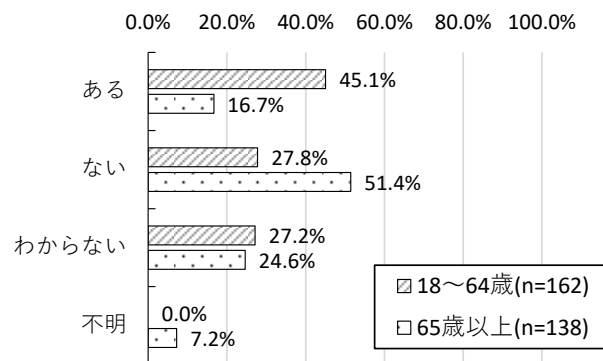
問22 障がいのある方に対する差別・偏見をあなたの身の回りで感じたことがありますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	ある	99	31.3%	73	45.1%	23	16.7%
2	ない	122	38.6%	45	27.8%	71	51.4%
3	わからない	85	26.9%	44	27.2%	34	24.6%
	不明	10	3.2%	0	0.0%	10	7.2%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

障がい者に対する差別・偏見(全体)



障がい者に対する差別・偏見(年代別)

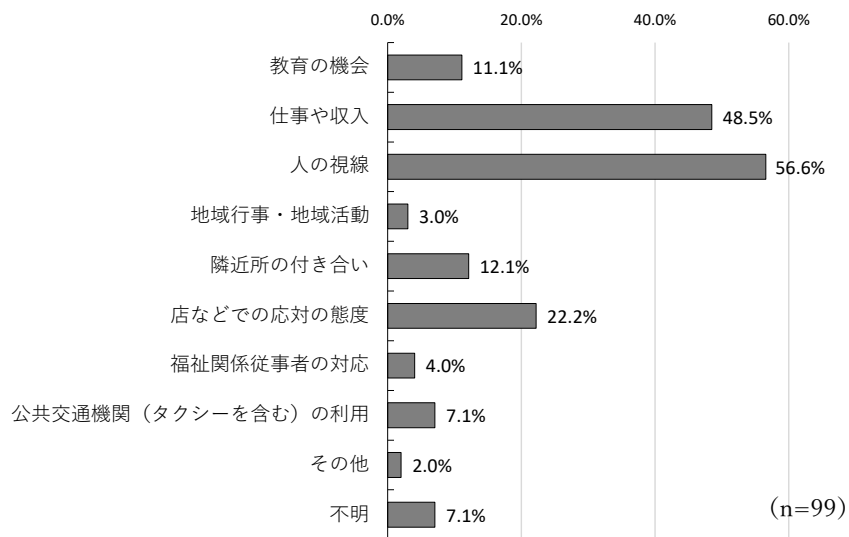


■ 差別・偏見を感じる場面【MA】

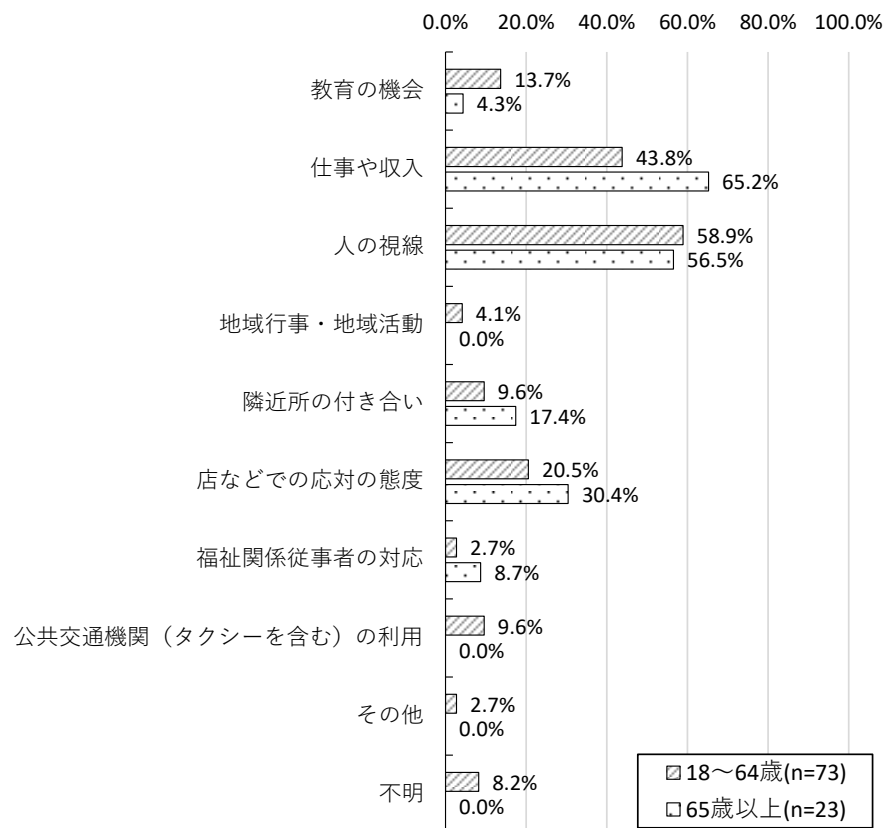
問23 問 22 で「1」を回答した方におたずねします。どのようなところに、障がいのある方に対する差別・偏見をもっとも強く感じますか。（2つまで○印）

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
				18～64歳		65歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	教育の機会	11	11.1%	10	13.7%	1	4.3%
2	仕事や収入	48	48.5%	32	43.8%	15	65.2%
3	人の視線	56	56.6%	43	58.9%	13	56.5%
4	地域行事・地域活動	3	3.0%	3	4.1%	0	0.0%
5	隣近所の付き合い	12	12.1%	7	9.6%	4	17.4%
6	店などでの対応の態度	22	22.2%	15	20.5%	7	30.4%
7	福祉関係従事者の対応	4	4.0%	2	2.7%	2	8.7%
8	公共交通機関（タクシーを含む）の利用	7	7.1%	7	9.6%	0	0.0%
9	その他	2	2.0%	2	2.7%	0	0.0%
	不明	7	7.1%	6	8.2%	0	0.0%
	全体	99	100.0%	73	100.0%	23	100.0%

差別・偏見を感じる場面(全体)



差別・偏見を感じる場面(年代別)

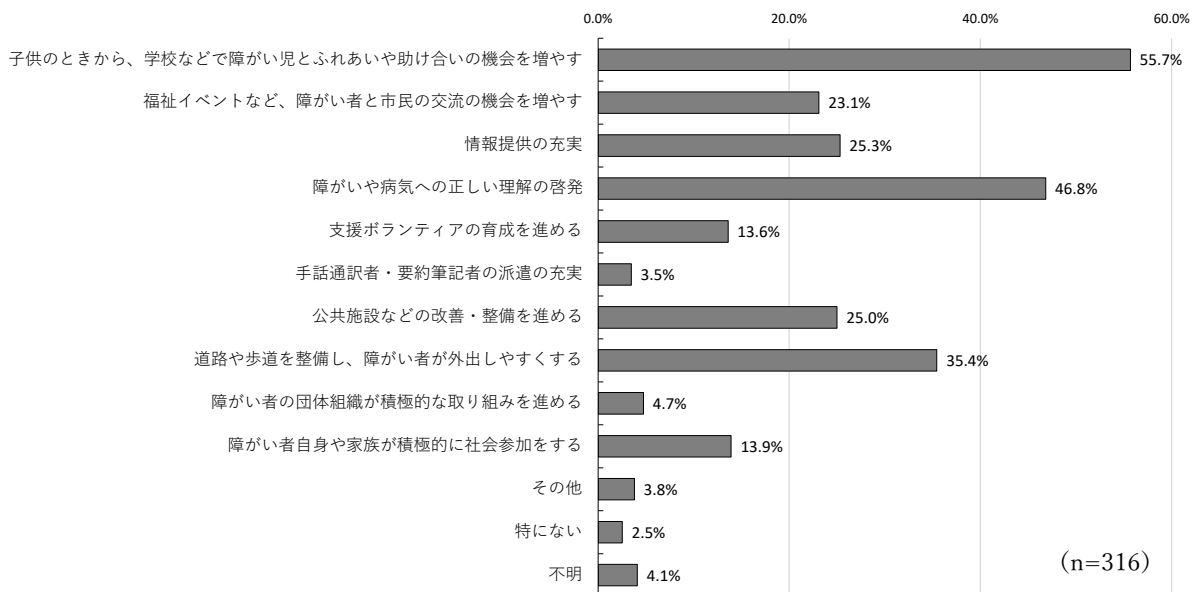


■ バリアフリー化推進にあたり制度や意識の面で必要なもの【MA】

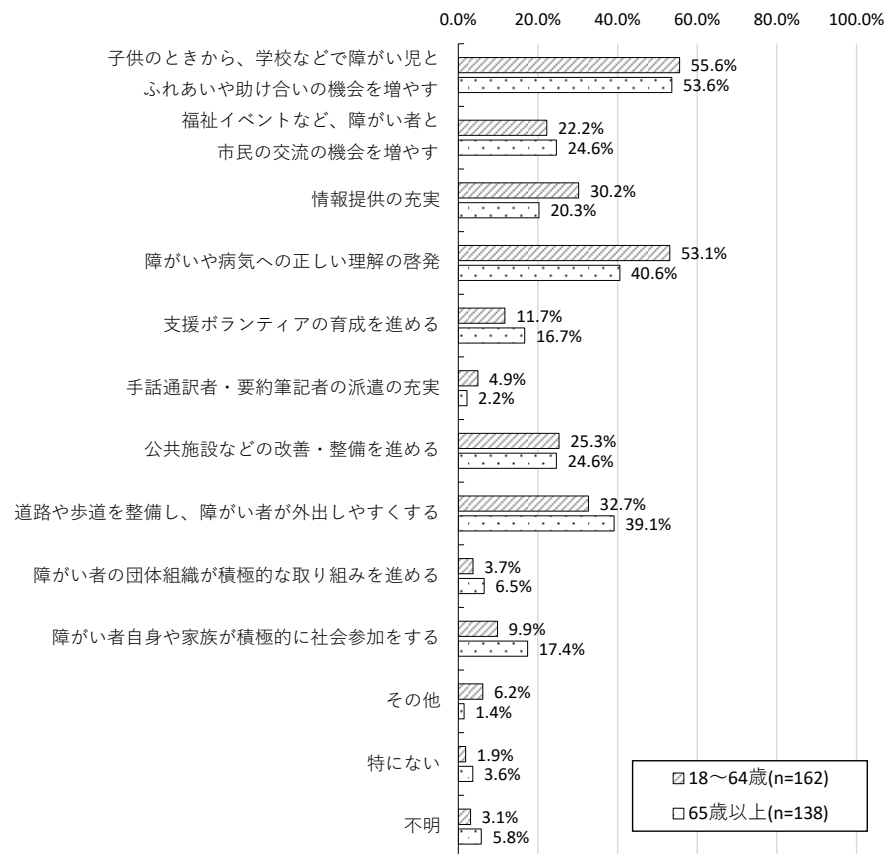
問24 社会のバリアフリー化を推進するために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものはありますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	子供のときから、学校などで障がい児とふれあいや助け合いの機会を増やす	176	55.7%	90	55.6%	74	53.6%
2	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	73	23.1%	36	22.2%	34	24.6%
3	情報提供の充実	80	25.3%	49	30.2%	28	20.3%
4	障がいや病気への正しい理解の啓発	148	46.8%	86	53.1%	56	40.6%
5	支援ボランティアの育成を進める	43	13.6%	19	11.7%	23	16.7%
6	手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実	11	3.5%	8	4.9%	3	2.2%
7	公共施設などの改善・整備を進める	79	25.0%	41	25.3%	34	24.6%
8	道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする	112	35.4%	53	32.7%	54	39.1%
9	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	15	4.7%	6	3.7%	9	6.5%
10	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	44	13.9%	16	9.9%	24	17.4%
11	その他	12	3.8%	10	6.2%	2	1.4%
12	特にない	8	2.5%	3	1.9%	5	3.6%
	不明	13	4.1%	5	3.1%	8	5.8%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

バリアフリー化推進にあたり制度や意識の面で必要なもの(全体)



バリアフリー化推進にあたり制度や意識の面で必要なもの(年代別)

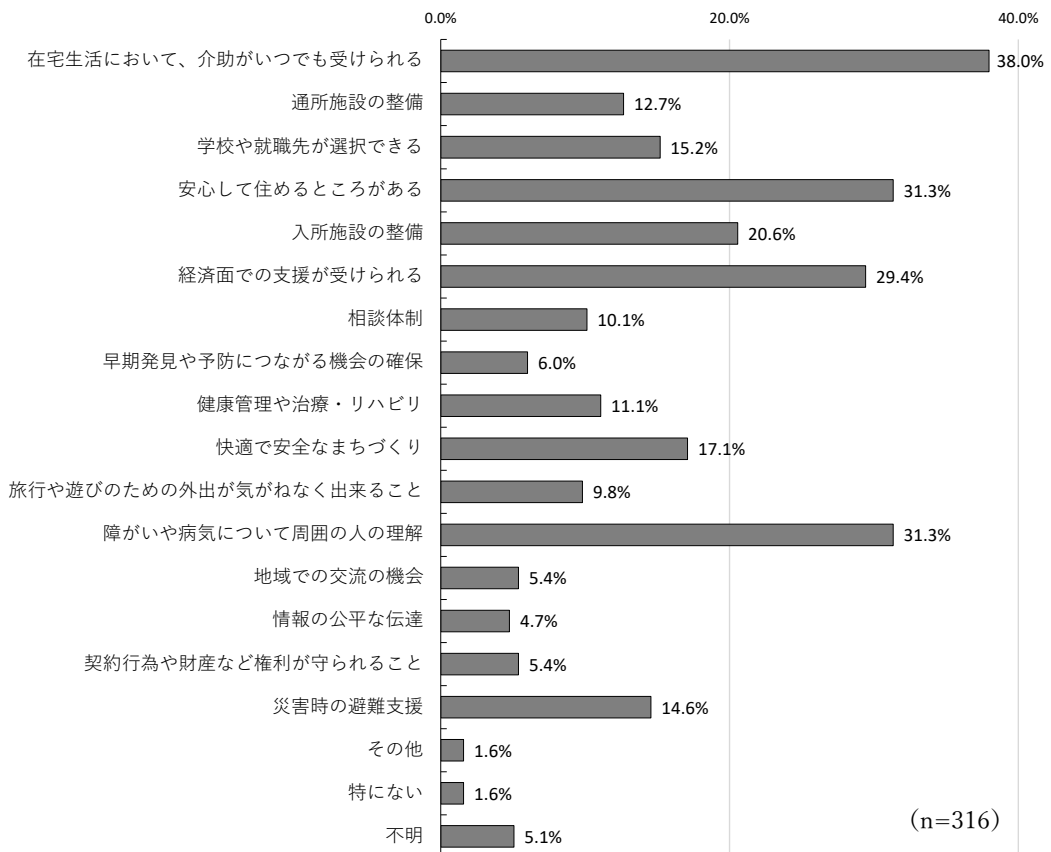


■ 障がい者福祉の充実に必要なこと【MA】

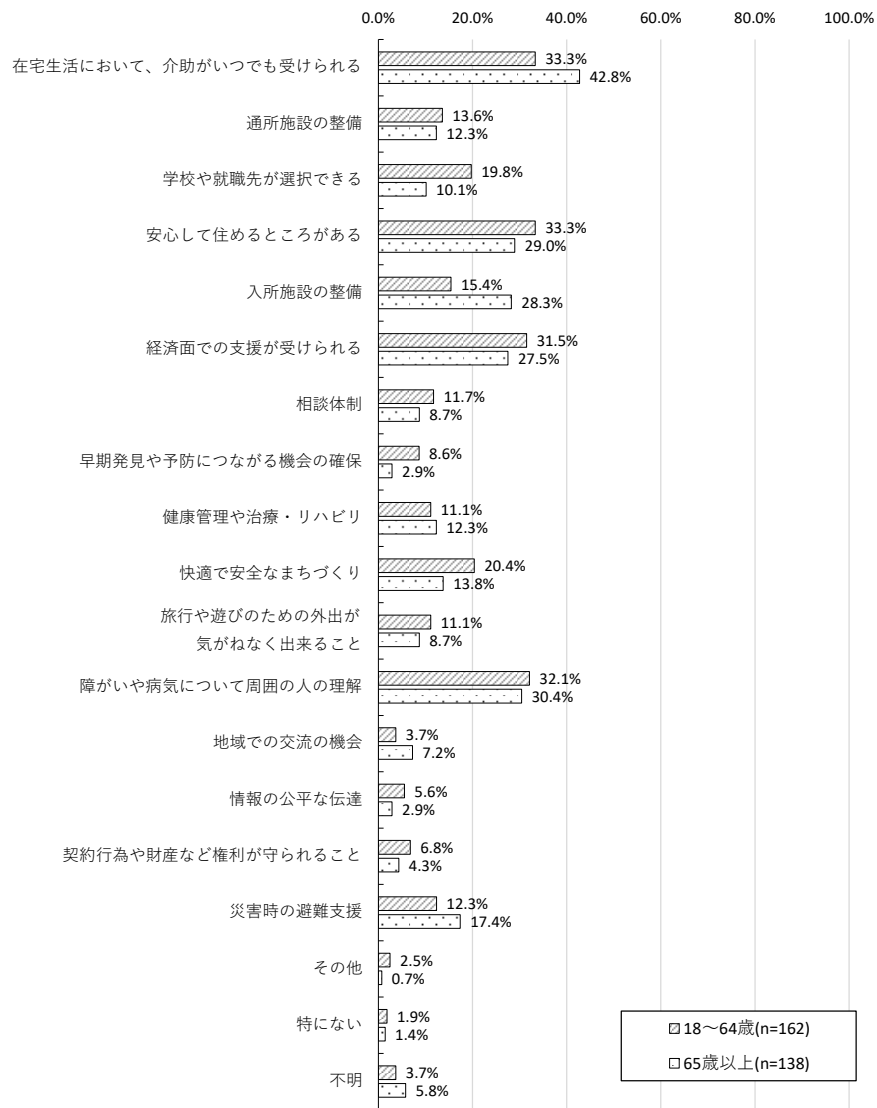
問25 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思われますか。(3つまで○印)

No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	在宅生活において、介助がいつでも受けられる	120	38.0%	54	33.3%	59	42.8%
2	通所施設の整備	40	12.7%	22	13.6%	17	12.3%
3	学校や就職先が選択できる	48	15.2%	32	19.8%	14	10.1%
4	安心して住めるところがある	99	31.3%	54	33.3%	40	29.0%
5	入所施設の整備	65	20.6%	25	15.4%	39	28.3%
6	経済面での支援が受けられる	93	29.4%	51	31.5%	38	27.5%
7	相談体制	32	10.1%	19	11.7%	12	8.7%
8	早期発見や予防につながる機会の確保	19	6.0%	14	8.6%	4	2.9%
9	健康管理や治療・リハビリ	35	11.1%	18	11.1%	17	12.3%
10	快適で安全なまちづくり	54	17.1%	33	20.4%	19	13.8%
11	旅行や遊びのための外出が気兼ねなく出来ること	31	9.8%	18	11.1%	12	8.7%
12	障がいや病気について周囲の人の理解	99	31.3%	52	32.1%	42	30.4%
13	地域での交流の機会	17	5.4%	6	3.7%	10	7.2%
14	情報の公平な伝達	15	4.7%	9	5.6%	4	2.9%
15	契約行為や財産など権利が守られること	17	5.4%	11	6.8%	6	4.3%
16	災害時の避難支援	46	14.6%	20	12.3%	24	17.4%
17	その他	5	1.6%	4	2.5%	1	0.7%
18	特にない	5	1.6%	3	1.9%	2	1.4%
	不明	16	5.1%	6	3.7%	8	5.8%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

障がい者福祉の充実に必要なこと(全体)



障がい者福祉の充実に必要なこと(年代別)

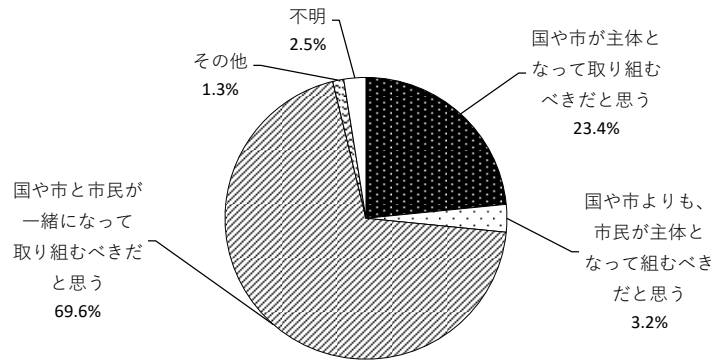


■ 障がい者施策の取り組みについての考え【SA】

問26 あなたは国や市・市民の障がい者施策に対する取り組みについて、どのようにお考えになりますか。(1つだけ○印)

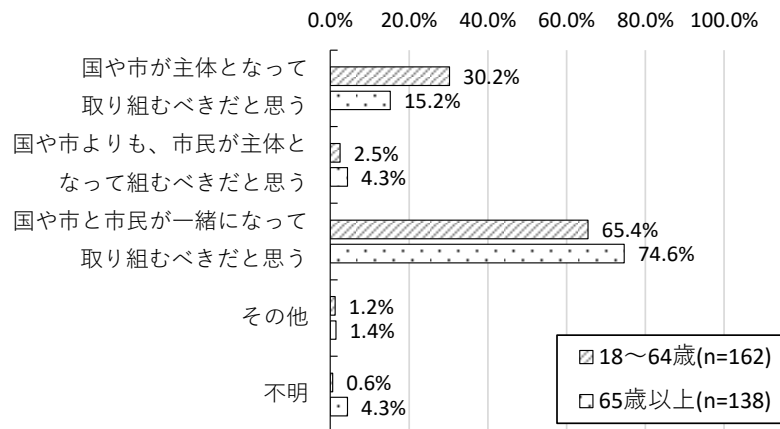
No.	カテゴリー名	全体		年代別			
		人数	%	18～64歳		65歳以上	
				人数	%	人数	%
1	国や市が主体となって取り組むべきだと思う	74	23.4%	49	30.2%	21	15.2%
2	国や市よりも、市民が主体となって組むべきだと思う	10	3.2%	4	2.5%	6	4.3%
3	国や市と市民が一緒になって取り組むべきだと思う	220	69.6%	106	65.4%	103	74.6%
4	その他	4	1.3%	2	1.2%	2	1.4%
	不明	8	2.5%	1	0.6%	6	4.3%
	全体	316	100.0%	162	100.0%	138	100.0%

障がい者施策の取り組みについての考え(全体)



(n=316)

障がい者施策の取り組みについての考え(年代別)



(5)障がい者施策に関するご意見・ご要望

問27 山形市の障がい者施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

■ 障がい者支援体制の強化に関すること

- 子どもだけでなく大人も障がいと差別について学ぶ必要があると思います。自分も、いつ障がい者になるか分からない。今ある事は当たり前ではない。職場環境づくり。出来ない事に目を向け差別することはあってはならない。障がい者の社会進出を謳うのであれば、まずは差別と偏見、思い込みをなくす。表記を「障がい」とする事よりもそれを大切にしたいです。子どもは見たまま言葉にして残酷な部分もあるが、大人の姿を見て学ぶ。大人の影響はかなり大きい。大人の差別意識が子どもに伝わる事で差別が生まれた事がある。そこを意識した環境づくりが大切だと思います。また、障がいに認定されないグレーの方で苦しんでいる方もかなり居られるのではないかと思います。今回の件に関係あるか分かりませんが、自立支援医療の手続きについて山形県内の他市町村は不明ですが、他県では郵送での手続きが可能な所がある様子です。お忙しいと思いますが、かなり体調悪く中で市役所に出向き手続きするのは苦痛の場合もございます。山形県では特定疾患の手続きは郵送が可能です。県と市（保健所）で違うことは分かりますがこの特定の手続きの様に郵送での手続きが出来るようになれば良いと思います。築年数の古い公民館をはじめとする公共施設は和式トイレが多く、障がいのある方や足腰の悪い方には負担になるのではと思う。その他、オストメイトトイレがとても少ないと思います。

- ・とにかく担当する者の資質の向上が、必要です。その上で「公助」を充実し、その中に「共助」のしくみ、具体的な方法等の充実を図ることが必要です。「自助」という語は、死語にしてほしい。・私は自分は「障害者」であり「障がい者」ではないという人をたくさん知ってます。「害」は社会の側の環境や政策的な不備で起きている不自由さが「害」であり、単に「障がい」としていることより、「害」を取り除く施策の方がずっとずっと重要です。

- 支援を受ける方の希望、何をしてほしいのかを詳細に聞き、具体的な支援方法を検討していただきたい。支援する側の一方的な思いこみ(～してほしいはずだ、等)で決めないでほしい。

- 軽度の障がい者と重度の障がい者で受けられる支援に差があり公平な感じではない気がします。軽度の方でも支援が必要な方はたくさんいます。なのに軽度というだけで重度の方よりも受けられる恩恵が軽すぎる気がします。もっと公平な支援や制度をお願いします。

- 障がいをもってない人が政策や何をしていくか決めても分からないことが多いと思うので障害を持っている人、その家族や友達などに直接意見を聞いて過ごしやすくしてほしい。スーパーの駐車場も意外と障害者スペースがうまっていることがあると思うのでもう少しスペースを確保したり、車イスの方が通れるように通路には物をおいたりしないようにしてほしい。通路が狭い所は広くするなど対応してほしい。

- 現状は障害者を一般から隔離して、見えないようにしているように感じる。健常者も障がい者も同じ市民であるという前提で施策を講ずるべきである。障がい者施設を建てる際は、山の中ではなく、市内中心部に建てて市民が交流できるオープンなスペースとすべきだ。市民の協力が必要なのであれば、積極的に募集するなど働きかけが大切だと考える。私の個人的なことを言えば、退職し自由な時間があるので、機会さえあれば、協力したいと思っている。

- 手が不自由な主人の介護をしています。老々介護で、私ばかり大変な思いをしています。雪はき、ごみ出し、手伝ってくれる人がいたら助かると思います……。手が使えないので、ひもを結ぶ

こと、箸を持つこと、ボタンをかけること日常の事ができません。これから私も老いていくので、不安ばかりいっぱいあります・・・。

- 車社会で冬期の雪も多い山形では、健常者でも日常の買い物等に不便さを感じる場合があります。障がい者の生活に必要な移動手段を確保することが重要だと思います。
 - 障がいのある方が自立できる山形市、大きな企業はもっと障がい者の雇用をする。障がい者の給与を安くしない。働きやすい職場環境のための支援。職場選びの支援。
 - 障がい者と言ってもいろいろな障がいがあります。精神疾患の方と下半身まひで車いすの人が同じ空間にいないといけないというのはとても苦痛だと言っていました。身体的な障がい者の入れる施設がないのは本人も家族も大変です。家族からの嫌がらせや金銭的な問題を相談できるところがせめてあればいいのと思います。
 - 山形市の施策で障がいのある方に対し生活をサポートするもの、生活に生きがいを感じられるものになるよう手厚い施策をお願い致します。せっかくの施策も手続きをしなければ恩恵を受けることができないため周知になるような配慮をお願いいたします。
 - 車イスの方が一人で買い物（スーパー）に来ているのを見るととても大変そうだしかわいそうに見えた。膝の上に買い物カゴを乗せておそうざいとかを見てました。車イスで一人で買い物をするのは大変だしあぶないので、市か国で介助者の充実と言うか介助者をふやしてもっと手伝ってあげた方が良くと思いました。障がいのある方の食事など心配なく食べているのか？大変な思いをして買いに行かなくてはならないのか？もし自分が障がい者になった場合、今の市か国の施策に対し不安です。
 - “障がい者”という言葉がどうしてもネガティブなイメージなので何かよい言葉はないものかと思えます。とはいえ難しいですね。私もなかなか思いつきません。家族からのリクエストとして、街なかの道(通路)にもっとベンチを置いてほしいそうです。現在も少し置いて下さっていますが、高齢者や足腰が悪い人には低すぎて座れないのだそうです。（七日町など）できれば背もたれ手すりがあればなお安全かと思えます。あまり意識したことがなかったのですが、大人の身長で低いイスに座るには結構筋力とバランス力が必要であると私も気づきました。今年の夏は本当に暑かったですが、そういうベンチが日かげに所々あったら街あるきも楽しくできる方が多くなると思います。休み休み進める…ということがわかっているということは、身体に不自由さのある方にとっても心強いですし、積極的になれるのではないのでしょうか。
 - 交通の危険なところに限って点字ブロックが途切れている（小白川の大学キャンパス前など）。公共施設や店などで、車いすをデザインした駐車スペースが必ずと言って良い程ありますが、マークから連想される固定概念からもう少し解放されても良いのではないかと思います。もちろん体が思うように動かすことのできない方の利用はありますが、その日体調が悪い方、赤ちゃんを抱っこしながらたくさんの買い物袋を持ち、さらにベビーカーに上の子を乗せている方など、車椅子デザインのイメージとは違う方々もそのスペースを必要としているのと思うシーンが日常にはたくさんあります。思い切って、今そのスペースを必要とするすべての方々に！！というマークのデザインを考えてみてはどうでしょうか？本当はつらいのに体は健康に見えてしまうから…というものから解放が必要だと思います。大人でも、ヘルプマークを見かけてもどう助けてあげれば良いのか考えがまとまらない事があります。我が子たちは通学の際にバスを利用する障害のある方に出会うことが多々あります。帰宅して家族での家の中で、今日こういう人がいたよ、こういうマークを見
-

たよと話してくれ、そのたびにまだまだ知らない、そして知っておかないといけない事がたくさんある事に気付きました。小さいころからの教育の中での理解、大切だと思います。

- ・入居施設についても最低限度の設備は必要と考えます。借アパート(古くなった)階段の勾配が急であったり、踊り場がない施設もあり危険なところもあります。・高齢者、障がい者目線で入居施設の充実をお願いしたいです。見直し改善などの指導を徹底してほしい。・防災、救助などに支障がある建物の入居施設もまだあるようです。道路、通行などの環境に配慮した場所の選択も必要と考えます。
- ・山形市役所の1階、正面玄関付近から車椅子の出入りができるようにしていただきたい。昔は車を停車して出入りできたが今は地下の障害者スペースに駐車しなければならなくなってはっきり言って不便です。市役所の1階や2階に用事があることが多いと思いますし、薄暗い地下に障害者を誘導されるようでいつも不快です。今回の見直しで、ぜひお考えいただきたいです。・タクシー券について、補助いただけるのはありがたいのですが、タクシーに乗らない人、乗れない人にとっては券が無駄になってしまいます。その分灯油購入の際にも使える補助券になればよいと思います。
- 若い人の意見を取り入れる、若い人にもっと耳をかたむける。
- 障がい者用駐車スペースがあるにもかかわらず、その施設内が整備されていなかったり（通路がせまいなど）するので、障がい者がもっとくらしやすい環境整備が必要だと思います。
- 移動入浴車を増やして欲しい。低料金で利用できるように。

■ 障がい者理解の促進に関すること

- 山形市に限ったわけではないと思うが“障がい者と健常者”のような区分、住み分けがなくなればいいと思う。ボランティア（善意で）支えてあげるといよりは制度として確立することが本当に必要だと思う。社会全体で支える。そのために税金を使うということであれば納得できる。障がい者の人がどういう教育を受けて、どういう生活をされているのか正直言ってよくわからない。調べて知ろうとも思わないし、健常者の生活なら顔のわからない人であってもある程度想像できる。近くには言わないが同じ生活圏内でもっとお互いが見える位置にいるという共生社会を作ることにはできないか、隔離、遠ざけておくこと、接点を作らないように……という古い社会の名残りはまだまだしぶとく生き残っているのではないかと感じている。
- 今まで障がい者の施策とか施設とかは、介護施設や公民館等により目にする機会がないというか、買い物に行った時、障がい者の駐車場等、目にする機会がある位で、ニュースの障害者のスポーツとか小説家とか目にする機会が増えているとは思いますが本当に申し訳ない程知らなくて障害者手帳を持っている方の方が、普通の我々より元気だと思ふことがあります。高齢になってだんだん出来なくなってる事が増えている日常障がい者の方への施策は、家族の方、国・市へお願いして快適な生活を望める他にありません。
- 私の娘は大学で「行政法」を専攻しており、ハンセン病を中心として障がい者の支援を行ったそうです。実際に、障がいを持った人達と交流会をしたときに色々なお話を伺ったようです。その中で特に印象に残った話が「国や行政が、福祉イベントや障がい者との交流会を設ける取り組みをしている。それは素晴らしいことだが、一方で障がい者を“特別視”することを助長するようにも思う。あえて障がい者を主人公にするのは“この人は私たちとは異なるからたとと理解してあげましょ

う、社会の中で特別に手助けしましょう”と言っているようだ。私たちが望んでいることはそういう事ではない。普通に生きたい。毎日ジロジロ見られず、最低限健常者と同じようにただ普通に生きたい。そういう社会、そういう意識作りを行政・法律で作ってほしい」ということだったそうです。迅速な対策は難しいかもしれませんが、そういう社会作りを山形市→山形県→国ができるようになるればと願っています。“特別視”する施策ではなく、障がい者が“普通”に生きられる“施策”にしてほしいです。

- 以前他県に住んでいた時は障害のある方関連の催し事が一年を通じていろいろと行われており、参加される方も多かった。その為他の市民の方も、普通にその行事に参加しており、山形より、障がいをもつ方とのハードルが低かったと思う。自分も手話サークルなどあれば積極的に参加したかったのだけど(以前少しだけ習っていたので)山形はそういったサークルも少ない。メディアなどを通してもっと広く障がいのある方が集う場所をアピールしてもよいのではないかと思う。高齢化もどんどん進み、障害者手帳を持つ方も増える事が予想されるであろう。もっともっとハードルを低くし、理想はそこに障がいのある方がいてあたり前、参加してあたり前の空気をつくることだと思う。
- 障がいがある方たちが生活しやすく、支援も受けられることを願っています。
- 最近になって動画共有サービスでたまたま拝見した動画で、盲導犬が介助をしているときは、ペットのように触りに行ったり盲導犬に声をかけたりするのは控えなければならないとその動画のコメント欄で知りました。細かいですが、大人でも私のように知らないこともあり、子どもたちにそう言ったことを教えられるように周囲の人が学んでいかなければならないと思います。身近に障がいを持った方がいないため私自身関心があまりないので理解・知識が足りないと感じます。
- 車イス用の駐車場によく一般者が停めている。車イスを出したり一人でできる方でも場所が広くないといけないから専用スペースがあるのに、他に停める場所があっても停めている。免許をとる時や小さい時からの教育でなぜそういうスペースがあるかをしっかり教えていかないと、障がいがある程度一人できるのに、したくても出来ない等でしてしまうので、そういう教育をしっかりと、障がいのある人も、あたり前にすごすことができる街づくりが大切かと思えます。
- 障がい者を見かけると、どうしても知らないふりをしてしまったり偏見の目で見えてしまうことがある。時々嫌な顔をしてその場を離れてしまう人を見かけることもある。好きでそうなった訳でもなく、障がいを持って生まれてしまっただけでどうして周りは冷たい目で見えてしまうのか、娘に送られて来たアンケートですが、娘は今心が病んで心療内科へ行っており、5年目になります。中学生のときから不登校になり色々苦労しました。障がい者の方と娘の心の病気を一緒に考えてはいけませんが大人の方や周りの方などの理解が無いと難しい問題のような気がします。困っていたとしても、その方に私は、何をしてあげられるのかと考えてしまい、なかなか声を掛ける勇気がなかったです。皆があたり前のように、手を差しのべてくれる、そうなれば良いなと思っております。私の甥っ子になる男の子は両目が見えないまま産まれました。ハンデはありますがすごく元気で活発な子だそうです。事情があって、その子と会ったことはありませんが、いつか会ってみたいなと思っております。娘にかわり記入しました。アンケートの方は娘に聞いたうえで私(母)が書きました。障がい者の方が暮らしやすい世の中になる事を願います。
- 私の母と中学生の妹が障害を持っています。障害者に関してまだまだ偏見を持つ人が多いように感じられます。私の妹は自閉症なのですが、隣の家の子どもと遊ぶとしたときに、何も悪いことをしたわけではないのに相手のお母さんから「その子に近づかないの！」と言われてしまったことが

あります。母は知的障害を持っていますが、そのような事があってから外出するのが怖くなってしまったようであまり家から出ない生活になってしまいました。そのように偏見を持つ人々にもっと障害というものに関して理解して頂きたいです。また身近にいる人からも「障害を持っている人なんか怖い」という言葉を聞いたことがありました。先入観で勝手な偏見を持つ健常者の方がよほど怖いと感じます。そのような偏見を持つ人が世の中で優勢になっているため障がいを持つ方が自分の持つ能力を活かしきれずにいるのではないのでしょうか。私自身、子どもの頃から障害者の方と触れ合う機会があり、色々な人を見てきましたが、皆さん思っている以上に様々な感性や才能に溢れていました。例えば私の妹は英語の能力に長けています。誰も教えていないのですが独学で一人で覚えたようです。障がいを持っていても人それぞれの得意分野があるので、そのような能力をのびせる場所、解放していける場所があればもっと世の中で活躍でき生きやすくなっていくのではないかと思います。例えば具体的な例をあげるなら中心市街地の一部地域のように寂れてしまった場所を再開発して障害を持つ方が就職して活躍できるような障害者の専門店街を作るなど…健常者が障害を持つ方々と触れ合える場所を作り、障害者に関して理解を深め、障害者がのんびりゆっくり慌てず自分自身のペースで活躍できるようなそんな場所を作ってほしいです。専門店街の中のイメージとしては原宿の竹下通りのようなイメージです。オシャレな店が密集していればきっと振わうと思います。障害者に対して先入観や偏見のない人々が溢れる山形市になってほしいです。

- 障がい者にとってもそういう障害がない人にとっても“特別”というくくりを作らない社会を望みます。誰もがあたり前に暮らせることが、フツーになるような社会が大事だと思います。子どもの頃から見知っていれば違いなんて感じない。国や市、大人が手本になって一緒にいい関係を作っていければ、これ程よい事はないと考えます。

■ 障がい者支援情報・制度の広報強化に関すること

- 例として自分の身内に障がい者がいる方の本音として、とても肩身が狭いと思っていると話して。親身になって寄り添いたいと思う気持ちもあるけれど、実際はなかなか参加や協力が難しいです。接するときの感情やきもちの表し方がスムーズに出来るかどうか？自信が持てません。とても意義のある行為なので認めておりますが、私の場合、仕事もあり、時間の調整もなかなかボランティアの範囲ですと、私に余裕はないのです。10の接し方のレベルによっては、該当出来て協力可能であれば参加してみようか？考えを持つ事から出発なのです。具体的に“こういう事”をやれそうなことを発信して頂き少ない時間でも負担のない参加1時間とか、ならばもしかしたら、手助けしたいと思いました。私自身に余裕がなければとても不安なのです。でも何とかしたいと考えております。すみません。
- 障がいのある方の現状、そして具体的な必要とされている支援がわからない。山形人は優しい人が多いので手段や方法がわかれば手助けしやすいと思う。自分から情報を集め積極的に行動するというのはハードルが高い。行政から具体的な提案も必要だと思う。子どもの頃から障がいのある方を身近な存在として認識していれば大人になって戸惑うことなくボランティアなどかかわることが容易になるのではないと思う。娘が小学生の時、盲導犬と触れ合い、障がいのある方の話を聞き、関心を持ついい機会となった。教育機関とも連携し、継続した触れ合いを望む。心や身体みな同じ人間どうし、より添える社会になることを願う。

-
- 周囲に障がいのある方やその家族がいないので、何に困ってどんな手助けが必要かわかりにくいです。そういった情報を普及させて頂けるとよいと思います。
 - 弱者、弱い人には手を差しのべるといふ精神、道徳心こそ全ての礎になると思うので、それには幼児教育の段階から道徳心、武士道精神、惻隠の情を徹底して植え付ける事が必要かと思うのですが……。そうすれば、自ずと弱者、障がい者を労る気持ちが備わるのではないのでしょうか？
-

■ アンケートに関すること

- 障がい者アンケートにおいての質問内容について、いまひとつ理解ができない部分がありました。私は障がいのある家族と生活をしてはいますが自立した生活が送れています。このアンケートは「障がい者＝いち市民健常者はお手伝いをする」ということが前提につくられていると思います。確かに「お手伝いする」必要性はあると思いますが、それが障がい者本人にとって必ずしも必要なものではないし、本人の QOL の面を考慮することが必要だと思います。まず、どのような障がいに対して、どれくらいの手伝いが必要なのか、個人によって違うため、とにかく知ること、情報を共有することが必要だと思います。障がい者＝健常者が手伝うという前提が違うと思いました。
 - (イ) ヘルプカードは最近見かけることが多くなった感じがします。見てはいるもののこちらから声かけすることはありません。車イスで段差で難儀している場合はサポートする程度です。(ロ) 問 20 の 3 つまで○印？とても違和感を覚えました。
-

- アンケートの選択肢から障がい者への福祉政策は、「できないから代わりにやってあげること」という意図を感じます。(問 7、問 17)

障がいのある人にとって次の 2 つではどちらを幸せと感じるでしょうか。

- A 食事を買って届けてもらう。
- B 買い物に行き自分で選んで食事を買う。

わたしは、Bの方に幸せを感じると思います。したがって、この場合必要な支援は、食事を買って届けるではなく、買い物に同行し欲しいものを選択し買えるようにする支援になります。障がいのないほとんどの人は、①自分で働き、②給料をもらい、③自分の欲しいものを買って生活をするという生活をしています。しかし、障がいのある人は、①の自分で働くということができていないケースが多いです。職場の理解不足、障がいのある人への支援不足が原因です。この度、「山形市障がい者基本計画」「山形市障がい福祉計画」「山形市障がい児福祉計画」を見直すということですが、全国の人から、「山形市の障がい者福祉計画はすばらしい」と注目されるような計画を策定してほしいと願っています。

- このアンケートでの障がい者とはどのような人を指しているのか明記してほしい。
-

■ その他

- 障がい福祉のアンケートで、ボランティアという言葉が何回か出てきました。障がい者と接するのにボランティアでとなると①時間②金銭に余裕がないと出来ません。健常者と同様に賃金が出なければ活動はできません。例えばたまたま乗り合わせたバスにたまたま障がい者がいてお手伝いすることがあっても、わざわざ自分の日程を調整するほど生活に余裕はありません。障がい者は守っていく存在というより健常者と同じ人間で、得手不得手があり生活しやすいように整えていったらいいのかと思います。障がい＝個性と考えているので、障がい者が作ったものだから、買うというの
-

ではなく、自分が欲しいから買う。(障がい者の有無は関係ない) 障がいがあるから、進学ができない就職ができない、外出が出来ない等、不平等なことへの改善は、障がい者の意見を聞いてくことで進展してきていると思います。障害に劣等感をもちたずに平等な社会になることを願います。

- 福祉施設に勤務して 20 年近くなるので一般の市民とは違いがあると思われる。
- 私も普段特別支援学校の教諭として働いております。子どもたちが卒業暮らしていく山形市が住みよい働きやすい楽しい町になってほしいと願っています。いつも学校への様々なご支援ありがとうございます。
- 世の中全般に今ある、人手不足、値上げによる生活への圧迫などの息苦しさが障がいなどを含めた特性を持つ人々に、さらに苦しい工夫を求めている気がする。周囲の人間の余裕のなさを何か変えられないだろうか…。一方昭和時代の“特殊”として障がいのある人たちを囲ってしまう世は、若い人たちの言動からも終わったことを感じて、うれしい変化である。10 代、20 代の方々の民主的で公平な感覚が施策に取り込まれることが大事だと感じている。
- これからも障がいを持つ方に限らずすべての人が暮らしやすい社会づくりをお願いいたしましょう。
- ・障がいを持つ人の態度対応について一言。数年前、バスに乗車しようとした半身が不自由で杖をついた人に、「大丈夫ですか」と手を貸そうとしたら、強い言葉で「結構です！いりません」と怒られた。バスの乗客も驚いて、時間をかけてバスに乗り込み、座席をそれとなく空けてくれた人には、何の言葉もなく座った。それ以来“声掛け”はためらうようになった。たとえ一部の人でも、そういう対応を見た人が“障がい者”に対する感情を良くない方向に向けるのではないか。見下されていると思っているのだろうか。・また車いすを公共の場で“乗りまわす”ような行為をする人がいる。人ごみや子どものいる場では危険である。・障害のある人への無理解さを問うことも必要だろうが、障害を持つ方の対応、対応も考える必要があると思う。・だから“障害者への協力を”と言われても積極的にはなれない。
- 只今高齢者、日々の暮らしにも不便を感じる事が増えてきました。自分の経験を元にしては申し訳ありませんが、その不便さを生まれた時から余儀なく受け入れなければならない人々がいらっしやることは心が痛みます。
- 高齢になりあまり活動に参加できませんが身近に住んでいる方に少しでも役に立てたら良いなど交流してます。
- 子どもが 3 人いましたが重度の障がいのある子が 5 年ほど前になくなりました。その子の生活で夫婦一緒に旅行などできませんでしたが、母（祖母）が良く面倒を見てくれ共稼ぎをささえ、他の子ども二人は親の目から見てやさしく育ったと思います。いたからこそという部分もあります。家族的には障がい者がいたからということで特別のことはありませんでした。障がい者年金を貯金していたので子ども二人の家庭に分けてやりました。みんな十分に面倒を見てくれました。20 歳で亡くなると言われましたが 30 歳代まで頑張りました。
- 私も年でこれから皆さんに助けを求めなければならないと思います。その時は安心して見守っていただけますようお願いしています。
- 障がい者パーキングに偽障がい者マークを貼り付けて止める人が多いです。もう少し、厳しくしたらなーと思います。

-
- 山形でいろいろ知ることが出来ました。山形市が少しでも良くなることを願います。ありがとうございました。
-
- まだ社会人として勤めている自分には、ボランティアに参加する時間も今のところ作れないため難しく思う。
-
- 車イスマークの駐車場に車イスカードをつけた健康そうな人が置いているのをよく見かける。本当に困っている人が停められないカードを渡すなら、運転する人はその場所に停めないように言ってほしい。手足がふつうならたとえ病気でもその場所はなるべくなら移動してほしい。年よりや、車イスでなくとも松葉つえや足の不自由な人に使用してほしい。（※家族に不自由な方がいるのかも知れないが、その人が乗ってないのにカードをつけて買い物に行く人がいる。）私、足を骨折したけどカードがないから、その場所には停めてない。どんな人が停めていいんですか？
-
- 私の経験から記入いたします(市の質問からずれていたら申し訳ありません)。
 - ・中途障がい者の亡夫(精神障がい1級)は、脳腫瘍が原因で強度のうつ病を発症し、そのあと身体的機能を少しずつ失ってしまい、介護を必要とするレベルになってしまった。当時の私は退職してしまった夫の代わりに経済的に支える立場になり、職場を得た後、事情を知った上司に理解していただいたので働きやすかったが、同僚たちの冷たい視線が辛かった。(夫50歳代、私40歳代のころ)
 - ・その半年後、実母の介護、世話のために実家に通うことになり、しばらくして私も体調を崩し、入院を勧められたが不可能。母はショートステイやデイサービスを利用することになった。しかし、心臓を患い、80歳代で死去(私は一人っ子で全負担あり)
 - ・夫はケアマネージャーの指導等を活用できるようになったが、どうしてもこれがうまく気が合わず、今でいうDVの傾向が目立つようになって途方に暮れた。(私に対するDV)その後、内臓の病気を発症し、入院先を転々…。認知症も発症して、60歳代で死去。今になってみて当時これが出来たらな…と思うことを記します。
 - ・職場での冷たさを減らせる手立て。
 - ・世間に残る男尊女卑の思想を無くす。
 - ・お前が悪いから病人にさせられた、といういびつな考えを堂々と言う社会。
 - ・ケアマネ氏の応用力を求める。
 - ・経済と介護どちらも大切だが…。
-
- 障がい者に特化でなく一般市民への対応について。東日本大震災の当日、余震への恐怖で、当時、山形市の新しい公民館へ夫と共に行きました。私たちは公民館事務長に何も要求することもなく、ただ不安なので、公民館(コミュニティーセンター)に、いさせて下さいと言いましたが事務長に追い出されました。公民館は、市民の為にあるのではなく職員の為の建物なのでしょうか。後で聞きましたら、彼は市職員OBとの事でした。一方、他の公民館へ行った市民は、職員の方から、毛布を提供されたとも聞きました。市民が大変な思いをしている時の彼の対応に、非常に疑問を感じました。OBなら、誰でもなれるというしくみが、元凶かと思います。
-
- 障害(がい)者の名称もステキな名前に移行されてもいいように感じます。ステキなネーミングと言ってもむずかしいのですかね。中国の台頭により金、カネ、カネ社会から脱出せねばならない日本です。障がい政策など、新しい日本のためには、十分予算を使ってもいいと思いますよ。戦闘機を買う話がいさましいですが、70年前に世界に誓った新しい日本の約束が、どこかに吹き飛ばされそうです。300万とも500万とも命をうばった旧日本に戻らないよう私も努力します。日夜、福祉行政にごくろうさまです。
-
- うちではでんわしかないのでテレビだけだともります。300円と200円のほけんをかけたんですがどこのぼしょかわからないのでさがしてほしいです。みなもってないのです市役所までいけ
-

ないのでそのまんまになってます。あたまがいかいされないのです。いろいろあるのにおどろいた。こんど少しでもきをつけてみていこうと思う。

- 今回のアンケートとは全く関係のないことなのですが、過去の出来事なのですが、通勤の帰りに自宅の近くのお店で時々買い物をしていました。ある時後ろを振り返ると車いす（電動）に乗った方がいました。高いところに手が届かないのかなと思って声を掛けました。帰りその人は出口にある「飲み物を買って飲ませて下さい」と書いてあるボードを持って私に近づいてきました。自動販売機で買ってストローを差して飲ませてあげると私の指もなめるんです。障がい者だからしょうがないのかなど。何回かすると「オーバーのボタンを閉めて下さい」とボードを持って近づいてきました。ボタンを閉めてあげました。それから私を待ち伏せしてついてくるようになりました。私は原付バイクなのですがその店の駐車場で私が通るのを見つけると音もなくすごいスピードで追いかけてくるのです。何回も何回もお店から出られず店員さんから道路まで送ってもらったり遠回りして自宅に帰ったりその後半年はその店に行けませんでした。その時の恐怖感が消えるまで何年もかかりました。はっきりとお断りすればよかったのかななどと反省もしました。
 - ・誰もがあたりまえに住みよい生活が出来ること。・公共が基礎づくりをしっかりと市民がお互いさまのこころを持って自然に助けあいながら暮らせるような環境になるといいです。
-

(6)障がい者施策に関する主なニーズ「その他市民」

【社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うこと】

社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では、「建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消」が63.0%と6割を占めて最も高く、次いで「車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保」(31.0%)、「わかりやすい表示」(27.5%)と続いている。

≪年齢層別≫（「20歳未満」はサンプル数が少ないため、参考値として掲載）

年齢層別でみると、全ての年齢層で、「建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消」が最も高く、特に<60歳代>では7割を占めており、全ての年齢層が高い関心を持っていることを示した。次点は、60歳代以下のすべての年齢層で「車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保」が3割を占めて続いている。なお、<30歳代>では、「わかりやすい表示」同率で次点となっており、「スロープの設置」も3割を占めて高い割合となっている。

	回答件数	障がい者用駐車スペースの確保	建物・乗り物・道路等の出入り口の段差解消	点字ブロックの敷設	音の出る信号機の設置	エレベーターの設置	スロープの設置	自動ドアの設置	手すり等の設置
全体	316	67 21.2%	199 63.0%	22 7.0%	39 12.3%	36 11.4%	62 19.6%	18 5.7%	56 17.7%
年齢	20歳未満	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%
	20歳代	21 100.0%	1 4.8%	9 42.9%	0 0.0%	4 19.0%	3 14.3%	6 28.6%	1 4.8%
	30歳代	27 100.0%	7 25.9%	14 51.9%	3 11.1%	1 3.7%	4 14.8%	9 33.3%	1 3.7%
	40歳代	43 100.0%	11 25.6%	27 62.8%	4 9.3%	10 23.3%	4 9.3%	7 16.3%	3 7.0%
	50歳代	51 100.0%	10 19.6%	33 64.7%	4 7.8%	3 5.9%	9 17.6%	15 29.4%	2 3.9%
	60歳代	49 100.0%	13 26.5%	35 71.4%	4 8.2%	2 4.1%	7 14.3%	5 10.2%	6 12.2%
	70歳以上	106 100.0%	24 22.6%	68 64.2%	5 4.7%	16 15.1%	7 6.6%	15 14.2%	5 4.7%

	回答件数	公共施設などで常備してある車いすの数を増やす	車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保	車いすで利用可能な公衆電話の設置	休憩スペースの確保	わかりやすい表示	その他	特にない	不明
全体	316	24 7.6%	98 31.0%	1 0.3%	46 14.6%	87 27.5%	7 2.2%	3 0.9%	37 11.7%
年齢	20歳未満	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳代	21 100.0%	2 9.5%	8 38.1%	0 0.0%	3 14.3%	4 19.0%	0 0.0%	1 4.8%
	30歳代	27 100.0%	2 7.4%	10 37.0%	1 3.7%	2 7.4%	10 37.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40歳代	43 100.0%	5 11.6%	15 34.9%	0 0.0%	8 18.6%	11 25.6%	2 4.7%	0 0.0%
	50歳代	51 100.0%	2 3.9%	17 33.3%	0 0.0%	7 13.7%	14 27.5%	1 2.0%	0 0.0%
	60歳代	49 100.0%	5 10.2%	15 30.6%	0 0.0%	6 12.2%	12 24.5%	2 4.1%	0 0.0%
	70歳以上	106 100.0%	7 6.6%	26 24.5%	0 0.0%	19 17.9%	28 26.4%	1 0.9%	2 1.9%

【差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うこと】

差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では、「子供のときから、学校などで障がい児とふれあいや助け合いの機会を増やす」が55.7%と最も高く、次いで「障がいや病気への正しい理解の啓発」（46.8%）、「道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする」（35.4%）と続いている。

≪年齢層別≫（「20歳未満」はサンプル数が少ないため、参考値として掲載）

年齢層別でみると、<50歳代>を除くすべての年齢層で「子供のときから、学校などで障がい児とふれあいや助け合いの機会を増やす」が最も高く、<50歳代>でも5割弱を占めており、年齢層に関わらず高い関心があることを示した。<60歳代>では6割を占めて同率で、<50歳代>では過半数を占めて「障がいや病気への正しい理解の啓発」が最も高く、その他の年齢層でも3割～6割を占めて上位となっている。このほか、<30歳代>では「情報提供の充実」が4割を占めて高い割合となっている。

		回答件数	子供のときから、学校などで障がい児とふれあいや助け合いの機会を増やす	福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	情報提供の充実	障がいや病気への正しい理解の啓発	支援ボランティアの育成を進める	手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実	公共施設などの改善・整備を進める
全体		316	176 55.7%	73 23.1%	80 25.3%	148 46.8%	43 13.6%	11 3.5%	79 25.0%
年齢	20歳未満	3	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
	20歳代	21	10 47.6%	6 28.6%	7 33.3%	7 33.3%	1 4.8%	0 0.0%	7 33.3%
	30歳代	27	17 63.0%	6 22.2%	12 44.4%	13 48.1%	1 3.7%	1 3.7%	6 22.2%
	40歳代	43	28 65.1%	11 25.6%	12 27.9%	27 62.8%	7 16.3%	2 4.7%	7 16.3%
	50歳代	51	25 49.0%	8 15.7%	13 25.5%	26 51.0%	9 17.6%	5 9.8%	15 29.4%
	60歳代	49	30 61.2%	13 26.5%	17 34.7%	30 61.2%	4 8.2%	0 0.0%	13 26.5%
	70歳以上	106	52 49.1%	25 23.6%	16 15.1%	36 34.0%	20 18.9%	3 2.8%	26 24.5%

		回答件数	道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくする	障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする	その他	特にない	不明
全体		316	112 35.4%	15 4.7%	44 13.9%	12 3.8%	8 2.5%	13 4.1%
年齢	20歳未満	3	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳代	21	6 28.6%	2 9.5%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%
	30歳代	27	8 29.6%	1 3.7%	0 0.0%	2 7.4%	1 3.7%	2 7.4%
	40歳代	43	12 27.9%	2 4.7%	3 7.0%	5 11.6%	0 0.0%	0 0.0%
	50歳代	51	22 43.1%	1 2.0%	9 17.6%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%
	60歳代	49	14 28.6%	4 8.2%	7 14.3%	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%
	70歳以上	106	44 41.5%	5 4.7%	20 18.9%	2 1.9%	5 4.7%	8 7.5%

1位 2位 3位 の項目

「その他市民」調査結果

【今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思うこと】

今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思うことについて、全体では、「在宅生活において、介助がいつでも受けられる」が38.0%と最も高く、次いで「安心して住めるところがある」「障がいや病気について周囲の人の理解」（ともに31.3%）、「経済面での支援が受けられる」（29.4%）と続いている。

≪年齢層別≫（「20歳未満」はサンプル数が少ないため、参考値として掲載）

年齢層別でみると、<20歳代>では「快適で安全なまちづくり」、<30歳代>と<40歳代>では「障がいや病気について周囲の人の理解」、<50歳代>では「経済面での支援が受けられる」、<60歳代>と<70歳代>では「在宅生活において、介助がいつでも受けられる」とそれぞれ3割半ば～4割で最も高く、項目が分散する結果となった。また、<30歳代>では3割を占めて、<50歳代>では4割を占めて「安心して住めるところがある」が高い割合となっている。

		回答件数	在宅生活において、介助がいつでも受けられる	通所施設の整備	学校や就職先が選択できる	安心して住めるところがある	入所施設の整備	経済面での支援が受けられる	相談体制	早期発見や予防につながる機会の確保	健康管理や治療・リハビリ	快適で安全なまちづくり	旅行や遊びのための外出が気兼ねなく出来ること
全体		316	120 38.0%	40 12.7%	48 15.2%	99 31.3%	65 20.6%	93 29.4%	32 10.1%	19 6.0%	35 11.1%	54 17.1%	31 9.8%
年齢	20歳未満	3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%
	20歳代	21	6 28.6%	3 14.3%	5 23.8%	4 19.0%	4 19.0%	4 19.0%	3 14.3%	4 19.0%	2 9.5%	8 38.1%	1 4.8%
	30歳代	27	8 29.6%	6 22.2%	4 14.8%	10 37.0%	3 11.1%	9 33.3%	3 11.1%	3 11.1%	3 11.1%	7 25.9%	2 7.4%
	40歳代	43	14 32.6%	7 16.3%	11 25.6%	13 30.2%	7 16.3%	11 25.6%	6 14.0%	2 4.7%	5 11.6%	7 16.3%	3 7.0%
	50歳代	51	17 33.3%	3 5.9%	11 21.6%	21 41.2%	9 17.6%	22 43.1%	5 9.8%	4 7.8%	7 13.7%	8 15.7%	7 13.7%
	60歳代	49	24 49.0%	7 14.3%	7 14.3%	13 26.5%	12 24.5%	16 32.7%	5 10.2%	2 4.1%	5 10.2%	6 12.2%	4 8.2%
	70歳以上	106	44 41.5%	13 12.3%	8 7.5%	30 28.3%	29 27.4%	26 24.5%	9 8.5%	3 2.8%	13 12.3%	15 14.2%	12 11.3%

		回答件数	障がいや病気について周囲の人の理解	地域での交流の機会	情報の公平な伝達	契約行為や財産など権利が守られること	災害時の避難支援	その他	特になし	不明
全体		316	99 31.3%	17 5.4%	15 4.7%	17 5.4%	46 14.6%	5 1.6%	5 1.6%	16 5.1%
年齢	20歳未満	3	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20歳代	21	7 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%
	30歳代	27	11 40.7%	0 0.0%	1 3.7%	1 3.7%	2 7.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%
	40歳代	43	16 37.2%	4 9.3%	3 7.0%	4 9.3%	5 11.6%	3 7.0%	1 2.3%	1 2.3%
	50歳代	51	12 23.5%	2 3.9%	5 9.8%	5 9.8%	6 11.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.9%
	60歳代	49	17 34.7%	1 2.0%	1 2.0%	2 4.1%	8 16.3%	1 2.0%	1 2.0%	2 4.1%
	70歳以上	106	30 28.3%	9 8.5%	3 2.8%	4 3.8%	20 18.9%	1 0.9%	2 1.9%	7 6.6%

1位 2位 3位 の項目

「社会福祉法人」
調査結果

2-5 「社会福祉法人」調査結果

(1)回答状況

調査対象	配布数	有効回答数	有効回収率
山形市内で障がい福祉サービス事業所等を運営している社会福祉法人	12	8	66.7%

(2)ニーズ等の把握及びニーズに対応した施設整備計画について

必要なサービスの把握状況について、8事業所すべてが「把握している」と回答している。「把握している」と回答した事業所にニーズの把握方法を聞いたところ、「当事者を交えた支援方針会議等の際に把握し、これを取りまとめている」が7件と最も多くなった。次いで「個々の当事者から随時要望が寄せられ、これを取りまとめている」「運営事業所職員等、利用者の支援者から確認している」（ともに6件）、「利用者の状態（本人の重度化、家族状況の変化等）を勘案し、法人で判断している」（5件）などとなっている。なお、「法人から能動的に当事者にニーズ調査等を行っている」と回答した事業所に1年間の調査回数を聞いたところ、平均で1.8回となった。

必要なサービスを「把握している」と回答した8事業所に、ニーズに対して事業所等が提供するサービスの内「充足できない（不足している）もの」と「充足して供給に余剰が出ているもの」の把握状況を聞いたところ、「不足している」サービスとしては「短期入所」が4件と最も多くなっており、具体的な不足量としては「1人分」「4人分」という回答があった。なお、次いで「居宅介護」「同行援護」「行動援護」「共同生活援助（介護サービス包括型）」「計画相談支援」「障がい児相談支援」にそれぞれ2件ずつ回答があった。一方、「余剰が出ている」サービスとしては、それぞれ「短期入所」「宿泊型自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」「共同生活援助（介護サービス包括型）」「共同生活援助（外部サービス利用型）」に1件ずつとなっている。

必要なサービスを「把握している」と回答した8事業所に、法人として運営事業所の新規整備、拡充、縮減、廃止について正式な計画（以下、施設整備計画）を定めているか聞いたところ、「定めていない、今後も特に定める予定はない」が5件と最も多くなった。なお、「既に定めている」と回答した事業所に計画期間を聞いたところ、平均で2.0年間となった。また、「定めていないが、今後定める予定である」と回答した事業所に今後計画を定める時期を聞いたところ、「2025年3月」という回答が1件あった。

施設整備計画を「既に定めている」と回答した2事業所に、令和6年度から令和8年度までの当該計画において整備を実施するサービスとその具体的な整備箇所数を聞いたところ、令和6年度の計画においては、「共同生活援助（介護サービス包括型）」の新設（具体的な整備箇所数2件）、「共同生活援助（外部サービス利用型）」の縮減と廃止（具体的な整備箇所数はともに2件）にそれぞれ1件ずつの回答があった。令和7年度の計画においては、該当サービスの回答はなかった。令和8年度の計画においては、「共同生活援助（介護サービス包括型）」の新設、「生活介護」の拡充にそれぞれ1件ずつ回答があったが、いずれも具体的な整備箇所数の把握には至っていない。

施設整備計画を定めていない5事業所にその理由を聞いたところ、「収支が安定しないこと等の理由で、資金計画の見通しが立たない」が3件と最も多くなった。そのほか、「計画を定めるための労働力に余裕がない」「当事者ニーズが流動的で、計画として反映しにくい」にそれぞれ1件ずつ回答があった。

現在提供しているサービス量や運営事業所（建物、設備）を維持するため、法人として運営事業所の修繕、維持管理について正式な計画（以下、修繕等整備計画）を定めているか聞いたところ、「定めていない、今後も特に定める予定はない」が4件と最も多くなった。なお、「既に定めている」と回答した事業所に計画期間を聞いたところ、平均で6.5年間となった。また、「定めていないが、今後定める予定である」と回答した事業所に今後計画を定める時期を聞いたところ、「2025年3月」という回答が1件あった。

修繕等整備計画を「既に定めている」と回答した2事業所に、令和6年度から令和8年度までの当該計画に定める内容とその整備にかかる見積額を聞いたところ、「その他」の項目に1件の回答があり、具体的な内容としては「電灯のLEDへの交換」となり、実施にかかる見積額は「5,000千円」であった。

修繕等整備計画を定めていない4事業所にその理由を聞いたところ、「計画までは定めていないが定期的にメンテナンスしているため支障ない」との回答が2件と最も多く、そのほか、「計画を定めるための労働力に余裕がない」「収支が安定しないこと等の理由で、資金計画の見通しが立たない」に1件ずつとなっている。

- ◎ 必要なサービスのニーズ把握については、把握していないという事業所は一つもなく、かつ、当事者だけではなく、支援者及び事業所職員等多方面から確認を行っている事業所が多いことから、総じて十分なニーズ把握を行っていると思われる。
- ◎ 不足しているサービスとしては、短期入所や居宅介護、行動援護等「介護給付」のサービスや「障がい児」向けのサービスを挙げた事業所が多く、余剰が出ているサービスとしては、宿泊型自立訓練や就労継続支援A型・B型等「訓練等給付」のサービスを挙げた事業所が多かった。背景には、重度障がい児・者への支援ニーズの高まりがあると推定される。
- ◎ 施設整備計画については、定めていない事業所の方が多く、その理由として、労働職不足や資金不足を挙げていることから、社会福祉法人を取り巻く環境は厳しいと推定される。

■ 必要なサービス【SA】

問1 貴法人が運営する山形市管内の障がい福祉サービス事業所等(以下「運営事業所」といいます。)の利用者、利用者の家族(以下「当事者」といいます。)について、必要なサービスのニーズを把握していますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	回答数
1	把握している	8
2	把握していない	0
	不明	0
	全体	8



(n=8)

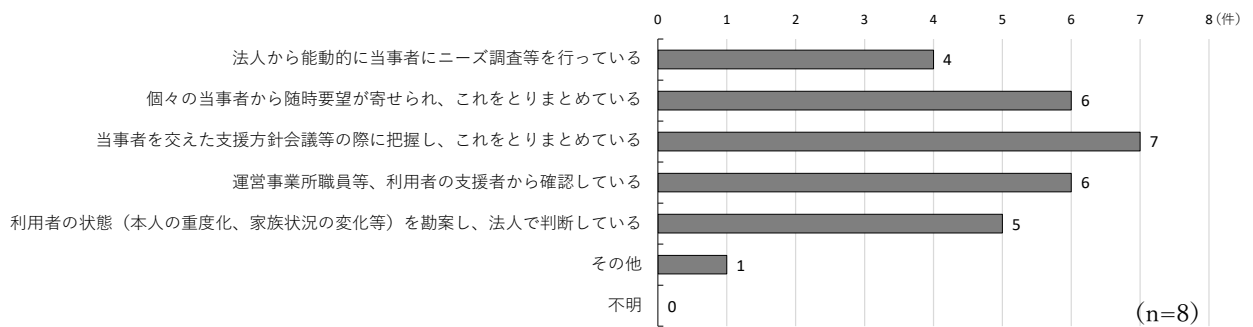
■ ニーズの把握方法【MA】

問2 問1で「1」を回答した法人におたずねします。どのような方法で把握していますか。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	回答数
1	法人から能動的に当事者にニーズ調査等を行っている	4
2	個々の当事者から随時要望が寄せられ、これを取りまとめている	6
3	当事者を交えた支援方針会議等の際に把握し、これを取りまとめている	7
4	運営事業所職員等、利用者の支援者から確認している	6
5	利用者の状態（本人の重度化、家族状況の変化等）を勘案し、法人で判断している	5
6	その他	1
	不明	0
	全体	8

1 法人から能動的に当事者にニーズ調査等を行っている：1年間の調査回数 2回(3)、1回(1)
平均 1.8回

ニーズの把握方法



■ ニーズを把握していない理由【SA】

問3 問1で「2」を回答した法人におたずねします。把握していない、把握することが難しい理由があれば教えてください。（1つだけ○印）

回答数0のため、表、グラフの記載は省略

■ ニーズ把握の対応予定【SA】

問4 問1で「2」を回答した法人におたずねします。今後、ニーズを把握するための対応(調査等)を行う予定はありますか。また、その理由を教えてください。（1つだけ○印）

回答数0のため、表、グラフの記載は省略

■ ニーズの過不足の把握【FA】

問5 問1で「1」を回答した法人におたずねします。当事者のニーズについて、既存の運営事業所、他法人が運営する事業所等が提供するサービスで

- ・充足できない(不足している)もの
- ・充足して供給に余剰が出ているもの

を把握していますか。把握している場合、当該サービスの種類と量(何人分)について、把握している限りで教えてください。(把握しているニーズについて、その量(単位:人)を下表に記入。)

○ 充足できない(不足している)サービス

	不足している				
	回答数 (A+B)	数量把握済み (A)	具体的数量		数量把握なし (B)
居宅介護	2事業所	1事業所	50人	-	1事業所
重度訪問介護	1事業所	-	-	-	1事業所
同行援護	2事業所	1事業所	10人	-	1事業所
行動援護	2事業所	2事業所	1人	50人	-
重度障がい者包括支援					
短期入所	4事業所	2事業所	1人	4人	2事業所
療養介護					
生活介護	1事業所	1事業所	20人	-	-
施設入所支援					
自立訓練(生活訓練)					
自立訓練(機能訓練)					
宿泊型自立訓練					
就労移行支援					
就労継続支援A型					
就労継続支援B型					
就労定着支援					
自立生活援助					
共同生活援助(日中サービス支援型)	1事業所	1事業所	3人	-	-
共同生活援助(介護サービス包括型)	2事業所	1事業所	40人	-	1事業所
共同生活援助(外部サービス利用型)					
地域移行支援					
地域定着支援					
計画相談支援	2事業所	1事業所	100人	-	1事業所
児童発達支援					
医療型児童発達支援	1事業所	1事業所	15人	-	-
放課後等デイサービス					
居宅訪問型児童発達支援					
保育所等訪問支援					
障がい児相談支援	2事業所	1事業所	50人	-	1事業所
その他	1事業所	1事業所	20人*1	-	-

*1…福祉型障害児入所施設

○ 充足して供給に余剰が出ているサービス

	余剰が出ている			
	回答数 (A+B)	数量把握済み (A)	具体的数量	数量把握なし (B)
居宅介護				
重度訪問介護				
同行援護				
行動援護				
重度障がい者包括支援				
短期入所	1事業所	1事業所	2.5人	-
療養介護				
生活介護				
施設入所支援				
自立訓練（生活訓練）				
自立訓練（機能訓練）				
宿泊型自立訓練	1事業所	1事業所	5人	-
就労移行支援	1事業所	1事業所	5人	-
就労継続支援A型	1事業所	1事業所	13人	-
就労継続支援B型	1事業所	1事業所	5人	-
就労定着支援				
自立生活援助				
共同生活援助（日中サービス支援型）				
共同生活援助（介護サービス包括型）	1事業所	1事業所	10人	-
共同生活援助（外部サービス利用型）	1事業所	1事業所	7人	-
地域移行支援				
地域定着支援				
計画相談支援				
児童発達支援				
医療型児童発達支援				
放課後等デイサービス				
居宅訪問型児童発達支援				
保育所等訪問支援				
障がい児相談支援				
その他				

■ 施設整備計画【SA】

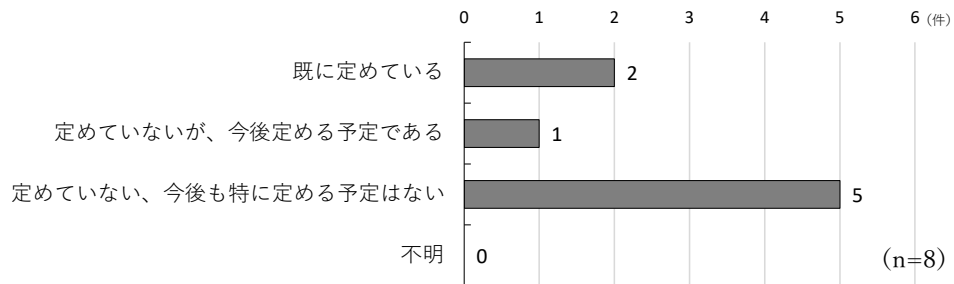
問6 問1で「1」を回答した法人におたずねします。問5の表に記載したサービス量に対応して、法人として運営事業所の新規整備、拡充、縮減、廃止(以下、本調査で「施設整備」といいます。)について正式な計画として定めていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	回答数
1	既に定めている	2
2	定めていないが、今後定める予定である	1
3	定めていない、今後も特に定める予定はない	5
	不明	0
	全体	8

1 既に定めている：計画期間 1.0 年間 (1)、3.0 年間 (1) 平均 2.0 年間

2 定めていないが、今後定める予定である：計画策定の予定時期 2025 年 3 月 (1)

施設整備計画



■ 施設整備計画における整備箇所数【FA】

問7 問6で「1」を回答した法人におたずねします。令和5年7月1日時点での施設整備の計画に基づき、令和6年度から令和8年度までの、当該計画におけるサービスごとの整備箇所数(件)を教えてください。(計画に定めた整備件数(単位:件)を下表に記入(年度ごと)。)

○ 令和6年度の施設整備の計画

令和6年度	新設		拡充		縮減		廃止	
	回答数	具体的数量	回答数	具体的数量	回答数	具体的数量	回答数	具体的数量
居宅介護								
重度訪問介護								
同行援護								
行動援護								
重度障がい者包括支援								
短期入所								
療養介護								
生活介護								
施設入所支援								
自立訓練（生活訓練）								
自立訓練（機能訓練）								
宿泊型自立訓練								
就労移行支援								
就労選択支援【R6新規】								
就労継続支援A型								
就労継続支援B型								
就労定着支援								
自立生活援助								
共同生活援助（日中サービス支援型）								
共同生活援助（介護サービス包括型）	1事業所	2件						
共同生活援助（外部サービス利用型）					1事業所	2件	1事業所	2件
地域移行支援								
地域定着支援								
計画相談支援								
児童発達支援								
医療型児童発達支援								
放課後等デイサービス								
居宅訪問型児童発達支援								
保育所等訪問支援								
障がい児相談支援								
その他								

○ 「令和7年度の施設整備の計画」は回答なし

○ 令和8年度の施設整備の計画

※…件数の数量把握には至っていない

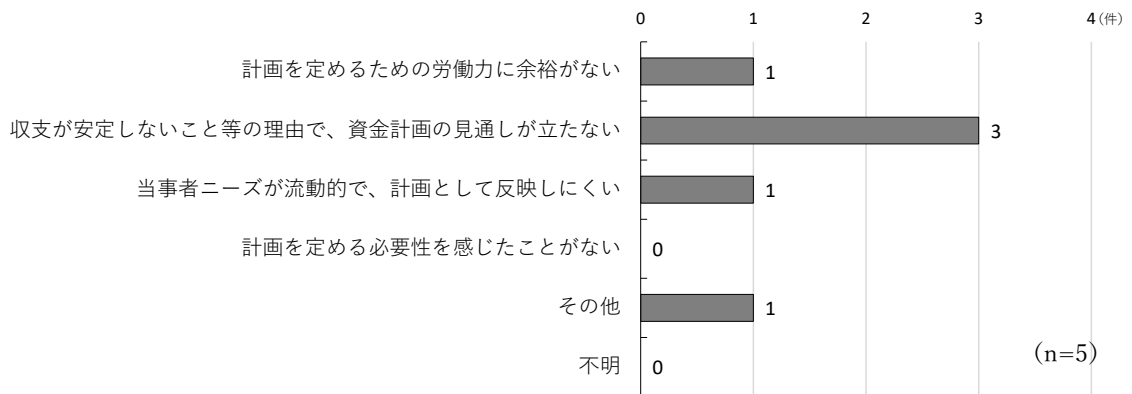
令和8年度	新設		拡充		縮減		廃止	
	回答数	具体的数量	回答数	具体的数量	回答数	具体的数量	回答数	具体的数量
居宅介護								
重度訪問介護								
同行援護								
行動援護								
重度障がい者包括支援								
短期入所								
療養介護								
生活介護			1事業所	※				
施設入所支援								
自立訓練（生活訓練）								
自立訓練（機能訓練）								
宿泊型自立訓練								
就労移行支援								
就労選択支援【R6新規】								
就労継続支援A型								
就労継続支援B型								
就労定着支援								
自立生活援助								
共同生活援助（日中サービス支援型）								
共同生活援助（介護サービス包括型）	1事業所	※						
共同生活援助（外部サービス利用型）								
地域移行支援								
地域定着支援								
計画相談支援								
児童発達支援								
医療型児童発達支援								
放課後等デイサービス								
居宅訪問型児童発達支援								
保育所等訪問支援								
障がい児相談支援								
その他								

■ 施設整備計画を定めていない理由【MA】

問8 問6で「3」を回答した法人におたずねします。計画を定めていない(定める予定がない)理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

No.	カテゴリー名	回答数
1	計画を定めるための労働力に余裕がない	1
2	収支が安定しないこと等の理由で、資金計画の見通しが立たない	3
3	当事者ニーズが流動的で、計画として反映しにくい	1
4	計画を定める必要性を感じたことがない	0
5	その他	1
	不明	0
	全体	5

施設整備計画を定めていない理由



■ 修繕等整備計画【SA】

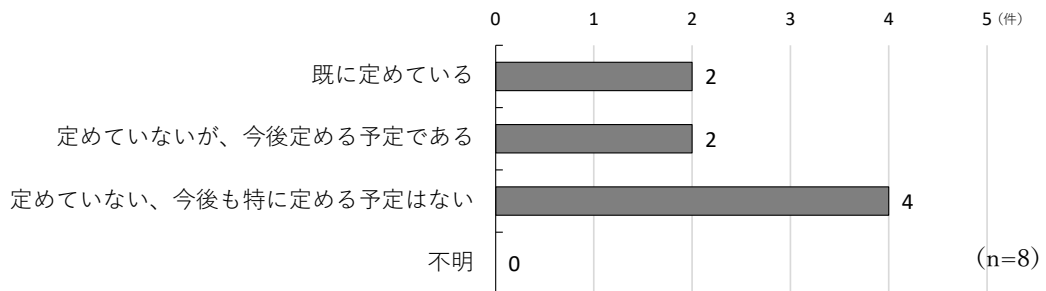
問9 すべての法人におたずねします。現在提供しているサービス量や運営事業所(建物、設備)を維持するため、法人として運営事業所の修繕、維持管理(以下、本調査で「修繕等整備」といいます。)について正式な計画として定めていますか。(1つだけ○印)

No.	カテゴリー名	回答数
1	既に定めている	2
2	定めていないが、今後定める予定である	2
3	定めていない、今後も特に定める予定はない	4
	不明	0
	全体	8

1 既に定めている：計画期間 3.0 年間 (1)、10.0 年間 (1) 平均 6.5 年間

2 定めていないが、今後定める予定である：計画策定の予定時期 2025 年 3 月 (1)

修繕等整備計画



■ 修繕等整備計画における整備見積額【FA】

問10 問9で「1」を回答した法人におたずねします。令和5年7月1日時点での修繕等整備の計画に基づき、令和6年度から令和8年度までの、当該計画にさだめる内容を教えてください。
 (計画に定めた修繕等整備の内容ごとに下表に当該整備の見積額(単位:千円)を年度ごとに記入)

修繕等整備計画における整備見積額

金額の単位：千円

	令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	回答数	金額	回答数	金額	回答数	金額
建物の耐震化にかかるもの						
災害時の電気、水等のライフラインの確保にかかるもの						
老朽化して使用に耐えなくなった設備の修繕にかかるもの						
その他	1事業所	5000 *1				

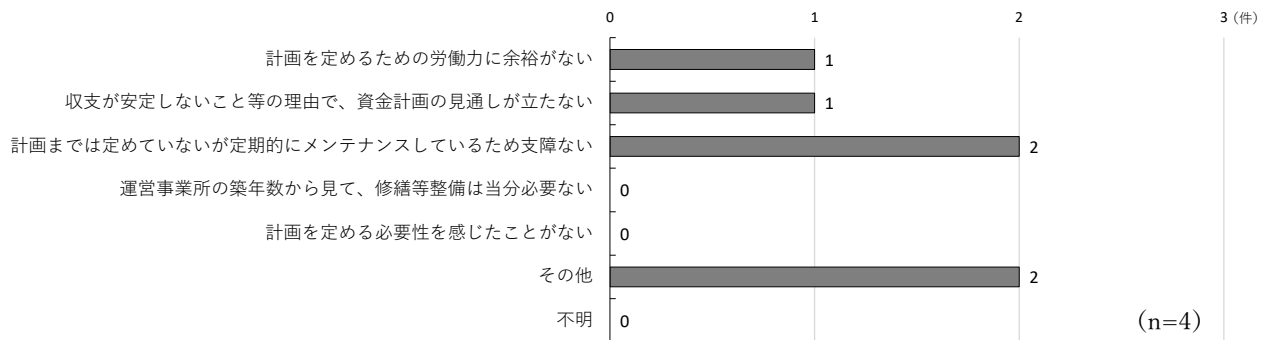
*1…電灯のLEDへの交換

■ 修繕等整備計画を定めていない理由【MA】

問11 問9で「3」を回答した法人におたずねします。定めていない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○印）

No.	カテゴリー名	回答数
1	計画を定めるための労働力に余裕がない	1
2	収支が安定しないこと等の理由で、資金計画の見通しが立たない	1
3	計画までは定めていないが定期的にメンテナンスしているため支障ない	2
4	運営事業所の築年数から見て、修繕等整備は当分必要ない	0
5	計画を定める必要性を感じたことがない	0
6	その他	2
	不明	0
	全体	4

修繕等整備計画を定めていない理由



(3) サービス提供の課題について

運営事業所でのサービス提供において現在の課題を聞いたところ、「障がいの重度化、高齢化による支援度が高まった利用者への対応」が6件と最も多くなった。次いで「ニーズに対応する介護職員等の人数の不足」「ニーズに対応する介護職員等の質（専門性等）の向上」（ともに4件）、「利用者の介護者の傷病等による緊急的なサービス提供への対応」（2件）などが続いた。

運営事業所でのサービス提供において将来大きくなると考えられる課題を聞いたところ、「障がいの重度化、高齢化による支援度が高まった利用者への対応」「ニーズに対応する介護職員等の人数の不足」がともに6件と最も多くなった。次いで「医療的ケア、強度行動障がい等、専門的支援を要する利用者への対応」（3件）、「利用者の介護者の傷病等による緊急的なサービス提供への対応」「真に支援を要する方をサービスに繋げる仕組みづくり」（ともに2件）などとなっている。

社会福祉法人として注力している、あるいは注力すべきと考える取り組みについて、「資格取得、研修受講等により、職員の質、専門性を向上すること」「職場環境の改善等による職員数の確保、増加」がともに6件と最も多くなった。次いで「行政、法人等関係機関の連携を密にし、協議の場を作る（増やす）こと」（3件）、「ICT、ロボット導入等により運営事業所の業務を効率化すること」「サービス事業所等を新設、拡充しサービス提供体制を整備すること」（ともに2件）などが続いた。

山形市に取り組んでほしい、あるいは取り組むべきと考えることを聞いたところ、「職場環境の改善等による職員数の確保、増加」が6件と最も多くなった。次いで「行政、法人等関係機関の連携を密にし、協議の場を作る（増やす）こと」（5件）、「資格取得、研修受講等により、職員の質、専門性を向上すること」（4件）となどが続く。特に「行政、法人等関係機関の連携を密にし、協議の場を作る（増やす）こと」は、山形市に取り組んでほしいとの回答（問15）が社会福祉法人として注力すべきとの回答（問14）を上回っており、期待の高さがうかがえる。

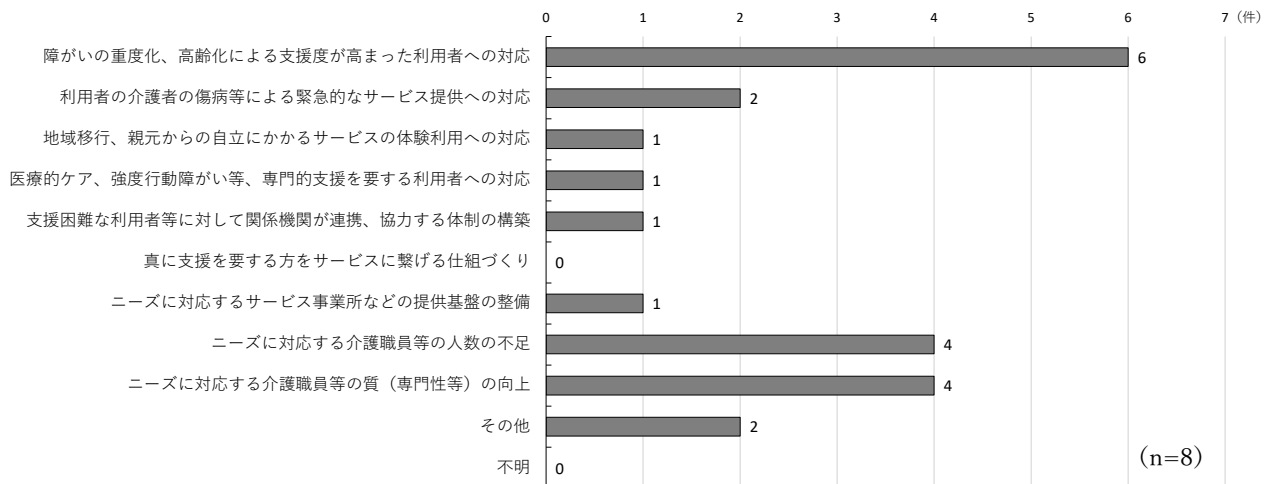
- ◎ サービス提供の課題としては、障がいの重度化、高齢化への対応とニーズに対応する人材不足を挙げた事業所が多く、事業所としては、障がいサービスのニーズが高度化・専門化している状況への対応に苦慮していることがうかがえる。法人自身も、職員の確保と人材育成に注力しているが、山形市に対する、人材育成支援、職場環境改善支援および関係機関との連携強化の要望も多く寄せられている。

■ サービス提供における課題【MA】

問12 すべての法人におたずねします。運営事業所でのサービス提供において、令和5年7月1日現在でどのような課題がありますか。（最も大きい課題と考えるものを3つまで○印）

No.	カテゴリー名	回答数
1	障がいの重度化、高齢化による支援度が高まった利用者への対応	6
2	利用者の介護者の傷病等による緊急的なサービス提供への対応	2
3	地域移行、親元からの自立にかかるサービスの体験利用への対応	1
4	医療的ケア、強度行動障がい等、専門的支援を要する利用者への対応	1
5	支援困難な利用者等に対して関係機関が連携、協力する体制の構築	1
6	真に支援を要する方をサービスに繋げる仕組みづくり	0
7	ニーズに対応するサービス事業所などの提供基盤の整備	1
8	ニーズに対応する介護職員等の人数の不足	4
9	ニーズに対応する介護職員等の質（専門性等）の向上	4
10	その他	2
	不明	0
	全体	8

サービス提供における課題

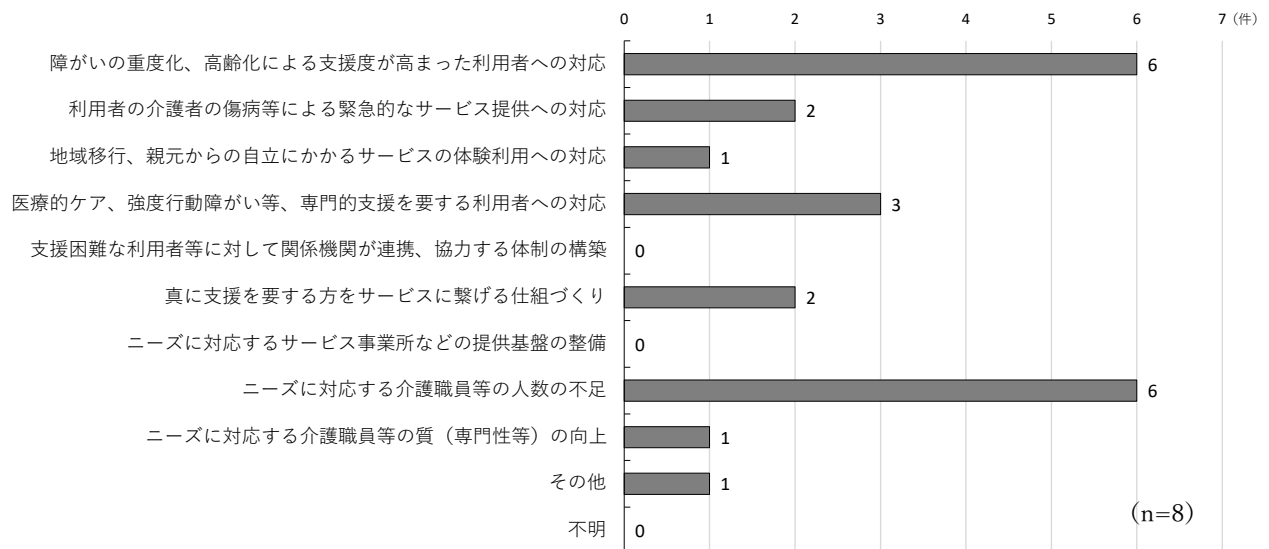


■ サービス提供における将来の課題【MA】

問13 すべての法人におたずねします。運営事業所でのサービス提供において、将来どういった課題が大きくなっていくと考えますか。（最も大きくなる課題と考えるものを3つまで○印）

No.	カテゴリー名	回答数
1	障がいの重度化、高齢化による支援度が高まった利用者への対応	6
2	利用者の介護者の傷病等による緊急的なサービス提供への対応	2
3	地域移行、親元からの自立にかかるサービスの体験利用への対応	1
4	医療的ケア、強度行動障がい等、専門的支援を要する利用者への対応	3
5	支援困難な利用者等に対して関係機関が連携、協力する体制の構築	0
6	真に支援を要する方をサービスに繋げる仕組みづくり	2
7	ニーズに対応するサービス事業所などの提供基盤の整備	0
8	ニーズに対応する介護職員等の人数の不足	6
9	ニーズに対応する介護職員等の質（専門性等）の向上	1
10	その他	1
	不明	0
	全体	8

サービス提供における将来の課題

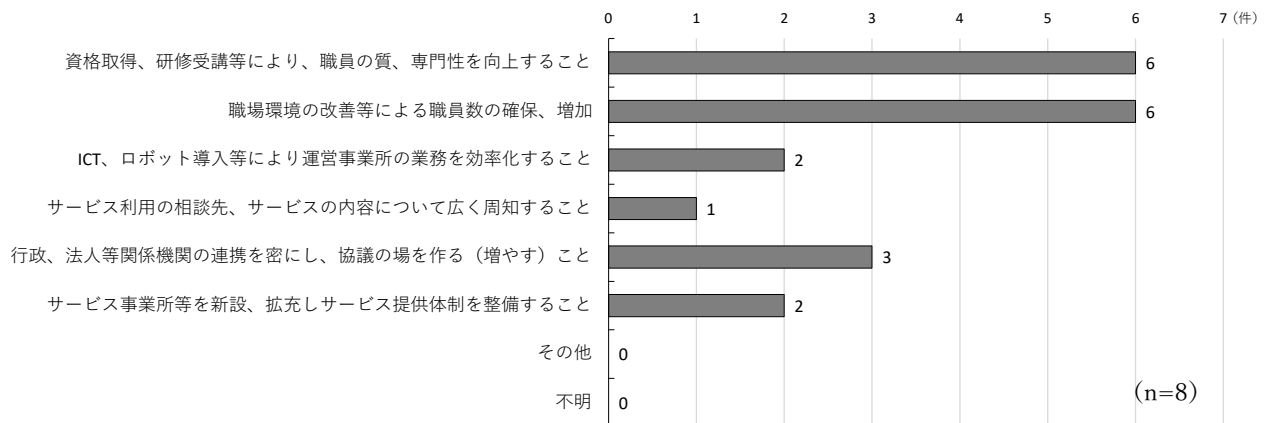


■ 注力している取り組み【MA】

問14 すべての法人におたずねします。問12、問13の課題を踏まえ、社会福祉法人として注力している(注力すべきと考える)取組はありますか。(最も注力している(注力すべきと考える)ものを3つまで○印)

No.	カテゴリー名	回答数
1	資格取得、研修受講等により、職員の質、専門性を向上すること	6
2	職場環境の改善等による職員数の確保、増加	6
3	ICT、ロボット導入等により運営事業所の業務を効率化すること	2
4	サービス利用の相談先、サービスの内容について広く周知すること	1
5	行政、法人等関係機関の連携を密にし、協議の場を作る(増やす)こと	3
6	サービス事業所等を新設、拡充しサービス提供体制を整備すること	2
7	その他	0
	不明	0
	全体	8

注力している取り組み

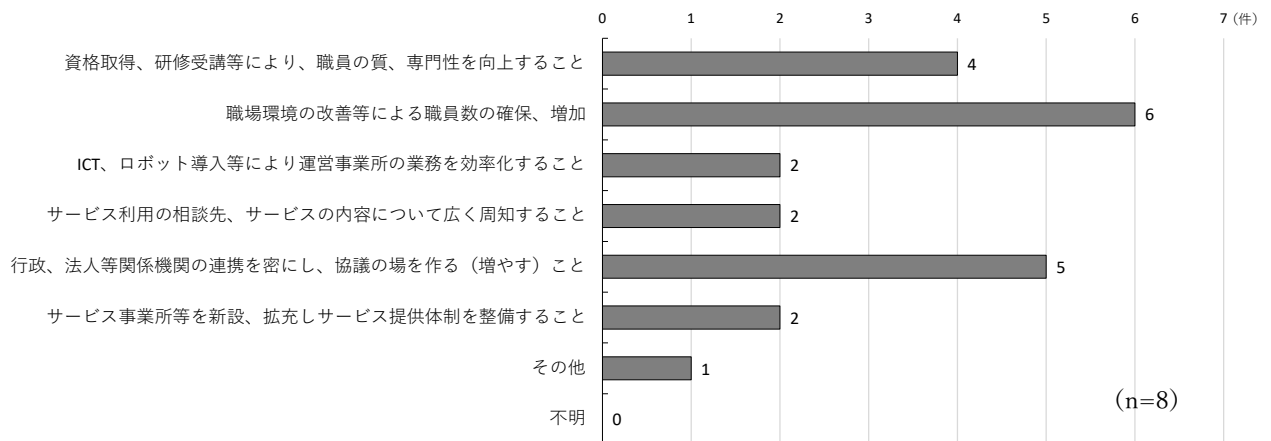


■ 山形市に取り組んでほしいこと【MA】

問15 すべての法人におたずねします。問 12、問 13 の課題を踏まえ、山形市に取り組んでほしい(取り組むべき)ことはありますか。(最も取り組んでほしい(取り組むべきと考える)ものを3つまで○印)

No.	カテゴリー名	回答数
1	資格取得、研修受講等により、職員の質、専門性を向上すること	4
2	職場環境の改善等による職員数の確保、増加	6
3	ICT、ロボット導入等により運営事業所の業務を効率化すること	2
4	サービス利用の相談先、サービスの内容について広く周知すること	2
5	行政、法人等関係機関の連携を密にし、協議の場を作る(増やす)こと	5
6	サービス事業所等を新設、拡充しサービス提供体制を整備すること	2
7	その他	1
	不明	0
	全体	8

山形市に取り組んでほしいこと



(4)障がい者施策に関するご意見・ご要望

問16 山形市の障がい者施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

- ・自立支援協議会の適正運営 ・相談支援事業所の負担軽減 ・基幹相談支援センターの設置 ・施設整備計画への資金援助（大規模修繕を含む）
- 事業拡大を計画しています。このアンケート結果を周知していただきたい。どの事業のニーズが高いのか参考にしたい。
- ・山形市として基幹相談支援センターを設置していただきたい。・国の制度見直しにより、令和6年度以降運営する児童発達支援センターにおいて、保育所等訪問支援のサービス提供が義務化される見込みであることから、その際は必要な体制の整備についてご協力をお願いしたい。

付 録

山形市障がい福祉アンケート

調査票

(1)「身体障がい」調査票

山形市障がい福祉アンケート
調査票

この調査票は、身体障がい者手帳を持っている方を対象としております。

アンケートにはご本人がご記入をお願いします。ただし、ご本人がお子様の場合、記入できない場合は、保護者の方やご家族、成年後見人などの代理の方が、ご本人の意向を十分踏まえて、ご記入願います。なお、相談支援や障がい福祉サービス等をご利用の方の場合は、利用事業所の職員の方に、ご本人の意向を確認することを手伝っていただくことができますので、事業所にご相談ください。

《記入方法について》

- ※質問ごとに、該当する番号を○で囲んでください。
- ※番号を選ぶ時は、選ぶ数を質問の後に () で指定していますので、その範囲内でお答えください。
- ※回答で「その他」を選んだときは、その内容を () に具体的に記入してください。

お問い合わせ先

山形市福祉推進部 障がい福祉課 障がい福祉第二係
電 話 023-641-1212 内線580
FAX 023-632-7091

基本情報

以下、すべての項目をご記入ください。
(該当する番号または語句を○で囲んでください。)

記入者	1 本人	2 代理				
ご本人の性別	1 男性	2 女性	3 その他			
ご本人の年齢	才 (令和5年7月1日現在の年齢をご記入ください。)					
障がい種別	【部位】	1 視覚	2 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく			
	3 肢体不自由	4 内部(心臓・腎臓など)				
	【等級】	1 1級	2 2級	3 3級	4 4級	5 5級
知的障がい	1 手帳あり【等級】	(A B)	2 手帳なし			
精神障がい	1 手帳あり【等級】	(1級 2級 3級)	2 手帳なし			
介護保険のサービス利用	1 受けている	2 受けていない				
参考	障がい支援区分の認定	1 受けている【区分】	(1 2 3 4 5 6)			
2 受けていない						

《「障がい」の表記について》

本アンケート調査においては、「障害」を「障がい」と表記します。ただし法令名などについては、除きます。

【生活の状況についてお聞きします。】

問1 あなたは現在どこで暮らしていますか。(1つだけ○印)

1 自宅(アパートなどを含む)	4 病院に入院
2 福祉ホームやグループホーム	5 その他()
3 福祉施設に入院	

問2 あなたの家族構成をお答えください。(1つだけ○印)

1 一人暮らし	4 自分と兄弟姉妹
2 夫婦二人暮らし	5 三世帯世帯(親・子・孫)
3 二世帯世帯(親・子)	6 その他()

問3 あなたは指定難病(※1)の認定を受けていますか。(1つだけ○印)

※1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。

1 受けている	2 受けていない
---------	----------

問4 あなたは発達障がい(※2)として診断されたことがありますか。(1つだけ○印)

※2 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。

1 ある	2 ない
------	------

問5 あなたは強度行動障がい(※3)があると言われたことはありませんか。(1つだけ○印)

※3 自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいいます。障がい福祉サービス等を利用し重度障がい者支援加算の対象となっている方、障がい福祉サービスの行動援護を利用している方、医師や療育機関から指摘を受けた方は「1」を選択してください。

1 ある	2 ない
------	------

問6 あなたは高次脳機能障がい(※4)として診断されたことはありますか。
(1つだけ○印)

※4 一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がい、失語などの認知障がい等を指すものとされており、具体的には「会話が上手くかみ合わない」等の症状があります。

1	ある
2	ない

1は問7へ → 2は問8へ

問7 問6で「1」を回答した方におたずねします。その関連障がいは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1	視覚障がい	5	肢体不自由(下肢)
2	聴覚障がい	6	肢体不自由(体幹)
3	音声、言語、そしゃく機能障がい	7	内臓障がい(1~6以外)
4	肢体不自由(上肢)		

問8 あなたは現在医療的ケアを受けていますか。(1つだけ○印)

1	受けている
2	受けていない

1は問9へ → 2は問10へ

問9 問8で「1」を回答した方におたずねします。受けている医療的ケアは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1	気管切開	7	中心静脈栄養(IVH)
2	人工呼吸器(レスピレーター)	8	透析
3	吸入	9	カテーテル留置
4	吸引	10	ストマ(人工肛門、人工膀胱)
5	胃ろう、腸ろう	11	服薬管理
6	鼻腔経管栄養	12	その他()

問10 あなたの月収は(年金、福祉手当、生活保護や送りも含む)どのくらいですか。税や社会保険料等控除前の額をお答えください。(1つだけ○印)

1	1万円未満	6	なし
2	1万円 ~ 5万円未満	7	わからない
3	5万円 ~ 10万円未満		
4	10万円 ~ 20万円未満		
5	20万円以上		

1~5は問11へ → 6、7は問12へ

問11 問10で「1~5」を回答した方におたずねします。あなたの主な収入源はどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

1	本人の就労収入(工賃を含む)	5	福祉手当(障がい者手当など)
2	財産収入(利子や配当金、家賃収入)	6	生活保護の受給
3	障がい年金(国民・厚生・共済など)	7	家族、親族からの援助
4	障がい年金以外の公的年金(遺族年金など)(国民・厚生・共済など)	8	その他()

【日常生活についてお聞きます。】

問12 普段の生活の中で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1	健康	6	収入
2	仕事	7	人とのコミュニケーション、情報入手
3	連絡(保育園・幼稚園・学校)	8	外出
4	住まい	9	その他()
5	身の回りのこと(食事・入浴など)	10	困っていることはない

問13 あなたはヘルプカードを知っていますか。(1つだけ○印)



1	知っている
2	知らない

問14 日常生活で少しでも介助や支援が必要なものがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1	食事介助	12	電話の対応
2	食事づくり	13	室内の移動
3	トイレ	14	通院
4	着替え	15	通学
5	入浴	16	通勤・通所
6	洗顔・歯磨き	17	人とのコミュニケーション
7	寝返り	18	見守りなど生活全般の支援
8	日用品の買い物	19	代読・代筆
9	掃除・片付け	20	その他()
10	洗濯	21	ない
11	お金の管理		

1~20は問15へ → 21は問17へ

問 15 問 14 で「1～20」を回答した方におたずねします。あなたを介助している方（介助者）はどなたですか。（主な介助者に1つだけ○印）

1 父	7 孫
2 母	8 近隣の人、知人、友人
3 配偶者	9 ホームヘルパー・施設職員
4 子（子の配偶者）	10 ボランティア
5 兄弟姉妹	11 その他（ ）
6 祖父母	

1～8は問16へ → 9～11は問17へ

問 16 問 15 で「1～8」を回答した方におたずねします。主な介助者の健康状態はいかがですか。（1つだけ○印）

1 良好	4 具合が悪く病気の治療中である
2 普通	5 高齢で健康状態に不安がある
3 病気がちである	

【福祉サービスについてお聞きします。】

問 17 次にあげた障がい者、障がい児の福祉サービスの中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ものはどれですか。（あてはまるものをすべてに○印）

サービス名	知っている	利用したこと がある	今後利用 したい
1 居宅介護（ホームヘルプ）			
2 重度訪問介護			
3 同行支援			
4 行動支援			
5 短期入所（ショートステイ）			
6 療養介護			
7 施設入所			
8 生活介護（デイサービス）			
9 自立訓練（機能訓練・生活訓練）			
10 就労移行支援			
11 就労選択支援【令和6年度からの事業です】			
12 就労継続支援A型（雇用型）			
13 就労継続支援B型（非雇用型）			
14 就労定着支援			
15 自立生活援助			
16 共同生活援助（グループホーム）			
17 地域移行支援			
18 地域定着支援			
19 放課後等デイサービス			
20 児童発達支援			

問18 次にあげた福祉制度の中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ものはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

制度名	知っている	利用したことがある	今後利用したい
1 自立支援医療(更生医療・育成医療)の給付			
2 補装具の交付(貸与含む)・修理			
3 日常生活用具の給付			
4 手話通訳者・要約筆記者の派遣			
5 身体障がい者自動車運転免許取得費の助成			
6 身体障がい者自動車改造費・介護用車両改造費の助成			
7 福祉タクシー券・給油券の交付			
8 紙おむつの支給			
9 各種手当の支給			
10 交通料金の割引			
11 NHIK受信料の減免			
12 税金の障がい者控除			
13 自動車税の減免			
14 成年後見制度			
15 福祉サービス利用援助事業(日常的な金銭管理の援助など)			

問19 あなたは身体障がい者入所施設からの地域移行(施設を退所して家やグループホームに住み、地域で生活することをいいます。)について、どう思いますか。(1つだけ○印)

1 地域移行して、地域で生活したい(した方が良い)
2 地域移行したくない(しない方が良い)
3 どちらとも言えない
4 その他()

問20 山形市内の身体障がい者グループホームの数及び定員数について、どう思いますか。(それぞれ1つだけ○印)

【グループホームの数】	
1 ちょうど良い	()
2 不足している(具体的に)	()
3 その他()	()
【グループホームの定員数】	
1 ちょうど良い	()
2 不足している(具体的に)	()
3 その他()	()

問21 山形市内の身体障がい者通所事業所の数及び定員数について、どう思いますか。(それぞれ1つだけ○印)

【障がい者通所事業所の数】	
1 ちょうど良い	()
2 不足している(具体的に)	()
3 その他()	()
【障がい者通所事業所の定員数】	
1 ちょうど良い	()
2 不足している(具体的に)	()
3 その他()	()

【医療・保健についてお聞きします。】

問22 あなたは、機能訓練・自立訓練・社会復帰のための訓練(リハビリテーション)をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 病院・診療所	7 障がい者福祉施設
2 山形市保健所、福祉文化センター	8 高齢者(老人保健)福祉施設
3 山形市以外の保健所	9 リハビリ指導を受け、自宅で実施
4 こども医療療育センター	10 自宅で自主的に実施
5 学校	11 その他()
6 自宅での訪問リハビリ	12 受けていない

1~11は問24へ ← 12は問23へ →

問23 問22で「12」を回答した方におたずねします。訓練(リハビリテーション)を受けていない主な理由は何ですか。(1つだけ○印)

1 日常生活は自立しており支障がない	5 お金がかかる
2 近隣に病院や施設がなく通えない	6 訓練効果が期待できない
3 通う手段がない	7 その他()
4 適切な病院や施設がない	

【就労についてお聞きします。】

問 24 あなたは現在、働いていますか。 (1つだけ○印)

1 働いている 2 働いていない

1は問25へ 2は問29へ

問 25 問 24 で「1」を回答した方におたずねします。どのような形態で働いていますか。

(1つだけ○印)

1 正社員、正職員 5 家業の手伝い
 2 臨時・日雇い・パート・嘱託・アルバイト 6 就労継続支援事業所A型(雇用型)
 3 自営 (農業も含む) 7 就労継続支援事業所B型(非雇用型)
 4 内職 8 その他 ()

問 26 問 24 で「1」を回答した方におたずねします。通勤手段は主に何ですか。

(1つだけ○印)

1 自分の運転する車など 4 徒歩・自転車
 2 家族などの送迎 5 その他 ()
 3 電車・バスなどの公共交通機関

問 27 問 24 で「1」を回答した方におたずねします。現在の仕事はどのようにして見つけましたか。

(1つだけ○印)

1 就労移行支援事業所 6 職業訓練校の紹介
 2 公共職業安定所(ハローワーク) 7 親戚や知人などの紹介
 3 山形障害者職業センター 8 自分や家族で探した
 4 学校の紹介 9 その他 ()
 5 障害者就業・生活支援センター

問 28 問 24 で「1」を回答した方におたずねします。あなたは仕事をさうえて不安や不満はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 収入が少ない 9 障がいに対する配慮や意識が低い
 2 作業内容が難しい・作業量が多い 10 病気についての理解が得られない
 3 作業内容がおもしろくない 11 リストラの不安がある
 4 休みがとれない・とりにくい 12 勤務時間が長く、体力的に負担が大きい
 5 職場の人間関係にとげこめない 13 病気で生活のリズムがくずれやすい
 6 職場の設備が障がい者に配慮されていない 14 その他 ()
 7 通勤に支障がある 15 障がない
 8 昇進や昇給が不平等である

★問 31

問 29 問 24 で「2」を回答した方におたずねします。あなたが仕事をしない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 重度の障がいのため 7 働く意欲がないため
 2 病気のため(入院を含む) 8 就学している
 3 高齢のため 9 通勤が困難
 4 求人が少なく仕事が見つからない 10 面接をしても断られる
 5 家事をする、または手伝うため 11 幼児・児童であるため
 6 障がいや病気に合った仕事がない 12 その他 ()

問 30 問 24 で「2」を回答した方におたずねします。今後の活動や将来の進路について、どのような希望がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 企業などでの一般就労 8 職業訓練校
 2 障がいの雇用が多い事業所 9 大学や専門学校などへ進学
 3 職員などの支援を受けられる事業所 10 自宅でできる仕事をしたい
 4 一般就労に向けた支援を受けられる施設 11 就労などの希望はない
 5 就労は難しいのでレクリエーションや創作活動などの行える施設 12 施設などへ入所
 6 身体機能の訓練ができる施設 13 その他 ()
 7 自立に向けた訓練ができる施設 14 障がない、まだよくわからない

問 35 問 34 で「6」を回答した方におたずねします。あなたが外出しない主な理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|------------------|----|--------------------|
| 1 | 外出する必要がある | 8 | 公共交通機関(バス、電車)が使えない |
| 2 | 疲れるから | 9 | 移動手段が確保できない |
| 3 | 人目が気になる | 10 | (移動手段に)経費がかかる |
| 4 | 家族や他人に面倒をかける | 11 | コミュニケーションが難しい |
| 5 | 付き添いや介助者がいない | 12 | その他() |
| 6 | 障がいや疾病が重く、外出が難しい | 13 | 特に理由はない |
| 7 | 道路・階段・トイレなどを使えない | | |

★すべての方におたずねします。

問 36 あなたが外出するうえで困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|---------------------|----|--------------------|
| 1 | 点字プロックが少ない | 10 | 電車・バスなどへの乗車が難しい |
| 2 | 音の出る信号機が少ない | 11 | 買い物や外出先での食事が難しい |
| 3 | 道路に障がい物(放置自転車など)が多い | 12 | アナウンスが聞こえにくい |
| 4 | 道路・建物の段差が多い | 13 | コミュニケーションが難しい |
| 5 | 階段の上り下りが難しい | 14 | 付き添いや介助者の確保が難しい |
| 6 | 利用できるトイレが少ない | 15 | 通りがかりに介助してくれる人が少ない |
| 7 | 駐車場が少ない | 16 | 人目が気になる |
| 8 | 駅やバス停・歩道にベンチが少ない | 17 | その他() |
| 9 | 手すり・スロープ・自動ドアなどが少ない | 18 | 特に困ることはない |

問 37 あなたにとって社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。(3つまで○印)

- | | | | |
|---|-----------------------|----|--------------------------------|
| 1 | 障がい者用駐車スペースの確保 | 9 | 公共施設などで常備してある車いすの数を増やす |
| 2 | 建物・乗り物・道路などの出入り口の段差解消 | 10 | 車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保 |
| 3 | 点字プロックの敷設 | 11 | 誰もが利用しやすい多機能トイレの設置 |
| 4 | 音の出る信号機の設置 | 12 | 駅やバス停・歩道にベンチを増やす |
| 5 | エレベーターの設置 | 13 | 休憩スペースの確保 |
| 6 | スロープの設置 | 14 | わかりやすい表示 |
| 7 | 自動ドアの設置 | 15 | その他() |
| 8 | 手すりの設置 | 16 | 特にない |

★すべての方におたずねします。
 問 31 あなたが働き続ける(または将来働く)には、どのようなことが特に必要だと思いますか。
 (3つまで○印)

- | | | | |
|---|----------------------------|----|----------------------------|
| 1 | 勤務時間や日数の短縮 | 9 | 会社や家族などの自分への理解 |
| 2 | 通勤が自分でできる | 10 | 徐々に仕事に慣れていけるようステップを踏めること |
| 3 | 具合が悪くなった時に気軽に通話できる | 11 | 職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること |
| 4 | 職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備 | 12 | 障がいや病気にに対する理解や配慮 |
| 5 | 自宅で仕事ができること | 13 | その他() |
| 6 | 給料・賃金が妥当である | 14 | 特にない・まだよくわからない |
| 7 | 自分に合った仕事である | | |
| 8 | 職業訓練などで就労のための知識・技術習得 | | |

【住宅についてお聞きします。】

問 32 あなたのお住まいは、バリアフリーに対応していますか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|------|---|-------|
| 1 | している | 2 | していない |
|---|------|---|-------|

1は問34へ 2は問33へ

問 33 問 32 で「2」を回答した方におたずねします。バリアフリーに対応していない主な理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|--------------|---|-----------------|
| 1 | 改修などを行う資金がない | 5 | 家主・管理者の許可が得られない |
| 2 | 建物の空間に余裕がない | 6 | どこに相談していいかわからない |
| 3 | 家が狭い | 7 | その他() |
| 4 | 建物の構造上できない | 8 | 特にない |

【バリアフリーに関することについてお聞きします。】

問 34 あなたの外出頻度はどの位ですか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-------|---|-----------|
| 1 | ほぼ毎日 | 4 | 月1~3回 |
| 2 | 週3~4回 | 5 | 年に数回 |
| 3 | 週1~2回 | 6 | ほとんど外出しない |

1~5は問36へ 6は問35へ

【余暇活動についてお聞きします。】

問 38 あなたはどのような余暇などを過ごしていますか。(3つまで○印)

1 家でくつろぐ	6 ドライブやスポーツをする
2 趣味・学習活動などをやる	7 地域活動やボランティア活動に参加する
3 近所を散歩する	8 図書館・博物館・映画館などへ行く
4 友人・知人と会う	9 その他()
5 買物や、店を見て歩く	10 他に何もしていない

1～9は問40へ → 10は問39へ →

問 39 問 38で「10」と回答した方におたずねします。あなたが特に何もしていない理由は
何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 時間的ゆとりがないから	4 付添いや介助者がいないため
2 経済的ゆとりがないから	5 その他()
3 病状が重いため	6 何をしたらよいかわからない

★すべての方におたずねします。

問 40 障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動に参加してみたいですか。

(1つだけ○印)

1 すでに参加している	3 興味がない
2 参加してみたい	

【権利擁護についてお聞きします。】

問 41 あなたは、平成 29 年 4 月より施行された「山形市障がいを理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。(1つだけ○印)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 42 あなたは、日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じることがありますか。(1つだけ○印)

1 ある	2 ない
	3 わからない

1は問43へ → 2、3は問46へ →

問 43 問 42で「1」を回答した方におたずねします。どのようなところに、もっとも強く障がい者に対する差別・偏見または疎外感を感じますか。(3つまで○印)

1 教育の機会	6 店などの対応の態度
2 仕事や収入	7 福祉関係従事者の対応
3 人の視線	8 公共交通機関(タクシーを含む)の利用
4 地域行事・地域活動	9 住宅の賃借(住宅を借りる時の手続き)
5 隣近所の付き合い	10 その他()

問 44 問 42で「1」を回答した方におたずねします。差別をされたり、いやな思いをしたときに誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

1 家族	11 山形市指定相談支援事業所
2 友人・知人	12 成年後見人など
3 民生委員児童委員・福祉協力員	13 県の相談所・更生相談所の窓口
4 市の福祉関係課の窓口	14 ホームヘルパー
5 山形市消費生活センター	15 手話通訳者・ガイドヘルパーなど
6 病室の医師・看護師・ソーシャルワーカー	16 身体障がい者相談員・知的障がい者相談員
7 福祉サービス事業所	17 ケアマネージャー
8 保育園・幼稚園・学校の先生	18 警察の相談窓口
9 職場の上司や先輩	19 弁護士・法務局
10 障がい者団体のメンバー	20 その他()
	21 相談しなかった

1～20は問46へ → 21は問45へ →

問 45 問 44で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。

(1つだけ○印)

1 相談する相手がいなかった	3 相談しても解決しなかった
2 どこに相談すればよいかわからなかった	4 その他()

問 49 あなたは、福祉サービスの内容について、どのようなもので知ることが多いですか。
 (2つまで○印)

1 市の広報・資料	9 インターネット
2 県の広報・資料	10 テレビ
3 市への問い合わせ	11 新聞や雑誌
4 県への問い合わせ	12 障がいの施設や団体の機関紙・パンフレット
5 医療機関	13 家族や仲間の話
6 福祉サービス事業所	14 その他 ()
7 山形市指定相談支援事業所	15 知る手段がない
8 保育園・幼稚園・学校	

問 50 あなたは、今後(将来)どのように生活したい(させたい)ですか。(1つだけ○印)

1 自宅で家族と暮らしたい	4 施設に入所したい(または現在の施設に入所し続けたい)
2 自立して暮らしたい(家族と別居)	5 その他 ()
3 世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい(グループホームなど)	6 特に考えていない、まだよくわからない

2、3は問51へ ← --- ↓
 ↓
 1、5、6は問53へ
 4は問52へ

問 51 問50で「2」または「3」を回答した方におたずねします。独立にあたり、どのようなことが不安ですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

1 ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保	5 ボランティアなど支援者の確保
2 地域との関わり	6 障がいの状態に合った住宅の確保
3 日中活動の場	7 独立がうまくいかなかったとき
4 収入の安定	8 その他 ()
	9 特に不安はない

問 52 問50で「3」または「4」を回答した方におたずねします。グループホームなどへの入居または施設への入所はいつ頃までにしたいと考えていますか。(1つだけ○印)

1 今すぐ	4 6～10年後
2 1～2年後	5 11年以上後
3 3～5年後	6 その他 ()

★すべての方におたずねします。

問 53 あなたは、買戻金法などの被害にあったことがありますか。(1つだけ○印)

1 ある	2 ない
------	------

1は問54へ ↓
 2は問56へ

★すべての方におたずねします。

問 46 あなたにとって差別・偏見や疎外感をなくするために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。(3つまで○印)

1 子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす	8 障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする
2 福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす	9 手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実
3 情報提供の充実	10 道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくなる
4 障がいや病気の正しい理解の啓発	11 補助犬(盲導犬など)の啓発
5 支援ボランティアの育成を進める	12 その他 ()
6 公共施設などの改善・整備を進める	13 特にない
7 障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める	

【相談・情報についてお聞きします。】

問 47 あなたが福祉サービスの利用について相談する相手を教えてください。

(あてはまるものすべてに○印)

1 家族	11 山形市指定相談支援事業所の職員
2 友人・知人	12 県の児童相談所・更生相談所の窓口
3 民生委員児童委員・福祉協力員	13 ホームヘルパー
4 市の福祉関係者の窓口	14 手話通訳者など・ガイドヘルパー
5 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	15 身体障がい者相談員・知的障がい者相談員
6 保健所の窓口	16 ケアマネージャー
7 福祉サービス事業所の職員	17 こども医療療育センター
8 保育所・幼稚園・学校の先生	18 その他 ()
9 職場の上司や同僚	19 相談できる機関や人はいない
10 障がい者団体のメンバー	

問 48 相談機能を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○印)

1 身近な場所で相談できること	7 定期的な回しにされない
2 プライバシーの配慮	8 相談員の資質向上
3 適切なアドバイスができる人材	9 一か所で用事が済む相談窓口を設置する
4 電話やFAX、Eメールなどによりいつでも相談できること	10 市や県、民間相談機関の連携
5 素早い対応してくれる	11 福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実
6 わかりやすい情報の提供	12 その他 ()

問 54 問 53 で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰（どこ）へ相談しましたか。
 (あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|----|---------------------|----|---------------------|
| 1 | 家族 | 11 | 山形市指定相談支援事業所 |
| 2 | 友人・知人 | 12 | 成年後見人など |
| 3 | 民生委員児童委員・福祉協力員 | 13 | 県の相談所・更生相談所の窓口 |
| 4 | 市の福祉関係課の窓口 | 14 | ホームヘルパー |
| 5 | 山形市消費生活センター | 15 | 手話通訳者・ガイドヘルパーなど |
| 6 | 病院の医師・看護士・ソーシャルワーカー | 16 | 身体障がい者相談員・知的障がい者相談員 |
| 7 | 福祉サービス事業所 | 17 | ケアマネージャー |
| 8 | 保育園・幼稚園・学校の先生 | 18 | 警察の相談窓口 |
| 9 | 職場の上司や先輩 | 19 | 弁護士、司法書士 |
| 10 | 障がい者団体のメンバー | 20 | その他 () |
| | | 21 | 相談しなかった |

1～20 は問 56 へ ← 21 は問 55 へ ←

問 55 問 54 で「2」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何か。
 (1つだけ○印)

- | | | | |
|---|--------------------|---|----------------|
| 1 | 相談する相手がいなかった | 3 | 相談しても解決しないと思った |
| 2 | どこに相談すればよいかわからなかった | 4 | その他 () |

★すべての方におたずねします。

問 56 あなたは今後の生活に対してどのような不安がありますか。
 (あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|------------------|----|--------------------|
| 1 | 身体のこと (医療や健康) | 7 | 就職・仕事 |
| 2 | 生活費 (経済的負担) | 8 | 周囲の理解 |
| 3 | 住宅・生活の場所 | 9 | 介助者が介助できなくなった場合の対応 |
| 4 | 介助してくれる人 (日常の介助) | 10 | その他 () |
| 5 | 結婚・育児 | 11 | 特に不安はない |
| 6 | 進学・学校生活 | | |

問 57 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思われませんか。(3つまで○印)

- | | | | |
|----|-----------------------|----|----------------------|
| 1 | 在宅生活において、介助がいつでも受けられる | 11 | 旅行や遊びのための外出が気軽に出来ること |
| 2 | 通所施設の整備 | 12 | 補助犬 (盲導犬など) の普及促進 |
| 3 | 学校や就職先が選択できる | 13 | 福祉用具普及促進・啓発・研究開発 |
| 4 | 安心して住めるところがある | 14 | 障がいや病気について周囲の人の理解 |
| 5 | 入所施設の整備 | 15 | 地域での交流の機会 |
| 6 | 経済面での支援が受けられる | 16 | 情報の公平な伝達 |
| 7 | 相談体制 | 17 | 契約行為や財産など権利が守られること |
| 8 | 早期発見や予防につながる機会の確保 | 18 | 災害時の避難支援 |
| 9 | 健康管理や治療・リハビリ | 19 | その他 () |
| 10 | 快適で安全なまちづくり | 20 | 特になし |

【災害時の対応についてお聞きします。】

問 58 火事や地震などの災害のときに、自宅にいる場合、あなたは一人で避難できますか。
 (1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-----|---|------|
| 1 | できる | 2 | できない |
|---|-----|---|------|
- 1 は問 60 へ ← 2 は問 59 へ ←

問 59 問 58 で「2」を回答した方におたずねします。災害のときに一人で避難できない理由は何ですか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-----------------|---|------------------|
| 1 | 一人を移動させることができない | 3 | どこに避難すればよいかわからない |
| 2 | 一人を判断することができない | 4 | その他 () |

★すべての方におたずねします。

問 60 あなたはお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-------|---|------|
| 1 | 知っている | 2 | 知らない |
|---|-------|---|------|

問 61 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-----|---|------|
| 1 | できる | 2 | できない |
|---|-----|---|------|

問 67 山形市の障がい福祉施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございます。

問 62 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、家族のほかにご近所にあなただけを助けてくれる方はいますか。(1つだけ○印)

1 いる	2 いない
------	-------

問 63 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは家族のほか誰に助けてもらいたいですか。(1つだけ○印)

1 近所の人	4 福祉サービス事業所の職員
2 友人・知人	5 行政機関などの職員
3 民生委員児童委員・福祉協力員	6 その他 ()

問 64 「山形市避難行動支援制度」を知っていますか。(1つだけ○印)

1 知っているし、登録もしている	3 知らない
2 知っているが、登録はしていない	

・山形市避難行動支援制度とは
災害が発生した際に、家族などの援助が困難で何らかの助けが必要な人に対して、地域の人々から協力を得て、避難支援を行う制度。利用するためには登録が必要。

問 65 災害時に避難支援を受けるために必要であれば、あなたの個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することに同意できますか。(この回答では、個人情報の提供に同意したことにはなりません。)(1つだけ○印)

1 同意できる	3 その他 ()
2 同意できない	

2は問66へ ← → 1、3は問67へ

問 66 問65で「2」を回答した方におたずねします。同意できない理由は何ですか。(1つだけ○印)

1 個人情報などが他へ流出する恐れがあるから
2 障がいがあることを知られたくないから
3 その他 ()

(2)「知的障がい」調査票

やまがたししゅう
山形市障がい福祉アンケート
 ちようきひよう
調査票

この調査票は、療育手帳を持っている方を対象としたものです。

アンケートにはご本人がご記入をお願いします。ただし、ご本人がお子様の場合、記入できない場合は、保護者の方やご家族、成年後見人などの代理の方が、ご本人の意向を十分踏まえて、ご記入願います。なお、相談支援や障がい福祉サービス等をご利用の方の場合は、利用事業所の職員の方に、ご本人の意向を確認することを手伝っていただくことがありますので、事業所にご相談ください。

《記入方法について》

- ※質問ごとに、該当する番号を○で囲んでください。
- ※番号を選ぶ時は、選ぶ数を質問の後に（ ）で指定していますので、その範囲内でお答えください。
- ※回答で「その他」を選んだときは、その内容を（ ）に具体的に記入してください。

お問い合わせ先

山形市福祉推進部 障がい福祉課 障がい福祉第二係
 電話 641-1212 内線580
 FAX 632-7091

以下、すべての項目をご記入ください。
 (該当する番号または語句を○で囲んでください。)

基本情報

記入者	1 本人	2 代理				
ご本人の性別	1 男性	2 女性	3 その他			
ご本人の年齢	才(令和5年7月1日現在の年齢をご記入ください。)					
知的障がい	手帳あり【等級】(A B)					
障がい	【部位】					
が	1 視覚	2 聴覚・平衡・音声・言語・そしやく				
い	3 肢体不自由	4 内部	5 手帳なし			
種	【等級】					
別	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
	1 手帳あり【等級】(1 級 2 級 3 級)					
	2 手帳なし					
参	1 受けている					
考	2 受けていない					
	1 受けている【区分】(1 2 3 4 5 6)					
	2 受けていない					

《「障がい」の表記について》

本アンケート調査においては、「障害」を「障がい」と表記します。
 ただし法令名などについては、除きます。

【生活の状況についてお聞きします。】

問1 あなたは現在どこで暮らしていますか。(1つだけO印)

1 自宅(アパートなどを含む)	4 病院に入院
2 グループホーム	5 その他()
3 福祉施設に入院	

問2 あなたの家族構成をお答えください。施設入所・入院の方は、自宅(実家)の状態をお答えください。(1つだけO印)

1 一人暮らし	4 自分と兄弟姉妹
2 夫婦二人暮らし	5 三世代世帯(親・子・孫)
3 二世代世帯(親・子)	6 その他()

問3 あなたは指定難病(※1)の認定を受けていますか。(1つだけO印)

※1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾患その他の特殊な疾患をいいます。

1 受けている	2 受けていない
---------	----------

問4 あなたは発達障がい(※2)として診断されたことがありますか。(1つだけO印)

※2 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。

1 ある	2 ない
------	------

問5 あなたは強度行動障がい(※3)があるとされたことはありませんか。(1つだけO印)

※3 自傷、他害、こだわり、もの隠し、睡床の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいいます。障がい福祉サービス等を利用し重度障がい者支援加算の対象となっている方、障がい福祉サービス等の行動様式を利用していらっしゃる方、医師や療育機関から指摘を受けた方は「1」を選択してください。

1 ある	2 ない
------	------

問6 あなたは高次脳機能障がい(※4)として診断されたことはありませんか。(1つだけO印)

※4 一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会行動障がい、失語などの認知障がい等を指すものとされており、具体的には「言語が上手にかみ合わない」等の症状があります。

1 ある	2 ない
------	------

問7 問6で「1」を回答した方におたずねします。その関連障がいは何ですか。(あてはまるものすべてにO印)

1 視覚障がい	5 肢体不自由(下肢)
2 聴覚障がい	6 肢体不自由(体幹)
3 音声、言語、そしやく機能障がい	7 内臓障がい(1~6以外)
4 肢体不自由(上肢)	

問8 あなたは現在医療的ケアを受けていますか。(1つだけO印)

1 受けている	2 受けていない
---------	----------

問9 問8で「1」を回答した方におたずねします。受けている医療的ケアは何ですか。(あてはまるものすべてにO印)

1 気管切開	7 中心静脈栄養(IVH)
2 人工呼吸器(レスピレーター)	8 透析
3 吸入	9 カテーテル留置
4 吸引	10 ストマ(人工肛門、人工膀胱)
5 胃ろう、腸ろう	11 栄養管理
6 鼻空腔栄養	12 その他()

問10 あなたの月の収入（年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む）どのくらいですか。税や社会保険料などの控除前の額をお答えください。（1つだけ○印）

1 1万円未満	6 なし
2 1万円～5万円未満	7 わからない
3 5万円～10万円未満	
4 10万円～20万円未満	
5 20万円以上	

1～5は問11へ → 6、7は問12へ

問11 問10で「1～5」を回答した方におたずねします。あなたの主な収入源はどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

1 本人の就労収入（工賃を含む）	5 福祉手当（障がい者手当など）
2 財産収入（利子や配当金、家賃収入）	6 生活保護の受給
3 障がい年金（国民・厚生・共済など）	7 家族、親戚からの援助
4 障がい年金以外の公的年金（遺族年金など）（国民・厚生・共済など）	8 その他（ ）

【日常生活についてお聞きします。】

問12 普段の生活の中で困っていることはありませんか。（あてはまるものすべてに○印）

1 健康	6 収入
2 仕事	7 人とのコミュニケーション、情報入手
3 道路（保育園・幼稚園・学校）	8 外出
4 住まい	9 その他（ ）
5 身の回りのこと（食事・入浴など）	10 困っていることはない

問13 あなたはヘルプカードを知っていますか。（1つだけ○印）



1 知っている	2 知らない
---------	--------

問14 日常生活で少しでも手伝ってほしいことがありますか。（あてはまるものすべてに○印）

1 食事介助	9 お金の管理
2 食事づくり	10 電話の対応
3 トイレ	11 通院
4 着替え	12 通字
5 お風呂	13 通勤・通所
6 日用品の買い物	14 人とのコミュニケーション
7 掃除・片付け	15 代読・代筆
8 洗濯	16 その他（ ）
	17 ない

1～16は問15へ → 17は問17へ

問15 問14で「1～16」を回答した方におたずねします。あなたを介助している方（介助者）はどなたですか。（主な介助者に1つだけ○印）

1 父	7 孫
2 母	8 近隣の人、知人、友人
3 配偶者	9 ホームヘルパー・施設職員
4 子（子の配偶者）	10 ボランティア
5 兄弟姉妹	11 その他（ ）
6 祖父母	

1～8は問16へ → 9～11は問17へ

問16 問15で「1～8」を回答した方におたずねします。主な介助者の健康状態はいかがですか。（1つだけ○印）

1 良好	4 具合が悪く病気の治療中である
2 普通	5 高齢で健康状態に不安がある
3 病気がちである	

【福祉サービスについてお聞きします。】

問17 次にあげた福祉サービスの中で、あなたが「利用したことがある」、「今後利用したい」

サービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

サービス名	利用したことがある	今後利用したい
1 居宅介護（ホームヘルプ） （ヘルパーが家に来て、身の回りの手伝いをしてくれます。）		
2 その他訪問サービス（ヘルパーが外出先などで、危険な行動をとってしまったり、重度の肢体不自由の人などを支援してくれまします。）		
3 生活介護（デイサービス） （施設で、日中活動の支援を受けることができます。）		
4 就労移行支援事業所（会社に就職するための訓練を、受けることができます。仕事開始の相談にも、のってもらえます。）		
5 就労継続支援事業所（希望する仕事に就くための相談や調整などの支援を受けることができます。）（令和6年度からの新しいサービスです。）		
6 就労継続支援事業所A型（雇用型） （会社以外の場所で、支援を受けながら働くことができます。）		
7 就労継続支援事業所B型（非雇用型） （会社以外の場所で、支援を受けながら働くことができます。）		
8 就労定着支援（会社に就職した後に、会社で仕事を続けるための相談などがあります。）		
9 その他通所施設		
10 放課後等デイサービス・児童発達支援 （障がいのある子どもたちのためのサービスです。）		
11 グループホーム（障がいのある人たちが、アパートや家で一緒に暮らします。世話人や生活支援員から、日常生活の手伝いを受けることができます。）		
12 入所施設（日常生活の手伝いを受けながら、施設で暮らすことができます。）		
13 宿泊型自立訓練（独立してアパートなどで生活できるように訓練をする入所施設です。）		
14 地域移行支援など（長く入院している病院や入所している施設から出て地域で生活するための相談などがあります。）		

問18 次にあげた福祉サービスの中で、あなたが「利用したことがある」、「今後利用したい」

サービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

サービス名	利用したことがある	今後利用したい
1 日常生活用具の給付 （頭部保護帽、特殊マットなどの日常生活用具を給付します。）		
2 成年後見制度 （判断能力の不十分な成年者を支援します。）		
3 福祉サービス利用援助事業（地域で自立して生活できるように日常生活のお金の管理や介護サービスの紹介などを行います。）		

問19 あなたは知的障がい者入所施設からの地域移行（施設を退所して家やグループホームに住み、地域で生活することをいいます。）について、どう思いますか。

（1つだけ○印）

1 地域移行して、地域で生活したい（した方がよい）	
2 地域移行したくない（しない方がよい）	
3 どちらとも言えない	
4 その他（ ）	

問20 山形市内の知的障がい者グループホームの就及び定員数について、どう思いますか。

（それぞれ1つだけ○印）

【グループホームの数】	
1 ちょうどよい	
2 不足している（具体的に： ）	
3 その他（ ）	
【グループホームの定員数】	
1 ちょうどよい	
2 不足している（具体的に： ）	
3 その他（ ）	

問21 山形市内の知的障がい者通所事業所の数及び定員数について、どう思いますか。

(1つだけ○印)

【障がい者通所事業所の数】

- 1 ちょうど良い
- 2 不足している (具体的に:)
- 3 その他 ()

【障がい者通所事業所の定員数】

- 1 ちょうど良い
- 2 不足している (具体的に:)
- 3 その他 ()

【就労についてお聞きします。】

問22 あなたは現在、働いていますか。

(1つだけ○印)

1 働いている

2 働いていない

1は問23へ

2は問27へ

問23 問22で「1」を回答した方におたずねします。どのような形態で働いていますか。

(1つだけ○印)

- 1 正社員、正職員
- 2 パート・アルバイト
- 3 自営 (農業も含む)
- 4 内職
- 5 就業の手伝い
- 6 就労継続支援事業所A型 (雇用型)
- 7 就労継続支援事業所B型 (非雇用型)
- 8 その他 ()

問24 問22で「1」を回答した方におたずねします。通勤手段は主に何ですか。

(1つだけ○印)

- 1 自分の運転する車など
- 2 家族などの送迎
- 3 電車・バスなどの公共交通機関
- 4 徒歩・自転車
- 5 その他 ()

問25 問22で「1」を回答した方におたずねします。現在の仕事はどのようにして見つめましたか。

(1つだけ○印)

- 1 就労移行支援事業所
- 2 公共職業安定所 (ハローワーク)
- 3 山形障害者職業センター
- 4 学校の紹介
- 5 障害者就業・生活支援センター
- 6 職業訓練校の紹介
- 7 親戚や知人などの紹介
- 8 自分や家族で探した
- 9 病気になる前からの就労継続
- 10 その他 ()

問26 問22で「1」を回答した方におたずねします。あなたは仕事をすうえて不安や不満はあ

りませんか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 取入が少くない
- 2 作業内容が難しい・作業量が多い
- 3 作業内容がおもしろくない
- 4 休みがとれない・とりにくい
- 5 職場の人間関係に不満を感じていない
- 6 職場の設備が障がい者に配慮してない
- 7 通勤がたいへん
- 8 昇進や昇給が不平等である
- 9 障がいに対する配慮や意識が低い
- 10 病気になるまでわかってもらえない
- 11 リストラの不安がある
- 12 勤務時間が長く、体力的に負担が大きい
- 13 生活のリズムがくずれやすい
- 14 その他 ()
- 15 特になし

★問29へ

問27 問22で「2」を回答した方におたずねします。あなたが仕事をしたい理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 重度の障がいのため
- 2 病気のため (入院中を含む)
- 3 高齢のため
- 4 求人が少なく仕事が見つからない
- 5 家事をする、または手伝うため
- 6 障がいや病気に合った仕事がない
- 7 働く意欲がないため
- 8 就学している
- 9 通勤が難しい
- 10 面接をしても断られる
- 11 幼児・児童であるため
- 12 その他 ()

問28 問22で「2」を回答した方におたずねします。今後の活動や将来の進路について、

どのような希望がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 各業などでの一般就労
- 2 障がい者の雇用が多い事業所
- 3 職員などの支援を受けられる事業所
- 4 一般就労に向けた支援を受けられる施設
- 5 就労は難しいのでレクリエーションや創作活動などができている施設
- 6 身体機能の訓練ができて施設
- 7 自立に向けた訓練ができて施設
- 8 職業訓練校
- 9 大学や専門学校などへ進学
- 10 自分でできる仕事をしたい
- 11 就労などの希望はない
- 12 施設などへ入所
- 13 その他 ()
- 14 特になし・まだよくわからない

★すべての方におたずねします。

問29 あなたが働き続ける(または将来働く)には、どのようなことが特に必要だと思えますか。(3つまで○印)

- | | | | |
|---|------------------------------|----|----------------------------|
| 1 | 勤務時間や日数の短縮 | 9 | 会社や家族などの自分への理解 |
| 2 | 通勤が自分ができる | 10 | 少しずつ仕事に慣れていけるようステップを揃めること |
| 3 | 真実が嘘となった時に気軽に通院できる | 11 | 職場に仕事のアドバイスや配慮をしてくれる人がいること |
| 4 | 職場の建物や設備などを働いている人が使いやすいように整備 | 12 | 障がいや病気にに対する理解や配慮 |
| 5 | 自宅で仕事ができること | 13 | その他() |
| 6 | 給料・賞金が妥当である | 14 | 他にない・まだよくわからない |
| 7 | 自分に合った仕事である | | |
| 8 | 仕事をするための訓練 | | |

【バリアフリーに関することについてお聞きします。】

問30 あなたの外出回数はどのくらいですか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-------|---|-----------|
| 1 | ほぼ毎日 | 4 | 週1~3回 |
| 2 | 週3~4回 | 5 | 年に数回 |
| 3 | 週1~2回 | 6 | ほとんど外出しない |
- 1~5は問32へ
6は問31へ

問31 問30で「6」を回答した方におたずねします。あなたが外出しない主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|------------------|----|-----------------------|
| 1 | 外出する必要がある | 7 | 交通機関や道路・階段・トイレなどが使えない |
| 2 | 疲れるから | 8 | 経費がかかると感じる |
| 3 | 人目が気になる | 9 | コミュニケーションが難しい |
| 4 | 家族や他人に面倒をかける | 10 | その他() |
| 5 | 付き添いや介助者がいない | 11 | 特に理由はない |
| 6 | 障がいや病気が重く、外出が難しい | | |

★すべての方におたずねします。

問32 あなたが外出するうえで困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|----|---------------------|----|---------------------------|
| 1 | 点字ブロックが少ない | 11 | 電車・バスなどへの乗車が難しい |
| 2 | 音の出る信号機が少ない | 12 | 駅や道路、利用する施設などの案内表示がわかりにくい |
| 3 | 信号が早く変わってしまう | 13 | 買い物や外出先での食事が難しい |
| 4 | 道路に障がい物(放置自転車など)が多い | 14 | アナウンスが聞こえにくい |
| 5 | 道路・建物の段差が多い | 15 | コミュニケーションが難しい |
| 6 | 階段の上り下りが難しい | 16 | 行き添いや介助者の確保が難しい |
| 7 | 利用のできるトイレが少ない | 17 | 通りがかりに介助してくれる人が少ない |
| 8 | 駐車場がない | 18 | 人目が気になる |
| 9 | 駅やバス停・歩道にベンチが少ない | 19 | その他() |
| 10 | 手すりなどが少ない | 20 | 特に困ることはない |

【余暇活動についてお聞きします。】

問33 あなたはどのように余暇などを過ごしていますか。(3つまで○印)

- | | | | |
|---|----------------|----|--------------------|
| 1 | 家でくつろぐ | 6 | ドライブやスポーツをする |
| 2 | 趣味・学習活動などをやる | 7 | 地域活動やボランティア活動へ参加する |
| 3 | 近所を散歩する | 8 | 図書館・博物館・映画館などへ行く |
| 4 | 友人・知人と会う | 9 | その他() |
| 5 | 買物やデパートや店を見て歩く | 10 | 特に何もしていない |
- 1~9は問35へ
10は問34へ

問34 問33で「10」と回答した方におたずねします。あなたが特に何もしていない理由は何ですか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-------------|---|----------------|
| 1 | 時間的ゆとりがないから | 4 | 付き添いや介助者がいないため |
| 2 | 経済的ゆとりがないから | 5 | その他() |
| 3 | 精神が重い | 6 | 何をしたらよいかわからない |

★すべての方におたずねします。

問35 障がいの芸術文化活動あるいはスポーツ活動に参加してみたいですか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-----------|---|-------|
| 1 | すでに参加している | 3 | 興味がない |
| 2 | 参加してみたい | | |

【権利擁護についてお聞きします。】

問 36 あなたは、平成29年4月より施行された「山形市障がい者理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。 (1つだけ○印)

- 1 知っている
- 2 知らない

問 37 あなたは、日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じることがありますか。 (1つだけ○印)

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

1は問36へ ← 2、3は問41へ →

問 38 問37で「1」を回答した方におたずねします。どのようなところに、障がい者に対する差別・偏見または疎外感をもっとも強く感じますか。 (3つまで○印)

- 1 教育の機会
- 2 仕事や収入
- 3 人の視線
- 4 地域行事・地域活動
- 5 隣近所の付き合い
- 6 居などでの対応の態度
- 7 福祉関係従事者の対応
- 8 公共交通機関 (タクシーを含む) の利用
- 9 その他 ()

問 39 問37で「1」を回答した方におたずねします。差別をされたり、いやな思いをしたときに誰に相談しましたか。 (あてはまるものすべてに○印)

- 1 家族
- 2 友人・知人
- 3 民生委員児童委員・福祉協 員
- 4 市の福祉関係職の窓口
- 5 山形市消費生活センター
- 6 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー
- 7 福祉サービス事業所
- 8 保育園・幼稚園・学校の先生
- 9 職場の上司や先輩
- 10 障がい者団体のメンバー
- 11 山形市指定相談支援事業所
- 12 成年後見人など
- 13 県の児童相談所・更生相談所の窓口
- 14 ホームヘルパー
- 15 手話通訳者・ガイドヘルパーなど
- 16 身体障がい者相談員・知覚障がい者相談員
- 17 ケアマネージャー
- 18 警察の相談窓口
- 19 弁護士・法務局
- 20 その他 ()
- 21 相談しなかった

1～20は問41へ → 21は問40へ ←

問 40 問39で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。

- 1 相談する相手がいなかった
- 2 どこに相談すればよいかわからなかった
- 3 相談しても解決しないと思った
- 4 その他 ()

★すべての方におたずねします。

問 41 あなたにとって差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れている必要があると思うものは何ですか。 (3つまで○印)

- 1 子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす
- 2 福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす
- 3 福祉インフォメーションの充実
- 4 障がい者病室への正しい理解の普及
- 5 支援ボランティアの育成を進める
- 6 公共施設などの改善・整備を進める
- 7 障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める
- 8 障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする
- 9 手話通訳者・要約筆記者の派遣の充実
- 10 道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくなる
- 11 その他 ()
- 12 解らない

【相談・情報についてお聞きします。】

問 42 あなたが福祉サービスの利用について相談する相手をお教えください。

- 1 家族
- 2 友人・知人
- 3 民生委員児童委員・福祉協 員
- 4 市の福祉関係職の窓口
- 5 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー
- 6 保健所の窓口
- 7 福祉サービス事業所の職員
- 8 保育園・幼稚園・学校の先生
- 9 職場の上司や同僚
- 10 障がい者団体のメンバー
- 11 山形市指定相談支援事業所の職員
- 12 成年後見人など
- 13 県の児童相談所・更生相談所の窓口
- 14 ホームヘルパー
- 15 手話通訳者・ガイドヘルパーなど
- 16 身体障がい者相談員・知覚障がい者相談員
- 17 ケアマネージャー
- 18 その他 ()
- 19 相談できる機関や人はいない

問 43 相談機能を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(3つまで○印)

1 身近な場所	7 たらい回しにされない
2 プライバシーの配慮	8 相談賞の設置向上
3 適切なアドバイザーができる人材	9 一か所で用事が済む相談窓口を設置する
4 電話やFAX、Eメールなどによりいつでも相談できること	10 市や県、民間相談機関の連携
5 素早い対応をしてくれる	11 福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実
6 わかりやすい情報の提供	12 その他 ()

問 44 あなたは、福祉サービスの内容について、どのようなもので知ることが多いですか。

(2つまで○印)

1 市の広報・資料	9 インターネット
2 県の広報・資料	10 テレビ
3 市への問い合わせ	11 新聞や雑誌
4 県への問い合わせ	12 障がい者の施設や団体の機関紙・パンフレット
5 医療機関	13 家族や仲間の話
6 福祉サービス事業所	14 その他 ()
7 山形市指定相談支援事業所	15 知る手段がない
8 保育園・幼稚園・学校	

問 45 あなたは、今後(将来)どのように生活したい(させたい)ですか。(1つだけ○印)

1 自宅で家族と暮らしたい	4 施設に入所したい(または現在の施設に入所し続けたい)
2 自立して暮らしたい(家族と別居)	5 その他 ()
3 グループホームなどの共同生活	6 特に考えていない

2、3は問46へ → 1、5、6は問48へ
4は問47へ

問 46 問45で「2」または「3」を回答した方におたずねします。独立にあたり、どのようなことが必要ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保	5 ボランティアなど支援者の確保
2 地域との関わり	6 障がいの状態にあった住宅の確保
3 日中活動の場	7 うまくいかなかったときのこと
4 収入の安定	8 その他 ()
	9 特に必要はない

問 47 問45で「3」または「4」を回答した方におたずねします。グループホームなどへの入居または施設への入所はいつ頃までに行きたいと考えていますか。

(1つだけ○印)

1 今すぐ	4 6～10年後
2 1～2年後	5 11年以上後
3 3～5年後	6 その他 ()

★すべての方におたずねします。

問 48 あなたは、悪質商法などの被害にあったことがありますか。(1つだけ○印)

1 ある	2 ない
------	------

1は問49へ → 2は問51へ

問 49 問 48 で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰（どこ）へ相談しましたか。
 （あてはまるものすべてに○印）

1 家族	11 山形市指定相談支援事業所
2 友人・知人	12 成年後見人など
3 民生委員児童委員・福祉協力員	13 県の相談所・更生相談所の窓口
4 市の福祉関係課の窓口	14 ホームヘルパー
5 山形市消費生活センター	15 手話通訳者・ガイドヘルパーなど
6 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー	16 身体障がい者相談員・知的障がい者相談員
7 福祉サービス事業所	17 ケアマネージャー
8 保育園・幼稚園・学校の先生	18 警察の相談窓口
9 職場の上司や先輩	19 弁護士、司法書士
10 障がい者団体のメンバー	20 その他（ ）
	21 相談しなかった

1～20 は問 51 へ ← → 21 は問 50 へ

問 50 問 49 で「2」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何か。
 （1つだけ○印）

1 相談する相手がいなかった	3 相談しても解決しないと思った
2 どこに相談すればよいか分からなかった	4 その他（ ）

★すべての方におたずねします。
 問 51 あなたは今後の生活に対してどのような不安がありますか。
 （あてはまるものすべてに○印）

1 身体のこと（医療や健康）	7 就職・仕事
2 生活費（経済的負担）	8 周囲の理解
3 住宅・生活の場所	9 介助者が介助できなくなった場合の対応
4 介助してくれる人（日常の介助）	10 その他（ ）
5 結婚・育児	11 特になし
6 進学・学校生活	

問 52 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れたいか必要があると選べますか。
 （3つまで○印）

1 在宅生活において、介助がいつでも受けられる	10 快適で安全なまちづくり
2 通所施設の整備	11 旅行や遊びのための外出が気軽に出来ること
3 学校や職先が選べる	12 障がいや病氣について周囲の人の理解
4 安心して住めるところがある	13 地域での交流の機会
5 入所施設の整備	14 積累の公平な伝達
6 経済面での支援が受けられる	15 契約行為や財産など権利が守られること
7 相談体制	16 災害時の避難支援
8 早期発見や予防につながる機会の確保	17 その他（ ）
9 健康管理や治療・リハビリ	18 特になし

【災害時の対応についてお聞きます。】

問 53 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは一人で避難できますか。
 （1つだけ○印）

1 できる	2 できない
-------	--------

1 は問 55 へ ← → 2 は問 54 へ

問 54 問 53 で「2」を回答した方におたずねします。災害のときに一人で避難できない理由は何ですか。
 （1つだけ○印）

1 一人で移動することができない	3 どこに避難すればよいか分からない
2 一人で判断することができない	4 その他（ ）

★すべての方におたずねします。

問 55 あなたはお住まいの地区の避難場所を知っていますか。（1つだけ○印）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 56 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは周囲の人に知らせることができますか。
 （1つだけ○印）

1 できる	2 できない
-------	--------

問 62 山形市の障がい者施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由に記入ください。

ご協力ありがとうございました。

問 57 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、ご近所にあなたを助けてくれる方はいますか。

(1つだけ○印)

1 いる	2 いない
------	-------

問 58 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは家族のほか誰に助けてもらいたいですか。

(1つだけ○印)

1 近所の人	4 福祉サービス事業所の職員	
2 友人・知人	5 市役所など行政機関の職員	
3 民生委員児童委員・福祉協会員	6 その他 ()	

問 59 「山形市避難行動支援制度」を知っていますか。(1つだけ○印)

1 知っているし、登録もしている	3 知らない
2 知っているが、登録はしていない	

・山形市避難行動支援制度とは
 災害がおきた時に助けが必要な人に対して、地域の人々が協力し、避難することを支援する制度です。利用するためには、登録が必要です。

問 60 災害時に避難支援を受けるために必要であれば、あなたの個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供することに同意できますか。(この回答では、個人情報の提供に同意したことにはなりません。)

(1つだけ○印)

1 同意できる	3 その他 ()
2 同意できない	

2は問61へ ←----- 1、3は問62へ →

問 61 問60で「2」を回答した方におたずねします。同意できない理由は何ですか。

(1つだけ○印)

1 個人情報などが他へ流出する恐れがあるから	2 障がいがあることを知られたいくないから	3 その他 ()
------------------------	-----------------------	-----------

(3)「精神障がい」調査票

山形市障がい福祉アンケート
調査票

この調査票は、精神障がい者保健福祉手帳を持っている方を対象としております。
アンケートにはご本人が記入をお願いします。ただし、ご本人がお子様の場合、記入できない場合は、保護者の方やご家族、成年後見人などの代理の方が、ご本人の意向を十分踏まえて、ご記入願います。なお、相談支援や障がい福祉サービス等をご利用の方は、利用事業所の職員の方に、ご本人の意向を確認することを手伝っていただくことができますので、事業所にご相談ください。

《記入方法について》
※質問ごとに、該当する番号を○で囲んでください。
※番号を選ぶ時は、選ぶ数を質問の後に()で指定していますので、その範囲内でお答えください。
※回答で〔その他〕を選んだときは、その内容を()に具体的に記入してください。

お問い合わせ先

山形市福祉推進部 障がい福祉課 障がい福祉第二係
電話 023-641-1212 内線580
FAX 023-632-7091

基本情報

以下、すべての項目をご記入ください。
(該当する番号または語句を○で囲んでください。)

記入者	1 本人 2 代理
ご本人の性別	1 男性 2 女性 3 その他
ご本人の年齢	才 (令和5年7月1日現在の年齢をご記入ください。)
障がい種別	精神障がい
	【部 位】 1 視覚 2 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく 3 肢体不自由 4 内部(心臓・腎臓など) 5 手帳なし 【等 級】 1級 2級 3級 4級 5級 6級
参 考	知的障がい
	介護保険のサービス利用
参 考	障がい支援区分の認定

《「障がい」の表記について》

本アンケート調査においては、「障害」を「障がい」と表記します。
ただし法令名などについては、除きます。

【生活の状況についてお聞きします。】

- 問1 あなたは現在どこで暮らしていますか。(1つだけ○印)
- | | |
|-----------------|----------|
| 1 自宅(アパートなどを含む) | 4 病院に入院 |
| 2 福祉ホームやグループホーム | 5 その他() |
| 3 福祉施設に入院 | |
- 問2 あなたの家族構成をお答えください。(1つだけ○印)
- | | |
|--------------|----------------|
| 1 一人暮らし | 4 自分と兄弟姉妹 |
| 2 夫婦二人暮らし | 5 三世代世帯(親・子・孫) |
| 3 二世代世帯(親・子) | 6 その他() |
- 問3 あなたは指定難病(※1)の認定を受けていますか。(1つだけ○印)
- ※1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。
- | | |
|---------|----------|
| 1 受けている | 2 受けていない |
|---------|----------|
- 問4 あなたは発達障がい(※2)として診断されたことがありますか。(1つだけ○印)
- ※2 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。
- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|
- 問5 あなたは強度行動障がい(※3)があると言われたことはありますか。(1つだけ○印)
- ※3 自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要にならざるを得ない状態のことをいいます。障がい福祉サービス等を利用し重度障がい者支援加算の対象となっている方、障がい福祉サービスの行動援護を利用している方、医師や療育機関から指摘を受けた方は「1」を選択してください。
- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問6 あなたは高次脳機能障がい（※4）として診断されたことはありませんか。
（1つだけ○印）

※4 一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がい、失語などの認知障がい等を指すものとされており、具体的には「会話が上手くかみ合わない」等の症状があります。

1	ある
2	ない

1は問7へ
2は問8へ

問7 問6で「1」を回答した方におたずねします。その関連障がいは何ですか。

（あてはまるものすべてに○印）

1	視覚障がい	5	肢体不自由（下肢）
2	聴覚障がい	6	肢体不自由（体幹）
3	音声、言語、そしゃく機能障がい	7	内部障がい（1～6以外）
4	肢体不自由（上肢）		

問8 あなたは現在医療的ケアを受けていますか。（1つだけ○印）

1	受けている
2	受けていない

1は問9へ
2は問10へ

問9 問8で「1」を回答した方におたずねします。受けている医療的ケアは何ですか。

（あてはまるものすべてに○印）

1	気管切開	7	中心静脈栄養（IVH）
2	人工呼吸器（レスピレーター）	8	透析
3	吸入	9	カテーテル留置
4	吸引	10	ストマ（人工肛門、人工膀胱）
5	胃ろう、腸ろう	11	服薬管理
6	鼻腔経管栄養	12	その他（ ）

問10 あなたの月収は（年金、福祉手当、生活保護や仕送りも含む）どのくらいですか。税や社会保険料等の控除前の額をお答えください。（1つだけ○印）

1	1万円未満	6	なし
2	1万円～5万円未満	7	わからない
3	5万円～10万円未満		
4	10万円～20万円未満		
5	20万円以上		

1～5は問11へ
6、7は問12へ

問11 問10で「1～5」を回答した方におたずねします。あなたの主な収入源はどれですか。

（あてはまるものすべてに○印）

1	本人の就労収入（工賃を含む）	5	福祉手当（障がい者手当など）
2	財産収入（利子や配当金、家賃収入）	6	生活保護の受給
3	障がい年金（国民・厚生・共済など）	7	家族、親族からの援助
4	障がい年金以外の公的年金（遺族年金など）（国民・厚生・共済など）	8	その他（ ）

【障がいの状況についてお聞きします。】

問12 現在の精神科・神経科などへの入院・通院の状況をお答えください。（1つだけ○印）

1	通院している	2	入院している	3	通院も入院もしていない
---	--------	---	--------	---	-------------

1は問13へ
2は問14へ
3は問15へ

問13 問12で「1」を回答した方におたずねします。あなたの通院の頻度はどのくらいですか。

（1つだけ○印）

1	週3回以上	4	月1回程度
2	週1～2回程度	5	2か月～5か月に1回程度
3	2～3週間に1回程度	6	半年に1回またはそれ以下

問 14 問 12 で「2」を回答した方におたずねします。どんな条件が整えば退院できると思
いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 病気が良くなること | 6 退院後に働く場があること |
| 2 退院後に住む場所があること | 7 退院後に集う場所があること |
| 3 家族の受け入れ準備が整うこと | 8 退院したくない |
| 4 自立するための資金や収入があること | 9 その他 () |
| 5 退院後の生活の支援をもらえること | |

★すべての方におたずねします。

問 15 初めに病院に通院してから、病氣(精神障がい)を自分で受け入れられるまで、どの
くらいの期間がかりましたか。(1つだけ○印)

- | | |
|------------|--------------|
| 1 初診からまもなく | 5 10年以内 |
| 2 1年以内 | 6 10年以上 |
| 3 2年以内 | 7 まだ受け入れられない |
| 4 5年以内 | |

【日常生活についてお聞きします。】

問 16 普段の生活の中で困っていることはありませんか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 健康 | 6 収入 |
| 2 仕事 | 7 人とのコミュニケーション、情報入手 |
| 3 連絡(保育園・幼稚園・学校) | 8 外出 |
| 4 住まい | 9 その他 () |
| 5 身の回りのこと(食事・入浴など) | 10 困っていることはない |

問 17 あなたはヘルプカードを知っていますか。

(1つだけ○印)



- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 18 日常生活で少しでも介助や支援が必要なことがありますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 食事介助 | 8 通院 |
| 2 食事づくり | 9 通学 |
| 3 日用品の買い物 | 10 通勤・通所 |
| 4 掃除・片付け | 11 人とのコミュニケーション |
| 5 洗濯 | 12 見守りなど生活全般の支援 |
| 6 お金の管理 | 13 その他 () |
| 7 電話の対応 | 14 ない |

1～13は問19へ → 14は問21へ

問 19 問 18 で「1～13」を回答した方におたずねします。あなたを介助している方(介
助者)はどなたですか。(主な介助者に1つだけ○印)

- | | |
|------------|----------------|
| 1 父 | 7 孫 |
| 2 母 | 8 近隣の人、知人、友人 |
| 3 配偶者 | 9 ホームヘルパー・施設職員 |
| 4 子(子の配偶者) | 10 ボランティア |
| 5 兄弟姉妹 | 11 その他 () |
| 6 祖父母 | |

1～8は問20へ → 9～11は問21へ

問 20 問 19 で「1～8」を回答した方におたずねします。主な介助者の健康状態はいかがですか。

(1つだけ○印)

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 良好 | 4 具合が悪く病気の治療中である |
| 2 普通 | 5 高齢で健康状態に不安がある |
| 3 病気がちである | |

【福祉サービスについてお聞きします。】

問 21 次にあげた障がい者、障がい児の福祉サービスの中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」「今後利用しない」ものほどれですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

サービス名	知っている	利用したことがある	今後利用したい
1 居宅介護 (ホームヘルプ)			
2 重度訪問介護			
3 同行支援			
4 行動支援			
5 短期入所 (ショートステイ)			
6 療養介護			
7 施設入所			
8 生活介護 (デイサービス)			
9 自立訓練 (機能訓練・生活訓練)			
10 就労移行支援			
11 就労選択支援【令和6年度からの事業です】			
12 就労継続支援A型 (雇用型)			
13 就労継続支援B型 (非雇用型)			
14 就労定着支援			
15 自立生活援助			
16 共同生活援助 (グループホーム)			
17 地域移行支援			
18 地域定着支援			
19 放課後等デイサービス			
20 児童発達支援			

問 22 次にあげた福祉制度の中で、あなたが「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ものほどれですか。
 (あてはまるものすべてに○印)

制度名	知っている	利用したことがある	今後利用したい
1 家族教室			
2 成年後見制度			
3 訪問看護			
4 デイケア			
5 ハローワークでの職業相談			
6 就労支援促進事業 (ジョブコーチ)			
7 福祉タクシー券・給油券の交付			
8 自立支援医療 (精神通院) の給付			
9 交通料金の割引			
10 NHK受信料の減免			
11 税金の障がい者控除			
12 自動車税の減免			
13 福祉サービス利用補助事業 (日常的な金銭管理の援助など)			

問 23 あなたは障がい者入所施設、長期入院先の病院からの地域移行 (施設を退所、病院を退院して家やグループホームに住み、地域で生活することをいいます。) について、どう思われますか。(1つだけ○印)

- 1 地域移行して、地域で生活したい (した方がよい)
- 2 地域移行したくない (しない方がよい)
- 3 どちらとも言えない
- 4 その他 ()

問 24 山形市内の精神障がい者グループホームの数及び定員数について、どう思いますか。
(それぞれ1つだけ○印)

【グループホームの数】	
1	ちよほど良い
2	不足している (具体的に:)
3	その他 ()
【グループホームの定員数】	
1	ちよほど良い
2	不足している (具体的に:)
3	その他 ()

問 25 山形市内の精神障がい福祉サービス通所事業所の数及び定員数について、どう思いますか。(1つだけ○印)

【障がい者通所事業所の数】	
1	ちよほど良い
2	不足している (具体的に:)
3	その他 ()
【障がい者通所事業所の定員数】	
1	ちよほど良い
2	不足している (具体的に:)
3	その他 ()

【就労についてお聞きます。】

問 26 あなたは現在、働いていますか。(1つだけ○印)

1	働いている
2	働いていない

1は問27へ → 2は問31へ

問 27 問 26 で「1」を回答した方におたずねします。どのような形態で働いていますか。(1つだけ○印)

1	正社員、正職員
2	臨時・日雇い・パート・嘱託・アルバイト
3	自営 (農業も含む)
4	内職
5	家業の手伝い
6	就労継続支援事業所A型 (雇用型)
7	就労継続支援事業所B型 (非雇用型)
8	その他 ()

問 28 問 26 で「1」を回答した方におたずねします。通勤手段は主に何ですか。(1つだけ○印)

1	自分の運転する車など
2	家族などの送迎
3	電車・バスなどの公共交通機関
4	徒歩・自転車
5	その他 ()

問 29 問 26 で「1」を回答した方におたずねします。現在の仕事はどのようなものにして戻りましたか。(1つだけ○印)

1	就労移行支援事業所
2	公共職業安定所 (ハローワーク)
3	山形障害者職業センター
4	学校の紹介
5	障害者就業・生活支援センター
6	職業訓練校の紹介
7	親戚や知人などの紹介
8	自分や家族で探した
9	病気になる前からの就労継続
10	その他 ()

問 30 問 26 で「1」を回答した方におたずねします。あなたは仕事をするうえで不安や不満はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1	収入が少ない
2	作業内容が難しい・作業量が多い
3	作業内容がおもしろくない
4	休みがとれない・とりにくい
5	職場の人間関係にどこかめない
6	職場の設備が障がい者に配慮されていない
7	通勤に支障がある
8	昇進や昇給が不平等である
9	障がいに対する配慮や意欲が低い
10	病気についての理解が得られない
11	リストラの不安がある
12	勤務時間が長く、体力的に負担が大きい
13	病気で生活のリズムがくずれやすい
14	その他 ()
15	特になし

★問 33 へ

問 31 問 26 で「2」を回答した方におたずねします。あなたが仕事をしていない理由は何か。(あてはまるものすべてに○印)

1	重度の障がいのため
2	病気のため (入院中を含む)
3	高齢のため
4	求人が少なく仕事が見つからない
5	家事をする、または手伝うため
6	障がいや病気に合った仕事がない
7	働く意欲がないため
8	就学している
9	通勤が困難
10	面接をしても断られる
11	幼児・児童であるため
12	その他 ()

問32 問26で「2」を回答した方におたずねします。今後の活動や将来の進路について、どのような希望がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|-------------------------------|----|----------------|
| 1 | 企業などでの一般就労 | 8 | 職業訓練校 |
| 2 | 障がいの多い事業所 | 9 | 大学や専門学校などへ進学 |
| 3 | 職員などの支援を受けられる事業所 | 10 | 自宅ですべての仕事をしたい |
| 4 | 一般就労に向けた支援を受けられる施設 | 11 | 就労などの希望はない |
| 5 | 就労は難しいのでレクリエーションや創作活動などの行える施設 | 12 | 施設などへ入所 |
| 6 | 身体機能の訓練ができる施設 | 13 | その他() |
| 7 | 自立に向けた訓練ができる施設 | 14 | 特にない・またよくわからない |

★すべての方におたずねします。

問33 あなたが働き続ける(または将来働く)には、どのようなことが特に必要だと思いますか。(3つまで○印)

- | | | | |
|---|----------------------------|----|----------------------------|
| 1 | 勤務時間や日数の短縮 | 9 | 会社や家族などの自分への理解 |
| 2 | 通勤が自分のできる | 10 | 徐々に仕事に慣れていけるようステップを踏めること |
| 3 | 具合が悪くなった時に気軽に通院できる | 11 | 職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること |
| 4 | 職場の建物や設備などを障がい者に配慮した環境への整備 | 12 | 障がいや病気に対する理解や配慮 |
| 5 | 自宅の仕事ができること | 13 | その他() |
| 6 | 給料・賃金が妥当である | 14 | 特にない・またよくわからない |
| 7 | 自分に合った仕事である | | |
| 8 | 職業訓練などで就労のための知識・技術習得 | | |

【バリアフリーに関することについてお聞きします。】

問34 あなたの外出頻度はどの位ですか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-------|---|-----------|
| 1 | ほぼ毎日 | 4 | 月1～3回 |
| 2 | 週3～4回 | 5 | 年に数回 |
| 3 | 週1～2回 | 6 | ほとんど外出しない |

1～5は問36へ

6は問35へ

問35 問34で「6」を回答した方におたずねします。あなたが外出しない主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|------------------|----|------------------------|
| 1 | 外出する必要がない | 7 | 交通機関や道路・階段・トイレなどが使いづかい |
| 2 | 疲れるから | 8 | 経費がかかる |
| 3 | 人目が気になる | 9 | コミュニケーションが難しい |
| 4 | 家族や他人に面倒をかける | 10 | その他() |
| 5 | 付き添いや介助者がいない | 11 | 特に理由はない |
| 6 | 障がいや疾病が重く、外出が難しい | | |

★すべての方におたずねします。

問36 あなたが外出するうえで困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|---------------------|----|--------------------|
| 1 | 点字ブロックが少ない | 10 | 電車・バスなどへの乗車が難しい |
| 2 | 音の出る信号機が少ない | 11 | 買い物や外出先での食事が難しい |
| 3 | 道路に障がい物(放置自転車など)が多い | 12 | アナウンスが聞こえにくい |
| 4 | 道路・建物の段差が多い | 13 | コミュニケーションが難しい |
| 5 | 階段の上り下りが難しい | 14 | 付き添いや介助者の確保が難しい |
| 6 | 利用できるトイレが少ない | 15 | 通りがかりに介助してくれる人が少ない |
| 7 | 駐車場が少ない | 16 | 人目が気になる |
| 8 | 駅やバス停・歩道にベンチが少ない | 17 | その他() |
| 9 | 手すり・スロープ・自動ドアなどが少ない | 18 | 特に困ることはない |

【余暇活動についてお聞きします。】

問37 あなたはどのように余暇などを過ごしていますか。(3つまで○印)

- | | | | |
|---|----------------|----|--------------------|
| 1 | 家でくつろぐ | 6 | ドライブやスポーツをする |
| 2 | 趣味・学習活動などをする | 7 | 地域活動やボランティア活動へ参加する |
| 3 | 近所を散歩する | 8 | 図書館・博物館・映画館などへ行く |
| 4 | 友人・知人と会う | 9 | その他() |
| 5 | 買物やデパートや店を見て歩く | 10 | 特に何もしていいくない |

1～9は問39へ

10は問38へ

問38 問37で「0」と回答した方におたずねします。あなたが特に何もしていいくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|-------------|---|----------------|
| 1 | 時間的ゆとりがないから | 4 | 行添いや介助者がいないため |
| 2 | 経済的ゆとりがないから | 5 | その他() |
| 3 | 病状が重いため | 6 | 何をしたらよいかかわからない |

問 43 問 41 で「1」を回答した方におたずねします。差別をされたり、いやな思いをしたときに誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 家族 | 11 山形市指定相談支援事業所 |
| 2 友人、知人 | 12 成年後見人など |
| 3 民生委員児童委員・福祉協力員 | 13 県の相談所・更生相談所の窓口 |
| 4 市の福祉関係課の窓口 | 14 ホームヘルパー |
| 5 山形市消費生活センター | 15 手話通訳者・ガイドヘルパーなど |
| 6 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー | 16 身体障がい者相談員・知的障がい者相談員 |
| 7 福祉サービス事業所 | 17 ケアマネージャー |
| 8 保育園・幼稚園・学校の先生 | 18 警察の相談窓口 |
| 9 職場の上司や先輩 | 19 弁護士・法務局 |
| 10 障がい者団体のメンバー | 20 その他() |
| | 21 相談しなかった |

1～20は問 45へ → ← 21は問 44へ

問 44 問 43 で「2」を回答した方におたずねします。なぜ相談しなかったのか理由を選んでください。(1つだけ○印)

1 相談する相手がいなかった	3 相談しても解決しなかった
2 どこに相談すればよいかわからなかった	4 その他()

★すべての方におたずねします。

問 45 あなたにとって差別・偏見や疎外感をなくすために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。(3つまで○印)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------|
| 1 子供のときから、学校などで障がい児とのふれあいや助け合いの機会を増やす | 7 障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める |
| 2 福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす | 8 障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする |
| 3 情報提供の充実 | 9 地域に気軽に相談できるサポートセンター |
| 4 障がいや病気への正しい理解の啓発 | 10 具合が悪くなったときすぐいける病院など |
| 5 支援ボランティアの育成を進める | 11 その他() |
| 6 公共施設などの改善・整備を進める | 12 特になし |

★すべての方におたずねします。

問 39 障がい者の芸術文化活動あるいはスポーツ活動に参加してみたいですか。

- | | |
|-------------|---------|
| 1 すでに参加している | 3 興味がない |
| 2 参加してみたい | |

【権利擁護についてお聞きします。】

問 40 あなたは、平成 29 年 4 月より施行された「山形市障がい者理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。(1つだけ○印)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 41 あなたは、日常生活や地域で、障がい者に対する差別・偏見や疎外感を感じることがありますか。(1つだけ○印)

- | | | |
|------|------|---------|
| 1 ある | 2 ない | 3 わからない |
|------|------|---------|

1は問 42へ → ← 2、3は問 45へ

問 42 障がい者に対する差別・偏見または疎外感を感じますか。(3つまで○印)

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1 教育の機会 | 6 店などでの対応の態度 |
| 2 仕事や収入 | 7 福祉関係従事者の対応 |
| 3 人の視線 | 8 公共交通機関(タクシーを含む)の利用 |
| 4 地域行事・地域活動 | 9 住宅の賃借(住宅を借りる時の手続) |
| 5 隣近所の付き合い | 10 その他() |

【相談・情報についてお聞きします。】

問 46 あなたが福祉サービスの利用について相談する相手を教えてください。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|----|---------------------|----|------------------|
| 1 | 家族 | 11 | 山形市指定相談支援事業所の職員 |
| 2 | 友人・知人 | 12 | 成年後見人など |
| 3 | 民生委員見守り員・福祉協力員 | 13 | 県の児童相談所・更生相談所の窓口 |
| 4 | 市の福祉関係課の窓口 | 14 | ホームヘルパー |
| 5 | 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー | 15 | 精神保健福祉センター |
| 6 | 保健所の窓口 | 16 | いのちの電話 |
| 7 | 福祉サービス事業所の職員 | 17 | ケアマネージャー |
| 8 | 保育所・幼稚園・学校の先生 | 18 | その他() |
| 9 | 職場の上司や同僚 | 19 | 相談できる機関や人はいらない |
| 10 | 障がい者団体のメンバー | | |

問 47 相談機能を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(3つまで○印)

- | | | | |
|---|-----------------------------|----|--------------------------|
| 1 | 身近な場所で相談できること | 7 | たらい回しにされない |
| 2 | プライバシーの配慮 | 8 | 相談員の資質向上 |
| 3 | 適切なアドバイスができる人材 | 9 | 一か所で用事が済む相談窓口を設置する |
| 4 | 電話やFAX、Eメールなどによりいつでも相談できること | 10 | 市や県、民間相談機関の連携 |
| 5 | 素早い対応をしてくれる | 11 | 福祉・教育・就労などの一貫した相談支援体制を充実 |
| 6 | わかりやすい情報の提供 | 12 | その他() |

問 48 あなたは、福祉サービスの内容について、どのようなもので知ることが多いですか。

(2つまで○印)

- | | | | |
|---|--------------|----|-----------------------|
| 1 | 市の広報・資料 | 9 | インターネット |
| 2 | 県の広報・資料 | 10 | テレビ |
| 3 | 市への問い合わせ | 11 | 新聞や雑誌 |
| 4 | 県への問い合わせ | 12 | 障がい者の施設や団体の機関紙・パンフレット |
| 5 | 福祉サービス事業所 | 13 | 家族や仲間の話 |
| 6 | 山形市指定相談支援事業所 | 14 | その他() |
| 7 | 医療機関 | 15 | 知る手段がない |
| 8 | 保育園・幼稚園・学校 | | |

問 49 あなたは、今後(将来)どのように生活したい(させたい)ですか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------------------------------|
| 1 | 自宅で家族と暮らしたい | 4 | 施設に入所したい
(または現在の施設に入所し続けたい) |
| 2 | 自立して暮らしたい(家族と別居) | 5 | その他() |
| 3 | 世話人の援助を受けながら、地域で仲間と生活したい(グループホーム) | 6 | 特に考えていない、まだよくわからない |



問 50 問49で「2」または「3」を回答した方におたずねします。独立にあたり、どのようなことが不安ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------|
| 1 | ホームヘルパーなど在宅福祉サービスの確保 | 5 | ボランティアなど支援者の確保 |
| 2 | 地域との関わり | 6 | 障がいの状態に合った住宅の確保 |
| 3 | 日中活動の場 | 7 | 独立がうまくいかなかったとき |
| 4 | 収入の安定 | 8 | その他() |
| | | 9 | 特に不安はない |

問 51 問49で「3」または「4」を回答した方におたずねします。グループホームなどへの入居または施設への入所はいつ頃までにしたいと考えていますか。

(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|-------|---|--------|
| 1 | 今すぐ | 4 | 6～10年後 |
| 2 | 1～2年後 | 5 | 11年以上後 |
| 3 | 3～5年後 | 6 | その他() |

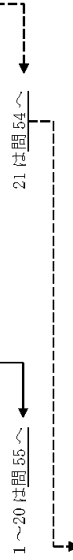
★すべての方におたずねします。

問 52 あなたは、悪質商法などの被害にあったことがありますか。(1つだけ○印)

- | | | | |
|---|----|---|----|
| 1 | ある | 2 | ない |
|---|----|---|----|
- 1は問53へ ←
- 2は問55へ →

問53 問52で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰（どこ）へ相談しましたか。
 （あてはまるものすべてに○印）

- | | |
|----|---------------------|
| 1 | 家族 |
| 2 | 友人・知人 |
| 3 | 民生委員児童委員・福祉協力員 |
| 4 | 市の福祉関係課の窓口 |
| 5 | 山形市消費生活センター |
| 6 | 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー |
| 7 | 福祉サービス事業所 |
| 8 | 保育園・幼稚園・学校の先生 |
| 9 | 職場の上司や先輩 |
| 10 | 障がい者団体のメンバー |
| 11 | 山形市指定相談支援事業所 |
| 12 | 成年後見人など |
| 13 | 県の相談所・更生相談所の窓口 |
| 14 | ホームヘルパー |
| 15 | 手話通訳者・ガイドヘルパーなど |
| 16 | 身体障がい者相談員・知的障がい者相談員 |
| 17 | ケアマネージャー |
| 18 | 警察の相談窓口 |
| 19 | 弁護士、司法書士 |
| 20 | その他（ ） |
| 21 | 相談しなかった |



問54 問53で「21」を回答した方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。
 （1つだけ○印）

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 相談する相手がいなかった |
| 2 | どこに相談すればよいかわからなかった |
| 3 | 相談しても解決しなかった |
| 4 | その他（ ） |

★すべての方におたずねします。

問55 あなたは今後の生活に対してどのような不安がありますか。
 （あてはまるものすべてに○印）

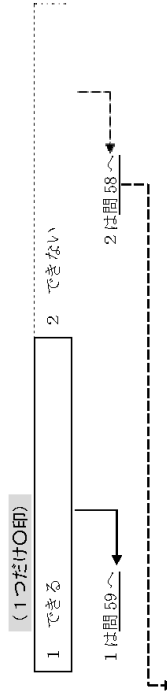
- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 身体のこと（医療や健康） |
| 2 | 生活費（経済的負担） |
| 3 | 住宅・生活の場所 |
| 4 | 介助してくれる人（日常の介助） |
| 5 | 結婚・育児 |
| 6 | 進学・学校生活 |
| 7 | 就職・仕事 |
| 8 | 周囲の理解 |
| 9 | 介助者が介助できなくなった場合の対応 |
| 10 | 生活全般を見守ってくれる人がいるかどうか不安 |
| 11 | 敬しくて誰かと話したいとき聞いてくれる人がいるかどうか不安 |
| 12 | 不安や、困ったことを直ぐに相談できる人がいないこと |
| 13 | その他（ ） |
| 14 | 特に不安はない |

問56 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があるかと思われませんか。（3つまで○印）

- | | |
|----|------------------------|
| 1 | 在宅生活において、介助がいつでも受けられる |
| 2 | 通所施設の整備 |
| 3 | 学校や就職先が選べる |
| 4 | 安心して住めるところがある |
| 5 | 入所施設の整備 |
| 6 | 経済面での支援を受けられる |
| 7 | 相談体制 |
| 8 | 早期発見や予防につながる機会の確保 |
| 9 | 健康管理や治療・リハビリ |
| 10 | 快適で安全なまちづくり |
| 11 | 旅行や遊びのための外出が気がねなく出来ること |
| 12 | 障がいや病気について周囲の人の理解 |
| 13 | 地域での交流の機会 |
| 14 | 情報の公平な伝達 |
| 15 | 契約行為や財産など権利が守られること |
| 16 | 災害時の避難支援 |
| 17 | その他（ ） |
| 18 | 特になし |

【災害時の対応についてお聞きします。】

問57 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは一人で避難できますか。
 （1つだけ○印）



問58 問57で「2」を回答した方におたずねします。災害のときに一人で避難できない理由は何か。（1つだけ○印）

- | | |
|---|------------------|
| 1 | 一人でも移動をすることができない |
| 2 | 一人でも判断をすることができない |
| 3 | どこに避難すればよいかわからない |
| 4 | その他（ ） |

★すべての方におたずねします。

問59 あなたはお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。（1つだけ○印）

- | | |
|---|-------|
| 1 | 知っている |
| 2 | 知らない |
- 問60 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは周囲の人に知らせることができますか。（1つだけ○印）
- | | |
|---|------|
| 1 | できる |
| 2 | できない |

問61 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、家族のほかにご近所にあなただけを助けてくれる方はいますか。（1つだけ○印）

- | | |
|---|-----|
| 1 | いる |
| 2 | いない |

問 62 火事や地震などの災害時に自宅にいる場合、あなたは家族のほか誰に助けをもらいたいですか。 (1つだけ○印)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 近所の人 | 4 福祉サービス事業所の職員 |
| 2 友人・知人 | 5 行政機関などの職員 |
| 3 民生委員児童委員・福祉協力員 | 6 その他 () |

問 63 「山形市避難行動支援制度」を知っていますか。 (1つだけ○印)

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 知っているし、登録もしている | 3 知らない |
| 2 知っているが、登録はしていない | |

・山形市避難行動支援制度とは
災害が発生した際に、家族などの援助が困難で何らかの助けが必要な人に対して、地域の人々から協力を得て、避難支援を行う制度。利用するためには登録が必要。

問 64 災害時に避難支援を受けるために必要であれば、あなたの個人情報など(住所、氏名、障がいの有無や状態など)を、山形市が民生委員児童委員・自主防災組織などへ提供する事に同意できますか。(この回答では、個人情報の提供に同意したことにはなりません。) (1つだけ○印)

- | | |
|----------|-----------|
| 1 同意できる | 3 その他 () |
| 2 同意できない | |
- 2は問 65へ ← 1, 3は問 66へ →

問 65 問 64 で「2」を回答した方におたずねします。同意できない理由は何か。

- (1つだけ○印)
- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1 個人情報その他へ流出する恐れがあるから | 3 その他 () |
| 2 障がいがあることを知られたくないから | |

問 66 山形市の障がい者施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

(4)「その他市民」調査票

■ あなたの性別、年齢をご記入ください。

1 男性	2 女性	3 その他	令和5年7月1日現在	才
------	------	-------	------------	---



【生活の状況についてお聞きします。】

問1 あなたが知っている、または聞いたことのある言葉はありますか。

（あてはまるものすべてに○印）

1 障害者基本法	8 バリアフリー法
2 障がい者週間・障がいの日	9 障害者総合支援法
3 山形市障がい者基本計画	10 障害者虐待防止法
4 共生社会	11 障害者差別解消法
5 ノーマライゼーション	12 ヘルプカード・ヘルプマーク
6 ユニバーサルデザイン	13 知っている、または聞いたことのある言葉はない
7 みんなにやさしいまちづくり条例	

1～12は問2へ → 13は問3へ

問2 問1で「1～12」を回答した方におたずねします。その言葉はどのようにして知った
り、聞いたりしましたか。（あてはまるものすべてに○印）

1 県のため	6 福祉関連のイベント
2 市報	7 インターネット
3 テレビ・新聞など	8 口コミ（人の話）
4 書籍・雑誌など	9 その他（ ）
5 障がい者団体などの活動	

★すべての方におたずねします。

問3 障がいのある方に関する行事や催し物で知っているものはありますか。

（あてはまるものすべてに○印）

1 障がい者週間記念事業	7 障がい者スポーツ大会
2 心の輪を広げる体験作文の募集と表彰	8 スペシャルオリンピック
3 福祉機器等の展示	9 アビリンピック
4 福祉大会の開催	10 その他（ ）
5 福祉講座や障がい者に関する講演会	11 行事や催し物を行っていることを知らない
6 パラリンピック	

山形市障がい福祉アンケート 調査票

あなたの声を聞かせてください。

皆様には、日頃から福祉行政にご理解をいただき、誠にありがとうございます。
山形市では、障がいのある方が地域で安心して暮らせるまちづくりをめざして、「山形市障がい者基本計画」、「山形市障がい福祉計画」および「山形市障がい児福祉計画」を見直す予定です。

このアンケートは、上記の計画見直しに必要な基礎資料を得ることを目的として、山形市在住の方を対象に、障がい福祉についてのご意見等をお伺いするものです。
何かとお手数をおかけしますが、趣旨をご理解いただき、また下記事項にご留意の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和5年8月

山形市長 佐藤 孝 弘

①アンケートの対象者は、令和5年7月1日現在、障がいの有無に関わらず、山形市在住の18歳以上の方から、無作為に選ばせていただいた550名の方々です。

②アンケートは、無記名方式です。返信用封筒にも住所や氏名等の記入は不要です。また、回答内容はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。

③ご本人がお答えできない場合は、ご家族の方等が、ご本人の意向を十分踏まえて、代理でご記入願います。

④お答えいただいた内容につきましては、上記の目的以外には使用いたしません。

⑤ご記入いただきましたアンケート票は、誠に恐縮ですが、8月29日（火）までに同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。

《記入方法について》

※質問ごとに、該当する番号を○で囲んでください。

※番号を選ぶ時は、選ぶ数を質問の後に（ ）で指定していますので、その範囲内でお答えください。

※回答で「その他」を選んだときは、その内容を（ ）に具体的に記入してください。

★この調査にご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先

山形市福祉推進部 障がい福祉課 障がい福祉第二係
電話 023-641-1212 内線580
FAX 023-632-7091

《「障がい」の表記について》

本アンケート調査においては、「障害」を「障がい」と表記します。ただし法令名等については、除きます。

問4 問3のような障がいのある方に障がいのある方が参加しようとした場合、何かお手伝いをしてもいいと思いますか。(1つだけ○印)

- 1 ぜひそうしたい
- 2 機会があればそうしたい
- 3 あまりそうしなくていい
- 4 そうしなくていい
- 5 どちらともいいえない

問5 あなたの「障がい福祉」への関心度はどのくらいですか。(1つだけ○印)

- 1 大変関心がある
- 2 関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 ほとんど関心がない

問6 あなたの身近に障がいのある方はいらっしゃいますか。(1つだけ○印)

- 1 いる
- 2 いない
- 3 わからない

問7 あなたは障がいのある方に対して、次のようなお手伝いをしましたことがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 荷物を持った
- 2 階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗降に手を貸したりした
- 3 車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った
- 4 乗り物で席を譲った
- 5 訪問したり、話し相手になったりした
- 6 かわりに買い物をした
- 7 食事や惣菜を持っていった
- 8 食事を作ったり、掃除や洗濯を手伝ったりした
- 9 車で送り迎えをする等外出の介助をした
- 10 かわりに文字を讀んだ
- 11 呼ばれているのを教えた
- 12 介助者の留守を手伝った
- 13 その他()
- 14 障にお手伝いをしたことはない

1～13は問9へ 14は問8へ

問8 問7で「14」を回答した方におたずねします。お手伝いをしたことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 お手伝いをするほど親しい人がいない
- 2 お手伝いを必要とする人が身近にいない・必要とされることがない
- 3 気がつかしきを感じる
- 4 おせっかいのような気がする
- 5 どのようなようによいかかわからない
- 6 専門の人や関係者に任せたいと思う
- 7 関心がない
- 8 その他()

★すべての方におたずねします。

問9 あなたの地域行事に障がいのある方が参加しようとした場合、何かお手伝いをしてもいいと考えますか。(1つだけ○印)

- 1 手伝ってもいい
- 2 お手伝いできそうにない
- 3 わからない

問10 障がい者就労施設等の物品をこれまで購入したことがありますか、あるいは今後購入してみたいですか。(1つだけ○印)

- 1 購入したことがある
- 2 購入したことはないが、購入してみたい
- 3 購入したことはないし、購入したいと思わない
- 4 わからない

1、2は問11へ 3、4は問12へ

問11 問10で「1」または「2」を回答した方におたずねします。どのような物品があれば購入してみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 木工製品
- 2 革・布製品
- 3 手工芸・陶器
- 4 石けん
- 5 印刷物(年賀状、名刺等)
- 6 燃料(薪など)
- 7 パン・菓子類
- 8 弁当・惣菜
- 9 野菜・果物・卵・肉等
- 10 加工食品(こんにやく・豆腐等)
- 11 園芸品(花・花苗等)
- 12 その他()

問12 あなたは、悪質商法などの被害にあった障がい者が知っていますか。(1つだけ○印)

- 1 知っている
- 2 知らない

1は問13へ 2は問14へ

問13 問12で「1」を回答した方におたずねします。その時、誰(どこ)へ相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 あなたの家族
- 2 被害にあった障がい者の家族
- 3 友人・知人
- 4 民生委員児童委員・福祉協力員
- 5 市の福祉関係課の窓口
- 6 市の相談窓口(市民相談課)
- 7 山形市消費生活センター
- 8 病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー
- 9 福祉サービス事業所
- 10 保育園・幼稚園・学校の先生
- 11 職場の上司や先輩
- 12 障がい者団体のメンバー
- 13 山形市指定相談支援事業所
- 14 成年後見人など
- 15 県の相談所・更生相談所の窓口
- 16 ホームヘルパー
- 17 手話通訳者・ガイドヘルパーなど
- 18 身体障がい者相談員・知的障がい者相談員
- 19 ケアマネージャー
- 20 警察の相談窓口
- 21 弁護士、司法書士
- 22 その他()
- 23 相談しなかった

問14 あなたは、自宅に一人で住んでいる障がい者を知っていますか。 (1つだけ○印)

1 知っている
2 知らない
1は問15へ
2は問16へ

問15 問14で「1」を回答した方におたずねします。その方の災害時の避難を手伝うことはできますか。 (1つだけ○印)

1 できる
2 できない
3 わからない

★すべての方におたずねします。

問16 あなたは、障がいのある方に対しての「ボランティア」に関心がありますか。 (1つだけ○印)

1 非常に関心がある
2 ある程度関心がある
3 あまり関心がない
4 まったく関心がない

問17 あなたは、次のような活動をしたことがありますか。 (あてはまるものすべてに○印)

1 手話・点訳・朗読活動
2 障がいのある方の日常生活のお手伝い
3 福祉施設などのお手伝い
4 相談・安否の確認
5 スポーツ・レクリエーションの指導・介助
6 パソコンの設定や使い方のアドバイス
7 その他 ()
8 したことがない

1～7は問20へ
8は問18へ

問18 問17で「8」を回答した方におたずねします。今後、あなたが障がいのある方に対してボランティア活動をしたいと思いませんか。 (1つだけ○印)

1 ぜひ活動したい
2 機会があれば活動したい
3 あまり活動したくない
4 わからない

問19 問17で「8」を回答した方におたずねします。あなたが障がいのある方に対してのボランティア活動に参加する為に、どのようなことが必要だと思いますか。 (あてはまるものすべてに○印)

1 参加の方法を知ることができる
2 きっかけ・機会
3 情報
4 時間
5 一緒に活動する仲間
6 活動に必要な知識
7 周囲の理解
8 その他 ()

【バリアフリーに関することについてお聞きします。】

問20 社会のバリアフリー化を推進するために、設備の面で特に力を入れていく必要があると思うものは何ですか。 (3つまで○印)

1 障がい者用駐車スペースの確保
2 建物・乗り物・道路等の出入り口の段差解消
3 点字プロッタの敷設
4 音の出る信号機の設置
5 エレベーターの設置
6 スロープの設置
7 自動ドアの設置
8 手すり等の設置
9 公共施設などで常備してある車の数を増やす
10 車いすの方などが利用しやすい客席・交通機関でのスペースの確保
11 車いすで利用可能な公衆電話の設置
12 休憩スペースの確保
13 わかりやすい表示
14 その他 ()
15 特にない

問21 あなたは、平成29年4月より施行された「山形市障がい者理由とする差別の解消の推進に関する条例」を知っていますか。 (1つだけ○印)

1 知っている
2 知らない

問22 障がいのある方に対する差別・偏見をあなたの身の回りで感じたことがありますか。 (1つだけ○印)

1 ある
2 ない
3 わからない

1は問23へ
2、3は問24へ

問23 問22で「1」を回答した方におたずねします。どのようなところに、障がいのある方に対する差別・偏見をもっとも強く感じますか。 (2つまで○印)

1 教育の機会
2 仕事や収入
3 人の視線
4 地域行事・地域活動
5 隣近所の付き合い
6 店などでの対応の態度
7 福祉関係従事者の対応
8 公共交通機関(タクシーを含む)の利用
9 その他 ()

問 27 山形市の障がい者施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

★すべての方におたずねします。

問 24 社会のバリアフリー化を推進するために、制度や意識の面で、特に力を入れていく必要があると思うものはありますか。(3つまで○印)

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------|
| 1 子供のときから、学校などで障がい児とふれあいや助け合いの機会を増やす | 8 道路や歩道を整備し、障がい者が外出しやすくなる |
| 2 福祉イベントなど、障がい者と市民の交流の機会を増やす | 9 障がい者の団体組織が積極的な取り組みを進める |
| 3 情報提供の充実 | 10 障がい者自身や家族が積極的に社会参加をする |
| 4 障がいや病気の正しい理解の啓発 | 11 その他() |
| 5 支援ボランティアの育成を進める | 12 特になし |
| 6 手話通訳者、要約筆記者の派遣の充実 | |
| 7 公共施設などの改善・整備を進める | |

問 25 今後、障がい者福祉を充実させるために山形市はどのようなことに特に力を入れていく必要があると思われませんか。(3つまで○印)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 在宅生活において、介助がいつでも受けられる | 10 快適で安全なまちづくり |
| 2 通所施設の整備 | 11 旅行や遊びのための外出が気軽な出来ること |
| 3 学校や就職先が選択できる | 12 障がいや病気について周囲の人の理解 |
| 4 安心して住めるところがある | 13 地域での交流の機会 |
| 5 入所施設の整備 | 14 情報の公平な伝達 |
| 6 経済面での支援が受けられる | 15 契約行為や財産など権利が守られること |
| 7 相談体制 | 16 災害時の避難支援 |
| 8 早期発見や予防につながる機会の確保 | 17 その他() |
| 9 継継管理や治療・リハビリ | 18 特になし |

問 26 あなたは国や市・市民の障がい者施策に対する取り組みについて、どのようにお考えになりますか。(1つだけ○印)

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 国や市が主体となって取り組みべきだと思う | 3 国や市と市民が一緒になって取り組みべきだと思う |
| 2 国や市よりも、市民が主体となって取り組みべきだと思う | 4 その他() |

(5)「社会福祉法人」調査票

【ニーズ等の把握及びニーズに対応した施設整備計画についてお聞きします。】

問1 貴法人が運営する山形市管内の障がい福祉サービス事業所等（以下「運営事業所」といいます。）の利用者、利用者の家族（以下「当事者」といいます。）について、必要なサービスのニーズを把握していますか。 (1つだけ○印)

1 把握している
2 把握していない

1は問2へ
2は問3へ

問2 問1で「1」を回答した法人におたずねします。どのような方法で把握していますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 法人から能動的に当事者にニーズ調査等を行っている (1年に____回程度)
2 個々の当事者から随時要望が寄せられ、これととりまどめている
3 当事者を交えた支援方針会議等の際に把握し、これととりまどめている
4 運営事業所職員等、利用者の支援者から確認している
5 利用者の状態 (本人の重度化、家族状況の変化等) を勘案し、法人で判断している
6 その他 ()

問3 問1で「2」を回答した法人におたずねします。把握していない、把握することが難しい理由があれば教えてください。(1つだけ○印)

1 特に要望を受けたことがない
2 要望を聞いても答えがない
3 要望を受けているが件数が多い等の理由でとめられない
4 理由は分からない
5 特に理由はない
6 その他 ()

問4 問1で「2」を回答した法人におたずねします。今後、ニーズを把握するための対応(調査等)を行う予定はありますか。また、その理由を教えてください。(1つだけ○印)

1 ある (対応の内容 (理由))
2 ない (対応の内容 (理由))

問5へ
問9へ

山形市障がい福祉アンケート調査票

山形市では、障がいのある方が地域で安心して暮らせるまちづくりをめざして、「山形市障がい者基本計画」、「山形市障がい福祉計画」および「山形市障がい児福祉計画」を見直す予定です。

このアンケートは、上記の計画見直しに必要な基礎資料を得ることを目的として、山形市内で障がい福祉サービス事業所等を運営している社会福祉法人を対象に、各法人が把握している障がいのある方やその家族のニーズ、事業所等の整備計画、事業所運営の課題等についてお伺いするものです。

- ①アンケートは、無記名方式です。返信用封筒にも法人の名称、住所、代表者氏名等の記入は不要です。また、回答内容はすべて統計的に処理いたしますので、個別の法人が特定されることはありません。
- ②アンケートには、担当者、代表者個人による回答ではなく、法人（組織）としての回答を記入していただきますようお願いいたします。
- ③お答えいただいた内容につきましては、上記の目的以外には使用いたしません。
- ④ご記入いただきましたアンケート票は、誠に恐縮ですが、8月29日(水)までに同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。

《記入方法について》

※質問ごとに、以下の方法で記入します。

- ・該当する番号を○で囲む
- ・表に数値を記入する
- ・自由記述する

質問ごとにどのようなように記入するかを記載していますので、ご確認ください。

※番号を選ぶ時は、選ぶ数を質問の後に()で指定していますので、その範囲内でお答えください。

※回答で「その他」を選んだときなど、選択肢の後に()がある場合は、()内に内容を記入してください。

★この調査にご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先
山形市福祉推進部 障がい福祉課 障がい福祉第二係
電話 023-641-1212 内線580
FAX 023-632-7091

《「障がい」の表記について》
本アンケート調査においては、「障害」を「障がい」と表記します。ただし法令名などについては、除きます。

問5 問1で「1」を回答した法人におたずねします。当事者のニーズについて、既存の運営事業所、他法人が運営する事業所等が提供するサービスで
 ・ 充足できない(不足している)もの
 ・ 充足して供給に余裕が出ているものを把握していますか。把握している場合は、当該サービスの種類と量(何人分)について、把握している限りの限りで教えてください。
 (把握しているニーズについて、その量(単位:人)を下表に記入。)

サービス種類	不足している量	余剰の量
居宅介護		
重度訪問介護		
同行支援		
行動支援		
重度障がい者包括支援		
短期入所		
療養介護		
生活介護		
施設入所支援		
自立訓練(生活訓練)		
自立訓練(機能訓練)		
宿泊型自立訓練		
就労移行支援		
就労継続支援A型		
就労継続支援B型		
就労定着支援		
自立生活援助		
共同生活援助(日中サービス支援型)		
共同生活援助(介護サービス包括型)		
共同生活援助(外部サービス利用型)		
地域移行支援		
地域定着支援		
計画相談支援		
児童発達支援		
医療型児童発達支援		
放課後等デイサービス		
居宅訪問型児童発達支援		
保育所等訪問支援		
障がい児相談支援		
その他()		

単位:人

問6 問1で「1」を回答した法人におたずねします。問5の素に記載したサービス量に対して、法人として運営事業所の新規整備、拡充、縮減、廃止(以下、本調査で「施設整備」といいます。)について正式な計画として定めていますか。

(1つだけ印)

- 1 既に定めている (計画期間 ____ 年間) → 問7へ
- 2 定めていないが、今後定める予定である(予定時期 ____ 年 ____ 月) → 問8へ
- 3 定めていない、今後も特に定める予定はない

問7

問6で「1」を回答した法人におたずねします。令和5年7月1日時点での施設整備の計画に基づき、令和6年度から令和8年度までの、当該計画におけるサービスの整備箇所数(件)を教えてください。

(計画に定めた整備件数(単位:件)を下表に記入(年度ごと)。)

【令和6年度の施設整備の計画】

単位:件

サービス種類	新設	拡充	縮減	廃止
居宅介護				
重度訪問介護				
同行支援				
行動支援				
重度障がい者包括支援				
短期入所				
療養介護				
生活介護				
施設入所支援				
自立訓練(生活訓練)				
自立訓練(機能訓練)				
宿泊型自立訓練				
就労移行支援				
就労選択支援[R6新規]				
就労継続支援A型				
就労継続支援B型				
就労定着支援				
自立生活援助				
共同生活援助(日中サービス支援型)				
共同生活援助(介護サービス包括型)				
共同生活援助(外部サービス利用型)				
地域移行支援				
地域定着支援				
計画相談支援				
児童発達支援				
医療型児童発達支援				
放課後等デイサービス				
居宅訪問型児童発達支援				
保育所等訪問支援				
障がい児相談支援				
その他()				

【令和8年度の施設整備の計画】

単位：件

サービス種類	新設	拡充	縮減	廃止
居宅介護				
重度訪問介護				
同行援護				
行動援護				
重度障がい者包括支援				
短期入所				
療養介護				
生活介護				
施設入所支援				
自立訓練（生活訓練）				
自立訓練（機能訓練）				
宿泊型自立訓練				
就労移行支援				
就労選択支援【R6新規】				
就労継続支援A型				
就労継続支援B型				
就労定着支援				
自立生活援助				
共同生活援助（日中サービス支援型）				
共同生活援助（介護サービス包括型）				
共同生活援助（外部サービス利用型）				
地域移行支援				
地域定着支援				
計画相談支援				
児童発達支援				
医療型児童発達支援				
放課後等デイサービス				
居宅訪問型児童発達支援				
保育所等訪問支援				
障がい児相談支援				
その他（ ）				

単位：件

【令和7年度の施設整備の計画】

サービス種類	新設	拡充	縮減	廃止
居宅介護				
重度訪問介護				
同行援護				
行動援護				
重度障がい者包括支援				
短期入所				
療養介護				
生活介護				
施設入所支援				
自立訓練（生活訓練）				
自立訓練（機能訓練）				
宿泊型自立訓練				
就労移行支援				
就労選択支援【R6新規】				
就労継続支援A型				
就労継続支援B型				
就労定着支援				
自立生活援助				
共同生活援助（日中サービス支援型）				
共同生活援助（介護サービス包括型）				
共同生活援助（外部サービス利用型）				
地域移行支援				
地域定着支援				
計画相談支援				
児童発達支援				
医療型児童発達支援				
放課後等デイサービス				
居宅訪問型児童発達支援				
保育所等訪問支援				
障がい児相談支援				
その他（ ）				

【サービス提供の課題についてお聞きします。】

問 12 すべての法人におたずねします。運営事業所でのサービス提供において、令和5年7月1日現在でどのような課題がありますか。(最も大きい課題と考えるものを3つまで○印)

- 1 障がい者の重度化、高齢化による支援度が高まった利用者への対応
- 2 利用者の介護者の傷病等による緊急的なサービス提供への対応
- 3 地域移行、親元からの自立にかかわるサービスの体験利用への対応
- 4 医療的ケア、強度行動障がい等、専門的支援を要する利用者への対応
- 5 支援困難な利用者等に対して関係機関が連携、協力する体制の構築
- 6 真に支援を要する方をサービスに繋げる仕組みづくり
- 7 ニーズに対応するサービス事業所などの提供基盤の整備
- 8 ニーズに対応する介護職員等の人数の不足
- 9 ニーズに対応する介護職員等の質（専門性等）の向上
- 10 その他（ ）

問 13 すべての法人におたずねします。運営事業所でのサービス提供において、将来どういった課題が大きくなっていくと考えますか。(最も大きく考えるものを3つまで○印)

- 1 障がい者の重度化、高齢化による支援度が高まった利用者への対応
- 2 利用者の介護者の傷病等による緊急的なサービス提供への対応
- 3 地域移行、親元からの自立にかかわるサービスの体験利用への対応
- 4 医療的ケア、強度行動障がい等、専門的支援を要する利用者への対応
- 5 支援困難な利用者等に対して関係機関が連携、協力する体制の構築
- 6 真に支援を要する方をサービスに繋げる仕組みづくり
- 7 ニーズに対応するサービス事業所などの提供基盤の整備
- 8 ニーズに対応する介護職員等の人数の不足
- 9 ニーズに対応する介護職員等の質（専門性等）の向上
- 10 その他（ ）

問 8 問6で「3」を回答した法人におたずねします。計画を定めていない(定める予定がない)理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 計画を定めるための労働力に余裕がない
- 2 収支が安定しないこと等の理由で、資金計画の見通しが立たない
- 3 当事者ニーズが流動的で、計画として反映しにくい
- 4 計画を定める必要性を感じたことがない
- 5 その他（ ）

問 9 すべての法人におたずねします。現在提供しているサービス量や運営事業所(建物、設備)を維持するため、法人として運営事業所の修繕、維持管理(以下、本調査で「修繕等整備」といいます。)について正式な計画として定めていますか。(1つだけ○印)

- 1 既に定めている(計画期間 _____ 年間) → 問 10へ
- 2 定めていないが、今後定める予定である(予定時期 _____ 年 _____ 月) → 問 11へ
- 3 定めていない、今後も押に定める予定はない

問 10 問9で「1」を回答した法人におたずねします。令和5年7月1日時点での修繕等整備の計画に基づき、令和6年度から令和8年度までの、当該計画にさだめる内容を教えてください。

(計画に定めた修繕等整備の内容ごとに下表に当該整備の見積額(単位:千円)を年度ごとに記入)

令和6年度修繕等整備	（単位：千円）		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度
修繕等整備の内容			
建物の耐震化にかかわるもの			
災害時の電気、水等のライフラインの確保にかかわるもの			
老朽化して使用に耐えなくなった設備の修繕にかかわるもの			
その他（ ）			

問 11 問9で「3」を回答した法人におたずねします。定めていない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 計画を定めるための労働力に余裕がない
- 2 収支が安定しないこと等の理由で、資金計画の見通しが立たない
- 3 計画までは定めていないが定期的にメンテナンスしているため支障ない
- 4 運営事業所の築年数から見て、修繕等整備は当分必要ない
- 5 計画を定める必要性を感じたことがない
- 6 その他（ ）

問 14 すべての法人におたずねします。問 12、問 13 の課題を踏まえ、社会福祉法人として注力している（注力すべきと考え）取組はありますか。

（最も注力している（注力すべきと考え）ものを3つまで○印）

- 1 資格取得、研修受講等により、職員の質、専門性を向上すること
- 2 職場環境の改善等による職員数の確保、増加
- 3 ICT、ロボット導入等により運営事業所の業務を効率化すること
- 4 サービス利用の相談先、サービスの内容について広く周知すること
- 5 行政、法人等関係機関の連携を密にし、協議の場を作る（増やす）こと
- 6 サービス事業所等を新設、拡充しサービス提供体制を整備すること
- 7 その他（ ）

問 15 すべての法人におたずねします。問 12、問 13 の課題を踏まえ、山形市に取り組んでほしい（取り組むべき）ことはありますか。

（最も取り組んでほしい（取り組むべきと考え）ものを3つまで○印）

- 1 資格取得、研修受講等により、職員の質、専門性を向上すること
- 2 職場環境の改善等による職員数の確保、増加
- 3 ICT、ロボット導入等により運営事業所の業務を効率化すること
- 4 サービス利用の相談先、サービスの内容について広く周知すること
- 5 行政、法人等関係機関の連携を密にし、協議の場を作る（増やす）こと
- 6 サービス事業所等を新設、拡充しサービス提供体制を整備すること
- 7 その他（ ）

問 16 山形市の障がい者施策について、ご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。